番族慣習調査報告書

第五卷ノ三

番族慣習調査報告書第五卷第三冊正誤表

頁	行	誤	正
二	一五	統治機關	政治機關
一三	一四	タカマウス	タカラウス
一六	一二	出革	出草
一八	一〇	老婦	老巫
四三	一一	リムアリヌキタリタリ	リムクリキタリタリ
四七	一二	巫ト無レリ	巫ト爲レリ
六三	一二	禁	祭
八〇	一	平分稗祭	平分シ稗祭
八一	一三	或ニ	故
八五	八	於テハ其	於テシ或ハ其
八七	一五	祭靈	神靈
八八	一一	領人	頭人
九二	八	之ナ上ニス	之ヲ下ニス
同	九	先竹	先端
同	一六	十數月	十數日
一一二	一三	此家ハ代々	此家ノ槍ハ代々
一一三	三	世襲補佐槍	世襲補佐役
一一九	一五	其靈家	其家
一二〇	二	「カプル」	「カルブ」
一二三	九	一黨共ニ	一黨ニテ
一二七	四	相想樹	相思樹
一五五	六	キ「バチリカチト」云	ハ「パチリカオ」ト云
一六二	四	「マゾソソアヌ」	「マゾソアヌ」
一六三	八	「キヤパーバン」	「キヤーバン」
一七一	二	衙査	門査
一七九	一一	「家風」ノ上ニ	「雨三日ノ後」ヲ補フ
一八〇	一五	細ニ赴キ	畑ニ赴キ
一八八	一六	祭ヲ播種	粟ヲ播種
一九〇	一一	番丁ヲ持シ	番丁之ヲ持シ
一九五	四	(い)播種社	(い)播種祭
一九八	一七	副女祀	副女帆
二〇三	一三	舊社趾	舊社跡
二〇四	五	ト信ヒ	ト言ヒ
二一〇	一五	「マカ社語」(パテシセオー)ノ下	「タル者」ヲ削ル
二一五	六	藏セサモ	藏セサルモ
同	一〇	「スマナジャク」ノ	「スマナジャ」ノ
二一六	五	又少許	其少許
二一九	八	(乙)ヲ党ノ祭式	(乙)ヲ黨ノ祭式
二二〇	七	「……ジャク」ノ祈禱ノ行フ	削ル
	八	既ニ社内ヲ整理シタリ」	
二三四	九	及肉ノ	及豚ノ
同	一三	死シル所	死シタル所
同	一七	外獅頭社人	外獅頭社頭人
二三五	六	槍	銃
二五六	一二	倫ク	始ク
二六六	一五	「スマメプルブル」	「スマメプルブルン」
二七〇	三	當社	番社
二七九	四	サヽナコリダノ	サヽナコリダメ
三〇四	六	「ジナウジ」	「ジナウジ」
三二九	二	棉木	棉ノ木
三三七	一六	背梁	脊梁
三五一	九	農ノニ	農業ノ時ニ
同	一〇	傾斜及ハ	傾斜又ハ
三六八	一八	文字反	文字及
三七二	二	∧狀	△狀
三九九	一六	リジオ番	じゃお番
四〇八	一四	平ニ分ス	ニト分ス
四〇九	一〇	ニ分ナ	ニ分チ
四一〇	一四	[illegible]	牡蠣
四一一	一八	(は)プヌルヌ	(は)プヌルン
四一四	一八	一門	一圓
四二四	一〇	「タルブ」	「ペルノ」
四二六	一四	別ニ緯絲ノ	別ニ經絲ノ
同	同	聞キ	開キ
四二七	一三	(五)鍛冶	第五鍛冶
四三五	一〇	(い)「マウカプト」	(い)「マカカプト」
同	一八	マカカプ・ト・リマ	マカカプ・ト・トア・リマ
四四六	四	草木ノ葉	草木ノ葉

番族慣習調査報告書第五巻第三册目次

第七編　ぱいわぬ族

（附記）本冊內祭祀ノ儀式ニ關スル記述中各番社ニ行ハルルモノハ彼此相重複シ記事頗ル冗長ニ流レタルノ憾アリ。實ハ最初ハ重ナル番社二三ニ付其行ハルル所ヲ揭ケ他ハ唯其之ト異レル點ノミヲ擧クルニ止メント企テタリシカ次第ニ其筆ヲ進ムルニ至リ祭祀中ノ或儀式ハ甲社ニハ全ク無クシテ乙社丙社ニ在リ又其反對ニ乙社內社ニ無クシテ甲社ニ有ルアリ又丙社ニ有ルトシテモ其名義ヲ異ニシ或ハ儀關若ハ期日ヲ異ニシ或ハ其式ヲ前後ニスルアリ又甲社ニ於テハ其式頗ル精シキニ拘ハラス乙社ニ於テハ甚疏雜ニ行フアリ然ルニ此等ヲ一括

シテ約述セントスルトキハ却テ記事ノ錯雜ヲ來シ某社ニ於テハ祭祀中果シテ何レノ式ト何レノ式トガアリ、又何レガ前ニシテ何レガ後ニ、又ハ何レノ機關ニ依リテ何レノ場所ニ行フカ全ク明瞭ナラサルニ至ルヲ發見シタリ。此ニ於テ本報告ハ本族全部ニ通スル記載(通說)ノ外其重複ヲ厭ハス尙一々各番社ニ就テ調査シタル所ヲモ揭クルコトトシタリ閱者之ヲ諒セヨ

番族調査報告書第五卷第三册

第七編　ぱいわぬ族

第一門　序説

第三章　種族ノ體貌、心性、言語、宗教及生活狀態續

第四節　宗敎

第一款　總説

本族ハ宗敎的方面ニ於テモ亦他ノ諸番族ニ比シテ頗進步シタル狀態ニ在リ　左ニ本族ノ有スル宗敎的觀念及風習ニ付重ナル點ヲ擧ク

(一)靈ニ關スル觀念　本族ハ一般ニ靈ノ存在ヲ信ス曰ク人ハ死スルモ其魂ハ死スルモノニ非ス永ク宇宙ニ存在シ能ク生人ニ對シ吉凶禍福ヲ爲スノ力ヲ有スト。曰ク天地日月山川等皆其中ニ精靈ノ宿スルアリ亦能ク生人ニ對シテ吉凶禍福ヲ爲スノ力ヲ有スト。卽本族ニハ人類ノ亡魂ト自然靈ノ精靈ト二種ノ靈アルナリ　本族ニ於テ祭祀セラルル神祇ト驅禳セラルル厲鬼ハ他ノ番族ニ比シテ其種類多ク且之ニ一々其ノ名稱アリ

(二)祈禱ノ方式及機關　前ニ述ヘタルガ如ク本族ハ靈ニ吉凶禍福ヲ爲ス力アリト爲ス。從テ又人ハ之ニ對シ祈テ幸福ヲ求メ禳テ災禍ヲ避クルコトヲ得ヘシト信セリ。此ニ於テ本族ニ於テモ亦祭祀祈禱ノ方法ヲ有ス　本族ノ祭祀祈禱ハ他ノ番族ニ比シテ其種類頗多ク而シテ其方式亦頗嚴重ナリ。從テ此ハ一般族人ノ爲シ得ル所ニ非ストシ專門ノ祈禱者(巫)及司祭者(覡)アリテ之ニ當ル

(三)禁忌ノ權威　本族間ニハ幾多ノ禁忌アリ。此地ハ靈ノ禁スル所ナルガ故ニ立入ルヘカラス、彼事ハ靈ノ忌ム所ナルガ故ニ戒メサルヘカラスト云フガ如シ。人若シ故意又ハ過失ニテ之ヲ犯ストキハ靈ノ譴怒ヲ受ケ災禍ニ罹ラサルヘカラス　本族ノ慣習ハ其大半ハ此禁忌ヨリ成ル。卽禁忌ハ本族ニ於テ宗教的信條タルト同時ニ社會ノ法制タル權威ヲ有スルモノナリトス

(四)兆象及占卜　本族ニハ諸種ノ兆象アリ。例ヘハ雞夜鳴ク社內ニ必凶事アリ。又蛇前途ヲ橫キル其行禍アルヘシト云フガ如シ。又本族ニハ他ノ番族ニ於ケルガ如ク鳥聲又ハ夢ニ依テ事ノ吉凶ヲ判スルモノアリ。又本族獨特ノモノニシテ瓢ニ樹子ヲ載セ其留落ヲ見テ吉凶ヲ判スルモノアリ。此等ノ兆象及占卜ハ何レモ其源泉ヲ靈ノ意思ニ發ス。卽徵象ハ靈來テ吾人ニ吉凶ヲ示シ占卜ハ吾人ヨリ進テ靈ニ之ヲ質スモノタリトス

要スルニ本族ハ他ノ諸番族ニ比シ頗ル進步シタル宗教狀態ニ在リテ幼稚ナル多神教ヲ有スルモノト謂フコトヲ得ヘシ。唯其社會ガ大小數多ノ黨家ニ分タレ其統治機關ガ統一セラレサルガ如ク(宗教的機關モ亦各黨各社團區々タルガ故ニ從テ其ノ祭祀祈禱ノ方式モ區々ニシテ組織ト統一ヲ有スルニ至ラサルノミ

第二款　宗教ノ客體及機關

第一項　靈

第一目　神祇

第一　總説

(一)神祇ノ意義　靈ハ番語ニ「ツマシ」(ろかい番ニ於テ「アリリカ゛」上さりせめ番ニ於テ「プルク゛」)ト云フ靈ニハ有力ナルモノト無力ナルモノトアリ。又善良ナルモノト凶惡ナルモノトアリ。其善良ニシテ雄大ナル者ハ祭祀ノ目的物ト爲ル。玆ニ之ヲ神祇ト稱ス

(二)神祇ト福運及疾病トノ關係　本族ニ於テ福運ヲ「スッペ」(其大ナルヲ「カヲア・スッペ」、小ナルヲ「クリヤ・スッペ」、好運ヲ「ナコリ・スッペ」惡運ヲ「ナクヤ・スッペ」)ト云フ。其中ニテ畑ノ幸即農作物ノ豐收ハ特ニ「ケマン」、山ノ幸即獵獸ノ多獲ヲ「チスナ」ト云フ。本族ノ觀念ニ從ヘハ此等ノ幸福ハ悉ク神祇ヨリ來ルモノナルガ故ニ人ハ之ニ祈禱シテ大ナル好キ福運ヲ求メ得ヘシト爲ス　又本族ハ人ノ疾病ハ惡靈ノ其人ニ憑依シ又ハ其人ノ副魂ヲ誘出シタル結果ナレハ神祇ニ頼リ其惡靈ヲ驅逐シ又ハ其誘ハレタル副魂ヲ引戻ストキハ其病平癒スヘシト信セリ。　本族ノ祭祀祈禱ハ全ク此等ノ觀念ニ基ツク

第二　神祇ノ種類

本族ノ神祇ハ大體ニ於テ自然體ノ精靈及祖先ノ靈魂ノ二ニ別ツヘシ

(一)自然體ノ精靈　其重ナルモノ左ノ如シ

(い)「タカラウス」　本族發祥ノ地タル北大武山ヨリ西方パダイン、パイツソ兩社ノ上方ニ在ル天空ヲ云

フ。此所ニハ雷電ヲ使役スル神、粟稗ノ種子ヲ司ル神在スト爲ス、番社ニ依リテハサタカラウスト稱シテ之ヲ祭ル

(ろ)「カダオ」(太陽) ナクマチ(造主)ト共ニ生人ヲ保護スル神トシテ之ヲ祭ル。或ハ云フ太陽ハ一ノ神界ニシテ此所ニ四神アリト(參照次條十六)

(は)「ケジャス」(月) 亦生兒ヲ守ル神トシテ祭ル所アリ。但シ其社ハ甚少シ 或ハ云フ月界ニモ四神アリナクマチハ其中ノ二神ナリト(參照同上)

(に)地神 「キナジャン」(部落)、「カジュナカヌ」、(土地)「パナ」(溪)等各之ヲ司ル神アリト爲ス

(ほ)造主 番語ニ「ナクマチ」(「ナウマチ」又ハ「ナマチ」トモ發音ス。ろかい番ニ於テ「トリオマス」)ト云フハ直譯スレハ造リ主ナリ。其ガ如何ナル靈カト云フニ番社ニ依リテ其所説ヲ異ニス。即サラバヌ又ハモアカイ等ノ如ク本族發祥ノ地タルパダイヌ社ニ出現シ歌ヒテ人ヲ作出シタル祖神ナリト云ヒ或ハ太陽其物ナリトシテ「カダオ・ナクマチ」ト連言シ或ハ太陽ニモ非ス祖神ニモ非ス其性質ハ明カナラサレトモ「ナクマチ」ハ「ナクマチ」ニシテ人ノ魂ヲ作出ス神ナリト云ヒ而シテ其數ノ如キハ唯一位ナリト云ヒ數位アリト云ヒ或ハ生人ノ數タケ之アリト云ヒ所説一致セサルモ其人ノ靈魂ヲ作出ス神ナリトスルハ一ナリ。即チ何社ニ於テモ人ハ其父母ニ依テ身體ヲ作ラルルモ其心魂ハ此ノナクマチヨリ得タルモノナリトセリ。本目ニ於テハ暫ク之ヲ自然體ノ精靈ト爲ス

(附記)「クマチ」ハ「カチ」ナル原形ノ働キテ有意動詞ト爲リタルモノニシテ「作出ス」ノ義ナリ。若「マカチ」ト活ケハ無意動詞ト爲リ「物ノ發生ス」ト云フ義ト爲ル。「キナチ」(「イナチ」トモ)ト活ケハ「作出サレタル者」ト爲リ即生兒ヲ意味スヘシ。而シテ上記ノ神ハ作リ主ナルガ故ニ「ナ」ナル接頭語ヲ附シテ「ナ

クマテ」ト云フナリ。本族ノ語ニ於テ「ナ」ナル接頭語ハ之ヲ或動詞ノ上ニ冠スルトキハ其働作ヲ爲ス主格ヲ表スル語ト爲ル

(二)祖先ノ靈　其重ナルモノ左ノ如シ

(い)サジムジ　此神ハ往古カブルガヲ(北大武山)ヨリ降テ下パイツス社ノ地ニ出現シソレヨリ附近ノ番社ニ來往シ本族ノ祖先ニ農耕狩獵及祈禱ノ法ヲ授ケタリ。今現ニタカラウス」(天空)ニ在リ能ク雷電ヲ使役ス。若妄ニ北大武山ノ地ニ入リテ樹木ヲ伐採シ又ハ其ノ遺訓ニ違ヒテ粟祭中ニ茅ヲ刈リ又ハ五年祭ニ於テ其方式慣例ヲ破ルトキハ此神忽怒リ暴風雷雨ヲ起スト云フ　るかいらばるノ兩番ぶつる番中パダイヲ社及其系統ニ屬スル隘寮南溪右岸ノ社民ハ此神ヲ說カス下パイツヌ社及其系統ニ屬スル南方ノ各社ハ一般ニ此神ヲ崇敬ス。特ニぱりじゃお番ニ於テハ(すかろ部落ナ除ク)此神及祖神サウマイヲ以テ「ツマス・ナ・ホンケー」(靈ノ皇帝)ト稱シ諸神ノ最上位ニ立ツ者ナリトセリ　尚此神ニ付テハ次項各番社ノ神祇ノ部ニ於テ說述スヘシ

(ろ)開社ノ祖神　ハぱいわぬ大部族ニ於テ「ナクミジン」ト云ヒ。(ぱりせぬ大部族ニハ名稱ナシ)一般ニ之ヲ崇敬シ祭時ニ之ヲ祭ル。例ヘハスボン社ニ於テサクジン及サカボロンノ兩人。內文社ニ於テサアジス、サラアツ及サチャカルノ三人。チャジャカブス社ニ於テちゃも七頭人家ノ祖。カビヤガヲ社ニ於テサウマイ及サジアヲノ兩人。下パイワヌ社ニ於テサバトラヤヌ、パタイヲ社ニ於テサモアカイ外六人ノ祖神ナルガ如シ　始テ社ヲ開クヲぱいわぬ大部族ニ於テ「クミジン」(其社ナ開キタル人ナ「ナクミジン」)、ぶつる、らばる兩番ニ於テ「ブナアツ」ト云フ。而シテ始テ社ヲ開キタル祖先ノ家址ヲぱいわぬ大部族ニ於テ「キニジガヲ」ぶつる、らばる兩番ニ於テ「ビナアサヌ」ト云フ。此開社ノ地モ番社ニ依テハ靈地トシテ之ヲ保重ス

第三　各番社ノ神祇

本族ニ於テ祭祀セラルル神祇ハ大體ニ於テ前項ニ説述シタル所ノ如シ。然レトモ各社ニ就テ之ヲ見ルニ同一ノ神ニシテ此ノ社ニ祭ラレ而モ彼ノ社ニハ祭ラレサルモノアリ。又其名ヲ異ニスルコトアリ。左ニ重ナル番社ニ於テ調査シタルモノヲ掲ク

(一)るかい番「ボかッ」社 ニ於テ祭ル所ノ神左ノ如シ

(い)トワオマス(造主)　ぶつるぱいわぬ諸番ニ於テ「ナクマ(チ)」ト稱スル者是ナリ。本社ニ於テハモアカイ(女)サキヌキヌ(男)ノ二神ヲ以テ造主トス。曰ク此ノ二神ハ太古カザギザヌノ舊屋(現社ノ下方ニ在リ)ニ居住シ相共ニ謠ヒテ人類ヲ作出シマトコ(モアカイノ友)之ヲ助ケタリト　今尚モアカイノ佩用セシモノナリトテ南京玉(「タリプツン」及「タト」「ボカヌ」ト稱スルモノ)ニテ作レル頸飾アリテ之ヲ其舊屋内ニ秘藏シ毎年「マサルト」(粟ノ收了祭)ノ時ニ之ヲ出シテ祭ルト云フ

(ろ)シキパリツ　此神ハ往古大浦社ヨリ靈豹ヲ先導トシテ多數ノ部下ヲ率キ榕樹ノ林ヲ渡リテ當地ニ來リ始テ社ヲ開キタリ。其靈ハ現社ノ上方カススガヌト稱スル舊屋址ニ在スト云フ　るかい番ガ豹ヲ捕殺セサルハ此事由ニ因ルト云フ(他ノるかい番諸社ハ多ク當社ヨリノ分派ニ係ル)

(二)るかい番ブダイ群社 ニ於テ祭ル所ハ(い)太陽ト(ろ)トワオマス(造主)アルノミ。造主ハサモアカイ及プルガイ(ぶつる番ニ於テマトコト稱ス)ノ兩神ニシテ共ニバダイッ社ニ在リ。此神ハ人ヲ保護シ又占鳥「ソガツ」及「マシシアヌ」ヲ司ル

(三)らばる番パリラヤッ社 ニ於テ頭人家ノ祖神トシテタトラヌ(日ノ卵ヨリ生マル)及サトコ(地ヨリ生マル)ノ兩神。一般社民ノ祖神トシテサカイ(男)サポロガヌ(男)サカラロ(女)及サタイル(女)ノ四神トピンピガッ(男)カララカッ

(女)及ピピリ(男)三神ヲ祭ル。サカイ等四神ハイデラウ(タバラヌ舊社ノ地)ニ於テ岩ノ裂目ヨリ生出シタバラヌ社民ノ祖ト爲リピンピガヌ等三神ハトボン(タバラヌ舊社ノ東方約十町ノ地)ニ於テ岩ノ裂目ヨリ生出シトボン社民ノ祖ト爲リ此兩社合シテ今日ノパリラヤヌ社ヲ成シタルナリ(參照種族ノ沿革第四欵第二及傳說第二ノ六)

(四)同番上パイワヌ社 ニ於テハサラバヌ、サルグル及サンルガノ三神ヲ祭ル。サラバハ人ノ出生ヲ司ル神ニシテ靈界ノ皇帝ナリ。又他ノ二神ハらばる番ノ祖神ニシテ常ニ各社ノ中ヲ巡リテ番人ヲ保護ス

(五)ぶつる番バダイマ社 ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク。諸神ノ來歷ニ付テハ傳說ノ部第二(五)ニ詳說セリ

(い)サモアカイ(女)サラバヌ(女)及マトコ(女) モアカイ(及)ラバハ始メテ人類ヲ作出シタル祖神ニシテマトコハ之ヲ助ケタル神ナリ

(ろ)サプラルガマ(男)及サプラルヤマ(男) 此兩人相議シテプラルガハ大武山ヨリ上天シテ雷神ト爲リサラルヤヌハ溪ニ沿ヒテ平地ニ出テテ平埔番ノ祖先ト爲ル當社ニ於ケル五年祭ハ此兩神ヲ祭ルモノタリ

(は)サキヌキマ(女)サラルムガノ(男)及サカロカロ(女) 共ニ當社ヲ開キタル祖神ナリ

(六)同番下パイワヌ社 ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク

(い)サルムジ(男) 久シクカパイワナヌ(パイワンノ舊社跡)ニ居住セリ其居址審ナラス。傳日フ此神ハ本族ノ祖先ニ始テ粟種ヲ傳ヘタル者ナリ。初メ此神地下ノ世界ニ降リ粟種ヲ取來リ之ヲカジ、バジ、バト云フ人ニ與ヘテ『之ヲ煮ヨ、然ラハ澤山ニ殖ユヘシ』ト言ヒシカハ其人之ヲ煮タルニ果シテ其ノ言ノ如クナリキ。粟ハ此ヨリ本族ノ間ニ廣マリ終ニ今日ノ如ク常食物ト爲リタリ。然ルニ何故ニヤ社民等ハ

彼ヲ厭ヒ其家ヨリ外ニ出テ去ランコトヲ求メケレハ彼「然ラハ我ハ地下ノ世界ニ行カン」トテ自穴ヲ堀テ其中ニ入リタリト云フ　或ハ曰クサルムジハ大武山ニ上リ之ヨリ上天シテ雷神ト爲レリト

(ろ)サラバン(女)**及サモアカイ**(女)　共ニ子ヲ生ムコトヲ主ル神ニシテバダイァ社ニ在リ

(は)サバトラヤァ(女)　此神ハ今尚土名マシリジノ下方バコリツノ竹林ニ在リ。蓋シ本社ヲ開キタル祖神ナルヘシ。今日此林ノ崖上ニ在ル竹ガ眞直ニ育ツトキハ豐作ニシテ狩獵出草ニ利アリト云ヒ筍ノ生ユル頃ニハ社民毎日注意シテ之ヲ見ル。林中ノ竹ハ之ヲ伐ルモ差支ナシト雖モ崖上ノ竹ハ一本タケ「バリシ」トテ之ヲ保存ス。人若シ飲酒等ニ招カレ途ニ躓キ負傷シタルトキハバコリツノ靈ガ祟リタルナリトテ中途ヨリ引返スト云フ

(に)サモアカイ、カルカルイン、テプスン、パリデウ及トマルコオ　サモアカイハ當社内土名テリコジノ森林中ニ、又カルカルインハサリシ社ノ森林中ニ在リ。此兩所ノ籐又ハ木ヲ採ルトキハ病ヲ得或ハ大風吹起ルヘシトテ之ヲ禁ス。テプスンハ土名テツノクノ下方ナル深林ニ在ル神ニシテ好テ戯謔ヲ爲ス。人若鳥聲ノ惡シキニ拘ハラス溪底ニ降ルトキハ神我等ノ品ヲ取隱ス。サレト後必返シクルヘシ。又其傍ヲ通過スル時ニ戯言ヲ弄スルトキハ神祟テ病ヲ受クヘシ。パリデウノ靈ハ土名マシリジノ深林中ニ在リ。トマルコオノ靈ハ土名チョサダオノ深林中ニ在リ。凡ソ社民豚ヲ牽キタ居ルトキ又ハ負傷シテ在ルトキハ其所ヲ通ラス。若シ強テ通ラハ死禍ニ逢フヘシ。又鳥聲凶ナルトキモソコヲ通ラス若シ強テ通ラハ啞ト爲リ或ハ大病ニ罹ルヘシト云フ

(七)同番マカザヤザヤ社　ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク

（七）同番**マカザヤザヤ**社ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク

（い）**サルムジ**（男）　下パイソマ社ニ在リ。初テ粟、芋、ニチャバコ、（豆ノ如キ穀物）其他農作物ノ種子ヲ傳ヘタル神ナリ

（ろ）**サラバヌ及マトコトコ**（共ニ女神）　バタイマ社ニ在リ。其ニ人ニ子ヲ與ヘ且ツ之ヲ保護シテ成長セシム又マトコトコハ婦女ヲ保護スルガ故ニ婦女ノ爲ニスル祈禱ニハ毎ニ其名ヲ呼フ、但シ不貞ノ女ハ之ヲ保護セスト云フ　又曰クサラバヌ子ヲ作リトコトコ之ヲ洗テ美人ト爲スト

（は）**モアカイ**（妹）**及ラルムかヌ**（兄）　此兩神ハ古代パダイヲヨリ來リ本社ノアババオニ來住セリ。モアカイハ婦女ノ身ヲ護リラルムかヌハ人ノ外出スル・トキ路ニ倒レサル樣ニ守リ又能クシシル（古鳥）ヲ使役シ人ニ吉凶ヲ報ス

（に）**プラルヤヌ**（男）**ホーロかヌ**（男）**及ラシル**（女）　プラルヤヌ及ホーロかヌハ出草及狩獵ヲ司リラシルハ狩獵ノ時我等ニ菴ヲ與フ。共ニパダイヌヨリ來リ平地ニ降リバかス（バヤヤ社ノ耕地内ニ在リ。其跡林ナ爲ス）ニ住シタリ

（八）同番**パイルス**社ニ於テハテサラバヌ、モアカイ、アダオ（太陽）及ナウマナノ四神ヲ説ク。前二者ハ初テ人ヲ作出シタル神ニシテパダイヌ社ニ在リト云フ

（九）同番**カザザラヌ**社ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク

（い）**ナマテ及ツマス**　ナマテハツマスト同樣ニ男女共ニ多數アリ。常ニリナオル（ノ禁忌樹）ニ在住スナマテハ人ノ出生ノ際其心魂ヲ與フレトモツマスハ人ヲ害シテ病ヲ與フ

（ろ）**サラバマ**（女）　トコトコ（女）ト共ニ婦女ヲ保護ス常ニパダイマ社ニ在リ、本族人口ノ減少スルヲ憐ミ健兒ノ出生スル樣ニ胎兒ヲ保護ス。難産ノ爲ニ死スルハ此神ニ見離サレタルナリト云フ。生兒病氣ノ爲巫之ガ祈禱ヲ爲ストキハ此神ノ名ヲ呼ヒ汝ハ此ノ如キ滿足ノ兒ヲ與ヘナカラ何故病ニ犯サ

レシムルヤ速ニ平癒セシメヨ』ト言フト云フ

(は)トコトコ(女) 常ニトカマザ溪(當社附近ノ水源)ニ在住シ水ノ減少セサル樣又水ガ社民ヲ害セサル樣人ノ病ム時ニハ其水ガ良藥ト爲ル樣、炊事ノ時ニハ良水ト爲リテヨク煮物ノ出來ル樣總テ社民ノ爲ニ水ヲ司ル。又此神ハサラバヌト共ニ姙婦ヲ保護シ其出產ヲ安カラシム 又曰クサラバィ子ヲ作リトコトコ之ヲ洗テ美人ト爲スト

(に)タカラウス(男)及サルムド(女) タカラウスハサルジユムトモ云ヒサルムドト夫婦ノ神ニシテ常ニ大武山ノ上空ニ在住シ農作物及出草ヲ司ル

(ほ)ラルムかヌ(男) 常ニ大武山ノ斷崖ニ在住ス。此所ヲトブグロイト云フ。巫此神ニ對シ病氣平癒ヲ祈ル

(へ)モアカイ(女) 太古パリラヤッ部落ノ上方ニ居住シ社民ヲ保護シタルモ社ヲ厭ヒイラバル(不明ナレトモ平地ナルヨシ)ニ赴キタルヨリ現時ハ此ノ神ヲ祭リテモ保護ヲ爲シクレスト云フ

(と)プラルラルヤヌ及プルルルルかヌ 共ニ太古當社ヲ厭ヒ(其理由不明)昇天シテ星ト爲リタリト云フ

(ち)パトラヤ(男)ラリモラウ(男)及アヲンヲン(女) 常ニクダルン家ノ前庭ノ立石ニ在シ出草ノ際社民ヲ保護ス

(り)ラリゴアヌ(女)及ロプロン(男) パリラヤィ部落ノ上方山上ノ森林ニ住シ社民ノ出草シ又ハ敵番ノ襲來セシトキ社民ヲ保護ス

(ぬ)「イラス」(月) 全社一切ノ保護ヲ爲ス。當社民ハ又月ヲ見テ吉凶ヲトスルコトナリ

(十)同番カピヤかヌ社 ニ於テハ左ノ諸神ヲ舉ク

(い)**サウマイ及サジア**(共ニ女神) 當社頭人家ノ祖先ニシテ五年祭、粟祭及稗祭等ニハ必之ヲ祭ル

(ろ)**サジムジ**(男) 下パイワヌ社ヨリ時々當社ニ來往シ番人ニ始テ農耕ヲ敎ヘタル神ナリ

(は)**サラバヤ及タイホかウ**(共ニ女神) 始テ人類ヲ作出シタル祖神ニシテ今尚兒ノ母胎ニ宿マルハ此神ガ靈ヲ授クルニ因ルト爲ス(小林氏調査)

(に)**太陽及月** 人類ヲ守護ス。人ノ胎内ニ宿スルトキ此兩神其肉體ヲ授クト云フ(小林氏調査)

(十一)**北ばいわぬ番チュジャカブス社** ニ於テハちも派頭人七家ノ祖神(參照種族ノ沿革第六款第二ノ(一))及ナクマテヲ擧ク

(十二)**同番ボかリド社** ニ於テカダオ、ナクマテ(カダオトナクマテヲ連言シテ一神ト爲ス)及各頭人家ノ祖先(參照種族ノ沿革第六項第四ノ(二))ヲ祭ル

(十三)**同番スボン群社** ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク(小林氏調査)

(い)**ナタミジン** 本社ヲ開キタルサクジン、サカボいンノ兩神(共ニ頭人バジいロク家ノ祖)ニシテ常ニ本社ニ在住シ時ニビナバブカヲヌ(祖先發祥ノ地)ニ赴ク。此神ハ社地及社民ヲ保護ス。現駐在所ノ所在ハキニシガ・ト稱ス。即此兩神ガ本社ヲ開キタル跡ナリ

(ろ)**チャカラウス** 即天空ナリ之ニ多數ノ神アリ雷電ヲ使役ス。社民ノ出草ヲ司リ健康ヲ護ル

(は)**カダオ及ナクマテ** ナクマテハ始メテ人類ヲ作出シタル神ニシテ何所ニ在ルカ詳ナラス。カダオハ太陽ナリ。此兩神ハ社人ノ健康及狩獵ヲ司ル

(十四)**こぼじ番內獅頭社** ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク(小林氏調査)

(い)**ナクマテ** 太古人類ヲ造出シタル神ニシテ常ニ天空ニ在住シ人ノ出生ヲ司ル。社民此神ニ對シ

病氣ノ平癒及安產ヲ祈ル

(ろ)**チカラウス** 東方ノ上天ニ在ス。社民出草ノ際之ニ對シ味方ノ勝利ヲ祈ル

(は)**サジュムジ**(弟)**及アジゴか**(兄) 此兩神ハ當社頭人家ノ祖先ナリ。常ニピナバブカサマ(大武山)ニ在リ時々來テ社及社民ヲ保護ス

(に)**アラウアロ**(男)**及パラスジャヌ**(女) 此兩神ハ狩獵ヲ司リ常ニ天空ニ在住ス。パラスジャヌハ昔時獸類ヲ出生シタル神ナリト云フ

(ほ)**ポボサム及ポチャジャヤヌ** ポボサムハ粟種ヲ司リポチャジャヤヌハ芋種ヲ司ル神ニシテ社民之ニ對シ農作物ノ多穫ヲ祈ル

(十五)**同番內文社** ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク

(い)**ナクマ手** 出生ヲ司ル。之ニ兩說アリ。一ハ太陽ト同物ナリトシ他ハ其實質ハ何カ明カナラサレトモツマストト同樣ニ宇宙ニ多數ニ存在スル靈物ナリトセリ

(ろ)**サジムジ** カブルガマニ在ル雷神ニシテ五年祭ノ時祖先ノ靈ト共ニ來ル

(は)**ナクミジン** 開社ノ祖神ニシテサアジス(チニールン家ノ祖)サラアツ(ロバニヤウ家ノ祖)及チャカル(パサラコア家ノ祖)ヲ云フ

(參照種族ノ沿革第七欵中(二))

(十六)**はりじやお番サフテク群社** ニ於テ老巫チョオ・トイボハ左ノ諸神ヲ擧ク

(い)**太陽**(カダオ) 此中ニ四位ノ男神アリ。長ヲカダオ次ヲカナバヤヌ、參ヲガリマヅ、四ヲラクサヌト云フ

(ろ)**月**(ケジャス) 此中ニ四位ノ女神アリ。長ヲチビ手、次ヲハパダ、參ヲスレギナ、四ヲハパダト云フ。此中長次ノ兩神ハ婦ノ腹中ニ入リテ兒胎ヲ作ル。卽ナクマ手ナリトス

在ノ日月兩神ハ常ニ天上ヨリ番人ヲ監視シ善アレハ之ニ幸ヲ與ヘ惡アレハ之ヲ罰ス

(は)**サジムジ及サウマイ**　サジムジハ天上ニ在ル荒神ニシテ怒ルトキハ地震ヲ起ス　サウマイハ南方ニ在ル神ナレトモ其性質ヲ審ニセス

(に)**サルコマン、ホプサム、オプナヤ、チャジャロ、ジマサかス**　共ニ天上ニ在リテ農作ヲ司ル。其内ボアサムハ粟種ヲ司ル神、チャジャロハ芋種ヲ最初我等ノ祖先ニ授ケタル神ナリ

(ほ)**ブルルか、ポカヤカヤム、パラシジャヌ**　共ニ狩獵ヲ司ル

(へ)**テサツダテ**　ハビナバブカササノ頭人ニシテ背ノ高サ天ニ達ス。瞳孔ノ大サハ掛時計程、掌ノ大サハ箕程モアリ。全身ニ毛ヲ生シ其毛ノ孔ヨリ汗ノ如ク常ニ水ヲ生ス。此神ハ常ニ部下ニ對シテ惡事ヲ爲スヘカラス、盜ヲ爲スハカラス、不法ヲ爲スハカラス、之ヲ犯サハ殺スヘシ又能ク我言ヲ聞キ社民同心シテ働クヘク五年祭ノ時ハ決シテ期日ヲ違ヘサル樣又餅ヤ豚ヲ人ヨリモ一ハ他ノ者ニモ公平ニ分配セヨト教ヘタリ。サレト五年祭ニハ來ラスシテビナルタバアヌトサジムジノ兩人其代理トシテ至ルト云フ

(十七)**同番高士佛社**　ニ於テハ左ノ諸神ヲ擧ク(小林氏調査)

(い)**サジムジ**(男)**サウマイ**(女)　神靈界ノ兩頭人ニシテ常ニ大武山ノ上空タカマツスニ在住シサジムジハ社民ノ健康ヲ司リ惡靈ノ祟害ヲ除ク。故ニ巫ハ之ニ對シテ病氣ノ祈禱ヲ爲ス。サウマイハ土地ニ司ル。社番若此兩神ノ怒ニ觸ルルトキハ洪水、暴風雨又ハ地ノ崩壞ヲ起スコトアルヘシト

(ろ)**カダオ**　サジムジ、サウマイ兩神ノ命ヲ受ケ常ニ各社ヲ巡視シ社民ノ狩獵出草ヲ司リ健康ヲ護ル。又兒ガ母胎ニ宿ルトキハ之ニ靈魂ヲ賦與ス。若シ社民禁忌ヲ犯ストキハサジムジ、サウマイノ兩

神ハ此神ニ命シ暴風雨、洪水又ハ山崩ヲ起サシムト云フ

(は)**ポカヌン** ハ常ニ上天ニ住ス。太古人類ニ始テ粟種ヲ與ヘタル神ナリ。故ニ社民ハ之ニ對シテ粟ノ豐作ヲ祈ル

(に)**サジア**ヌ ハジンポアーモ稱シ常ニ上天ニ在リ。巫神ニシテ巫ヲ保護シ其瓢トヲ行フ際來テ之ニ吉凶ヲ明示ス

(ほ)**サチャキナキナオ** 風ヲ司ル神ニシテ常ニ東方ノ上天ニ住ス

(へ)**ヒナイシャザオ** 常ニ地下ニ住シサウマイト共ニ土地ヲ司ル

(と)**ホカヤカヤム又ホロリカ** ポカヤカヤムハ女神ニシテパラスジャントモ云ヒポロリカハ男神ニシテプルルガトモ稱ス。此兩神ハ太古歌ヒテ始メテ獸類ヲ作出セリ。常ニ大武山ニ住シ狩獵出草ヲ司ル

(ち)**サクマラオカオ**(男)**サバジンプン**(女) 共ニ溪中ニ住シ溪ヲ守リ魚類ヲ司ル

(り)**ホフサム**(及)**ホチジャ** ボブサムハ粟種、ポチャジーヤハ芋種ヲ司ル神ニシテ共ニ大武山ニ住ス

(附記)安原氏ノ調査セシ所ハ少ク右ト異ルアリ參考ノ爲ニ左ニ之ヲ揭ク

太古カブルガヌノ山頂ニ於テ男女ノ二神出現シ男ヲサジムジト云ヒ女ヲサウマイト云フ。此二神相婚シテぱいわん族ノ祖先ト爲ル。當時天低ク暑サ烈シカリシヲ以テサジムジハ兩手ヲ以テ之ヲ突上ケタリ。此兩神ニハサブラルガヲ、サバジンプガン、サルコワフ、サブル、サチュコズル、サコマニ、サジャジャソアプノ六子アリ兩神乃彼サブラルガニ命シ鹿、水鹿、猪、山羊ヲ作リテ山野ニ放タシメサバジンプガンニ命シテ魚ヲ作リ溪流ニ放タシメサブル、サチュコズルニ命シテ豚ヲ作リテ家

ニ飼ハシメ又サコマンニ粟種ト芋種ヲ授ケジジャツアブニ黍ト薯トノ種ヲ授ケ之ヲ畑ニ作リテ繁殖セシメ以テ永ク子孫ノ食料ト爲サシメタリ。毎五年祭ニハ此兩神此等ノ獸畜及穀菜ノ幸福ヲ持シテ各社ヲ來遊スルニ因リ我等ハ之ヲ迎ヘテ盛ニ祭祀ヲ行フナリト

第二目　靈魂

第一　總説

(一)靈魂不滅ノ觀念　本族ハ概シテ靈魂不滅ノ觀念ヲ有セリ。曰ク人ハ肉體ト靈魂ノ二者ヨリ成リ死トハ此兩者ノ相離ルル狀態ヲ云フ。而シテ肉體ハ死ト共ニ腐朽スルモ靈魂ハ腐朽セス永ク宇宙ニ存在スト

(二)魂ヲ表スル番語　魂ハ人ノ生存中即其ノ體内ニ宿スル間ハ之ヲ「アバク」「バク」「アババク」又ハ「バテヤ」「ガッ」(るかい番ニ於テハ「アッバク」上ざりせね番ニ於テハ「キルルム」)ト云ヒ死亡後ハ一般神祇ノ靈ト同樣ニ「ツマジ」(るかい番ニ於テ「アリカ」上ざりせね番ニ於テ「アルケニ」)ト云フ。今前者ヲ心魂、後者ヲ靈魂ト稱ス

第二　心魂

(一)心魂ノ根原　本族ハ人ノ心魂ハ造主ノ賦與シタル所ト爲ス。造主ハ即前目中ニ述ヘタルナクマヲナリ

(二)心魂ノ數及種類　本族ハ人ノ心魂ハ毎人ニ二個乃至數個アルノ説ク。但シ稀ニ魂ハ唯一個ナリ豈數個アランヤト説ク者モアリ

數魂説ヲ持スル者ハ概シテ魂ニ二種ノ別アルヲ説ク。即其一ハ常ニ人ノ體内ニ在リテ容易ニ外ニ出テス若シ其ガ脫出スルトキハ該人ハ忽死亡スヘシ。他ノ一ハ睡眠中時時體外ニ脫出スルモノニ

シテ夢ハ此魂ガ體外ニ出テテ親シク見聞セル事實ナリ。此魂ハ其人ガ醒覺スル前ニハ必ズ其體内ニ來歸スルモ若來歸セサルトキハ其人心氣朦朧タリ。若惡靈ニ誘ハレ他所ニ往テ其所ニ拘束セラレ又ハ惡靈ニ酒肉ヲ饗セラレテ之ニ纏着シ久シク歸來セサルトキハ其人必疾病ト爲ル。此場合ニハ巫ニ依賴シ其魂ヲ引戻スノ祈禱ヲ行ハサルヘカラスト云フ。今假ニ前者ヲ正魂、後者ヲ副魂ト稱ス。番社ニ依テハ前者ヲ善魂、後者ヲ惡魂ト名ツクル所モアリ。是前者ハ終始其人ノ體内ニ在テ其人ノ生命ナルニ反シ後者ハ屢出テテ他ニ引留メラレ其人ノ疾病ヲ招クコトアルニ因ル

左ニ重ナル番社ニ就テ調査シタル心魂ノ數及種類ニ付キ記載ス

(い)上さりせぬ番マか社 ニ於テ心魂ハ各人唯一アルノミ。夢ノ原因ヲ知ラスト云フ

(ろ)るかい番ブダイ群社 ニ於テ說ク所ハ前者ニ同シ

(は)同番サボカㇴ社 ニ於テ曰ク魂ハ各人ニ二個アリ(一)ハ常ニ體内ニ留リ。若外出スルトキハ其人死亡スヘシ(二)ハ屢外ニ出遊ス。而シテ其魂ガ歸ラサルトキハ病氣ト爲ルヘク若太陽ニ逢ヒテ其ニ殺死セラルルトキハ正魂モ亦其身ヲ脫シ該人ハ死亡スルニ至ルヘシ。出草ノ際祈禱ヲ行フハ此副魂ガ太陽ノ爲ニ殺サレサル樣ニ用心スルナリ云々

(に)らばる番上パイワッ社 ニ於テ曰ク人ニ善惡ノ二魂アリ。善魂ハ常ニ生人ヲ保護シ恰モ手ヲ握ル樣ニ我等ヲ戒メテ苟モ事ヲ爲サシメス。之ニ反シテ惡魂ハ恰モ手ヲ攜テ常ニ何物ヲカ取ラントシツツアリ。疾病ハ此惡魂ガ他ノ惡靈ニ誘出セラレタルニ因リ又夢ハ此惡魂ガ出遊シテ遭遇セル事實ナリト

(ほ)ぶつる番下パイワㇴ社 ニ於テ人ニハ唯一魂アリ。サレト狂者ニノミハ三魂アリテ兩眼ノ各ト胸

トニ宿スト說ク

(へ)同番カササラ社 ニ於テ人ハ唯一魂アリ胸ノ中部ニ宿スト說ク（小林氏調査）

(と)同番クワルス社 ニ於テハ各人ハ兩魂ヲ有シ正魂ハ右肩ニ、副魂ハ左肩ニ宿スト說ク

(ち)同番カヒヤガ社 ニ於テ曰ク魂ハ出生ノ際サラバヌ、ダイポガヌ兩神ヨリ與ヘラレ各人凡テ五箇アリ。分テ頭、兩眼ノ中間、左上腕、右上腕及胸ニ宿ス。其頭及胸ニ在ルモノハ善魂ニシテ其餘ハ惡魂ナリ（人ニ依テ其善魂惡魂ノ宿スル所ニ異說アリ）善魂ハ常ニ體內ニ在テ其人ヲ保護スレトモ惡魂ハ屢他ノ惡靈ニ誘ハレ出テテ歸來セサルニ因リ病ヲ惹起スト

(り)北ばいわぬ番ボかリド社 ニ於テ曰ク各人ハ左右兩手ニ各五箇ノ魂ヲ有ス。左手ニ在ルモノハ正魂ニシテ體外ニ脫出スルトキハ其人ノ死亡ト爲リ之ニ反シテ右手ニ在ルモノハ副魂ニシテ脫出スルモ單ニ其人ノ病ヲ來スノミ

(ぬ)同番コワバル群社 ニ於テ曰ク各人五魂ヲ有ス其一ハ頭ニ在レトモ他ノ四ハ何所ニ宿スルヤ明ナラス。頭ニ在ル靈ハ時々脫出シテ所々ヲ巡遊シ久シク歸來セサルコトアリ。此場合ニハ其人ノ病ト爲ル。五個ノ魂ガ凡テ體ヲ脫出スルトキハ死亡ト爲ル

(る)同番スボン群社 ニ於テハ各人一魂ヲ有スレトモ其何レニ宿スルヤ審ナラスト說ク

(を)こほじ番內獅頭社 ニ於テハ曰ク各人五魂ヲ有ス。正魂ハ三個ニシテ右肩ニ宿シ副魂ハ二個ニシテ左肩ニ宿ス。副魂ハ惡靈ニ伴ハレ出テ酒食ヲ取リ久シク歸來セサルコトアリ此場合ニハ病ト爲ルト

(わ)同番內文社 ニ於テハ曰ク各人ハ魂六個ヲ有シ左右兩肩ニ分宿ス。但シ習者ハ八個ヲ有シ患者

ハ四個三個又ハ僅ニ二個アルノミ。其左ニ宿スルモノハ正魂ニシテ右ニ宿スルモノヲ副魂ナリ

（か）はりじゃお番サブデク群社ニ於テハ曰ク人ハ左右ノ兩肩ニ五個ツツノ魂ヲ有ス。左ニ在ルモノハ正魂ニシテ右ニ在ルモノハ副魂ナリ

（よ）同番高士佛社ニ於テ曰ク人ハ唯一魂ヲ有ス何レニ宿スルヤ審ナラス　社民禁地ノ草木ヲ伐採スルトキハ惡靈其者ノ魂ヲ捕ヘ之ヲ葛藤ニテ縛シ伴ヒテ禁地ニ至リ稗ヲ與ヘテ食ハシム。斯クスレハ其者ハ病ニ冒サルヘキヲ以テ其時ハ巫ヲ招キ祈禱ヲ爲サシムヘシ

（三）心魂ノ形狀　何レノ社ニ於テモ心魂ハ之ヲ見ルコトヲ得サルガ故ニ其形狀明ナラスト說クヲ多シトス。然レトモ中ニハ巫能ク之ヲ見ル極テ小サキ白色ノモノナリ。サレト他ノ死靈ニ誘ハレテ出行キタル魂ハ色黑クナリテ歸來スト說キ（カピヤガヌ社ノ如シ）或ハ生人ト同一ノ形ヲ爲ス唯小サキノミト說ク（サブデク群社、牡丹路社ノ老婦ノ說）モアリ

第三　死者ノ靈魂

（一）靈魂ノ形狀　靈ハ生人ト同樣ノ形ヲ有ス。時トシテ其形ヲ現スコトアリ（幽靈）

（二）靈魂ノ作用　靈魂ノ其力ノ雄大ナルモノハ能ク生人ニ幸福ヲ持來スガ故ニ祭祀ノ目的ト爲ル（神祇）。又巫ニ招カレ來テ吉凶ヲ豫言ス（降靈）。又其性惡ナルモノハ生人ニ憑依シテ祟害ヲ爲ス（死靈）

（三）靈魂ノ歸趣　人ノ死後ハ其魂何レニ往クヤト云フニ之ニ二說アリ（一）ハ其人ノ臨終ノ死樣ニ依リ其赴ク所ヲ異ニス。卽常死者ノ靈ハ北大武山ニ赴キ祖先ノ靈ト共ニ生活シ變死者ノ靈ハ死所ニ留リ生人ノ害ヲ爲スト云ヒ（二）ハ同一人ノ魂ト雖其正魂ハ北大武山ニ赴キ副魂ハ死所ニ留リ又ハ番社附近ノ禁地ニ住スト云フ　此兩說何レニ依ルモ靈ハ皆其所ニ現世ノ如キ社會ヲ作ルト

云フ

(四)靈魂ノ社會　靈ハ生存中ニ於ケル如ク相集リテ社會ヲ成ス。其所ニハ頭人モアレハ番丁モアリ畑モアレハ林モアリ、農耕ヲモ爲セハ獵漁ヲモ爲スト云フ

右ニ就キ重ナル番社ニ就テ調査シタル所左ノ如シ

(い)上番りせぬ番マか社　ニ於テ人死スレハ其靈去テ平地ニ降ルト云フノミ靈界ニ付テ別ニ語ル所ナシ

(ろ)るかい番ブダイ群社　ニ於テハ曰ク人死スレハ其靈ハ社域内ノ或場所ニ集リ一ノ社會ヲ成ス。其所ヲ「ブツマサヌ」ト云ヒ社民ノ其内ニ入ルコトヲ禁スト

(は)同番亨ホか社　ニ於テ曰ク人死スレハ其正魂ハ大武山ニ赴キ副魂ハ死所ニ留リ其處ニ生人ノ如キ部落ヲ作ルト

(に)ぶつる番下パイワ社　ニ於テ曰ク人死スレハ其靈始メハ屋内ノ暗所ニ留マルモ後ニハ去テ北大武山ニ赴キ靈界ニ入ル。但變死者ノ靈ハ永ク其死所ニ留ル

(ほ)同番カザザラ社　ニ於テ曰ク人死スルトキハ北大武山ニ赴ク。然レトモトブクロイ（同山ノ斷崖）ニ至リ其所ニ在ル神靈拒テ之ヲ入レス靈ハ突落サレテダリトコ（地下ノ世界）ニ赴ク。此トブクロイ及ダリトコニハ現世界ノ如ク家アリ畑アリ檳榔子アリ酒及肉アリ。但産死者ノ靈ハテサラパンノ見放シタルモノナレハ何所ニ往クカ審ナラス

(へ)同番クワルス社　ニ於テ曰ク人死スレハ正魂ハ北大武山ニ赴キ副魂ハ附近ノ禁地ニ留ル

(と)同番カヒヤカ社　ニ於テ曰ク人ニハ五魂アリ（一）右肩ニ在ルモノハ北大武山ニ赴キ其上空ニ

登ル。但變死者ハ山南カザギザヌニ移リ産死者ハ大武山附近不明ノ所ニ留ル。何レモ現世ト同樣ノ社會ヲ作ル　(二)左肩ニ在ルモノハ臥蓆ヲ棄テタル林地ニ留ル。但變死者ハ其變死シタル所ニ留ル　(三)頭ニ在ルモノハ番社ノ附近ニ徜徉シ　(四)兩眼ノ間ニ在ルモノハ天ニ昇リテ星ト爲リ　(五)胸ニ在ルモノハ住屋内ニ留リ靈棚ニ宿ス。但他所ニ葬ル時ハ其葬リタル所ニ留ル(以上安原氏調查)或ハ曰ク右肩ノ靈ハ北大武山ニ赴キ靈界ヲ作ルモ時至ラハ現世ニテ馘首サレタル者ハ其所ニテモ馘首セラレ病死シタル者ハ病死シテ復ヒ現世界ニ歸來シ「カオマオマ」ト稱スル細キ節長キ竹ノ中ニ入テ消滅ス(以上小林氏調查)又曰ク頭人死スルトキハ其數月前ニ北大武山ノ方ニ當リ恰モ岩石ノ一時ニ崩落スルガ如キ響アルヘシ。是北大武山ニ於ケル諸靈ガ頭人ヲ迎フルガ爲ニ大掃除ヲ行フナリ。故ニ番人等ハ頭目ノ病重キ時ニハ甚タ此山ニ起ル音響ヲ氣ニスト(安原氏調查)

(ち)北ぱいわぬ番ボかリド社ニ於テ曰ク各人ニ十魂アリ。死亡スルトキハ皆北大武山ニ赴ク。如何ナル世界ヲ爲スカハ審ナラス。産死者及自殺者ノ魂ハ永ク番社附近ノ禁地ニ留リ惡靈ト爲ル

(り)同番コワバル群社ニ於テ曰ク各人ニ五魂アリ。頭ニ宿スルモノハ埋葬セラレタル所ニ留マリ他ハ死後直ニピロピロワヌ(チーババオ社ノ南方ノ山上ニ在リテ其所ニハ茄苳ノ大木四本アリ)ニ赴ク(以上小林氏調查)

(ぬ)同番スホン群社ニ於テハ曰ク魂ハ各人ニ唯一個アリテ死シタルトキハ靈ト爲リテピナバブカーサヌ(大武山)ニ赴ク。五年祭ニハ降テ當社ニ來リ子孫ニ祀ラル。サレトモ平素山ニ在リテ如何ニ生活セルカハ審ナラス(小林氏調查)

(る)こぼじ番内獅頭社ニ於テハ人ハ五魂ヲ有シ死亡スレハ其靈ハリズカヌ(當社ノ西南ニ在ル林地)又ハジャブジャブ(二箇所アリ、何レモ林地ニシテ一ハ當社ノ西方ノ山腹ニ、他ハ東方ノ山上ニ在リ)ノ内何レカ己ノ欲スル所ニ赴ク。然レトモ被馘首者ノ靈ハ其首

級ト共ニ敵地ニ赴キ、溺死者ノ靈ハ水中ニ宿シ、自殺者ノ靈ハ其屍ノ所ニ留リ、産死者ノ靈ハカクテーター（産死者ノミヲ埋葬スル林地）ニ留ル　而シテ此等ノ靈ハ何レモ一箇年ノ後再死シテ眞ノ靈ト爲ル（小林氏調査）

（を）**同番內文社**　ニ於テ安原氏ノ調査シタル所ニ依レハ死後人ノ靈ハ生前ノ所行ノ善惡及死樣ノ如何ニ依リ其赴ク所ヲ異ニス即左ノ如シ

(1) **生前惡事ヲ爲サスシテ病死シタル者ノ靈**　ピナバブカサ（北大武山ノ頂）ニ赴ク。此所ニハナクマ（神）及族祖ノ靈在シテ氣候好ク土地肥エ穀類野獸ノ幸ニ富メリ。此所ニ居住スル靈ハ平素ハ頗ル安樂ニ生活シ時々下界ニ降來テ我等ニ幸福ヲ持來ス

(2) **生前ニ惡事ヲ爲シタル者ノ靈**　ハピナバブカサニ入ルコトヲ得ス其南方ナルイナバヤバヤナ（南大武山ノ頂上）ニ留ラサルヘカラス。此所ハ氣候惡シク土地瘠薄穀類野獸ニモ乏シ。此所ニ居住スル靈ハ下界ニ來降スルトキハ人ニ災禍ヲ持來ス

(3) **變死者ノ靈**　ハ永久ニ其變死シタル場所ノ附近ニ彷徨ス。人之ニ逢フトキハ病ヲ得又ハ傷ヲ負フコトアルヲ以テ一般ニ其地ハ禁地トシテ之ニ立入ルコトヲ忌ム

（わ）**ばりじゃお番牡丹路社**　ニ於テハ日ク人死スレハ其靈ハカブルガン（北大武山）ニ赴ク。然レトモ馘首セラレタル者ハチャカラウス（天空）ニ赴キ他ノ變死者ノ靈ハ諸方ヲ巡遊シテ生人ニ害ヲ爲ス

（か）**同番高士佛社**　ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ニ依レハ人ノ靈ハ祖神サジムジノ定ムル所ニ從ヒテ行ク即

(1) **善人ノ靈**　ハ北大武山ニ赴キ其所ニテ頭人ノ靈ハ頭人、番丁ノ靈ハ番丁ト爲リテ農耕、狩獵等ヲ爲シ現世ニ於ケルト等シキ社會ヲ作ル

(2)**惡人ノ靈** 現世ニ於テ屢禁忌ヲ犯シ惡事ヲ爲シタル者ノ靈ハ大武山ニ赴クコトヲ得ス社附近ノ禁地ニ留リ惡靈ト爲ル。但シサジムジガ其地ニ在ル他ノ惡靈ニ對シテ「ジュルン」(甕)一杯ノ珠仔ヲ賠償スルトキハ大武山ニ赴クコトヲ得。然レトモ此ハサジムジノ任意ニ依リ社民ヨリ進テ之ヲ望ムコトヲ得サルモノトス

(3)**變死者ノ靈** 變死ヲ爲シタル者ノ靈ハカクテータヌ(大武山ノ麓ニ在リ)ニ赴ク。此等ノ靈ハ其地ノ「ツマス」ト稱セス「カヤム」(鳥)ト稱ス

(4)**幼兒ノ靈** ハ尚足立タス遠ク大武山ニ赴クコトヲ得サルガ故ニ巫ハ太陽ノ靈ヲ呼ヒ汝ニ返スヘシト告クレハ太陽之ヲ受取リテ男ナレハ女ニ、女ナレハ男ニ性ヲ變ヘテ再其母ニ與フ。故ニ男死シテ後ニ女ガ生マルルトキハ其兒ハ健全ニ成育スヘシト雖モ男ガ再產マルルトキハ太陽ガ造リ換ヘクレサルモノナレハ短命ナリト云フ

(附記)當社民ノ說ク所ニ 昔當社ノ一婦人ぱかろ番ニ嫁シ或時北大武山ヲ越ヘテ西ニ降リシニ其時山中ニ於テ目ニハ見エサレトモ人ノ話聲、狩獵ノ懸聲等ヲ聞キ得タリ。山麓ニジャロカ'ト稱スル大ナル池アリテ水滿チタリ。山下ノ部落ニ至リ人ノ說ヲ聞クニ此池ノ上方ニハ靈ノ棲住スル大ナル部落アリ。早朝此池ニ赴キテ見レハ水極メテ清澄ナレトモ日暮ニ至リ見レハ水混濁セリ。是日中靈ガ水浴ヲナシタル爲ナリ。又此池ノ周圍ニ「ボオコ」(薄綠色ノ草ニシテ夏時黃色重辦ノ徑一寸位ノ花チ開ク菊ノ如キ形ト香チ有ス番人ハ頭環ニ挿シ裝飾ト爲ス)密生セリ。若シ人之ヲ採ルトキハ其跡ヨリ青竹蛇出來ルヘシト言ヘリトテ今尚當社ニハ傳說ス

大武山ニ赴キタル亡靈ハ五度死シ四度轉生ス。五回目ニ死シタルトキサジムジ、サウマイ兩神其亡

靈ノ骨ヲ洗ヒ之ヲ現世ノ元ノ家ニ生レ歸ラシム（死者男子ナレハ男子ニ、女子ナレハ女子トシテ）生兒多ク祖先ニ相似ルハ斯カル故ナリト　又曰ク不經ノ死ヲ爲シタル者ノ死靈ハ現世ニ歸リ來リテモ再ヒ不經ノ死ヲ爲スヘシト

第四　憑靈幽靈及魂火

(一)生靈　ぶつる番以南ノ諸番社ニハヤロパナ、卽生靈ニ關スル話アリ。曰ク人若甚シク或人ヲ戀ヒ若ハ恨ムトキハ其魂身體ヲ脫出シ目的ノ人ニ憑依スルコトアリ。其場合ニハ相手ノ人必疾病ニ罹ルカ又ハ負傷ヲ爲スヘシト。又曰ク相手ノ人ハ此場合ニハ屢夢ニ其人ノ來リ怒ル姿ヲ見ルヘシト。生靈ニ祟ラレタル者ハ巫ヲ招シテ之ヲ禳フヘシ。然レトモ巫女ノ生靈ニ取附カレタルトキハ容易ニ之ヲ驅逐スルコト能ハス。故ニ其場合ニハ親シク其本人ニ面シ罪ヲ謝シテ怨恨ヲ解クヨリ外ニ途ナシト云フ

（附記）生靈ニ關スル實例

(1)昔時ぱりじ、お番牡丹路社ニ二人ノ青春男女アリシガ女ヨリ男ヲ戀ヒ其意中ヲ語リシニ男之ヲ快諾シ結婚スヘキコトヲ約シタリ。然ルニ後ニ至リ男其約ニ違ヒテ他ノ女ト通シ前ノ女ヲ顧ミサリシカハ女憤恨已ムコト能ハス。飲食ヲ斷シテ家ニ閉居シ一心ニ其男ヲ怨ミツメタルニ數日ノ後其男ハ發狂シ遂ニ自縊レテ死シタリ。附近相傳ヘ之ヲ以テ女ノ生靈ノ所爲トセリ（安原氏調査）

(2)昔時ぶつる番カピヤカ、社ニタゴルト云フ女ノ許ニララン及サキヌノ兩男通ヘリ。タゴルハサキヌヲ愛シタレトモ兩親之ヲ許サス強テララント婚姻セシメタリシニタゴルハサキヌヲ

思切ルコト能ハサリシカハ遂ニララント別レテサキヌト同棲セリ。幾モナクタゴル病ニ冒サル。自ラ思フ我別ニ禁忌ヲ犯シタルコトモナシ是必ラランノ怒リテ爲セル業ナルヘシト。果シテ其病癒エスシテ死亡セリ。此ニ於テサキヌ大ニラランヲ恨ミシカハ幾モナクラランモ亦病ヲ得テ死亡シケリ。社民今日ニ至ルマテ皆怨靈ノ恐ルヘキヲ傳說セリ(小林氏調査)

(二)死靈　ぶつる以南ノ諸番社ニハ「アマラオ」卽死靈ニ關スル話アリ。曰ク人若シ或人ヲ戀ヒ又ハ怨ミテ死亡スルトキハ其靈相手ノ人ニ憑依シ害ヲ加フルコトアリ。故ニ人ヲ殺シタル者ハ屢被害者ノ靈ニ取附カレ苦惱スヘシ。若シ死靈ニ誘ハレテ自己ノ魂ガ脫出スルトキハ病ト爲ルヘシ。故ニ死靈ノ祟ヲ受ケタル者ハ巫ヲ招シテ其祈禱ニ賴リテ之ヲ驅除スヘシ。但巫ヲ殺シタル者ハ祖先ノ庇護ヲ受クルコトヲ得ス如何ニ祈禱スルモ其効ナク遂ニ靈ノ爲ニ殺サルルコトヲ免レスト

(附記)死靈ニ關スル實話

(1)今ヨリ約三十年前ノ事ナリキ。內文社民マラオ・カロホノ祖父某臺東地方ニ至リ人ニ殺サレキ。其後約十二三年ヲ經テマラオ或夜夢ニ其死セル祖父ヲ見タリ。祖父ハ汝我ト共ニ來レトテマラオヲ伴ヒテ其被害地ニ至レリ。マラオ恰モ其地ニ到リシカト思ヘハ夢覺メタリ、マラオコレヨリ心狂ヒ今ニ至ルモ快癒セス。是全ク祖父ノ靈ガマラオノ靈ノ一部ヲ誘出シタルニ因ルナリ云々(大正三年安原氏調査)

(2)昔ぶつる番カピャガヌ社ニ於テスラト云フ男テルシャント云フ女ヲ娶テ妻ト爲シ二人ノ子ヲ設ケタルニ後病ヲ得テ死シタリ。後テルシャン病ニ罹リタルニ因リ巫ヲ招キ其病ノ原因ヲ質シタルニ巫ハスラガ汝ノ靈ヲ招キタルナリト曰ヘリ。幾何モナクテルシャン及二人ノ子モ皆

病ノ爲ニ斃レ又人皆之ヲ以テスラノ靈ノ致ス所ト爲セリ（小林氏調査）

(三)幽靈　本族ニ於テモ亦幽靈ニ關スル物語アリ。靈ハ時ニ其姿ヲ現シ又ハ聲ヲ發スルコトアリ。之ヲ「ガラジ」（幽靈）ト云ヒ其出現スルヲ「グマラジ」ト云フ。幽靈ハ生人ト同樣ノ形體ヲ有シ同樣ノ風裝ヲ爲ス。之ニ逢フ者ハ概シテ病ヲ得ルガ故ニ翌朝直ニ巫ヲ招キテ之ヲ攘フヘシト云フ

右ニ付キ諸社民ノ言フ所ヲ掲クレハ左ノ如シ

(い)るかい番ブダイ社　ニ於テ曰ク人死スレハ始メハガラル（幽靈）ト爲リ山中又ハ社內等己ノ好ム所ニ住スト云ヘトモ社民未之ヲ見タルコトアラス。唯夢ニテ見ルコトアルノミ。ガラルノ惡ナルモノハ生人ノ後ヲ追ヒ來リ之ヲ殺スコトアリ。而テガラルハ後ニ變シテアイリリウ（靈）ト爲ルト

(ろ)らばる番上パイワヌ社　ニ於テ曰ク幽靈ヨリ先ニ我ガ見ラルルトキハ我死スヘク之ニ反シテ我ヨリ先ニ幽靈ヲ見テ『何カ汝ハ』ト聲ヲ掛ケ唾吐クトキハ彼ノ姿ハ消失シ我ハ無事ナルヘシ

(は)ぶつる番カザザラヌ社　ニ於テ曰ク夜社ノ附近ニ「ザーツ」ト風ノ如ク音シ別ニ何物モ見エサルモ之ニ逢ヒタル者其身ノ毛立チ手足戰慄スルコトアリ。是森林ニ在ル幽靈ノ遊歩クニ遇ヒタルナルヘシ　又知人親族ノ死シタル時ニ其靈夜遲ク形ヲ現ハシテ別離ヲ告クヘク來ルコトアリ。當社ニテハ之ヲ「アジャリ」ト云フ

(に)同番カピヤカヌ社　ニ於テ曰ク變死者ノ靈ガ親族朋友ニ別レヲ告ケンガ爲ニ來テ其形ヲ現ハスコトアリ。之ヲ熟視スルトキハ見ル見ル其顏白ク爲リテ終ニ消去ルヘシ。又之ニ物言ヒカクレハ忽消失スヘシ。其形生前ト異ルコトナケレトモ頭部ハ極メテ大ナリ。但シ馘首セラレタル者ハ頭ナキ故人ノ形ト爲リテ現ハルコト能ハス。風ノ如ク「サーツ」ト音スルノミ　生存セル者ノ左腕ノ靈モ睡

眠中ニ脱出シ幽靈ト爲リテ現ハルルコトアリ。形其者ト等シク人之ニ遇ヘハ忽消失ス

(ほ)**はりじゃお番高士佛社**ニ於テ曰ク幽靈ハ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ。禁地ニハ多數ノ亡靈常ニ稗ヲ作リテ生活シ社民ノ禁忌ヲ犯シタル者アルトキハ直ニ祟ヲ爲ス。而シテ此等ノ靈ハ晝間ハ禁地ニ居レトモ夜ハ出テ幽靈ト爲リ何處ニテモ出現ス。幽靈ハ概シテ頭部極メテ大、眼モ大ニシテ生人ト等シキ服裝ヲ爲ス　猪ノ害ニ斃レタル幽靈ハ「ムッムッ」ト吠エツツ人ノ前ヲ風ノ如ク疾ク過キ、産死シタル者ノ幽靈ハ陣痛ノ時ト同樣ノ悲鳴ヲ爲シ、馘首サレタル者ノ幽靈ハ頭ナク獸ノ如ク這廻ル。人此等ニ遇フモ病ニ冐サルルコトナク酒、肉等ヲ投與フルトキハ忽消ユト云フ

(附記)幽靈ニ關スル實話

(1)昔カピヤガァ社ノスムクジナル者害獸ヲ驅ル爲畑小屋ニ赴クニ途同社トアマソ社ノ中間ノ山上タクリンヲ過キシニ此所ニ太キ樹枝ヲ曲ケテ之ニ腰掛ケタル幽靈アリ。形極メテ大ニシテ腕ノ太サ我等ノ胴ト等シク我等ト同シキ黑衣ヲ着シタリ。スムクジハ大膽ナル男ナレハ敢テ逃去ラス。之ニ向テ發銃シタルニ銃丸命中シ幽靈「ヒューッ」ト大ナル叫聲ヲ揚ケタリ。スムクジ乃大ニ驚キ後ヲモ見スシテ走リ歸リ豚一頭ヲ殺シ巫ヲ招キ祈禱シタリ。翌日社人大勢ニテ其所ニ赴キタルニ其跡開裂シテ草ヲ燒キ拂ヒタルガ如ク整然ト爲リ居タルガ屍ハ遂ニ見出サザリキト(小林氏調査當社番丁ラモル某ノ話)

(2)昔北ぱいね番ボカリッリ社ニジョアー・チャクジョクト稱スル妙齡ノ一女子アリシガ同社ノ青年某ニ懸想シ遂ニ之ニ對シテ己ノ意中ヲ語リタリ。然ルニ其青年ハ既ニ他ニ約シタル女アリシカハ之ヲ拒絕シタリ。ジョアヌハ失戀ノ餘身ヲ沼ニ投シテ死シタリ。其翌日ヨリ其邊ニジョアヌノ靈

盛裝シテ出現シ人若其附近ヲ通レハ「ウザヤガ・クン」（私ハ此所ニ居ル）ヒヒヒヒヒヒ（笑ヒ聲）ト云フ。コレヨリ社民ハ恐レテ其所ヲ通行スル者ナクナリタルニ因リ頭人等議シテ其沼ノ邊ニテ祈禱ヲ行ヒ幽靈ヲ祭リシカハコレヨリ其幽靈ハ再出テサル様ニ爲リタリト云フ（安原氏調査ボかりノ社パリプリノ語）

(3)十數年前ノ事ナリキ。こぼじ番內文社ニムラヌン・トペクト云フ番丁アリ。一日刺桐脚溪ニ降リ漁獵シテ歸リシニ途チラロラロク（邦人之ヲ觀音岩ト稱ス）ノ岩ノ傍ヲ過キシニ岩上ニ身長常人ノ約三四倍モアル者佇立スルヲ見タリ。其面色ハ純白ニシテ目ト眼ハ特ニ大キク而シテ眞紅ノ衣ヲ着タリ。不思議ニ思ヒテ注視シタルニ其姿ハ忽消エ失セタリ。歸宅後直ニ巫ニ依賴シテ祖靈ニ祈願シタリシカハ幸ニシテ事ナキヲ得タリ。又同人ガ或日溪流ヘ水汲ニ行キ水筒ヲ傍ニ置キ瓢ヲ以テ流水ヲ汲マントシタルニ其水筒ニ面色蒼白ク黑衣ヲ着シタル男子ノ倚リ掛ルヲ見ケレハ不思議ニ思ヒテ誰何シタルニ忽消失セタリ。サテハ幽靈ナルヘシトテ直ニ歸宅シテ巫ヲ招キテ祈禱シケレハ亦幸ニ事ナキヲ得タリ（安原氏調査內文社ラカラン・ジ・ジ・スボル外數名談）

(4)昔內文社ニムラヌン・パジャプジャプト云フ番丁アリケリ。或日用事アリテ番社ノ南方約五六町ニ在ルチャジャソツクト云フ所ニ行キシニ路傍ノ茅ノ繁茂セル中ニ一人ノ男子佇ムヲ見ル。不思議ニ思ヒテ之ヲ注視シタルニ先日縊死シタルイビ・ポジジクノ姿ニ似タルヲ以テ不思議ニ思ヒツツ何人ナルヤト問ヒタルニ忽消失セタリ。彼頗恐怖シテ歸宅シ直ニ巫ノ招キテ數回其祈禱ヲ受ケタルモ不幸ニシテ其靈ノ祟ル所ト爲リ數日ノ後死亡シタリ（安原氏調査內文社アパイ・イツボアノ談）

(5)內文社番丁チグル・タコペルト云フ者自語テ曰ク昨年（大正二年）夏ノ頃ナリシカ一夕キナジャン社ナル實家ヘ赴カントシテ途中溪流ノ附近イラツゴツガニ來リタルニ童子ノ聲ニテ「ゲーハイ、

ヘーハイ」ト歌ヒッツ居ルヲ聞キ何所ノ者ナルカト聲スル方ヲ見タルニ數人ノ童子遊ヒ居タリ。何所ノ者ナリヤト問ヒタルニ「ブルス」(風ナ切ル聲)ト風ノ如キ響ト共ニ悉ク消失セタリ。實家ヘ着スルヤ此旨ヲ我父ニ告ケテ巫ヲ招キ祈禱シ其害ヲ免ルコトヲ得タリ

(五)同番アジャビス社長ラガラヌ・チャバジツモ自語リテ曰ク一日刺桐脚溪ノ下流ニテ狩獵シタ方狩小屋ニ宿シタリ。深更ニ至リテガサガサト茅ヲ分ケ來ル者アリ。何者ナランカト直ニ銃ヲ執テ小舍ヨリ出テタルニ不思議ニモ一頭四體ノ羌仔ナルヲ以テ直ニ發銃シタレトモ丸發セス。斯クスルコト三四回ニ及ヒ愈不思議ト思フ中ニ其獸ハ漸次大キク爲リテ終ニハ小舍ト同シ位ノ大サニナリタリ。彼恐々ナガラ默視シ居タルニ頓テ消失セタリ。翌日歸宅シタルニ己ガ最愛ノ子ハ既ニ死亡シ居タリ。思フニ幽靈ガ愛子ニ憑依シタルカ又ハ愛子ノ靈ガ幽靈ト爲リテ現ハレシカ何レトモ不思議ノ至ナリト言ヒ合ヘリト

(四)魂火　番語ニ「サブイ・ナ・ツマシ」ト云フハ靈ノ火ト云フ義ナリ。或社ニ於テハ之ヲ以テ靈ガ姿ヲ現ハシタルモノナリトシ或社ニ於テハ之ヲ以テ靈ガ夜行ク時ニ用キル炬火ナリトセリ。而シテ其形狀ハ人ニ依リテ言フ所ヲ異ニス

左ニ重ナル番社ニ於テ調査シタル所ヲ掲ク

(い)らばる番上パイワン社ニ於テ番丁アマル、バリウスノ語ル所ニ依レハ魂火ハ始ハ一箇ノ大ナル光現ハレ忽チ分レテ數箇ノ小サキモノト爲リ又集リテ一團ト爲ルカト思ヘハ別レテ多數ノ小片ト爲リ或ハ高ク或ハ低ク或ハ飛ヒ或ハ徐行シ其狀恰モ薪ヲ燒クガ如シ。色ハ赤ニ非ス青ニ非ス電氣ノ光ニ似タリ云々

ろぶつる番カザサラ社ニ於テハ曰ク魂火ハ圓形ニシテ「グララス」(薄赤色)ヲ帶ヒ光力弱ク突然現レ低キ所ヲ極テ迅速ニ飛ヒ何物ニカ突當レハ其儘消滅シ或ハ中途ニ於テ多數ニ分裂スルコトアリ。是靈ガキスズ(未婚青年ノ男子ガ女子ノ許ニ赴キ遊ブコト)ニ赴クトキ茅ヲ燃シ乍ラ時々燃サシヲ々々ヤッツ行クナルベシ之ヲ見ルモ別ニ害ヲ受クルコトナシト

(は)同番カヒヤカン社ニ於テ曰ク魂火ノ大ナルハ直徑一尺位、小ナルハ一二寸位ノモノアリ。形圓ク色ハ青白ク其形篝火ニ似タリ。飛フコト速ナルアリ遲キアリ低ク飛フアリ高ク走ルアリ。此火ハ一箇又ハ多數禁地ヨリ禁地ニ向テ飛フ。蓋靈ガ他出ノ際ニ道ヲ照ス火ナルヘシ。人之ヲ見レハ病ニ冒サルトテ豚一頭ヲ殺シ巫ヲ呼ヒテ祈禱ス　當社ノ祝バロロ・ワモル自語テ曰ク今ヨリ約三十年前我ハ當社ヨリ平地ニ近キ森林トロアイト云フ禁地ノ傍ノ耕作地ニ赴キタルニ其夜其森林ヨリ突然一個ノ魂火現ハレタリ。其形少シク細長ク上腕ト等シキ形ト大サヲ有セリソレヨリ多數ノ魂火續々現レ或ハ高ク或ハ低ク飛來リ飛去リ其附近一面ハ全ク魂火ヲ以テ埋メタルニ因リ己ハ夢中ニ畑小屋ニ歸リタリ。翌早朝歸社シ病ニ臥シタルモ巫ヲ呼ヒ豚ヲ殺シテ祈禱シタルヲ以テ死ヲ免ルルコトヲ得タリト

(に)北はいわ番ホかリド社ニ於テ曰ク魂火ハ其狀薪火ニ似タリ。禁地ヨリ溪ニ向ヒテ飛フ。速キコト鳥ノ如シ。之ヲ見ルモ別ニ祈禱ヲ行フニ及ハスト

(ほ)こぼじ番内文社ニ於テ曰ク靈ノ人ノ體内ニ在ルトキハ果シテ如何ナル形狀ヲ具スルヤハ明カナラスト雖死シテ體外ニ脫出スルトキハ一ノ球ト爲リ青光ヲ放チツツ風ノマニマニ地上數尺乃至十數尺ノ上ヲ飛行クモノナリ。而シテカブルカンニ到着スルトキハ全ク光ヲ失ヒテ靈ト爲ル

シ

(ヘ)はりじぃお番高士佛社ニ於テ曰ク魂火ハ直徑五寸位ノ稍圓キ形ヲ爲シ其光ハ星ノ如ク又薪ノ燃ユルガ如シ。夜禁地ノ附近ニ現ハルルコトアリ。大概一箇ニシテ低ク遲ク飛フ。是禁地ニ住スル亡靈ガ外出スルトキニ道ヲ照ス爲メ火把ヲ燃シツツ行クモノナルヘシ。人之ヲ見ルモ祟ラルルコトナシ

第五　鳥獸ノ靈魂

本族ノ觀念ニ從ヘハ鳥獸ニモ亦亡魂アリ。サレトモ人ノ如ク他ニ祟リテ害ヲ爲スコトナシ。唯豹、鷹及豚ノ靈ハ時々人ニ憑依シテ害ヲ爲スコトアリトテ或番社ニ於テ豹(こぼじ及ばりじぃおノ兩番)又ハ鷹(こぼじ番)ヲ捕リタルトキハ必ス其祈禱ヲ行フ(後欵中狩獵ニ關スル祭祀參照)又豚ヲ屠ルトキハ其喉ヲ刺ス場合ニハ必「バルグルグ」ノ祭ヲ行フヘク且家長ハ其傍ニ在ルヘカラス。然ラサレハ豚ノ靈家族ノ何人ニカ取着キ癲癇ノ如キ病氣ヲ惹起スコトアルヘシト云フ

猪又ハ犬ハ死後幽靈ト爲リテ現ハルルコトアリ。之ニ付キカピヤガヌ社ノ老番ハ語テ曰ク夜間ニ猪又ハ犬ノ靈ガ家内ニ入來リ戸ヲ開キ食物ヲ食シテ去ルコトアリ。家人ハ犬ノ來リシナルヘシト跡ニテ之ヲ驗スルニ食物ハ依然トシテ在リ戸モ開キタル樣ナシ。又此等ノ靈ハ時トシテ社附近ノ道路又ハ家ノ附近ニ衣ヲ丸メテ置キタルガ如キ形ヲ爲シテ現ハルルコトアリ。人之ヲ見テ何人ガ置忘レタルナラント傍ニ赴キ之ヲ採ラントスレハ忽消失ス ト(小林氏調査)

第二項　司祭者

本族ニ於テ祭祀祈禱ヲ司ル者ニ巫及祝アリ。巫ハ皆女ニシテ諸家ノ依賴ニ應シ一家内又ハ個人ノ

為ニ祈禱ヲ行ヒ又ハ共同祭祀ニ參與ス。祝ニハ一衆共同ノ祭祀ヲ主掌スルモノ(番祝)ト唯一家ノ祭事ヲ主ルモノ(家祝)トアリ。何レモ男タルモノト女タルモノトアリ。共同祭祀ニ當ル女祝ハ皆巫タル身分ヲ有セリ

第一　巫

第一　總説

(一)巫ノ意義　本族間ニ於テ神靈ニ接シテ其意思ヲ探リ諸種ノ祭祀祈禱ニ從事スル婦女ヲ「マラダ」(ぶつる、らばる兩番ニ於テ)、「プリガオ」(ばいわぬ、三番ニ於テ)、「タライビヤ」又ハ「ツイビビヤ」(るかい番ニ於テ)又ハ「サプルルヌ」(上ざりせぬ番ニ於テ)ト云フ。玆ニ譯シテ巫ト為ス

(二)巫ノ定員　巫ニハ定員ナシ。從テ或番社ニハ其數甚タ多ク之ニ反シテ或番社ニハ甚少クらばる番上パイツノ社ノ如キハ現時一人モ之ヲ有セス(曰ク是社内ニ神ノ好ミル者一人モナキニ因ルト)但シ北ばいわぬ番チ・ジ・リブ・社ニ於テハ古來巫ハ五人ヲ超ユルコトヲ得ストノ定メアリテ若之ヨリ多キトキハ其内ノ一人夭死スヘシト云フ

(三)巫ノ地位　巫ニハ其特權ナシト雖族衆ニ敬重セラルヲ以テ婦女ハ一般ニ巫ト為ルノ榮譽トセリ　特ニばいわぬ三番ノ諸社ニ於テハ巫ハ族衆ニ信用セラルルコト厚ク為ニ屢不經ノ諸言ヲ為シ番情ヲ動搖セシムル虞アルヲ以テ現時各駐在所ニ於テハ常ニ其擧動ヲ注視セリ　こ宮いと番諸社ニ於テ巫ハ神靈ノ妻ナリトシ之ヲ犯ス者ハ常人ヲ犯スヨリモ其罪ヲ重クス。或番社ノ如キハ巫ノ墓ハ常人ト之ヲ別ニシ與室中後壁ニ近ク家人ノ蹈マサル所ヲ選ムト云ヘリ　然レトモ上ざりせぬるかい兩番諸社ニ於テハ巫ハ概シテ其術ニ精シカラス從テ餘リニ社民ニ信用セラレサルガ如シ

(四)巫ニ關スル禁忌　巫ハ一般ニ米ヲ食スルコトヲ得ス。米ニテ作リタル餅及酒亦同シ。煙草ヲ喫スルコトヲ得ス。何レモ靈ノ忌ム所ナルヲ以テ之ヲ犯ストキハ其術靈ナラスト云フ。倘カビヤ「カ」社ニ於テハ右ノ外鹿肉ヲ食スルコトヲ得ス。ぱりじゃお番諸社ニ於テハ牛肉ヲ食スルコトヲ得スト爲ス。カビヤ「カヌ」社及チャジャカブス社ニ於テハ米ヲ食シタルガ爲ニ病ニ冒サレタル幼女ハ神ガ之ヲ巫ト爲サンガ爲ニ生レシメタル者ナリトセリ

(五)巫神ノ所在及來歷

(い)神位　巫ノ家ニハ其奥室ノ右壁ニ巫神ノ靈ヲ祭レル凾狀ノ穴(番語「タラベ」)アリ。之ヲ「アラスジャイ」ト云フ。玆ニ壺一箇アリ。此中ニもくろじノ實一個ヲ入レテ巫神ノ位ト爲ス。巫神ハ「カイカイ」(刺アル草土語ノ咬人狗)及煙草ヲ嫌ヒ又光明ヲ好マス。故ニ此近クニ於テハ煙草ヲ喫シ、「カイカイ」ヲ置キ又ハ燈火ヲ點スルコトヲ禁ス。若之ヲ犯セハもくろじノ實逃去リ爾後其巫ノ行フ方術ハ效ヲ奏セスト云フ

(ろ)來歷　巫ノ祖先ニ關スル傳說ハ各番之ヲ異ニス。左ニ若干ノ番社ニ於テ聞得タル所ヲ揭ク

(1)**ぶつる番諸社**　ニ於テハ一般ニサジブ及サポ「カウ」ノ兩人ヲ以テ巫ノ祖神ト爲ス。マカザヤザヤ社ニ於テハ毎年粟收穫祭ノ前ニ全社ノ番覡及巫等タウジャ家ノ故址ニ集リ右ノ兩神ヲ祭ル

(2)**こぼじ番內文社**　ニ於テハサチュク・バジュアスヲ以テ巫ノ祖神ト爲ス。曰ク往昔バジュアイ家ニチュクト云フ女子アリ。五年間母胎ニ在リ。生レテ直ニ巫言ヲ誦シ。誦シ了リテ肘ト膝トニテ歩ミ同家ノ後壁ノ穴ヨリ外ニ出テ屋ノ右側ヲ廻リテ前ノ戸口ニ來リコレヨリ屋內ニ入リ再後壁ノ孔ヨリ出テ此度ハ屋ノ左側ヲ廻リテ戸口ニ來リ三タヒ屋内ニ入リテ後壁ノ孔ヨリ出テ今度

ハ第一回ノ如ク屋ノ右側ヲ廻リテ戸口ニ來リ四タヒ屋內ニ入ル。此ノ如ク左右各三周シ了リテ豚ヲ屠リ頭ヲ中央ニ置キ、兩脚ヲ其左右ニ、其兩前脚ヲ更ニ其左右ニ都合五片ヲ並ヘ之ニ各「ビアク」(相思樹片)ヲ重ネタル後各片ヲ少シツツ切リ取リ天ニ向テ投上ケテ「以テ我ニ敎ヘタル者ニ奉ス」ト言ヒシトソ。是卽巫ノ始祖ニシテ我等巫ハ此サチュクヨリ師弟相傳ヘテ今日ニ至レルモノナリ。此ノバジュアス家ハ廢絶シテ今僅ニ其址ヲ存スルノミ

內文社ニ於テ巫ガ其敎祖ヲ祭ルコトヲ「バリシ・ト・アラスジャ」ト云フ。アラスジャハ奥壁ノ穴ニシテ巫神ヲ祀レル所ナリ。此祭ハ豐作好運ノ年ニ好日ヲ選テ行フ。但シ喪期間及粟ノ開花ヨリ收穫マテノ間ハ之ヲ行ハス。又之ヲ行フト行ハサルトハ各巫ノ任意トス

(3)**ぱりじゅお番サブデク群社**ニ於テ老巫チ・オ・トイボハサジムジ・ラリボア及チ・イ・イリヤリンヲ以テ巫ノ祖神ト爲ス。曰ク古昔ボカリド社ノラリボアノ家ニカルボアト云ノ女アリ夫ナクシテ姙ミシカハ其腹ヲ割カントセシニ「チャチュー」ト云フ鳥(鵯ニ似テ小ク其尾長シ其囀ニ依テ名ナ得。土語鳥占ト稱ヘ)來テ「チャチュー！汝ノ子何時カ能ク巫ト爲ルヘシ」ト鳴キタルヲ以テ止メス。子生マレテ呱々ト泣カス直ニ「イサザチ」(巫歌)ヲ歌ヒシカハ之ヲ不祥トシ殺サントセシニ「チャチュー」來リテ又「チャチュー！殺スナカレ汝ノ子何時カ祈禱ヲ能クスヘシ」ト鳴キシヲ以テ乃殺スコトヲ止メ之ヲサジムジト名ツケテ養育セリ。サジムジ成長シ果シテ諸種ノ祈禱ヲ能クシ芋種粟種及人ニ對スル祈禱ヲ能クシ又五年祭同後祭、稗粟ノ收穫後ニ行フ祭祀及部落、土地、石垣及溪流ニ對スル祭祀等ヲ能クシ之ヲチュク・イリギリンナル女ニ傳ヘタリ。サジムジハ又番人ニ始メテ石ヲ以テ家ヲ作ルコトヲ敎ヘタリ。其家址今尙ボガリドニ在リ。而シテ彼ハ婚姻セス老テ死セス終ニビナバソカ山ニ赴キ其跡

ヲ失シタリト云フ

(六)特種ノ巫 こぼじ番ニハ近時ばかゐ番方面ヨリ傳ハレル一種ノ巫術ヲ行フ者アリ。此ハ人又ハ菓樹ニノミ對シテ祈禱ヲ行フ。通常ノ巫ト區別スル爲ニ之ヲ「クマロアヌ」(「すかろノ」ト云フ義)ト云フニ對シテ通常ノ巫ヲ「チマオボオボジャヌ」(「こぼじ番ノ」ト云フ義)ト云フ。而シテ通常ノ巫ハ婦女ニ限レトモ此巫ハ男タルコトモアリ

第二　巫タル身分ノ取得

本族ニ於テ巫ト爲ルニハ(一)先ツ老巫ニ就テ其徒弟ト爲リ(二)巫術ヲ學習シ後(三)成巫ノ式ヲ擧クルコトヲ要ス

(一)徒弟ト爲ル要件 ハ左ノ如シ

(い)婦女タルコト 本族ニ於テ巫ト爲ル者ハ婦女ニ限ル　然ラハ如何ナル婦女ト雖モ之ヲ志望スルコトヲ得ルカト云フニこぼじ番及北ぱいわぬ番ノ南部ニ於テハ巫ト爲リタル上ハ婚姻スルモ差支ナシト雖モ始テ師巫ニ就ク者ハ必處女タルコトヲ要ストシ。之ニ反シテぶつる番ノカザギザイ社等及北ぱいわぬ番チャジャカブス社等ニ於テハ巫ト爲ル者ハ既ニ婚姻シ且子ヲ生ミタル者ナラサルヘカラストシ未婚ノ女ガ巫ト爲ルトキハ他日婚姻シタル時ニ子ヲ生ムコトナク假令子ヲ生ミタリトモ必夭死スヘシトノ迷信アリ。然レトモ其他ノ番社ニ於テハ此ノ如キ制限ナシ婦女タル以上ハ既婚ト未婚トニ拘ハラス何人ニテモ之ヲ志望スルコトヲ得トセリ

(ろ)母ガ巫ニ非サルコト 北ぱいわぬ番ノ南部及こぼじ、ばりじゃお兩番ニ於テ巫ハ母子相襲フコトヲ忌ム。尚こぼじ番ニ於テハ姉妹相竝テ巫ト爲ルコトヲモ忌ム　北ぱいわぬ番ノ北部ニハ此ノ如キ制

限ナシ但シチ、ジ、カブス社ニ於テハ一家内ニ二人ノ巫アルコトヲ忌ミ若之アルトキハ其一必死スヘシトセリ。從テ母ガ巫タルトキト雖其子ハ母ノ死シタル後ニ、又在世中ト雖モ他家ニ入嫁シタル後ニ巫ト爲ルハ禁スル所ニ非スト云ヘリ　さりせ、諸番ニハ右ノ如キ制限ナシ

(は)巫神ニ選ハレタルコト　巫神ノ意ニ合ハサル者ハ如何ニ巫ト爲ラント欲スルモ師巫之ヲ徒弟ト爲スコトヲ肯セス　然ラハ其神ヨリ選ハレタル徴證ハ如何ト云フニ「ザコ」(木ノ實)ヲ人知ラサル間ニ何レヨリカ其人ノ身ニ來ルコトナリ。例ヘハ已ガ側目覺メタル時ニ其枕元ニ此實ガ落在ルトカ又ハ己ガ祈禱ヲ受ケ若ハ他人ノ祈禱ヲ爲スヲ見ツツアル間ニ此實ガ己ノ身邊ニ落來ルトカノ如シ。未タ神ヨリ選マレサル女ガ自進テ神ニ選マレンコトヲ欲スルトキハ師ト爲スヘキ巫ヲ招キ豚ヲ屠リ巫神ニ對シテ祈禱ヲ行ヘハ其祈禱シツツアル間ニ、又ハソレヨリ數日ノ内ニ件ノ「ザコ」自然ニ其身ニ來ルヘシ。其場合ニハ身體自然ニ顫ヒ一種異樣ノ感動ヲ起スト云フ若シ一女アリ夢ニ鞦韆ニ乘テ上下スト見翌朝身ニ顫動ヲ生スルコトアランカ。是神ヨリ選ハレタルモノナルカ故ニ其者ハ後日必巫術ニ熟達スヘシト云フ(二三ノ老番曰ク「ザコ豈天上ヨリ來ランヤ此ハ老巫ガ女ノ村幹巫ト爲ルニ堪ユルヲ見テ秘ニ之ヲ投シタルナリ」ト)

(に)師巫ヨリ入門ノ許諾ヲ受クルコト　女ガ尚幼年ナルトキハ其父母又ハ近親、若シ年長者ナルトキハ其女自師巫ノ許ニ赴キ其希望ヲ語リ入門ノ許諾ヲ受ク。尚こぼし、ぼりし、お南番ノ諸社ニ於テハ豫メ頭人ノ許諾ヲモ受クヘシト爲ス

入門ノ許諾ヲ得タルトキハ其ノ儀式ヲ行フ。之ニ付左ニ二三ノ番社ニ就テ調査シタル所ヲ擧ク

(1)**ぶつる番下ハイワン社**ニ於テ徒弟ハ入門ノ際師巫ニ豚二頭(內一頭ハ屠リテ其肉)鍋、刀、鏵及番鋤各一ヲ與フ。師巫其肉ノ一塊ヲ取テ俎上ニ陳シ之ニ對シテ低キ腰掛ニ座シ、サザザチノ歌ヲ唱ヘテ靈ニ接ス

（催眠状態ニ入スルナリ）歌終テ目覺メソレヨリ其肉ヲ細切シテ巫神「ジガサヌ」其他ノ諸靈ニ供ス

（附記）「サザザチ」ノ歌　下パイワヌ社ニテ唱フル所頗長シ同社ニハ老巫五人アルモ其唱フル所同シカラス其意味ハ明カナラサルモ其中ニテム二・タロリバクノ歌ヲ書取リ參考ノ爲ニ記ス

イサザザチ　エコマカヌ　イカプラヌ　イカキヤバヌ　イトサシタイ　イタリマラオ　イマルラテン　アイカロ　イビダビダル　イタルジャルム　イララガヌ（鐵片ナ鍛冶スルノ義）イジャジャメ（心）　ジャポ

イトマパラパライ　イカルヅルヅル　イサイナイナイ　イコボコボル　イチュルジャル　ジャケス

イカママリバく　イカザガザヌ　イダガダガス　イラウリバヌ　チコカロカロイヌ　イヅダナウ　イタイババオ　イタラガウス　アクシネクラヌ　アイタパカリパリヅ　アクシロタダル　マタル　アレガダン　アクタタガザヌ　アココバル　アテレセン　リニタラブサヌ　リニタルマタ。

パツグラブ　バイチシ　キニダラン　カザガラヌ　アウシサン　アイビパン　アヌグロル

タイタラン　シタルカルプン　イリブリブアヌ　アコキナリリガラヌ　タラテリプ　イラルクルク　ママアトパイワナ　イタルバク　カカタテビラヌ　ルマテマジマジ　アカイナコバラヌクマルワヌ　ビナルサヌ　ビナルクブカヌ　イトタルタル　チボチボル　アクマダルナヌ

更ニ反覆シテ

イカバルルワメ　クムリプ　サバサバく　キナラカバキナメ　テクリリ　イパリン　アルマリバラ　アパタラダリグダヌ　アイガド　ノカラガメ　イリミグルトタタカヌ　ステプラヌ

内文社ニ於テ女祝ジバオ・カサギザくノ語ル所ハ左ノ如シ

（豚ヲ屠ルトキ）サジムジ　コマカヌ　ケナジヌン　マンキズ　ジガサヌ　ララガヌ　パプジャグヅ　イババ

オ　マンキザー　パプバコバコ　サジムジ　ハプカサカサン　タクラジェン

「イサザザチ」ノ歌　イサザチ　コマガヌ　アイヤバガマ　ウワブギ　スバリタマ　スブラタマ　ヌル

ジルク　ヌブリガオ　イパツス（日ノ義傳）ルマガツバ　コワダバワ　ナツムニ　イタジャラン

イタブラクトイニブラバヌ　イニブスア

此等ノ歌ハ一字一句ニ付テハ解シ得ラレサルニ非ルモ往々中ニ古語ヲ混シ其語法モ通常ノ談話ト異ナル所アリテ巫其者ト雖モ意味ヲ明解スルコト能ハサルモノ多シ今ハ其一班ヲ示スニ止ム

安原氏ガ同社ニ於テ調査セシ所左ノ如シ

イサザザチ　コマカ　キューカレウギ　サギュスブラタル　スバルタ　ルルアラソマ　ニジニ

ジガツエ　サジムジ・ラリボア　ボレオマジャジャバン　ヤバン・ルラリアン　ジーツーマイ　シェプラ

オ　シェパマオ　バブロガ（「シェプラオ」「シェパマオ」ハ神氣恍惚ノ状態ニ陷リタルヲ形容ス）

(2) **ぶつる番カサキサ社**ニ於テ安原氏ノ調査セシ所下ノ如シ　當社ニ於テ弟巫ハ之ヲ「リニジーバー」ト云フ。師巫ヨリ入門ノ許諾ヲ受ケタルトキハ其式ヲ擧クヘキ日ヲ定メ之ヲ全社ノ巫ニ通知ス其日夕食頃ニ至リ全社ノ巫ハ各生麻少許ヲ手ニシ二ニ別レ一ハ直ニ師巫ノ許ニ來リテ其内ニ入リ他ハ入門者ノ家ニ立寄リ之ヲ伴ヒテ師巫ノ許ニ來ル門前ニ至レハ一同ハ生麻ヲ持シ右掌ハ肩ノ高サニ、左掌ハ乳頭ノ高サニ置キ手頸ヲ振リツツ（宛カモ巡禮ガ鈴ヲ振ル如キ状ヲ爲ス）「マキジーマル（呼ブ）シャキラ（知ラス）トカライ（巫ノ頭人）ガ、テボガウ（巫神天空ニ在リ）テリアヌ　アブヌアツ（同パダイヌ社ニ在リ舊例）』ト唱フレハ屋内ヨリ師巫ヲ始メ一同出來リ相合シテ同一ノ語ヲ唱フ。其時入門者ハ直ニ師巫ノ手ニ「ヌマグツ」（己ノ鼻ヲ以テ相手ノ手ニ接スルコト。本族ニ於ケル相見禮ナリ）ヲ行ハントスレハ師

ハ之ヲ拒ミテ逃レントス。入門者之ヲ追フ。衆巫師ヲ圍ムト雖モ師巫ハ巧ニ其間ヲ脫シ去リ脫シ來リ容易ニ入門者ヲ近接セシメス。入門者ハ漸クニシテ師巫ノ衣端ヲ執リ其手ニ「スマグツ」ヲ行フ。畢テ再之ヲ爲サントスレハ師巫又逃去ル。再之ヲ捕ヘテ「スマグツ」ヲ行ヒ後一同屋內ニ入ル　ソレヨリ師巫ハ大黑柱ヲ背ニシ西ニ向テ低キ煙掛ニ坐シ其友タル衆巫其左右ニ列ス。入門者ハ師巫ニ對シテ佇立シ其友タル巫徒ハ其左右ニ佇立ス。師巫饌ヲ調フレハ入門者ハ蹲ル。師巫其饌一片ツツヲ取テ五回其入門者ノ頭上ニ載セ同時ニ『テナイダイ（十回）　テナボロク（百回）　イカキナバカバナヌ（遊ブ）　アヴヌアツ（慣例）キバツアリアガ（マネノ出來ルヤウ）』ト唱フ。終テ入門者ハ元ノ如クニ起立ス。ソレヨリ師、徒其他ノ巫等一同右ノ句ヲ合唱スルコト數回。終テ一同相伴ヒテ新入者ノ家ニ至レハ其家ニ於テハ既ニ肉、餅及酒ヲ用意シテ之ヲ待ツ。一同到レハ庭ノ一方ニ篝ヲ焚キツツ宴ヲ開ク。終テ庭又ハ屋內ニ於テ師巫ヲ中心トシ衆巫之ヲ圍テ圓陣ヲ作リ巫呪ヲ合唱シ一同疲ルルニ至リテ止ム。再飲食ヲ爲シテ解散シ或ハ再圓陣ヲ作テ巫呪ヲ合唱シ夜ヲ徹スルコトアリ

(三)巫術ノ學習　入門式ヲ畢ヘタル後弟巫ハ毎夜夕食後師巫ノ許ニ至リ師弟相對シテ低椅ニ腰掛ケツツ巫術ヲ學習ス。其學科ハ祈禱ノ歌ヨリ始メ問神、降神及加持祈禱ノ方式ニ及フ。祈禱ノ歌ハらばる、ぶつる兩番ニ於テ「プリカオ」ばいわ三番ニ於テ「マラダ」ト云フ。此ハ何レモ口ツツシニテ幾回モ之ヲ重ネ徒弟ガ能ク暗誦シ得ルニ至テ止ム

普通巫術ヲ解スルニ至ル迄北ばいわ番チャジャカブス社ニ於テハ毎日教授シテ三箇月乃至六箇月ヲ要スト云ヒぶつる番諸社ニ於テ成績良好ノ者ハ約一箇年ヲ要シ不良ノ者ハ二三年ヲ要スト云ヒばりじゅお番サブデク社ニ於テハ（現時師巫タル者兩人アリ一ハ徒弟六人他ハ之ヨリ尙多數ヲ有ス）此等ハ何レモ二箇月ニシテ巫術全部

ヲ修得スト云ヒ同番高士佛社ニ於テハ毎夜學習シ約二箇年ヲ要スト云フ

(三)成巫ノ方式　弟巫其師ニ就キテ學習シ能ク其術ヲ解スルニ至レハ四人、番祝、重ナル番丁及各社ノ巫ヲ招キテ古例ニ倣ヒ成業式ヲ行フ。之ヲ「スマ・プリカオ」又ハ「スマ・ナラマ」ト云フ、「巫ヲ作リ了ル」ノ義ナリ。此式ヲ行ヒタル後弟巫ハ始テ一人前ノ巫ト爲ルナリ

此式ハ番社ニ依リ多少相異ナルアリ。左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ揭ク

(い)ぶつる番下パイワヌ社ニ於テ安原氏ノ調査セシ所ハ下ノ如シ　巫ノ成業式ハ其績補マル徒弟巫ノ家ノ奥室ニ於テ行フ。當日ハ各社ノ巫及弟巫ノ親族來集ス。弟巫ノ家ニ於テハ豫メ酒ヲ醸シ置キ又當日豚ヲ屠リテ此等ヲ款待ス　當日弟巫ハ弊衣ヲ著シ室ノ中央ニ於テ東ニ向テ蹲ル。師巫一、之ニ對シテ立チ衆巫ハ弟巫ヲ圍テ立ツ。師巫先ツ生麻ヲ捻リ輪ヲ作ル、之ヲ「シアアラル」ト云フ。衆巫ト共ニ其輪ヲ執リ上下ニ動カシツツ少時ノ後一齣ノ呪ヲ誦シ之ヲ地上ニ置キ地ニ圓ヲ畫ス。師巫其圏内ニ在リテ兩手ヲ地ニ突キ兩足ヲ躍ラシテ圏外ニ出ツ。然ルトキハ師巫ト衆巫ハ再ヒ麻輪ヲ取上テ前ト同一ノ事ヲ行ヘハ弟巫モ亦前ト同樣ニ兩足ヲ躍ラシテ圏外ニ出ツ斯クスルコト三回ニシテ止ム。之ヲ「キャアラル」ト云フ。此時弟巫若過テ其麻輪ニ足ヲ引掛ルトキハ不吉ナリトシ更ニ一頭ノ豚ヲ屠リテ改メテ其式ヲ行ハサルヘカラサルモノトス。畢テ弟巫ハ粟倉ノ前ノ暗キ所ニ至リ被服ヲ著換ヘ盛裝ヲ爲シテ出テ一同ト會飲ス。式ニ用キタル衣ハ自然ノ腐朽ニ任ス

本社ニ於テ弟巫ガ巫ト爲リタル場合ニ師巫ニ與フル謝ハ、「カジパ」(四尺大ノ蕃布)一枚、刀、小刀、「カウカウ」(蕃鍋)各一、餅數箇、酒二甕トシ尚弟巫ハ爾後三年間己ガ他ヨリ得タル謝禮料ノ半ヲ割キテ師巫ニ與ヘサルヘカラスト云フ

（ろ）同蕃カザギザ社ニ於テ安原氏ノ調査セシ所下ノ如シ　當社ニ於テ一人前ノ巫ハ之ヲ「デネポア」、徒弟タル巫ハ「リニジャパヌ」ト云フ。弟巫ガ既ニ巫術ニ通シタル後ニ行フ成巫ノ式ハ之キサ・チネポアヌ・ア・パリシト云フ。其式下ノ如シ　師巫ハ豫メ候補タル巫ト協議シテ日ヲ定メ之ヲ同蕃社（當社及ツッツフ、タララ、バヤヤ及ラッタノ四社）內ノ巫ニ通知シテ其參集ヲ求ム。又弟巫ヨリハ其頭人、親族及朋友ニ通知シ當日ノ來會ヲ求ム　其日早朝弟巫方ノ頭人親戚及知友ハ弟巫ノ家ニ集マリ衆巫ハ師巫ノ家ニ集ル。此時頭人ハ弟巫ノ家ニ豚一頭、親戚知友ハ刀、鎌、粟、黍等ヲ送リテ其儀ヲ助ク此等ノ品ハ總稱シテ、「ラロプ」ト云フ

弟巫ノ家ニテ準備出來タルトキハ其家ノ一人師巫ノ家ニ赴キ之ヲ迎フ。師巫乃衆巫ヲ伴ヒテ弟巫ノ家ニ來ル。弟巫師巫ノ來ルヲ見ルヤ馳寄リテ其手ニ「スマグッ」（接吻ノ禮）ヲ行ハントスレハ師巫之ヲ拒ミテ逃レントス。弟巫之ヲ追ヒ衆巫及來客ハ師巫ヲ圍テ逸去セシメス。弟巫漸クニ師ノ手ヲ執テ「スマグッ」ヲ行フコトヲ得。再之ヲ行ハントスレハ師巫ハ又拒ミテ逃去ル。弟巫之ヲ追ヒ執テ其手ニ「スマグッ」ヲ行フ。畢テ師巫ハ庭ノ西邊ニ行キ東面シテ立チ其友巫ハ師ノ後ニ一團ヲ爲シテ立チ或ハ蹲マル。弟巫ハ庭ノ東邊ニ行キ西面シテ立チ師巫ト相對ス。弟巫ノ友巫等ハ其後ニ一團ヲ爲シテ立チ或ハ蹲マル。各人ノ位定マレハ師巫音頭ヲ取リ巫歌ヲ唱ヘ一同之ニ和ス。其時弟巫ノ後ニ在ル其友巫ハ長形ノ粟餅ヲ棒ノ兩端ニ結着シタルモノ（以テ擔ト爲ス）ヲ弟巫ニ渡セハ弟巫之ヲ取テ師ノ方ニ向テ進ミ師巫モ亦弟巫ノ方ニ向テ出テ來リ兩人庭ノ中央ニテ相會シ弟巫ヨリ右ノ粟餅ヲ師巫ニ渡シ然ル後師弟各其位ニ復ス。師巫ハ之ヲ其後ニ在ル自己ノ友巫ニ渡セハ友巫等ハ各之ヲ取テ己ノ背負袋ノ中ニ納ム。引續キ右ト同樣ノ方式ニテ弟巫ヨリ師巫ニ檳榔子ニ石灰及荖葉ヲ附シタルモノ一個ヲ、其次ニ粟餅一個ヲ、又其次ニ芭蕉實若干ヲ渡シ最後ニ二聯杯ニ酒ヲ滿テタルモノヲ

持行ケハ師巫兩手ニテ之ヲ受取リ上下ニ動カシツヽ盛ニ狂舞ス。此間衆巫等引續キ巫歌ヲ合唱シテ式ヲ畢ル。後一同晝食ヲ喫ス。弟巫ノ家ハ酒、餅等ヲ出シテ一同ヲ款待ス。晝食ノ後師巫弟巫ヲ引キテ大黑柱ノ所ニ至リ弟巫ハ東ニ向テ蹲リ師巫ハ其側ニ立チ兩手ニ紙ノ上ニ饌（アルー、ペキ及豚肉）ヲ載セタルヲ持シ之ヲ弟巫ノ頭上ニ置ク爲ネシテ、ハアト呼氣ヲ吹掛ク。尙一度同樣ノ事ヲ行フ。畢テ巫ハ室ノ中央ニ於テ刀、鉈、小刀、空瓶ヲ陳シ之ヲ靈ノ席（ニェナジャン・ナ・ツマシ」）ト稱ス。其席凡卽チテボガウ、アロアン、タカラウス、タリババウ、バラロコム、カジルタ、モアカイ、サリアッ、サラバン、及タリマラウノ靈ノ位トス。其兩側ニ續テ圍ク親戚、朋友等ヨリ贈ラレタル諸種ノ品物ヲ陳シテ饌獸ヲ具シ其中央ニ上記ノ祖ヲ置キ祝シテ曰ク『パトコラガ　パシマラウアガ　バマテロアガ　スマカボラナガ　キハリシリシアガ　トアテサガス　シモタアラン（譯ニ曰ク饌セタリ、知ラセタリ、供饌ヲ濟マセタリ、右ニ「カボラン」ヲ置キタリ第一ノ祭ヲ濟マセタリ云々）

以上ノ式畢レハ師巫ハ弟巫ノ頭上ニ於テ右手ヲ以テ生麻ヲ振リツヽ數句ノ呪ヲ誦ンタル後弟巫ハ東ニ面シ大黑柱ニ對シテ蹲リ兩手ニ生麻ヲ持シ上下ニ動カシツヽ巫歌ヲ唱フ。畢テ大黑柱ノ背ニシ西面スレハ師巫ハ前記ト同一ノ呪ヲ誦ス。弟巫ハ麻ヲ棄テ右手ニ榕樹ノ小枝ヲ持シテ膝ノ上ニ立テ巫呪ヲ誦ス。此時師巫ハ其右側ニ在リ他ノ巫友ハ後ニ列シ來會者ハ周圍ニ立ツ。然ルトキハ神靈其肩ニ憑依スルヲ以テ其手ハ自然ニ顫ヒ樹枝ヲビリビリト動クト云フ　畢テ弟巫ハ稍西方ニ向ヒ師巫其右側ニ立チ東面シテ生麻ヲ右手ニ取リ其末端ニテ弟巫ノ頭ヲ撫シナカラ唱ヘテ曰ク『キバイバイカアガ　バッアッアリアガ（眞似ノ出來ル樣ニ爲リタリ）　キバリシリシアガ（祈禱ノ出來ル樣ニ爲リタリ）　キシカナヤアガ（好ク爲リタリ）　キシブラミア（穀類ノ祈禱ノ出來ル樣ニ爲リタリ）ガ　キイソアガ・バオ（粟）　イゾァガ・ロマイ（在）（稗）　バサ（芋）　バオ（粟）　ポーク（樹豆）　アリジャン（大角豆）　ランガ　スウタウ（落花生）　ラシヤク　ボアス（瓢）・コバ（小豆）　ピロゴ　ラムラム（薑）　ブラシ（番薯）　サイコツイ（菜瓜）　畢テ師巫ヲ中央ニシ弟巫

其友巫ト共ニ之ヲ圍テ一同巫歌ヲ合唱ス。特ニ此歌ヲ終ランスルヤ師巫ハ稍狂ヘル態度トナリ身ヲ左右ニ動カシ始メ。歌ノ全ク終ルヤ師ハ靈ニ對シテ巫術用ノ「セコノ」(小刀)ヲ授ケラルヘク靈ニ求ム。其語ニ曰ク『キランシニバイバアス テロアカ キシラヤバアカ キシタカバカ キバシラシラアカ スバリタマ』ト唱ヘツツ兩手ニ麻ヲ打顫ヒツツ前後左右ニ狂ヒ跳ル。是蓋シ靈ノ來憑セシニ因ルナラン。唱ヘ畢ルヤ何所トモナク件ノ「セコノ」降リ來ル。師之ヲ氣付カサルガ如ク尚跳躍シ歌ヒツツ「ザコ」ノ實ヲ與ヘラルヘク靈ニ求ム(歌略ス)。然ルトキハ何所ヨリトナク「ザコ」二箇降來ス。師巫尚氣付カサルガ如ク更ニ歌ヒテ「ムイ」(巫術用ノ白石)ヲ授ケラレンコトヲ求ム。然ルトキハ又何所ヨリトナク「ムイ」降來ル。斯クテ此式ハ畢リ弟巫ハ其降來セル「セコノ」「ザコ」及「ムイ」ヲ得テ以テ後日所用ノ具トス、蓋シ此等ノ品ハ師巫ノ豫メ用意セル所ナレトモ人ガ與ヘタリトシテハ有リ難カラサルヲ以テ其跳躍スル間ニ人知レス之ヲ拋上ケ天ヨリ降來セルモノト信セシメ以テ之ヲ神聖ニスルナリ。本日ノ式ニ用キタル豚ハ悉ク鹽煮トシ之ヲ來客ニ饗ス。又前記「エ・ナランナツマシ」ニ用キタル刀、鎗、小刀等ハ之ヲ師巫ニ與ヘテ其所得ト爲シ其他ノ贈物ハ友巫ニ分配ス

(は)同番カザザラ社 ニ於テ小林氏ノ調査シタル所下ノ如シ 當社ニハ巫二十六名アリ。其内一名ヲ巫頭トシ其祠祭祀ノ時其番祝ト爲ル 當社ニ於テ新ニ巫ト爲ル者ハ成巫ノ式ヲ行フ。其法「ラタ」ト稱スル甕五個ニ酒ヲ醸シ酒出來レハ小豚一頭ヲ屠リ全社ノ巫ヲ招集シ自家ノ奥室大黑柱ノ下ニ於テ師巫ヲ中心ニ圓陣ヲ作テ坐シ師巫ハ桑葉數枚ヲ置キ之ニ一々饌肉、饌骨及豚肉ヲ乘セ先ツ窓ニ向テ二片、次ニ大黑柱ニ向テ二片ヲ置キ次ニ二片ヲ持シ室外ニ出テ入口ノ屋上ニ置キ再家ニ入リ候補タル弟巫ノ頭上ニ一片ヲ載セ『汝ハ今ヨリ巫ト爲リタリ。人ノ爲ニ祈リテ能ク其病ヲ治ス

ルコトヲ得ヘシ。其時ニハ粟、芋、藁鍋、鎌其他ノ品ヲ澤山持來スヘシ(上達シテ謝禮ナ多ク受ケヨノ意)ト言ヒ渡シ殘ノ藁
ハ之ヲ大黑柱ノ上ニ掛ケ置ク。右畢テ一同宴ヲ開ク宴半ニシテ新巫、師巫及其他ノ衆巫ハ立テ圓形
ニ列シ各兩手ニ生麻ヲ小許持シソレヲ振リ乍ラ上ケ下ケシ一歩ハ後ニ、一歩ハ前ニ漸次左方ニ歩
ミツツ左ノ呪ヲ唱ヘテ式ヲ畢フ

『ブチヨボチヨボリ(地名) アイサナイビバヌ(地名。當社附近ニ在ル舊社ノ趾) アダウ(太陽) バウリメ イヤバツバウリ
ド チグラ テババオ ダダオラン バツクラウ(舊家ノ名) キマヤキナリビリ トカマド(社附近ノ水源)
トコトコ(神名) ラロモガメ カサギザ(靈界ノ地名) タパリシ テモカイ パパサパラカラカライ(遠クヘ行ク)
マサテツウラガイ アヤオスムクリン タウタウタル イニカルラズン チーツグラン
イババオ(上) クマキリン タガパイワ(社名) ルマバリユ モレバササバ(五年祭終ル) バタランナ
ガオ(道路)イババオ(上) プラリヤン プララカ マロアメ(番輕) マロアリマバラン(番語ニ乘リ) イカ
パダイナイ(社名) リムクリギキタリタリ(地名) パタカウナアラガ(起リ) イマニギアル アリラア
(社名プンテイ社ノコト) チヤジヤカブス(社名) タリマラウ ウサルブブ ブラオン(黄銅) ソルサブスン ト
マイタイ(榕樹) タロビキナ(花)タタイガヌ(池ノ名) セレバン ラブクルブルパン バキアナタイ
(祭祀終ル) パキスラマリ パキヌルヌギニ

右ハ太古ノ事蹟ヲ述ヘタルモノナルガ其意ハ巫ト雖モ審ナラスト云フ

(に)同番**カヒヤカ社**ニ於テ巫ト爲ルニハ式前五日間毎夜師巫ノ家ニ赴キ巫語ヲ練習シ式日ノ心得ヲ學フ。當日全社ノ衆巫悉ク候補タル弟巫ノ家ニ參ル。師巫弟巫ヲ引キ内室大黑柱ノ下ニ於テ其頭飾ヲ脫シ髮ハ解キテ後ニ垂レシム。又被服ヲ脱シテ裸體ト爲ス。但シ現時褌ノミヲ止メ或ハ破衣

ヲ穿タシム。而シテ柱下ニ蹲リ或ハ低キ腰掛ニ坐ス。師巫乃狙上ニ巫術ノ用具ヲ置キ之ヲ持シテ弟巫ノ頭上ニ廻ハス。之ヲ「パキラカヌ」ト云フ。次ニ榕樹ノ葉一枚ヲ取リ之ヲ兩片ニ裂キ一片ヲ弟巫ノ頭ニ、一片ヲ己レノ頭ニ挿ス。之ヲ「クマストムデク」ト云フ。次ニ相思樹片ヲ取リ兩分シ一片ヲ弟巫ノ身ニ投シ一片ヲ己レノ身ニ投ス。之ヲ「マラロバル」ト云フ。然ル後師巫麻繩ヲ以テ地上ニ圈ヲ劃シ弟巫ヲ引キテ圈内ニ入ラシメ而シテ榕樹ノ枝ヲ以テ其臂ヲ打ツ。然ルトキハ弟巫ハ兎ノ如クピョンピョント其圈内ニ跳入リ又跳出ツ。コレニテ漸ク神ノ妻即一人前ノ女巫ト爲リタルナリ。ソレヨリ被服ヲ着シテ外ニ出テ衆巫ニ交リテ呪ヲ誦シツツ生麻ヲ繰ル

(ほ)北はいわ番チャジャカプス社ニ於テ成巫ノ式ニハ五日ヲ要ス。安原氏ノ調査シタル所左ノ如シ

第一日ノ未明ニ師巫ハ候補タル弟巫ノ家ニ至ル。弟巫之ヲ迎ヘ豚（兒豚ヲ用フ）一頭ヲ屠リ從來學ヒ得タリシ巫呪ヲ數回諳誦シ正午ニ至リテ止ミ師巫ハ歸去ル。其屠リタル肉ハ悉ク師巫ニ與フ。此日及次ノ日弟巫ハ終日家ニ在リテ出テス　ぱいわ派ニ於テハ初日ニ兒豚三頭ヲ屠ル。此日弟巫ノ親戚ハ鎌（近親ハ新シキモノ遠親ハ古キモノ）又ハ酒ヲ送リ來ル。悉ク師巫ニ與ヘテ謝ト爲ス（當社ノ巫ニハぱいわ派トちも派トアリ）第三日未明、師巫再來ル。弟巫之ヲ迎ヘ兒豚三頭ヲ屠ル。此肉ハ笊ニ入置キ夜ニ至リ師巫ノ家ニ送ル。師徒相携ヘテウジャジャ（社ノ東東北約十町程ノ所）ニ至リ狙上ニ豚ノ頭脂肉少許及「チナブ」（乾芋ト豚肉ヲ搗合セテ之ヲ包ミテ蒸シタルモノ）ヲ陳シ之ニ粟酒小許ヲ灌ク。然ル後鬼茅ヲ積ミ上ケ之ニ火ヲ點シ其ノ燃上ルヤ師巫ハ火ノ前ニ立チ弟巫ハ双手ニテ狙饌ヲ持シ師ノ左方ニ立チ圓形ヲ劃クガ如クニ之ヲ左方ヨリ右方ニ廻ハシツツ師ノ音頭ニ従ヒテ全部巫呪ヲ諳誦ス。之ヲ「イサヌ・ブリカオ」（巫ト爲ル）ノ式ト爲ス。了テ相共ニ家ニ歸來シ晝食ヲ喫ス。此時全社ノ巫及弟巫ノ親族皆來集ス。粟酒一甕ヲ出シテ之ヲ饗ス。酒將ニ盡キントスル頃師徒共ニ立チ

衆客ノ面前ニテ悉ク巫呪ヲ誦シ終テ一同解散ス　此日弟巫ハ師巫ニ粟ノ小把三箇ヲ贈テ謝ト爲ス。尚本日屠リタル豚ノ肉ハ師ノ所得トシ夜ニ至リ之ヲ其家ニ送ル　弟巫ノ師ニ對スル謝儀ハ少額ナリト雖其代リニ爾後三年間弟巫ガ祈禱ヲ行ヒテ受ケタル謝儀ノ半ハ之ヲ師ニ贈ラサルヘカラサルモノトス

第四日弟巫終日家ニ在リ。夜ニ至リ師巫來訪ス酒ヲ出シテ之ヲ饗ス

第五日早朝弟巫ハ前庭ニ出テ桑ノ葉ヲ細切シ（以テ「ピヤク」ト爲ス）之ニ「カルブ」少量ヲ載セ祝シテ曰ク「我既ニ巫ト爲リタリ。畑ヘ行クモ道ヲ行クモ如何ナル災ヲモ受クルコトナシ」ト　ちもち派ノ巫ニ在リテハソレヨリ番祝ノ家ニ至ル。番祝豫メ巫ノ用具（小刀一、饌脂若干、もくろじノ實三箇及「アネポチ」巫ノ用具入）ヲ用意シ之ニ與フ。即此ちもち派ニ於テハ巫ノ用具ハ成業ノ際祝ヨリ與フヘキモノトス。此用具一式ハ大切ニ保持スヘク若其一ヲ紛失スルコトアラハ其巫夭死スヘシト信セラル。而シテ巫死亡シタルトキハもくろじノ實ハ其屍ト共ニ埋メ他ノ品ハ屋内ノ何レカニ吊置キ自然ノ朽壞ニ任ス　又ばいわん派ニ在リテハ巫ノ用具ハ祝ヨリ與ヘラルルニ非ス。もくろじノ實ハ直接神靈ヨリ受ケ（知ラヌ間ニ前庭畑等ニ落在リ之ヲ拾フト云フ）其他ハ夫タル人ヨリ買與セラルルモノトス

（へ）**こぼじ番內文社**　ニ於テ余ガ親シク二三ノ老巫ニ就キ聞キ得タル所ハ下ノ如シ　式前一日其社及附近各社ノ巫一同候補タル弟巫ノ家ニ集ル。此時其家ノ男子ハ悉ク外出ス　師巫先ツ弟巫ニ對シテ「ルマスジ」（物ノ亂ヲ整フノ義）ノ式ヲ行フ。即弟巫ノ身體ヲ檢シ且不淨ノ穢祓ヲ爲スナリ。先ツ紐ヲ輪ニシ其兩端ヲ相結ヒ之ニ豚骨一本ヲ括リ助手タル巫之ヲ持シテ弟巫ノ頭ニ箝メ次第ニ降シテ背ヨリ臂、臂ヨリ脚ニ至リ最後ニ足ヨリ脱シ再之ヲ其頭上ニ持來シテ同樣ノ事ヲ行フ。斯クスルコト三

回。後師巫來リ被服ヲ脱シテ裸體ト爲シ髻ヲ解キテ髮ヲ頭後ニ垂レシメ又兩手ヲ前ニ出シテ指端ヲ揃ヘシメ之ニ對シテ祈禱ヲ行フ。了リテ着衣セシム。但シ此時ハ襤褸ノ古衣ヲ纏ハシム。是此次ノ式ヲ行ヒタル後ニハ其衣ヲ棄ツヘキニ因ル　次ニ與室ノ中央ニ左右ニ笊三箇ツツ積ミ中ニ乾芋數升ヲ入レ之ニ竹ヲ架スルコト⊖═⊖圖ノ如クス。弟巫乃チ長髮ヲ被リタル儘匍匐シテ右ノ笊ヲ左側ヨリ右ニ周リテ後左方ノ笊ヲ右側ヨリ左ニ周ル。斯クスルコト三回ニシテ止ム。是卽巫祖チュクガ誕生ノ時ニ爲シタル所ニ倣フナリ（第一ノ四參照）斯クシテ弟巫ハ始テ巫ト爲ルナリ。　コレヨリ弟巫ハ走テ室ノ暗所ニ入リ惡衣ヲ脱シ新衣ニ着換フ　終テ巫社ノ巫一同圓陣ヲ作リ各兩手ニ生麻ヲ持シ呪ヲ誦シツツ數周シテ畢ル新巫モ亦此中ニ混ス

（と）ぱりじゅお香牡丹踏社　ニ於テ安原氏ガ調査シタル所ハ下ノ如シ　師巫頭人ニ謀リテ式日ヲ定メ之ヲ候補タル弟巫ノ親族及巫社ノ巫ニ通知ス。弟巫ノ家ニ於テハ豫メ式日ニ要スル酒食其他ノ準備ヲ爲シ又其家ノ附近ニ粗糙ナル假小屋ヲ設ク　式ノ前一日夕刻ニ至リ師巫其弟巫ヲ伴ヒテ其小屋ニ入リ相對シテ蹲踞シ祈禱ノ歌ヲ合唱シツツ夜ヲ徹ス　翌朝未明ニ師巫ハ弟巫ヲ其所ニ殘シ己一人式場（弟巫ノ家）ニ至リ既ニ一衆ノ參集セルヲ見テ再ヒ其小屋ニ戻リ來リ弟巫ヲ負ヒテ至リ之ヲ內房ノ一隅ニ置キ頭上ヨリ蓆ヲ被セ他人ニ見エサル樣ニ爲ス。暫クシテ師巫ハ助巫ト共ニ弟巫ヲ引キテ房ノ中央ニ出テ先ツ籐條ヲ以テ大小ノ輪ヲ作リ◎圖ノ如ク地上ニ一箇ノ環狀ヲ劃シ三人此環內ニ入ル而シテ弟巫ノ頭ニハ約三四尺ノ白木綿ヲ卷キ肱ト膝トヲ地ニ附シテ匍匐シソツ環內ヲ周行ス。此時助巫ハ其前ニ立チ先導シ師巫ハ葉ノ附キタルママノ榕枝ヲ持シ後ヨリ之ヲ追立ツ。弟巫ガ其環ヲ一周スル毎ニ師巫其枝ヲ以テ其臀ヲ打ツ。其都度弟巫ハ跳テ線外ニ出テ又跳テ

環內ニ入ル。斯クスルコト三回ニシテ止ム。此時來會者ハ既ニ前室ニ於テ酒ヲ飲ムアリ肉ヲ食スルアリ。式終ルヤ酒宴漸ク盛ニ果テハ歌ヲ謠ヒ又ハ相携ヘテ踊リ黃昏ニ至リテ散ス。此日弟巫ヨリ師巫ニ對シ黒繡(番語「キメサワン」)トシテ廢刀三四十本(其價十本ニ付約一圓)廢斧十挺(廢刀二本ヲ以テ廢斧一挺ニ算ス)「ラヌ」ニ(瑪瑙製ノ管玉價約三四圓)粟餅(月桃草ノ葉ニテ包ム形長圓)五十箇酒一瓢及豚肉一塊ヲ與ヘ全社ノ巫ニ對シテハ各酒及肉ノ少量ツヽヲ與フ。而シテ此新巫ニ對シテハ頭人及番祝ヨリ各酒一瓢ト廢斧一挺ノ與ヘ尚別ニ頭人ヨリハ鷹ノ羽一本ヲ與ヘ又弟巫ノ親族及知人ヨリハ同日酒一瓢、廢刀一本及粟餅五包乃至十包ヲ贈來シテ賀ヲ爲スヲ例トス

(ち)同番高士佛社 ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ノ如シ　師巫其候補タル弟巫及其家人ト協議シ日ヲ定メテ之ヲ全社ノ番祝及巫ニ通知シ式ノ前夜弟巫ノ家ニ於テハ豚一頭ヲ屠ル　其日早朝師弟兩巫ハ頭人、番祝及他ノ衆巫ト共ニ舊社址ニ赴キ其祭屋內ニ於テ師巫ハ南方ニ向ヒ弟巫之ニ次キ頭人、番祝及衆巫ハ之ヲ圍テ坐ス。師巫ハ先ツ前夜屠リタル豚ト共ニ饌ヲ供シ巫神ヲ呼ヒ祝シテ『我等ノ祖靈ヨ。我教子某今日新ニ巫ト無レリ。願ハクハ能ク我ヨリ授ケタル祈禱ノ諸法ヲ受繼ヘ社民ヨリ賞讃セラルル樣ニ爲セ』ト曰フ。ソレヨリ衆巫ハ師巫及新巫ヲ中央ニシテ之ヲ廻リツツ巫歌ヲ唱フ。畢テ一同酒食ス。此時新巫ハ師巫ニ對シ謝禮トシテ約二三十圓ノ物品又ハ番貨ヲ贈ル

第三　巫ノ方術、用具及所得

(一)巫術 巫ノ修スル方術ハ約シテ左ノ三種トス

(い)瓢卜 「キワダク・トソ・ツマシ」(靈ニ問フノ義)トハ瓢(番語「ジヨイ」)ニ木欒樹ノ實(番語「ザコ」)ヲ載セ其留落ニ依リテ神靈ノ意思ヲトスルナリ。茲ニ譯シテ瓢卜ト爲ス　卽或事ニ就キ然否疑ハシキトキハ神靈ノ名ヲ呼

ヒ其事ヲ語リ之ヲ質スノ意ヲ陳シ瓢ヲ横ニシ（巫祇キ腰掛ニ坐シ其ノ膝頭ニ瓢ヲ挾ム者モアリ）其上ニ少シク豚脂ヲ塗リテ滑カニシ之ニ右ノ樹子一箇ヲ載セ兩手ノ拇指ノ先端ニテ支ヘ他ノ三指ハ瓢側ニ附シ靜ニ樹子ヲ廻ハシタル後少シク之ヲ上ニ擧ケテ落ス。其時其樹子ガ瓢ノ上ニ留ラハ靈ガ然リ又ハ好シト答ヘタルモノナレトモ若シ落ツレハ靈ガ否又ハ不可ト答ヘタルモノナリ　例ヘハぱりじゃお、こぼじ兩番ノ五年祭ニ於テ男覡ハ槍ヲ杖ニシテ立テ北ニ向ヒテ「イヤコー」ノ歌ヲ歌ヒテ祖靈ヲ呼ヒタル時ニハ女覡タル巫ハ必ス右ノ法ニ依リテ祖靈ガ果シテ來格シタルヤ否ヤヲ質ス。此時樹子瓢ヨリ滑落セルトキハ靈未タ來ラストシ男覡ハ再大聲祖靈ヲ呼ヒ女覡ハ再前法ヲ行フ。若シ樹子ガ尙瓢ニ留止セサルトキハ其終ニ留着スルマテ祖靈ヲ呼ヒツツ幾回モ同一ノ法ヲ反覆ス　疾病等ノ場合ニモ亦此法ニ依リテ其原因及治療ノ法ヲ問質ス。方法コソ異ナレたいやる族ノ「ツラヤン」ト同一ノ趣旨ナリ。例ヘハ茲ニ病者アリテ其加持ヲ巫ニ依賴スルトキハ巫先此病氣ノ原因ガ果シテ何ニアルカヲ靈ニ質ス。曰ク某ハ曾テ禁忌タル某所ニ於テ木ヲ伐リタルコトアリ。此ニ因リテ靈ノ怒ニ觸レタルニ非スヤト。之ヲ瓢ニトス。此時樹子瓢上ニ留ラハ病ノ原因ヲ其ニ在リト決スルモ若シ留ラサルトキハ更ニ「某ハ禁忌タル某所ニ於テ漁獵ヲ爲シタルニ因テ神譴ヲ得タルニ非スヤ」トテ再瓢ニトス。若樹子留ラサルトキハ更ニ他ノ原因ヲ擧ケテ之ヲ質ス。故ニ巫ハ加持ノ依賴ヲ受ケタルトキハ其者ヨリ充分ニ發病前ノ事情ヲ聞取リ何レガ靈ノ譴怒ヲ得タル原因ナルカヲ確ムルヲ常トス。斯クテ其原因ガ果シテ木ヲ伐リタルニ在ルトキハ其場所ニ赴キ贖罪ノ祭ヲ行ハサルヘカラス。若其原因ガ或ル禁忌ヲ犯シタルニ在ルトキハ亦其犯罪ニ對スル祭ヲ行ハサルヘカラサルナリ

（ろ）降靈　本族ニ於テハ巫生麻ヲ手繰リツツ（るかい番ノ巫ハ麻ヲ持セス）一種ノ呪文ヲ唱フルトキハ精神忽恍惚ト

爲リ神靈ニ接觸シ其啓示ヲ受クルコトヲ得ヘシト爲ス。蓋シ一種ノ自己催眠ナルヘシ。巫ハ既ニ述ヘタルガ如ク靈ノ妻ト稱セラレ其催眠中ニ語ル所ハ悉クサジュムジ、サジヤニ其他祖靈ノ言フ所ナリトシ之ヲ信スルガ故ニ凶作、不獵、疾病其他災害ノ打續キタルトキハ巫ニ依リ之ヲ祖靈ニ質シ其災害ヲ解除スル方法ヲ講スルヲ常トス。番社內ニハ巫言ニ原因シテ屢不測ノ爭擾ヲ惹起スルコト少カラス。故ニ各駐在所ニ於テ重ナル巫ハ常ニ其注意人物ナリトス

巫ガ目ヲ閉シ靜ニ巫呪ヲ誦シ始ムルヤ靈來リ雨肩ニ憑リ耳元ニ口ヲ寄セ巫ノ祈願スル事件ニ關シテ告クル所アリ。此際巫ハ身體自然ニ顫ヘ汗流ルト云フ。又此際巫ハ一心ニ爲リテ少モ外界ノ事ニハ氣付カス。故ニ巫ノ祈願中非常ノ事發生シタルトキハ其傍ニ在ル人ヨリ手ヲ以テ巫ノ身體ヲ搖スニ非サレハ目覺メスト云フ

（附記）左ニ余ガ前年內文社ニ於テ巫術ニ付親シク見聞セシ一例ヲ揭ク　同社カザヤザ家ニシンギョルト云フ少年アリ。父ハ其兒ノ幼年ノ時敵番ニ殺サレタルヲ以テ兒ハ母ノ手一ツニ撫育セラレタリ。此者約十九歲ニ爲リタル頃同社駐在所ニ附設セル番童敎習所ニ小使トシテ雇ハレタリシニ或日忽然狂ヒ出シ鬼語ヲ弄シ喧騷スルコト甚シケレハ終ニ職ヲ止メテ家ニ靜養セリ。駐在警官其母ニ諭シ之ヲ山脚ノ枋山ニ降シ土人公醫ノ治療ヲ受ケシメタリ。然ルニ費用續カス快癒ニ及ハスシテ歸來セリ。ソレヨリ病氣次第ニ重リケレハ其母ハナジーン社ノ老巫チノアイ・バカキジンヲ招キ之ニ祈禱ヲ依賴セリ。チノアイハすかこハ（蕃東方面）ノ巫術ヲ傳承シ其名四隣ノ番社ニ聞エ各人ノ尊敬スル所タリ。チノアイ來リシンギョルヲ診シ暫ク目ヲ閉シテ深思ニ沈ミシンガ暫クシテ覺メ來リテ其病源ヲ指摘シ。曰クシンギョルハチ・ラドラドク（刺桐脚溪ノ支流ニ在リ邦人ハ觀音岩ト稱

(スル所ナリ)ニ於テ魚ヲ捕ヘタリ。此所ハ昔ヨリ祖靈ノ宿スル所トシテ其捕魚ヲ禁シタルモノナルニシンギョル其禁ヲ犯シタルヲ以テ祖靈怒リシンギョルノ靈ヲ捕ヘ之ヲ幽閉シテ歸ラシメス。彼ハ今其魂ノ一部ヲ失ヒタルガ故ニ苦惱ス。是其病ノ生スル一ナリ。又シンギョルハ此川ニ於テ水ヲ堰キ魚ヲ捕ヘテ之ヲ食シタリ。惡靈魚ニ化シテ彼ノ腹中ニ入リテ石ト爲リタリ。是其病ノ二ナリ。又シンギョルハ曾テチャラバサジ(加芝來社ノ土名)ノ或所ニ生シタル果實ヲ採テ食シタリ。其土地ハ同社頭人ノ祖靈ト當社頭人ノ祖靈トノ間ニ土地ノ境界ニ付キ紛議ヲ生シ未タ解決セサル所ナリ。然ルニシンギョルハ此地ノ作物ヲ採リタルガ故ニチャラバサジ社頭人ノ祖靈怒リテ祟ヲ爲ス。是其三ナリ。又シンギョルノ父ハ曾テ敵番ノ爲ニ馘首セラレタリ。祖先以來ノ慣習トシテ馘首セラレタル者ノ屍體ハ之ヲ其家内ニ運ヒ入ルルコトヲ得ス、然ルニ彼ノ親族ハ其首級ナキ屍體ヲ家ニ入レテ墓ニ埋メタリ。故ニ甚シク社神ノ怒リニ觸ル。是其病ノ起ル四ナリ。此ノ如クシンギョルハ諸種ノ禁忌ヲ犯シテ祖神ノ怒ニ觸レタル者ナルガ故ニ豚ヲ屠リテ其罪ヲ贖ハハ或ハ回復スルコトヲ得ヘケン云々』ト。此ニ於テ母ハ豚ヲ購ヒ之ヲ屠リテ其巫ニ祈禱ヲ乞ヘリト云フ

同所駐在ノ大場警部ハ右ノ巫ニ付キ語リテ曰ク始メテ當社ニ駐在所ヲ設ケタル年ナリキ。番人中「日本人ガ社内ニ來住シ米ヲ食スルガ故ニ粟ノ收穫好カラス且ツ社ノ井ニ水少ナク爲レリ」ト讒言スル者アリシニ因リ捕ヘテ之ヲ詮議シタルニ其源ハ右ノ巫チノアイニ在リタリ。乃同人ヲ捕ヘイタク之ヲ詰責シ大豚一頭ヲ罰シタリ。此ヨリ同巫ハ再内地人ニ付テ不經ノ語ヲ弄セサル樣ニ爲リタリ云々

(は)祈禱　巫ノ祈禱、禳祓其種類甚多シ。其主ナルモノヲ擧クレハ農作ノ豐收、狩獵ノ多獲、生兒ノ健康、

其三 祈禱

（はりじつお花牡丹路社巫某）





其四 占卜





家族ノ繁榮、病氣ノ平癒、家畜ノ繁殖、家具ノ適利、住屋ノ堅固等一人、一家ノ平和及幸福ニ關スルモノヲ多シトス。此等ノ方法ハ後款祭祀ノ方法ノ內ニ說述スヘキヲ以テ玆ニ之ヲ略ス

(二)用品　巫ノ常ニ所持スル用品左ノ如シ

(い)瓢、樹子及「ムニ」ト稱スル小石　瓢及樹子ハ既ニ前(一)ノ(い)ニ述ヘタル所ノ如シ。樹子ノ數ハ定ラス(多キモノハ二三十粒ヲ所持ス　「ムニ」ハ長潤各八分厚三分程ノ白キ圓形ノ石ナリ

(ろ)祭饌及祭器　祭饌トシテ「カルブ」(饌脂ト譯ス。豚ノ白脂ヲ乾固メタルモノ)「ツコラジ」(饌骨ト譯ス。豚ノ骨ニシテ脊及前肢ノ所ナ用ヰル)珠仔(古代ニ於ケル番人間ノ貨幣)トシ此脂及骨ヲ切リ又ハ削ル爲ニ小刀(番語「セコノ」)ヲ具ス

(は)容器　「カネポチ」(携帶用籠)「シカオ」(背負籠)及「ジャバツ」(胸掛袋)アリ。「カネポチ」ニハ占卜用ノ樹子及小刀ヲ容レ「シカオ」及「ジャバツ」ニハ其他ノ祭器ヲ容ル。其等ノ構造ハ圖ニ示ス所ノ如シ

(三)所得　巫ハ五年祭粟祭等ノ場合ニ其受持チタル民戶ヲ巡リ祈禱ヲ行ヒ又ハ臨時生死、疾病其他ノ祈禱ニ招カレ其等ヨリ報酬ヲ受ク。其報酬ハ祈禱ノ種類ニ依リテ同シカラス。又同一ノ祈禱ニテモ番社ニ依リテ同シカラス

左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ揭ク

(い)ぶつる番カサギサヌ社　ニ於テハ巫ノ報酬下ノ如シ　出生後ノ祈禱ニハ粟團子(徑約一寸)ヲ「カジ・バル」(盞)ニ一杯　男子七八歲前髮ヲ切ルトキノ祈禱ニハ豚ノ右前足一本、「ラビル」(木葉)ニ包ミテ煮タル肉餅十本、長サ七八寸位ノ細長キ餅五本及粟一束　病氣ノ祈禱ニハ番薯及芋各一籠(約三斤)及粟一大把トシ若シ重病ノ場合ニハ番刀及鎌各一本トシ死亡後ノ祈禱ニ刀、鎌、小壺各一個、小刀八個、麻一小把豚肉一小片、粟餅十個トス

(ろ)北はいわ番チジャカプス社ニ於テ病氣ノ祈禱ハ通常病者ガ著用シタル被服ト粟三小把トシ病重ク爲ニ特ニ豚ヲ屠リタルトキハ右ノ外ニ豚ノ前肢一本。豚ノ頭及「チナブ」十二箇(乾芋及豚肉トヲ搗キ混セテ蒸シタルモノ大二個小十個)ヲ要ス　又「パリシトサジャプ」(男子初テ刀ヲ佩フル時ノ祈禱)ノ謝ハ「チナブ」十二箇、廢刀一個、粟三小把トシ　死者ニ對スル祈禱ニハ古鎌五箇及粟五大把ナリトス

(は)ぱりじぃお番サプデク群社ニ於テ毎年秋末ニ其受持テル各戸ヨリ粟十把(此中ニ一把タケ大把ト爲ス)芋一荒及酒一瓢ヲ與フ。之ヲ「イナツマサヌ」ト云フ

(に)同番高士佛社ニ於テハ出生ノ祈禱ハ鹽豚ノ肉長五六寸巾二三寸厚一寸位ノモノ一片、酒(米又ハ粟)一「カボア」(鉢)「スマノブルブルン」ノ祈禱ニハ鹽豚ノ肉七八片(大小ヲ問ハス約二斤位ナリト)、酒一「カボア」、「カリパ」一枚)廢刀五乃至二十本、粟餅「チナボ」ノ長サ五六寸ノモノ二十箇トシ　病氣ノ時ハ約五十錢ノ貨幣又ハ「カリパ」一枚。病重キトキハ約一圓トス　其他ノ祭祀祈禱ニ對シテハ粟收穫後祭ノ時ニ各戸ヨリ「チナボ」五六箇ヲ受クルノミ

第四　巫老

(一)總說　少數ノ番社ニ於テ一祭團內ニ多數ノ巫女在ルトキハ其中ニテ衆巫ニ尊敬セラルル者ヲ擧ケテ首長トス。之ヲぱりじぃお番ニ於テプリカオ・ブルブルン」(巫老)ぶつる番下パイワヌニ於テ「ミンスク」、カザギザマ社ニテハ「カライカマ」(總領ノ義)ト云フ。茲ニ之ヲ巫老ト爲ス

(二)選任　世系ニ依リ或家ノ女ハ代々其祭團ノ巫老ト爲ルアリ。(こぼじ番內文社。ぱりじぃお番高士佛、牡丹社等ノ如シ)或ハ其世系中ニテ祭事ニ熟達セル者ヲ擧ケテ之ニ爲スコトアリ。或ハ頭人老番協議シテ其候補數人ヲ擧ケ瓢トニ依テ之ヲ定ムルコトアリ。又別ニ瓢トヲ用ヒス社內ニテ最年長ヲ擧クルコトアリ(ぶつる番カザナラ社及北はい

わ番、コリバル群社ノ如シ)老巫ト爲ルニ一定ノ儀式ヲ行フ所アリ。安原氏ガぶつる番カザキザマ社ニ於テ調査シタル所左ノ如シ 此式ヲ「キサメ・カライガズ・ア・バリシ」(巫老ト爲ル祭祀)ト云フ 最初ニ司式者タルヘキ者ヲ選フ。弟巫ガ巫ト爲ルニハ師巫アリテ其式ヲ司ルト雖モ既ニ巫タル者ガ巫老ト爲ルトキニハ其師タル者アラサルガ故ニ(若シ師タル者在世スルトキハ弟巫ハ之ニ先テ巫老ト爲ルコトヲ得ス)一社ノ巫女中最其術ニ長シ且人ニ信用セラルル者ヲ擧テ之ニ當ラシム 其日早朝司式者ハ群社内ノ巫ヲ伴ヒテ候補ノ家ニ至ル。候補ノ家ニハ既ニ其親戚知友ノ集マレルアリ。候補其司祭者ノ來ルヲ見ルャ其手ヲ執リ「スマグツ」ヲ行ヒ後一同ニテ巫歌ヲ合唱シ畢テ候補ヨリ司式者ニ粟餅、背負袋、檳榔子等ノ捧物ヲ爲スコト成巫ノ式ノ如シ。但シ其捧物ハ先ッ初ニ粟餅ヲ一箇ツツ五回、次ニ粟二把ヲ一回、次ニ團子ヲ笊ニ一杯トス、其他ハ成巫式ノ如クニ檳榔子、粟餅、芭蕉實。最後ニ二人杯ニ酒ヲ充テタルヲ獻スルナリ 晝食後成巫式ト同樣ニ大黑柱ノ下ニ於テ司式者候補ノ爲ニ饌ヲ持シ氣ヲ吹掛ケソレヨリ直ニ「キャラル」ノ式ヲ行フ。卽チ「ピアロ」ニ(木槿、其皮ハ揉テ麻ノ如ク繩トスヘシ)ニテ徑五六尺ノ環ヲ作リ司式者其友巫ト共ニ之ヲ持シ候補其環ノ中央ニ入リ東面シテ蹲マレハ司式者ノ音頭ニツレテ巫歌ヲ唱ヘツツ其環ヲ上下ニ動カスコト五回、然ル後速ニ其環ヲ左方ニ取除ケハ候補東ニ向ヒ蹲リタル儘跳出テ又直ニ元ノ位置ニ跳返ル。ソレヨリ又司式者等ハ環ヲ執リテ歌ヒナカラ上下ニ動カスコト五回ノ後候補跳返ル。ソレヨリ三タヒ同一ノコトヲ行フ 畢テ室ノ中央ニ靈ノ席ヲ設ケテ祈禱ヲ行ヒソレヨリ大黑柱ノ下ニ至リ生麻ヲ特シツツ巫呪ヲ誦ス。候補ガ榕樹ノ小枝ヲ膝ノ上ニ置キ司式者之ガ爲ニ祈禱ヲ行フコト又司式者ガ靈ニ對シ候補者ノ爲ニ小刀、樹子及「ムイ」(巫用白キ小石)等ノ祈禱用具ヲ乞求ムルコト成巫式ニ於ケル如シ。唯「エナランナツマス」

ニ於ケル饌具ノ方式ハ少シク成巫式ニ異ナリ。成巫式ニハ之ヲ圓形ニ陳スルモ當式ニ於テハ下圖ノ如ク之ヲ方形ニ陳ス

```
(2)000000(2)
(3)      (3)
(4)      (4)
(5)  爼  (5)
(6)      (6)
(7) (1)  (7)
(8)      (8)
(9)      (9)
(10)0000(10)
```

而シテ其品物ハ成巫式ニ比スル殆ント二倍ナリトス

(三)職務　巫老ハ一黨又ハ一社共同ノ祭祀ニ於テハ女祝ト爲リ男祝ト共ニ、或ハ獨自ニテ其祈禱ヲ司ル　巫老ハ一黨一社ノ巫中ニテ最能ク巫術ニ長シ衆民ノ尊敬スル者之ニ當ルガ故ニ其勢力ハ自然衆巫ノ上ニ在リテ衆巫ハ能ク其命ニ服從ス。然レトモ別ニ巫老ガ衆巫ヲ監督シ又訓誡スルノ權力若ハ責任アルニ非サルナリ。但シぶつる番カザギザヌ社ニ於テハ巫老ニ此權力アリテ巫老ト衆巫トノ關係ハ恰モ黨老ト番丁トノ間柄ノ如シト言ヘリ

(四)地位及特權　巫老ハ一祭團内ニ於テ其地位頭人及男祝ノ次位ニ在リ。其材幹アリテ社民ニ尊敬セラルル者ハ其勢力能ク一黨一社ヲ左右ス　巫老ニハ特權ナシぶつる番カザギザヌ社ニ於テ巫老ハ通常ノ巫ヨリ「ザコ」及「ムイ」ヲ多ク所持ス。通常ノ巫ハ「ザコ」二個、「ムイ」一個ナレトモ巫老ハ各其二倍ヲ有スト云フ

第二目　祝

第一　總說

(一)番祝ノ意義　本族ニ於テ一黨、一社又ハ一群社共同ノ祭祀ヲ主掌スル者ヲ「パラカジャイ」、「パサラジャヌ」、「パタブラカイ」又ハ「ポカスヌ」ト云フ。但シ若干ノ番社ニ於テハ巫ニシテ司祭タル者ニハ特別ノ名稱ナク單ニ巫又ハ巫老ト云フニ過キス。茲ニ此等ヲ概稱シテ番祝ト爲ス

(二)番祝ノ定員　一ノ祭祀團體（一黨一社又ハ一群社共同シテ一ノ祭團ヲ成ス）ニハ男女各一人ノ番祝アルヲ通常トス　然レト

モ時ニ一祭團ニ男女各二人ナルコトアリ。卽チぱりじ、お番諸社ハ多ク之ニ屬シ、バラカジャイト稱スル者男女各一人、「バタブラカヲ」又ハ「ポカヌッ」ト稱スル者亦男女各一人アリ。今假ニ前者ヲ正祀トシ後者ヲ副祀トス　又一祭團ニ男祀ノミアリテ女祀ヲ缺クモノアリ。例ヘハるかい番諸社ノ如シ　或ハ女祀ノミアリテ男祀ヲ缺ク所アリ（北ぱいわん番ノパイルス社ノ如シ）或ハ全ク番祀ヲ缺クモノアリ（卽らぶる番上バイワヌ社、るかい番ブヽイ群社、上ぎりせ番マか社等ノ如シ）此場合ニ共同祭祀ハ一祭團其日ヲ同シタシ各家別々ニ其祈禱ヲ行フ　又或祭團ニハ數人ノ番祀ヲ置キ祭祀ニ依リ其主掌者ヲ異ニスルコトアリぶつる番ノ下バイワン社及カビヤガン社等ノ如シ　尙各祭團ニ於ケル番祀ノ定員及其祭事ノ擔任ニ付テハ後款第一項第二目第二則中祭祀ノ團體及其機關ノ條ニ於テ詳述スヘシ

（三）番祀ノ種類　番祀ハ先之ヲ男祀ト女祀トニ分ツヘシ。女祀ハ衆巫ノ中ニ在リテ首位ニ立ツ　或祭祀ニ於テハ男女ノ兩祀共同ニ之ニ當リ或祭祀ニ於テハ男祀又ハ女祀專之ニ當ル　女祀ハ男祀ト其名稱ヲ同クスルヲ通常トスレトモ或番社ニ於テハ男祀ト同一ノ稱呼ヲ用ヰス單ニ巫又ハ巫老ト云フ

既ニ述ヘタル如ク番祀ハ一祭團ニ男女各一人ナルヲ當ト爲セトモ番社ニ依リテ男祀又ハ男女ノ兩祀ニ正副二人ヲ置クコトアリ。卽チぱりじ、お番ニ於テ正祀ヲ「バラカジャイ」副祀ヲ「ポカヌッ」又ハ「バタブラカン」ト云ヒ或祭祀ニハ正副ノ兩祀共同シテ之ニ當リ（此時副祀ハ正祀ノ補佐役タリ）或祭祀ニハ正祀又ハ副祀ノミ之ニ當ル

（四）番祀ノ地位　番祀ハ其祭團內ニ在リテ族衆ノ尊敬ヲ受ケ其地位頭人ニ次ク。特ニ世襲的ノ番祀ニ於テ然リトス　凡テ男タル番祀ハ頭人ヨリ頭人ト同樣ノ服裝ヲ爲スコトヲ許サル。又古代ぶつ

ま番ヨリ番社トシテ招聘セラレタル者ノ内ニハ特ニ頭人タル榮稱ヲ許サレタル者アリ（ぶつる番カザザラ社ノクタル家、コワバル社ノパカルバ家、ばりじゃお番高士佛社ノ四補佐役家等之ニ屬ス）

(五)番社ノ報酬　番社ニ與フル報酬各番社相同シカラス。或ハ借耕セル土地ノ農租ヲ免セラレ或ハ祭後ニ行フ狩獵ノ獲物ノ一部ヲ給セラレ或ハ頭人家若ハ社民ヨリ酒、肉其他ノ物品ヲ給セラル。今重ナル番社ニ就テ調査シタル所ヲ左ニ掲ク

(い)上きりせ番トナ社　ニ於テ番社ハ共同祭祀ノ時社内ノ各戸ヨリ肉若ハ粟ノ少許ヲ取ル

(ろ)ぶつる番カザザ社及マヌル社　ニ於テハ番社ハ頭人ヨリ借耕セル畑地ノ農租ヲ免セラル

(は)同番パイルス社　ニ於テハ番社ハ頭人家ヨリ其借耕セル地ノ農租ヲ免セラレ且毎祭社民ノ各家ヨリ薪一把ツツヲ取ル

(に)同番カヒヤカ社　ニ於テハ番社新任ノ時頭人ヨリ無償ニテ畑十枚ヲ貸與セラル。番社ハ之ヲ他ノ社民ニ貸シ其農租ヲ取ル。又粟祭ノ時ニ酒一甕、粟十四把、豚油二十片（一片ノ大サまつち箱程）。五年祭ノ時ニハ酒一甕、豚一頭、粟十四把ヲ頭人ヨリ給セラル

(ほ)北ばいわ番コワバル社　パカルブ家ハ祖先ノ時代ニ番社トシテふゆまヨリ招カレタル時ニ其報酬トシテ永遠ニ毎年農租ノ一少部及粟百小把、芋及芋乾各一筞ヲ得又獵租ノ一少部ヲ取ルノ權ヲ得タリ。現時同家ハ最早番社ニ非スト雖尚舊ニ仍テ頭人家ヨリ農租獵租ノ分配ヲ受ク

(へ)同番スボ社　ニ於テハ番社ハ頭人家ヨリ其借耕セル畑地ノ農租ヲ免セラレ且毎獵其獵租ノ一少部ヲ分配セラル

(と)こぼじ番諸社　ニ於テハ番社ハ祭祀ノ時屠リタル豚ノ一部ヲ得。又祭後ノ狩獵ニテ獲タル肉ニ

付頭人同樣其一部ヲ得

(ち)はりじ、お番サプデク社ニ於テハ番祝ハ男女共ニ祭後ニマノソア（待猟）ノ獵租（各獸ニ付其一肢）ヲ取ル。若獲物多キトキハ其内ニテ一肢ヲ頭人家ニ分ツ。又「バチジャマ」（毎年春期ニ於テ各家飼豚チ屠ルコトヲ云フ）ノ時ニハ頭人家ヨリ其獵租五頭分ニ付一頭分ヲ番祝ニ與フト云フ

(り)同番高士佛社ニ於テハバリブジ及ジャルツ等ノ補佐役家ノ祖先ハ往時番祝トシテ頭人家ヨリ招聘セラレタルモノナルガ當時其報酬トシテ頭人家ヨリ若干ノ畑地及部落地ヲ得タリ。現時此兩家ハ最早番祝ニ非スト雖仍ホ右ノ土地ヲ保有シ社民ヨリ其農租及畜租ヲ取ル　現時當社ノ番祝ハ其報酬トシテ稗祭及粟祭ノ後ニ狩獵ヲ行ヒタルトキ其獵租（獸ノ脚三本）ヲ取ルニ止ル

第二　番祝ノ選任

(一)選任ノ方法　之ニ左ノ三法アリ

(い)一定ノ系統者ヨリ選任スルモノ　るかい番諸社、ぶつる番下バイワン社ノ一部、カザザラス社、北ばいわぬ番チャジャカブス社、こぼじ番諸社、ぱりじゃお番牡丹、高士佛兩社ノ如シ。すかろ四部落ノ番祝亦同シトス

(ろ)他番ヨリ祭事ニ熟達セル者ヲ招聘スルモノ　此ハ古代ニ於テ屢之アリシモ今之ヲ爲スモノナシ。卽ぷゆま及ぱかろノ兩番ハ祭祀ノ方式嚴ニシテ其效驗著ルシキヲ以テ古代ノ頭人家ハ特ニ其中ニ就キ祭祀ノ術ニ長シタル者ヲ招聘シ之ニ或種ノ特權（頭人ニ準スル地位土地又ハ每年ノ租穀）ノ與ヘテ其黨ノ番祝ト爲シタルコトアリ。例へハぶつる番カザザラス社ノクダルン、キトビア兩家、同番カビヤガン社ノラリヤバヌ家、北ばいわぬ番コツバル社ノバカルバ家、ぱりじゃお番高士佛社ノバリブジ、ジャルツノ兩家ハ今番祝ニ非スト雖モ其祖先ハ何レモ祭祀ニ長スルヲ以テ番祝トシテ招聘セラレタルモノナリ

(は)社民中ヨリ選定スルモノ　老番中ニテ能ク祭祀ノ方法ニ通シタル者ヲ選任ス　此ニハ唯頭人ト黨老ト協議シテ選定スルモノ（らばる番諸社ノ如シ）ト其候補タル者ノ中ヨリ瓢トニ依リテ定ムルモノ（ぶつる番マヌル群社マカザヤ群社北ばいわぬ番クナナオ社等ノ如シ）トアリ

(二)選任ノ方式　ハ番社ニ依テ同シカラス左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク

(い)るかい番ブダイ社　ニ於テハ今社祝ヲ缺ク。グルント云フ老人毎年祭祀ノ宥ニ神ニ祈リ夢トニニ依テ之ヲ得ント欲セリ。即チ同人ハ寢ル前ニ豚皮ヲ神ニ供ヘ如何ナル人ヲ以テ祝トスヘキヤ之ヲ夢ニ知ラセ給ヘト祈ルト雖モ未之ニ當ル夢見ストテ今ニ其人定ラストテ云フ

(ろ)ぶつる番カザ(ヤ)ザ社　ニ於テ安原氏ノ調査シタル所下ノ如シ　當社ニハマバリー、ジグロルノ兩頭人家アリ。何レモ男女各一人ノ番祝及一人ノ助祝ヲ有セリ。皆世襲ニ非ス女祝ハ巫老ヲ以テ之ニ充ツルモ男祝ハ頭人巫老ト議シ男祝ト爲スヘキ候補者數人ヲ擧ケ瓢トヲ以テ其中ヨリ一人ヲ選出ス。此式ハ舊暦ノ月末ニ行フ。其日早朝ニ社ノ巫ハ勿論社民男女悉ク頭人家ノ前庭ニ聚ル。巫老其中央ニ於テ東ニ向テ蹲リ衆巫之ニ對シテ蹲リ頭人ハ社民等ト共ニ之ヲ圍ミテ背立ス。巫老普頭ヲ取リ衆巫之ニ和シ『靈ハ誰ヲ祝ト爲サンコトヲ欲スルカ』ヲ問フ旨ノ歌ヲ數回反覆シ畢テ巫老瓢及樹子ヲ取リテ一ノ候補者ニ付テトス。ト不吉ナレハ更ニ他ノ候補者ニ付テ同一ノ法ヲ反覆ス。ト吉ナルトキハ之ヲ本人ニ通ス。本人ハ一應之ヲ辭スト雖巫老再トシテ吉ナレハ最早之ヲ辭スルコトヲ得ス。斯テ愈其候補カ決定シタルトキハ其人ハ他ノ一黨ノ祝ニ付テ祭祀ノ方法ヲ修得セサルヘカラス。祝ノ方術ハ巫ノソレニ比シテ簡單ナルガ故ニ習得シ易シト雖モ其之ヲ傳習スル日ハ社民一同外出スルコトヲ得サルガ故ニ數日之ヲ繼續スルコト能ハス。從テ日ハ成ル可ク社民ノ生業ノ

閑散ナル時ヲ選ミ斷續的ニ行フガ故ニ實際ハ十數箇ノ方式ニ過キサルモ之ヲ全部修了スルニハ前後數月ニ亘ルト云フ。而シテ候補者ガ全部其課程ヲ修得シタルトキハ一方ノ祝ヨリ之ヲ頭人ニ告ケ頭人ハ酒一甕ヲ作リ候補者タル祝及社民ヲ招キテ宴ヲ開キ其席上ニ於テ全ク祝ト爲リタル旨ヲ披露ス

(は)ぶつる番カザザラヌ社 ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ハ下ノ如シ　番祝ト爲リ得ヘキ者ハ頭人系統者又ハ勢力者ニ限リ頭人ハ此中ヨリ一名ヲ選定ス。候補者定マレハ頭人酒三甕ヲ作リ小豚一頭ヲ殺シ全社ノ番祝及巫ヲ集メ後室ニ於テ圓形ニ列坐シ中央ニ社祝ノ一人桑ノ葉ヲ摘切リ之ニ饌(豚皮、豚骨、豚肉ノ小片)ヲ切リテ其上ニ乘セ窓ニ向テ二片、大黑柱ニ向テ二片ヲ置キ次テ室外ニ出テ屋上ニ二片ヲ置キ再入リテ一片ヲ候補ノ頭上ニ載セ祝シテ「汝ハ之ヨリ祝ト爲リ粟祭其他ノ祭祀ヲ行フナリ」ト云フ。尙女祝ノ場合ニハ「平地ニ降リテモ米及米ニテ作レル酒又ハ鷄ヲ食スヘカラス」ト附言ス了テ殘餘ノ桑葉ヲ大黑柱ニ掛ケ置キ後酒宴ヲ開クト云フ

(に)ぶつる番カヒヤカヌ社 ニ於テ安原氏ノ調査シタル所下ノ如シ　祝死シテ缺員ノ生シタル時ハ頭人及勢力者以外ノ者ハ悉ク其ノ候補者ニ擬セラル。卽男祝死セハ男子ノ全部、女祝死セハ女子ノ全部ハ未婚既婚ヲ問ハス悉ク其候補者ト爲シ。而シテ其中ヨリ一人ヲ選定ス。其法先ツ男祝ナレハ女祝タル者其死者ノ家ニ赴キ奥室大黑柱ノ下ニ坐シ椀ニ水ヲ滿テ豚脂ヲ持シ候補者ノ名ヲ呼ヒツツ之ヲ細切シテ其椀内ニ入ルルコト五回。五回共其脂ノ水面ニ浮上リタルモノヲ以テ選ハレタル者トス。若女祝ガ缺ケタルトキハ男祝ニ於テ右ノ法ヲ行フ　番祝定レハ頭人ヨリ之ニ酒二甕、豚一頭、中鍋一箇(男祝ナレハ畑十枚(卽約五甲歩)ヲ加フ)ヲ與ヘ番祝ハタルリバク家ノ跡(現在家屋ナク周圍ノ石積ノミ殘ル)ニ全社ノ者ヲ集メ右ノ

酒一甕ヲ社民ニ與ヘ殘一甕ト豚一頭トハ他ノ祝及巫ト共ニ食ス

(ほ)ばりじゅお番高士佛社　ニ於テ番祝ハ頭人系統者ノ中ニ就キ頭人及老番之ヲ選定ス　女祝ニ付テ別ニ式ナキモ男祝ニ付テハ日ヲ期シ「イサス・バラカジャイ」ノ式ヲ行フ。其日早朝巫老（當社ニ於テハ巫老即女祝タリ）ハ其他ノ巫ト共ニ新候補者ヲ伴ヒテ舊社址ニ赴キ巫老先ツ南方ニ向テ供饌シ祝シテ曰ク『「サジムジ」及サウマイノ兩神ヨ。先ノ祝ニ代テ新ニ此者ヲ祝ト爲セリ。我等ノ祖先ノ定メタル舊慣ニ遵ヒテ祭祀ヲ行ハントス。願クハ此者竝ニ我等ニ保護ヲ與ヘヨ』ト。然後歸社ス

第三　助祝

(一)助祝ノ意義　ぶつる番ノ諸社ニハ番祝ニ助手ヲ附スルコトアリ。之ヲ「バクシャ」（此木義審カナラス。爭議ノ仲裁ヲ爲ス者モ亦之ヲ「パクシャ」ト云ヘリ）又ハ「スミナウ」（洗フトノ意）ト云フ。蓋手傳ヲ爲ス義ナルヘシ。茲ニ之ヲ助祝ト稱ス

(二)選任　番祝頭人ト協議シテ番丁中ヨリ選任ス。別ニ就任ノ式ナシ　カピヤカ社ニ於テハ其選任法ハ番祝ニ同シ。即女タル番祝椀ニ水ヲ盛リ之ニ小祭肉ヲ投シテ其適否ヲ神靈ニ問ヒテ之ヲ定ム。神ニ選ハレタル者ハ自ラ酒ヲ釀シ白家ノ大黑柱ノ下ニ於テ相思樹ノ葉ヲ竝ヘテ之ヲ祖靈ニ擬シ酒（椀ニツキテ）及祭肉ノ小片（摘切リツツ）ヲ供ヘツツ其己ガ助祝ト爲リタル旨ヲ靈ニ告ク

(三)地位　助祝ニ選任セラルルハ亦番丁間ニ於ケル名譽タリトス。然レトモ助祝ニ對シテハ別ニ報酬ナシ。唯祭祀ノ時酒又ハ祭肉ノ小塊ヲ與ヘラルルノミ。現時カピヤカッ社ニ於ケル助祝ハ頭人ジグロル家ヨリ畑一枚ヲ貸與セラレ其農租ヲ免セラルト云フ

第四　家祝

(一)家祝ノ意義　一家内ニ於テ祭祀ヲ行フ場合（家祭）ニハ家族中ノ一人之ヲ掌ル。番祝ト同樣ニ亦之ヲ

ニ「パラカジャイ」又ハ「パサラジャヽ」（上ざりせん番ニ於テ「モルグス」）ト云フ。但シ一黨又ハ一社ノ司祭者ニ區別センガ爲ニ特ニ其語尾ニ家（チヨマク）ノ語ヲ附スル者アリ。茲ニ之ヲ家祀ト爲ス

（二）家祀ノ定員　家祀ハ一家一人ナルヲ常トス　然レトモ或番社ニハ全ク之ヲ有セス家祭ハ凡テ巫ヲ招キテ之ヲ行フ。ぶつる番中ノマカザヤザヤ、カザザラヽ、クソルス、カビヤカ、社ハ之ニ屬ス。又或ハ番社ニハ之ヲ有スル家ト有セサル家トアリ。北ぱいわん番チャジャカブス及ボカリド兩社ノ如シ。此等ノ社ニ於テ家祀ヲ有セサル家ハ其隣佑ノ家祀ニ請ヒテ祭ノ主ラシム

（三）家祀ノ選任　家祀ハ其家ノ婦女ナルヲ通常トシ稀ニ男子ナルコトアリ。卽北ぱいわん番ノ南部及こぼじ番ニ於テ家祀ハ一家ノ主婦若之ナキトキハ其家ノ長女之ニ當ル。北ぱいわん番ノ北部ニ於テ長女ガ病ニ罹リ快復ノ見込ナキ場合ニ之ヲ家祀トセハ其病平癒スヘシトテ長女ヲ家祀ト爲ス風アリ　ぶつる番ニ於テハ未タ子ヲ生マサル婦女又生ミタルコトアルモ其ガ現ニ一人モ生存セサル時ハ其ニ家祀ト爲ルコトヲ得ストシ若一家ニ子ヲ有スル婦人ナキトキハ巳ムヲ得ス男子ヲ以テ之ニ充ツ　ぱりじゃお番高士佛社ニ於テハ男女ニ拘ハラス其家ノ長子タル者家祀ト爲ル

（附記）家祀ト爲ルニハ別ニ其式ヲ行フコトナシ　然レトモ北ぱいわん番ノ北部ニ於テ長女ガ病ニ罹リタル場合ニ之ヲ家祀ト爲ス所ノ番社ニ於テハ下ノ如キ式ヲ行フト云フ。卽チ其長女ノ父豚一頭ヲ屠リ巫ヲ招キ之ガ祈禱ヲ爲サシム。此時巫ハ屠リタル豚ノ脂及骨數片ヲ笊ニ載セ病者ノ臥シタル寢臺ノ前ニ供ヘ饌ヲ投シ祝シテ曰ク「今豚ヲ屠リ供ヘテ家祀ト爲スノ式ヲ行フ。此ヨリ永ク粟及芋ノ祈禱ヲ擔任ス。米及米ニテ作レル酒ヲ食スルコトナカレ。直ニ元氣ニ爲リテ粟、芋ノ繁榮スル樣ニ祈レ」ト。而シテ其饌ヲ靈棚ノ中ニ納ム。斯テ其女ガ本復シタルトキハ

爾後其家ノ家祀ト爲ル

(四)家祀ニ關スル禁忌　家祀ト爲リタル者ハ米ヲ食ヒ又ハ米ニテ造リタル酒ヲ喫スルコトヲ禁ス。若之ヲ犯ストキハ粟ニ關スル祈禱其功ナシト云フ。然レトモ此禁忌今漸ク弛解セントシツツアリ

第三款　祭祀

第一項　總説

第一目　祭祀ノ性質及種類

第一　祭祀ノ性質

既ニ述ヘタルガ如ク本族ニ於テモ靈ニ對シ飲食ヲ供シテ之ヲ祭リ或ル事ヲ祈求スルノ慣習アリ。本族ニ於テ祭祀ト祈禱トハ其語ヲ同クシ等シク之ヲ「パリシ」（ろかい番ニテ「トアリシ」、上ざりせん番ニテ「パイシーシャ」）ト云ヒ之ヲ行フヲ「プナリシ」ト云フ。是本族ニ於テ祭祀ハ同時ニ祈禱タリ祈禱ハ同時ニ祭祀タルニ因ルナリ又本族ニ於テ祭祀ハ靈ニ關スル禁忌トモ其語ヲ同シクス。例ヘハ何々ノ事ハ「パリシ」ナリト云ヘハ其事ヲハ爲スヘカラス、若之ヲ爲サハ靈ノ祟ヲ受クヘシトノ義ナリ。又何々ノ所ハ「パリシアン」ナリト云ヘハ其場所ニハ立入ルヘカラス、其所ニアル樹木ヲハ伐取ルヘカラス、若之ヲ犯サハ靈ノ怒ニ觸レテ災病ヲ得ヘシトノ義ナリ。元來「パリシ」（ろかい語ノ「トアリシ」、上ざりせん語ノ「パイシーシャ」モ亦）ハ此禁忌ヲ意味シタルモノナルガ祈禱及祭祀ニハ必ス此ノ禁祀ヲ伴フニ因リ終ニ轉シテ祈禱及祭祀ヲモ表スルニ至リシモノナルヘシ

第二　祭祀ノ種類

番族中本族程祭祀ノ種類多キモノハ之アラサルナリ。今其目的物ニ依テ本族ノ祭祀ヲ彙類スレハ大體ニ於テ左ノ數種ト爲ル

(一)五年祭 毎五年一回一衆共同シテ其族祖及各自ノ父祖代々ノ靈ヲ祭ルモノニシテ前後兩祭ヨリ成リ前祭ヲ「マジュバク」又ハ「ジャジュジャト」ト云ヒ後祭ヲ「プサオ」ト云フ 此祭祀ハぶつる番及ばいわぬ三番ニ行ハルト雖モ上(さりせぬ、るかい、らばる)ノ三番ニハ行ハレス

(二)天候ニ關スル祭祀 之ニ乞雨、乞晴、鎭風、除害等ノ祈禱アリ。旱魃、淫雨、暴風、落雷等ノ場合ニ一衆共同シテ之ヲ行フ

(三)土地及部落ニ關スル祭祀 之ニ屬スルモノ左ノ如シ

(い)地神祭(番語「パリシ・ト・カジ・ナかァ」) 土地ニ崩壞、落雷其他不吉ナル事ガ生シタル場合ニ其不吉ヲ禳ハンガ爲ニ一衆共同シテ行フ祭ナリ

(ろ)社神祭(番語「パリシ・ト・キナジャン」) 部落内ニ殺人、變死其他不吉ノ事ガ生シタル場合ニ其不吉ヲ禳ハンカ爲ニ一衆共同シテ行フ禁ナリ

(は)水源地祭(番語「パリシ・ザジユン」) 粟ヲ播種シタル後水源地ニ至リ水ノ涸渇セサル樣ニ祈ルモノニシテ之ヲ行フ番社ハ甚少シ

(に)疫厲祭(番語「パリシ・ト・ラヤル」) 傳染病(流行感冒、赤痢、痘瘡等)流行ノ際其疫神ガ社内ニ入來ラサル樣ニ(防疫祭)、又其既ニ社内ニ傳染病ガ入リタルトキニ其疫神ヲ社外ニ逐出ス樣ニ(逐疫祭)共同シテ行フ祭ナリ

(四)農作ニ關スル祭祀

(い)粟ニ關スルモノ 之ニ(一)播種前祭(番語「パリシ・ア・ト・モゴト」)(二)播種後祭(番語「パリシ・ア・マストゴト」)(三)收穫前祭(番語「パリシ・ア・キパコ」)

(四)收穫後祭(番語「マサルト」)ノ四種アリ。此内最後ノ「マサルト」ハ本族ニ於テ五年祭ニ次クノ大祭ニシテ邦人ガ單ニ粟祭ト稱スルモノハ之ヲ指スナリ

粟ニ關スル上記ノ四祭ハ概シテ一衆共同ニ行フト雖モ少數ノ番社ニ於テハ「マサルト」以外ハ各家別々ニ行ヒ時トシテ全ク之ヲ畧スルコトアリ。尙番社ニ依リ右四祭ノ外粟ガ芽ヲ出シタル時、草ヲ拔ク時、穗ヲ出シタル時、又ハ收穫セル粟ヲ社內ニ運ヒ入ルル時等ニ祈禱ヲ行フモノモアリ

(ろ)稗ニ關スルモノ　ハ唯(一)收穫前祭(「パリシア・キジュマイ」)(二)收穫後祭(「パリシ・ア・マスジュマイ」)ノ二アルノミ。前者ハ一衆共同ニ或ハ各家別々ニ行ヒ後者ハ一衆共同ニ行フ　番社ニ依テハ右ノ中其一ノミヲ行ヒ他ノ一ヲ略シ或ハ二祭共ニ略シテ行ハサルコトアリ　稗ノ播種前後祭ハ皆之ヲ行ハス。蓋シ粟ト合シテ之ヲ行フニ因ルナルヘシ

(は)芋ニ關スルモノ　本族ハ芋種ヲ植ユルガ爲ニ之ヲ芋小屋ヨリ取出ス時、始テ芋ヲ收穫スル時、翌年ノ種トスヘキ芋ヲ芋小屋ニ貯藏スル時、又ハ「アラジ」(土語芋乾)ヲ製スル爲ニ其蒸竈ヲ開ク時ニ於テ祈禱ヲ行フヲ例トス。然レトモ此等ハ何レモ家祭ニ屬シ一衆共同ニ行フコトナシ

(に)果實ニ關スルモノ　檳榔子又ハ蜜柑等ニ蟲ノ附キタル時巫ヲ招キ之ヲ禳フ

(五)首狩、狩獵及漁撈ニ關スル祭祀

(い)首狩ニ關スルモノ　出陣ニ際シテハ番丁ニ對シテ元氣ヲ附スルノ祈禱(番語「パポロコム」)ヲ行ヒ敵ノ首級ヲ得タルトキハ之ヲ首棚ニ收藏スル祭祀(番語「スマヌ・タ・カジャ」)ヲ行フ。又每年粟祭ノ時ハ首棚ヲ祭ルヲ例トス

(ろ)狩獵ニ關スルモノ　每年一回一衆共同シ獸ノ靈棚ヲ祭ル(番語「マリシ・ア・パラロポ」又ハ「パリシ・ア・カジュカジュプン」等)又番社ニ依テ

ハ豹又ハ鷹ヲ以テ靈獸靈禽トシ之ヲ獲タル場合ニ敵ノ首級ニ準シテ祭祀ヲ行フコトアリ

(は)**漁撈ニ關スルモノ**　之ヲ行フ者ハ多カラス。毎年一回又ハ臨時不漁ノ時ニ溪神ヲ祭リ(番語「パリシャナ一」)漁撈ノ幸ヲ祈ル

(六)**人ニ關スル祭祀**　ハ甚多シ。何レモ各個人ニ對スル祈禱ニシテ一衆共同ニ行フモノナシ之ニ屬スルモノハ(一)姙婦ノ爲ニ其ノ安胎又ハ安産ヲ祈ルモノ(二)生兒幼兒又ハ少壯者ノ爲其健全ニシテ元氣ナランコトヲ祈ルモノ(三)病者ノ爲ニ其平癒センコトヲ祈ルモノ(四)農作狩獵ニ擢ヽ者ノ爲ニ能者ニナルヘク祈ルモノ(五)死亡者ノ遺族ノ爲ニ幸福又ハ元氣ヲ祈ルモノ等トス

(七)**家畜ニ關スル祭祀**　ハ唯豚ニ對シテ行ハル。卽牝豚ニ對シ其多ク子ヲ生ム樣、豚兒ニ對シ元氣ニ且速ク成長スル樣、病豚ニ對シ速ニ平癒スル樣ニ祈ルモノニシテ何レモ家祭ニ屬ス　ぱりじゃお番ニ於テハ近來牛ニ對シテモ亦此種ノ祈禱ヲ行ヒ、又獵犬ニ對シテ其能ク狩獵シ得ル樣ニ祈ル

(八)**建物ニ關スル祭祀**　ハ何レモ家祭ナリ。卽住屋敷地ヲ占定スルトキ、新ニ住屋倉庫ヲ建テ若ハ之ヲ修繕シタルトキ、又ハ家內ニ始テ墓壙ヲ穿タントスルトキ等ニ其祈禱ヲ行フ

(九)**器具ニ關スル祭祀**　ハ何レモ家祭ナリ。新ニ農具、武器、裝飾品等ヲ求メタルトキニ其品カ能ク持主ニ恰適スル樣ニ祈リ、又其等ノ品ガ不淨ニ遭逢シタルトキハ其不淨ヲ贖ヒ、銃器ヵ屢命中セサルトキハ其不祥ヲ祓ヒ以テ器ノ銳利ナランコトヲ祈ル等ノ如シ

第二目　祭祀ノ方法

第一則　總說

第一　祭祀ノ場所

本族ノ祭祀ハスヘテ之ヲ一定ノ場所ニ於テ行フ。其場所ノ重ナルモノ左ノ如シ

(一)祭屋(番語「パラカヤヌ」又ハ「タパオナパリシ」) 五年祭、粟祭、稗祭其他農作ニ關スル祭祀ハ概シテ祖先ノ居住シタル家屋ノ内ニ於テ之ヲ行フ。本族ニハ之ガ爲ニ別ニ祭屋ヲ設ケタルモノナシ。然レトモ大頭人家中ニハ歴祖先ノ居住シタル家屋ヲ以テ禁忌ノ場所トシ平素之ニ不淨ノ物ヲ近ツケス而シテ祭時此所ニ供饌祈禱ノ儀ヲ行ヒ自己等家族ハ別ニ住屋ヲ建テテ其ニ居住スルモノアリ。ぶつる番ノマカザヤザヤ社、カザザラヌ社、カビヤガヌ社、北ぱいわぬ番ノクナナオ社、チャジャカブス社、こぼじ番內文社等ノ大頭人家ノ如シ こぼじ番內文社ノ平民家モ五年祭ニ於ケル祖先ニ對スル供饌ハ其祖屋內ニ於テストト雖モ其屋宇ガ既ニ朽破シテ用ヲ爲ササルトキハ其址ニ小サキ小屋ヲ立テテ此ニ其家祖ヲ祭ル。又ぱりじゃお番高士佛、加芝來等ノ番社ニ於テハ頭人以下社民ノ舊屋ノ址ハ悉ク舊社ノ地ニ在ルガ故ニ五年祭及每年ノ粟祭ノ時ニハ其址ニ小サキ小屋ヲ立テテ祭屋トス(我國ノやしろト其由來ヲ同シクスルヲ見ヨ。やしろハ郎家代ナリ)

(二)靈棚(番語「カキヤバカヌ」) 本族ノ住家ニハ其奧室ノ石壁ニ函狀ノ穴ヲ穿チ祖靈ノ在ス所トス。「カキヤバカヌ」ト稱ス。我國ノ佛壇ニ當ル。人ニ關スル祈禱ハ此ノ前ニ於テ行フ

(三)獵獸ノ靈棚 一黨民又ハ一社團共同シテ郊外ニ方一二尺ノ石板ヲ圍テ函狀ノモノヲ作リ此所ニ獵獸ノ骨ヲ藏シ獸靈ノ安スル所トス。之ヲ「パラロボ」(北ぱいわぬ番ノ南部及こぼじ番ニ於テ)又ハ單ニ「タビタビ」若ハ「タビ」ト云フ。每年ノ狩獵祭ハ此前ニ於テ行フ

(四)首棚 各黨若ハ各社團ハ共同シテ社內ニ首棚(「サカル」又ハ「ボコロアヌ」)ヲ設ケ此所ニ敵人ノ首級ヲ置ク

第二 祭祀ノ時日

(一)總說 祭祀ニハ一定ノ時期ニ行フモノ(定期祭)ト臨時ニ行フモノ(臨時祭)トアリ。例ハハ五年祭、粟、稗、芋

等農耕ニ關スル祭祀及獵神祭ハ前者ニ屬シ土地祭、社神祭、疫癘祭等ハ何レモ不吉ノ出來事アリタル時ニ、首級收藏祭ハ敵ノ首級ヲ得タル時ニ行フモノニシテ共ニ後者ニ屬ス。人、器具、家畜、住屋等ニ關スル祈禱モ亦後者ニ屬ス。

凡テ定期祭ハ古來ノ慣例ニ從ヒ必其期ニ至テ之ヲ行フヘク若之ニ違ヘハ神靈ノ譴怒ヲ受クヘシトス。大祭ノ場合ニ番祝ガ祖靈ヲ喚ヒ「汝ガ定メタル時ハ到レリ」（番語「ジヤジン、かスビヤカサ」）ト言ヒ五年祭ニ於テ「年來レリ（番語「チソワ かサベジ」）月來レリ（番語「チゾワ かケジヤス」）」ト言フハ此意義ヲ宣明シタルモノトス

（二）祭日ノ協定　共同祭祀ハ其定期ナルト臨時ナルトヲ問ハス番祝ハ頭人ト協議シテ其日ヲ定メ一般ニ通知スヘキモノトス。家祭ニシテ一社其日ヲ同シクスルモノ亦同シ　祭祀ノ行事數回ニ亙リ其間ニ日ヲ隔ツルトキハ毎行事ニツキ其日ヲ定ムルモノトス　本族ニハ暦日ノ觀念ナシ。從テ定期ニ行フヘキモノト雖モ吾人ノ如ク何月何日ト定マルモノアルニ非ス。唯粟、稗等ノ播種、收穫等ヲ標準トシ月ノ盈虚ニ依テ其日ヲ定ムルノミ

祭祀ノ期間ハ僅ニ一日ナルアリ數日ニ亙ルモノアリ其準備ニ數日乃至數月ヲ費スモノアリ。祭祀ノ種類ニ依リ又同種ノ祭祀ト雖番社ニ依リ其期間ニ長短アリテ一定セス

第三　祭祀ノ儀式

（一）總說　本族ニ於テ祭祀ハ凡テ祖先ノ定メタル方式ニ從テ行フコトヲ要ス。特ニ五年祭、粟祭、稗祭等ノ大祭ニ於テ然リトス。祝ガ祖靈ヲ喚ヒ之ニ對シテ誦スル祝詞ノ中ニ『定例ニ從ヒテ』（番語「パサソワ かビヌカサヌ」）又ハ『汝ノ定メタル方式ヲ繼キテ』（番語「モレ・イヮズかか スピナタギジヤヌ」）ト云フハ此意義ヲ宣明シタルモノトス

（二）祭祀ノ次第　本族ニ於テ祭祀ノ方式ハ其種類ニ依リ繁簡ノ別ハアレトモ何レニモ先其目的タ

ル靈ヲ喚フコト、之ニ對シ饌ヲ供スルコト、而シテ其欲スル所ノ祈願又ハ禳祓ヲ爲スコトトス。此ノ三ノ次第ハ祭祀ノ要素ニシテ何レヲモ缺クヘカラサルモノトス

(い)喚靈　祭祀ニハ先其目的タル靈ヲ呼テ來ラシメサルヘカラス其法三アリ

(1)單ニ靈ノ名ヲ喚フモノ　主祭者目的ノ方向ニ向ヒ又ハ目的ノ物ニ對シ『我今汝某ノ靈ヲ喚フ』或ハ『我等今汝等某及某ヲ呼フ。速ニ此ニ來格セヨ』ト呼フガ如シ。首棚ヲ祭ル場合ニハ『汝首架ノ靈ヲ呼起ス』ト言フ、是其架上ニ祭ラレ在ル敵人ノ靈ガソコニ安眠シツヽアルヲ以テ之ヲ呼起スノ意ナリ凡靈ノ遠クニ在ル者(例ヘハ五年祭ニ於テ祖靈ヲ招クトキノ如シ)ナラハ果シテ其呼聲ガ靈ニ通シタルヤ否、又果シテ呼ハレタル靈ガ來場シタリヤ否明ナラサルヲ以テ巫之ヲ瓢卜スルヲ常トス

(2)巫祝ノ歌ヲ以テスルモノ　例ヘハ巫ガ靈ヲ招降セントスルトキハ一種ノ歌(「ジミカサノー」)ヲ唱ヘツヽ又男祝ガ五年祭場ニ於テ祖靈ヲ喚フトキニハ北ニ向ヒ「イヤコー」ノ歌ヲ以テ靈ノ名ヲ呼フガ如シ

(3)煙ヲ以テスルモノ　本族ニハ粟藁(番語「シゲジ」)ニ火ヲ點シ靈ノ名ヲ呼ヒツヽ其煙ヲ以テ諸魂ヲ招致スル法アリ。之ヲ「ツンブジ・トワ・ツマシ」(靈ヲ煙ス)ト云フ。土地祭、獵神祭ノ時ニハ之ヲ以テ粟、芋、猪、鹿等ノ魂ヲ招キ出草ノ場合ニハ之ヲ以テ敵人ノ魂ヲ招ク

(ろ)供饌　靈ニ飲食ヲ供スルヲ「ハカヾ・ト・ツマシ」(「靈ニ食ハシム」ノ義。土人之ヲ飼鬼ト譯ス)又ハ「バカイ・ト・ブブ」(「祖先ニ食ハシム」ノ義)ト云フ。其方法左ノ如シ

(1)酒　ハ之ヲ供スルニ三法アリ(一)之ヲ杯(小竹筒又ハ木杯)ニ酌ミ之ニ右ノ食指ヲ浸シ其滴ヲ彈クナリ(二)ハ杯ヲ取リ之ヲ傾ケテ其數滴ヲ地ニ零スナリ(三)ハ單ニ之ヲ杯ニ容レタル儘ニ地上ニ置クナリ

(2)常饌　ハ巫ノ貯フル所ノ「カルブ」(乾固メタル豚脂)及「ツコラジ」(豚骨)ヲ取リ小刀ヲ以テ其小片ヲ切リ取リ又

ハ削リ取リテ之ヲ「ビアク」(樹皮又ハ樹葉)ノ小片ト共ニ投ケ或ハ「ビアク」ノ上ニ載セテ地上ニ置ク

(3)盛饌　即各種ノ穀、肉、酒其他ノ供物ヲ具シタルモノハ一般ニ之ヲ組上ニ陳シテ靈前ニ置ク。祭畢テ之ヲ地ニ投棄シ又ハ樹枝ニ掛置ク

(は)祈願

(1)總說　供饌ト同時ニ祈願又ハ禳祓ヲ行フ。祈願ハ幸福ヲ求ムルモノニシテ例ヘハ「ケマン」(山ノ幸。即狩獵ノ好獲)若ハ「マツナン」(野ノ幸。即農作ノ農收)ノ來至スル樣或ハ巧ニ粟ヲ作リ、芋ヲ作リ、鹿ヤ猪ヲ捕ヘ若ハ敵ヲ討取リ得ル樣ニ、或ハ疾病ニ冒サレス死亡セス元氣旺盛ニシテ健全ニ成長スヘキ樣ニ祈ルカ如シ。又禳祓ハ凶災ヲ除クモノニシテ祭器、武器等カ或ル不淨(月經、懷姙出產等)又ハ不祥(惡靈)ニ觸レタル時ニ之ヲ祓ヒ或ハ祭祀ノ終ニ其禁忌ヲ解キ或ハ病者ノ爲ニ惡靈ヲ驅逐スル等ノ如シ

(2)祝詞　祈願及禳祓ニハ古代祖先ノ用ヒタル語ヲ用ヰルヲ例トス。サレト之ヲ解セサル者ハ平常用ヰル所ノ談話ノ語ヲ用ヰテ妨ナシトス　祝及巫ノ用ヰル語中ニハ「ヰツカ」トテ古代ヨリ傳來セル語アリ。今日一般ノ人ニハ其意味ノ解シ得ラレサルモノ少カラサルノミナラス其中ニハ隱語ヲ交ヘタルモノアリ。余ハ內文社ニ於テ一老巫ノ祝詞ヲ聞キタリシニ其聲調皆モ我國ノ神官ノ奏スル祝詞ノ如クアリシカハ其意味ヲ老番ニ質シタルニ其詞中解シ得ルハ僅ニ十中ノ五六ニ過キス唯祖先ヨリ斯ク誦シ來ルカ故ニ誦スルノミト答ヘタリ

(3)祈禳ノ方式　ハ單ニ饌ヲ供シ其祈願又ハ禳祓ノ語ヲ述フルニ止マルモノ多シ。但シ禳祓ノ中ニハ粟藁ヲ燃ヤシ之ヲ以テ不淨ヲ祓ヒ又ハ茅ヲ以テ身ヲ撫シ若ハ呼氣ヲ吹キ掛ケテ病魔ヲ攘フノ狀ヲ爲スモノ多シ

第四　祭饌及饌具

(一)總說　祭祀ニ於テ本族ガ靈ニ供スル品ハ彼等ノ祖先ノ平常ニ飲食シタリシ物品ナリ。而シテ之ヲ容ルル器モ亦彼等祖先ノ平常用ヰタル所トス。唯祭祀ニ於テハ其量ノ寡クシテ器ノ少ナルニ在リトス

祭饌及祭器ハ大體ニ於テ常、盛二樣ニ別ツヘシ

(二)常儀　ニ於ケル祭饌及祭器ハ左ノ如シ

(い)祭饌

(1)**饌脂**　豚ノ脂肪ヲ乾固メタルモノニシテ番語ニテ「カルブ」(脂ノ義)ト云フ。之ヲ靈ニ供スル場合ニハ小刀ヲ以テ切リ其小片ヲ用ヰル

(2)**饌骨**　豚ノ脊梁(番語「サナク」)及股(番語「ジャパジ」)ノ骨ヲ取ル。番語ニ「ツコラジ」(骨ノ義)ト云フ。之ヲ靈ニ供スル場合ハ刀又ハ小刀ニテ削リ其片屑ヲ用ヰル

(ろ)祭器　トシテ唯一ノ饌敷アルノミ。此レハ相思樹若ハ榕樹ノ皮又ハ桼「ポート」(濶葉樹ノ名)其他ノ木葉ニシテ番語ニ之ヲ「ビアク」(樹皮ノ義)ト云フ。之ヲ靈ニ供スル場合ニハ皮ハ細ニ碎キ葉ハ細ニ切リテ用ヰル。蓋シ饌骨、饌脂ヲ盛ル臺ナルヘシ。以テ古代彼等ノ祖先ガ木ノ皮ヤ葉ニ食物ヲ盛リタル遺影ヲ見ルヘシ

右ノ内饌脂(「カルブ」)饌骨(「ツコラジ」)ノ二品ハ巫常ニ之ヲ貯藏シ祭祀ノ際少シツツ之ヲ使用ス。番語ニ「クマルブ」又ハ「ブニアク」ト云フハ靈ニ此等ノ饌ヲ供スルヲ云フナリ

(三)盛儀ノ場合

(い)祭饌　盛饌ニハ右ノ脂及骨ノ小片ノ外粟穗、粟餅、粟酒及犧牲ヲ要ス。犧牲ハ豚ヲ用フ。祈禱ノ爲ニ豚ヲ屠ルヲ「パルゲルゲ」ト云フ。此場合ニハ巫先ツ屠ルヘキ豚ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ男覡(覡ナキトキハ他ノ番丁)刀ヲ以テ其豚ノ喉ヲ刺シ後之ヲ頭、兩手、兩脚トニ解體シ其各片ノ一部ヲ取テ俎上ニ陳ス

(ろ)饌具　ニハ俎(番語「テジユ」)竹筒(番語「ジヨボン」)瓢(番語「ジヨイ」)ノ三種アリ。俎ハ二尺平方ノ板ニシテ之ニ豚肉其他ノ饌物ヲ載ス。竹筒ハ大小二種アリ大ハ長約一尺ニシテ底ニハ節ヲ存シ以テ饌脂若クハ饌骨ノ小片ヲ容レ小ハ細竹ノ長僅ニ一二寸ニ切リタルモノニシテ瓢ノ如ク酒ヲ入ルルニ用キル

祭饌及饌具ノ具備シタルヲ「リナバ」ト云フ(「ルマバ」(全備)ノ語ヨリ來ル。取揃ヘラレタルモノノ義ナリ)例ヘハ常儀ノ場合ニ於テハ「カルブ」「ツコラジ」及ヒ「ビアク」ノ三品ヲ以テ「リナバ」ト爲シ五年祭ノ「プサオ」(靈送)ニ於テハ右ノ外粟ノ穗數本ヲ束ネタルモノ、小サキ瓢ニ酒ヲ容レタルモノ、毛布ノ小片、乾芋若干、小鐵一箇及薪火一本ヲ取リ揃ヘ尚男靈ニ與フヘク小サキ竹製ノ弓矢ト廢刀、女靈ニ與フヘク針ヲ絲ニ繫キタルモノヲ添ノルコトヲ要スルガ如シ

第二則　共同祭祀ノ方法

第一　祭祀ノ團體及機關

(一)總說

(い)祭祀ノ團體　前ニ述ヘタルガ如ク本族ノ祭祀中ニハ一衆共同ニ行フモノアリ。五年祭、前祭、同後祭、粟收穫後祭、稗收穫祭、地神祭、社神祭、獵神祭、首級收藏祭等之ニ屬ス。玆ニ之ヲ共同祭ト稱シ以テ家祭(一家内ノ祭)又ハ個人祭(個人ノ爲スル祈禱)ニ別ツ　共同祭祀ヲ行フ一團玆ニ之ヲ祭祀團體、略シテ祭團ト爲ス

祭團ハ概シテ社會團體ト一致ス

(附記)本族ニ於テ族衆ハ各所ニ相別レ數戶乃至數百戶ノ大小ノ部落ヲ成シ此等ノ部落ハ或ハ一箇獨立シ或ハ數箇聯結シテ一ノ社會團體ヲ成ス。本報告ハ前者ヲ單社トシ後者ヲ群社トス。又本族ニハ大小幾多ノ頭人家アリ各領地及領民ヲ有シテ恰モ王國ノ如キ社會團體ヲ形成ス。本報告ハ之ヲ黨ト稱ス。黨ノ大ナルモノハ其領域數十社ニ跨リ小ナルモノハ僅ニ一社域ノ一部分ニ止ル。從テ單社又ハ群社ガ一黨ニ支配セラルルトキハ其統治機關ハ單一ナレトモ數黨ニ支配セラルルトキハ複雜ナリ。本報告ハ前者ヲ單黨社團トシ後者ヲ複黨社團トス。詳細ハ第二門社會狀態ノ部ニ說述スヘシ

祭團ハ祭祀ノ種類ニ依リ大小アリ。卽一黨ニテ一祭團タルアリ、一社ニテ一祭團タルアリ、或ハ一群社ニテ一祭團タルアリ。同一祭祀ト雖モ番社ニ依リテ其組織ヲ異ニスル所アリ。例ヘハ甲群社ニ於テ或祭祀ヲ各黨別々ニ行フモ乙群社ニ於テハ群社內ノ各黨共同シテ一團ト爲リテ之ヲ行フガ如シ。要スルニ祭團ハ各黨別々タルヘキモノナリト雖其申合ニ依リ又ハ古來ノ慣例ニ依リ相共同シ一社又ハ一群社ニテ行フモノトス。從テ又其申合ニ依リテハ何時ニテモ之ヲ分テ數箇ノ祭團ト爲スコトヲ得ヘシ

(ろ)祭祀ノ機關 ハ番祀トス。番祀ニ付テハ既ニ前欵ノ中ニ述ヘタル所ノ如シ

左ニ重ナル番社ニ就テ調査シタル各祭祀團體ノ組織及其機關ヲ掲ク

(二)上きりせん番諸社

(い)祭團 本番ノ諸社ハ一社ニテ一ノ番社團ヲ成シ而シテ同時ニ一ノ祭團ヲ成ス

(ろ)機關 トナ社ニ於テ番祀ハ「ルガス」ト云フ。唯一人世襲ナリ。其報酬トシテ社祭ノ時各戶ヨリ肉若

ハ粟ヲ取ル　マガ社ニ於テハ現時番祝ナシ從テ祭祀ハ其門ヲ同クシテ各戸別々ニ之ヲ行フ

(三)るかい番諸社

(い)祭團　本番ノ諸社ハ一ノ番社團(單社又ハ群社)ニテ一ノ祭團ヲ成ス。詳言スレハサホカヌ、アテル、ライブアヌ諸社皆單社ニテ一ノ祭團タリ。ブダイ群社、ダテル群社ハ各群社ニテ一ノ祭團タリ

(ろ)機關　各祭團ニハ番祝男一人アリテ祭事ヲ主ル。此ハ一定ノ系統アル者ヲ取ル。但シブダイ群社ニハ現時番祝ヲ缺ク。是老番中祭事ニ通シ神慮ニ合スル者ナキニ因ルト云フ

(四)らばる番諸社

(い)祭團　本番諸社ハ概シテ一社ニテ一祭團ヲ成ス。但シ上パイソン社ハ其内ノ數部落各一ノ祭團ヲ成ス

(ろ)機關　一祭團ニハ一人ノ男祝アリ。祭事ヲ主ル。別ニ番祝ト爲ルヘキ系統アルニ非ス。社民協議シテ適當ノ者ヲ選フ。但シ上パイソン社ニハ現時番祝ナシ。故ニ共同祭事ハ門ヲ同クシテ各戸別々ニ之ヲ行フ

(五)ぶつる番マヌル群社

(い)祭團　マヌル社ニハ三部落アリテ各別ニ祭團ヲ成ス。又ダラダライ社ハ一社ニテ一祭團ヲ成ス。但シ首級收藏祭ハ全群即マヌル、ダラダライノ兩社合シテ一團ヲ成ス

(ろ)機關　各祭團ニハ男女各一人ノ番祝アリ。但シトマラロカヌ部落ハ(大頭人ノ家ノ所在地ファン)ニハ二人ノ男祝アリテ交代ニ祭事ヲ主ル　番祝ハ家系ニ拘ラス瓢卜ヲ以テ祭事ニ熟達スル者ヲ舉ク。男祝ニハ大頭人家ヨリ土地ヲ貸シ農租ヲ免ス。首級祭(全群其首架ヲ共同ニス)ハ全群共同ニ行フ。此場合ニハ全群ノ番祝

共同シテ之ニ當ル

(六)同番下パイワヌ群社

(い)祭團　本群社ニハ六頭人家アリ各別ニ一祭團ヲ成ス。但シ獵神祭ハ全群一團ト爲ル

(ろ)機關　各祭團ニハ男女各一人ノ番祝アリテ祭事ヲ主ル。但シ獵神祭ハ全群一團ト爲リ諸番祝ノ中ニテトサビキ家其主祝タリ

(七)同番マカザヤザヤ群社

(い)祭團　マカサヤザヤ、パイルス、サンサカルノ各社ハ一社ニテ一ノ祭團ヲ成ス

(ろ)機關　各祭團ニハ男女各一人ノ祝アリ。男祝ハ「パラカジャイ」ト稱スレド女祝ハ「パツイカ・ナ・マラダ(巫老)ト稱ス。何レモ別ニ家系ナシ祭事ニ通スル老番又ハ巫ヲ以テ之ヲ充ツ

(八)同番カザザラヌ社

(い)祭團　當社ニ於テスルジャ部落ハ別ニ一祭團ヲ成ス。アマソヌ外三部落ニハ數多ノ小黨分立スレドモ合シテ一祭團ヲ成ス。但シ祭祀ノ一部ハ各黨別々ニ行フ

(ろ)　機關　當社(スルジャ除ク以下皆同シ)ニハ女祝全社ニ唯一人アリ。而シテ男祝ハヨルババデス、ツロボ、プトアス、アプルン、クダルンノ五黨ニ各一人アリ。他ノ諸黨ハ右五黨ノ何レカニ合ス。女祝ハ必クダルン家ノ系統ヨリ出テ男祝ハ頭人ヨルババデス家ノ系統ヨリ出ス　粟、稗及天候ニ關スル祭祀ハ一社共同シ女祝之ヲ主ル但シ粟收穫後祭ノ後ニ弓ヲ引クハ獵神祭ニ於ケル男祝之ヲ主ル　首級收藏祭ハ一社共同シプタルン家ノ男祝之ヲ主リ他ノ男祝之ヲ助ク　獵神祭ハヨルババデス、ツロボ、プトアヌノ三黨別々ニ行ヒ其黨ノ男祝之ヲ主ル　五年祭ハ最初全社合同シテ行フ時ニハ女祝及ヨルバ

バテス家ノ男祀其主祭ト爲リ而シテ他ノ男祀助祭ト爲ルモ各部落別々ニ之ヲ行フ時ニハ其部落ニ在ル各男祀其祭事ヲ主ル

(九)同番クワルス外數社　スルジャ部落及マシシ、クワルス、チャコボジ、ブンテーノ四社ニ於テハ何レモ一社ニテ一祭團ヲ成シ男女各一人ノ番祀アリテ祭事ヲ主ル。但シクワルス社ノ五年祭ハ二箇所ニ別レテ毬突ヲ行フヲ以テ其ガ爲ニ別ニ男祀一人ヲ置ク

(十)同番カピヤかヌ社

(い)祭團　ジグロル、ラリヤバヌノ兩黨各一祭團ヲ成ス。但シ其祭日ヲ同クス

(ろ)機關　各黨ハ男女各一人ノ番祀ヲ置キ女祀ハ農耕ニ關スル祭祀ヲ主リ男祀ハ狩獵及出草ニ關ル祭事ヲ主ル。但シ五年祭ハ二箇所ニ別レテ毬突ヲ行ヒ且古代ノ頭人家ヲ祭ル爲メニ別ニ一人ノ女祀及五人ノ男祀ヲ置キテ之ヲ助ク

(十一)北はいわ番チジャカブス社

(い)祭團　當社民ニハちも派トぱいわぬ派トアリ。五年祭ノ前祭ハ兩派別々ニ行ヒ後祭ハ合同シテ行フ。他ノ祭祀ハ兩派合シテ一祭團ヲ爲ス。唯粟ニ關スル祭祀中其收穫後祭ハ之ヲ別々ニス

(ろ)機關　兩派ヲ通シテ男女ノ番祀各一人アリ。男ハ「パラカジャイ」ト云フモ女ハ單ニブリガヨト云フノミ。男祀ハ昔ハ東(番ジャヤス)家ノ當主代々之ヲ掌リシガ今ハピチ、ウヌ家之ニ代リ世襲ナリ。當主若シ祭事ヲ能クセサルトキハ同家系統者ヨリ選任ス。之ニ對シ大頭人ロバニヤウ家ヨリ四箇所ノ耕地ヲ貸與シ農租ヲ免ス。此耕地ヲ無償ニ貸スヲビニテジョ(番語「テジ」ハ祭祀ノ義)ト云フ。他ノ頭人家ヨリハ毎年粟數把及豚肉等ヲ贈テ謝ト爲ス。當社ニハ別ニ祭後ニ狩獵ヲ行ヒテ其肉ヲ番祀ニ取ル慣習ナシ。女祀

ニ對シテハ祭祀ノ都度大頭人家ヨリ魚肉、餅等ヲ與ヘテ謝ト爲ス

(十二)同番クナナオ社

(い)祭團 當社ニハテリブカヌ、イラダヌノ兩黨アリ各別ニ一祭團ヲ爲ス。但シ其祭日ヲ同クス

(ろ)機關 各黨ニ男女各一人ノ祝アリ。共ニ「バラカジャイ」ト稱ス。男祝ハ祭事ニ通シタル番丁ヨリ、女祝ハ巫ノ中ヨリ瓢トニ依テ之ヲ選任ス　男祝ハ祭後狩獵ヲ行ヒタルトキ其獲物ノ肉少許（横腹ノ所四指濶）ヲ取リ女祝ハ粟祭ノ後各戸ヨリ餅一塊ヲ取ル

(十三)同番ボカリド社

(い)祭團 本社ハ一社ニテ一祭團ヲ成スト雖モ祭祀ハ七箇所（即現時ノ三頭人家及古代ノ四頭人家ノ住所ノ舊址）ニ分レテ行フ。社民ハ何レニ赴クモ妨ナシトス。各所ニ一人ノ男祝ヲ置ク　社神祭ハ三頭人家ニ別レテ行フ亦一所ニ男祝一人アリ　獵神祭ハイチヨチヨ、アルブアヌ（舊社址）ノ二箇所ニ別レテ行ヒ各所ニ一人ノ男祝ヲ置ク

(ろ)機關 上記ノ祝ハ「パラカジャイ」ト云ヒ何レモ祭事ニ通スル番丁ヲ選任ス。尚粟ニ關スル祭祀ノ爲ニ女祝一人アレトモ單ニ巫ト云フノミ巫ノ中ヨリ其都度之ヲ選任ス

(十四)同番プツンロク社　一社ニテ一祭團ヲ成ス。男祝二人女祝一人ヲ置キテ祭事ヲ主ル。男祝ハ「パラカジャイ」ト云ヒ瓢トヲ以テ選任シ女祝ハ單ニ「ブリカオ」ト云フノミ最老ノ巫ヲ以テ之ニ當フ

(十五)同番パイルス社　ニ於テハ

(い)粟祭及稗祭　ハ一社ニテ一祭團タリ。此ニハ男祝ナクシテ唯一人ノ女祝アリ瓢トニテ選任ス。單ニ「ブレガオ」ト云フノミ

(ろ)五年祭　ハチャマチャアヌ、チャロイゲ、アウリバヌノ三頭人家別々ニ行フ。但シ社民ハ何レニ赴クモ可

ナリ。番祝ハ各黨ニ一人アリ瓢トニテ選任ス。但シチャマチャアォ黨ノ祝ハ必一定ノ家系ヨリ出テタルモノナルヲ要ス

(十六)同番リキリキ社

(い)祭團 當社ニ十頭人家アリテ各一祭團ヲ爲ス。但シ五年祭ハジャウガォ、マリガリン、オブジョンノ三小黨ハジャコジャコツ黨ニ合シ、カカチアヌ黨ハジャジャスプル黨ニ合シ、カズズジャヌ、タジマラオノ二小黨ハカザギザヌ黨ニ合シラルホク黨ハ獨自ニテ行フガ故ニ四祭團ト爲ル

(ろ)機關 各黨ニ一人ノ番祝ヲ置ク。男祝ハ「パラカジャイ」ト云フモ女祝ハ單ニ「プレガオ」ト云フノミ。何レモ番丁又ハ巫ノ中ヨリ瓢トヲ以テ定ム

(十七)同番コワバル群社

(い)祭團 チェーババオ、コワバル、ワラジノ三社ハ各一ノ祭團ヲ成ス。但シチェーババオ、コワバルノ二社ハ其祭日ヲ同クス

(ろ)機關 一ノ祭團ニ男女各一人ノ番祝アリ。男祝ハ一定ノ系統アル者ヨリ選任シ女祝ハ巫ノ中ヨリ瓢トヲ以テ選任ス。男祝ハ頭人ヨリ農租ノ幾分ヲ輕減セラレ又祭後ノ獵肉少許ヲ分與セラル

(十八)こほじ番諸社 本番ハ祭祀ニ依テ其團體ヲ異ニスルコト左ノ如シ

(い)五年祭 ハ草山社ヲ除キ他ノ諸社ハ合シテロバニヤウ黨及チュールン黨ノ二祭團ト爲リ內文社ニ於テ同日ニ行フ。此兩黨ニハ番祝男女各一人外ニ副祝男數人アリ祝ハ之ヲパラカジャイー云ヒ副祝ハ之ヲ「プサランャヌ」ト云フ。ロバニヤウ黨ノ男祝ハトコン家代々之ニ當リ女祝ハ頭人家ノ系統タル者ニ限リ現時トピリ・某之ニ當リ副祝ハバジャイジャイ及バアブスン兩家之ニ當リチュールン黨ノ男

祝ハパリゲル家代々之ニ當リ副祝ニハパタラク、スルヌン兩家代々之ニ當ル。而シテ女祝ハ頭人家ノ系統タル巫女ニ限リ現時モアカイ・某之ニ當ル　又別ニパサラコブ黨ハチュールン黨ニ合シ一人ノ男祝アリ。現時アジャジャバス家ノ當主之ニ當ル

草山社ハ別ニ一團ヲ成シ男女各一人ノ祝ヲ置ク

(ろ)首級收藏祭　ハ草山社モ亦來加リロバニヤウ及チュールン兩黨各一團ト爲リ各黨ノ男祝之ヲ主リ副祝之ヲ助ク

(は)其他ノ祭祀　ハ一社或ハ數社ニテ一祭團ヲ成ス　若シ祭團中ニ祝ナキ所ハ副祝、副祝モナキ所ハ代管又ハ巫ノ祭事ニ長シタル者ヲシテ祭事ヲ主ラシム即左如シ

(1)**內文、中文、ケナシャン、アシュブンノ四社**　ハ合シテロバニヤウ、チュールンノ兩團ト爲リ各其大頭人家ニ於テ行フ

(2)**ブンシジャヌ、ブリイシノ兩社**　ハ獵神祭ノミ內文社ニ合同シ其餘ハ自社ニテ別ニ行フ。其時ハ代管自ラ其主祭ト爲ル。之ヲ「パサラジャヌ」ト云フ

(3)**內、外獅頭社**　ニ於テハ(一)獵神祭及社神祭ハ兩社共同ニ之ヲ行フ。獵神祭ニハ外獅頭社ノ頭人家代々其主祝ト爲リ內獅頭社ノ西方森林內「パラロボ」ニ於テ行ヒ社神祭ハ內獅頭社ノ頭人家代々主祭ト爲リ其家ニ於テ行フ。何レモ「ブサラジャヌ」ト云フ　(二)地神祭、粟祭、稗祭ハ兩社別々ニ行フ。此場合ニハ女祝一人ヲ置キ巫事ニ長シタル者ヲ推シテ之ニ當ツ單ニ「プリカオ」ト云フノミ

(4)**マリパ社方面**　內、外、中マリパ及チブッカダヌノ四社ハ合シテ一祭團ヲ成ス。男女各一人ノ番祝アリ。男ヲ「パサラジャヌ」ト云ヒスルヌン家(チュールン黨ニ屬シ當方面ノ總代管タリ)代々之ニ當ル。女ヲ「カチプ・プリカオ」ト云ヒ

スルヌン家ノ系統ニシテ祭事ニ通スル巫之ニ當ル

(5)草山社　ハ一社ニテ一團ヲ爲シ祭事ヲ行フ。其番祀ハ五年祭ノモノニ同シ

(十九)はりじやゃ番諸社

(い)祭團　本番諸社ハ一番社團ヲ以テ一ノ祭團ヲ成ス。卽牡丹群社（牡丹、女仍、中ノ三社）ハ一祭團タリ加芝來、高士佛、八瑤、竹、四林格ノ四社ハ亦各一祭團タルガ如シ。但シサブデク群社ハ元ハ一祭團タリシガ二三十年以前其中ノジジン黨（僅ニ十戸）ガ或ル事情ニ因テ別レテ一祭團ヲ立テタル爲ニ今日ニテハ本來ノ祭團ノ外ニジジン黨ノ一祭團アルニ至レリ

(ろ)機關　本番ノ各祭團（すかろ部落ヲ除ク）ニハ二種ノ祀アリ共同シテ祭事ヲ主ル。一ハパラカジャイ（正祀）ト稱シ男女各一人、他ハ「ポカスン」（副祀）ト稱シ男女亦各一人アリ。但シ社ニ依リテ「ポカスン」ノ一人又ハ二人ノ缺クコトアリ。祭祀ニ依リ數人ノ祀共同シテ之ニ當リ又ハ其内ノ男祀又ハ女祀ノミ之ニ當リ又ハ「パラカジャイ」ノミ之ニ當ル　何故ニ兩種ノ祀アルヤニ付之ヲ質シタルモ能ク其由來ヲ審ニセス或ハ北方ぶつる方面ヨリ來ルモノト東方ぱかろ方面ヨリ來レルモノトガ其派ヲ異ニシ別々ニ其番祀ヲ置キタルニ由來セスヤト思ハル　本番ニ於テ番祀ハ何レモ頭人ノ系統ナルカ又ハ番祀トシテノ家ノ系統タルモノトス。例ヘハ牡丹社ニ於テ男祀ハチャビダツ家、女タル正祀ハカパルア家、同副祀ハルジガジク家ノ系統ニシテ其家ハ何レモ舊頭人家ナルガ如シ。又高士佛ニ於テハ男祀ハパリプジ家、女祀ハマジャカス家、男タル副祀ハジマチャク家、女タル副祀ハジルツ家ノ系統ニシテ此等ノ家ハ何レモ頭人若ハ之ニ準スヘキ家柄ナルガ如シ　本番諸社ニ於テハ祭後ニ狩獵ヲ行ヒタルトキハ其肉ヲ祀ニ與ヘテ謝ト爲ス。例ヘハ高士佛社ニ於テ五年祭ノ前祭又ハ後祭ノ後ニ行ヒタル狩獵

ノ獵租ハ之ヲ男女正副ノ四祝ニ平分シ稗祭、粟祭、地神祭ノ獵租ハ副祝兩人ニ取リ其少部ヲ正祝ニ分チ又牡丹社加芝來社ニ於テハ祭後ノ獵租ハ之ヲ各祝ニ平分スルガ如シ

第二　共同祭祀ノ儀式

共同祭祀ハ前目ニ掲ケタルモノノ外尙左ニ掲クル次第ニ依テ行ハル

(一)準備　準備ノ行事中其重ナルモノハ左ノ如シ

(い)祭日ノ協定　祝、頭人ト協議シ祭日ヲ定メ之ヲ一衆ニ通知ス。若シ社ヲ異ニスルトキハ特ニ使ヲ遣シテ之ヲ通知ス

(ろ)豫告祭　五年祭、粟收穫後祭、地神祭、社神祭、首級收藏祭等ノ如キ大祭ハ本祭ニ先チ豫メ祖靈ニ對シ之ヲ行フヘキ旨ヲ告クルノ式ヲ行フ。こぼじ番內文社ニ於テハ五年祭ハ本祭五六箇月前ニ於テ、又粟ノ播種後祭及收穫後祭ハ本祭ノ前夜ニ於テ大頭人家前庭ノ立石(番語「ジかり」)ニ對シ太祖ノ靈ヲ呼ヒ年月到リタルニ付キ當ニ五年祭又ハ何々祭ヲ行フヘキ旨ヲ告ク。他ノ番社ニ於テモ其方式コソ異レ大祭ニハ皆豫告ノ式アリ

(は)祭饌、祭器ノ用意　本祭ニ先テ豫メ祭祀ニ入用ノ物ヲ用意ス。卽粟酒(祭前四五日ニ於テ釀造ニ著手ス粟酒ハ四五日ニシテ成ルニ因ル)豚(概シテ祭日ニ屠ルモ時トシテ其前夜ニ屠置クコトモアリ)粟餅(豫メ粟ナ搗テ粉トシ置ク餅ハ祭日ニ作ル)ヲ用意シ五年祭ニハ特ニ竹槍及毬ヲ用意スヘキガ如シ。五年祭ノ竹槍ハ一箇月乃至數月前ニ取リ其後之ヲ接テ槍ト爲シ一定ノ場所ニ持來シ毬突ヲ練習ス。最後ニ祭場ニ持來シ此所ニテ又毬突ヲ練習ス。其都度祝之ニ對シテ饌ヲ投シテ祈禱ヲ行フ

(に)祭場ノ整頓　祭場ハ豫メ之ヲ整頓スルコトヲ要ス。特ニ五年祭ニハ毬突ヲ行フガ故ニ祭前數日

祭場ノ雜草ヲ伐拂ヒ之ニ通スル路ヲ開キ毬突用ノ架ヲ設ケ以テ祭場ヲ整頓セサルヘカラス又番社ニ依リテハ五年祭及粟收穫後祭ノ前日ニハ各家其ノ内外ヲ清掃シ屋根障壁窓戸等ニ茅又ハ竹枝ヲ挿シテ陰翳ヲ作ル所アリ（番語「パスルム」室明ルトキハ靈羞テ入ラサルニ因ル）

(二)本祭

(い)主タル行事　ハ喚靈、供饌及祈禱ノ三ヨリ成ル。此ハ既ニ前目中ニ於テ述ヘタル所ナリ。尚此外大祭ニハ送靈ノ式ヲ行フ即靈ニ對シ祭祀終了シタルニ付キ速ニ歸去ルヘキ旨ヲ告ケ之ニ供與スヘキ穀肉、衣裝其他ノ物件ヲ持シテ郊外ノ一定ノ場所ニ至リ之ヲ棄テ歸來スルコトナリ

(ろ)從タル行事　祭祀ニハ其行事中唯其個ノ靦ニ依テ行フニ止マルモノアリ或ハ共同ニ行ヒタル外尚更ニ各戸ニ於テ其家靦又ハ巫ニ依テ別々ニ行フモノアリ　又祭祀ニ依リテハ鞦韆ヲ弄シ人形ヲ作リ毬ヲ突キ射ヲ試ミ或ハ歌踊ヲ行フ等ノ行事アリ。此等ハ何レモ以テ神靈ヲ慰メ一面ニ一衆相和樂スル爲ニ行フモノトス

(三)祭後　祭後ノ行事ニハ種々アレトモ其重ナルモノ左ノ如シ

(い)狩獵　共同祭祀中ハ狩獵、農耕及出草ヲ禁ス。或ニ之ガ終了シタルトキハ先其祟ヲ解キ狩獵ヲ行フ。之ヲ「マブソア」ト云フ。此狩獵ハ其祭團ノ壯丁一團ト爲リテ行ヒ其獲物ノ一部ヲ番靦ニ與フ（通常ノ狩獵ニ於テハ其得タル肉ノ一部ヲ頭人ニ納ルル之ヲ「バテス」ト云フ）昔ハ五年祭、粟祭又ハ稗祭ノ後出草ヲ行ヒタルモノアレトモ今之ヲ實行スルモノナシ。但シ番社ニ依テハ單ニ其遺型ト目スヘキモノヲ存ス

(ろ)諸種ノ祈禱　祭祀中祖靈ニ從ヒテ來リタル惡靈ガ祭後尚社内ニ留リ社民ニ禍ヲ與フヘキヲ以テ五年祭又ハ粟收穫後祭ノ後ニハ各家ニ巫ヲ招キ家族、家畜又ハ家具ニ對シテ不吉ヲ禳ヒ健康又

ハ福利ヲ増ス樣ニ祈禱ヲ行フコトアリ

第二項　五年祭

第一目　通說

第一　總說

(一)五年祭ノ意義　本族中ぶつる番及ぱいわん三番ニハ毎五年ニ一回一衆合同シテ祖靈ヲ祭祀スル慣習アリ。茲ニ之ヲ五年祭ト稱ス

(附記)五年祭ハ上さりせん、らばる及るかいノ三番ニハ行ハレス。蓋此等ノ三番ハぶつる番ト其祖先ヲ異ニスルモノナルヘシ　るかい番守ポカッ社民ノ語ル所ニ據レハ元來るかい番ニハ五年祭ナルモノナカリシニ幾十年カ以前ニ試ニぶつる番ニ倣ヒテ之ヲ行ヒタリシニ其時社民ノ死亡シタル者多カリシヲ以テ其後ハ再ヒ之ヲ行ハスト

五年祭ハハダイ、下パイワン、プユマノ三社ハ唯一回ノ祭祀アルノミナレトモ其他ノ番社ハ概シテ前後二回ノ祭祀アリ　前祭ハ祖靈ノ來社ヲ迎ヘ祭ルモノニシテ「マジュボク」又ハ「ジャジュジャト」ト稱ス。「マジュバク」ノ本義審ナラサルモ「ジャジュジャト」ハ「ジュジャト」卽槍ノ語ヨリ來ル。是此ノ祭ハ竹槍ヲ立テ毬突ヲ行フガ故ニ然ク名付ケタルナルヘシ　後祭ハ「プサオ」ト云フ。「プサオ」ハ送ルヲ意味ス。祖靈ノ歸去ルヲ送ルノ義ナリ

(二)五年祭ノ趣旨　本族ノ始祖ノ靈ハ常ニカブルガヌ(北大武山)ニ在リト雖毎五年一回現在子孫ノ生活狀態ヲ視察センガ爲ニ其所ヲ立出テ南下シ往ク往ク其部落ニ立寄リテ之ニ農耕、狩獵ノ幸福ヲ遺シツツ南端猫仔鼻ニ至リテ引返シ元ト來シ路ヲ北上シカブルガニ歸着ス。故ニ子孫タルぶつる番及

ばいわぬ三番諸社ノ民ニ於テハ其太祖ノ靈ガ南下スルトキト北上スルトキトノ二回ニ之ヲ迎ヘテ盛ニ祭祀ヲ行ヒ以テ自家ノ幸福ヲ祈ルナリ。又此際ハ太祖ノ靈ニ從ヒテ社民各自ノ家祖及代々ノ諸靈モ來ルガ故ニ之ヲ迎ヘテ自家（舊屋アル者ハ其舊屋內）ニ祭リ暫ク其所ニ滯留セシメ太祖ヲ還禮ヲ畢テ歸山ノ途次其社ニ來リシ際其家祖及代々ノ靈モ之ニ從ヒテ歸ルガ故ニ再ヒ之ヲ祭リ然後諸種ノ祭饌（みやげト爲ス品）ヲ持シ之ヲ社外ニ送ルナリ

（附記）ぶつる番及ばいわ、三番ノ發祥地ト稱セラルルパダイ社ニハ下ノ如キ口碑アリ　往古我さりせ、族ノ祖神七人大武山ヨリ降テパダイ、ノ地ニ居住セリ。其神ノ中ニテブラルガ、ハ大武山ニ登リソレヨリ昇天シテ雷神ト爲リブラルヤ、ハ陰暮南溪ニ沿ヒテ平地ニ出テ平埔番ノ祖ト爲リタリ。此兩神同社ヲ出ヅルトキ社民ニ遺言シテ我等出去リタル後五年ヲ經ハ當社ニ五色ノ毛彩ヲ有スル豚二隻ヲ生スヘケレハ之ヲ屠リ一ハ大武山ニ供シ一ハ溪ニ流シ以テ我等兩人ノ靈ヲ祭ラレタシト曰ヘリ。其後五年ヲ經テ果シテ五色ノ毛ヲ有スル豚ヲ生シタルヲ以テ兩祖神ノ遺言ニ從ヒ祭祀ヲ執行セシガ其後恒例ト爲リ今日マジ、ホクノ起原ヲ爲セリ云々

此口碑ニ從ヘハパダイ、社ニ於テハ五年祭ハ專ラブラルガ、トブラルヤ、トヲ祭ルモノタリト雖モカザヽザ、クワルス、カピヤガ、カザザラ、等ノぶつる番諸社及南方ノぱいわ、三番ノ諸社ニ於テハ五年祭ニブラルガ、及ブラルヤ、ヲ祭ルト曰ハスシテ專ラサジムジ及其社頭人家ノ祖先ヲ祭ルト曰フ。此サジムジハ本族ニ農耕、狩獵等ノ方法ヲ授ケタル神ナリ。故ニ五年祭ハ右ノパヽイ社ヲ除ケハ先此サジムジ及祖先ノ靈ヲ祭ルモノト解スヘキモノトス

(一)祭團　五年祭ハ一黨若ハ一社團ヲ以テ一祭團ヲ成ス。卽（一）北ぱいわぬこぱじノ兩番ニ於テハ概シテ一黨ニテ一祭團ヲ成ス。但同一社團ニ數黨アルトキハ其數黨ハ祭日ヲ同クス（二）ぶつる、ぱりじゃお兩番ニ於テハ概シテ一社團ニテ一祭團ヲ成ス

(二)機關　一祭團ニハ男女各一人ノ番祝アリ共同シテ祭事ニ當ル。但シぱりじゃお番諸社ノ多クニハ更ニ男女各一人ノ副祝(番語「ボカス」又ハ「バタブラカヌ」)アリテ正祝ヲ助ケこぱじ番內文社ノ祭團ニ在リテハ數人ノ男副祝(番語「パサラジャマ」)アリテ之ヲ助ケぶつる番下パイヴヌ社ニ在リテ數黨ノ番祝會同シ其中ノ一人主ト爲リテ之ヲ行フ

第三　祭祀ノ時期及場所

(一)祭期　既ニ述ヘタルガ如ク五年祭ニハ前祭ト後祭トアリ。而シテ前祭ハ祖靈ガカブルガヌヲ發シテ次第ニ南下スル場合ニ之ヲ迎ヘ祭リ後祭ハ祖靈ガ本島ノ南端鵝鑾鼻ヨリ引返シ元ト來シ路ヲ北上シ復ヒカブルガヌニ歸ル場合ニ之ヲ見送ルモノナルガ故ニ最南ノクラル社ニ於テハ兩祭僅ニ一箇月ヲ隔ツルニ過キサルモ北スルニ從ヒ其間隔漸ク長ク內文社ニ於テハ約六箇月、ぶつる番諸社ニ於テハ一箇年餘ヲ隔ツルニ至ル

祭祀ノ期間ハ諸社ニ依リ長短アルモ多クハ兩祭共ニ四五日間程トス。但シ前祭ニハ毬突ヲ行フガ故ニ其準備ノ爲ニ少クモ一箇月多キハ五六月ノ日子ヲ費ス

(二)祭場　ハ頭人家ノ祖先ガ居住シタリシ住屋ヲ以テ之ニ充ツ(祭屋)若其家址ガ舊社ノ跡ニ在ルトキハ其舊社跡(「カウマカヌ」)ニ於テス。之ニ付テハ既ニ前項中祭祀ノ場所ノ條ニ說キタリ。而シテ此祭祀ニハ毬突ヲ行フガ故ニ祭屋ノ前ニ廣庭アルヲ要ス。五年祭ノ祭場ヲ「マジュボカヌ」又ハ「ジャジュルタ」ト稱ス

第四　祭祀ノ方式

五年祭ハ既ニ述ヘタルガ如ク前後兩回ニ行フ

其方式ハ番社ニ依リテ多少相異ナル所アルガ故ニ詳細ハ次目ニ讓リ茲ニハ各社ニ通シタル祭儀ノ大體ニ付キ說述ス

(一)前祭ノ次第

(い)準備

(1)豫告祭　前祭ノ二月乃至六月ノ前ニ於テ番祀祖靈ニ對シ本年當ニ五年祭ヲ行フヘキ旨ヲ告ク此ハ頭人ノ祭屋内ニ於テハ其前庭ニ在ル立石(番語「ジョカリ」)ニ對シテ行フ

(2)祭檳、祭毬ノ製作及毬突ノ練習　豫告祭ノ後男祝番丁ヲ率キテ竹林ニ入リ毬突用ノ槍ヲ作ルヘキ大小ノ竹ヲ擇ミ之ヲ伐ル。後之ヲ一定ノ場所ニ運ヒ火ニ炙リテ之ヲ矯メ其曲レルヲ直クシトリ大小二本又ハ三本ヲ接合シテ槍トス。後之ヲ社ノ入口ニ持來シ又相思樹ノ皮若クハ萵樹ノ葉ヲ以テ毬ヲ作リ右ノ槍ヲ以テ之ヲ突クノ練習ヲ行フ。祭祀前一二日其槍ヲ毬突場ニ移ス。其竹ヲ伐出ストキ、接合スルトキ、社ノ入口ニ運來ルトキ、始メテ毬突ノ練習ヲ行フトキ一々不祥ヲ祓フノ祈禱アリ。男祝又ハ女祝之ヲ行フ

祭祀用ノ槍之ヲ「ジュジャト」ト云フ。大小二本又ハ大中小三本ノ竹ヲ接合シテ作ル。其大ナルハ槍ノ礎(番語「カボロ」)ト爲ルモノニシテ刺竹(番語「カバヤー」)ヲ用ヒ、小ハ其鋩(番語「ツロ」)ト爲ルモノニシテ細長ノ竹ヲ用フ。中ハ槍ノ中幹(番語「カル」)ト爲ルモノニシテ我邦ノ淡竹ニ似タル竹ヲ用フ

槍ノ數ハ社ニ依テ古來一定スルモノト一定セサルモノトアリ。何レモ頭人ニ屬スルモノハ最長ク

之ニ反シテ男祝ノ持スルモノハサジムジ(神名)ノ槍ト稱シ甚短ク之ニ紅布及鈴ヲ附スルヲ例トス
祭毬ハ之ヲ「カプルン」ト云フ。相思樹ノ皮又ハ葛藤ヲ纒メテ作ル。其大サ經約五寸。其數ハ四箇乃至十箇祭團ニ依リテ同シカラス。之ニ粟種、芋種、獵獸、家畜、敵、健康等ノ名稱ヲ附ス。此等ヲ高ク天ニ向テ拋ケ竹槍ヲ以テ其落來ル所ヲ突留ム。蓋シ天空ヨリ降來ル諸種ノ幸福ヲ受クルノ義ナリ。或ル女祝ハ槍ヲ稱シテ梯子ト稱セリ。是幸福ガ天上ヨリ之ヲ傳ヒテ降リ來ルニ因ルナリ

(い)**祭場ノ整頓**　祭祀前一日又ハ二日祭場ヲ清掃ス、之ヲ「マサク」ト云フ。草ヲ拔クノ義ナリ。又祭場ニ祭槍ヲ支持スル支棚(番語「サカル」)ヲ設ク之ヲ「ツマカル」ト云フ

(ろ)**祭祀**　第一日ニハ男女一同祭場ニ集ル。此時男祝立テ北大武山ノ方ニ向ヒ大聲祖靈ヲ喚ヒ來シ後一同之ニ對シテ供饌ノ禮ヲ行フ。多クノ番社ニ於テハ祝ガ供饌ヲ爲シタル後各家ハ其住屋內(傳作屋又ハ別ニ設ケタル假屋)ニ於テ更ニ別々ニ各自ノ祖靈ヲ祭リ終テ毬突ヲ行フ。毬突ハ其趣旨太祖ノ持來セル農作、狩獵、家畜、出草等ノ幸福ヲ享受センガ爲ニ行フモノニシテ本祭祀中ノ主要ナル行事ニ屬ス。第二日以後第一日ト同一ノ式ヲ行ヒ第四日若ハ第五日ニ至リ祖靈ヲ南方ニ送出シ後槍ヲ倒ス　祭祀中ハ何レモ飲宴歡ヲ盡スヲ例トス

(は)**祭後ノ行事**　祭後ニハ「マブソアマ」ト稱シ狩獵ヲ行ヒ又社內各戶ニ於テ巫ヲ招キ諸種ノ祈禱ヲ行フ

(二)後祭ノ次第

(い)**準備**　後祭ニハ酒食ヲ用意スルノミニシテ別ニ他ノ準備ヲ要セス唯。前祭後、日久シク祭場ノ荒蕪セルモノハ再ヒ之ヲ伐開キ清掃スヘキノミ

第二圖　五年祭毬突ノ圖

（ぱりじゃお番四林格社ニ於テ）



(ろ)祭祀　祖靈ノ南方ヨリ歸來スルヲ迎ヘテ祭場ニ於テ供饌ヲ行フコト前祭ノ如シ。但シ逐突ヲ行ハス　斯クスルコト數日ノ後諸種ノ供物ヲ取揃ヘ籠ニ入レテ祖靈ヲ送リ社外一定ノ場所ニ至リ之ヲ投棄シテ歸ル

(は)祭後ノ行事　五年祭ノ後ニハ多ク狩獵ヲ行フ。古代ニハ屢出草ヲ行ヒタル蕃社アリタリ。又各戶ニ於テ巫ヲ招キテ惡靈ノ尙家內ニ留マルモノヲ攘ヒ或ハ人、家畜及家具ニ對シ健康及增益ノ祈禱ヲ行フヲ例トス

第五　禁忌

五年祭ニハ父祖代々ノ諸靈及近年ニ死亡セル家族ノ諸靈ハ其祖ト共ニ來社スルガ故ニ各家族其行狀ヲ謹ムヘキハ勿論假ニモ禁忌ニ直ル行爲ヲ爲スヘカラサルモノトス　祭場及逐突場ノ內ニハ妊娠セル者、子ヲ生ミテ未タ久シカラサル者及此等ノ夫ハ入ルコトヲ得ス。又各家別々ニ其祖靈ヲ祭ル場合ニハ此等ノ者ハ其室ヲ避ケサルヘカラス。若之ヲ犯ストキハ恐ラクハ其胎兒及生兒ニ害アラン　五年祭ノ槍竹ニハ月經アル婦女、妊娠者之ニ觸ルルコトヲ得ス。若之ヲ犯ストキハ其槍汚ルルガ故ニ逐突ヲ行フ際ニ折ルルコトアルヘシ。女巫ガ槍ニ對シテ屢祈禱ヲ行フハ此等ノ不淨ヲ禳フノ意ニ出ツ　五年祭ハ古代ノ慣例ニ從ヒテ之ヲ行ハサルヘカラス。若其方式ヲ誤ルトキハ祭靈怒テ大害ヲ起スヘシト云フ

第二項　各說

第一　ぶつる番パダイ、下パイワヌ及ブユマ三社

此三社ノ五年祭ハ何レモ唯前祭アルノミニシテ後祭ナシ。而シテ前祭ハ稗ノ收穫前ニ行フ

(一)パダイン社　當社ハぶつる番諸社民ノ祖先ノ出テタル本源地ニシテ諸頭人家ノ舊址ハ社域內ニ在ル(今廢滅シテ明ナラス)ヲ以テ昔時ハ毎五年ノ祭日ニハ諸社ヨリ頭人、番丁來リ集リ盛大ナル祭祀ヲ行ヒタリシモ後代諸社民ノ間ニ爭鬪ヲ生シ盛ニ馘首ヲ行ヒタルガ爲メ祭日ニ當社ニ會同スルコトヲ得スシテ終ニ今日ノ如ク諸社別々ニ此祭ヲ行フコトト爲レリ

現時當社ハ單獨ニ此祭祀ヲ行フ。而モ社民少ク且貧シキヲ以テ祭儀昔日ノ如ク盛ナルヲ得ス。又毎五年ニ之ヲ行フコトヲ得スシテ毎十五年ニ一回之ヲ行フ　祭期僅ニ一日豚ヲ屠リ酒ヲ釀シ以テ祖先ヲ祭ル。其ノ祭槍ヲ立テ毬ヲ突クコトハ他ノ南方諸社ノニ同シ。本社ノ祭槍ニ用ヰル竹ハ古例ニ依リマシリジ社ヨリ致スト云フ

(二)下パイワン社　當社五年祭ハ明治四十年(即內地人ノ始テ本社ニ入リタル年)以來廢シテ之ヲ行ハス。今老番ニ就キ曾テ當社ニ行ハレタル祭祀ノ次第ヲ聞ケハ左ノ如シ

當社ニハ六家ノ領人アリテ各一黨ヲ爲シ何レモ男女各一人ノ黨祝ヲ有スト雖モ五年祭ニハ共同シテ之ヲ行フ　先ツ稗ノ漸ク穗ヲ出シタル頃全社ノ壯丁出テテ竹ヲ伐來リ之ヲ以テ祭槍ヲ作リ毬突ヲ練習ス。槍ノ數ハ定ラス何人ト雖之ヲ立ツルコトヲ得。其中ニテ頭人ノ槍最長ク之ヲ「リバリブ」ト云フ。毬ハ五箇アリ。之ニ「カラ」(敵)「ブサム」(粟種)「タラヤマ」(芋種)「カサン」(豚)及「チブリバ」(交換品)ノ名ヲ附ス

祭期僅ニ一日各黨ノ女祝ハ其頭人家ニ至リ祖先ヲ祭リ(豚ヲ屠ル)社民各家亦餅ヲ供シテ祖先ヲ祭ル

ソレヨリ男祝ハ悉ク毬突場ニ至リ其中ノ一人北大武山ニ向ヒ祖靈ヲ呼ヒ之ニ對シテ饗饌シ後盛ニ毬突ヲ行フ　夕刻ニ至リ各家ノ一人靈ヘノ贈物(小衣、餅、肉、細袋)ヲ携ヘ郊外ニ至リ之ヲ地ニ棄テテ歸ル

此日各家茅ヲ以テ「パスルム」ヲ行フ(陰翳ノ義。クワルス社ノ部ヲ見ルヘシ)

(三)プユマ社　當社ノ五年祭ハバダイ社ニ行ヒタル後直ニ之ヲ行フ　開社ノ祖神サロリバクノ住址(キナバブカゴマト稱ス)ノ前庭ニ於テ行フ　此日黨祀豚ヲ屠テ首骨ヲ祭リ(祭員ハ當領ノ外叢藪片及肉ヲ包ミテ之ヲ館)次ニ頭人マバリーノ家ニ至リ道路ニテ惡靈ニ着カレサル樣、獵ニ獲物多キ樣ニ祈ル。次ニ黨祀ノ家ニ至テ穀類ノ豐熟スル樣ニ祈リ次ニ畑ニ至テ土地ノ崩レサル樣ニ祈リ次ニツマロケノジ゛ント云フ地ニ至リ槍、刀、弓矢、銃ニ對シテ其利ナル樣ニ祈ル　當社ニ於テハ此祭ヲ「マジニバクト稱セス「マリ゛トソ・リマカテンパレゴジア・ドモジャト」ト稱ス。五隻ノ豚ヲ屠テ槍ヲ祭ルノ義ナリ。然レトモ今日ハ別ニ槍ヲ立テ毬ヲ突クコトナク唯全社業ヲ休ミ酒ヲ酌テ遊フノミ

第二　同番デムル社

(一)總說　當社ニ於テ五年祭ハ別レテ二團ト爲リ即ズマララトルロアノ南黨ハ合シテチムル部落ノ入口ニ於テ、バツタル、プリダンノ兩黨ハ合シテヒナツラ部落ノ入口ニ於テ之ヲ行フ　此祭祀ハ内地人ノ入社シタル以來廢シテ行ハスト云フ。今當社老番ノ此祭ニ付キ語ル所ヲ聞クニ左ノ如シ

(二)前祭　ハ「ヅムラト」ト稱ス稗ヲ收穫スル前ニ行フ

(い)準備　先ツ「カキヅラタ」(槍ヲ取ルノ義)ト稱シ山ニ入リ竹ヲ採リ之ヲ以テ槍ヲ作リ祀之ニ對シハリシヲ行フ。槍ヲ立ツル家ハ古來一定セリ。別ニ「マカッブッブン」(青年ノ者)ノ槍アリ。此レハ練習ニ供スルモノナリ　次日ハ「マリギデル」ト稱シ藤蔓ヲ圓メテ拳大ノ毬五箇(一々之ニ名稱アリ下ハイリツ社ノ如シ)ヲ作リ之ニ組ヲ附ス　次日ハ「スマカキロオル」(「カキロオル」ハ支柵ノ義)ト稱シ祭場ニ支柵ヲ作リ夕刻ヨリ毬突ヲ始ム　次日ハバキ哥サオワ」ト稱シ壯丁等毬突ノ練習ヲ爲ス

(ろ)祭祀　第一日番丁等一同毬突場ニ集リ黨祀諸靈ヲ招降シ能ク毬ノ突得ル樣(同時ニ穀物ノ豐收及狩獵、出草ノ多獲ヲ願フナリ)

ニ祈リ毬突ヲ始メ後歌ヒ且踊ル　次ノ二日間ハ全社業ヲ休ミ酒ヲ酌ム　第四日一同毬突ヲ行ヒ午後「トモロク」ト稱シ槍ヲ撤シ後饌ヲ具シ靈ヲ郊外ニ送ル

(三)後祭　「キプサオ」ト稱ス。前祭ノ翌年稗ヲ收穫シタル後祭場ニ於テ祖靈ヲ祭リ夕刻ニ至リ各家ハ饌ヲ具シ靈ヘノみやげ物ヲ持シ靈ヲ送テ郊外ニ至ル

第三　同番タワルス社

(一)總說　當社ノ五年祭ハ二箇所ニ分レテ毬突ヲ行フ。一ハ頭人家ノ前庭、他ノ一ハ「ツリヤラ」ト稱スル地トス

(二)前祭

(い)準備　豫メ竹槍ヲ作ル。頭人家前庭ノ祭場ニ立ツル槍ハ「リバリブ」、「チャロア」ノ二本。「ツリヤラ」ニ立ツル槍ハ「ナボナボク」及「リニバラ」ノ二本ノミ名稱アリ。其他ニ數本アレトモ名稱ナシ。又豫メ藤蔓ニテ毬ヲ作リ之ニ「カジャ」(敵)、「バブイ」(猪)「ブサム」(粟種)「チャジャメ」(芋種)及「カサン」(豚)ノ名稱アリ

(ろ)祭祀　第一日各戸葉ノ附キタル儘ノ竹ヲ以テ住屋及穀倉ノ屋根ヲ覆ヒ又茅穗ヲ約一尺ニ伐リ之ヲ畑ノ周圍ニ立ツ。之ヲ「パスルム」(陰騭ヲ爲スノ義)ト云フ。後餅、肉、酒等ヲ俎上ニ陳シテ祖靈ヲ祭リ壯丁ハ毬突場ニ集リ槍ヲ立テ毬突ヲ行フ。之ヨリ毎日饌ヲ奠シ毬ヲ弄スルコト第一日ノ如シ。第五日夕刻ニ至リ槍ヲ撤シ饌ヲ具シ靈ヲ送ル

(三)後祭　翌年稗ヲ收穫シタル後祖靈ノ南方ヨリ歸來スルヲ迎ヘ酒饌ヲ供シテ之ヲ祭ル　夕刻ニ至リ竹筒ニ酒ヲ入レ古キ背負袋ニ聯杯、餅、古衣等ヲ入レ之ヲ持シ社外一定ノ地ニ至リ之ヲ地上ニ置キ靈ヲ呼ヒ之ヲ與ヘテ歸來ス

第四　同番カザザラヌ社

當社ニ於テ五年祭ハカザザラヌ及スルジャノ二祭團ニ分ル。今カザザラヌ祭團ノ行フ祭祀ニ付記述ス之ニ關シ同社駐在警察官野呂勝次郎氏ノ調査セシ所頗ル詳ナルヲ以テ主トシテ之ニ依ル

（一）本祭　ハ先ツ四部落合同シ開社ノ祖神ニ對シテ行ヒ後各部落別々ニ社民各自ノ祖先ニ對シテ行フ。今前者ヲ社祭トシ後者ヲ部落祭トス

（い）社祭　粟祭後約十日ヲ經タルトキ卽新曆九月中旬頃ニ行フ。カザザラヌ全社（スルジャ部落ヲ除ク以下之ニ倣フ）一團ト爲リパリラヤヌ部落ノマジリン家（頭人ヨルババデス家ノ祭屋）ニ於テ行ヒ女祝一人其祭ヲ主リ男祝四人之ヲ助ク。男祝ハヨルババデス家、女祝ハクダルン家ノ系統タル者ヨリ選任ス　其祭祀次第左ノ如シ

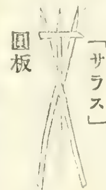
第一日全社ノ壯丁パリラヤヌ部落ニ集リ通路ヨリマジリン祭屋ニ通スル路ヲ開キ然ル後女祝來テ祈禱ヲ行フ。乃チ祭屋內大黑柱ノ下ニ於テ祖神ノ靈ヲ喚ヒ今當ニ五年祭ヲ行フヘキ旨ヲ告ケ小刀ニテ細ニ桑葉ヲ切リテ之ヲ俎上ニ陳シ其上ニ一々饌脂、饌骨ヲ小切シタルヲ載セ又杯ニ酒ヲ斟ミ指彈シテ以テ靈ニ供ス。終テ女祝ハ右手ニ祭饌、祭具ヲ容レタル箕ヲ持シ左ニ炬火ヲ持シテ先ニ立チ壯丁等竹槍ヲ持シテ之ニ從ヒカルオルオラットト云フ所ニ赴キ一同槍ヲ立テ圓陣ヲ作リ祝其中心ニ在テ祈禱ヲ行フ。終テ一同毬突ヲ行フ。此ヨリ每日午後同所ニ集リ毬突ヲ行フコト四日　第五日朝再祭屋ニ集リ女祝祖神ノ靈ヲ祭リ後彼ノ竹槍ヲ取リ前ニ之ヲ採取シタル所ニ至リ棄テテ歸ル

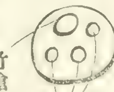
（ろ）部落祭　各部落ニハ一ノ毬突場アリ又一人ノ男祝アリテ其祭事ヲ主ル

（1）毬突ノ練習　前記社祭ノ終丁シタル後五日ヲ經テ各部落ハ別々ニ毬突ノ練習ヲ行フ。乃先ツ日ヲ定メ各戶ノ壯丁ハ山林ニ入リ長四五間ノ竹ヲ取來テ練習用ノ槍ト爲ス。次日其壯丁ハ男祝ノ家

ニ集リ其中ノ一人炬ヲ持シテ先導シ祝祭儀及祭具（社祭ノ時ニ同シ）ヲ持シテ之ニ次キ衆丁槍ヲ持シ縱隊ヲ爲シ番歌ヲ謠ヒツツ其後ニ從ヒ毬突場ニ至ルヤ。祝ヲ圍テ圓陣ヲ作リ祝先祈禱ヲ行ヒ次ニ左右ノ兩手ニ五箇ツツ縛シタル「ラキニキニ」（藤ヲ編ミニ用キル鐵鎚）ヲ持シテ上下ニ上下スルコト二三回、次ニ短槍ヲ取テ毬ヲ突クコト二三回、後衆丁ヲシテ毬突ノ練習ヲ爲サシム。爾後毎日朝夕二回同一ノ事ヲ行フコト約十五日

(2) **祭祀ノ準備** 毬突ノ練習終了シタルトキハ更ニ日ヲ期シテ山林ニ入リ大小二本ノ竹ヲ取來リ接合シテ祭槍ヲ作ル。卽チ小ナル竹ハ「ナボナボク」（我國ノ女竹ニ類ス）ニシテ之ヲ上ニシ大ナルハ「カバヤヌ」（竹刺）ニシテ之ヲ上ニス。尙上部ノ竹ハ燒テ諸種ノ模樣ヲ施シ其中ノ一本ニハ特ニ其先竹ニ「サラス」（三尖ノ飾。長約一尺五寸）ヲ附ス　然ル後毬突場ニ數箇ノ支柵ヲ構フ棚（番語「カキルン」）其高約四五尺長幅各二間。此レハ立テタル槍ヲ支持スルノミナラス兼テ毬ヲ突ク場合ニ壯丁ノ腰掛ト爲ルモノナリ





(3) **祭祀** 第一日壯丁等ハ男祝ノ家ニ聚ル。祝儀ヲ具シ祖靈ニ對シ當ニ五年祭ヲ行フヘキ旨ヲ告ケ後祭儀祭具（社祭ノ時ノ如シ）ヲ持シテ先導シ衆丁之ニ從ヒ毬突場ニ至リ茲ニ祖靈ヲ呼テ招降シ儀ヲ覓シソレヨリ短槍ヲ以テ毬ヲ突クコト二三回終テ其毬ヲ衆丁ニ渡シ毬突ヲ行ハシム。爾後壯丁ハ毎日場ニ集リテ毬ヲ突ク

十數月ノ後各戶日ヲ期シ粟酒ヲ釀ス。酒出來テ餅ヲ作リ豚ヲ屠リ以テ祖靈ヲ各家ニ招キ之ヲ饗ス。其日各戶葉附キノ竹枝ヲ以テ屋ノ内外（柱、屋根裏、竈、窓、入口ハ勿論屋根家ノ周圍數箇所）**ニ挿シ又右ノ竹枝若ハ生茅ヲ以テ其庭ノ樹木、石、穀倉及道路等ニ挿ス。之ヲ**「クマシサリム」**又ハ**「パスルム」（暗クスルノ義）**ト云フ。是社内及室内ヲ明ル**

キトキハ父祖其他ノ諸靈ガ入來ルニ憚ルヘク又入來ルモ折角之ニ供シタル酒食ヲ口ニスルニ差カシカルヘシト信スルニ因ル。其夜巫ハ各戸ヲ周リ諸靈ヲ祭ル。「ポート」（樹ノ名）ノ葉片ニ獸脂、獸骨ヲ載セ酒ヲ彈キ先ツサリムド、タカラウス（共ニ神ノ名）ノ靈ヲ祭リ次ニ當家ノ祖父母、父母、兄弟、姉妹等死者ノ靈ヲ祭ル。之ヲ爲スニハ先ツ粟餅三箇ヲ作テ之ヲ大黑柱ニ吊シ又諸種ノ肉、餅、酒其他ノ雜品ヲ小サキ「シカオ」（背負袋）ニ入レタルモノヲ饗ス。此夜懷姙セル婦、其夫及生後三月内ノ子ハ巫ノ來ラサル内ニ避ケテ（「キイラ」ト云フ）穀倉ノ中ニ臥シ其他ハ室ノ一隅ニ蹲リ敢テ談話ヲ交フルコトナク極テ静粛ニ一夜ヲ明ス。但シ青年男子ハ公廨ニ集リ餅ヲ食シ酒ヲ斟ミ終夜相話シ相歌ヒ以テ夜ヲ徹ス

其翌日壯丁等ハ一同祝ノ家ニ聚リ祝直ニ「パリシ」ヲ行ヒ一同毬突場ニ至ル其行列例ノ如シ。場ニ至ルヤ祝直ニ「パリシ」ヲ行ヒ壯丁等毬突ヲ行フコト數回。毬ヲ受留メタルトキハ一同歸來ス。ソレヨリ各戸男女ヲ問ハス一人ツツ靈ヘノ贈物ヲ持テ祝ノ家ニ集ル。祝儀ヲ具シテ「パリシ」ヲ行ヒ諸靈ニ對シ五年祭ヲ終ヘタルニ付キ速ニ何々ノみやげヲ持シテ歸去ルヘシトノ旨ヲ告ク。ソレヨリ一人炬ヲ執テ先導シ頭人之ニ次キ社民其後ニ從ヒ列ヲ爲シツツ各供物ヲ携ヘ足音ヲ立テス談話ヲ交ヘス極テ静ニ靈ヲ送テポカラヤ（「カライ」即「靈ノ贈物」ヲ棄ツル所）ニ至テ之ヲ棄テ其儘歸宅ス　靈ノ贈物ハ總稱シテ「カライ」ト云フ。小サキ背負袋ニ容レ男靈ノ爲ニハ特ニ之ヲ棒ノ兩端ニ附ケ擔ヒ得ル樣ニ爲ス。何レモ小キ型ニシテ小兒ノ玩具ノ如シ。其内ニ容ルル物ハ「パトコトコ」（青竹一節ヲ以テ作リタル酒筒、之ニ粟酒ヲ盛リ木ノ葉ヲ以テ其口ヲ塞ク）シトガ」（卷キタル織物、但其小型ニ）、「ブチブチカマ」（赤、青、黄三種ノ繟紱）麻糸少許又ハ小キ弓矢（弓矢ハ男靈ノ爲ニ、糸ハ女靈ノ爲ニ）、粟餅、豚ノ肝臟又ハ腸ノ小片（肝ハ頭人ノ靈ノ爲ニ、腸ハ平民家ノ靈ノ爲ニ）檳榔子ノ實ト灰ヲ荖葉ニ包ミタルモノ等トス　送靈ノ後各自歸テ朝餐ヲ爲シソレヨリ祝又ハ頭人ノ家ニ赴キテ飲宴シ後三日間各戸ヲ廻飲ス

送靈ノ後五日ヲ經テ毬突場ニ建テタル槍ヲ撤ス。其式下ノ如シ　早朝壯丁等ハ男祝ノ家ニ聚リソレヨリ「バリシ」ヲ行ヒ一同毬突場ニ至リ（其行列前ニ記シタル所ノ如シ）祝直ニ「バリシ」ヲ行ヒ後二個ノ毬ヲ取テ交互ニ投上ケ之ヲ突クマネシ次テ壯丁ニ渡セハ壯丁ハ歌ヲ歌ヒツツ毬突ヲ行フ二三回。其毬ヲ受留メタルトキハ刀ヲ佩ヒタル一壯丁直ニ槍ノ上部ニ在ル竹ヲ二回ニテ切斷シ其先端（約七八尺モアルヘシ）ヲ擔ヒ再ヒ前ノ如ク列ヲ爲シ歸社シ祝ノ前ニテ二三回毬突ヲ行ヒソレヨリ郊外一定ノ場所ニ至リ再毬突ヲ行フコト二三回。畢テ其兩毬ヲ取リ一ハ之ヲ前方ニ、一ハ後方ニ投棄テテ歸ル。之ニテ全ク本祭ヲ終了ス。然レトモ其後五日間ハ尚耕地又ハ他所ニ赴カス

（附記）當社ニ於テハ本祭終了後六日目ヨリ稗祭ヲ行フ　又當社ニ於テハ五年祭終了スルモ諸靈ハ社ヲ出去ルコト遠カラス次ノ後祭マテ社ノ附近ヲ徘徊スルガ故ニ社民ハ謹愼シテ惡事ヲ爲スコトヲ戒ム

部落祭中「パイキジキジン」（即祖靈ヲ各戶ニ迎ヘ祭ルコト）ノ夕刻バカバカス部落ニ於テ未婚ノ壯丁公廨ニ宿シ翌朝未明ニ大聲番歌ヲ唱ヘツツ「ボラブア」（産死者ヲ埋メタル所）ニ赴キ附近ノ樹木二三枝ヲ伐リテ歸ル。之ヲ「スモスア」（産死ノ禁忌ヲ解クノ義）ト云フ。之ヲ行フ青年ハ其所ニ埋葬セラレタル婦人ヲ見識ラサル者ニ限ルト云フ

（三）後祭　前祭ヨリ一個年ノ後粟ノ收穫後ニ之ヲ行フ　各戶酒ヲ釀シ豚ヲ屠リ餅ヲ作ルコト前祭ノ如シ　酒出來テ「クマシサリム」（竹葉又ハ茅ヲ屋ノ內外ニ挿スコト）ヲ行ヒ其夜巫來テ「パイキジキジン」（祖先父兄其他ノ諸靈ヲ祭ルコト）ヲ行ヒ姙婦及其夫ハ穀倉ニ避クルコト亦前祭ニ同シ　其翌日各戶「カライ」（靈ヘノ贈物）ヲ持シ靈ヲ送テ郊外ニ至ルコト亦前祭ノ如シ　爾後業ヲ休ミ五日間飲宴歡ヲ盡ス

第五　同番カヒヤかヌ社

當社ノ五年祭ハ上下兩閘ニ別レ上方ハキナジャン部落一閘ト爲リルラジャント云フ所ニテ行ヒ下方ハジャジャス、タルボカマ、カジガサヌノ三部落一閘ト爲リイソバジト云フ所ニテ行フ。タウダダル部落（漢稱頭社）ハキナジャンニ合シテ行フ

（附記）安原氏ノ調査ニ依レハ下方ハサゴヤヌ（赤山庄ノ舊址）ニ於テ行ノトアリ。古代或ハ然リシナランモ今ハ前記ノイソバジニ行フ

上閘ニハジグロル、ラリヤバヌノ兩黨ニ各二人ノ男祝及一人ノ女祝アリ。女祝ハ各頭人家ノ祭屋（ジ家ノ祭屋ハタルリバク家ニシテ祖神ハサウマイナリ。ラ家ノ祭屋ハタロアジバイ家ニシテ祖神ハサジアマナリ）ニ於テ祖神ヲ祭リ男祝ハ祭場ニ於テ祖靈ヲ招徠シ酒饌ヲ供奠シ又ハ毬突ノ事ヲ分掌ス。此内祖靈ヲ招徠スルモノ最重ク現時下閘ノ祝ヲモ兼ヌ下閘ニハ男祝四人女祝二人ヲ置テ祭事ヲ分擔ス。然レトモ其所屬ノ黨ヲ區別セス

五年祭ノ方法ニ付テ安原氏ノ調査セシ所左ノ如シ

(一)前祭

(い)準備　頭人及番祝協議シテ本年愈五年祭ヲ行フヘキコトヲ定ムルヤ先ツ日ヲ期シ番丁十數人ヲ選ヒ祭槍ヲ作ルニ要スル竹ヲ取ラシム　竹槍ハ兩祭場各五本皆大小二本ノ竹ヨリ成リ小ナルモノヲ大ナルモノノ中ニ挿込ミ籐條ヲ以テ其接合シタル所ヲ縛ス槍ノ中ニテ最長キヲ「リバリブ」ト云ヒ。祖神サジアヌノ槍トス。次ヲ「シナラサヲ（穗先三ニ分ル「サラス」ハ三尖ノ義）ト云ヒ祖神サウマイノ槍トス。次ヲ「リニパラ」ト云ヒ祖神マサンサンノ槍トス。他ノ二本ニハ別ニ名稱ナシ。此外ニ「ブルブルン」ト稱スルモノアリ此ハ祖神サジムジノ槍ニシテ舊時ハ之ヲ下パイワン社ニ持行キ該社ノ五年祭ニ用キタリ（安原氏ノ調査）

ニテハ下ニ說クガ如ク之ヲ以テ本社ノ祭場ニ用ユル樣ナリ。是舊時ハ下パイワヌ社ニ納メタルモ現時同社ニハ五年祭ヲ行ハサルガ故ニ之ヲ持行カスシテ本社ニ用ヰルモノナルヘシ）。「ブルブルン」ニ用ヰル竹ハ必ス其梢及枝ノ悉ク太陽ニ面セルモノヲ取ルヘシトテ特ニ之ヲ取ル方式ヲ嚴ニセリ。早朝番丁中ヨリ最適當ノ者一人ヲ選テ主ト爲シ十數人ノ番丁ヲ率ヰテ行カシム。此者等ハ先ツ男祝ノ家ニ至リ幸ニ能ク所用ノ竹ヲ取リ得ラルル樣ニ祈禱ヲ受ク。此時例ノ「カルブ」「ツコラジ」「ビヤク」ノ外ニ豚ノ頭、前肢及下肢ノ骨ノ小片、粟餠、桑ノ枝二本。（一ハ鎌ニ擬シ一ハ刀ニ擬ス）ヲ俎上ニ陳シ以テ祖神ヲ祭ルト云フ。而シテ此日ハ先ツラリジャバア（社ノ西方約十町）ニ至リテ之ヲ求メ而モ合式ノモノヲ見出シ得スシテ日暮ニ歸來シ翌朝ハ方面ヲ變ヘプサカラヌ（社ノ東方約十町）ニ至リ之ヲ求メ又合式ノモノヲ見出シ得スシテ日暮ニ歸來シ其翌朝ハキニパイラヌ（社ノ西南約二十町）ニ至リ之ヲ求メ又見出シ得スシテ歸來シ其翌朝ハタルガトク（社ノ西方ラリジャバヌヨリ更ニ遠シ）ト云フ所ニ至リ始テ合式ノモノヲ見出シテ之ヲ伐ル。然後持シテラリジャバヌニ來リ之ヲ其所ニ置テ歸來シ先ツ祝ニ至テ之ヲ報スレハ祝ハ夕餐ヲ與ヘテ彼等ノ勞ヲ慰ス。ソレヨリ主タル番丁ハ頭人ジグロル家ニ至リ之ヲ報スレハ頭人ハ粟五大把ヲ與ヘテ謝ト爲ス。何故ニ彼此其方面ヲ變ヘテ捜廻リ之ガ爲ニ數日ヲ費スヤト云フニ蓋シ古代此竹ヲ選フコトノ困難ニシテ嚴重ナリシトキノ形式ノ遺影ナルヘシト云ヘリ。其翌日全社ノ番丁出テ他ノ竹ヲ求ム。此レニハ別段其方面ヲ選フノ慣習ナシ。而シテ取得タル竹ハ之ヲ兩祭場ニ持來シ大小接合シテ槍ト爲シ之ヲ立テ其根元ニ四本ノ支柱ヲ施シ其倒ルルヲ防ク。又「ブルブルン」ノ槍ハラリジャバヌヨリ北方社ノ入口（下パイワヌ社ニ赴ク路）ニ運ヒテ其所ニ置ク

ソレヨリ全社ノ壯丁等ハ每日祭場ニ來リ毬突ノ練習ヲ爲ス

本祭四五日前ニ至レハ祝ノ家ニテハ粟ヲ搗キ粉ト爲シ之ニ藜ノ酵母ヲ加ヘテ酒ヲ作ル。此ハ祭祀

ノ時ニ祖神ヲ祭ルニ用キルナリ

祭祀　第一日祝ハ其前夜ニ豚ヲ屠リ置キ一番鷄ヲ聞クヤ二人ノ女祝及他ノ男祝ハ炬ヲ點シ先ツイリブリブァ（祖神サジムジノ舊屋）ニ至リ祖靈ヲ喚ヒ饌組ヲ供シ「今將ニ五年祭ヲ行ハントス我祖願ハクハ速ニ來レ」ト祈リ次ニ兩頭人家ノ祭屋及兩祭場ニ至リ同樣ノコトヲ行フ饌ハ例ノ祭饌ノ外ニ豚ノ頭、前肢下肢ノ骨片、粟餅及酒トシ酒ハ木杯ニ容レ小キ竹ヲ添ヘ其ニ之ヲ地上ニ陳ス

此日早朝番丁十數名往テ「ブルブルン」ノ槍ヲ運テ上側ノ祭場ニ持來ス。此時祭場ニハ既ニ他ノ壯丁等集リ毬突ヲ始メ「ブルブルン」ノ至ラサルニ先チテ毬ヲ突中テムト焦心シ、一方右ノ槍ヲ運フ壯丁ハ又未タ毬ノ突中ラサル内ニ運來ラムト双方其遲速ヲ爭フト云フ　此日ハ兩祭場ニ別レテ盛ニ毬突ヲ行ヒ突中テタルトキハ一同「イヤコー」ヲ歌ヒ黃昏ニ至テ止ム婦女ハ皆盛裝シテ來リ觀ル

第二日男女ノ祝祭屋及祭場ニ於テ祖神ヲ祭ルコト前日ノ如シ。又番丁等祭場ニ於テ毬ヲ突クコトモ亦前日ノ如シ　第三日前日ノ如シ。夕刻頭人家ハ社民一同ヲ招キ晩餐ヲ與ヘ之ヲ「タマリホアー」ト云フ。遊テ食ストノ義ナリ　第四日モ亦前日ノ如シ。夕刻社民一同頭人家ニ集リ飲宴歌踊ヲ行フ之ヲ「マダラカル」ト云フ　第五日モ亦前日ノ如シ。而シテ夕刻ニハ又飲宴歌踊ヲ行フ　第六日頭人、祝及壯丁等一同祭場ニ集ル。槍ヲ倒シ根元ヨリ約三尋半ノ所ニテ切斷ス之ヲ、「ミブン」ト云フ成ルヘク一刀ニテ伐盡スヲ可トス。而シテ壯丁等ハ竹ノ上方ヲ持シ「パツラル」ト云フ所ニ赴キココニテ又一回毬突ヲ行ヒ後先端三尺ヲ殘シ再之ヲ伐ル。伐去リタル竹ハ何ニ使用スルモ妨ナシト雖モ多ク槍ノ柄ニ爲スト云フ　第七日ハ「バミバラ」ト稱ス何事モ爲サス、全社酒ヲ酌テ遊フ　第八日ハ「マブツアヌ」ト稱シ社民共同シテ狩獵ヲ行フ。獲物ノ有無ニ關セス必其日ニ歸來スヘク而シテ獲物ナキトキ

ハ翌日再之ヲ行フヘシ。而シテ此ノ狩獵ハ獲物ノアル迄幾日ニテモ行フヘキモノトス

(三)後祭　前祭ノ翌年ニ行フ。但シ陰暦ノ月末及月初二日間ヲ避ク

(い)準備　先ツ祭祀四五日前ニ各家ニ祭酒ヲ釀ス(粟ノ粉ニ粟ノ實ヲ加テ酵母トス)前一日頭人家ニ於テ豚ヲ屠リ餅ヲ作ル

(ろ)祭祀　第一日祝、祖饌ヲ具シ爾祭場ニ至リ祖靈ヲ祭ルコト前祭ノ時ノ如シ、ソレヨリ歸テ頭人家ニ至リ社民ト共ニ飲宴歡ヲ盡ス。此日ハ社民モ亦豚ヲ屠リ其雙脚ニ酒一瓢ヲ添ヘテ頭人家ニ納ル第二日正午ヨリ社民一同盛裝シテ頭人家ニ聚リ宴ヲ開キ歌踊ヲ行ヒ日暮ニ至テ止ム。之ヲ「タマリュボア」ト云フ　第三、第四ノ兩日ハ何事モナク社民唯休業シテ遊フノミ　第五日ハ「マキナクル」(靈ナ送歸)ト云フ。各家豚ヲ屠リ祖靈ヘノ贈物ヲ作リ之ヲ持シテ祝ト共ニ社ノ入口ネハテペニ行キ豫メ此所ニ立置キタル竹ノ枝ニ吊シ然後祝靈ニ告ケテ曰ク『行ケ祖靈ヨ汝ハ歸レリ更ニ五年ノ後亦來レ』ト一同後ヲ見スシテ歸來ス。是ヨリ頭人方ニ至リ飲宴ス。靈ヘノ贈物ハ「ブネリナカイ」ト云フ、卽豚ノ骨片(頭骨、前趾、後脚及背ノ小片)蠻布、衣、絲(麻絲四五寸各種取交セ)祭酒(一小竹筒ニ容レテ)飯匙、「テナチュカ」(檳榔子ト石灰ヲ荖葉ニ包ミタルモノ)、山雞ノ羽、布ノ小片數種(以テ被服ニ擬ス)ヲ背負袋ニ容レタルモノナリ

第六　北ぱいわぬ番チャジャカフス社

(一)總說　當社(チャカサウ部落ナ含ム)ハ一社ヲ以テ五年祭ノ一團ヲ爲ス　前祭ハ先ツちも派ニ屬スル社民ノミニテ行ヒ後ニちもぱいわぬ兩派相合シテ行フ。其ちも派ノミニテ行フモノヲ「アウラル」ト云ヒちもぱいわぬ合同シテ行フモノヲ「ジャジュジャト」ト云フ。此ノ合同ニテ行フモノハ他社ニテ行フモノニ同シクちもノミニテ行フモノハ他社ト全ク其方式ヲ異ニス

(附記)當社民ニちもトぱいわトノ兩派アリ。現時互ニ婚姻ヲ通シ其風俗ヲ同クスト雖モ古代ニ於テハ或ハ族ヲ異ニシタルモノナルヘシ。之ニ關シテハ既ニ種族ノ沿革第一款第六頁ノ第二及傳說第十三ノ內ニ說述シタル所アリ

當社ノ五年祭ニハ男女各一人ノ祝アリ共ニちも派ニ屬ス。現時ぱいわト派ニハ祝ナクちも派ノ祝之ヲ兼ヌ

(二)前祭　ハ前ニ述ヘタル如ク最初ちも派ノミテ行ヒ後ちもぱいわト兩派合同シテ行フ

(い)ちも派ノミノ祭祀　「アウラル」ト云フ。值年粟祭ノ後一箇月ヲ經テ之ヲ行フ。其期間約十日トス。左ニ安原氏ノ調査シタル方式ヲ記ス

粟祭ノ後一兩日ヲ經タルトキちも派ノ頭人七家ハ男祝ト議シ祭祀ニ着手スヘキ日ヲ定メ社民ニ通知ス　祭祀ニ先チちも派ノ社民ハ酒ヲ釀シ其準備ヲ爲ス

祭祀　第一日早朝壯丁等當社西方ノ入口タオマッ(傳社跡三十坪許ノ平地ニシテ此所ニハ社共同ノ首棚アリ)ノ地ニ集ル。男祝ハ壯丁等ニ命シ疾走シテジ、ジジャタ(當社ノ西方約二里、內社溪ノ左岸ニ在リ即ちも族祖先ノ發祥地ナリ)ニ赴キ「ウラル」(竹ノ葉)七枚ヲ取來ラシム之ヲ七枚取ルハちも派七頭人家祖神ノ靈位ト爲ス爲ナリ。壯丁ハ皆一目散ニ驅ケテ「ジ、ジジャタ」ニ赴キ竹林ニ入リ好キ葉七枚ヲ揀取シ之ヲ持シ驅足ニテ歸來ス。其先着者ハ一般社民ヨリ賞讃セラレ七頭人家(今日ハ甲家ニ饗セラレ明日ハ乙家ニ饗セラレ明後日ハ更ニ丙家ニ饗セラルルガ如シ)ニ饗應セラレ而シテ次ノ五年祭迄多幸ナルヘシト祝福セラル社民等ハ此ノ先着スル光景ヲ見ムガ爲ニ早クヨリタオマッニ來テ之ヲ待ツ。祝ハ其先着者ヨリ其取來レル「ウラル」ヲ受ケ蔓ヲ以テ長約四五尺ノ木棒ニ結束スルコト　ノ如クシ以テ祖神ノ靈位トシ之ヲ木又ハ石ニ立掛ケ之ニ對シ左ニ酒杯(木製單杯)及豚肉ヲ持シ右ノ食指ヲ其杯

内ニ浸シ一々祖神ノ靈ヲ喚ヒツツ酒ヲ靈位ニ彈キ掛クルコト七回、又肉ヲ振切テ之ヲ捜掛クルコト七回。數句ノ祝詞（食ヘ此肉此酒、饑ヘサル樣ニ、我等ノ祖靈、此ノ我等兄弟姉妹及社民ノ汝等ニ手向クル所ノ）ヲ誦シ其儘歸來ス　男祝歸來スルヤ女祝大頭人ロバニヤウ家ノ爐中ニ燃ヘツツアル薪一本ヲ持シタオマスニ至リ之ヲ地ニ置キ數句ノ祝詞ヲ誦シ後ヲ見スシテ歸來ス　此日男祝ハ午及夕ノ二回ニタオマスニ赴キ靈位ニ對シ酒、肉ヲ手向クルコト朝ノ如シ　夕刻男祝西チャジャス家ニ赴ケハ同家ハ酒一甕（約一斗ヲ容ル）ヲ與ヘテ謝ト爲ス。祝之ヲ持シテ大頭人家ニ至リ此所ニテ他ノ諸頭人、女祝及重立チタル老番ト共ニ之ヲ飲盡ス。他ノ六頭人家モ亦日ヲ換ヘテ男祝ニ謝儀ヲ與ソ。卽チ第二日ニハ東チャジャス家ヨリ與ヘ、第三日ニハ大頭人ロバニヤウ家ヨリ、第四日ハチャラテヤ家ヨリ與フガ如シ　大ロバニヤウ家ハ女祝ニ粟飯一筬及粟一大把ヲ與ヘテ謝ト爲ス。女祝之ヲ自家ニ持歸ル

此日ヨリ他社ト交通ヲ絶ス。社民ハ耕地ニ赴クコトヲ得ス。皆其業ヲ休ミ飲宴閑談其歡ヲ盡ス

（附記）ちも派ノ祭ル七位ノ祖神ハリヤリカ（東チャジャス家ノ祖）アライロン（西チャジャス家ノ祖）バシラサ（チャラテヤ家ノ祖）チヤチル（大ロバニヤウ家ノ祖）アジョプ（小ロバニヤウ家ノ祖）チャサバ（サジージャバス家ノ祖）カリチヤジ（アボロカン家ノ祖）トス。此等ノ山來ニ付テハ既ニ當社ノ沿革ニ於テ述ヘタリ

第二日男祝タオマスニ至リ祖靈ヲ祭ルコト朝、午及夕ノ三回、東チャジャス家ヨリ酒一甕ヲ得大頭人家ニ至リ飲宴スルコト前日ノ如シ　社民ノ酒ヲ用意スル者亦互ニ親戚知友ヲ招キ所在ニ飲宴ス

第三日及第四日ハ第二日ノ如シ

第五日靈位ヲ大頭人家ノ前庭ニ移ス其式下ノ如シ　早朝男祝タオマスニ赴キ靈位タル竹葉ヲ取來リ老番兩人（祝頭人ト協議シテ之ヲ定ム）アルフップ（當社ノ下方ニ在リ）ニ至リ竹七本（長約四五尺）ヲ伐來ル。祝乃靈位ヲ解キ「ウラル」（竹葉）

一枚ツツヲ竹ニ括着クルコト圖ノ如ク　内五本ハ大頭人家ノ前方石垣ノ外一段低キ所（番語「サ」）ニ立ツ。アホロガノ靈位ノ竹ノミ小シク他ト離シテ立ツ。尚殘二本（即チラチヤ西チジス南家ノモノ）ハ之ヲ陸家チフラガヲ家ノ石垣ノ外ニ立テ之ヲ祭ル　夕刻祝大頭人家ニ赴キテ飲宴ス。社民ノ酒アル者亦相招飲スルコト前日ノ如シ

第六日祝頭人家庭前ノ靈位ニ對シテ祭ヲ致スコト朝、午及夕ノ三回　夕刻祝大頭人家ニ至リ飲宴スルコト前日ノ如シ

第七日乃至第九日ハ第六日ノ如シ

第十日早朝社民一同大頭人家ニ集ル。男祝庭前ノ靈位ヲ祭リ祠堂ニ對シ祭祀終了シキャルバニ付キ歸去ラレタク祭年來レハ又呼フヘキ旨ヲ告ケ後女祝瓢トシテ祖靈ヲ送ルヘキ壯丁二人ヲ選ヒ（即一人ハ大頭人家前庭ノ靈位ノ竹ヲ一刀ニテ中央ヨリ切リ落シアホロガノ家ノモノヲ殘シ他ノ四本ノ上方ヲ持シアルブ、ブニ赴キ之ヲ棄テ後ヲ見スシテ歸來ス、而テ他ノ一人モ亦チラ子ヤ家ノ前庭ニ在ル靈位ノ竹ヲ切テ之ヲアルブッブ、ニ棄テ歸ル。大頭人家及東チジス家ハ各鍋一枚ヲ出シテ其壯丁ニ與ヘテ謝ト爲ス。又七頭人家ハ各酒一甕ヲ男祝ニ與ヘテ其勞ヲ慰ス

第十一日頭人及社民一同男祝ノ家ニ集ル。祝前日七頭人ヨリ贈ラレタル酒ヲ出シテ之ヲ饗ス夜ニ入レハちも派ノ社民各家ニ宴ヲ開キ彼此飲廻リ歌踊歡笑夜ヲ徹ス

（ろ）ちも、ばいね、兩派合同ノ祭祀　ハジ、ジ、ジトニ（祭首）ト稱ス。芋ノ收穫後即舊暦十一月頃ニ行フ安原氏ノ調査シタル其祭式左ノ如シ

(1) 準備　ばいわぬ派ノ頭人ロシゴア、アチナヤノ兩家ハ男祝ト相談シテ竹ヲ採取スヘキ日ヲ定メ

五日以前之ヲ社民ニ通知ス　壯丁等ハ豫メ山脚ニ降リ平地民庄ヨリ右ノ竹ヲ買求メ來リ之ヲイツツグラウ（社ノ西南方即チ地ニ降ル路ナリ）ニ置ク。蓋シ現時當社ニハ槍トスヘキ竹ノ生スル林ナシ故ニ之ヲ土人ヨリ買入ルルナリ。其價大ナルモノ一本六十錢、小ナルモノハ三十錢、其費用ハ頭人家之ヲ支辨ス　五日ノ後早朝壯丁イツツグラウヨリ上記ノ竹ヲ頭人チャジャス家ノ庭ニ運來リ火ニテ矯メ大小接合セテ槍ト爲ス。其長二丈乃至三丈五尺。チャジャス家ハちも派ナレトモ其前庭廣キガ故ニ其所ヲ借リ竹ヲ接合スル所トセルナリ。畢テ槍ヲタオマヌニ移シソコニ支柵ヲ設ク。槍ハ柵ノ前ニ並立ナ其向側ニ一本ノ横木ヲ柵ト同シ高サニ設ケ以テ槍ノ向側ニ倒ルヲ防ク　槍ハ其數六本最長キヲ「リパリウ」ト云ヒちも大頭人ロバニヤウ家ノ有ニ屬ス。次ヲ「ブブ」（祖先）及「タカラウス」（天空）ノ二本トス。其ニはいわい派ノ頭人ニ屬ス。次ヲ「パチャヌ」ト云フ。ちも頭人西チャジャス家ニ屬ス。次ノ二本ニハ名稱ナク。ちも頭人東チャジャス及サジラバ、兩家ニ屬ス。コレヨリ五日間番丁毎日此所ニ毬突ヲ練習ス

(2)祭祀　第一日祝早朝タオマヌニ赴キ槍ニ對シ祭肉ヲ投シ酒ヲ彈キ祈禱ヲ行フ。ソレヨリ毬ノ組ヲ持シ二三回振テ高ク抛上クレハ壯丁槍ヲ以テ之ヲ突止ム。受止メタルトキハ一同「イヤオー」ノ歌ヲ唱フ。最初ニ突留タル槍ノ主、其親族及部下ハ次ノ五年祭マテ多幸ナリトシ之ニ反シ祭祀中一回モ突得サリシトキハ不幸ナルヘシト云フ。壯丁交互ニ毬突ヲ行ヒ日沒ニ至テ止ム。社民男女ヲ舉ケテ此所ニ集來リ毬突ヲ見ル。或ハ其近傍ニ嬉遊シ談笑シ酒アル者ハ之ヲ携來テ他ト相飲ミ歡ヲ盡ス

第二日乃至第四日毬突ヲ行フコト第一日ノ如シ

第五日夕刻ニ至リ男祝女祝ト共ニタオマヌニ至リ「ブナロウ」（義審ナラス）ノ式ヲ行フ。男祝俎上ニ饌ヲ共シテ之ヲ持シ女祝槍ニ對シ其饌（肉骨）ヲ取リ之ニ投掛ケツツ小聲ニテ本祭終了シタルニ付キ歸去ルヘ

キ旨ヲ告ク。ソレヨリ壯丁直ニ棚ヲ撤シ給ヲ倒シ切テ水汲筒ヲ作ル　此夜兩頭人家ハ各豚一頭ヲ屠リ「チナブ」（豚ノ腸ニ乾芋豚肉チ搗交セタルチ詰込ミタルモノ。其大ナルモノ長二尺餘、小ナルモノハ七八寸）ヲ作リ祝ニ豚ノ前肢一本、チナブ四筒及粟円大把ヲ與ヘテ謝ト爲シ又社民一同ヲ招キテ飲宴歡ヲ盡スト云フ

遂実ノ練習中及祭祀中ハ社民ハ業ヲ休ミ他ト交通ヲ絶ス。畑ニ赴キ又ハ猟ニ出ヅルコトヲ得ス

（三）後祭　前祭ノ翌年粟祭ノ後ちもぱいわニ兩派合同シテ行フ　祝男女兩人別ニちも派及ぱいわ派ヨリ各二名ノ巫ヲ出シテ之ヲ助ク　祭事凡テ十一日ニ亘ル之ニ付キ余ノ親シク調査シタル所左ノ如シ

第一日早朝男祝及全社ノ壯丁タオマーノ地ニ集ル男祝壯丁ヲシテジジルヌニ至リ薪ヲ附着セル儘竹ノ小枝ヲ取來ラシメ之ヲ石又ハ木ニ立掛ケちも派祖神ノ名ヲ呼ヒテ其靈位トス其數七靈位ノ名ハ既ニ前祭ノ部ニ於テ述ヘタル所ノ如シ　本日ヨリ第五日ニ至ル迄毎日朝午夕ノ三回男祝此ノ靈位ニ對シ饌ヲ供シ祈禱ヲ行ヒテ社ニ歸リ順次ニ七頭人家ニ至テ再祈禱ヲ行フ各頭人家酒ヲ出シテ之ヲ歡待シ祝少シツツ之ヲ飲ム　最南竹ヲ採リニ往キタル者ハヨルヌジマデ家ニ至テ飲酒シソコヘぱいわぬノ巫來テ祈禱ヲ行フ此日ハ各平民家ノ祖靈モ亦同シク來社スルガ故ニ之ヲ祭ルナリ

第六日早朝男祝タオマーノ地ヨリ靈位タル竹枝ヲ取來リ内五本ハ大ロバニャウ家ノ庭ニ、二本ハナブラガ家ノ庭（大ロバニャウ家ニ隣接ス）ニ立ツ。此レハ先ツ他ノ竹ヲ地ニ插込ミ之ニ右ノ靈位タル竹ヲ接續ス　此所ニテ祝毎日朝午夕ノ三回奠饌シ祈禱ヲ行ヒ第十日ニ至テ止ム　此數日間ちも派ノ巫ハ社内各戸ヲ巡リ酒肉ヲ奠シ各家ノ祖先ヲ祭ル

第十日夕刻ニ至リ男覡ハ老番兩名ニ命シ靈位タル竹ヲ伐テ之ヲアルヅヽブッニ棄テシム。其法前祭ノ場合ニ同シ。各頭人家ヨリ兩人ニ鍋又ハ斧ヲ與ヘテ謝ト爲ス　ソレヨリ男覡ハ順次ニ七頭人家ヲ巡リ其祖靈ノ名ヲ喚ヒ祭正ニ終リタルニ付キ速ニ歸去ルヘク而シテ五年ノ後再ヒ來ルヘキ旨ヲ告ケ祈禱ヲ行フ。此日ちも派ノ巫三人ハ順次ニ社民ノ家ヲ巡リ亦同樣ノ祈禱ヲ行フ

第十一日早朝七頭人家ハ各豚一頭ヲ屠リ肉、酒、粟飯其他靈ニ贈ルヘキ品ヲ古キ背負籠ニ入レ其家長(若シ女ナレハ其夫之ニ代ル)親シク之ヲ持シ靈ヲ送テヲヲバシニ至リ棄テテ歸ル　此日各頭人家ハ覡ニ酒及肉ヲ送テ謝ト爲ス

第七　北はいわ番クナナオ社ノ五年祭

(一)總說　當社ニハテリブカヽ、イラダノ兩黨アリ。五年祭ハ前者ハ部落ユマクニ於テ、後者ハ部落チナラスニ於テ行フ　兩黨共ニ男女各一人ノ覡アリ。「パラカジャイ」ト稱ス。何レモ世襲ニ非ス祭事ニ通セル者ノ中ヨリ鬮ニテ定ム、男覡ニハ祭祀ノ後狩獵ヲ行ヒ其獲物ノ「ルジ」(獸ノ肉)四指廣ヲ與ヘテ謝ト爲ス　兩黨ハ同日ニ五年祭ヲ行フ。今テリブカヌ黨ニテ行フ次第ヲ記スレハ左ノ如シ

(二)前祭　祭祀ニ先テ竹槍及毬ヲ準備シ毬突場ヲ淸掃シ棚ヲ構フルコトカピヤガ社ニ同シ　槍ニ三種アリ、一ハ「チロアッ」トテ大小二本接合セタル長槍ニシテ之ニテ毬ヲ突クニハ棚(卽架掛)ヲ要ス。之ニ付別ニ制限アルナク何人ト雖モ資力アル者之ヲ作ルコトヲ得ヘシ。二ハ「チナブジャヌ」トテ繼合ハササル槍ニシテ毬ヲ突クニハ棚ヲ要セス。三ハ「アルドス」トテ小兒ノ用キル槍ニシテ「チナブジャヌ」ニ比スレハ更ニ短シ。毬突ノ際「チロアッ」ノ槍ヲ持セルモノハ最中心ニ立チ「チナブジャヌ」ヲ持セルモノハ第二ノ圈内ニ立チ「アルドス」ヲ持ツモノハ圈外ニ立チ圈内ニテ突損ネテ落來ル毬ヲ受留ム

本祭ハ其期間凡テ五日トス　第一日ハ「ミブン」ト稱シ女巫ヨルシバッン家（家ノ祭屋ナリ）ニ至テ祖靈ヲ喚ヒ饌酒ヲ手向ケ後毬突場ニ至リ男祝先ツ毬ヲ投上ケ衆丁之ヲ突ク。コレヨリ毎日毬突ヲ行フ。之ヲ「ジムジャツ」ト稱ス　第五日ハ「ブナヤ」ト云ヒ給竹ヲ伐倒シ各戸饌ヲ具シ贈物ヲ調ヘ祖靈ヲ郊外ニ送ル

（三）後祭　女祝祭屋ニ至リ祖靈ヲ祭ル。五日間全社歌ヒ且飲ム

第八　同香ボかリド社

（一）總說　當社ニ多クノ頭人家アリ。五年祭ハ同日ニ行フト雖モ各黨其祭場ヲ異ニス。卽チヤビジビジ家ハチャパラパライ及パタコノ兩所。チャルジバク家ハチャガドガド、ヤツラバ、ガジガ及アブロクノ四所。ガド家ハ自家ノ外庭ニテ行フ。同一ノ黨ニシテ數所ニ分レテ祭ヲ行フハ是其黨ニハ祖先ノ時代ニ嗣男女ノ婚姻ニ依テ合一セラレタル他ノ黨ヲ含ムガ故ニ其黨ノ爲ニ特ニ舊ニ依テ從前ノ祭場ニ祭ヲ擧クルナリ　各黨ニハ男女各一人ノ祝ヲ置ク、尙數個ノ祭場ヲ有スル所ニハ毎場一人ノ男祝ヲ置テ毬突ノコトヲ主ル　安原氏ガ頭人ヤビジビジ家ニ付キ調査シタル所左ノ如シ

（二）前祭

（い）準備　當社ノ五年祭ハ其準備ニ數月ヲ費ス。先ツ菩様ノ花ノ開ク頃（新暦三四月頃）ニ「チモボロ」（甕ノ下スノ義）ノ式ヲ行フ。此日當社ノ大頭人未明ニ起出テ約半町許東方ノ山ニ至リ東ニ向ヒ祖先ガ埋置キタル甕ヲ開キ次期ノ五年祭マテノ吉凶ヲトス。若水アレハ吉ナルモ水無ケレハ凶ニシテ不作ナリトス。頭人甕ヲ檢シ了レハ之ヲ取出シ水ヲ棄テ再ヒ元ノ位置ニ据ヘテ歸ル。此甕ハ其上ニ大石ヲ載セアリ平常ハ人ノ近ツクコトヲ禁忌ス。男女ノ祝ハ頭人ノ家ニ來リ其ノ歸來ヲ待チ甕水ニ付キ吉凶如

何ヲ聞キ直ニ外庭ニ出テ祭畑ヲ耕シ之ニ粟、芋及樹豆ノ種ヲ下シ女祝之ニ對シ祈禱ヲ行ヒ祝シテ曰ク『高キニ在ス ジャジュムヴ（粟、芋ノ神）ニ祈ル。願ハクハ芋、樹豆及粟ヲシテ豐作ナラシメヨ』ト。而シテ男祝ハ竹筒ヲ携ヘ溪ニ下リ水ヲ汲來リテ之ヲ其祭畑ニ灌ク。了テ衆巫部署ヲ定メ社内各戸ヲ巡リ其外庭ニ在ル「チャチュブラン」（祭畑）ニ就キテ同一ノ祈禱ヲ行フ。此日各戸米ヲ食シ又ハ米酒ヲ飮ムコトヲ得ス 「チモボロ」ノ後二箇月ヲ經テ「マサア」（除草ノ義）ヲ行フ。此日早朝男祝ハ頭人家ニ至リ其庭前ノ「ジョカリ」（立石）ニ對シテ饌ヲ供シソレヨリ頭人ト共ニ祭場（首棚ノ所在地）ニ至ル。全黨ノ番丁聚來シ此所ヨリ東方ニ向テ新道ヲ作リ祭場ノ草ヲ除ク。後東ニ面シ饌ヲ供シ祖靈ヲ祭ル。此夕全社民頭人家ニ聚リ酒ヲ酌テ夜半ニ至ル 「マサア」ノ後約一箇月ヲ經テ「イブブ」ノ式ヲ行フ。「イブブ」トハ祖靈ニ對シ當ニ祭祀ヲ行フヘキコトヲ豫告スルヲ云フ。此日早朝頭人ノ庭前ニ於テ豚ヲ屠ル。女祝之ヲ以テ祖靈ニ供シテ曰ク『不日「マジュボク」（五年祭ノ前祭）ヲ行ハントス。祖靈願ハクハ善キ粟種ト善キ芋苗トヲ持來レ云々』畢リテ其豚ヲ細切シテ社民ニ分ツ ソレヨリ約一箇月ヲ經テ「イジュジャト」（槍ヲ取ル義）ヲ行フ。頭人番丁ヲ率キ竹林ニ赴キ祭祀用ノ槍トスヘキ竹ヲ選ミ之ヲ伐リテ社ノ入口マテ持來ス 數日ノ後此竹ノ先端ヲ尖ラシ豚脂ヲ塗リ少シク燒キテ之ヲ強堅ニス。又竹ノ諸所ニ籐ヲ卷キ之ヲ火ニ燻スレハ其籐ヲ施シタル部分ハモトノ綠色ナレトモ施サザリシ部分ハ黑褐色ト爲リ槍ニ美シキ文彩ヲ生ス。之ヲ「ブンチウ・ト・ジュジャト」（竹ニ畫クノ義）ト云フ 其翌日之ヲ運ヒテ祭場ニ至リ此所ニ三本繼合セテ槍ト爲ス。又祭場ニ「サアル」卽毬突用ノ腰掛ヲ設ク

（ろ）祭祀　前祭ノ式ハ四日ニ亘ル　第一日早朝男女ノ兩祝頭人家ニ來リ先ツ庭前ノ「ジョカリ」ニ對シテ祖靈ヲ喚テ之ヲ祭リソレヨリ毬突場ニ至リ男祝北面シテ大聲祖靈ヲ招來ス。女祝瓢ニ依リテ

其來否ヲトス。コレヨリ衆丁交々毬突ヲ行ヒ以テ祖靈ヲ慰ス。正午休憩食ヲ取ル。一二時ノ後再ヒ毬戲ヲ行ヒ日暮ニ至リテ止ム。本日ヨリ三日間ハ各戸毎日二回ツツ祖靈ニ對シテ饌ヲ供ス。此饌ハ男子ノ外食スルコトヲ得ス。又祭場ニハ女子ノ入ルコトヲ許サス　第二日毬戲ヲ行フコト前日ノ如シ。未タ一回モ毬ヲ突得サリシ者ハ女祝之ニ對シテ祈禱ヲ行フ　第三日亦毬ヲ突クコト前日ノ如シ。日暮ニ至リテ止ム。始メテ婦女ノ入場ヲ許ス。未婚ノ女ハ美裝ヲ爲シテ來リ青年ノ男子之ト混シテ踊ヲ行フ。疲ルレハ休ミテ酒ヲ酌ミ肉ヲ喫ス。相語リ相踊リ天明ニ達ス。他ノ男女ハ頭人ノ家ニ於テ酒ヲ酌ミ興至レハ歌ヒ踊リ夜ヲ徹ス　第四日壯丁等祭場ニ集リ諸ノ設備ヲ撤シ。之ヲ「ジミット」云フ

(三)後祭　ハ其方式ハ大體ニ於テ下ニ揭クルこぼじ番內文社ニ同シ。此夜頭人ハ豚數頭ヲ屠リ其翌早朝祝至リ之ヲ持シテ祈禱ヲ行ヒ靈ノ尙社內ニ滯留スル者ヲ驅逐シ後社內ノ老幼男女ヲ會シテ宴ヲ開ク。酒酣ニ至レハ男子「イヤコー」ヲ歌フ。日暮ニ至リテ解散ス。之ヲ「イシュチャッパイ」ト云フ。出草ノ義ナリ　其翌「マブソワン」ヲ行ヒ一同狩獵ニ赴ク

第九　同番プツンロク、パイルス、チプツカタ、リキリキ、コワバル諸社

(一)プツンロク社　全社一團ト爲リ前後兩祭共ニボカリド社ヨリ一日後レテ之ヲ行フ　男女ノ兩祝ヲ置キ祭事ヲ主ル　其式何レモ五日間毬突ノ式ハボカリド社ニ同シ　終テ「マキナヂブ」(出草)ヲ行フ。但今日ハ單ニ狩獵スルノミ

(二)パイルス社　全社五年祭ノ日ヲ同クスルモチャマチャア、チャロイガ、アウリバイノ三頭人家ハ別々ニ之ヲ行フ。但シ社民ハ何レノ祭場ニ赴クモ可ナリト云フ　各黨ニ一人ノ男祝アリ祭祀ヲ主ル。當社

モ亦ボガリド社ヨリ一日後レテ前祭及後祭ヲ行フ。其祭期各五日間。祭終テ狩獵ヲ行フ　毬突ノ式ハボガリド社ニ同シ

(三)チブツカダヌ社　全社四黨同日ニ五年祭ヲ行ヘトモ二團ニ別ル。卽チカルツク黨ハソワムジョク黨ニ合シチャラック黨ハチヵカラマ黨或ハソツムジコク黨ニ合ス　各團ニ一人ノ男祝アリ祭事ヲ主ル祭禮ノ方式ハ大體ニ於テ下ニ述フル所ノチェーババオ社ニ同シ

(四)リキリキ社　全社十黨ニ分立スレトモ五年祭ハカザヤヌジャヌ。ジャジャスフル、ジャコジャコツ、ラルボクノ四家ニテ行ヒ他ノ頭人家ハ右三家ノ何レカニ合同ス。卽チカズズアヌ、タジマラオノ兩家ハカザヤジャヌ家ニ合シ同家ノ舊家址サラビニ於テ行ヒカカテアヌ家ハジャジャスブル家ニ合シ同家ノ前庭ニ於テ行ヒジャウカヌ、マリカリン、オブジニンノ三家ハジャコジャコツ家ニ合シテ同家ノ前庭ニ於テ行フ　各祭團ニハ男祝一人アリ祭事ヲ主ル　當社ハ頭人及男祝ノ外出草シテ首級ヲ得タル者又ハ出獵シテ猪又ハ鹿五頭以上ヲ獲タル者ニ非サレハ竹槍ヲ立ツルコトヲ得スト云フ　祭祀ノ方式ハ大體ニ於テチェーババオ社ニ同シ

(五)チェーババオ及コワバル兩社　祭祀ハ同日ニ行ヘトモ兩社別々ニ之ヲ行フ。其式左ノ如シ

(い)前祭　祭前一箇月先ツ祖靈ニ對シ豫告ノ式ヲ行ヒ(其式內文社ニ同シ)ソレヨリ一同山ニ入リ竹ヲ伐出シ之ヲ社ノ入口ニ持來リ之ヲ以テ毬突ノ練習ヲ行フ　祭前數日ニ至リ之ヲ毬突場(頭人家ノ舊家址)ニ持來シ「サカル」(棚架毬突用ノ腰掛)ヲ設ク　祭日ニ至リ男祝祖靈ヲ招降シソレヨリ毬突ヲ行フ。之ヲ「ミボソク」ト云フ　第二日引續キ毬突ヲ行フ。此日兩黨ノ槍互ニ相來往ス。卽チェーババオノ槍ハコワバルニ來遊シ次ニコワバルノ槍ハチェーババオニ來遊ス。之ヲ「キスズトブブ」ト云フ。以テ祖靈情人ノ許ニ來遊フニ

擬スルナリ　第三日槍ヲ倒シ「サカル」ヲ撤シ一同祖靈ヲ郊外ニ送ル　其翌日諸巫社民ノ家ヲ巡リイサナジャク」ノ新嘗ヲ行ヒ其翌日壯丁一同狩獵ス（詳細ノ式ハ次ノ内文社ノ五年祭ニ於テ說述スヘシ）

（ろ）後祭　祖靈ニ送ルヘキ諸種ノ物件ヲ取揃ヘ網袋ニ入レ之ヲ持シ靈ヲ郊外ニ送リテ歸ル。其式大體内文社ニ行ハルルモノニ同シ

第十　同番スボン群社

スボン群社ニハ頭人家三アレトモ共同シテ五年祭ヲ行フ。其中ツジラン家最大ニシテ祭場ハ同家ノ前庭ヲ以テ充ツ。男祝ハ一人ニシテ世襲ス

（一）前祭

（い）準備　祭祀前一箇月男祝祭場（即ツジャラン家ノ庭）ニ至リ其立石ニ對シ豫告祭ヲ行フ。此日社ノ入口チリカオニ於テ竹槍ヲ立テ毬突ヲ試ム。爾後每日之ヲ練習シ本祭ノ日ニ至ル　祭祀前一日祭場ハ[illegible]シ祭槍ヲ此所ニ運ヒ之ヲ立テ支柵ヲ設ケテ之ヲ支持ス

（ろ）祭祀　第一日男祝祭場ニ於テ右手ニ短槍ヲ持シ北面シテ祖靈ヲ呼フ。ソレヨリ其槍ニ裝飾ヲ施ス。卽其中程ノ所ニ粟餅、豬腿及數箇ノ鐵片（コレハ風ニ搖レテ相磨シテ音ヲ發スル爲メ卽鈴ノ用ヲ爲スナリ）ヲ附ス。之ヲ「パピラ・ト・ボロ」（槍ナシテ盛裝セシムノ義）ト云フ。此日夕刻ヨリ一同大頭人ノ庭前ニテ會飲ス　第二日乃至第四日ハ祭場ニ於テ毎餐祖靈ニ酒食ヲ手向ケ且ツ毬戲ヲ行フ。之ヲ「パチャパン・トワ・ツマシ（實ヲ漬釀セシムノ義）バジサオ・トツ・ツマシ」（盛ニ見物セシムルノ義）「パカス・ピナロル・トア・ツマシ」（「ピナロル」ハ古例ニ從ヒ粟ノ實ヲ醱酵トシテ醸シタル粟酒ナリ之ヲ以テ靈ニ供ス）ト云フ　第五日午前毬戲ヲ行フコト前日ノ如シ。午後槍ヲ倒シ支柵ヲ撤シ後男祝送靈ノ式ヲ行フ

（二）後祭　當日男祝盛裝シ多數ノ番丁ヲ率ヒ自己ハ竹竿ニ頭毛、鷹羽、各種ノ布片及草花ヲ飾リタル

ヲ攜ヘ二名ノ番丁ニ籠ヲ擔ハシメ馘首ノ歌ヲ唱ヘツツ社內ヲ巡行ス。此時各戶ヨリ祖靈ニ送ルヘキ粟餠ヲ其籠ニ投込ム頭人「ツジャラン」家ノ庭前ニ至リ集メタル餠ヲ寸斷シテ四方ニ投ス　次ニ男祇ハ人頭大ノ石ニ棕櫚ノ毛ヲ附着シ之ヲ人頭ニ擬シ豫メ社外ノ林中ニ置カシム。番丁數十名ハ槍ヲ持シテ令ヲ待ツ。男祇一令衆丁馳セテ其林ニ至リ該石頭ヲ取リ之ヲ提ケ馘首ノ歌ヲ唱ヘテ歸來ス。女祇之ヲ迎ヘ一行ニ對シ祈禱ヲ行ヒ後該石頭ヲ取リテ首棚ニ納ム。了テ男祇送靈ノ式ヲ行ヒ翌朝群巫各戶ヲ巡リ「イサナジャク」（內文社ノ部ニ詳ナリ）ノ祈禱ヲ行ヒ社民ノ健全ヲ祈ル

第十一　こぼじ番內文社

(一)總說

(い)祭園　當群社ノ五年祭ハ草山社ヲ除キ數十社共同シ大頭人家ノ所在地タル內文社ニ於テ之ヲ行フ。チューールン（以下單ニチ家ト記シ其黨チチ黨ト記ス）ロバニヤウ（以下單ニロ家其黨チロ黨ト記ス）ノ兩家其式ヲ別々ニ行フト雖モ其目ヲ同クス。パサラコブ家（以下單ニパ家其黨チパ黨ト記ス）ハ獨立シテ一黨ヲ爲スト雖モ其部下少キヲ以テ古來チ家ニ合同シテ之ヲ行フ

古代ハ加芝來、マリパ及內外獅頭ノ諸社モ各獨立シテ五年祭ヲ行ヒタレトモ外敵ノ攻擊ヲ受ケ力能ク之ニ抗敵スルコト能ハス內文社ノチ家又ハロ家ニ從屬シテヨリ後ハ五年祭モ亦チ、ロ兩家ニ併合セラルルニ至レリ　草山社モ亦外敵ニ抗敵スルコト能ハスシテチ家ニ從屬シタルモノナレトモ特ニ大頭人ノ許諾ヲ得テ其五年祭ヲ存スルコトヲ得以テ今日ニ至レリ。然レトモチ家ニ對シテ祭槍用ノ竹ヲ貢スルノ義務ヲ負ヘリ　草山社ノ五年祭ハ大體ニ於テスボン群社ニ同シト云フ。故ニ之ヲ略シ茲ニハ內文社ニ行フモノニ付テ說述ス

(ろ)祭祀ノ機關及方式　内文社ニハチ、ロ兩黨何レモ男女各一人ノ黨祝及數人ノ助祭者（番語「リサシジ・ヌ」）アリ。何レモ世襲ナリ。現時ロ黨ニハ女祝ヲ缺ク故ニチ黨ノ女祝之ヲ兼攝ス

内文社ノ五年祭ハ其儀式頗盛大ニシテ禁忌亦頗嚴重ナリ。而シテ其準備ニ數月ヲ費シ祭後亦諸種ノ祈禱アリ。之ニ付余及安原氏ガ前後調査シタル所ヲ綜合シ其次第ヲ記ス、以下當社ト云フハ特ニ此内文社ヲ指ス

(二)前祭

(い)準備　當社ノ五年祭ハ六月前ヨリ其準備ニ着手ス。卽(一)「パイシャサャ」（祖神ニ祭祀ヲ豫告スルコト）(二)「パプリボロク」（祭槍ニ作ル竹ヲ伐出スコト）(三)「マシボロク」（槍用ノ竹ナ部落ノ外ニ持來スコト）(四)パスサスプサ（其竹ナ矯直ス所ニ持來スコト）(五)「パユササパジ」（各社ヨリ其竹ナ當社ノ入口ニマテ持來スコト）(六)「パスウマク」（其竹ナ當社内ニ持來スコト）ノ式ヲ各一月ツツヲ隔テ滿月ノ日ヲ選テ之ヲ行ヒ後更ニ一月ヲ經テ祭祀ヲ行フ　其祭前一兩日ニ(七)「マサク」（草ナ拔キ路ナ修ムルコト）及ツーカル（[illegible]）ヲ行ヒ以テ祖靈ヲ歡迎スルノ用意ヲ爲ス　此等ノ次第ヲ詳說スレハ左ノ如シ

(1)「**パイシャサャ**」**ノ式**　此語ニ「始ムル」又ハ「執行フ」ノ義アリト云フ。豫メ祖靈ニ對シ本年當ニ五年祭ノ行フヘキ旨ヲ告クルナリ　此式ハ前祭ノ六月前滿月ノ日ニ之ヲ行フ　此日早朝チ、ロ兩家ニ於テハ重ナル番丁來集シ男祝外庭前面ノ石垣ノ上ニ在ル立石（番語「ジョかリ」）ニ向ヒ、餌（番語「リナ」）ヲ供シ大聲祖神ノ靈ヲ呼ヒ「汝ノ定メタル年到レリ、玆ニ「リナ」バヲ具シ汝「ビナバブカサャ」ニ在ル祖先ノ靈ニ告ク」ト曰フ。副祭者亦之ニ附シテ同一ノ語ヲ爲ス。女祝瓢ヲ以テ其語ノ祖靈ニ通シタルヤ否ヲトシ若通セサルトキハ幾度モ之ヲ呼フ。既ニ通シタルトキハ男祝俎ニ載セタル餌ヲ立石ノ後ニ投棄シ式ヲ畢ル

「パイサザヌ」ノ後數日ヲ經テ「パイシザーザオ」ノ式ヲ行フ。大頭人豫メ其日ヲ定メ豚ヲ屠リ其肉ヲ部下ノ諸社ニ分ツ　此日兩家ニ於テハ女祝其家內ニ於テ全饌ヲ具シテ祖神ヲ祭リソレヨリ之ヲ持シテ社ノ出口ニ至リ之ヲ置キテ歸來ス。諸巫ハ其受持テル社民ノ家ヲ巡リ家人ノ健康ヲ祈ル

(2)「パプリボロク」ノ式　槍ヲ求ムルノ義ナリ。早朝女祝頭人家ノ大黑柱ノ下ニ於テ祖靈ヲ祭リ後男祝ハ女祝ヨリ饌(骨脂)ヲ受ケ前庭ニ於テ北面シテ祖靈ヲ喚ヒ『汝ノ定メタル年月ハ到レリ、我等ハ今ヨリテ汝祖先ノ槍ヲ求メントス』ト曰ヒソレヨリ頭人及助祭者ト共ニ番丁ヲ率キ古來一定セル竹林ニ至リ適當ノ竹ヲ搜ス。搜シタルトキハ男祝其根ニ饌片ヲ投シテ祝シテ「今此リナバ」ヲ以テ汝ニ供ス願ハクハ此槍ヲ守リテ折レシムルナカレ、サブジスノ靈」(チ家ノ祖神。ロ家ナラハサラアツト云フ)ト曰ヒ之ヲ伐ル

祭槍ノ數ハチ、ロ兩黨トモ古來一定シ增減スルコトヲ得ス。其名稱及數ヲ聞得タレハ左ニ掲ク

(A)大頭人家ノ槍　「パリシアヾ」ト云フ。他ノ槍ニ比シテ最長シ。チ家ノ槍ニハ尖端ニ桂アレトモロ家ノニハ之ナシ

(B)黨祝ノ槍　サジムジノ槍ト云フ。祭祀ノ時ニハ之ニ裝飾ヲ施ス

(C)他ノ頭人家ノ槍　チ黨ニ於テハパ家、チャリパヾ家(古代ノ頭人家嗣男女ノ婚姻ニ因テチ家ニ併合セラル。此家ハ代々チ家當主ノ弟之ヲ持ス)、スルスン家(マリパ社ノ頭人家婚姻ニ因テチ家ニ併合セラル、現時同社ノ代管之チ持ス)ノ槍トス。ロ黨ニ於テハアリグリグジャヌ家(古代ノ頭人家、ロ家ニ併合セラレ現時此家ノ槍ハロ家大頭人ノ弟之チ持ス)、パラオロジ家(古代ノ頭人家、今此家ノ槍ハキナジャ社ノ代管カコワガヌ家ニテ持ス)カプルン家(內獅頭社ノ頭人家)ノ槍トス

有ノ外大頭人家ト特別ノ關係ヲ有スル他社頭人家ノ槍アリ。卽チ黨ニ於テハアボロガヌ家ノ槍(ばりしゃお番牡丹社ノ頭人家ナリ。古代チ家ノ當主其家ナ弟ニ讓リ遠ク牡丹社ニ至リ其家ナ起ス。此理由ニ因リ同家ヨリ當社ノ五年祭ニ槍チ立ツルナリト傳フ。然レトモ路遠キチ以テ同家ヨリ來立ツルコト能ハス代々チ家ニテ之ナ立

テ同家當主ノ）又ロ黨ニ於テハマイリバ家ノ槍（バガス番、平バジ社ノ大頭人家ヲ[illegible]古代ヨリ家ヲ繼ギタル [illegible]チジイ實ナ妹ノ[illegible]其ヲ同家ニ入リタル）弟之ヲ持ス）又ロ黨ニ於テハマイリバ家ノ槍ノ如シ

チ以テ其子孫代々當社ノ五年祭ニ其槍ヲ立テタレト今ヤロ家ニ於テ之ヲ立テ大頭人ノ弟之ヲ持ス）ノ如シ

(1)世襲補佐槍（番語「コジプジプン」）ノ槍　チ黨ニ於テスリカオ家（プンシニジャヌ社代管）ガルジグ家（クラユ社代管）及バタラク家（外加芝來社代管）ノ槍。又ロ黨ニ於テハバジャイジ、イ家（内乳社代管）、コベリ家（内文社氏）ノ槍等トス

(3)「**マシボロク**」ノ式　此語ハ槍ヲ持來スコトヲ意味ス。當日男祀頭人家ニ至リ女祀ヨリ饌ヲ受ケ途中ニテ負傷シ又ハ不祥ノ事ニ逢ハサル樣ニ祈リ後番丁ト共ニ籔ニ竹ヲ伐置キタル所ニ至リ各竹ニ對シ一々『汝祖先ノ靈ニ告ク。汝ノ定メタル時ハ到レリ。今汝ノ槍ヲ持行カントス。願ハクハ之ヲ守護セヨ』ト祈リ之ニ饌ヲ投シ後壯丁等其竹ヲ擔ヒ社外一定ノ場所ニ來テ之ヲ置ク

(4)「**パスサスボヲ**」ノ式　「サスブヲ」卽「竹ヲ直伸スル所ニ持寄ス」ヲ云フ。此日早朝男祀及番丁等頭人家ニ來集シソレヨリ籔ニ竹ヲ置キタル所ニ至リ男祀北面祖靈ヲ大呼シ『汝祖先ノ靈ニ告ク汝ノ定メタル時ハ到レリ。我等今汝ノ竹ヲ「サスブヲ」ニ持行クヘシ』ト告ケ後一同ニテ其竹ヲ擔ヒ一定ノ所ニ來ル。女祀乃先ツ大頭人家ノ槍（「マリシアー」ト稱スルモノ）ニ對シ豚片ヲ投シ祝シテ曰ク『汝祖先ノ靈ニ告ク。今汝ノ槍ヲ矯メ直サントス。願ハクハ之ヲ守テ折レシムルコトナカレ』トテ火ヲ燃ヤシ之ニテ竹ヲ炙リ其曲レルヲ直ス。ソレヨリ他ノ竹ニ對シテモ亦同樣ノ祈禱ヲ行フ

祭槍ハ大小三本ノ竹ヲ接合セテ之ヲ作ル。其最先ノ方ヲ「ソロ」ト云フ。尖ノ義ナリ。此ハ「マカサウ」ト稱スル細長キ竹ヲ用キ充分其先端ヲ尖ラシ火ヲ以テ燒固ム。中身ヲ「カル」ト云フ。胴又ハ背ノ義ナリ。此ハ「ジマジマイ」ト稱スル竹（我邦ノ淡竹ニ似タリ）ヲ用ウ。根ノ方ヲ「カボロ」ト云フ。此ハ「カバヤ」ト稱スル竹（土人ハ刺竹ト稱スルモノ太クシテ強シ）ヲ用ウ。右ノ三本ヲ接合スルトキハ長約七八尋ト爲ル

(5)「**パスササバジ**」**ノ式**　祭槍ヲ社ノ入口ニ持來スノ義ナリ。此ハ「パスサスブサヌ」ノ翌月滿月ノ日ニ之ヲ行フ。而シテロ家ノ「ササバジ」ハ社ノ東北端ニ、チ家ノ「ササバジ」ハ社ノ東端ニ在リ　大頭人ヨリ豫此日ヲ部下ノ諸社ニ通知スレハ其社外ニ在ル各家ハ槍ヲ持シテ內文社ニ來リ自黨ノ「ササバジ」ニ置ク。之ヲ「パッブガヌ」（出會セシムルノ義）ト云フ。女祝其槍ニ對シ饌ヲ投シ「スムクヤッ」（惡氣ナ禳フノ義）ノ祈禱ヲ行ヒ終テ一同其槍ヲ立テ毬戲ヲ試ム　毬ハ想思樹ノ皮ヲ幾重ニモ纏キ徑約三寸ノ大サニ作リ之ニ長三四尺ノ細キ麻紐ヲ附ス。此毬ハ男祝豫メ三箇ヲ作リ置キ當日一人ノ老番（各黨ニ定マレル者アリ「バヤク」ト云フ）「ササバジ」ニ於テ天ニ向ヒ祝シテ『ピナバブカサヌ（祖先發祥ノ地名）ニ在ル太祖ノ靈ニ告ク。我等今古例ヲ襲ヒテ此所ニ毬突ヲ始ム。願ハクハ照覽セラレヨ』ト。其紐ヲ持シ饌脂（「カルムー」）ト共ニ拋上クルトキハ槍ヲ持シテ待構ヘタル壯丁等ハ競テ之ヲ受留ム。其毬最初ハ低ク、次ハ稍高ク。其次ハ最高ク拋上ク。然後番丁毬ヲ拋クルコトニ巧ナル者該老番ニ代リテ毬ヲ拋ケ該老番槍ヲ持シテ之ヲ突ク。後他ノ番丁等モ交互ニ或ハ拋ケ或ハ突ク。　ソレヨリ番丁等每日此所ニ來リテ毬突ヲ練習ス

(6)「**パスウマク**」**ノ式**　竹槍ヲ社內（卽「ウマクー」）ニ持來スノ義ナリ。チ黨ニ於テハ之ヲスリガオ家ノ庭前ニ持來ルヲ以テ一ニ「パスチェスリガオ」ト云フ。此ハ「パスササバジ」ノ翌月滿月ノ日ニ行フ。各槍ヲ社內ニ移シタルトキハ男祝先ツ之ニ對シ祈禱ヲ行ヒ「バヤク」（老番。前ニ出ツ）毬ヲ取テ拋上ケ衆丁之ヲ突クコト「パスササバジ」ニ爲シタルモノニ同シ。爾後每日此所ニテ毬戲ヲ練習シ本祭ノ日ニ至ル

(7)「**マサク**」**及**「**ツマカル**」**ノ式**　祭前數日頭人ヨリ其部下ノ諸社ニ祭日ヲ通知シ且ツ副祝（助祭者番語「パサラジヤメ」）ヲ招集ス。然ルトキハ內文社ニ居住スルモノハ勿論今ハ他社ニ在ルモ祖先ノ曾テ同社ニ居住シタル者ハ來テ其舊屋ヲ修理ス。若シ其年代久シク其屋宇ガ廢壞セルトキハ其舊址ニ一小屋ヲ構フ。是

祭祀中祖先ハ其舊址ニ宿泊スヘキニ因ル。而シテ同社内ノ各家ハ皆其屋内ヲ清掃シ又屋外ノ雜草ヲ除キ道路ヲ修理シ以テ祖靈ヲ歡迎スル用意ヲ爲ス。其翌日未明ニ兩黨ノ番丁各其大頭人家ノ前庭ニ集ル。女祝乃饌ヲ具シ「ジョガリ」(石垣ノ上ニ在ル立石)ニ對シ祖靈ノ名ヲ呼ヒ定例ノ日至リタルヲ以テ舊例ニ從ヒ當ニ「サカル」(支棚)ヲ設クヘキ旨ヲ告ク。ソレヨリ一同毬突場(大頭人家舊屋ノ前庭)ニ至リ男祝饌ヲ供シ祝シテ曰ク『我今ビナバブカサァニ在ル汝大祖ノ靈ニ告ク。定例ノ時至リ古例ニ從ヒ毬突場ノ除草ヲ行ヒ「サカル」ヲ設ケ又汝ノ通路ヲ作ルヘシ。願クハ之ヲ照鑑セヨ云々』。畢テ衆丁ハ毬突場ヲ清掃シ高約六尺ノ支棚數箇ヲ設ク。其法地上ニ股木ヲ左右ニ各二本ヲ植エ其二本ノ上ニ横木ヲ縛シ左右兩横木ノ上ニ板ヲ架シテ棚ト爲シ棚ノ前ニハ淺キ穴ヲ掘リ以テ竹槍ヲ立ツルトキ其石突ヲ安スル所トス

(ろ)祭祀　前祭ハ滿月ノ日ヨリ始メテ五日間ニ亘ル其式左ノ如シ

第一日早朝チ、ロ兩黨ノ黨祝及助祭者一同盛裝シロ家ノ前庭ニ集ル。女祝先ツ一隻ノ小豚ニ對シ「パルゲルゲ」ノ祈禱ヲ行ヒ之ヲ屠リ頭ヨリ尾ニ至ルマテヲ縱ニ兩分シロ、チ兩家各其一半ヲ取リ祭祀用ノ犧牲トス。兩家ハ各其内ニテ前脚ノ所ヲパ家ニ割與シ以テ同家所用ノ犧牲トス　次ニ兩黨ノ祭員先ツロ家ニ至リ次ニパ家ニ至リ最後ニチ家ニ來リ順次ニ祖靈招降ノ式ヲ行フ。其法前記ノ犧牲ヲ籠ニ盛リ前庭ノ大樹ニ吊シ女祝先ツ庭前ノ「ジョガリ」(石柱)ニ對シ饌ヲ具シ祖靈ヲ呼テ曰ク『今汝ビナバブカサァニ在ルナクミジシ(始メテ社ヲ開キタル祖神)ヲ喚フ。定例ノ日ハ至レリ。今將ニ「マジ、パク」ヲ始メントス。サジュムジ(太祖)サアジソ(チ家ノ祖)サラカツ(ロ家ノ祖)サチャカロ(パ家ノ祖)其他子孫ノ諸靈皆來降セヨ』ト。然後男祝北面大聲ニテ『來レ來レ太祖及父祖代々ノ靈ヨ。定例ノ時ハ至レリ。我等ハ路ヲ修メ槍ヲ立テ食ヲ具シテ汝

等ヲ待ツ。曰クハ山ノ幸ト野ノ幸ヲ持チ來レ。山ヨリハ猪ト鹿トヲ、野ヨリハ粟種ト芋種トヲ多ク持來レ」ト呼ヒ兩手ヲ以テ左右ヨリ其幸福ヲ中ニ抱込ム樣ヲ爲ス。此時他ノ巫女モ亦巫歌ヲ唱ヘテ諸靈ヲ招來ス　次ニ兩黨合同シ先ツロ家ニ、次ニチ家ニ來リ槍ニ對シテ「パツブント・サプイ」(火ナ以テ不淨ナ禳ノコト)ノ式ヲ行フ。其法各黨ノ壯丁豫メ毬突場ニ在ル竹槍ヲ倒シ之ヲ大頭人家ノ前庭ニ持來セハ其黨ノ女祝粟莖ニ火ヲ點シ之ヲ以テ槍ノ不吉ト不淨ヲ禳ヒ且ツ祝シテ曰ク「汝ノ槍、汝ノ竹ニ煙ヲ塗ル、以テ能全ニ、強固ニ。美麗ニアルヘク云々』ト。了テ番丁槍ヲ毬突場ニ立テ豚骨ヲ其揷地上約七尺ノ所ニ納スソレヨリ兩黨ノ祭員相合シ先ツロ家ニ、次ニチ家ニ至リ毬ニ祈禱ヲ行フ。此ハ其黨ノ助祭ノ一人毬ヲ取リ之ニ「カルム」ヲ塗リ能ク突キ得ル樣ニ祝福スルナリ。然ル後兩黨ノ祭員相別レ各其祭場ニ至リ毬突ヲ行フ。鞠ヲ拋クル者ハロ黨ニ於テハ助祭者タルカブルン家、チ黨ニ於テハスルメン家ニシテ先ツ之ヲ試ミタル後ハ番丁等之ニ代リ交ル〳〵之ヲ行フ。槍ニハ各其持主アルモ之ヲ持シテ毬ヲ突ク者ハ番丁中何人ニテモ可ナリトス

毬ヲ拋揚クルトキ又ハ突止メタルトキハ「イヤコー」ノ歌ヲ唱ヘ其勢ヲ助ク。今其歌ノ一二ヲ揭ク

(い)毬ヲ突揚クルトキニ歌フモノ

(1)イドー　サジムジ　チャジュマザオ　チゾソカ　ソビヌカサヌ　イヤコー・イヤコー

(譯)來レサジムジ(豐穰及出草ヲ司ル神)サアジソ(チ家ノ祖先。若シロ黨ナレハサラカツト云フヘシ)ココニ來レ。汝ノ定メタル時ハ至レリ

(2)ビナカサナカタ　ジュムジラリブアヌ　イヤコーイヤコー

(譯)サジムジ・ラリヤバヌ(ラリヤバヌハサジムジノ家名)來レ、古代ヨリノ慣例ニ從ヒテ

(3)サウ・チゾチゾジャヌ　ト・クサム　ト・チャジャヤン　イヤコー・イヤコー

（譯）我ニ粟種ト芋種トヲ澤山持來レ

(4)サウアヅワナヌ　ト・ケマン　ト・マツナヌ　イヤコー・イヤコー

（譯）山ノ幸ト野ノ幸ヲ我ニ贈マシメヨ

（ホ）チ・ジニマボオ　ナカジャカジ・カ　マヤイハタラタラク　イマボビナロム　イヤコー・イヤコー

（譯）來レ社民モ遠慮セズニ、蕃ニビナロル（酒祭）ガアル

（ヘ）槍ニテ毬ヲ突キ止メタル時ニ歌フモノ

(1)イヤオー　スチャラケマン　スチャラマツナン　サシニパクルクルヅ・ニブブ　サババサ・サバコ・

サブナンサバブイ　シニパクルクルヅ　サバガオガバヌ　サパタブラカヌ　サバクチニクチニ

トリヌブ？　シニジャロソ、アシ・ボモマク　アシ・ソハリジ・リジャオ　アシ・グロソ　アシ・サボア

（譯）祖先ハ我ニ對シ眞實ニ山ノ幸及野ノ幸ヲ與ヘタリ我ハ眞實ニ粟芋鹿豚ヲ受ケタリ我ハ又

ボモマク、スパリジ・ジ・オ、グロツス（鷲鼻）及チボア（小琉球嶼）ヨリ來レル仇敵ヲ殺セリ

(2)イヤコー　イニ・パサリニーアカタ　チ・イチ・ルン　チ・イロバニヤウ　チ・ラアマヤ・ナ、チェク

ジナジ・サナ、キスリマナ、マリリアカダス　イニヤナテラブ　トツチウォールアカダン

アマシビヌカツ

（譯）チェールン家及ロバニヤウ家ニ對シ未ダ曾テ心得違ヲ爲シタルコトナシ我ハ舊ノ如ク武勇

ノ名ヲ固持セリ。古代ヨリ傳承セル名譽ヲ失墜セズ

第二日社内各家ノ家祀（妻又ハ長女）ハ皆其屋内ニ於テ（若シ舊家址アル者ハ其舊址ニ立テタル小屋ニ於テ）朝午夕ノ三回餅、酒、肉及粟、芋等

ヲ俎上ニ陳シ各自ノ祖先代々ノ靈ヲ祭ル、之ヲパチーバン・ト・ノブト云フ　壯丁等ハ朝祭リヲ畢ナタ

ル後一同毬突場ニ集リ昨日ニ引續キ毬戲ヲ行フ。午後ロ黨ノ人チ黨ノ毬突場ニ來リテチ黨ノ槍ノ中ニテ「パリシアヌ」(頭人ノ槍)サジムジ、チャリパヌ及カロワヌノ槍ヲ迎フ。此時チ黨ノ人ハ之ヲ拒ミロ黨ノ人ハ之ヲ奪ハントシ暫ク相爭ヒ後チ黨終ニ敗レテロ家ニ伴ハルルノ狀ヲ爲ス。是唯笑戲ヲ爲スノミニシテ他ノ意味アルニ非スト云フ。チ黨ノ「パリシアヌ」ハロ黨ノ「パリシア」ニ、サジムジハサジムジニ、チャリパンハタコペリニ、カロワンハマバリユーノ槍ニ並ヒテ立ツ。之ヲ「パイバラ・ト・ボロク」(槍ヲ遊ハシムル義)ト云フ。此時チ黨ノ頭人男女ノ祝及助祭者之ニ從フ。他ノ番丁從ハント欲スル者ハ亦往ク。ロ黨之ヲ歡待シ盛ニ酒ヲ酌ム。兩黨ノ番丁相合シテ毬戲ヲ行フ。午後ニ至リチ黨ハサジムジノ槍ヲ殘シ他ノ三本ヲ持シテ歸來ス。其殘シタル槍ハ翌朝未明ニ來リテ奪ヒ歸ルト云フ

第三日朝午夕ノ三回各家ニ於テ祖靈ヲ祭ルコト前日ノ如シ　而シテ兩黨何レモ其毬突ヲ行フコト亦前日ノ如シ　午後チ黨ノ人ロ黨ノ毬突場ニ在ル四本ノ槍ヲ迎ヘテ歸リ之ヲ歡待ス。其次第昨日ノ如シ。夕ニ至リロ黨亦サジムジノ槍ヲ殘シ他ノ三本ノ槍ヲ持歸ル。而シテ其殘シタル槍ハ翌早朝之ヲ奪回ス　此日黃昏ニ至リロ黨ハ人ヲ遣シテチ黨ノ婦女ヲ迎フ。チ黨ノ婦女一同盛裝シテ之ニ赴ク。ロ黨ノ婦女亦盛裝シテ之ヲトコン家ノ前マテ來リ迎ヘ相合シテ酒ヲ酌ム。コレヨリ相與ニ其ニロ黨ニ屬スル舊家ノ址ヲ訪フ。至ル所酒ヲ酌ミ相親ミ諸巫ハ「マラダ」(巫歌)ヲ齊唱ス。最後大頭人ノ家ニ至リテ大ニ酌ミソレヨリカコワガヌ家ノ舊址ニ至リテ相別ル。之ヲ「イサネコ」ト云フ。其意義ヲ審ニセス

第四日朝午夕三回各家ニ於テ父祖ノ靈ヲ祭ルコト前日ノ如シ　男子ハ毬突場ニ集リ引續キ毬突ヲ行フ　午後チ黨ノ婦女ハ人ヲ遣シロ黨ノ女ヲ迎フ。ロ黨ノ婦女盛裝シテ至レハチ黨ノ婦女之ヲバ

家ノ庭ニ待受ケ酒ヲ置テ歎待ス。ソレヨリチ家ニ至リテ飲ミ最後ニチ、リパン家ノ舊址ニ至リテ飲ミテ解散ス。亦之ヲ「イサネコ」ト云フ　ソレヨリ兩黨ノ男女盛裝シ各自若干ノ餅ヲ携ヘ大頭人ヲ始メ重ナル舊家即チトコン家、チャジラバル、パリグル、ガルジグジ等ノ舊家址ヲ訪ヒ至ル所餅ヲ取テ高ク空ニ拋ツ。各家酒ヲ置テ之ヲ歎待ス。稱シテ「モレラヴラヴ」（飲廻ル義）ト云フ。最後ニガルジグジ家ノ舊址ニ至リテ飲ム。宴酣ニ至レハ互ニ歌ヒ且踊ル。其踊ハ出草シテ凱旋シタル時ニ行フモノナリト云ノ

此會合ニハ兩黨互ニ過去五箇年間ニ起リタル交際上ノ不平ニ付キ相責メ相難ス。稱シテパカヤヤム（互ニ借財ヲ決算スルノ義）ト云フ。論戰漸ク盛ニ至レハ壯者血氣ニ逸リテ往々相毆チ雙方ニ加勢ヲ生シ將ニ鬪爭セントスルノ狀ヲ呈ス。老番等之ヲ制シテ甚タシキニ至ラシメス。婦女ハ其中ニ混入スルコトヲ得スト雖モ遠ク之ヲ望見シ其子弟ガ他ト爭鬪セントスルニ至レハ其中ニ入リ之ヲ制スルコトアリ。幸ニ祭日中ハ皆銃及刀ヲ携帶スルコトヲ許サヽルガ故ニ未曾テ大事ヲ釀シタルコトナシト云フ　此日夕刻兩黨ノ祝及助祭ロ家ニ聚リ女祝「ジョガリ」ノ前ニ石ノ腰掛ヲ置キ之ヲヤシムジ及三頭人家ノ祖靈ノ坐スル位トシ之ニ對シ饌ヲ供シ聯杯ヲ置キ之ニ告ケテ曰ク「定例ノ日ハ至リ祭祀ハ完了セリ。故ニ此社ヲ去ルヘク而シテ去ルニ當リ山ノ幸及野ノ幸ハ之ヲ留置カレタシ」ト之ヲ「スマツ・ト・ブブ」（祖先ヲ送ル義）ト云フ。蓋シ太祖以下諸靈ハ去リテ更ニ南巡ノ途ニ就クガ故ニ之ヲ送ルナリ

第五日早朝兩黨各其毬突場ニ聚リ先ツ槍ヲ搖リテ其尖端ニ刺サレル毬ノ落シ（此ハ拾テ存置シ入[illegible]家ニ持歸リテ殘シ置ク）槍ヲ倒シ「カポロ」（大竹ノ根元）ヲ去リ「ヴロ」（最上端ノ竹）及「カロ」（中間ノ竹）ヲ集メ祝之ニ對シ祈禱ヲ行ヒ「日ハ至レリ、定例ノ祭ハ完了セリ。故ニ此槍當ニ伐去ルヘシ」ト云ヒ刀ヲ以テヴロヲ伐テ兩片ト爲ス。ソレヨリ壯丁等ハ其尖端ノ方ヲ取リ叫テ曰ク「ブガリツ（本群ノ敵ニシテ北方ニ在リ）ニ赴キ敵ヲ殺ス」ト一散ニ驅行キ、ササ

バシ」ニ至リ一ノ樹木ヲ目懸ケテ之ヲ刺シ後刀ニテ其皮ヲ剝キ携ヘテ歸レハ女祝之ヲ迎ヘテ其樹皮ニ「カブル」ヲ投シ取テ首架ノ内ニ藏ハ。蓋シ其樹ヲ以テ敵ニ擬シ皮ヲ以テ人頭ニ擬シタルナリ。此式ヲ「ミガサジ・ア・マキナサブ」ト云フ

第六日兩大頭人家ハ豚各一頭ヲ屠リ「イサナジャク」ノ祈禱ヲ行フ。祖靈既ニ去リタルモ惡靈ノ尚社内ニ殘居テ社民ニ害ヲ爲サンコトヲ慮レテ之ヲ禳フナリ。此日頭人ハ豚ヲ男女ノ祝ニ與ヘテ謝ト爲ス。後「ゾロ」ノ末端ヲ切テ筒トシ巫ヨリ「カルブ」ヲ受ケテ之ニ容レ祖先此ニ留レリトテ各自持歸リ家ノ奥室ノ柱ニ懸置キ次ノ後祭ノ時マテ保存ス。之ヲ「パサバジ・ト・ツマシ」(靈ニ家ニ留ムル意)ト云フ。蓋シ本社ノ當社ヲ出テ南幸シ更ニ歸來スルマテ各家ノ祖靈ヲ其家ニ留マラシムルノ意ナルヘシ。後日若シ豚ヲ屠リ又ハ獸ヲ獵獲シタルトキハ其肉ノ小片ヲ之ニ投ス

(三)後祭　ハ前祭ノ後七箇月ヲ經テ滿月ノ日ニ之ヲ行フ

(い)準備　祭前數日大頭人ヨリ各社ニ祭期ヲ通知シ助祭者ヲ召集ス。又祭前一日ニ於テ社內ノ清掃シ路ヲ修繕スルコト前祭ノ如シ

(ろ)祭祀　二日ニ亘ル其式左ノ如シ

第一日兩黨ノ祭員一同各其大頭人ノ家ニ聚リ女祝立石ニ對シ饌ヲ具シ祖靈ヲ招降シ之ヲ祭ル

午後ロ黨ノ婦女ヨリチ黨ノ婦女ヲ招キテ會飲ス。之ヲ「イサネコ」ト云フ。其式前祭ノ如シ　終テ各社ノ男子各家ヲ飲廻ル。之ヲ「ラブラブ」ト云フ。亦前祭ノ時ノ如シ

第二日朝送靈ノ式ヲ行フ。兩黨ノ祭員各其大頭人ノ前庭ニ聚リ立石ニ對シ告ケテ曰ク「汝ピナバブカサ」ニ在ル祖先ノ靈ニ告ク。今時至リ事了セリ。此「リナバ」(全饌)ヲ以テ汝等ニ與フ。願クハ持歸リテ諸人

ニ分タルヘシ。但シ「マッナン」（農耕ノ幸福）「ケマン」（狩猟ノ幸福）其他ナルミ「ツ」（凡テノ幸福）ハ此社ニ残シ置ク決シテ持歸ルコト勿レ」ト一同聲ヲ合セテ「オー」ト叫フ。此時女祝ハ低キ石ノ腰掛ヲ立石ノ前ニ置キ檳榔杯ヲ用ヒテ合歓ノ式ヲ行ヒ四神ノ靈ニ送ル状ヲ爲ス。ソレヨリ社内ノ各戸ハ豚ヲ折リテ細片トシ之ニ鶏、豚脂、豚皮、「古キ」シカオ（背負袋）ノ小片ヲ載セ一社毎ニ纏メテ内文社ニ持寄リ同社ニ於テ各社ノ分ヲ纏メテ四籠ト爲シ二籠ツツ一擔トシ一ハ之ヲ社ノ東方、他ノ一ハ社ノ北方ニ持行キテ之ヲ棄ツ。南黨其場所ヲ異ニス　午後チ黨ノ婦女ロ黨ノ婦女ヲ招キ「イサネコ」ヲ行ヒ終リテ南黨ノ男子各社内ノ諸家ヲ飲廻ル

（は）祭後ノ祈禱　後祭ノ後社民ノ行フ祈禱凡五アリ左ノ如シ

(1)**「イサナジ、ク」ノ式**　「イサナジ、ク」ハ、子ト爲ルノ義ニシテ社民一同太祖ノ子ト爲リ其保育ニ頼リテ無病息災ナランコトヲ祈ルヲ云フ。蓋シ五年祭ニハ曖ピナバヤバヤ（悪靈ハヒナリアニ入ルコト能ハス、此所ニ留マル）ニ在ル悪靈モ亦祖先ニ従ヒ來リ送靈ノ後モ尚社内ニ留リ民人ニ禍スルコトアルニ因リ此祈禱ヲ修シテ之ヲ免レントスルナリ。此ハ送靈ノ翌日各家別々ニ、先ツ頭人家ニ於テ女祝之ヲ行ヒ次ニ其他社内ノ各戸ヲ巡リテ之ヲ行フ。内文社以外ノ諸社民ハ祭ヲ終ヘ歸來シタル後ニ別々ニ行フ

(2)**「マプリア」ノ式**　送靈ノ翌日、イサナジ、クノ祈禱ヲ終リタルトキハ南黨別々ニ「[illegible]」ノ式ヲ行フ。即チ助祭者一人（ロ黨ニ於テチ、ピリ家チ黨ニ於テスリガオ家）一小サキ弓矢ヲ持シ「サザバジ」四社日ノ祭遣ニ至リ矢ヲ番ヘテ茅ノ繁茂スル所ヲ目懸ケテ射込ミソレヨリ刀ヲ抜テ茅ノ穂ヲ刈リ之ヲ持來レハ女祝之ヲ迎ヘテ粟莖ニ火ヲ點シテ其前ニ置キ祝シテ其上ヲ跨カシム。蓋シ茅ノ穂ヲ敵ノ首級ニ擬シタルモノニシテ之ヲ行フハ古代送靈ノ後ニ出草シタル遺影ナルヘシ

(3)「パリシト・サウザヤ」ノ式　被服、装飾品、農具、武器等其他一切ノ家具ニ對シテ祈禱ス。此祈禱ハ送靈後兩三日内ニ頭人家ヨリ始メテ各戸別々ニ行フ當日各戸ハ家具ヲ外房ニ陳シテ巫ノ來ルヲ待ツ。巫來リ饌ヲ供シ祝シテ曰ク「今豚ヲ屠リ汝諸靈ニ祈ル。「カタ(佳[illegible])ホラ(頭飾管玉用)銃、鍋、甕等此所ニ陳列セル物品ハ皆是祖先ヨリ傳來セルモノナリ。物件增殖スレハ諸靈ニ供スル物品モ亦豐富ト爲ルヘク之ニ反シテ物件減少スルトキハ靈ニ供スル物品モ亦乏シキニ至ルヘシ、故ニ諸靈ハ此等ヲ守リテ破損セシムルコトナク益增殖セシメラレタシ』ト。此祈禱ニハ豚ヲ屠ルヲ例トスルモ若シ之ナキトキハ唯祈禱ヲ爲シ置キ後日豚ヲ得タル後ニ屠ルモ可ナリト云フ

(4)「パリシト・コツン」ノ式　前記「パリシト・サウザヤ」ノ式ヲ了ヘタル後男女ノ兩祖社ノ入口ニ至リ　ノ如ク二本ノ柱ヲ立テ其上ニ横木ヲ架シ巫之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ惡靈ノ此ヨリ内ニ入ルコトヲ禁シ菖蒲ノ根、豚骨及酒ヲ盛リタル竹筒ヲ靈ニ與フト稱シ此横木ニ吊シテ歸ル。「コツン」ハ垣又ハシキリ」ヲ意味シ之ヲ作ルハ我國ノしめなはト同樣ニ出入ヲ禁止スル義ナリ

(5)「イパサタジ」ノ式　後祭ノ後幾日カ經テ頭人以下社民任意ニ巫ヲ招キ之ヲ行フ。豚ヲ屠リ(若シ之ナクハ鹽漬ノ豚肉ヲ用ウ)之ヲ諸靈ニ供シ告ケテ曰ク『既ニ諸多ノ祈禱ヲ畢ヘタリ。汝等諸靈速ニ此社ヲ去ルヘシ、留テ家人ノ害ヲ爲スヘカラス云々』。蓋シ祭後尚ホ惡靈ノ家ニ留ル者アルヵ故ニ尚一回此祈禱ヲ行ヒテ社外ニ駈逐スルナリ

第十二　ぱりじ、お番サブデク群社

(一)總說　當群社ニハチ「カツグバライバイ、ジジン」ノ三黨アリ。モト相合シテ一ノ祭團ヲ成シタリシモ今ヨリ約三十年前ジジン黨(牡丹路社内ノチョロリジス、チョコチョコノ兩部落約十戸)分レテ別ニ一團ヲ組織セリ　五年祭ハ先ツジ

ジン黨ニ於テ行ヒ終テ他ノ兩黨ニ於テ行フ

(附記)ジジン黨ノ副祝タル巫チョオ・トイボ曰ク「余ガ尙少女タル時チャコボコボジヲ始メ各社五年祭ニ祖先ノ遺法ニ違フモノ多カリケレハ神靈怒テ地震ヲ起シ諸所ニ山崩レアリタリ。我ガデクモ亦方式ヲ誤テ在リシカハピナルタバタバア」ノ靈(太祖)來リ我ニ告テ曰ク「祭式過ツコト甚シ。汝速ニ間違ハサル樣ニ之ヲ爲スヘシ。然ラサレハ大ナル責罰アルヘシ」トアリケレハ我乃チ之ヲ頭人ニ告ケシニ老番キジ・パチャバンモ之ニ同意シ爾來我部落ノミハ則ニ之ヲ行フコトトナレリ」ト

(二)前祭　チョガヲク及バライバイ共同シテ一團ト爲リジジン一黨共ニ一團ヲ爲スコト前ニ述ヘタ祭團ニ祝男女各一人、副祝男女亦各一人アリ。祝ハ「パラカジャイ」副祝ハ「ボカヌン」ト云フルガ如シ而シテ此兩團ハ少シク其方法ヲ異ニス故ニ之ヲ分說ス

(甲)チョガヲク、パラヤバイ兩黨ノ祭祀　古來パスマク社ノパラヤバイ家ニ於テ之ヲ行ヒタリシガ數十年前淸國兵ノ討伐ヲ受ケ人死シ地汚レタルガ故ニ同頭人等ハ宗新路社ニ移リヤガテ其五年祭場モ亦同所ニ移ルコトト爲レリ。安原氏ガ之ニ付テ調査シヤル所左ノ如シ

(い)準備　五年祭ヲ行フヘキ年ノ前年冬ニパスマク社後方ノ山ニ火ヲ放チ狩獵ヲ行フ。ソハ明年祖靈ノ當社ニ來ルヘキニ因リ其通路ヲ作ル爲メナリ。此時ニハ男副祝及「パヤタ」ノ兩人茅束ヲ持行キ火ヲ放ツ　祭祀一二箇月前ニ至リ男女ノ兩祝頭人家ノ前庭ニ於テ儀ヲ具シ遙ニ大武山ニ向テ當ニ五年祭ヲ挙行スヘキヲ豫告シ其翌日頭人番丁ヲ牽キテ狩獵ニ赴ク。若シ獲物ナキトキハ其翌日再ヒ出獵ス。如何ナル小獸ニテモヨシ唯ヽ獲ヲ得ハ足ル。歸來其獲物ヲ以テ靈ヲ祭ル後兩回數日ニ

亘リ狩獵ヲ行フ。之ヲ「エポコヌチ」（犧牲ヲ得ルノ義）ト云フ。獵獲シタ肉ハ粟飯又ハ鹽ニ漬ケテ之ヲ貯ヘ以テ祭祀ノ日ヲ待ツ　數日ノ後各戶一名宛山ニ入リテ槍用ノ竹ヲ取リ之ヲ社ノ近傍ニ在ル溪邊ニ置キ一箇月ノ後之ヲ「サソロア」ニ持來リ二本接合シテ槍ト爲シ其翌之ヲ「サザバジ」ニ移シ爾後一箇月間毬突ヲ練習ス　祭前一日頭人以下一同祭場ニ至リ木ヲ伐リ草ヲ拔キ路ヲ作リ小屋（頭人家ノ祭屋）ヲ立テ又支柵ヲ設ケ槍ヲ立ツ。此等ヲ「チムバス・ト・ケナジャン」（舊社地ヲ清掃スル義）ト云フ

（ろ）祭祀　四日ニ亘ル

第一日衆丁祭場ニ集ル。男祝北ニ向ヒ祖靈ヲ喚ヒ女祝其來否ヲトス。靈來格スト告ケタルトキハ頭人以下順次ニ供饌ス。此時一同聲ヲ和シテ『汝等祖先ハ路遠ク來リ定メテ疲レ且ツ饑エタルヘシ。茲ニ酒アリ餅アリ肉アリ聊カ汝ニ與ヘテ食ハシム』ト歌フ。ソレヨリ一同ハ各其携ヘタル酒肉ヲ出シテ相食シツツ過去ヲ語リ父祖ノ生前ヲ偲フ　午後毬突ヲ行ヒ日暮ニ至リテ止ム

第二日前日同樣ニ供饌シ毬戲ヲ行フ

第三日午前供饌シ且ツ毬ヲ弄シ正午一同携ヘ來レル盛服ニ着換フ。未婚ノ女ハ此日特ニ美裝ヲ爲ス。午後毬ヲ弄シ日暮ニ至リテ止ム。此時突留メタル毬ヲ落シ祭屋內ノ靈棚ニ納ム。後壯丁ハ一同槍ヲ持シテ首棚ノ前ニ至リテ大聲「我ニ餅酒及肉ヲ與ヘヨ」ト叫フ。男祝先在リ直ニ之ニ應シテ携ヘ來リシ餅酒及肉ヲ與フ。一同之ヲ槍先ニ刺シ去テ頭人ノ家ニ至リ又同一ノ事ヲ行フ。ソレヨリ一同祭場ニ歸來シ男女相混シテ長蛇ノ列ヲ作リ歌ヒツツ場內ヲ周ルコト數回。女祝再ヒ靈ノ當ニ去ルヘキヤ否ヤヲ瓢トシ靈若シ去ラント欲スト知ルトキハ男女何レカ一人ヲ選ヒテ之ヲ送ラシム。其者ハ頭ニ布ヲ卷キ各社民ノ供物ヲ合シ之ヲ擔ヒテ一定ノ場所ニ至リ之ヲ地ニ置キ後ヲ見スシテ走リ

歸ル　第四日一同祭場ニ集リ宴ヲ開ク。酒數行頭人立チ左ニ鷹羽ヲ持シ右ニ斧ヲ持シ數回斧ヲ揮ヒテ空ヲ斬リ風音ヲ生ス、是蓋シ惡靈ヲ威シ社ヲ去ラシムル意ナルヘシ。了テ一同大ニ飲ミ男女相混シテ歡ヲ盡ス。一二番ノ後老幼ハ歸去シ未婚ノ男女ノミ深更マテ踊躍ルト云フ

(乙)ジジン黨ノ祭儀　余ガ親シク同黨ノ女祝チオトイボニ就キ調査シタル所左ノ如シ

(い)準備　神祭ノ翌月滿月ノ日ヲ期シ黨ノ壯丁一同山ニ赴キ旂ト爲スヘキ竹ヲ取リ之ヲ火ニ焙リテ直伸ス　翌日之ヲ「ヂゾロアス」ニ持來リ二本繼テ旂ト爲シ其翌「ヂヂバジ」ニ持寄リ此ヨリ約一箇月儀突ノ練習ヲ爲ス　本祭二日前(滿月ノ日ナルヲ要ス)旂ヲイザヤノウブジ(祭場ヨリ約一丁程手前)ニ持寄リ茲ニ二日間儀突ヲ練習ス。其翌日祭場「オマカヌ」ノ地ヲ伐採シ之ニ通スル道路ヲ修理シ小サキ祭屋ヲ立テ又祭旂ノ支柵ヲ構ヘ旂ヲ立ツ、其柵高サ約四五尺下方ニ穴アリ旂ノ礎ヲ安ス

(ろ)祭祀　第一日ミボワク」ト云フ。朝日ノ上ツ頃一同祭場ニ集リ旂ヲ立テ祝北面シ大聲「ナオイブヤ」ニ在ル祖靈ヲ喚フ。女祝祭屋內ニ於テ饌ヲ供シ祝シテ「食ヘ祖靈、汝ハ疲レタルナラン」ト曰ヒ靈祝各家亦饌ヲ具シ地上ニ置キ各自ノ祖先及死者ノ靈ヲ祭ル縮テ男祝祭旂ニ對シ祈禱ヲ行ヒ後儀突ヲ行フ。旂ノ數凡テ十本。儀ハ五箇(一)「ブサム」(粟ノ穂)(二)「ケマン」(靈ノ幸)(三)「イニバヤス」(人ノ健康)此三個ヲ「ボアナス」ト云ヒ幸福ノ儀ナリ、其ニ高ク抛ケテ之ヲ受留ム。(四)「バヤク」此ハ投クルノミニテ誰モ受ケス地ニ落チタルヲ拾ヒテ穴ニ納ム。(五)「パジク」。此ハ投ケスシテ祝取テ後方ニ棄ツ。右ノ內幸福ノ儀三個ハ之ヲ受取リタルトキハ一同大聲ニテ喜ヒ謡フ。突留タル儀ハ之ヲ據蓄シ再ヒ之ヲ拋上ケテ儀突ヲ行フ。若シ其拋ケタル儀ガ誰ニモ受得ラレサルトキハ一衆ノ間ニ凡傷ヲ起スヘシトテ之ヲ恐ル

第二日祭場ニ於テ靈ヲ祭リ引續キ儀戲ヲ行フ。之ヲ「ルムグルン」ト云ノ

第三日早朝ヨリ毬突ヲ行フ。受留メタルトキハ其儲ニ爲シ置ク　ソレヨリ祝槍ニ對シ「イポナジョク」（幸福ナ殘シ置クノ義）ノ祈禱ヲ行フ。歌ヒテ曰ク「イザサラバ、我等ノ祖。粟種及芋種ヲ殘シ置ケ、我等ニ男及女ノ子ヲ多ク生マシメヨ。豚ニモ猪ニモ澤山子アラシメヨ。蕃諸及落花生ニ凡テ幸ヲ殘シテ行ケ云々」ト。然ル後槍ヲ搖テ毬ヲ落シ之ヲ祭屋内ノ靈棚中ニ納ム。ソレヨリ槍ヲ倒シ上部ノ竹ヲ伐テ二段トシ之ヲ一所ニ揃ヘ置ク。老番粟餅ヲ持シ一同ヲ手招キスレハ一同來リ手ヲ聯合セテ歌踊ス。畢テ女祝社民ノ爲ニ健康ヲ祈リ又豚柵ヲ祭ル

（三）後祭　兩團共ニ前祭ノ後約三箇月ヲ經テ之ヲ行フ。而シテジジン黨先行ヒ終テチガヅク及バライバイノ兩黨共同シテ行フ。何レモ男女ノ祝及副祝共ニ頭人家ニ至リ先ツ祖靈ヲ送ルノ祭ヲ爲シソレヨリ各家ハ粟餅、豚骨、豚脂、檳榔子、織物、酒（竹筒ニ入ル）ヲ籠上（長七八寸幅四五寸）ニ陳シ之ヲ持シ祭場ノ東方約一丁ノ所ニ置キテ歸ル

第十三　同蕃加芝來社

（一）總說　當社ニハ兩黨アレトモ合シテ一祭團ヲ爲ス　祝男女兩人アリテ祭事ヲ主ル。其男ヲ「ホヽブラガ」女ヲ「パラカジイ」ト云フ　前祭ハサブテク群社ノ後ニ行ヒ後祭ハ同社ノ前ニ行フ

（二）前祭

（い）準備　神祭ノ後全社五日間ノ狩獵ヲ行フ。其末日ニ壯丁等ハ山ニ入リ木ヲ伐テ槍トシ葛又ハ木皮ヲ以テ毬ヲ作リ毬突ヲ練習ス。之ヲ「イサジャヌ」ト云フ。此日頭人及世襲補佐役協議シテ槍竹ヲ取ルヘキ日ヲ定ム　日至レハ各戶ノ壯丁山ニ入テ「カウ」（蕃語莿仔竹ニ擬ス）及「アカバヤ」（刺竹以テ槍ノ柄ト爲ス）兩種ノ竹ヲ取ル。其適當ノモノヲ見出シタルトキハ各自携フル所ノ祭饌（女祝ヨリ受ケタル豚骨、豚脂ノ小片）ヲ竹ニ

附シ祈禱ヲ行ヒ後之ヲ伐リテ其儘ソコニ置キテ歸ル　約一箇月ノ後壯丁等往キ前ニ伐リ置キタル竹ヲ取リ「サエクザン」（社外ノ作場）ニ持來ス。女祝火ヲ燧キ一本ツツ其上ヲ通過セシム（番語ニ之ヲ「マフクザフトサウイ」ト云フ）以テ木苗ヲ燒キ、終テ其竹ヲ「ヤヅロア」（竹ヲ燒ク所）ニ持往ス。女祝之ニ對シテ再ヒ祈禱ヲ行ヒ後壯丁等大小二本ツツ接合セテ槍ト爲ス。此日其周圍ノ草ヲ伐リ拂ヒ毬突ノ習ヲ作リ、何レモ相思樹ノ皮ヲ以テ作ル。ソレヨリ一箇月ノ後其接合セタル竹ヲ引纏シ「ヲチバジ」（社門外ノ廣場）ニ持來リテ祝再ヒ火ヲ燒キ一本ツツ其上ヲ渡シ後竹ノ末端ヲ切落ス。槍ノ數約六十本、各戶一本宛ノ割ナリ其內頭人カ宰ヤニ家ノ槍最長ク、「チーリギリガス」ト稱ス。次ノ頭人チマシ宰ノ槍之ニ次キ（高サ一丈二尺）ノ「ヤツリヅ」（頭目ノ補佐役）ト云フ。次ハ兩祝ノ槍ニテ其長サヲ等クシ之ニ紅キ布片及獸骨ヲ附ス。次ハ一般社民ノ槍ニシテ各其長ヲ等クス。此日ヨリ三日間「サヲバジ」ニ於テ始メテ五年祭ノ歌ヲ習ヒ一ケ月間之ヲ習フ　最後ノ日午後槍ヲ「オマガス」（社內ノ祭屋ノ在ル所）ニ移シ準メ其周圍ヲ伐掃シ清掃シ棚ヲ作リ穴ヲ穿チ槍ヲ立テ置ク本祭ヲ行フ

(ろ)祭祀　四日間ニ亘ル

第一日男祝紅衣ヲ着ケ祭屋（小屋ニ作リ）ノ前ニ立チ槍ヲ立テテ東北ニ向ヒ大武祖靈ヲ呼ヒ女祝瓢ヲ以テ祖靈果シテ來格セルヤ否ヤヲトス。若シ來ラストナラハ男祝再三大聲ニテ呼ヒ祖靈來格セハ直ニ低キ石約二十箇（壞ノ腰掛ニスルナリ）ヲ屋內ニ圓陣ニ並テ饌ヲ其中央ニ置キ頭人先ツ酒筒ヲ持シ之ヲ少シク相思樹片ノ上ニコボシ又ハ小刀ニテ豚肉ヲ切テ置ク。尚粟餅、檳榔子ヲ盛リ又水ヲ供ス。世襲補佐役以下各社民順次ニ之ヲ行フ。此時一同ハ祖先以下ノ死者ノ靈ヲ偲ヒ感極ッテ泣ク者アリ。畢テ其饌ヲ取テ林中ニ棄ツ　正午祭屋ニ於テ再ヒ同一ノ事ヲ行フ。夕刻モ亦同シ　此日毬突ヲ行ヒ夕刻

ニ至リテ止ム。毬凡テ三箇一ハ「バカバカバヌ」（遊戯ノ義）二ハ「ピヌピラビス」（幸福プスヒ）三ハ「ピヌパフパラジャ

（羽ナ附ス。以テ人頭ニ擬ス。此ハ最終ノ日ノミ用ユルナリ）ト云フ

第二日社民祭場ニ集リ毬突ヲ行フコト前日ノ如シ。而シテ朝午夕ノ三回饌ヲ供シ祖靈ヲ祭ル。但シ各家別々ニ祖先ノ舊址ニ於テス。既ニ家ノ廢レテナキモノハ新ニ小サキ小屋ヲ作ル

第三日社民祭場ニ集リ引續キ毬突ヲ行フ。而シテ祖靈ニ對シ朝饌ハ各自ノ祭屋ニ於テ別々ニ供シ午饌ハ頭人家ノ祭屋ニ於テ合同シテ之ヲ供ス。ソレヨリ男祝祖靈ニ對シ祭祀終了シタルヲ以テ當ニ歸リ去ルヘキ旨ヲ告クレハ各戸何レモ「ポロロイ」（小サキ籠）ニ赤、青、黒、白、黄等各種ノ色ヲ具シタル小衣、小褌及檳榔等ヲ入レ別ニ酒糟ヲ入レタル小竹筒ヲ細竹ノ兩端ニ附シテ擔ト爲シタルモノ、稲、鍋ノ破片等ヲ入レ之ヲ持シテ祭場ニ集ル。男祝之ニ「行ケ」ト命スレハ壯丁十人許リ各社ノ「ポロロイ」ヲ携ヘテ社ノ北方一定ノ所ニ至リ之ヲ地上ニ置キテ歸ル。此路ハ狹隘ナルヲ以テ二人並ヒ行クコト能ハス。故ニ歸ルトキハ最後ノ者ハ最先頭ニ立チテ歸ル。歸テ再ヒ祭場ニ至リ日暮ルルマテ歌踊ヲ行ノ

第四日ヨリ四日間、マブソアン（祭後狩獵）ヲ行フ。初日ハ北ニ向ヒサブテクノ境ニ至リ火ヲ燒ク。以テ靈ノ北ニ歸ルヲ送ルナリ。コレヨリ「カカジフン」（獵場）ニ於テ茅原ニ火ヲ放テ火獵ヲ行ヒ夕ニ歸來ス。其翌東ニ向テ行キテ獵シテ即日歸來ス。其又翌日ハ西ニ向テ獵シ一宿シテ歸來ス。肉ヲ集メ兩頭人ニ獲物ノ後肢一本、祝兩人ニ前肢二本ツツ、射殺者ニ後肢一本ヲ與フ

(二)後祭　豫メ日ヲ定メ社内ノ各戸酒ヲ作リ肉ヲ貯フ　其日ニ至リ各其酒肉ヲ携ヘ祭場ニ集ル。男祝祖靈ヲ喚ヒ女祝其來否ヲトシ果シテ來レリトセハ獻饌ヲ行フ。以下獻饌本祭ノ時ニ同シク唯遊戯ヲ行ハサルノミ　第三日午後歌踊ヲ行ヒ三回場ヲ周テ後送靈ヲ行フ。其式本祭ノ時ニ同シ

第十四　高士佛社

當社ハ一社ニテ一祭團ヲ成ス。祝及副祝男女各一人アリ共同シテ祭事ヲ主ル

(一)前祭

(い)準備　本祭數月前男女ノ兩祝「オマカマ」(祭場舊社址)ニ至リ祖靈ニ對シ今年當ニ五年祭ヲ行フベキ旨ヲ告ク。ソレヨリ頭人等番丁ヲ伴ヒ山ニ入リ竹ヲ伐出ス。但シ當社ニハ適當ノ竹ヲ產出セザルヲ以テ加芝來、八瑤ノ兩社方面ヨリ買入ルト云フ　祭前六日竹ヲ「サソロア」ニ持來リ二本接合シテ箭ヲ作ル。其長サ約七八尋。頭人ノ箭最長シ。祝ノ箭ニハ紅布及鈴ヲ附シ「キヅツナブロク」ト稱ス。箭ノ數ハ定メス。毎戸一本ヲ立ツルコトヲ得。現ニ當社ニ住セザル者ト雖モ其祖先ノ舊屋址ヲ當社ニ住ル者ハ立テ之ヲ立ツルコトヲ得。斯テ之ヲ作リタルトキハ直ニ「サソロア」ニ立テコレヨリ番丁等毎日毬突ヲ練習ス。此時ニ用ウル毬ハ「バかバかバヌ」(遊戯ノ義)ト稱シ何人ニテモ之ヲ作ルコトヲ得　祭祀前三日箭ヲ「サヤバジ」ニ移シ引續キ毬突ヲ練習ス　祭祀前一日祭場ヲ清掃シ通路ヲ修メ頭人ノ屋前ニ祭屋ヲ構ヘ其他民人ハ各自ノ舊家址ニ小サキ小屋ヲ構ヘテ祭祀中祖靈ノ宿スル所トシ而シテ祭屋ノ前庭ニ箭ヲ移シテ毬突ヲ行フ

(ろ)祭祀　三日ニ亘ル其式左ノ如シ

第一日男祝紅衣ヲ着シ箭ヲ左手ニ持シ祭場ノ南端ニ於テ北面シテ大聲祖靈ヲ招請ス。日ク「來レ來レサジュムジ、サウ、マイ其他父祖代々ノ靈、今ヤ恰モ「マジュボク」ノ年月ハ來レリ我等ハ酒肉、菓等ヲ具シテ汝等ニ馳走セント」女祝乃瓢ヲ取リテ其來否ヲトシ既ニ來リタルトキハ右ニ小刀、左ニ瓢ヲ持シ祖靈ヲ導ク狀ヲ爲シテ祭屋ニ入リ粗ヲ置キ饌ヲ供ス　頭人以下次第ニ獻貢ス。尚一般平民ハ各其

家址ニ於テ近年ニ物故セル祖父母父母ノ名ヲ呼ヒツツ饌ヲ供ス　正午ヨリ毬突ヲ行ヒ二三時ニシテ止ム。毬ニ四種ノ名アリ。「ケマン」(獲得ノ幸)「マツナン」(農耕ノ幸)「ヤバーガ」(健康ノ幸)及「バヌバラバラヤ」(敵ノ首ニ對ス)トス。其製練習用ノモノト異ル所ナシ。唯「ビスパラパフヤ」ノミハ鳥ノ羽ヲ附シタリ本祭ノ初ニ毬ヲ擲クル役ヲ爲ス者ヲ「バヤク」ト云フ。凡テ毬ヲ投クルトキハ、「イヤコー」ノ歌ヲ唱ヘ其突留メ得タルトキ亦之ヲ歌ヒテ祝福ス

(附記)五年祭ノ歌ハ「カジヤ」(敵)「ブサム」(粟種)「チヤジヤヌ」(芋種)「カヺン」(豚)「サツハル」(野獸)「バラシ」(番薯)「ミヤドアク」(子孫)等ニ付テ作レルモノニシテ八瑤、牡丹、加芝來、四林格等ノ諸社モ大同小異ナリ。例ヘハ

「サスピナ・ガブガーバマ・トア・バブイ・トワ・タキツ」ニ(願クハ我ナシテ猪ト鹿ニ付テノ幸ヲ得セシメヨ)

「パジヤジヤスアマ・トア・グサム・トア・チヤジヤン」ニ(我ナシテ粟種ト芋種ヲ取ラシメヨ)

『ウラリキナールツ・パチヤービン』ニ(願クハ我ニ幸福ヲ分テ)

『テマ・モレイコロ・ナガーカ・ケナジヤン』ニ(誰カ首級ヲ得テ番社ヲ繁榮セシムルモノソ)

『ブルブルンガー・ミアドク・タリバカアム』ヌ(子孫成長シ我等ハ元氣ナリ)

「カヺンガ・ミルグルン・ウザヤ・シパカヌン・チヤヌムマ・チニビリジ」ニ(豚カ増殖スレハ後日汝ニ食ハシメン)

「チマブスツピー・マラプ・トバブイ」ニ(誰カ幸ヲ得テ猪ヲ取ル)

『ナガーカ・ブラシ・ミルヲルン・イマサケナジヤン』ニ(番薯ガ好クテ此社ガ昌ヘル)

凡テ毬ヲ突得タル者ハ次ノ五年祭マテ其幸福ヲ受得ヘシトテ之ヲ喜フモ若シ突得サリシトキハ女祝其毬ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ再ヒ拋手ニ託シテ投上ケシム

第二日獻贄及毬突ヲ行フコト前日ノ如シ

第三日午前前日ニ同シ　午後男女ノ兩祝祭屋ニ至リ供ヲ具シ祖靈ノ南行ヲ送ル　其日又ハ翌日頭人ハ社民ヲ聚メ慰勞ノ宴ヲ開ク

(三)後祭　前祭ノ後約二月ヲ經テ之ヲ行フ。祭期三日。其式左ノ如シ

第一日早朝社内各戸供ヲ具シテ祭場ニ集リサジムジ、サツマイノ靈及諸靈ヲ祭リ一衆酒ヲ飲ミ歌踊シツツ暮近クニ至ル　第二日前日ノ如シ

第三日午後女祝瓢ニ依リ靈ハ當ニ歸去スヘキヤ否ヤヲトス。若シ欲セサルトキハ暫ク待チ後再ヒ之ヲトス。トシテ靈ノ歸ラント欲スルヲ知得タルトキハ男女ノ祝、副祝。共同シテ供ヲ具シテ之ヲ祭リ後各戸ヨリ酒、肉。檳榔子、餅其他男靈ノ爲ニ蕃刀及小矢(鐵片ヲ竹ノ尖ニ挾ミテ鏃トス)女靈ノ爲ニ針ノ糸ニ繋キタルモノヲ籠ニ入レ北方ノ通路ニ擔行キ一定ノ場所(「キニプアアッ」又ハ「ボロボロラ」ト稱ス)ニ至リ北ニ向ヒ靈ニ告ケテ日ク「今此レヲ汝ニ與フ。願クハ去レ」ト。其籠ヲ地上ニ置キ後ヲ見スシテ歸來ス

第三項　農作物ニ關スル祭祀

第一目　粟・稗及芋ニ關スル祭祀

第一則　通説

第一　總説

(一)祭祀ノ目的　粟・稗及芋ハ古來本族ニ於ケル主食物ニシテ本族ハ此等ノ耕作ニ付左ノ如キ觀念ヲ有セリ。日ク「粟・稗及芋ニハ之ヲ司ル神靈アリ當ニ上天ニ在リ其所ヨリ進ニ下界ヲ照見シ此等作物ノ成長豐熟ヲ保護セリ。然レトモ此反面ニ番界至ル所ニ惡靈及害蟲又ハ害鳥アリ作物ヲ害シ其成長ヲ妨ケリ。故ニ我等農耕ニ從フ者ハ上記司役ノ神ヲ祭リテ其保佑ヲ仰キ又惡靈及害蟲ヲ積ヒ

テ其畑地ヲ退去スヘキ様祈ラサルヘカラス」ト。是本族ニ於テ此等作物ノ播種收穫ノ初又ハ終了ニ際シ特ニ饌ヲ具シテ祭祀禳祓ヲ行ヒ且ツ其期間穀神ノ禁忌スル行爲ヲ戒ムル所以ナリトス

(二)祭祀ノ團體及機關　農作物ノ祭祀ニハ一衆共同ニ行フモノ(共同祭祀)ト各家別々ニ行フモノ(家祭)トアリ　共同祭祀ハ一黨、一社又ハ一群社ニテ祭團ヲ組織シ其中ニ男女ノ番祝アリテ之ヲ掌ル　家祭ハ其一家内ニテ祭事ニ通セル者家祝ト爲リテ之ヲ行ヒ又ハ巫ヲ招キテ之ヲ行ヒ又ハ此兩者共同シテ之ヲ行フ

(三)祭日　共同ノ祭祀ハ頭人豫メ番祝ト協議シ其日ヲ定メテ部下ニ通知ス　稀ニ鳥占ニ依テ其日ヲ決定スルモノアリ。上さりせぬ番マガ社及らばる番ノ粟ノ播種祭ノ如シ　家祭ハ各戸任意ニ其日ヲ定ム。然レトモ一祭團同日ニ行フヘキ場合ハ頭、人等之ヲ定メテ社民ニ通知ス

第二　粟ニ關スル祭祀

(一)總説　粟(番語「パコ」但シろかい番ニ於テ「ソチエン」)ニ關スル祭祀ハ農作物ノ祭祀中ニ於テ最重要ナルモノニシテ之ヲ行ハサル番社ハ殆之ナシ。現時上さりせぬ及らばる兩番ノ諸社ハ米ヲ主食トシ粟ヲ耕作スルコト少額ナリト雖尚且舊ニ仍リテ嚴ニ之ヲ行ヘリ

粟ニ關スル祭祀ハ、播種祭、播種後祭、出芽又ハ出穂ノ祈禱、收穫祭、收穫後祭及此等ニ附屬セル諸種ノ祈禱ニシテ總稱シテ「パリシ・トソ・バコ」ト云フ　右ノ外番社ニ依リテハ粟畑トスヘク休耕地ノ草ヲ刈拂フトキ、開墾スルトキ又ハ種粟ヲ日ニ乾ストキニ於テ交通及交話ノ禁ヲ行フコトアリ

(二)播種祭　種粟ヲ畑ニ播ク前ニハ主祭者先粟神ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シコレヨリ當ニ播種ヲ行フヘキ旨ヲ告ケ次ニ女祝祭畑ニ少許ノ種粟ヲ播シ粟ノ成長ヲ祈リ後家族一同播種ニ從フヲ普通トス。

此祈禱ヲ「パリシア・トモゴト」(るかい番ニテ「タウオツプ」上さりせぬ番ニテ「オビリビリ」共ニ播種ノ祭ト云フ義)ト云フ

祭畑ハ之ヲ「チャ・ボラ」又ハ「パタパタ」(らばる番ニ於テ「チナカラス」、るかい番ニ於テ「タャヤアミス」又ハ「タブリシアス」上さりせぬ番ニ於テ「テテチヤ」)ト云フ　祭畑ノ設方ハ地方ニ依テ同シカラス。即チ豫メ作耕地ノ内ニ方三尺乃至方六尺ノ地ヲ選定シ草ヲ刈リ地ヲ平ケ置クアリ。或ハ別ニ之ヲ作ラス粟畑トシテ開墾シタル地内ノ一小部ヲ置シテ之ニ當ツルアリ。或ハ住屋ノ近傍ニ於テ方三四尺ノ地ヲ選ミ石ヲ圍テ之ヲ製シ永遠ノ祭畑ト爲スアリ。祭畑ノ播種ハ播種祭當日ニ之ヲ爲スヲ多シトス。サレト中ニハ各社ノ播種ヲ了シタル後播種後祭ヲ行フトキニ之ヲ爲スモノアリ。例ヘハ上さりせぬ番芒仔社、ぶつる番ノ如シ。又各ク此祭祀ヲ行ハサルモノアリ。ぶつる番下パイワン社ノ如シ

(三)播種後祭　播種ヲ終了シタル時ニハ各家ノ家祝ハ粟神ニ犧ヲ供シ其播種シタル粟カ鳥獸蟲類ノ害ヲ受ケス適度ノ濕氣ヲ得テ能ク成長スヘキ樣ニ祈ル。之ヲ「マストゴト」(上さりせぬ番ニ於テハ「[illegible]」播種ヲ了[illegible])或ハ播種中ノ禁忌ヲ解クノ義)ト云フ

(四)發芽又ハ發穗ノ祈禱　粟ノ將ニ發芽セントスル時又ハ穗ノ出テントスル時ニハ各家任意ニ其祈禱ヲ行フ。前者ヲ「パリシア・パボボ」、後者ヲ「パリシア・パバガシ」ト云フ。該家族ハ其日ノミ米及粟酒ヲ口ニスルコトヲ禁ス　上さりせぬ番ニハ祈禱ナシ而シテ草取(番語「ソロ」)ノ時ニ禁忌アリテ五日間他社トノ交通ヲ絶ス

(五)收穫祭　粟ヲ收穫スル前ニハ各家ノ家祝ハ粟神ヲ呼ヒ當ニ粟取ヲ始ムヘキ旨ヲ告ク。之ヲ「パリシア・キャバコ」(粟チ取ル祭)(るかい番及上さりせぬ番ニ於テ「イシシャ・イキアツン」又ハ「モチナ」)ト云フ　番社ニ依リテハ其前日又ハ前夜ニ豫告祭ヲ爲シ置キ當日改メテ摘始ノ式ヲ行フモノアリ。るかい番アヂル社ノ如シ

(六)收穫後祭　粟ノ收穫ヲ終了シタルトキニ行フモノヲ「マサルト」(上きりせい番ニ於テハ「スパリヘシャ」又ハ「テショボ」)ト云フ　本族ニ於テ此祭祀ハ五年祭ニ次ク大祭ニシテ數日間ニ亘ル。一祭團ハ其祭日及禁忌ヲ同クス

此祭祀ハ社ニ依リテ其次第ヲ異ニストモ最初ニ預告ノ式(番語「クマシサリム」)ヲ行ヒソレヨリ新粟ノ團子ヲ作リ古俗ニ從ヒ之ヲ石燒ニスルノ式ヲ行ヒ次ニ粟ノ雜炊ヲ作ルノ式(新粟ハ舊粟及他ノ雜菜ト接觸スルヲ忌ムガ故ニ此禁ヲ解ク爲ニ)次ニ新粟ヲ粟神及祖靈ニ手向クルノ式(嘗祭又ハ納祖祭)次ニ來年ノ粟種ヲ擇テ之ヲ藏スルノ式ヲ行ハサルハカラス。終テ社内ノ路ヲ修理シ(番語「マサク」るかい語「スワダラン」)最後ニ獵神ヲ祭リ(番語「マゴアヌ」)然ル後各社狩獵ニ赴カサルハカラサルモノトス　多數ノ番人ハ此「マサルト」ヲ以テ年ノ改マルモノトス。こ度し、ぱりじ、お南番ノ中ニハ土語ヲ用キテ「コエニイ」(過年)ト云フ者アリ

第三　稗ニ關スル祭祀

(一)總說　既ニ述ヘタルガ如ク稗(番語「ツェマイ」又ハ「ロマイ」るかい番ニ於テ「プチュン」)ハ古代ニ於テハ粟ト同樣本族ノ主食物タリ。從テ之ニ關スル祭祀モ亦粟ノ祭祀ニ次テ重要ナルモノタリキ。然レトモ後代諸社ニ於テ多ク之ヲ耕作セス中ニハ全ク耕作セサル所アルニ至リ之ニ關スル祭祀モ亦古代ノ如ク嚴ナラス。或番社例ハ上きりせい番及北ぱいわん番南部ノ諸社ノ如キハ全ク之ヲ廢シテ行ハサルニ至レリ

稗ノ祭祀ハ總稱シテ「パリシ・トマ・ジュマイ」ト云フ。之ニハ唯收穫祭及收穫後祭アルノミ。播種祭及播種後祭ヲ缺ク。是此ノ二祭ハ粟ト合シテ之ヲ行フニ因ル

稗ニ關スル祭祀ハ共同祭タルコトナキニ非サルモ概シテ家祭タルヲ多シトス。サレトモ一祭團其日及禁忌ヲ同クシ頭人及老番其日ヲ定メテ各家ニ通知ス

(二)收穫祭　ハ「パリシ・トワ・キジュマイ」(るかい番ニ於テ「パイシシ・イキラロマイナイ」)ト云フ。稗ヲ取ルノ祈禱ノ義ナリ　此祭祀

ハ各社其式ヲ同クセス。或ハ家祀内庭ニ於テ儀ヲ具シ稗神ヲ呼ヒ稗ハ成熟シタルニ付當ニ其收穫ヲ爲スヘキ旨ヲ告クルニ過キサル者アリ。或ハ先ツ祭畑ニ至リ其所ニ生シタル稗二三本ヲ取來リ之ヲ收藏スル式ヲ行ヒ然後收穫ニ從フ者アリ

(三)收穫後祭　收穫後ニ行フモノヲ「マスジーマイ」(稗ノ禁ヲ解クノ義)ト云フ。蓋シ稗カ花ヲ開キタル後ハ一般ニ稗ヲ食スルコトヲ禁シ又收穫中ハ他社トノ交通交語ヲ禁スルモ此ニ至リ全ク其禁ヲ解クナリ其式各番社同一ナラス。或ハ粟ノ收穫祭ニ準シテ交通ノ禁ヲ解クノ式又ハ狩獵ノ式ヲ行フ者アリ或ハ單ニ稗神ノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ收藏ノ了シタル旨ヲ告クルニ止ル者アリ

第四　芋ニ關スル祭祀

(一)總說　芋(はいね番「バリ」)ハ粟ニ亞テ本族ノ主要食物ナリト雖モ番社ニ依リテ之カ祭祀ヲ行ハサル所(い番「ヲポカヌ」社「ボアル」社及ぶつる番社ノ多クノ如シ)アリ芋ニ關スル祭祀ニハ下種祭、取始祭及爐竈祭等アリ總稱シテ「パリシ・トア・バサ」ト云フ番社ニ依リテハ此内ノ一二ヲ略シ或ハ此外ニ芋種收藏祭ヲ行フモノアリ　芋ニ關スル祭祀ハ概シテ家祭ニ屬シ各家任意ニ其日ヲ定メテ之ヲ行フ　祭祀ノ方式ハ各社區々タリト雖大約左ノ如シ

(二)下種祭(植付祭又ハ取出祭)　種芋ハ凡テ畑中ニ小屋ヲ設ケテ之ニ貯藏ス。之ヲ「チーブルー」ト云フ芋ヲ植付クルニハ先ツ芋小屋ヨリ種芋ヲ取出ササルヘカラス之ヲ「スモコジブ・ト・チーブル」ト云フ次ニ家祀其芋ヲ取テ之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ後ニ之ヲ畑ニ降ス之ヲ「パリシ・トツ・チージー丁」又ハ「ステーテナーム」(上ヨリ・せ番ニ於テ「メドコ」)ト云フ

(三)收穫祭(取始祭)　家祀又ハ巫ハ畑ニ至リ先ツ芋神ノ呼ヒ饌ヲ供シテ今ヨリ芋取ニ從ノヘキ旨ヲ告

ケ或ハ其中數塊ヲ取リ之ニ對シテ祈禱ヲ行ハサルヘカラス。之ヲ「パリシア・イバサ」（上ざりせぬ番「ナポロア」）ト云フ

(四)燻竈祭　本族ハ芋ヲ燻竈ニ掛ケ乾燥シテ貯藏ス。之ヲ「アラジ」（上ざりせぬ番「コライ」）ト云ノ。本報告ハ之ヲ乾芋ト譯ス。此竈ニ掛ケテ芋ヲ燻製スルヲ「ツマパ」（上ざりせぬ番ニテ「オコライ」）ト云フ。此竈ヲ開キ始メテ芋ノ掛クル前ニハ祈禱ヲ行フ。之ヲ「イパポジャジク」ト云フ。（燻竈ノ構造ハ後節第三款飲食ノ部參照）

(五)其他　番社ニ依テハ「ジマジュクル」ト稱シ芋畑トスヘキ地ヲ開墾シタルトキ少許ノ土ノ塊ヲ棄去リ其他ノ不吉ヲ祓フ（鳥獸蟲類ノ害ヲ受ケサル樣ノ禁厭）モノアリ。又種芋ヲ芋小屋ニ收藏スル時ニ巫ヲ招キ之ガ祈禱ヲ爲サシムルコトアリ。之ヲ「パリシ・トア・チュマザル・ト・チャジャヤヌ」ト云フ

第五　雜祭

(一)凶作ニ對スル祈禱　農作物ガ凶歉ノ虞アルトキハ臨時ニ天神及穀神ヲ祭リテ其豐稔ヲ祈ルコトアリ。之ヲ「パリシ・タ・ラミイ」又ハ「パリシ・タ・イノオマン」（共ニ農作物ヲ祭ルノ義）ト云フ。各家ニテ爲スコトアリ。一祭團共同ニテ爲スコトアリ。共同ニテ行フトキハ其祭團ノ女祝主祭ト爲リ一家ニテ行フトキハ其家ノ女祝又ハ其家ヲ受持テル巫之ヲ主ル　左ニぶつる番カザザラ社及北ぱいわん番ボカリド社ニ行ハルルモノヲ示ス

カザザラ社ニ於テハ農作物ノ發育ガ惡シキ時ハ頭人ヨルババデス及マジリンノ兩家協議シ、祭日ヲ定メテ之ヲ社民ニ通知スレハ其日ニ至リ女祝ヲ始メ社民一同ヨ家ニ赴ク女祝乃其內室大黒柱ノ下ニ於テ犧ヲ具シタカラウス及サリムドノ兩神ヲ祭リ其力ニ頼リテ粟及芋ノ好ク發育スル樣ニト祈リ了テマ家ニ赴キ再ヒ同一ノ祈禱ヲ爲ス

ボカリド社ニ於テハ各頭人家ニ於テ別々ニ行フ。此日豚ヲ屠リ女祝ヲ招ク。女祝其肉數片ヲ取リ

與室ノ棚（常ニ種芋ヲ置ク所）ニ供シ饌葉（ピアクー）ヲ投シ「今饌ヲ具シ汝天神ヲ祭ル。今社民ハ食物ニモ乏シク甚饑エタリ。願クハ粟、芋、樹豆ヲ豐熟セシメテ我等ニ多ク食スルコトヲ得シメヨ」ト祈ル

（二）禁林ヲ開墾シタル時ノ祓　番界ニハ禁忌ノ地アリ「パリシアン」ト云ヒテ妄ニ其所ノ樹木ヲ伐採スルコトヲ得ス。然レトモ年久シク事ナク又サホドニ嚴重ナラサル場所ニシテ之ヲ開クモ妨ナシト思量シタルトキハ時ニ之ヲ伐開クコトアリ、此場合ニハ其地主タル頭人、男女ノ番祝ヲ招キ其開墾セントスル（又ハ既ニ開墾シタル）地ニ至リ其祓禳ヲ行フ、之ヲパリシア・パイシシ「ヰオ」ト云フ。尚此等ノ祓除ニ付テハ後款第一項中土地ニ關スル禁忌ノ中ニ說述スヘシ

第二則　各說

第一　上宮りせぬ番亡仔社

（一）總說　當社ハ一社ヲ以テ一ノ祭團ヲ成ス。然レトモ現時共同祭祀ヲ主ル一人ノ番祝ナク只タ祭祀ハ各家別々ニ同日ニ行ヒ唯禁忌及祭後ノ獵漁ヲ共同ニス　祭祀ハ各家ニ於テ家長タル男子之ヲ主ル

當社ニ稗ニ關スル祭祀ナシ。左ニ粟及芋ニ關スル祭祀ニ付說述ス

（二）粟ニスル祭祀

（い）播種祭　粟ヲ播種スヘキ時至レハ日ヲ定メ（月ノ缺ケテ盡キントスル時ヲ選フ）全社ノ青年男子ハ「イリン」ト云フ所ニ赴キテ射的ヲ試ム。此日全社休業シ男女盛裝シ往テ之ヲ見ル　其翌日全社ノ番丁渓ニ降リ魚ヲ取リテ歸ル（古ハ狩獵ニ行キシト云フ）。此日女ハ糯糍ヲ作テ嬉遊ス　其翌日各家昨日取リタル魚ノ肉ヲ混シ餅ヲ作リ一人ツツ社口ノ廣場ニ集リ之ヲ以テ天ヲ祭リ一人ノ老番靈ニ對シテ「時來リ當ニ粟ヲ播種スヘ

キニ付其ノ吉凶ヲ示サレタシ」ト祈リ後郊外ニ出テテ鳥聲ヲ聞ク。之ヲ「キアヤム(鳥占)」ト云フ。鳥聲不可ナレハ明日再ヒ同一ノ事ヲ行フ。鳥占吉ナレハ其翌日ヨリ禁忌ヲ始メ二日間ハ業ヲ休ム　三日日ニ至リ各家餅ヲ搗キ家祝之ヲ籠ニ入レ大黒柱ニ吊シ天ニ對シテコレヨリ播種ヲ始ムヘキ旨ヲ告ケ且其保佑ニ頼テ豐收アランコトヲ祈リ後一同畑ニ赴キテ播種ス。之ヲ「オビリビリ」ト云フ　其翌日ハ休業ス

(ろ)播種後祭　播シタル粟ガ發芽シタルトキハ各家祝タリマラオト云フ草原ニ至リ約二三尺ノ地ヲ劃シ草ヲ刈リ土ヲ鑿キ以テ祭畑(番語「テチバ」)ヲ作リ種粟少許ヲ播シ天ニ對シ野獸ノ來侵サザル様又粟ノ能ク成長スル様ニ祈ル。之ヲ「カラブリブダ」ト云フ。其翌日ヨリ四日間休業ス。祭畑ハ各家別々ニ之ヲ設クト雖其場所ハ右ノタリマラオノ地ニ一定セリ

(は)草取　粟ガ稍成長シタルトキハ日ヲ定メ全社出テテ草取ニ從フ。之ヲ「モソロ」ト云フ。此時別ニ祈禱ヲ行ハス。其日ヨリ五日間他社トノ交通ヲ絶ス

(に)收穫祭　當社ニ此祭ナシ。唯摘始ノ日ヨリ收穫ヲ了スル迄他社トノ交通ヲ絶スルノミ

(ほ)收穫後祭　全社同日ニ行フ。各家祝其祭畑ニ赴キ其所ニ在ル粟ヲ抜キ來リ之ヲ他ノ粟ト混シ又豚ヲ屠リ餅ヲ搗キ之ト共ニ小籠ニ入レテ大黒柱ニ吊シ天ニ對シ來年モ亦此ノ如ク豐收ナラシメヨト祈ル。之ヲ「パスリヘシャ」又ハ「テショボア」ト云フ。其翌日ハ休業ス

(三)芋ニ關スル祭祀　ニ左ノ三アリ。何レモ各家任意ニ其日ヲ定メテ之ヲ行フ

(い)植附祭　先芋畑ニ至リ種芋ヲ植付ケ後ニ芋畑ノ園ヲ爲シ「山豚ノ來侵サザル様、芋ノ能ク成長スル様」ニ祈ル。之ヲ「メドコ」ト云フ。此日ハ他人ト交通及談話ヲ禁ス

(ろ)取始祭　芋ガ實入リタルトキニ少シク之ヲ堀取リ歸リテ之ヲ煮、靈ニ對シ「早ク畑ニ在ル芋ガ成熟スル樣」ニ祈リ之ヲ籠ニ入レテ大黒柱ニ吊ス。之ヲ「テボロア」ト云フ

(は)燻竈ノ禁忌　芋ヲ燻乾スルニ付テ別ニ祭祀ナシ。唯其初日ノミ他人ト交通シ又ハ通話スルコトヲ禁ス

第二　るかい番亏ホかヌ社

(一)總說　當社ハ一社ヲ以テ一祭團ヲ組織ス。其同ノ祭祀ハ男タル番祀一名アリテ之ヲ主ル　家祭ニハ一家ノ家長タル男又ハ女其家祀ト爲ル　農耕ニ關スル祭祀ハるかい番諸社ニ於テハ其禁忌頗ル嚴ニ數十日間他社ト交通ヲ絶スル場合アリ

當社ニハ芋ニ關スル祭祀ナシ。而シテ稗ハ粟ニ合シテ其祭ヲ行フ　小林氏ガ當社ノ粟ノ祭祀ニ付調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニハ之ニ付播種祭ト收穫後祭トアルノミ

(い)播種祭　「アイヤブカナ・イブチュン」ト云ヒ各家別々ニ行フ。但シ全社其日ヲ一ニス　豫メ休耕地ノ中ニ祭畑(タウパア)ヲ作置キ當日早朝家祀一人之ニ赴キ種粟ヲ播シ其發芽シ成熟スル樣ニ祈テ歸ル。數日ノ後家祀瓢ヲ持シ水ヲ汲ミ來リ其祭畑ニ灌キ其翌日ヨリ一家播種ニ從フ

(ろ)收穫後祭　「マサルト」ハ其祭期十餘日ニ亘ル　初日ハ「タパイラ」ト稱シ各家祀豚肉二片ト芋ノ皮剝キタルモノ若干トヲ祖靈ニ供シテ惡靈ヲ攘ヘト祈ル　次ノ日ハ「スモアブ」ト稱シ各家祀茅ヲ以テ惡靈ヲ攘フ　第三日ハ「バリシト・パラカライ」ト稱シ番祀自家ノ庭前ニ於テ茅若干ヲ立テ其前ニ芋ノ皮剝キタルヲ並ヘテ「キナタバガス」(社神)ニ供ス　第四日ハ「カラサバガ」ト稱シ各家生麻ヲ捻リ之

フ以テ網袋ヲ作ル。蓋シ粟ノ收穫中ハ生麻ニ觸ルルコトヲ禁シタルモ此ニ至リテ其禁ヲ解クナリ。此日粟ノ畑ヲ作ル　第五日ハ「ダミヤン」(ぶつる番ニ於テ「ツマイリプ」ト云フモノ)ト稱シ各家ヨリ一人ツツ粟粉ヲ持シテ社口ノ廣庭ニ至リ之ヲ投シツツ其所ノ靈ニ供シ風吹カサル樣ニ祈ル　第六日ハ「スマルミカ」ト稱シ番祝粟粉ヲ持シカザギラ及カルスガ(共ニ始テ社ヲ開キタル人ノ家址)ニ至リ「カジル」(農租)トシテ與フル旨ヲ告ケ之ヲ供シテ歸ル　第七日ハ「ルマリツ」ト稱シ各家矢ヲ作リ之ヲ奥室ノ大黑柱ニ立掛ケ其前ニ粟團子ヲ供ス　第八日ハ「パシアバイ」ト稱シ各家餅ヲ作リ之ヲ社口ノ廣庭ニ持來シ靈ニ供ス　第九日ハ「スモブラン」ト稱シ各家ノ婦女其庭前ニ粟ヲ搗キ之ヲ屋内ニ入レ又鳳梨ノ葉ヲ箒トシ外庭ヲ掃除ス。第十日ハ「マブソアズ」ト稱シ粟粉ヲ社口ノ廣庭ニ持行キ之ヲ大武山及タカラウスノ靈ニ供シ以テ好歲豐作ヲ祈ル　其翌日ヨリ「スソダラン」ト稱シ四日間一同路ノ修繕ニ從ヒ五日目ニハ「ヤチリシト稱シ六名ノ壯丁ぶつる番トノ境界ニ來リ喊聲ヲ發シ後二ツノ石ヲ燒キ粟粉ヲ其間ニ挾ミテ燒キ之ヲ網袋ニ入レテ持歸ル

第三　るかい番アデル社

(一)總說　本社ハ一社ニテ一祭團ヲ為シ一人ノ男祝アリテ共同祭祀ヲ主ル　家祭ハ家長タル男子之ヲ主ル

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　「タウオソソブ」(ぱいわぬ語ノ「トモット」ニ相當ス)ト云ヒ一社共同ニ行フ　第一日番祝頭人家ニ至リ種粟少許ト手鍬(番語「ツカ」)ヲ持シ郊外ノ祭畑ニ至リ之ヲ播シテ歸ル。祭畑ハ「タブリシアズ」ト稱シ豫メ頭人家ノ休耕地内ニ約二三尺平方ノ地ヲトシ草ヲ刈リ地ヲ犂キテ之ヲ作リ置ク。此日祝ノミ火ヲ扱フコトヲ

禁ス。但シ他人ノ煮タル物ヲ食フハ之ヲ禁セス　第二日ハ「すツかグルツ」（ぶつる語「マルサル」）ト稱シ番祝瓢ニ水ヲ入レ持シテ祭畑ニ至リ之ヲ灑キテ旱魃ノ無キ樣ニ祈ル　第三日ヨリ全社播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　播種ヲ了シタルトキハ全社「パラリキリキ」（後ニ出ツ）ノ式ヲ行ヒ其翌日「アリーリ」（ぱいわん語「マナトマ」）ヲ行ヒ其翌日「カルドル」ノ式（木ノ名。之ヲ以テ粟ノ成長ヲ祈ル）ヲ行ヒテ祭畢ル。粟ノ播種ヲ始テヨリ全社禁忌ヲ行ヒ十二日ヲ經テ之ヲ解ク

(は)收穫祭　粟ヲ收穫スルニハ先ツ月ノ缺ケテ將ニ竭キントスル時番祝未明ニ頭人家ニ至リ井ヨリ水ヲ汲來リ粟ヲ搗キ飯ヲ炊キ之ヲ穀神ニ供シ月改ラハ粟ノ收穫ニ從フヘキ旨ヲ告ケ之ヲ「パカライ」（豫告祭）ト云フ　月改マルヤ「イキブツ」（粟ヲ取ルノ義）ト稱シ番祝未明ニ頭人家ニ至リ前ト同一ノ祭ヲ行ヒ今日ヨリ當ニ收穫ヲ始ムヘキ旨ヲ告ケ後唯一人畑ニ至リ一小把ノ粟穗ヲ摘來ル　翌日ヨリ全社出テ收穫ニ從フ

(に)收穫後祭　粟ノ收穫ヲ了シタルトキハ「マリバテ」（餅ヲ燒クコト）ノ式ヲ行フ。番祝頭人家ニ至リ新粟ヲ搗テ餅（長一尺程ノ）ヲ作リ社外ニ持行キ「ルクツ」（草ノ名。葉廣シ）ノ葉ニ包ミ燒テ之ヲ穀神ニ供シ之ヨリ新粟ノ食スヘキ旨ヲ告ク。此日全社ノ民此ニ集リ祝乃餅ヲ細切シ一同ニ分配シテ食ハシム　「マリバテ」ノ後日ヲ定メテ數日間全社路普請ニ從フ。之ヲ「スソダラン」（ぱいわん語「マサク」）ト云フ　路普請畢ラハ「マヲロク」（交通ノ禁ヲ解クノ義）ト稱シ全社ノ壯丁銃（銃ナキトキハ弓矢）ヲ持シ社外ニ出ツ。此時未婚ノ女二人瓢ヲ持シ路ノ左右トニ別レ各々井ヨリ水ヲ汲來リ之ニ「ラかツ」ト稱スル草及茅ヲ浸シ社外ヨリ歸來スル壯丁ヲ待受ケ之ヲ以テ水ヲ一々振掛ク。之ヲ「パラリキリキ」（社外ヨリ從ヒ來レル邪鬼ヲ攘フナリ）ト云フ　其翌日「マソマ」ヲ行ヒ壯丁一同出獵ス。未婚ノ女ハ獸臛ヲ作テ遊戲ス

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニハ之ニ付收穫祭アルノミ。收穫祭ハ「イキラロマイナイ」ト云フ。早朝番祀頭人ノ家ニ至リソレヨリ畑ニ赴キ二三本ノ稗ヲ採來リ之ヲ頭人家ノ外庭ニ乾ス。其翌日番祀社外ノ休憩所ニ至リ火ヲ作リ祈禱ヲ行ヒソレヨリ山ニ入リ木ヲ取テ歸リ之ヲ以テ槌トシ稗ノ實ヲ敲キ落シテ桶ノ中ニ入ル。翌日ヨリ社民一同收穫ニ從フ　收穫中他社トノ交通ヲ絶シ又生麻ニ觸ルルコトヲ禁ス。月改マルマテ物品ノ交換及生木ノ採取ヲ禁ス

(四)芋ニ關スル祭祀　ハ唯植附祭アルノミ爐竈ヲ開ク時ニハ祭祀ヲ行ハス其一日間他家トノ交通ヲ禁スルノミ

植付祭　ハ全社日ヲ一定シ各家別々ニ行フ。各家祝早朝畑ニ至リ芋神ノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ投シ種芋ヲ降シテ芋ノ成長スル樣ニ祈ルソレヨリ一家其下種ニ從フ

第四　るかい番ブダイ群社

(一)總說　本群社ハ合シテ一祭團ヲ成ス。然レトモ農耕ニ關スル祭祀ハ一社其日ヲ同フスル(全群ノ頭人及老番協議シテ之ヲ定ム)ノミニテ各家別々ニ行フ。家祝ハ男女ヲ問ハス祭事ニ通セル者之ニ當ル

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　前一日社民ノ外出セル者ヲ呼返シ品物ノ家外ニ在ルモノヲ取集メ禁忌ヲ始ム　前夜各家ニ於テ其家祝粟莖ニ火ヲ點シテ炬ト爲シ之ヲ持シテ各自ノ休耕地ニ至リ手鍬ヲ以テ二尺四方程ノ地ヲ開墾シテ祭畑(番語「タプリシアン」)ト爲ス　翌早朝家祝粟・稗・藜・樹豆及大角豆ノ種子ヲ持シ祭畑ニ至リ先ツ天神ノ靈ヲ呼テ供饌シ此等ノ種子ヲ播シテ歸リ其日ハ一家休業ス　翌日ヨリ全家播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　粟ノ播種了レハ各家祝ハ小瓢ニ水ヲ入レ持シテ祭畑ニ至リテ少シク之ヲ灌キ之ニ饌ヲ供シ祝シテ『粟ハ既ニ播種シタリ。日照ルトモ枯死スルナカレ』ト日ヒテ歸來ス　播種ノ始ヨリ銅製又ハ銀製ノ器具（黄銅鍋、銀鏈、銀騎環等ノ如シ）及鐵ヲ使用スルコトヲ禁ス。鐵器ヲ使用スルコトヲ忌マスト雖モ鍛冶スルコトヲ戒ム。此禁忌ハ其月ヲ終ルマテ之ヲ守ラサルヘカラス若シ一人ニテモ之ヲ犯シタル者アルトキハ全社業ヲ休ミ天ニ向テ水ヲ投シ其罪ヲ謝セサルヘカラサルモノトス

(は)乞雨ノ祈禱　播種ノ後雨降ラサレハ全群ノ番丁等大頭人ズマラフト家ニ集リ雨ノ祈ル老番ノ一人豚ヲ屠テ其血ヲ取リ之ヲ木杯ニ入レ天ニ向ヒテ祝シテ日ク『久シク雨ナク粟ノ芽ハ枯レントス。願ハクハ雨ヲ降ラセヨ』トテ之ヲ投ス。若シ五日ヲ經ルモ尚雨降ラサレハ社ノ上方ニ在ル森林中ニ赴キ同一ノ式ヲ行フ

(に)收穫祭　粟ノ穗既ニ熟シタルトキハ日ヲ定メ（月缺ケテ將ニ無クナラントスルトキヲ選フ）バカライ（豫告祭）ノ式ヲ行フ。即チ各家ノ家祝ハ早朝其前庭ニ於テ兩手ニ炬火ト刀トヲ持シ太陽ニ對シ之ヲ振廻ハシツツ『月ハ到レリ速ニ粟ヲシテ成熟セシメヨ』ト祈リ社民ノ外出セル者ハ前日迄ニ呼返シ器具ノ畑小屋等ニ在ルモノハ之ヲ持歸リ而シテ禁忌ヲ始ム　月改マリテモチブ（粟ヲ摘始ムルコト）ノ式ヲ行フ。各家ノ祝其前庭ニ於テ太陽ニ對シ『粟ハ既ニ熟シタルニ付今日ヨリ收穫スヘシ』ト告ケ祭畑ニ至リ粟一二本ヲ取テ歸來ス。若シ粟ノ成熟シタルモノナキトキハソコニ生ヘタル草ヲ取テ歸ル。此レヨリ一家收穫ニ從フ

(ほ)收穫後祭　既ニ收穫ヲ了シタルトキハ月ノ改マルヲ待チ「マサルト」ノ行フ　初日早朝各家祝ハ炬火及刀ヲ持シ天日ニ對シ今日當ニ「マサルト」ヲ始ムヘキ旨ヲ告ク　數日ノ後新粟ヲ取出シ之ヲ乾ス。更ニ五日ノ後各家祝ハ粟ヲ搗テ粉トシ社口ノ廣場ニ持行キ水ヲ汲來リ之ヲ捏テ餅トシ、ロヨ

ツ」ノ葉ニ包ミ石ヲ圍ヒ其ノ中ニ餅ヲ置テ燒キ其一部ヲ食シ殘部ハ之ヲ持歸テ家族ニ食ハシム。「マサルト」ヲ畢ハタル後數日間全社路普請(「スワラン」)ニ從フ　月末ニ近ツキタルトキ「パラリキリキ」及「マチロク」ノ式ヲ行フ。卽全社ノ壯丁等大頭人家ノ庭ニ集リ女一人木杯ニ水ヲ汲テ持來リ手ヲ以テ其水ヲ壯丁等ニ振掛ク。此日鞦韆ヲ作リ婦女等終日遊戲ス　翌日「マブソア」ヲ行ヒ男子一同狩獵ニ赴ク　月改マリテ禁忌ヲ解ク

(三)稗ニ關スル祭祀

(い)收穫祭　「イキラロマイナイ」ト云フ。前日ニ社民ノ外出セル者皆歸來シ其日早朝各家ノ祝其前庭ニ於テ饌ヲ供シ粟莖ニ火ヲ點シ之ト刀ヲ左右ノ手ニ持シ之ヲ振リツツ「明日ヨリ稗ノ收穫ヲ爲スヘキ旨」ヲ靈ニ告ク　翌日ヨリ全社收穫ニ從フ

(ろ)收穫後祭　別ニ祭祀ナシ唯「パラリキリキ」及「マチロク」ヲ行フ。其法ハ粟ノ收穫後ニ行フモノニ同シ　稗ノ收穫中ハ交通ヲ絕シ生麻ニ觸ルルコトヲ禁ス

(四)芋ニ關スル祭祀　ハ當社ニ之ナシ、唯燻竈ヲ開キタル日ノミ他人トノ交通ヲ絕ス　若シ他人家ニ入來リタルトキハ一宿セシムルニ非サレハ歸去セシメス

第五　るかい番ダデル群社

(一)總說　ダデル、ダラマカウノ兩社ハ合シテ一ノ祭團ヲ爲ス。然レトモ粟ニ關スル祭祀ハ一祭團其日ヲ同クスルノミニシテ各家別々ニ之ヲ行フ　家祀ハ家人中男女ヲ問ハス其式ニ通スル者之ニ當ル

當社ニハ稗及芋ニ關スル祭祀ナク粟ニ關スル祭祀モ其式頗ル簡略ナリ。左ニ小林氏ノ調査シタル

所ヲ揭ク

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニハ粟ノ收穫前ニ行フモノナシ。收穫ハ各戸任意ニ之ヲ行ヒ且其間別ニ禁忌ヲ行フコトナシ

(い)播種祭　各家豫メ其休耕地中ニ祭畑ヲ作置キ其日早朝小竹筒(拇大指)ニ水ヲ入レ持シテ祭畑ニ至リ粟種ヲ播シテ其水ヲ灌キテ歸ル。此日ノミ休業シ禁忌ス　翌日ヨリ播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　播種ヲ了シタル時ニ別ニ祭ヲ行ハス。日ヲ定メ約十日社外ニ出ノルヿトヲ禁忌ス。但シ薪、番藷ヲ採リ又ハ獵漁ヲ爲スハ此限ニ在ラス

(は)收穫後祭　收穫ヲ了シタルトキハ吉祥日ヲ定メ各家其朝飯ニ新粟ヲ炊キテ食ス。ナレヲヨリ十日間社外ニ出ツルヲ禁スルコト播種ノ後ニ於ケルカ如シ

第六　らばる番トバサバサイ社

(一)總說　當社ハ一社ニテ一祭團ヲ爲シ一人ノ男祝アリテ其共同祭祀ヲ主ル　家祭ハ男女ノ間ハス一家中其行事ニ通スル者之ニ當ル　當社ニハ芋ニ關スル祭祀ナシ　其粟及稗ニ關スル祭祀ノ方法左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニ於テハ之ニ關シ播種祭ト收穫後祭ノ二アリ其ニ共同祭ニ屬ス

(い)播種祭　第一日ハ「パスジャルマヲ」ト稱シ番祝番藷ヲ持シテ土名イザルマニ赴キ畑中ニ在ル三個並立テ之ヲ敲、豚及穀物ニ擬シ爪ニテ番藷ヲ切リ三タヒ其石ニ供シ本年ノ好運ヲ祈リテ歸ル　第二日モ亦「パスジロマ」ト稱シ各家ヨリ家祝一人畑ニ赴キ三個ノ石ヲ立テ雞、豚及鳥ニ擬シ番藷ヲ以テ之ニ供ス　其翌日ヨリ全社粟ノ播種ニ從フ

(附記)本社ニ於テモ祭畑ヲ作リ之ニ種粟ヲ播スルノ慣習アルヘシ調査ヲ遺シタルニ付之ヲ略ス

(ろ)收穫後祭　前後十二日ニ亘ル　第一日ハ「ツマイダイ」ト稱ス。番祝粟ノ穗ヲ持シ社口ノ「チメカノ」(祭畑)ニ至リ之ヲ地ニ挿シ天ニ向ヒテ本年ノ豐作ヲ謝ス　第二日ハ「ホヘサヤ」ト稱シ番祝新粟ヲ以テ飯ヲ炊キ之ヲ食ス　第三日ハ「マシヤブルン」ト稱シ各戶粟飯ヲ煮、家族鍋ヲ圍テ之ヲ食ス　第四日ヨリ第九日マテ全社業ヲ休ム　第十日ハ「マブソアヌ」(獵神祭)ヲ行ヒ第十一日ハ「マサク」(路普請)ヲ行フ　第十二日ハ「ヅムラト」(搶ナ立ツル義)ト稱シ全社ノ番丁ハ武裝シテ溪ニ赴キ各天ニ向ヒテ饌脂ヲ投シ右手ニテ粟餅ヲ持シ右ヨリ左ニ廻シソレヨリ胸前ニ持來ス。然ルトキハ敵又ハ獸ノ毛ガ其餅ニ附クト云フ。蓋シ出獵、出草ノ幸ヲ祈ルナリ　祭期間ハ他社トノ交通ヲ絕ス。若シ路ニ相逢フトキハ其武器及被服ヲ奪取ス。時ニ其者ヲ殺傷スルコトアリ。蓋シ祭祀中ニ他ノ財物又ハ首級ヲ得ルハ幸福ナリトノ迷信ニ基ツク

(三)稗ニ關スル祭祀　ハ當社ニ於テハ收穫祭アルノミ。之ヲ「キロマイ」ト稱ス　番祝稗穗ヲ取リ之ヲ持シテ「チスカフ」(祭畑)ニ赴キ祈禱ヲ行ヒ後持歸リテ自家ノ穀倉ノ上ナル石穴(番語「サド」)ノ中ニ收藏ス　翌朝全社出獵ス

第七　らばる番バリラヤヌ社

(一)總說　當社ハ一社ニテ一ノ祭團ヲ成ス。然レトモ祭祀ハ各家別々ニ之ヲ行ヒ唯其日及禁忌ヲ同シクスルノミ。但シ祭祀ニ關スル鳥占、狩獵等ハ之ヲ共同ニシ番祝之ヲ主ル　家祝ハ其家ニ在リテ祭事ニ通スル者之ニ當リ男女老小ヲ問ハス

當社ニ於テモ稗及芋ニ關スル祭祀アルヘシト雖モ其調査ヲ漏シタルカ故ニ之ヲ除キ粟祭ノミニ付說述ス

粟ニ關スル祭祀　當社ニハ之ニ關シテ播種祭及收穫後祭ノ二アリ

(い)播種祭　日ヲ定メ全社各戸ヨリ一人ツツ社口ノ廣庭ニ集ル。番祝出テテ或方面ニ向ヒ鳥聲ヲ試ム。之ヲ「カラトバイ」ト云フ。一同之ニ從テ行ク。若不吉ナレハ引返シ翌日再ヒ同事ヲ行フ。之カ爲ニ五六日ヲ費スコトアリト云フ。幸ニシテ鳥聲吉ナレハ一同疾走シテ各自ノ家ニ歸リ漁具ヲ取テ渓ニ降リ漁撈ヲ行フ。其日各戸餅(芭蕉ノ實ヲ混シタルモノ)ヲ作リ魚ヲ煮、互ニ朋友親族ヲ招キテ々食ヲ共ニス　翌日(一般ニ之ヲ第一日トス)未明各家ノ祝手鍬ヲ持シ畑地ニ至リ方二三尺ヲ開墾シテ祭畑ト爲ス之ヲ「ツムカアル」ト云ヒ其畑ヲ「チヌカラヌ」ト云フ　第二日早朝各家祝祭畑ニ至リ粟及稗ノ種子ヲ播シテ歸ル　第三日早朝各家祝ハ再祭畑ニ至リ天ニ向ヒ饌皮ノ少片ヲ投シ好作ヲ祈ル之ヲ「ツムルブカ」ト云フ　第四日ハ「ボアい」ト稱シ夕刻竹筒ニ水ヲ入レ持シテ祭畑ニ灌ク　第五日ハ「ブシナバハ」ト稱シ家祝祭畑ニ至リ少シク粟ノ發芽セルモノヲ間引キ且草ヲ拔キ再水ヲ灌ク　播種ヲ終了シタル後ニハ別ニ祭祀ノ式ナシ

(ろ)收穫後祭　收穫ヲ始ムル前ニハ別ニ祭祀ナシ　收穫後ニ「マサルト」ヲ行フ　第一日ハ「ツマイダイ」ト稱シ各家祝粟穗ヲ持シ天ニ向テ豐作ヲ謝ス　第二日ハ「マシアボロ」ト稱シ粟飯ヲ煮キ之ノ[illegible]ア」ハ「マ」ト氣ヲ吹キ掛ケ全身ニ附ス(次條トニイワノ收穫後祭ト見ル)　第三日ハ「ブサカリアアル」ト稱シ家ニ在テ休息ス。第四日ハ「ウマイバイ」ト稱シ各家夕刻ニ餅ヲ作テ食ス　第五日ハ「マブソア」ト稱シ各戸、長約三尺程ノ餅ヲ作リ之ヲ携ヘテ社外ニ至リ獵獸ノ靈ニ供シ後細切シテ之ヲ食フ　第六日ハ「マサク」ト稱シ

路ノ修繕ヲ行フ　第七日ハ「ルマガラガツ」ト稱シ各家蕁ノ葉（番語「ラガツ」）ト茅トヲ持シ奸黨ヲ祈リ終テ之ヲ人口ノ戸側ニ挿ス

第八　らばる番上パイワヌ社

(一)總說　當社ハ一社ニテ一ノ祭團ヲ成ス。然レトモ共同祭祀ヲ主ルヘキ番祝ナク祭祀ハ總テ各家別々ニ之ヲ行ヒ唯其祭日及禁忌ヲ同クス　家祝ハ男女ヲ問ハス能ク其祭式ニ長シタルモノ之ニ當ル、當社ニハ芋ニ關スル祭祀アリヤ否其調査ヲ漏ス。左ニ粟及稗ニ關スルモノヲ掲ク

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニハ之ニ付唯播種祭ト收穫後祭ノ二アリ

(い)播種祭　祭期五日　第一日ハ「ツムカル」ト稱ス。家祝畑ニ赴キ其中ニ方三四尺ノ地ヲ開キテ祭畑ト爲ス　第二日ハ「タウトモゲツ」（初テ播種スル義）ト稱ス。家祝種粟及手鍬ヲ持シテ祭畑ニ至リ播種ノ式ヲ行フ。此日ヨリ全家播種ニ從フ　第三日ハ「シルブカヌ」ト稱ス家祝祭畑ニ赴キ水ヲ取テ之ヲ畑ニ灌ク　第四日ハ「クマヌ・トワ・ブサム」ト稱ス。別ニ式ナシ。女ハ粟ヲ搗キ男ハ溪ニ赴キテ漁撈ス　第五日ハ「ブシナバガヌ」ト稱ス。祝祭畑ニ至リ少シク發芽セル粟ヲ間引ク　播種中ハ他社トノ交通ヲ禁シ且ツ狩獵、採薪及番薯採取ノ外ハ社外ニ出ツルコトヲ禁ス

(ろ)收穫後祭　祭期十四日ニ亘リ其間禁忌ヲ行フコト播種祭ノ時ニ同シ　第一日ハ「パスザム」ト稱ス。社民各家内ニ引籠リテ外出セス　第二日ハ「チャルム」ト稱ス。社外ニ出ツルコトヲ得ス。單ニ同部落内ヲ來往スルコトヲ得ルノミ　第三日ハ「パスザムウタ」ト稱シ再家内ニ靜居シテ外出セス　第四日ハ「ボカルデル」ト稱ス。家祝「カルデル」ノ葉（形槲ノ葉ニ似タリ）二枚ヲ取來リ之ヲ穀神ニ擬シ先其一枚ヲ持シテ祭畑ニ至リ地ニ挿シ之ニ少ク饌脂ヲ附シ來年モ亦粟ノ能ク成長シ豐熟スル樣ニ祈ル。ソレヨリ

歸テ又他ノ一枚ヲ大黑柱ノ根元ニ立テ同樣ノ祈禱ヲ爲ス　第五日ハ「キバオ」ト稱シ家祀未明ニ畑ニ赴キ既ニ摘ミタル跡ノ株(或ハ跡ニ生ヘタル芽)ヲ拔キ取テ歸ル　第六日ハ「ピナシクザイ」ト稱ス日暮ニ家祀粟ヲ收穫シタル跡ニ至リ小刀ヲ以テ饌皮ヲ少シヅツ切リ諸靈ニ供シ來年ノ豐收ヲ祈ル　第七日ハ「マシアボロ」ト稱ス。家祀早朝粟飯ヲ炊キ兩手ニ之ト饌脂トヲ持シ「ハア」ト已レノ氣息ヲ吹キ掛ケテ之ヲ已ノ頭ニ載セ又「ハア」ト吹掛テ兩肘ニ着ケ兩腰、兩膝、兩爪先ト次第ニ同樣ノコトヲ行ヒソレヨリ又逆ニ爪先、膝、腰、肘、頭上ト同樣ノコトヲ行ヒ終ル。此ハ神靈ヨリ元氣ヲ享受スル爲ナリト云フ。次ニ男タル家族、ソレヨリ女タル家族引續キ同樣ノコトヲ行フ。了テ家祀大黑柱ニ「ドモアス」(粟飯ヲ塗リ着クルコト)ヲ行ヒ他ノ家族亦之ニ倣フ　第八日ハ「ウマバイ」(餅ヲ作ルノ義)ト稱ス。早朝各家ノ男ハ溪ニ下リ漁撈シテ歸リ餅ヲ搗キ之ニ其魚肉ヲ混ス。夕刻之ヲ頭人親戚朋友ニ分與スレハ彼等亦同樣ノ物ヲ送リテ之ニ答フ　第九日ハ「マブソア」ト稱ス。全社ノ男子ハ刀ヲ佩ヒ網袋ヲ負ヒ大ナル餅ト細長キ餅(長三寸圓徑半寸)トヲ携ヘテ社口ノ廣庭ニ集ル。大ナルハ之ヲ殘シテ晝飯トシ細長キハ切テ之ヲ三四片トシ各自之ヲ以テ少シク石ニ塗着ケ好獵ヲ祈リテ後之ヲ食ス。ソレヨリ狩獵ニ赴キ其日ニ歸來ス　第十日ハ「ブシカリアル」(休ムノ義)ト稱ス。別ニ式ナク全社休業スルノミ。出テ薪又ハ番薯ヲ取ルコトヲ得　第十一日ハ「ズモラト」(槍ヲ立ツル義)ト稱ス。社內ノ各部落ヨリ壯丁二人ヅツ槍ヲ持シテ社口ノ廣庭ニ來リ或方面ニ出テテ鳥占(番語「キアヤム」)ヲ行フ。占凶ナレハ更ニ他ノ方面ニ出テテ之ヲ行フ。占吉ナレハ歸來テ餅ヲ搗キ之ヲ持シテ其方面ニ至リ草中ニ隱レ火ヲ焚キツツ餅ヲ手切リ靈ニ供シ武運ヲ祈ル。古ハ此時ニ他社ノ人ニ逢ヘハ直ニ馘首シタリト云フ　第十二日ハ「マブソア」ト稱シ全社ノ壯丁出テテ狩獵ヲ行ヒ翌日歸來ス。此日未婚ノ少女ハ鞦韆ヲ行フ

（三）稗ニ關スル祭祀　當社ニ於テ此祭祀ハ收穫前ニ行フ。之ヲ「キジュマイ」（黍ヲ得ル）又ハ「パスナノブジャン」（オノブジャン地名。稗祭ヲ行フ所ナリ）ト云フ。四日ニ亘ル　第一日ハ「キラブラブ」ト稱シ祭場ニ於テ盛ニ火ヲ焚キ青年男女其上ヲ跳越ユ　第二日ハ「バカイシャザオ」ト稱シ番祝穀神及祖靈ヲ喚ヒ稗ヲ取リ之ニ供ス　第三日「パリシ・トサカル」ト稱シ祝首棚ノ前ニ至リ饌ヲ具シ之ヲ祭ル　第四日ハ「ルマカラカット」ト稱シ祝蓄ノ枝ヲ持シサプルカメ（獵獸ヲ司配スル神）ヲ呼ヒ猪鹿等ヲ持來セト祈リ了テ一同出獵ス

第九　ぶつる番サカラヌ社

（一）總說　當社ハ一社ニテ一祭團ヲ成ス。然レトモ粟ノ祭祀ハ狩獵ニ關スルモノヲ除キ各戶別々ニ之ヲ行ヒ唯其日ト禁忌ヲ同クス　家祀ハ男女ニ拘ハラス一家內ニテ祭事ニ通スル者之ニ當ル　當社ニハ稗及芋ニ關スル祭祀アリヤ否其調查ヲ漏シタルヲ以テ茲ニ粟祭ノミニ付記載ス

（二）粟ニ關スル祭祀

（い）播種祭　祭期三日　第一日各家祝其屋前ノ祭畑ニ粟種ヲ播シ穀神ヲ呼テ本年ノ農作ヲ祈ル。之ヲ「パリシアトモゴト」ト云フ。其翌日一同畑ニ至リテ播種ス　第三日各家祝其祭畑ニ水ヲ灌ク　右ノ三日間ハ他ト交通ヲ絕ス

（ろ）播種後祭　其期間十日他社トノ交通ヲ絕ス　第一日「パサロツ」ト稱シ狩獵ヲ行フ　第二日ハルマカツト稱シ獵神ヲ祭リ再ヒ出獵ス　第三日ハ「タタス」ト稱シ水源地ニ赴キ水ノ涸カサル樣ニ祈ル　第四日ハ「パスチャチャバル」ト稱シ一同餅ヲ社口ノ廣庭ニ持行キ祖靈ニ供ス　第五日ハ「スモクヤ」ト稱シ家祝其軒下ノ祭畑ノ土ヲ棄テ新ニ畑土ヲ入ル　第六日「ウマロプ」ト稱シ一同狩獵ニ赴キ翌日歸來ス　第八日ハ「ムルウジャル」ト稱シ一同山ニ至リ雨ヲ乞ヒ歸リテ水ヲ屋根ニ灌ク　第九日ハ

「スムチクル」ト稱シ社民中交換ヲ業トスル者一人樹豆外二品ヲ持シテ平地ニ降リ織物ト交換シテ歸來ス。交換ノ禁乃解ク　第十日「ポカイシャザオ」ト稱シ他ト交通ノ禁ヲ解ク

(は)收穫祭　祭期三日　第一日ハ「パチリガオ」ト稱ス。並各家ヲ巡リ祈禱ヲ行ヒ榕樹ノ葉ヲ以テ家族一同ノ頭ニ挿ス　第二日ハ「トマラコジル」ト稱ス。各家粟餅ヲ作リ茅ヲ卷キ蒸シテ之ヲ食ス　第三日ハ「ポキンサ」ト稱ス。各家ノ主婦畑ニ行キ粟穗ヲ摘來リ之ヲ飯ニ炊ク。コレヨリ各家其收穫ニ從フコトヲ得

(に)收穫後祭　祭祀約七日ニ亘ル　第一日ハパタラリクズト稱ス各家新粟ニ野菜ヲ混シテ炊ク此日各戸粟莖二本ヲ家ノ入口左右ニ立掛ク。獸類ノ畑ニ入ラサル禁厭ナリト云フ　第二日ハ「クマナジュリサズ」ト稱ス。舊粟ニ新藜ノ實ヲ混シ煮テ之ヲ食ス　第三日ハクマバイト稱ス各戸新粟ヲ以テ餅ヲ作リ食ス　第四日ハ「ツマツリプ」ト稱ス。粟粉ヲネリテ餅ヲ作リ之ヲ石ノ上ニ置キ其上ニ石ヲ置キ下ヨリ蒸燒キニス　第五日ハ「パカイシャザオ」ト稱シテ交通ノ禁ヲ解ク　第六日ハ「マサク」ト稱シ社内ノ草ヲ除キ路ヲ修ム　第七日ハ「マブソア」ト稱シ一同狩獵ニ赴ク

第十　ぶつる番トクブジ社

(一)總說　當社ハ五部落ニ別レ其内サライリプハらばるノ祭法ニ從フ卽上パイソノ社ノ部ニ記スル所ノ如シ。他ハぶつるノ祭法ニ從フ卽チ玆ニ記述スル所ノ如シ

當社ハ各部落ニ一人ノ男覡アリ其部落共同ノ祭祀ヲ主ル　又各家ニハ家覡アリ男女ヲ問ハス家人中ニテ祭法ニ通セル者之ニ當ル　當社ニハ芋ニ關スル祭祀アリヤ否其調査ヲ漏セリ。左ニ小林氏ノ調査セル粟及稗ノ祭ニ付記述ス

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　祭期三日其次第下ノ如シ　第一日ハ「パテリガウ」ト稱ス。早朝各家祀家内ノ男女ト共ニ奥室ノ土間ニ於テ俎ニ豚脂ノ小片ヲ置キタカラウスノ靈ヲ呼ヒ本年ノ豐收ヲ祈リ後己先ツ其豚脂ヲ食シ後家人ニモ分テ食セシム。終テ一同畑ニ赴キ播種ス。此日ヨリ禁忌ヲ始メ平地ニ降ラス米及米酒ヲ口ニセス豚ヲ屠ラス　第二日「スモジャジュク」ト稱ス。早朝祀雉茅ノ葉ヲ摘切リ奥室ノ土間ニテ『汝タカラウスニ祈ル。願ハクハ石ヲ除キ葛ヲ除キ草ヲ除キ而シテ粟ヲシテ好ク發芽セシメヨ』ト言ヒ殘レル茅葉ヲ投上ク。終テ家人播種ニ赴ク　第三日「トモゲト」ト稱ス。家中ノ男女ヲ問ハス一人庭前ニ出テ其祭畑ニ粟穗少許ヲ播シ終テ一同播種ニ赴ク　以上三日ニテ播種祭終了ス

(ろ)播種後祭　祭期九日其次第下ノ如シ　第一日ハ「パラテス」(又ハ「ジケス」)ト稱ス。各家祀其奥室ノ土間ニ於テタカラウスヲ呼ヒ茅ノ葉ヲ摘切リ饌脂ヲ添ヘテ之ヲ供シ播種終リタルニ付粟ノ保護ヲ祈ルト告ケ尚其殘リタル茅葉ヲ天ニ向テ投上ク　第二日「カボアボア」(又ハ「チカバプア」)ト稱ス。各家祀奥室ノ土間ニ於テ茅ヲ摘切リ靈ニ供饌シ鼠及盜ノ害ナキ樣ニト祈リ殘レル茅葉ヲ投上ク　第三日テタタヤ」ト稱ス。各家祀其奥室ニ於テ茅又ハ草ノ葉ヲ摘切リ『此處ニ水源ノ神ニ祈ル。年中水アル樣、畑ノ乾カサル樣、而シテ粟ヲシテ早ク芽ヲ出サシメヨ』ト祈リ殘レル草葉ヲ投上ク。此日モ家祀ノミ禁忌ス　第四日「スモコヤ」ト稱シ各家ノ者一人祭畑ノ土少許ヲ取リ「ポーツ」ノ葉ニ包ミ『汝靈ニ祈ル。鹽、肉、酒、ガ澤山ニ出來ル樣ニ、又他ノ盜ヲ受ケサル樣』ニト祝シ之ヲ持シテ社口ノ休憩所ニ至レハ一人ノ老番ハ各家ノ分ヲ集メ數句ノ祝詞ヲ述ヘテ之ヲ休憩所ノ傍ニ棄ツ。此日家人ハ薪又ハ山芋採取ノ外ハ外出スルコトヲ得ス　第五日「マルブ」ト稱シ番祀奥室ノ土間ニ於テタカラウスヲ呼ヒ豚脂ヲ供

シツツ「鷄ガ卵ヲ抱ク如ク極メテ大切ニ畑ヲ守レ」ト祈ル。此日祝ノミ禁忌ス　第六日早朝「モレウダル」ト稱シ番祝其家室ニ於テタカラウスヲ呼ヒ「雨ヲ降ラセ。雨降レハ粟ハ發芽シ能ク生長スヘシ」ト祈ル。此日モ祝ノミ禁忌アリ　第七日「バブブ」ト稱シ祝其家内ニ於テタカラウスヲ呼ヒ「一同ノ畑ニ發芽セシメヨ」ト祈ル。祝ノミ禁忌アリ　第八日「バカイシ・ザウ」ト稱シ番祝其家内ニ於テ「コレニテ祭祀了レリ。我等ハ平地ニ降ルモ其他ノ地ニ行キテ品物ノ交換ヲ爲スモ差支ナシ」ト祝ヘ此日酒アル家ニテハ宴ヲ開キ親友ヲ招ク

（附記）小林氏ガ當社ニ於テ調査シタル所ニ依レハ當社ニハ粟ニ關スル祭祀ナク稗ニ關スル祭祀アリ。他ノ番社ニ於テハ稗ニ關スル祭祀ナキ處ハ之アルモ粟ニ關スル祭祀ナキモノアラス。因テ之ヲ當社駐在ノ增島警部ニ問合シタルニ同氏ヨリ「本社ニモ粟ニ關スル祭祀アリ而シテ其次第ハ（一）ハ「スモジャジュク」ニテ禁忌ヲ始ム。社民一同平地ニ降ラス米及米酒ヲ食セス藤ヲ揃フス（二）ハ「バジャケス」ト稱シ天ニ對シ粟種ノ保護ヲ祈ル（三）ハ「チャチャチ」ト稱シ天ニ對シ粟ニ雨露ノ濕氣ヲ與ヘラレンコトヲ祈ル（四）ハ「チカバブア」ト稱シ天ニ對シ社内一般ノ保護ヲ祈ル（五）ハ「スモコヤ」ト稱シ祭畑（「チニカ」）ヲ祭ル（六）ハ「ウマルブ」ト稱シ耕地ヲ祭ル（七）ハ「モレオダル」ト稱シ雨ヲ祈ル是ナリ」ト回答シ來レリ。之ヲ小林氏ガ調査シタル稗ノ播種祭及播種後祭ニ比照スルニ相類似スル所アリ。卽チ知ル小林氏ノ稗ノ播種祭トセルモノハ全ク粟ノ播種祭ナルコト。故ニ今之ヲ粟ノ祭祀中ニ收ムルコトトセリ本文所揭ノ（い）（ろ）卽是ナリ

（は）收穫祭及收穫後祭　其方式ハ調査ヲ漏シタリ然レトモ增島警部ノ所説ニ依レハ他ノ番社ニ同シトアレハ先「タラバサジ」社行フ所ノモノト大同小異ナリト思ハル

(三)稗ニ關スル祭祀

(い)收穫祭　祭期二日他社トノ交通ヲ禁シ耕作ヲ禁シ獵漁、芋取ノ外部外ニ出ヅルノ禁シ而婦女ハ生麻ニ觸ルルコトヲ禁ス　第一日「スマノアタ」ト稱シ珠仔（番語「アタ」其高價ナルモノハ一箇十圓以上ニモ値ス）ノ爲ニ祈ル。此ハ家祭ニ屬シ高價ノ珠仔ヲ有スル家ニテハ早朝此祭ヲ行ヒ翌日休憩スルモ珠仔無キ家又ハ之アルモ其價賤シキトキハ夜之ヲ行ヒ其翌日ハ休憩セス。祭式下ノ如シ　女タル家祝寢室ノ窓ノ下ニテ珠仔ヲ陳シ之ニ榕樹ノ葉ト「ポーツ」ノ葉ヲ摘切リ其小片ヲ投シツツ祖靈ヲ呼ヒテ曰ク、此等ノ貴重ナル珠仔ガ何時マテモ家內ニ存在スル樣ニ守リ給ヘ。然ラスハ我等ハ之ヲ賣リテ價ヲ得タキ爲ニ身體ハムヅムヅシテ堪エガタシ」ト　第二日「キパパテリガオ」ト稱ス。早朝各家祝奧室ノ土間ニ於テ俎上ニ家族ノ數ダケ「ポーツ」ノ葉ヲ竝ヘ豚脂ヲ少シツツ載セ出テテ」蛇ニ食付レヌ樣又途ニ轉ハヌ樣ニ」ト祈リ終テ豚脂ヲ食シ次ニ家人ニモ食ハシム　翌日收穫ニ着手ス

(ろ)收穫後祭　祭期二日　第一日「ブナデン」ト稱ス。早朝番祝穀倉ノ上ニ一穗ノ新稗ヲ置キ他社ノ者ガ當社ニ來ルモ亦我等ガ他社ニ行クモ共ニ差支ナキ樣ニ祈リ後新稗ヲ倉庫ニ藏ス。稗不作ノ際ハ草葉ヲ以テ之ニ代ヘ同樣ノ祈禱ヲ行ヒ新稗ヲ倉ニ納ムル狀ヲ爲ス。此ニテ稗ノ禁忌解ク　第二日「ケラブラヴ」ト稱ス。早朝番祝首棚ニ赴キ茅ノ葉ヲ摘ミ切リ之ヲ投ケテ靈ヲ祭ル。此式ヲ行ハサルトキハ他日稗ヲ搗クトキ若其稗ガ首棚ノ方向ニ飛ヘハ家內ニ病死者アルヘシト云フ

第十一　ぶつる番タラバサジ社

(一)總說　タラバサジ及サララウハ合シテ一ノ祭團ヲ成ス。本祭團ニハ一人ノ男タル番祝アリテ共同祭祀ヲ主ル。祭日ハ番祝頭人ト協議シテ之ヲ定ム　家祝ハ男女何レニテモ可ナリ能ク祭事ヲ辨

スル者之ニ當ル

本社ニ於テ稗ニ關スル祭祀ハ調査ヲ漏シタリ。故ニ粟及芋ニ關スルモノニ付小林氏ノ調査シタルモノヲ記ス

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　祭期三日　第一日ハ「パラリキリキ」ト云ヒ禁忌ヲ始ム。平地ニ赴カス米及米酒ヲ口ニセス　第二日ハ「スモアチライ」ト云ヒ石ヲ取扱フコトヲ禁ス　第三日ハ「パチリカオト」ト云ヒ各家ニ於テ家祝榕樹ノ葉ニ饌脂ヲ附ケタルヲ頭上ニ插ス　第三日ハ「ルマルム(冷ヤスノ義)」ト云ヒ稗粟ヲ箕ノ上ニ攤ケ之ニ少ク水ヲ灌ク。是蓋播種ノ後旱魃ニ逢ハサル爲ノ禁厭ナルヘシ　第四日ハ「ハチカオアォ」ト稱ン各家祝社口ノ廣場ニ至リタカラウス(天空ノ神)トルゲラウ(當社ノ祖神)ニ對シ饌ヲ供シコレヨリ當ニ播種ニ從フヘキ旨ヲ告ケソレヨリ畑ニ至リテ播種ス

(ろ)播種後祭　祭期八日　第一日番祝其家ニ於テ木ノ葉ニ饌脂ヲ附シ之ヲタカラウスニ供シ全社ノ播種ノ完了シタル旨ヲ告ク　第二日ハ「パリシトタアヌ」ト稱シ番祝一人種粟及手鎌ヲ携ヘ畑ニ赴キ粟畑ヲ作リ之ニ少シク播種ス。祭畑ハ郊外頭人家ノ休耕地ニ設ケ約一尺平方ノ地ヲ劃シ茅ヲ刈リ土ヲ梨キテ之ヲ作ル　第四日ハ「スモクヤ」ト稱シ番祝饌皮ヲ畑ニ持チ行キ之ヲ以テ惡靈ニ與ヘテ去ラシム　第五日ハ「アルブ」ト稱シ各家其戸前ニ祭畑ヲ作リ家祝ココニ粟ヲ播シタカラウスニ對シ粟ノ成長スル樣ニ祈ル　第六日ハ「モレウダル」ト稱シ各家ニ於テ其家祝木葉ヲ持シ天ニ對シテ雨降レト祈ル　第七日ハ家祝水ヲ木葉ニカケツツ粟芽ノ生スル樣ニ祈ル　第八日ハ「パサルツ」ト稱シ一黨ヨリ一人又ハ數人ノ番丁木ヲ取ランカ爲ニ山ニ往ク。粟ノ播種中木ヲ伐ルトキハ其

粟死スーシトノ迷信アルヲ以テ番祝後方ヨリ之ヲ呼戻ス。サレト番丁ハ之ヲ開カスシテ往キテ木ヲ採リ歸テ祝ニ鎌一挺ヲ與フ。祝其鎌ヲ靈ニ供シテ其罪ヲ謝ス。コレヨリ社民ハ出テテ木ヲ伐ルコトヲ得。爾後數日ノ後各家「パバンカル(穗チ出サシム)ノ式ヲ行ヒ粟ノ成長シ速ニ穗ヲ出ス樣ニ禱ランコトヲ祈リ又チンブル・ト・ブラシ(諸チ植ユ)ト稱シ平地ヨリ移入シタル穀類又ハ野菜ヲ栽ユ。此ヨリ社民平地ニ出テテ交換ヲ爲スコトヲ得

(は)收穫祭　收穫ニ取掛ル前ニハトマラン・ウダル」ト稱シ各家ノ祝鬼茅ノ莖二本ヲ祭畑ニ立テ麻糸ヲ之ニ纏ヒ野獸ヤ鳥類ノ畑ニ侵入セサル樣ニ祈ル。ソレヨリ「ポキンサ」ト稱シ家祝畑ニ至リ粟穗五本ヲ採來リ屋内ニ於テタカラウスニ對シ明日ヨリ當ニ收穫ニ從フヘキ旨ヲ告ケ後之ヲ炊キ「キジン(飯ニ註)ヲ附シテタカラウス(天空)ニ獻ス　翌日ヨリ收穫ニ出ツ

(に)收穫後祭　祭期八日　第一日ハ「ルムクルカヌ」ト稱シ各家ニ於テ粟ノ小把三ツヲ作リ之ヲ合セテ此中ヨリ五本タケ穗ヲ抽キ『此ハ汝ノ物ナリ』トテタカラウスニ供シ後收穫シタル全粟ノ把數ヲ算シテ之ヲ倉庫ニ藏ス　第二日ハ「パタリコズ」ト稱シ各家ニ於テ男子一人竹釘一本ヲ作リテ之ヲ家ノ門口ノ左右ニ立テ後出テ『全社皆收穫ヲ終了シタリヤ。畑ヤ川ヤ山ニ行キ居ルモノハ無キヤ』ト問フ。コレヨリ禁忌ヲ始ム。午後ハ「クラマジュリサヌ」ト稱シ藁ヲ採リ之ヲタカラウスノ靈ニ供ス　第三日ハ「プラチュン」ト稱シ粟ヲ切リ之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ新粟ニ混シテ煮ル　第四日ハ「ツマリプ」ト稱シ粟ヲ搗キ而シテ靈ニ對シテ當ニ新酒ヲ作リ新餅ヲ作ルヘキ旨ヲ告ク　第五日ハ「クマバイ」ト稱シ始テ新粟ヲ以テ餅ヲ作リ又酒ヲ作ル　第六日ハ「パスクスクザヌ」ト稱シ各戸ヨリ餅、豚脂、酒ヲ持シ社外ノ休憩所ニ至リ猪、羌及敵ノ靈ニ施シ終テ全社ノ壯丁狩獵ニ赴ク　第七日ハ「パブルバオ」又ハ「ギ

チーサイトト稱シ各戸一人畑ニ赴ク。路ニ石ヲ立テ(番語「ジョかり」)之ニ饌脂ヲ投シソレヨリ畑ニ行キ又饌脂ヲ投シテ敵ノ靈ヲ呼フ　第八日ハ「キパカイシザザオ」ト稱シ番祝豚ヲ屠テ首棚ヲ祭ル。其黄昏ヨリ新年ト爲リ禁忌解ク

(四)芋ニ關スル祭祀　當社ニ於テ芋ノ祭祀ハ全社日ヲ同シクスルモ各家別々ニ其式ヲ行フ　先ツ芋ヲ植ユル初ニハ「プテナルマッ」ト稱シ芋神ヲ呼テ之ニ供饌シ種芋ニ對シ其成熟ヲ祈ル　次ニ芋ヲ採取スル初ニハ之ヲ貯藏スヘキ小屋ヲ作リソレヨリ四日目ニ「ポトポトポス」ト稱スル祈禱ヲ行ヒテ採取ニ着手ス。乾芋ヲ作リ終ルマテ他社トノ交通ヲ絶ス

第十二　ぶつる番ラムル社

(一)總說　當社ハ一社ニテ一ノ祭團ヲ爲ス。然レトモ各家其祭ヲ別ニシテ日ヲ一ニス。唯漁撈狩獵ノ如キヲ共同ニスルノミ　家祝ハ男女何レニテモヨシ。サレトモ多クハ家長タル者之ニ當ル

當社ニハ稗及芋ニ關スル祭祀ナシ、粟祭ニ付小林氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　祭期四日　第一日各家ニ於テ家祝其家ノ入口ニ於テ「ポーツ」ノ葉ト水トヲ容レタル茶碗ヲ前ニ置キ靈ヲ呼ヒ饌脂ヲ少シツツ切リテ葉ニ載セ之ニ右ノ食指ニテ水ヲカケツツ今將ニ播種ヲ行ハントス。願ハクハ雨ヲ降ラセ日ノ照ラス樣ニト祈ル　第二日乃至第四日每日同樣ノ祈禱ヲ行フ　其翌日ヨリ一同播種ニ赴キ五六日ニシテ了ル

(ろ)播種後祭　第一日ヨリ四日間全社民出テテ山ニ入リ魚藤又ハ薪ヲ採取ス　第五日ニ至リ一社擧ツテ溪ニ行キ右ノ魚藤ヲ以テ三日間漁撈ヲ爲ス。漁獵終了ノ夜餅(魚肉ヲ混シタル)ヲ作ル　翌日(卽第八日)ニ

社ノ勢力者（家内ニ病人若クハ姙婦アラサルコトヲ要ス）社外休憩所ニ赴キ鳥占ヲ行ヒ不吉ナレハ翌日更ニ行フ。吉ナレハ一社ノ壯丁作ノ餅ヲ持シテ狩獵ニ赴キ五六日ニシテ歸ル。社民留守セル者酒ヲ釀シ之ヲ待チ其歸社スルヤ所々ニ集合シテ宴ヲ開ク　翌日ヨリ三日間休憩シテ禁忌ヲ解ク

（は）收穫祭　第一日各家ノ家祀ハ家ノ人口ニ於テ家人ヲ整列セシメ其人數ニ應シテ少シツツ粟飯ヲ「ボーロツ」ノ葉ニ載セ之ヲ飯笊ノ上ニ竝ヘ更ニ少シツツ饌脂ヲ切リテ其葉ノ上ニ載セ祀シテ曰ク「明後日ヨリ粟ノ收穫ヲ行フ。故ニ病ニカカラヌ樣、風雨ニ逢ハヌ樣而シテ雷鳴モ亦ナキ樣」ト。ソレヨリ飯笊ヲ取テ一々家人ノ頭上ニ捧ケ畢テ之ヲ前ニ下シ分チテ各人ニ食ハシム　第二日ハ前日ノ如ク各家家人ヲ竝ヘ人數ニ應シテ「ダララク」（草名）ノ葉ヲ竝ヘ之ニ鍋ノ小破片ヲ一ツツ載セ「ハーツ」ト息ヲ吹掛ケ呼テ曰ク「此ハ汝ノ所有ナリ。之ヲ持シテ彼方ニ行ケ。我等ハ病ニ罹ラヌ樣、雷ニ打タレヌ樣」ト云ヒツツ各人ニ渡ス。右終リテ翌日ヨリ收穫ニ從事ス

（に）收穫後祭　收穫終リ粟ヲ穀倉ニ納ムルトキハ家祀新粟ノ一穗ヲ持シ穀倉ノ前ニ於テ祀シテ曰ク『今茲ニ之ヲ粟倉ニ藏ス。此粟ハ速ニ食盡スヘカラス。永ク緩々ト食スヘキモノナリ』ト。斯テ穀倉ニ納了レハ又祀シテ同一ノ語ヲ爲ス　ソレヨリ二三日間若キ男女ハ出テ薪ヲ採リ五六日間ハ全社酒ヲ釀シ餅ヲ作リ飲宴相娛ム。酒盡クレハ三日間休憩シテ禁忌ヲ解ク

第十三　ぶつる番マカザヤザヤ社

（一）總說　當社ハ一社ニテ一祭團ヲ成ス。番祀男女兩人アリ共同ノ祭事ヲ主ル。當社ニハ家祀ナシ。從テ各家祭ハ受持ノ巫アリテ之ヲ行フ

當社ニハ芋ニ關スル祭祀ナシ。粟及稗ニ關スル祭祀ノ儀式ハ左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニ於テ左ノ四アリ、播種ハ各戸別々ニ之ヲ始メ且其時ニ祭ヲ行フコトナシ

(い)播種後祭　全社播種ヲ了シタルトキハ日ヲ定メ共同シテ「トマラオジャル」ノ祭ヲ行フ　第一日ハ「キイジン」ト稱ス。男祝祭屋(現大頭人家ニ隣接スカザギザスト稱ス。蓋シ頭人家ノ舊屋ナルベシ)ニ入リ祖靈ニ饌ヲ供シ當ニ祭祀ヲ始ムヘキ旨ヲ告ク　第二日ハ「タボガヤ」ト稱ス。男祝祭屋ニ入リテ饌ヲ供シタカラウスノ靈ヲ祭ル　第三日ハタヌジュルムト稱ス。女祝祭屋ニ入リテ祈禱シ出テテ社外ノ井ヨリ水ヲ汲ミ來リ之ヲ以テ靈ヲ祭リ雨ヲ呼フ　第四日「タノウマク」ト稱ス。巫各家ヲ巡リ祈禱ヲ行ヒ家ノ入口ナル祭畑(番語「マヒタルマ」)ニ少シク粟種ヲ播ス　第五日ハ「ルマラツル」ト稱ス。男祝祭屋ニ於テ靈ヲ祭リ畑土ノ燒ケサル樣ニ祈ル　第六日ハ「マブソア」ノ祭ヲ行ヒ社民一同出獵ス

(ろ)出穗ノ祈禱　粟ガ既ニ長シ將ニ穗ヲ出サントスルトキニハ巫各戸ヲ巡リ其祭畑ニ就キ「パイル」(花チ附スル義)ノ祈禱ヲ行フ

(は)收穫祭　將ニ粟ヲ收穫セントスルトキニハ巫各家ヲ巡リキヤバチリカウ」ノ祈禱ヲ行ヒ後家族出テ收穫ヲ始ム

(に)收穫後祭　全社ノ收穫終了シタルトキハ日ヲ定メ共同シテ「マサルト」ヲ行フ　第一日ハ「キスアライ」ト稱シ男女二人ノ番祝祭屋ニ入リ饌ヲ供シ「タカラウス」(天笠)ヲ祭ル。此祭ヲ行ハサレハ落雷アルヘシト云フ　第二日ニ「クマラジュリサッ」ト稱シ各家ニ於テハ蓁ノ根株ヲ切テ棒トシ其兩端ニ粟穗二束ヲ附シテ擔ト爲シ之ヲ入口ノ屋根ノ上ニ置キタカフソスニ供ス。此レハサリムジ(鬼神)ノ靈ニ租穀トシテ與フルナリト云フ。第三日ハツマウリプト稱シ男祝祭屋ノ前庭ニテ豚ヲ屠リ屋内ニ入リ石

ヲ立テ竈ヲ作リ其上ニ平ナル石板ヲ置キ粟ノ粉ヲコネテ餅トシ之ヲ其ノ石ノ上ニ置キ下ヨリ火ヲ焚キテ之ヲ燒キ其ノ小片ヲ切リ取リ又豚ノ脂肉ヲ少シツツ取リ此二ツヲ屋内ノアチコチニ插込ミ以テ靈ヲ祭ル。餅及豚ノ殘ハ男覡之ヲ取ル　第四日「パスクスクザヌ」ト稱ス。頭人男覡ト共ニ酒一甕及餅（豚肉ヲ混ス）若干ヲ持シテ社口ノ「バコン」（首架ノ在ル所）ニ至リ獵神プラルヤヌヲ祭リ野獸ノ靈ヲ招徠ス。此日全社ノ番丁來集シ祭畢テ一同其酒餅ヲ盡ス　第五日ハ「マブソアヌ」ト稱シ出獵ス。先ツ鳥占ヲ行ヒ若凶ナレハ其日ハ中止ス。翌日再占シ吉ナレハ出獵ス。若シ獵獲ナケレハソレニテ止ムモ獵獲アルトキハ其翌日モ翌々日モ出獵シ獵獲全ク無キニ至テ止ム。但シ一回ニ野猪ノ三四頭モ得ルトキハ大獵ナリトシソレニテ止ムト云フ

(三)稗ニ關スル祭祀　家祭ナレトモ一社其日ヲ同クス

(い)收穫祭　各戶別々ニ「キャパアリガウ」ノ式ヲ行フ。巫各戶ニ就キ稗ノ豐收ヲ祈リ然ル後家族畑ニ出テ稗ヲ收穫ス　數日ノ後各戶「キソウンブラヌ」ト稱シ長キ粟餅ヲ作リ之ヲ其家族ノ數ニ應シテ分割シ各人其一片ヲ食ス。此日巫ニ粟餅二箇ヲ送テ謝ト爲ス

(ろ)收穫後祭　之ヲ「マスロマイ」ト云フ。此祭祀ハ一社之ヲ共同ニシ約五日ニ亘ル　第一日ハ「パバダバダイ」ト稱シ男女ノ兩覡祭屋（頭人家ノ舊屋）ニ至リ「パバダバダイ」「パバダバダイ」ト唱ヘツツ「ポオッ」（樹名）ノ葉ヲ四方ニ拋棄ツ　第二日パスウヌブラン（其意義審ナラス。但シ「ウヌブラン」ハ雀ニ似テ小キ茶色ナル鳥ナリト云ヘハ或ハ古昔此祭祀ヲ以テ鳥ヲ逐フノ祈禱ト爲シタルニ非サルカ）ト稱シ各家其畑ニ赴キ芋若干（豐作ナレハ多ク、凶作ナレハ五箇）ヲ取來リ煮テ之ヲ食ス　第三日ハ「キツルタラアラン」（全社ニテ豚ヲ屠ルノ義）ト稱シ一社共同シテ豚一頭ヲ買ヒ男覡ノ家ニテ之ヲ屠リ社民ニ分配シ女覡來テ「キチーロ」「キチョロ」ト云ヒツツ祈禱ヲ爲ス。其肉ハ一同之ヲ家ニ持歸テ食ス　第四日ハ「キツルマカツノツブ

ン（青年者ニテ豚ヲ屠ルノ義）ト稱シ全社未婚ノ青年男女（婚姻スルモ未ダ子アラサル者亦之ニ算ス）男祝ノ家ニ集リ一頭ノ豚ヲ屠リ之ヲ其家ニ於テ食盡ス　第五日ハ「パササッ・タラヤル」ト稱シ男祝祭屋ニ至リ流行病ヲ送出スノ祈禱ヲ行フ　第六日ハ「マプソアス」ト稱シ壯丁一同出獵ス

第十四　ぶつる番下パイワヌ社

(一)總說　當社ニハ六頭人家アリ各別ニ一祭團ヲ成ス各祭團ニハ男女各一人ノ祭祝アリテ祭事ヲ主ル家祭ニハ其家ノ女尊長家祝ト爲ル

當社ニハ芋ニ關スル祭祀ナシ而シテ粟及稗ノ祭祀ハ其式頗ル簡略ニシテ禁忌ノ日モ亦頗ル短シ左ニ之ヲ記ス

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニハ左ノ二祭アルノミ粟ノ播種前及收穫前ニハ祭祀ヲ行フコトナシ播種及收穫ハ各家任意ニ之ヲ始ム

(い)播種後祭　粟ノ播種ヲ終了シタルトキハ各家ニ於テ家祝其畑ニ至リ畑小屋ノ前ニ祖ヲ置キ之ニ饌脂饌皮ヲ陳シタカラウズノ靈ヲ呼テ之ニ供シ豐作ヲ祈ル之ヲ「パリシ・タ・コマ」（畑ニ祭ルノ義）ト云フ

(ろ)收穫後祭　全社收穫ヲ了シタルトキハ日ヲ期シテ「マサルト」ヲ行フ此期四日ニ亘ル　第一日黨祝種粟ニ對シテ「トマブラク・トワ・ブサム」（種粟ヲ受クルノ義）ノ祈禱ヲ行フ即チ男祝ハ「キゾン」（木製ノ匙）ヲ持シ甕ヨリ酒ヲ酌ミ十回程之ヲ種粟ニ灌キ又榕樹ノ葉ヲ以テ其上ニ置キ以テ來年ノ豐作ヲ祈ル爾後二日間各業ヲ休ミ酒ヲ酌ミ歌ヒ且ツ踊ル　第二日黨祝其家ニ於テ新粟ニ對シテ「マヌ・ホロホロン・パコ」ノ祈禱ヲ行フ新粟ノ穗ニ餅ト肉ヲ載セ指ニテ酒ヲ灌キ後粟藁ニ火ヲ點シ此新粟永ク盡キサル樣ニ祈ル　第三日黨祝頭人家ニ至リ其首棚ヨリ頭顱一箇ヲ取出シ之ニ對シテ酒ヲ灌クコト十回之

ニ饌ヲ投シテ「汝等ハ其親族朋友悉皆ヲ招キテ此所ニ來ラシメヨ」ト告ク。此日各戸壯丁ヲ招キテ其家族ニ對シ「イサナジャク」ノ祈禱ヲ行ヒテ其健康ヲ祈リ又家猪ニ對シテ「スマヌ・カサン」ノ祈禱ヲ行ヒ其テ其成長多子ヲ祈リ又檳榔樹ニ對シテ「スマヌ・ラウラウン」（「ラウラウン」ハ日蔭ノ義）ノ祈禱ヲ行ヒテ其枝葉ノ繁茂センコトヲ祈ル　第四日ハ「マブソソアッ」ノ式ヲ行ヒ後一同出獵ス

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニハ稗ニ付收穫前祭アルノミ　其收穫祭ハ之ヲ「クマナロマヤ」（稗ヲ食スル義）ト稱シ各頭人家ニ於テ黨祀畑ニ出テ稗一莖ヲ折來リテ之ヲ地上ニ立テ茶碗ニ酒ヲ滿テタルヲ持シ匙ヲ以テ之ヲ右ノ稗ニ振掛ケツツ其ノ豐收ヲ祈リ然ル後其ノ殘瀝ヲ飮ミ稗ハ家族ニテ之ヲ食ス。ソレヨリ一同稗ノ收穫ニ從フ。大抵一日ニシテ終ル　翌日「マブソアヌ」ヲ行ヒ一黨ノ壯丁出獵ス

第十五　ぶつる番カザヾザ社

(一)總說　當社ニ於テ各黨ハ其祭事ヲ別ニス。各黨ニハ男女各一人ノ番祀アリテ之ヲ主ル　又各家祭ニハ主ナル婦女家祀ト爲リテ之ニ當ル

當社ニハ茅ニ關スル祭祀ナシ。當社ノ粟及稗ニ關スル祭祀ハ頗ル嚴重ナリ。安原氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　ハ「バリシ・タ・トモゴト」ト云ヒ各戸別々ニ行フ　第一日各家ノ家祀ハ先ツ其家ノ大黑柱ノ前ニテ饌ヲ共シ之ヲ持シテ「バタバク」（祭畑ト譯ス。家ノ軒下ニ作ルニ三尺平方ノ小畑）ニ至リ種粟ノ小許ヲ播シ次ニ饌ヲ投シサグガラウス（天上ノ神）ト呼ヒ祝シテ曰ク「汝ノ種子ヲ茲ニ播ス。願クハ發芽セシメヨ」ト。此ノ祭畑ニ播シタル粟ハ發芽シテ實リタルトキハサタガラウスノ有ナリトシ收穫シタル後ハ之ヲ取テ屋根ニ

挿ス。サレトモ多クハ發芽セス。發芽スルトモ實ルコト稀ナリ。故ニ其ノ場合ニハ「ズマロジャス（後ニ出ツ）」ノ下ニ生ンタル粟ノ穗ヲ以テ之ニ代フ　翌早朝全家畑ニ赴キ播種ニ從フ。此日ハ如何ナルコトアリトモ家族外ノ者ト談話ヲ交フルコトヲ得ス。他人ヨリ如何ニ罵ラルルトモ例ヘハ盜、姦、弱等ノ惡語ヲ放タルルモ決シテ之ニ應セス。若シ之ヲ犯ストキハ粟ハ實ラストイフ

(ろ)播種後祭　粟ノ芽ガ生ヘテ二三寸ニ爲リタル頃各黨ニ於テハ其黨ノ番祝パリシ・タ・トマラロジャル（丙乙）ノ式ヲ行フ。其法祭屋（「マラカラヤ」ト稱ス。）（四本柱ノ小屋ナリ）ノ内ニ入リ饌ヲ具シ入口ニ出テ東ニ向ヒ饌ヲ捧シツツサチ、カラウスヲ呼ヒ『雨ヲ降ラセ、汝ノ種子ヲシテ成長セシメヨ』ト祈リテ歸レ　翌早朝社内ノ壯丁等出テ狩獵ヲ行フ。獲物アリタルトキハ直ニ一行中ヨリ人ヲ選ミ獵獲物ニ對シテ「キヤバーバン」ノ祈禱ヲ行フ（即チ獸ノ父モ母モ兄弟モ子モ亦伴ヒ來ル樣ニト祈ルナリ）。一行若シ獲物ナクシテ歸來セハ日暮各戸ニ於テ「ズマロジャヌ」ノ式ヲ行フ。但シ獲物アルトキハ翌日再ヒ狩獵ヲ爲ス。翌日モ亦獲物アレハ其翌日モ亦狩獵ヲ爲シ獲物ナキ迄繼續ストイフ　「ズマロジャヌ」ノ法下ノ如シ。各家ノ家長炬火ヲ持シ自己ノ畑ノ何レカニ赴キ二個ノ石ヲ据ヘ（其間約八寸チ隔ツ）其上ニ一ノ石板ヲ架シ其前方ノ地ニ竹筒ヲ二本挿シ酒ヲ盛キ其間ニ饌ヲ置キサタカラウスノ靈ヲ呼ヒ粟種ノ成長センコトヲ祈ル

(は)出穗ノ祈禱　粟ノ穗ノ出ルニ至レハ各家別々ニ、パリシ・タ・ババガル」ノ祈禱ヲ行フ。即チ日暮ニ各家祝ハ家ノ大黑柱及入口ニ於テ饌ヲ具シタカラウスヲ呼ヒ粟ノ盛ニ出穗スル樣ニ祈レ。此日家族ノ外出スルヲ忌ム

(に)收穫祭　粟ガ成熟シ收穫スヘキ時期ニ至レハ各戸別々ニ、パリシ・タ・キバオノ祭ヲ行ソ。即チ日暮各家ノ家祝畑ニ赴キ粟二三穗ヲ摘取リ歸リ大黑柱、入口及寢台ノ三箇所ニ於テ饌ヲ具シサタカラ

ウスニ對シ明日ヨリ將ニ收穫ヲ爲サントスル旨ヲ告ケ其粟穗ヲ粟倉ノ屋根裏ニ積ミ翌日ヨリ家族一同粟摘ニ出ツ

（ほ）收穫後祭　全社粟ノ收穫ヲ終了シタルトキハ頭人其部下ト協議シ「マサルト」ヲ行フヘキ日ヲ定ム。各戸豫メ酒ヲ釀シ祭前一日豚ヲ屠ル　祭祀ハ五日ニ亘ル。祭祀中他社ノ者ノ來遊スルハ差支ナキモ當社ノ者ガ外社ニ出ツルコトヲ禁忌ス

第一日「キイジン」ノ式ヲ行フ。日暮男祝祭屋ニ入リ饌ヲ作リ之ヲ持シテ屋ノ入口ニ至リ東ニ向テ投饗シサタカラウスヲ呼ヒ古例ニ從テ飯ヲ作ル（番語ニテ「パイシイジンブナアツ」）ノ旨ヲ告ケテ歸宅ス。助手（番語「クシャー」）來リ祝ヲ迎ヘ頭人家ニ至レハ部下ノ番丁等既ニ酒肉ヲ携ヘテ集ルアリ。頭人酒一甕ヲ番祝ニ與ヘテ謝ト爲ス。其夜ハ一同頭人家ノ前庭ニ於テ飲宴歡ヲ盡シ夜半頃解散ス

第二日「マラジ、リサヌ」ノ式ヲ行フ。男祝昨日ノ如ク祭場ニ至リ饌ヲ具シサタカラウスヲ呼ヒ改年ノ古例ニ從ヒテ藜ヲ粟ニ混シテ煮ルヘキ旨ヲ告ケテ歸ル。此日夕刻ヨリ頭人家ニ集リ飲宴ス

第三日ハ「キバオバオ」ノ式ヲ行フ。番祝新粟ノ穗五六本ツツ（赤苧ノ根ヲ以テ縛ス麻ハ禁忌ナリ）束ネテ二把ヲ作リ之ニ藜ノ枝一本ヲ突貫キ一擔ト爲ス。之ヲ「ポパチパチア・タカラウス」（天神ノ荷物）ト云フ。又番祝ノ妻ハ新粟ヲ以テ飯ヲ煮之ヲ以テ「チナブ」（中ニ肉類ヲ包ム餅）ヲ作リ夕祭屋ニ入リ饌（樹葉ノ上ニ「チナブ」ヲ少シツツ手切リテ置ク）ヲ具シ入口ニ出テ之ヲ東ニ向テ投棄シツツサタカラウス（天神）ヲ呼ヒ『改年ノ古例ニ從ヒテ汝サタカラウスニ與ヘテ擔行カシム』ト告ケ其粟穗ノ荷ヲ祭屋ノ屋根ノ上ニ置テ歸ル

第四日「ポラチニラチニン」ノ式ヲ行フ。此日各戸粟ニ芋ノ葉ヲ切込ミテ飯ヲ作ル。夜ニ入リテ各戸一人（又ハ數人）ノ男子「ポート」ノ葉數枚（以テ饌數ト爲スナリ）ヲ採來リ之ヲ右ノ粟飯小量ニ添ヘテ番祝ノ家ニ送ル。ソレヨ

リ頭人家ニ至リテ飲宴ス。或ハ親戚知友ヲ訪ヒテ來遊ス

第五日午前二三時頃番祀ハ其家族中又ハ親族中ノ婦女ニ命シ助手ヲ從ヘ前夜社民ヨリ送リタル粟飯及饌菓(樹葉)ヲ持シテ部外何レカノ地ニ至リ粟莖ニ火ヲ點シ東ニ向ヒ饌ヲ投シ火ヲ右手ニ振リツツサタカラウスニ對シ『古例ニ從ヒ粟飯ニ野菜ヲ混シタリ』ト告ケテ歸ル

同日夕刻ニ至リ「ツマリプ」ノ式ヲ行フ。日暮社内各戸ノ婦女ハ皆外ニ出テ男子ノミ屋内ニ留リ一人粟ノ火把ヲ點シサタカラウスヲ呼ヒ饌ヲ投シ曰ク「古例ニ遵ヒテ「シキジ」(粟ノ叢)ヲ燒ク、幸ニ咎ムルコト勿レ」ト。終テ婦女ハ家ニ入ル　右ノ各戸ニ於ケル祈禱ガ終リタル頃番祀ハ祭屋ニ赴キ同一ノ祈禱ヲ行フ。此日社中ノ各戸ハ又「ラデカス」(各家ノ首標)ヲ祭ル。之ヲ「パリシ・タ・アラ」(敵ヲ祭ル)ト云フ。其法家祖先ヅ大黒柱ニ對シ饌(「ポート」ノ葉及饌脂飯骨)ヲ供シソレヨリ之ヲ持シ入口ヨリ外ニ向テ投ケ「アイナノデカ」ト唱フ

豐作ノ年ニハ頭人祭祀五日中何レカノ日ヲ選ミ社内ノ壯丁ヲ集メテ飲宴シ其際大ナル粟ノ苗ヲ作リ之ヲ擔ハシメ其最力強キ者ニ之ヲ與フト云フ

(は)種粟ニ關スル祈禱　「マサルト」ノ後數日ヲ經テ各戸別々ニ此祈禱ヲ行フ。其式左ノ如シ　日暮其家ノ家祝ハ先ツ大黒柱ニ對シ饌ヲ供シタカラウスヲ呼テ「汝ノ「ブサム」(粟ノ種子)ヲ發芽セシメヨ」ト祈リ次ニ寢室ノ靈棚及倉庫ノ外側ニ造著ケタル「ピルピル」(棚ノ如キ箱ニシテ種粟ヤ種稗ヲ貯フ　ぶつる番ノ諸社ハ概シテ之ヲ作ル)ニ對シテ次第ニ同一ノ祈禱ヲ行フ

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニ於テ之ニ關シテハ唯收穫後ニ於テ行フモノアルノミ之ヲ「パリシ・タ・ロマイ」又ハ「バダバダイ」ト云フ　稗ヲ收穫シタル後頭人番祀ニ命シテ此祈禱ヲ行ハシム　番祀日暮ニ祭屋ニ至リ饌ヲ具シ屋内及入口ノ兩所ニ於テ東ニ向ヒサルコマン(黍ヲ守護スル祖神)ノ靈ヲ呼ヒ「今古

例ニ依テ「パバダバダイ」(別離セシムル義ナレトモココニテハ意味不明)ヲ行フ。願クハ草原ニ入ルモ畑ニ出ツルモ薪ヲ取ルモ災アラシムル勿レ』ト宣ヘテ歸來ス

第十六　同番カザザラス社

(一)總說　當社ハスルジャ部落ヲ除キ他ノ四部落合シテ一祭團ヲ成スト雖モ或祭祀ニ限リ各黨ヲ同クシテ別々ニ行フ。其同祭祀ニ於テハ一人ノ女祝之ヲ主宰シ祭屋ハパッグラウ家ノ住屋トス家祭ノ場合ニハ男女ニ拘ラス家人中祭事ニ通スル者其家祝ト爲ル　本社ノ祭祀ニ付小林氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)荒蕪開墾及種粟乾シノ式　播種前數月(概シテ新曆十二月ヨリ翌年ノ一月ニ亘ル)ニ於テ各戶任意ニ日ヲ定メ家祝親シク畑ニ赴キ鎌ニテ草ヲ刈ル狀ヲ爲ス。之ニ付何等ノ祈禱ナシ。此ヨリ各家ハ草刈ニ從フ　草刈ヲ終ヘタルトキハ各家祝ハ又日ヲ撰ヒ畑ニ赴キ手鍬ヲ以テ開墾ノ形式ヲ行フ。之ニ付別段祈禱ナシ。之ヨリ全家開墾ニ從フ　播種五六日前各家其種粟ヲ日ニ乾ス。之ニ付テハ別ニ式ナキモ全社成ルヘク其日ヲ一ニス　上記三式ヲ行フ日ハ其禁忌次ニ揭クル播種祭ノ時ニ同シ

(ろ)播種祭　第一日夜ニ至リ各戶ノ家祝ハ前庭ノ祭畑ニ少許ノ粟ヲ播種シ竹盃ニ水ヲ容レタルヲ持シ之ヲ其上ニ灌ク。之ヲ「ポシトグト」ト云フ　第二日家人全部畑ニ赴キテ播種ス。主祭者ガ畑ヘ往ク途中及其祈禱中ハ家族ハ他人ト語ヲ交フルコトヲ得ス。又此ノ兩日中火其他ノ物品ヲ他家ノ者ニ與フルコトヲ得ス。又他人ノ作リタル食物、米及米酒ヲ飲食スルコトヲ得サルモノトス

(は)播種後祭　祭祀八日間其次第左ノ如シ

第一日「スモパダイ」(稻ヲ嫌フ義、粟神ハ稻ヲ忌ムガ故ニ)ノ式ヲ行フ、其法女祝ハ社内ノ各戸ヨリ獸脂ヲ徴シ祭屋ニ赴キ前房ノ七間ニ於テ粟ノ葉ヲ採リ之ヲ六片ニ切リ俎上ニ排列シ其各片上ニ獸脂獸骨ヲ載セ祝シテ曰ク既ニ稻ヲ禁ス。願クハ將來粟ノ收穫多キ樣ニ」ト、了テ先ツ二片ノ饌ヲ取テ戸外ニ投シ次ニ二片ヲ取テ大黑柱ニ供ヘ次ニ二片ヲ取テ戸外ニ出テ之ヲ軒上ニ供ス

第二日「トマラン・ウダリ」(苗ヲ植ユルノ義)ト稱ス。第一日ノ如ク女祝祭屋ニ入リ供饌シテ雨乞ノ祈禱ヲ行フ

第三日「ポシトクト」ト稱シ女祝第一日ノ如ク祭屋ニ入リテ供饌シ祈禱ヲ行フ但シ各戸ヨリ獸脂ヲ集ムルコトナシ

第四日「イテヌノジ、アム」(此義不詳)ト稱シ女祝ハ第一日ノ如ク祭屋ニ入リテ祈禱シ終テ饌(一片ノ粟ニ挾ミ脂肉一片ツイナ殼セ之ニ粟ノ葉ヲ捲キテ綴ヘタルモノ)ヲ採リタル飯笊ト水汲筒ヲ手ニシ獸皮ヲ頭髮ノ中ニ置シ(之ヲ襟ニ挿スハ各ニ一本手ニ持シ在リ頭骨二本ニ持シテ之テ擦擦シタルモノナヤリ膀ハ飯ノ内ニ入レタ)ソレヨリ墨鴉ニテトカヤマ(ニはかまと、ドマヤ間部落ノ中間ニ在ル)ニ至リ飯黑トリ桑ノ葉二片ヲ取出シ之ヲ上流ノ方ニ投シ再ヒ二片ヲ取テ下流ノ方ニ投シ後竹筒ニ水ヲ汲ミ歸リタル後飯ト其ニ之ヲ持シテ祭屋ニ歸リ再ヒ靈ヲ祭リ「播種了リテ禁忌解ケタリ」ト祝ス其汲來リタル水ニテ女祝粟飯ヲ炊キテ食ス

第五日「スモクヤンヤ」(雲氣ヲ拂フ義)ト稱シ女祝祭屋ニ赴キ第一日ノ如ク祈禱ヲ行ヒタル後祭畑内ノ舊土ヲ取テ之ヲ棄ツ

第六日「キバサウ」ト稱シ女祝祭屋ニ入リテ祈禱ヲ行フコト第一日ノ如シ。此日各戸薪ヲ女祝ニ送ル

第七日「ハルマラル」ト稱シ女祝祭屋ニ入リ祈禱ヲ行フコト第一日ノ如シ 此夕成年ノ男子ハ異性ノ友(番語「スズ」)ノ家ニ薪一把又ハ數把ヲ持參ス。社人此日ニ限リ社外ニ出ルコトヲ禁忌ス

第八日「マブソゾイ」ト稱シ各黨ノ男祝（本社ニハ女祝ハ通シテ一人ナルモ男祝ハ各黨ニ之アリ）祭屋ニ入リ祈禱ヲ行ヒ了リテ全社ノ壯丁合同シテ狩獵ニ赴ク。獲物ナクトモ其日ニ歸社ス

(は)發芽ノ祈禱　粟ノ成長速カナラサルトキハ各戶任意ニ「パポボ」ノ祈禱ヲ行フ。早朝家祝ハ饌（豚骨、豚脂）及小サキ竹筒ニ水ヲ入レタルヲ持シ畑ニ赴キ適宜ノ場所ニテタカラウスノ靈ヲ呼ヒ之ニ供シ畑ニ少シク水ヲ灌キテ粟ノ速ニ成長センコトヲ祈リテ歸ル

(に)收穫祭　第一日一同家ニ在リテ謹愼ス。小粒ノ粟餠ヲ作ル。夕刻巫來リ之ヲ以テタカラウスヲ祭リ明朝收穫ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク。之ヲ「キパテリカウ」ト云フ　第二日早朝家祝ハ畑ニ赴キ適宜ノ場所ニテタカラウスノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ之ヨリ家人一同收穫ニ從フ。此日畑ニ於テ他人ト言語ヲ交フルコトヲ禁忌ス

(ほ)種粟乾シ及納倉ノ式　各家ニ於テ收穫ヲ了シタルトキハ其翌日早朝家祝ハ大黑柱ノ下ニ於テタカラウスヲ呼ヒ饌ヲ供シ又「ルマシ・ト・ブサム」（種粟ヲ乾ス義）ノ祈禱ヲ行ヒソレヨリ家人等收穫シタル新粟ヲ日ニ乾ス。此日家人ハ他家ノ者ト語ヲ交ヘス　其翌日各家「ツルムクルカ」（納倉祭）ヲ行フ　早朝家祝穀倉ニ對シ祈禱ヲ爲シソレヨリ乾シタル粟ヲ納ム

(へ)收穫後祭　頭人豫メ番祝ト協議シ月末又ハ八月初ヨリ之ヲ始ム。祭祀ニ先チテ全社酒ヲ釀ス　祭祀八日其次第左ノ如シ

第一日日暮女祝ハ祭屋ニ赴キ奧室ニ於テタカラウスニ對シ饌（「ポート」ノ葉豚骨及餠皮）ヲ供ヘ「マサルト」ノ始ムヘキ旨ヲ告ク。之ヲ「クマシサリム」ト云フ。此日社民ハ粟餠ヲ作リ酒ヲ飮ム。巫各戶ヲ巡リ其餠ヲ以テ祈禱ヲ行フ　第二日社中ノ巫ハ粟穗三本ツツヲ葛藤ニテ縛シタルヲ持チ未明ヨリ其受持ノ各家

ヲ巡リ『マサルトアガ・タカラウス（上天ヨ。粟祭来レリ）』ト祈リツツ内房ノ壁ニ粟ノ穗ヲ掛ク。此日新粟ヲ炊キ他ノ穀物ト混炊ス。之ヲ「クマラジュリサス」ト稱ス　第三日ハ「イスジャム」ト稱ス。朝飯ニ各戸粟ノ中ニ芋ノ葉ヲ混シタルモノヲ炊ク。女タル者先ヅ一人之ヲ食シ後家人一同ニテ食ス　第四日ハ「キリナバタヤヌト稱ス。各家粟ノミニテ飯ヲ炊キ之ヲ食ス　第五日ハ「ハアルプ」ト稱ス。社内各黨ノ男祝弓矢ヲ持シ未明ニ頭人家ノ舊屋ニ赴キ前庭ニテ弓ヲ引ク。但シ矢ハ放タス　第六日ハ「ムプリ」ト稱ス。社内ノ巫ハ各酒一甕粟餅若干ヲ作ル。各家ハ粟一把ツツヲ其受持ノ巫ノ家ニ持參ス。巫ハ奥室ニ於テ靈ヲ祭リ其饌ヲ庭前ニ捨テ再ヒ奥室ニ入リテ『キソプバオガ・タカラウス』ト云ヒツツ瓢卜ヲ行フ。了テ酒及餅ヲ以テ社民ニ饗ス　第七日ハ各人出テテ社内ノ道路修繕及掃除ヲ行フ之ヲ「マサタ」ト云フ　第八日ハ「マブソア」ト稱ス。昔時ハ狩獵ニ赴キタレトモ現時ハ銃器ナキカ故ニ仕事始メトス

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニハ左ノ二祭アリ

(い)收穫祭　「キパパネリガツ」ト稱シ夕刻家祝ハ奥室ノ大黒柱ノ下ニテ饌ヲ供ス其式ハ粟ノ場合ニ同シ　翌日早朝ヨリ家人全部畑ニ赴キ收穫ヲ行フ。收穫ハ此ノ一日中ニ終了ス

(ろ)收穫後祭　第一日ハ「ルマシ・タ・ボサム・ナ・ロマイ（稗種ヲ乾スノ式）」ト稱シ早朝家祝ハ奥室ニタカラウスノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ後新稗ヲ日光ニ乾ス　第二日ハ「クマナルマヤス」ト稱シ早朝ヨリ收穫セル稗ヲ算ヘテ穀倉ニ納ム。此際ニ限リ他人ト語ヲ交フルコトヲ禁忌ス。收穫シタル把數多クシテ一日中ニ納ムルコト能ハサルトキハ其禁忌ハ初日ノミニテ足ル

五年祭ノ前祭ヲ行ヒタル年ニ限リ稗ヲ穀倉ニ納メタル後尚下ノ祭祀ヲ行フ即チ　當社ノ主祭タル女祝ハ未明ニ祭屋タルバツグラツ家ニ赴キ各黨ノ男祝ハ其頭人家ニ赴キ各其奥室ニ於テ祈禱ノ

行フ。先ツ桑ノ葉ヲ摘切リ。゜゜゜獣ニ排列シ一々ソレニ饌ヲ載セ食指ニテ盃酒ノ振掛ケ次ニ其二片ヲ前房ノ方ヘ、他ノ二片ヲ奥室ニ投シ殘リノ二片ヲ持シ室外ニ出テテ屋根ノ上ニ投ケ　此日巫ハ各其自宅ノ奥室ニ於テ家人ヲ集メ桑ヲ摘切リ饌ヲ載セ之ニ粟餅ヲ少シツツ切リテ載セ（[illegible]）リカウ・シキルマヤマ・シカ・ナゴアイ」ト唱ヘツツ之ヲ一々其家人ノ頭上ニ載セ次ニ室外ニ出テ入口ノ屋根上ノ左右ニ各三片ツツ（此饌ニハ粟餅ナシ）ヲ置キソレヨリ室内ニ入リ「食ヘ」ト言フ。家人等ハ各頭上ノ饌ヲ取リテ粟餅ト共ニ食ス　各家ニ於テ家祀ノ行フ所亦之ニ同シ　此日巫祀及勇士（曾テ馘首シタルコトアル者）ハ各頭人家ニ集リ歌踊ヲ行ヒ未タ馘首セサル者ハ出草ス。他ノ者ハ平地ニ出ツルコトヲ禁忌ス

(四)芋ニ關スル祭祀　ハ當社ニ之ナシ。唯開墾植付及燻製ノ場合ニ於テ禁忌スルコトアルノミ左ノ如シ

(い)開墾及植付ノ禁忌　芋畑ヲ作ルガ爲ニ休耕地ノ草ヲ刈ル時、開墾スル時及植付ヲ爲ス時（但シ最初芋種三四萬ナ植ユルマテ）他人トノ交話ヲ禁ス。別ニ式ナシ

(ろ)乾芋ノ燻製及納倉ノ式　燻竈ヲ開キタル時家族ノ一人（何人ニテモヨシ）其前ニ芋二本ヲ立テ（以テ神靈ニ擬スルナル）シ）桑ノ葉ヲ摘切リテ之ニ供シ後芋ヲ竈ニ掛ク。之ヲ「バリシヤツマハ」（燻製祭ノ義）ト云フ。此日最初ノ乾芋ノ出來上ルマテ約一晝夜間家族ハ他家ノ者ト交通交話ヲ禁ス　乾芋全部出來上リタルトキハ自家ニ持歸リ倉庫ノ内ニ藏ス。之ヲ「スマノアラジ」ト云フ。此日ノ禁忌亦前ニ同シ

第十七　同番クワルス社

(一)總說　當社ハ一社ニテ一祭團ヲ成シ番祀男女各一人アリ。粟ニ關スル共同祭祀ハ女祀之ヲ主リ唯其内ニテ狩獵ニ關スルモノノミ男祀之ヲ主ル、　祭祀中家祭ニ屬スルモノハ家祀之ヲ主ル。家祀

ハ男女ヲ問ハス其家族中祭事ニ通スル者之ニ當ル。當社ニハ稗及芋ニ關スル祭祀ナシ。左ニ安原氏ノ調査シタル粟ノ祭祀ニ付キ説述ス

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)開墾祭　「イサチャン」ト云フ。毎年十一月頃開墾スヘキ地ニ於テ約三四坪ノ雜木ヲ伐拂ヒ「タカラウス」ノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ開墾スヘキ旨ヲ告ケテ其保庇ヲ祈ル

(ろ)播種祭　三月頃各家ニ於テ其家祝饌骨饌皮及餅片ヲ左手ニ持シ小刀ヲ以テ之ヲ削リテ木ノ葉ニ盛リ「アリリン」(畑祭)ニ供シ此所ニ約二三粒ノ粟種ヲ播ス。其日ヨリ一家播種ニ從フ二三日ノ後各家祝再祭畑ニ就キ祈ヲ行ヒ其粟ヲシテ林ノ如ク繁ラシメヨト祝ス

(は)播種後祭　「トマラオジャル」ト稱ス。粟ノ芽五六寸ニ伸ヒタル頃女祝ハ社ノ東北ナリリダヤト云フ所ヨリ溪水ヲ汲來リ祭屋ニ入リ「タカラウス」ノ神ニ供シ旱魃ナク且ツ暴風ナキ樣ニ祈ル

(に)收穫祭　「キパテレンガウ」ト稱シ女祝祭屋ニ於テ饌ヲ具シ「タカラウス」ノ呼ヒ當ニ收穫ヲ行フヘキ旨ヲ告ク。此日社民一同酒及餅ヲ作テ休業シ翌日ヨリ收穫ニ從フ

(ほ)收穫後祭　六日間ニ亘ル。第一日ハ「マシサリム」ト稱ス。各戸豚ヲ屠リ酒及餅ヲ作リ且四日間ノ糧食ヲ用意ス。第二日ハ「プリヤッツン」ト稱ス。各戸新粟ノ酒ヲ祖靈ニ供シ謝意ヲ表ス。而シテ「サマタ」(内地ノちさ菜)ヲ粟ニ混シテ炊ク。此日一同業ヲ休ミ宴ヲ催ス。第三日ハ「マリプ」ト稱シ男祝粟餅ト豚肉ヲ左手ニ弓矢ヲ右ニ持シ屋外ニ出テ穀莖(サツムル)其他ノ諸靈ヲ招キ屋内ニ入リ粟餅及豚肉ヲ籠ニ[illegible]ケ菅葉ヲ焚キテ之ヲ燻ヘ後小ク切テ諸靈ニ供ス。了テ宴ヲ開ク。青年男女歌舞シ[illegible]ヲ奉ス[illegible]日頭人宅ニ於テ祖靈ヲ祭リ再飲宴歌踊ヲ行フ　第五日ヨリナバダヤト稱シ各戸男女別々ニ

作リ各別々ニ之ヲ食ス。若シ女ニシテ男ノ作リタル餅ヲ食スルトキハ疾ヲ得ベシト云フ。此日前日ノ如ク休業ス 第六日ハ「エデダ・スマノバサ」ト稱ス。耕地ニ出テ糧食ヲ採收ス 第七日ハ「マ[illegible]ソ」ト稱シ狩獵ニ赴ク 數日ノ後「マサク」ト稱シ道路ヲ修繕ス

第十八　同番カヒヤカ社

(一)總説　當社ニハジヴロル、ラリヤバノ兩黨アリ各一祭團ヲ爲ス。然レトモ祭日ハ兩黨協議シ其日ヲ一セリ。當社頭人家ニハ祭屋アリジヴロル家ハタルリバク家（祖先サウマイノ住居）ラリヤバヌ家ハタロアジイ家（祖先サリジアノ住居）ヲ以テ之ニ充ツ。各祭團ニハ男女ノ兩祝アリ　農耕ニ關スル祭祀ハ女祝專ラ之ニ當リ男祝ハ其中ノ狩獵等ニ關スルモノヲ主ル　家祭ハ其家ヲ受持テル巫之ヲ行フモノト各家ニ於テ祭專ニ通スル女之ヲ主ルモノトアリ　左ニ小林氏ガ當社ニ於テ調査シタル所ヲ記ス

(二)農ニ關スル祭祀

(い)播種祭　黨祭ニシテ二日ニ亘ル　今ジヴロル黨ニ行ハルルモノヲ記ス　第一日ハスモバラウ（取去ル意）ト稱ス。男祝一名頭人家ラリヤバス家（此家ハ古代男祝タル家）ニ赴キ奥室大黑柱ノ下ニ於テ饌ヲ具シタカラウス」ヲ祭リ風雨順ニ播種ニ好良ナル樣、猪鹿其他畑ノ害ヲ爲スモノヲ取除ク樣ニ祈ル　第二日ハホツボル」（煙ヲ出ス義）ト稱ス。男女ノ兩祝、祭饌祭器ヲ具シ祭屋（舊頭人家タルリバク家ノ舊屋）ニ入リ奥室ニテ薪ヲ焚キ煙昇レハ農作物ノ靈來レルモノト爲シ男祝ハ樹葉ヲ摘切リ之ニ饌骨饌皮ヲ加ヘサウマイ、サリムドノ二神ヲ呼ヒテ之ニ供シ其全社民ヲ保護シ我等ニ善良ナル社民ト農作物ノ幸ヲ與ヘンコトヲ祈ル、畢テ其饌ヲ取リ出テ前庭ニ投棄ス。斯クスルコト五回ニシテ止ム。ソレヨリ女祝瓢卜ヲ行ヒテ粟ノ豐凶ヲ卜ス若了テ全社播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　粟ノ芽ガ二三寸ニ爲リタルトキ「トヤラ・ウダリ」ノ祭祀ヲ行フ。社祭ニシテ一日間ニ了ル　此日主タル男覡大頭人ジヤロル家ヨリ粟十四把、豚半身ノ皮及頭部ノ皮ヲマツチ箱大ニ細切シタルモノ三十片、芋及乾芋若干、樹豆一笊(徑約一尺ノ籠)ヲ受取リ、臼、杵、鍋等ノ祭器ヲ借受ケ女覡及助手ト共ニ祭屋ニ赴ク。此時男覡ノ親族二三人右ノ祭饌ヲ入レタル「ジ・バヤ」(負網袋)及諸器具ヲ持シテ之ニ從フ。祭屋ニ至ルヤ女覡先ツ屋前ノ祭畑ヲ祭リ奧室ニ入リ俎上ニ持參セル饌ヲ陳シ「タカラウス」ヲ唱ヘ呼テ「寒冷、旱魃或ハ害蟲ノ爲メニ播種セル粟ノ成長セサルガ如キコトナキ樣、盛ニ成長シ豐熟シテ他人ノ羨ム樣ニ爲ルハク」祈リソレヨリ饌ノ一部ヲ取テ前庭ニ出テテ之ヲ投シ「此食ヲ與フルガ故ニ耕作ヲ害スル惡靈ハ去レ」ト言ヒ室内ニ歸ル再ヒ饌ノ取リ前庭ニ出テ同一ノ事ヲ數回反復シ後室内ニ歸リテ坐ス。助手乃立チテ俎ト「ロブン」(祭祀用竹筒)ヲ取テ大黑柱ニ掛ク

(は)收穫祭「キパカイシシャジャウ」(意義審ナラス)ト稱シ各戸別々ニ行フ。但シ全社其日ヲ一ニス　各家族ハ其奧室ニ於テ竹筒ヲ立テ其前ニ俎ヲ置キ家人全部ヲ集メ俎ノ上ニ饌ヲ陳シ祝シテ「今年ニ收穫セントス。願クハ少シ採リテモ多クアル樣、少シ食シテモ滿腹スル樣アラシメヨ、而シテ粟ヲ多ク收穫セシメヨ、然スレハ「マサルト」ニハ必ス酒餅等ヲ多ク擔行キテ供スヘシ」ト曰ヒ饌ヲ二片ヅヽ各家人ノ頭ニ載ス　翌日ヨリ全社收穫ニ出ツ

(ろ)收穫後祭　全社收穫ヲ了スルヤ各戸酒ヲ釀シ餅ヲ作ル、酒出來レハ全社合同ニ「マサルト」ヲ行フ。其次第左ノ如シ

第一日、「クマシサリム」ト稱ス。男覡二名成年男子二三十名ト共ニ午後ヨリ饌具、酒、餅及粟一把ヲ持チテアラリサス(社ノ東ナル森林)ニ赴キ一名ノ祝饌ヲ投シツツ「タカラウス」ヲ呼ヒ次年ノ收穫ヲ多クセヨト

祈リ酒及餅ヲ供シ畢テ成年者ハ之ヲ食ス。ソレヨリ大頭人家ジグルル家ニ行キテ豚脂ヲ受ケリブリブア、家(祖神サシムノ家趾)ニ赴キ奥室ニテ饌ヲ供シ再「タカラウス」ヲ呼ヒ次ノ收穫ヲ多カラセヨト祈リ夫レヨリジグルル家ニ歸リ酒宴ヲ開ク　此祈禱了レハ社内ノ衆巫ハ各其受持ノ家ヲ巡リ其後室ニ於テ饌ヲ供ヘ「パレマスジアガ・イチメ」ト唱フ。此祈禱ヲ了レハ新粟ニ他ノ食物ヲ混シテ炊キ又ハ社外ニ出ルコトヲ得

第二日「クマリポアヌ」ト稱ス、巫ハ其受持ノ各戸ヲ廻リ粟莖(長約五寸)ノ兩端ニ粟ノ穗少許ヲ「ビロア」(草)ニテ結着ケテ「ブナヰヮク」(擔荷)ヲ作リ之ヲ各家ノ入口ノ屋根ニ一箇ツツヲ置ク。其時祝シテ「タカラウス」、此ノ如ク汝ニ多ク擔ハセテ歸ラシムニ因リ來年モ亦豐作ヲ與ヘヨ」ト曰フ。而シテ碗ニ酒ヲ酌キ飯匙ニテ少シツツ數回之ヲ「ブナヰヮク」ニ掛ケ了テ其「ブナヰヮク」ヲ少シ上方ニ押上ク　此日各家粟ニ大角豆ノ葉ヲ混シ飯ニ炊キ婦女ノミニテ食ス

第三日ハ「パアルバ」(客ナモテナスノ義)ト稱ス。巫ハ各戸ヲ訪ヒ其家ノ男子ト共ニ粟莖少許ヲ庭前ニ持出シ饌ヲ供シ「畑ニ行クモ木ヲ伐ルモ草ヲ刈ルモ刀又ハ鎌ヲ用ユルモ或ハ遠ク外出スルモ可ナリ。此等一切ノ禁忌ハ解ケタリ」ト唱フ。此粟莖ハ男子之ヲ家ノ右側ニ持行キ火ヲ點シテ燒捨ツ

第四日「ツムプリユ」ト稱ス。早朝各家ニ於テ家祝粟一把、藜ノ實一碗(徑七八寸位)又ハ豚脂一片ヲ持シ受持ノ巫ノ家ニ持行キ之ニ與ヘテ謝ト爲ス。此時巫ハ奥室ニテ瓢卜ヲ行ヒ來年ノ豐凶ヲトシ了テ酒餅ヲ以テ各人ヲ饗ス

第五日「キサナアラク」(見ト爲ルノ義)ト稱ス。巫ハ此日夕ヨリ各戸ヲ訪ヒ奥室ニテナクマ「テ」ノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ祝シテ「今「キサナアラク」ノ祈禱ヲ行フ。粟祭ハ終了セリ。故ニ爾後開墾ヲ爲スモ草刈ヲ爲ス

モ伐木ヲ爲スモ禁忌スル所ナシ」ト唱ヘ餞ノ一部ヲ取リ屋外ニ出テ同一ノ語ヲ爲ス。斯クテ屋ノ内外ニテ祈禱スルコト三回ニシテ止ム　此日粟餅ニテ人形ヲ作ル

第六日「マブソソス」ト稱ス。早朝兩黨ノ男祝全社ノ壯丁ト共ニスクスクザ（[illegible]）ニ赴キ餞ヲ供シツツ『今ヨリ狩獵ニ赴ク。猪鹿羊羌等皆來レ』ト唱ヘ了テ一同狩獵ニ赴ク

（三）稗ニ關スル祭祀

（い）收穫祭　早朝各黨ノ女祝其頭人家ニ赴キ奥室ニテ「タカラウス」ヲ呼ヒ餞ヲ投シ「稗正ニ熟セリ之ヨリ收穫ヲ行フヘシ。故ニ伐木除草其他ノ禁忌ヲ犯スコトナカレ」ト告ケ尚此旨ヲ黨民ニ通知ス。之ヲ「ツンプス」（禁スル義）ト云フ。夕刻ニ社内ノ巫ハ各其受持ノ家ヲ廻リ同樣ノ祈禱ヲ行フ之ヲ「ハカイシジャウ」ト云フ　翌朝ヨリ全社稗ノ收穫ニ從フ

（ろ）收穫後祭　祭期兩日　第一日「キサナアラク」ト稱ス。早朝ヨリ巫ハ各家ヲ廻リ其奥室ニ於テ餞ヲ投シ「タカラウス」ヲ呼ヒ稗ノ收穫ハ了リタリ此ヨリ伐木除草スルモ禁忌ニ非スト告ケ餞ヲ取テ室外ニ出テ同樣ニ唱ヘテ之ヲ投シ再室内ニ入リ同樣ノ祈禱ヲ爲ス。斯クスルコト三回ニシテ了ル

第二日「マブソアマ」ト稱シ社祝粟ノ團子三十箇豚脂三片ヲ持シ社外休憩所ニ赴ク。全社ノ壯丁之ニ從フ。社祝餞ト共ニ粟餅ヲ重ネ數箇所ニ供ヘ「稗ノ祭祀終了シタリ。最早伐木開墾、草刈ヲ爲スモ差支ナシ。本日狩獵ヲ行ハントス。猪鹿山羊等多ク來レ。而シテ繁殖シテ多數ニ爲レ」ト唱ヘ了テ一同其粟餅ヲ分配シテ食シ後狩獵ニ赴ク

（四）芋ニ關スル祭祀　ハ左ノ三アリ。皆各戸任意ニ之ヲ行フ

（い）下種祭　芋ヲ植エル前ニ行フ祈禱ナリ。各戸ノ女尊長家祝ト爲リ奥室ニ於テ種芋ニ對シ餞ヲ投

シ『芋ヲ植ユヘシ願クハ速ニ發芽シテ成長セシメヨ』ト祈ル

(ろ)收穫後祭　各家ノ女祝與室ニ於テ「タカラウス」ヲ呼ヒテ饌ヲ供シ芋ノ收穫ノ了ヘタル旨ヲ告ケ其保佑ヲ謝ス

(は)竈前祭　各家芋ノ燻乾ヲ爲ス前ニハ家祝(男女各一名何人ナルヲ問ハス)竈ノ前ニ饌ヲ投シ『速ニ芋ガ乾上リ[illegible]如クナレ』ト祈ル

第十九　北ぱいわん番チャジャカブス社

(一)總說　當社ニハちも及ばいわんノ兩派アレトモ農耕ニ關スル祭祀ハ概シテ之ヲ共同ニス。唯粟ニ關スル祭祀中ニテ「マサルト」ノミ之ヲ別ニス　祭祀中家祭ニ屬スルモノハ受持ノ巫之ヲ主ル。唯芋ニ關スルモノノミ其家ノ男又ハ女之ヲ行フ　左ニ小林氏ガ調査シタル所ヲ記ス

(二)粟ニ關スル祭祀　ハ左ノ如シ。此ハばいわん及ちもノ兩派ノ頭人協議シ日ヲ定メテ社民ニ通知ス

(い)開墾祭　「イサジャヌ」ト云フ。社祝ハチャジグトン(當社ニ近キ山腹)ニ赴キ小石二個、樹皮三片、粟穗三本ヲ供シ「タカラウス」ノ靈ヲ呼ヒ『本年ハ豐作ニシテ其粟ノ大ナルコト鬼茅ノ如ク又盛ナルコト番諸ノ如ク他社民ノ羨ム樣ニ榮ヘシメラレタシ』ト祈リ了テ方二尺位其地ヲ開墾シ之ヲ祭畑ト爲ス　翌日ヨリ社民開墾ヲ行フ

(ろ)播種祭　「チモゴト・ア・バコ」ト云フ。全社民開墾ヲ了レハ社祝ハチャジグトンニ赴キ祭畑ニ饌ヲ供シ『本年ノ粟ハ豐作ニシテ云々』ト祈禱シ少許播種ス　翌日ヨリ全社播種ニ從ヒ播種了レハ二日間休業ス

(は)出穗ノ祈禱　粟發芽シテ約一尺位ニ成長シタルトキ全社合同シ「パボジャジ」ノ祈禱ヲ行フ。其法社

祝ハ自家入口ノ屋根ニ饌ヲ供シ「タカラウヅス」ト呼ヒ粟ノ速ニ成長シ榮ヘンコトヲ祈ル　翌日ヨリ二日間休業ス

(に)收穫祭　祭祀三日ニ亘ル　第一日社祀ハ祭畑ニ赴キ粟數本ヲ摘來リ之ニ對シ饌ヲ捧シ期至リテ如此收穫スルヲ得タリト謝シ各自ノ畑ニ於テモ多クノ收穫アラシメヨト祈リソレヨリ一同收穫ニ出ツ　翌日社祀ハ大頭人ロバニヤツ家ニ赴キ入口ノ屋根ニ饌ヲ供ヘ同樣ノ祈禱ヲ行フ　第三日ハ社祀ハ頭人西チ、ジス家ニ、第四日ハ頭人東チ、ジス家ニ赴キ同樣ノ祈禱ヲ行フ（上記ノ三頭人ハ共ニちも派ナリ）

ほ收穫後祭　全社收穫ヲ了レハちもばいわ・南派ノ頭人協議シ日ヲ定メ最初ニ南派共同シテハ「サラヌツダリ」ノ祭ヲ行ヒ次ニちも派ノ「マサルト」、次ニぼいわ派ノ「マサルト」ヲ行ヒ最後ニ南派相合シテ「マブソアヌ」ヲ行ヒテ禁忌ヲ解ク。左ノ如シ

(1)「パサラヌ・ウダリ」ノ新禱　前後四日ニ亘ル　第一日イスハジヤ（去ル義）ト稱ス。全社ノ巫早朝ヨリ各其受持ノ家ヲ廻リ入口ノ屋上ニ饌ヲ供ヘ粟神ヲ祭リ「期至リ年更リテ禁忌ヲ除ク」ト宣ス　第二日モ同一ノ新禱ヲ行フ　第三日「バジスル」（此義不明）ト云フ。各巫ハロジアアス家（ぼいわ派頭人家）ニ赴キ南面シテ饌ヲ捧シ南方ニ向テ「バジスルン」ト呼フ。此義明ナラス。サレト多分明日粟ヲ炊キ壇ニ供ヘルコトヲ告クル意ナルヘシト　第四日「バジアボアボアス」（[illegible]マツノ義）ト云フ。此日各家ニ於テ粟飯ヲ炊キ巫ハ早朝ヨリ其受持ノ各家ヲ巡リ粟飯ヲ飯筥ニ盛リ樹葉ト共ニ入口ノ屋上ニ供ヘ祝シテ日ク「粟ノ收穫ヲ了リテ叢莖ニ改マレリ。芋ヲ植ヘタルトキハ「カイゴアイ」（姑葉）ノ如ク成長セヨ。茂々」ト祈ル。此日ハ粟ト芋ノ祭祀ヲ共ニ行フナリト云フ　第五日「マブソアン」（獵神祭）ヲ行ヒソレヨリ全社ノ壯丁合同シテ狩獵ニ赴ク

（附記）當社ニテ粟ヲ收穫スルニハ最初穗ノミヲ摘取リ莖ト葉ハ「パサラ、ウケリ」ニ束ネ了リタル後之ヲ拔クト云フ

(2)**ちも派ノ「マサルト」** 第一日「スモパジヤ」（祓去ルノ義）ト稱シちも派ノ巫ハ受持ノ各家ヲ廻リ其入口ノ屋上ニ饌ヲ供シテ「汝祖神ニ告ク歳更リテ今將ニ「マサルト」ヲ行ハントス。當ニ禁忌ヲ取去ルハ、二ト日ノ」第二日「クモライ」（吊下クルノ義）ト稱シ巫ハ各家ニ赴キ新粟ノ穗二本ニ樹葉ヲ括著ケ酒ヲ木鉢ニ入レ此ニテ搦ヒ右ノ葉ニ灌キ之ヲ入口ノ屋根ニ吊下ケ以テ祖靈ニ供ス 第三日「マナヌン」（此義審ナラス。或ハ云フ）食物ヲ贈ルノ義）ト稱シ各家ニ於テ「チナボ」（粟餅中ニ肉ヲ包ム）ヲ作ル。巫各戸ヲ訪ヒ入口ノ屋上ニ其粟餅ノ小許ヲ供ス此日各戸餅若干ヲ其受持ノ巫ニ贈リ以テ謝ト爲ス 第四日ハ「パスウサ」（炊カセルノ義）ト云フ。各家新粟少許ヲ搗キ「サムチ」（たんぽ菜）ト共ニ炊ク。巫各家ヲ巡リ此粟飯少許ヲ入口ノ屋上ニ供ヘテ曰ク「今「サムチ」ト共ニ粟ヲ炊ク。爾後新粟ヲ用ヰテモ差支ナシ。祖靈怒ルコトナカレ」ト言フ。此日ヨリ新粟ヲ食スルコトヲ得

(3)**はいわぬ派ノ「マサルト」** ちも派ノ「マサルト」ニ引續キ之ヲ行フ 第一日「イスパジヤ」（祓去ルノ義）ト稱ス其式ちも派ノ行フ所ニ同シ。唯ばいわぬ派ノ巫ガ之ヲ主ルヲ異リトス 第二日「プシイバオ」（奉納スノ義）ト稱ス。ちも派ノ「クモライ」ニ當ル。巫各戸ヲ廻リ入口ノ屋上ニ粟ノ穗三本ヲ樹葉ト共ニ供シ「明至リ粟ヲ收穫シタル故ニ汝祖靈ニ新粟ヲ納ム」ト告ク 第三日「パスウサ」（炊セルノ義）ト稱スちも派ノ行フ所ニ同シ。唯異ル所ハ飯ニ大角豆「ルマリ」及「サムチ」（共ニ食用ト爲ス草）ヲ混シテ炊クノミ 第四日「イサナアジヤク」ト稱ス。巫各戸ニ赴キ樹葉ニ酒少許ヲ灌キ之ヲ入口ノ屋上ニ供ヘ家人ノ健康ヲ祈ル

(4)「**マブリアン**」 ばいわぬ派ノ「マサルト」終レハ翌日兩派合同シテ「マブソアン」ヲ行ヒ了リテ社民一

同狩獵ニ赴ク

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニ於テ稗ニ關スル祭祀ハ其收穫後ニ行フモノアルノミ　收穫ハ各戸任意ニ之ヲ爲シ別ニ祭ノ行ハス

收穫後祭ハ二日ニ亘ル　第一日「イスアラロマイ」(稗ヲ取ル義)ト稱ス。卒各戸ヲ訪ヒ新稗ヲ出サシメ之ヲ持シ其家ノ屋上ニ供シ稗ノ收穫ノ期至リタルニ因リ之ヲ收穫シ以テ汝イサラアイ・カリギザメ(大吉始メテ稗種ヲ與ヘタル神)ニ納租スト言フ　第二日「マブソソ」ト稱シ番祝大頭人家ニ赴キ其人口ノ屋上ニ供饌シ「祭祀終了シタルニ付今ヨリ狩獵ヲ行フヘシ、幸ニ獲物多カラシメヨ」ト祈リ後番丁一同狩獵ニ赴ク

(四)芋ニ關スル祭祀　ハ悉ク家祭ニ屬シ女タル家祝之ヲ主ル

(い)下種祭「パリシ・ヌ・トマルム・ト・バサ」ト稱ス。數日前先ツ一家休業シ家祝ハ豚骨三片ヲ人口ノ屋上ニ供シ芋ヲ主ル神ヲ呼ヒ「之ヨリ芋種ヲ植ユルニ付キ芋ヲシテ姑婆葉ノ如ク成長セシメ而シテ他人ノ羨ム樣ニ豐熟セシメヨ」ト祈ル　家祝其畑ニ至リ前日ト同樣ノ祈禱ヲ爲シソレヨリ一同芋種ヲ下ス

(ろ)收穫祭「パリシ・テ・イバサ」ト稱ス。收穫ノ數日前各家祝ハ饌敷(樹葉)及豚骨三片ヲ人口ノ屋上ニ供シ「コレヨリ芋ノ收穫ヲ行フヘシ。收獲多大ニシテ我家ニ滿タシメヨ」ト祈リ畑ニ赴キ、再ヒ同樣ノ祈禱ヲ行フ

第二十　同番ホかリド社

當社ハ各黨合同シテ一祭團ヲ爲スト雖モ共同ノ祭祀ハ七所(現時ノ三頭人家及古代ノ四頭人家跡)ニ分レテ之ヲ行フ。其主祭トシテ一祭場ニ男祝一人ヲ置ク。但シ粟ニ關スル共同祭ニハ通シテ一人ノ女祝ノ置ク　家祝

ナシ。家祭ハ受持ノ巫アリテ之ヲ主ル　當社ニ於テ小林氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(三)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　「パサルト」ト稱ス。此日早朝巫ハ其受持テル家ヲ訪フ。各家粟種ヲ小キ竹籠ニ入レ之ヲ明室ニ置ク。巫ハ之ニ對シ饌ヲ供ヘ『今茲ニ不淨ヲ禳フ。粟ガ繁榮シテ害蟲ノ生スルコトノナキ樣ニ』ト唱ヘ次ニ家具、農具類ニ對シ不吉ヲ祓フ。了テ家人ハ播種ニ赴ク

(ろ)播種後祭　「パバカジ」(穗ヲ出ス義)ト稱ス。粟ノ穗ノ少シク出テタルトキ此ノ祈禱ヲ行フ。社祭ナリ　此日各祭場タル家ニ於テハ男タル黨祝明室ニテ粟神ノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ投シ『降雨アリテ粟ノ能ク成長シ好キ穗ノ出來ル樣ニ』ト祈ル

(は)チモボルノ祈禱　「パバカジ」ノ翌月ニ至リ「チモボル」(此義審ナラス)ノ祈禱ヲ行フ。此祈禱ハ粟ノミナラス芋及樹豆ノ爲メニモ行フモノナリト云フ。社祭ニシテ女祝(巫)之ヲ主ル。此日早朝女祝ハ舊頭人家ノ跡ニ赴キ前庭軒下ノ祭畑ニ芋及樹豆ヲ下種シ饌ヲ投シ『粟、芋、樹豆ノ能ク繁榮シテ害蟲ノ生スルコトナキ樣ニ』ト唱フ

(に)收穫祭　又「パサルト」(禳フ義)ト稱ス。收穫ノ初メ早朝各家任意ニ之ヲ行フ。別ニ全社同日ニ行ハサルヘカラサルニ非スト雖多クハ同日ナリト云フ。巫ハ各戸ヲ訪ヒ饌脂ヲ投シ『粟ノ收穫多大ニシテ家ニ滿ツル樣ニ』ト祈リ別ニ饌脂ヲ其家ノ家祝ニ渡ス。家祝之ヲ持シテ細ニ赴キ以テ粟神ヲ祭リタル後穗ヲ摘ム

(ほ)收藏ノ祈禱　粟摘ヲ了リ其粟ヲ畑ヨリ家ニ持歸ル時ニ之ヲ行フ。各家任意ニ巫ヲ招ク。巫ハ畑ニ赴キ收穫シタル粟ニ對シ饌ヲ投シ『來レヨ粟神。來リテ粟ヲ算ヘヨ。屋内ニ滿ツル程多量ノ粟ヲ運フ

故ニ汝モ共ニ來テ粟ヤ粟餅ヲ食フヘシ」ト唱フ。而シテ收穫シタル把ヲ數ヘ之ヲ持歸ル

(は)收穫後祭　全社收穫ヲ了レハ頭人日ヲ定メ、「マサルト」ヲ行フ。祭祀五日　第一日、「ノマボ」(粟ノ葉ニテ餅ヲ包ム義)ト稱シ各家ニ於テ茅巻ノ餅、「チナボ」ヲ作ル　第二日、「プナジク」(此意豊ナラス)ト稱シ巫及祝各戸ヲ訪ヒ巫ハ奥室ニテ饌ヲ供シ「來レ粟神ヨ。來リテ餅ヤ肉ヲ食ヘ、而シテ來年ハ一層粟ヲ豐作ナラシメヨ」ト祈ル祝ハ饌ヲ入口ノ屋上ニ持行キテ靈ニ供ス。此日ヨリ新粟ニ他ノ野菜類ヲ混シテ炊クコトヲ得　第三日「スムツザン」(休憩ノ義)ト稱シ親族知友互ニ相招キテ酒宴ス　第四日、「イサナナジャク」ノ祈禱ヲ行フ。早朝巫ハ各頭人家ニ赴キ入口ノ屋上ニ饌ヲ供ヘ「今、イサナナジャク」ノ祈禱ヲ行フ頭人モ番丁モ多クノ猪、鹿、山羊等ヲ獲ル樣ニ」ト唱フ。當社、「マサルト」中ニ行フ「イサナナジャク」ハ他社ト其方法ヲ異ニセリ　第五日「マブソアス」ノ祈禱ヲ行ヒ全社狩獵ニ赴ク

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニハ收穫後祭アルノミ家祭ニシテ全社日ヲ同フセス　第一日、「パイリビ」(「ラビ」ハ古語ノ稗ノ義ナリ)ト稱ス。巫ハ夕暮ニ各家ヲ訪ヒ稗三穗ヲ出サシメ稗神ヲ呼ヒ之ヲ入口ノ屋根ニ挿ミ籾ヲ投シ祝シテ曰ク「今稗ヲ汝ニ納メタリ。願クハ來年モ豐作ナラシメヨ」ト　翌日ハ「チンプニ」ト云フ別ニ式ナシ。唯他社トノ交通及出獵ヲ禁スルノミ

(四)芋ニ關スル祈禱　當社ニ於テ芋ノ下種ハ粟ノ播種後祭中ナモボル」其中ニ各ノ行フカ故ニ別ニ之ヲ行フコトナシ。芋ニ關シテハ左ノ祈禱アルノミ

害蟲驅除ノ祈禱　「スマウ・タ・ヮムツ」(害蟲ヲ逐ルノ義)ト稱ス。黨祭ニシテ各頭人家ニ於テ隨意ニ之ヲ行フ頭人先ツ部下ニ命シテ害蟲一匹ヲ捕ヘ持來ラシメ巫ヲ招ク。巫ハ頭人家ノ奥室ニ其蟲ヲ置キ饌ヲ投シ「今汝ニ之ヲ與フ爾後再ヒ芋ヲ食スルコトナク溪底ニ去ルヘシ」ト唱ヘ「更ニ芋ノ大キク好クナル

様ニト祈リ後青年ノ番丁ヲシテ其害蟲ト饌ヲ持シテ溪底ニ行キ之ヲ捨テシム

第二十一　北ばいわん番　リキリキ及チフツカダヌノ兩社

(一)總說　當兩社ハ一黨ニテ一祭團ヲ爲シ粟ニ關スル祭祀ハ各黨別々ニ行フト雖モ其日ハ同社内ノ頭人協議シテ之ヲ一ニス。各祭團ニハ男女各一人ノ番祝アリ祭事ヲ掌ル　現時稗ヲ作ラズ從テ其祭祀ナシ　當兩社ニ於テ粟及芋ノ祭祀ニ付小林氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　「パリシアツモゴト」(播種祈禱ノ)ト云フ。一日ヲ要ス　頭人又ハ男祝單獨ニテ小竹筒ニ水ヲ入レ之ヲ持シテ畑ニ赴キ畑ノ中央ニテ其水ヲ少許灌キ穀神ニ供フ。何等唱フルコトナシ。此日社民ハ耕作ヲ行ハス　翌日ヨリ全社播種ヲ行フ

(ろ)播種後祭　粟ガ發芽シ二三寸位ニ爲リタルトキ「マスチゴト」ノ祈禱ヲ行フ。此日早朝頭人ハ小竹筒ニ水ヲ入レタルヲ持チ女祝ヲ呼ヒ自家ノ畑ニ赴ク。女祝畑ノ中央ニテ穀神ヲ呼ヒ件ノ水ヲ供ヘ『時々降雨アリテ粟ヲ榮ヘシメタシ。而シテ苗ノ腐ルコトナキ様ニ』ト祈ル。ソレヨリ各頭人家所有ノ畑毎ニ同様ノ式ヲ繰返ス此日頭人家ノミ禁忌ヲ守ル

(は)收穫祭　各家ノ家祝ハ收穫ニ先チテ「パリシ・タ・キバコ」(粟ヲ取ルノ祭)ノ式ヲ行フ。卽チ畑小屋ニ赴キ粟神ヲ呼ヒ饌脂ヲ供ヘ當ニ收穫ヲ爲スヘキヨシヲ告ケ了テ家人等收穫ニ從フ。其夕刻家祝更ニ饌ヲ具シテ粟神ヲ祭ル

(に)收穫後祭　「マサルト」ハ其祭三日間ニ亘ル　第一日「パイロアス」(炊ク義)ト稱ス。社民一同ハ各其頭人家ニ集合ス。巫ハ又各頭人家ヲ訪ヒ『貴家ニテハ粟ノ收穫多カリシヨシ』ト賀詞ヲ述ヘ其所ニ集レル

社民ノ小兒ニ向ヒ「粟ハ多量ニ取レタリ。故ニ汝等能ク食シ能ク肥エヨ」ト祝ス。別ニ祈禱ナシ　第二日ハ「スマナアジャク」ノ祈禱ヲ行フ。此日粟餅ヲ作リソレニテ人形ヲ作リ處女之ヲ負ヒテ社内ヲ廻ル

第三日ハ「マブソアン」ト稱シ全社狩獵ヲ行フ。但シ祈禱スルコトナシ

(三)芋ニ關スル祭祀　當兩社ニハ下ノ二祭アリ　(一)ハ「パリシ・タ・イバサ」ト稱シ各家別々ニ其日ヲ定メテ芋堀ヲ始ム。別ニ式ナシ唯家族一人畑ニ赴キ芋ニ豚脂ヲ投シ「見事ニ成長シタリ」ト祝スルノミ

(二)ハ乾芋ヲ作ル初ニ家内ノ成年男子一名其竈ノ前ニ於テ豚脂數片ヲ三箇所ニ竝ベテ乾芋ノ好ク出來ル樣ニ祈ルノミ

第二十二　北ばいわん番「スボン」群社

(一)總說　本群社ニハ兩黨アレトモ合シテ一祭團ヲ爲ス。男女ノ番祝各一人アリテ之ヲ主ル。祭祀ハ頭人「ツジャラン」家ニ於テ行フ　家祭ニ於テハ家族中ノ婦女ニシテ祭事ヲ解スル者其家祝ト爲ル

本群社ニハ現時稗ヲ作ラス。從テ之ニ關スル祭祀ナシ。又芋ニ關スル祭祀ハ大體ニ於テ[illegible]社ニ同シキ「ガ故ニ之ヲ略ス

小林氏ガ當社ニ於テ調査シタル粟ノ祭祀ハ左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ニハ其播種後祭ナシ

(い)播種祭　「パリシ・ア・スマヌチノゲト」ト稱ス。家祭ナレトモ全群社殆同日ニ行フ　此日各戸ノ家祝ハ畑ニ赴キ畑小屋ニ面シ粟神ノ靈ヲ呼ヒ桑ノ葉數枚ト饌骨ヲ供ヘ「以前ヨリモ粟ガ能ク成長シ而シテ豐ニ實ル樣ニ」ト祈リ兩手ニ饌脂少許ヲ握リ手ヲ廻シテ糸ヲ卷ク如キ狀ヲ爲ス。之ヲ「キャバン」ト稱ス。蓋シ粟ノ幸ヲ招來スル意ナルヘシ次ニ畑小屋ノ周圍數箇所ニ粟種少シツツヲ播シ祝シノ

曰ク「汝祖靈ノ保護ノ下ニ粟ノ繁榮センコトヲ祈ル」ト。了テ其畑ニ播種ヲ行フ　此祈禱ハ各畑ニ付一々之ヲ繰返ス　播種中ハ腐敗シタル物ニ觸ルルコト、米米酒又ハ鹽豚ノ肉ヲ食スルコトヲ禁ス。之ヲ犯セハ靈ノ怒ニ觸レ播キタル粟種腐敗シ發芽セスト云フ

(ろ)收穫祭　各宗祝ハ其畑小屋ノ前ニ至リ饌脂及桑葉ヲ供シ播種祭ノ如ク「キヤバン」ノ式ヲ行ヒ「汝祖靈ノ保護ノ下ニ粟ハ見事ニ實レリ」ト謝ス。了テ家族一同收穫ヲ行フ　收穫シタル粟ヲ社ニ持歸リタルトキハ家祝再ヒ同一ノ祈禱ヲ行フ。但シ「キヤバン」ノ式ヲ行フコトナシ

(は)收穫後祭　「マサルト」ハ祭期七日ニ亘ル。其次第ハ左ノ如シ

第一日「ブノロボロン・ト・バコ」(粟ノ長ク盡キサル様ニスル義)ノ式ヲ行フ。此日社民ハ頭人家ニ集ル。女祝奥室ノ中央ニ於テ饌ヲ投シ「祖靈ヨ汝ノ保護ノ下ニ如此好キ粟ヲ收穫シテ現ニ此處ニ置キ在リ。願クハ幾何之ヲ食フトモ永ク盡キサル様ニセヨ。年茲ニ改リテ禁忌解ケタリ」ト唱フ。此日ハ頭人家ノミ禁忌ヲ守リ休業ス

第二日ハ「イカボジヨ」(收租ノ義)ト稱ス。別ニ祈禱ナシ。頭人ハ早朝ヨリ社內ニテ最モ多ク收穫シタル家ヲ訪ヒ「スマノヴヱ」(後ニ出ツ)ヲ行ヒ其徵收シタル粟五十把ト「チナボ」(肉ヲ包ミタル餅。此時ニ限リ粟ヲ粉トセスシテ作ル)ヲ五本、鹽豚ノ肉若干トヲ持歸ル。此日頭人家ニテハ粟餅ノ人偶ヲ作リ家族ノ女(之ナキトキハ親族ノ女)ニ負ハシメ社內ヲ廻ル」

第三日「トマブラク・トソ・ブサム」(種粟ヲ粟神ヨリ受取ルノ義)ヲ行フ。此日各家種粟ヲ選ミ之ヲ奥室ニ置ク。巫各戶ヲ廻リ此種粟ニ對シ桑葉及饌脂ヲ供ヘ「太古ヨリノ例ニ倣ヒ粟種ヲ選ヒテ之ヲ來年ノ分ト爲ス。願クハ來年モ豐作ナレ」ト祈ル。了テ家人ハ之ヲ粟倉ニ藏ス。此日ハ全社民社外ニ出ツルコトヲ禁ス

第四日全群社各家ニ於テ「ドモド」(混合スル義)ノ式ヲ行フ。頭人家ニテハ新粟ニ藜ノ葉(又ハ實)鹽豚、「サマク」

（ちさニ似タル野生ノ草）ヲ混シテ炊ク。之ヲ俎ニ盛リ奥室ノ中央ニ置キ、女祝之ニ對シ禮ヲ供ヘ酒少許ヲ灑シテ「年更リ禁忌解ケタリ。今粟ヲ他ノ禁忌ノ物ト混シタリ」ト唱ヘ室外ニ出テ同一ノ語ヲ繰返ス。次ニ雑炊ノ飯一片ヲ取リ指先ニテ先ツ竈ニ、次ニ奥室ノ床、入口ノ軒ニ塗附ケ又ハ新粟ニモ塗附ケ而シテ此飯ヲ持シテ社内ノ各戸ヲ訪フ。社内ノ各家ニ於テモ早朝ヨリ同様ノ雑炊ヲ作リ之ヲ俎ニ盛リ奥室ニ置キ受持ノ巫ノ至ルヲ待ツ。巫之ニ對シ禮ヲ供シ年ヲ更リテ云々ト唱ヘ禮ヲ取リテ室外ニ出テ之ヲ繰返ス。了テ頭人家ヨリ持來リタル飯ヲ少シツツ竈、奥室ノ床及入口ノ軒下ニ塗附ケ又新粟ニモ塗附ク。此日ヨリ新粟ハ如何ナル物ト接スルモ妨ナシトス

第五日各家ニ於テ、イサナアジャクノ式ヲ行フ。此日ハ別ニ新嘗スルコトナク各戸餅ヲ作ルノミ而シテ巫ニ一チナボ五本及酒一甕ヲ贈テ謝ト爲ス。處女アル家ニ於テハ粟餅ニテ人偶ヲ作リ其女ニ之ヲ負ハシメ社内ヲ廻ル。人偶ハ「ジャジャク」ト稱ス  形ニシテ其長八寸乃至一尺ニシテ番丁ノ物ハ同形ノ板ニ餅ヲ附着セシメ紐ヲ附シテ之ヲ負フ頭人家ノ物ハ板ヲ用ヒス  形ノ餅ヲ茅ノ葉ニテ包ミタルモノニシテ番丁ノモノヨリ稍大ナリ。女ガ此人偶ヲ負廻ハルトキハ知人ハ其人偶ニ装飾品ヲ貸シテ飾ラシメ又未婚ノ男子ハ腕環若ハ頭飾ヲ附飾スルモアリ。此等ノ装飾品ハ翌日禮ヲ厚クシテ持主ニ返ス、未婚男子ヨリ附飾セラレタル頭飾又ハ腕環ヲ返ストキニハ酒一甕又ハ花製ノ頭飾ヲ加ヘテ之ヲ謝ス　此夜未婚男子ハ太クシテ直ナル薪若干ヲ一束トシ密ニ其愛スル女ノ家ニ持行キ之ヲ其前庭ニ置ク。但シ是ハ單ニ其好意ヲ表スルニ過キス。其家ニテハ一見何人タルヤヲ知ルヲ以テ翌日又ハ數日ノ後粟餅五箇及酒一甕ヲ送テ其返禮トス。時ニ返禮セスシテ他日開墾又ハ家屋修理等饗宴ヲ爲ス場合ニ特ニ其者ニ酒餅等ヲ多ク與ヘテ優待スルモノアリ

第六日「ツモロボク」（粟餅ヲ焼クヲ云フ）ノ式ヲ行フ。此日早朝社民中ニテ狩獵ニ巧ナル勇者數名ニテ酒一甕バリボロボ」（豚ノ脂ヲ入レタル粟餅）十箇ヲ持シ男祝ト共ニ「サチロボカア」（社ヨリ東方四五町ノ禁地）ニ赴キ此所ニテ火ヲ焚キ九箇ノ餅ヲ焼ク。其内一箇ハ其傍ニ投棄シ酒少許ヲ滴シテ獵神ニ供ス。而シテ焼キタル餅ヲ食ヒ且ツ酒ヲ飲ム。此祈禱ヲ行ハサル内ニ出獵スレハ雷ニ打タレテ死スヘシト云フ

第七日全群社ノ壯丁合同シテ「マブソアン」ヲ行フ。若シ「マサルト」ノ間ニ社民中死シタル者アルトキハ此日ヨリ三日ヲ經テ「マブソアヌ」ヲ行フ

(三)芋ニ關スル祭祀

(い)下種祭　「スマンテナルマ」（「テナルヌ」ハ植エラルノ義ナリ）ト稱シ各戶任意ニ之ヲ行フ。各家祝畑小屋ノ内ニテプチャジャヤヌノ靈（芋種ヲ司ル神）ヲ呼ヒ饌ヲ供シ「從來禁忌ヲ犯シタルコトナシ。願クハ芋ノ立派ニ成長スル樣ニ守レ」ト祈ル

(ろ)開竈祭　燻芋ヲ作ル前ニハ家祝畑小屋ニテプチャジャヤヌノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ美事ニ澤山ノ乾芋ノ出來ル樣ニ祈ル

第二十三　北はいわ、番　チエーババオ、コワバルノ兩社

(一)總說　當兩社ハ各一社ヲ以テ一祭團ヲ成シ番祝男女一名アリ　家祝ハ一家中祭事ニ通スル婦女之ニ當ル但シ芋ノ燻製ノ場合ニハ男子之ニ當ル　當兩社ニハ現時稗ヲ作ラス從テ之ニ關スル祭祀ナシ　當兩社ニ於テ小林氏ノ調査シタル粟及芋ノ祭祀左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　家祭ナレトモ全社略同日ニ行フ　各家ニ於テ家祝ハ畑小屋ノ前ニ至リ其祭畑（方三尺程）ニ

饌ヲ供ヘ「今將ニ播種セントス。願クハ降雨アリテ速ニ發芽セシメヨ」ト祈リ小許ノ粟種ヲ播ク。了テ家族一同播種ニ從フ

(ろ)出穗ノ祈禱　「パバガジ」ト云フ。粟成長シテ穗ノ出初メタルトキニ行フ。家祭ナレド全社略其日ヲ同ウス。各家ノ家祀畑小屋ノ前ニ於テ饌ヲ供シ速ニ穗ノ成長センコトヲ祈ル

(は)收穫祭　「トマブラク」(受取ルノ義)ト云フ。收穫前各戶任意ニ之ヲ行フ　各家祀ハ畑小屋ノ前ニテ饌ヲ供ヘ「今將ニ粟ヲ收穫セントス。願クハ千把モ萬把モ收穫セシメヨ」ト祈リ先ヅ一把(二十穗位)ヲ採リ、畑小屋ニ持込ミソレヨリ收穫ヲ始ム

(に)收穫後祭　全社收穫ヲ了レハ一社合同シテ「マサルト」ヲ行フ。祭日三日ニ亘ル。其次第左ノ如シ

第一日「チモボル」(土ヲ軟カニスル義ナレドモ其意ヲ解セス)ト稱ス。此日午後ヨリ巫ハ受持テル諸家ヲ巡リ各家ノ屋後ニ於テ饌ヲ投シ「年ガ更レリ。願クハ我等ヲシテ幸福ナラシメヨ」ト唱フ。此日ハ別ニ禁忌ナシ　第二日ヲ「ミジョソス」ト稱シ各家新粟ニ樹豆、大角豆又ハ「サマク」(ちさ)ヲ混シテ飯ヲ炊ク。家祀之ヲ飯箕ニ移シ一匙ヅツ前庭及奧室ノ竈ニ供ヘツツ「新粟ニ何々ヲ混シテ炊キタリ。今後禁忌ナシ」ト唱フ。殘リノ飯ハ家族一同ニテ食盡ス。此日ヨリ新粟ニ對スル禁忌ヲ解ク　第三日「キサナアジャク」ノ式ノ行ノ早朝各家一名ヅツ(男女ヲ論セス)畑(所ハ任意)ニ赴キ饌脂ヲ投シ「耕地ノ禁忌モ解ケタリ。雜炊ヲ作リタレハ」ト唱ヘ薪數本ヲ伐テ歸社ス。而テ各戶ヨリ酒二甕ヅツヲ頭人家ニ持行キ飲宴ヲ開ク　其翌日ヨリ社民等作業ニ從フ。當社ハ別ニ「マブソブヌ」ヲ行フコトナシト云フ

(三)芋ニ關スル祭祀

(い)下種祭　芋ヲ植附クル前ニ「パリシ・ト・トマルム」ノ式ヲ行フ。家祭ナリ。家祀(女)畑小屋ノ前ニ於テ稱

芋ヲ司ル神ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ「將ニ芋ヲ植エントス。願クハ芭蕉ノ實ノ如ク成熟セシメヨ」ト祈リ先ツ畑小屋ノ傍ニ數箇ノ芋種ヲ植エソレヨリ家族一同ニテ植附ニ從フ

(ろ)收穫祭　芋ヲ收穫スル前ニハ「パリシ・ト・キ・バサ」ノ式ヲ行フ。家祭ニシテ家族中家祝タル女ハ畑小屋ノ前ニテ芋神ノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ「將ニ芋ヲ收穫セントス。願クハ家ニ滿ツル程多クアラシメヨ」ト祈リ最初ニ植エタル畑小屋ノ傍ノ芋ヲ堀取リ之ヲ畑小屋ノ竈ニテ煮、家族一同ニテ食盡ス了テ一同收穫ニ從フ

(は)開竈祭　芋ヲ始メテ竈ニ掛ル時ハ火ヲ點スル前ニ「パリシ・トソ・ツマバ」（「ツマバ」ハ燻乾スル義）ノ式ヲ行フ家族中ノ男子竈ノ前ニテ芋神ノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ「乾芋ガ常ニ穀物置場ニ在リテ盡キサル程澤山ニ出來ル樣ニ」ト祈リ其一片ヲ竈ニ投シ他ノ一片ヲ竈ノ上ニ置キ後火ヲ點ス

第二十四　こぼじ番內文外五社

(一)總說　內文キナジャン、中文、プリイジ及アジュブンノ六社ハ農作物祭祀ニ關シテ一祭團ヲ成シ番祝（「パラカジャイ」）男女各一名、外ニ副祝（「パサラジャヌ」）數名アリ、祭祀ニハ各社別々ニ行フモノアリ。此場合ニハ內文社以外ノ番社ニハ「パラカジャイ」ナキガ故ニ其社ノ代管男祝ト爲リ社內ノ巫一人女祝ト爲ル　家祭ハ各家ヲ受持テル巫アリテ之ヲ行ヒ又一家ノ女尊長家祝ト爲ルコトモアリ又ハ巫ト家祝ト共ニ行フコトモアリ　當社ニ於テ安原氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀　當社ハ粟ヲ播種スル前ニ祭祀ヲ行ハス。而シテ播種シタル後ニ「マスチュクト」（播種終了）「バボボ」（發芽）「ババガシ」（出穗）ノ祈禱ヲ行ヒ又收穫後ニ「パチュアブアブアメ」（納櫃）「パアズジョ」（嘗祭）ノ祈禱等アリ

(い)播種後祭　「マスチュクト」ト云フ。各社粟ヲ播種シ了リタルトキハ兩大頭人協議シ日ヲ定メ頭人以

下各家別々ニ此祭ヲ行フ。當日各家祀ハ住家ノ前ニ設ケタル祭畑（蕃語、チャチュボノ、石ヲ以テ圍ミタル約一尺乃至二尺四方ノ地）ニ一穗ノ粟種ヲ播シ芋一箇ヲ植ユ。同日巫來リ先ツ其家ノ神室ニ於テ穀神ノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シテ祈リ次ニ祭畑ノ前ニ於テ同一ノ事ヲ反覆ス。其祝詞ニ曰ク「今日汝（チャチュボラ）ニ播種ヲ了セリ願クハ他ヨリ優レテ豐カニ成熟セシメヨ、アバイソナ（本族發祥ノ地）ニ於ケル汝ノ粟種ノ如ク速ニ發芽シ且ツテブジジャン（芭蕉）ノ如ク、カイカイ（野生ノ大葉ノ芋、土人之ヲ姑婆葉ト稱ス）ノ如ク成長シ多ク穗ヲ出サシメヨ」ト、此所ニ播キタル粟ガ發芽シ成長スルトキハ豐熟ノ兆ナリトシテ大ニ喜ブ。サレドモ此ハ神靈ノ宿ナリトシテ取テ之ヲ食スルコトナシ

(ろ)發芽及出穗ノ祈禱　粟ガ將ニ發芽セントスル頃各家任意ニ巫ヲ招キ畑ニ赴キ北方ニ向ヒ饌ヲ投シ粟ガ速ニ發芽シ且ツ能ク成長スル樣ニ祈ル。之ヲ、パリシ・ヤ・パボボト云フ　其後粟ガ將ニ穗ヲ出サントスル頃ニ至レハ各家又巫ヲ召キ畑ノ方ニ向ヒ粟ガ速ニ出穗シ且ツ能ク成熟スル樣ニ祈ル。之ヲパリシ・ア・ババカジト云フ

(は)收穫祭　粟ガ既ニ成熟シタルトキハ各家祀ハ巫ト共ニ畑ニ至リ北方ニ向ヒ饌ヲ投シ祝シテ曰ク「今將ニ粟ヲ取ラントス。願クハ其收穫ヲ多カラシメヨ」トテ粟三穗ヲ摘取リビジョソク（土人之ヲ山油麻ト云フ）ノ皮ニテ縛シ饌脂饌敷ト共ニ小キ籠ニ入レ畑小屋ノ天井ニ吊シ以テ三位ノ穀神即ボボサム、ブジジャフ及サコマンノ靈ニ供ス。之ヲ「パリシ・ヤ・イババコ」又ハ「ボバリシアフ」ト云フ。其翌日ヨリ一家粟ノ摘穗ヲ始ム。上記ノ籠ハ其小屋ニ吊シ置キ收穫中食事スル毎ニ饌脂少許ヲ投シ收穫終リタル後ニ取棄ツ

(に)收穫後祭　當社ニ於テ收穫後ニ於テ行フ祭祀ハ納倉、祖靈及「マサルト」ノ三段ニ分テ之ヲ行フ。左

ノ如シ

(1)**納倉祭**「パチュアブアブアヌ」ト稱ス。(「アブアブアヌ」ハ粟ヲ藏スル桶ナリ。新粟ヲ社内ニ運入スルヲ意味ス)家祭ニシテ「キナジン」社ノ「カヨソガ」家ヨリ始メ内文社大頭人以下各社代管人ノ家ニ於テ此祭祀ヲ行フ 各社ニ於テ女覡天ニ對シ饌ヲ供シ三位ノ穀神ヲ呼テ曰ク「來リ見ヨ、汝ニ受ケタル種子ニテ斯ク豊ナル收穫ヲ得タリ。今之ノ社内ニ運入レントス。願クハ新舊相混スルモ害ノ生スルコトナク社内ヲシテ安全ナラシメヨ」ト。終テ各戸畑小屋ニ在ル新粟ヲ持シテ其住家ニ來ルコトヲ得

(2)**祖嘗祭**「パアズジョ」(農祖ヲ納ムル義)ト稱ス。社祭ナリ。此日各社ニ於テ社内ノ各家芋、粟各少許ヲ持シテ頭人(頭人ナキ社ハ其代管)ノ許ニ聚ル。巫(内文社ニ於テハ女覡)俎上ニ多クノ饌敷(樹葉ヲ用ユル)ヲ陳シ之ニ粟餅ヲ細カニ切リタルモノヲ載セ別ニ諸多男女ノ祖靈ニ與フル贈物ヲ具ス。男靈ニ與フルモノハ「パヲク」(擔フ義)ト稱シ竹片ノ兩端ニ芋ヲ挿シ且ツソレニ粟ノ穗ヲ掛ルコト圖ノ如シ。女靈ニ與フルモノハ「トコジ」(戴ク義)ト稱シ粟ノ穗ヲ丸メ之ヲ繩ニテ束ヌ。巫此等ノ供饌ニ對シ祈禱ヲ行ヒ後集メテ笊ニ移シ番丁ヲ持シテ社外一定ノ場所ニ至リテ棄ツ。其時巫ハ祖靈ニ對シテ何處ヨリ何所ヲ通シテ何所ニ至ル等其歸ルヘキ路ヲ指定スルヲ例トス

(3)「**マサルト**」祭期六日ニ亘ル。其次第左ノ如シ

第一日各家巫ヲ招キ「トマブラク・ト・ブサム」(粟種ヲ受クル義)ノ祈禱ヲ行フ。其法收穫セル新粟ノ中ヨリ良好ノモノ五把ヲ選出シ之ニ饌ヲ供シ祝詞ヲ述ヘタル後外庭ニ出シテ日光ニ曝ス。之ヲ「パジクジク・ト・カダオ」(日ヲ見セルト云フ)ト云フ。暫クシテ(頭人家ハ日暮ニ)之ヲ取入レ内三把ヲ以テ種粟ト爲シ奥室ノ粟倉ニ置ク。此時祝シテ曰ク「既ニ汝「ポブサム」ノ靈ヨリ受ケタリ。願クハ來年モ來々年モ此籾入ニ滿チ此倉ニ積

上ケシメヨ』ト。而シテ殘リノ二把ハ「イサラ」ト稱シ之ヲ家人ニ渡シ以テ明後日ノ用ニ供ス
第二日夕刻ニ至リ「マシサリム」ノ儀ヲ行フ。此祈禱ハ家祭ニ屬シ兩大頭人及「キナジャン」社ノ「カコソカ」
ス家先行ヒ後五社ノ各社民等同日ニ之ヲ行フ。巫各家ヲ巡リ其奥室ニ於テ供物ヲ具シ「マカシ」(奥室)ヘ
ナジャン(番社)ノ靈ヲ呼ビ『定例ノ日至リタルヲ以テ祖先ノ規定ニ從ヒ新年(ツプリバヌサベシ)ノ儀ヲ行フヘキ旨
ヲ告ク
第三日朝各家「ブナラカ」(臼ニテ搗クノ義)ノ儀ヲ行フ。一昨日殘シ置キタル二把ノ粟ヲ取リ分テ六把トシ其
内五把ヲ小サキ臼(約五寸大)ニ入レ僎(榕樹ノ葉ニ豚脂ノ小片ヲ載ス)ヲ具シ酒ヲ灌キ之ヲ奥室ノ靈偶(番語「アイヤバガ」)ニ供シ其
ノ一把ヲ更ニ七分シ其三把ヲ「ビナバブカサ」ナル祖先ニ供シ三把ハ粟倉ニ持行キテ種粟ノ上ニ置
キ祝シテ曰ク「既ニ種子ヲ受取タリ、臼ニ入レタリ「イヤバガ」ニ供シタリ、「アブブア」(刳木ノ桶即穀入)ニ持來レ
リ。祖靈願クハ遠ク之ヲ照覽セヨ』ト。而シテ最後ノ一把ハ明日之ヲ他ノ粟ニ混シテ餅ヲ作ル
第四日各家巫ヲ招キテ「イサナジャク」ノ祈禱ヲ行フ。巫粟餅ヲ細カク切リ之ヲ樹葉ニ載セテ屋棚ノ上
ニ置キ以テナクマチ(造主)ニ供シ祝シテ曰ク『汝カダオナクマチニ供ス。願クハ我等ヲシテ元氣ナラシ
メヨ。「カタ」(瑪瑙ノ玉)ノ如ク「アツシ」(玉ノ一種)ノ如ク「太古ヨリ繼キ繼キニ傳ハレル元氣ト整美トアラシメヨ」
ト。此日各戸餅ヲ作リ肉ヲ具シ親族ヲ招キテ宴ヲ開ク又粟餅ニテ人偶(番語「ジャジャク」)ヲ作リ小衣ヲ着セ
處女之ヲ負ヒテ社内ヲ徜徉ス。青年ノ男子草花ニテ頭飾ノ作リ之ニ與ヘ或ハ腕環其他ノ裝飾品ノ
與ヘテ其人偶ヲ飾ラシム。此人偶ハ翌日壞シテ籠ニ入レ奥室ニ吊置キ「マブソアス」ノ後之ヲ食フ。又
人ヨリ與ヘラレタル腕環等ハ各其持主ニ返還ス
第五日「スモチブス」ノ祭ヲ行フ。此ハ黨祭ニシテ兩大頭人家ニ於テ別々ニ行フ。但シ其日ヲ同クス。「チ

ンプス」ハ交通ノ禁ナリ。粟ノ收穫ニ着手シタル後ハ一般ニ他番若クハ漢人ト交通シ又ハ出獵出草スルコトヲ禁ス。今日祈禱ヲ行ヒ以テ其禁ヲ解クナリ。早朝頭人家ニ於テ大ナル餅ヲ作ル、男祝之ノ茅製ノ小サキ「ジャバッ」（肩ヨリ脇ニ掛ル袋）ニ容レ榕樹ノ皮ニテ製シタル紐ヲ附シテ肩ニ掛ケ女祝ト共ニ頭人家ノ祖先ガ住居シタル家址（ロバニヤウ家ハチーコデス、チニールン家ハチョチャブブ）ニ至リ餅ヲ切リテ細切シ「ジャバッ」ト共ニタラベ（石棚）ニ納メ祖靈ヲ呼ヒテ曰ク「ニマサルト」ハ終了セリ。當ニ「マブソアㇴ」ヲ行ハントス。願クハ獵獲アラシメヨ」ト祈ル

第六日兩黨各「マブソアㇴ」ヲ行フ。男祝番丁ヲ率キテ郊外「カチグル」（獵路）ニ至リ餅ヲ切リ三片トシ數句ノ祝詞ヲ述ヘ一ハ川ニ流シ一ハ平地ノ方ニ向テ投ケ一ハ其所ニ置キソレヨリ出獵ス。歸來一定ノ場所ニ至レハ衆巫既ニ粟餅、豚肉及酒ヲ用意シ來迎ヘ竹片ノ兩方ニ餅ヲ刺シテ、バヰク〇〇ヲ作リ（是男靈ニ與ノルナリ）又餅肉ヲ竹ニ串シテ「カロト」ヲ作ル（是女靈ニ與ノルナリ）コト各數百。又數多ノ細竹ヲ切リテ瓢ニ攫シ相思樹皮ヲ細切シテ瓢杯ニ攫シ一々山川、部落其他地神ノ靈ヲ喚ヒ此ノ饌ヲ投與ス

（附記）試ニ内文社ニ於テ此日巫ガ呼フ地神ノ靈ヲ掲クレハ下ノ如シ　ビナバブカヰ　ビナルタバヽバリ　パラブラブラブ（社外獵神ノ祭ル所）　パチモチモ（食人種ちも族ノ住居シタル所）　チサガスポッブイ（初テ火ヲ作リタル人）　ビナバダバダヤ（祖先ガビナバブカヰヲ去リテ四方ニ分住スルトキニ其袂ヲ別チタル所。ピナバソカヰノ附近ニ在リト云フ）　サスクザ（社ノ入口ニアル休憩場）　エラボッ（茅山或ハ田ノ産死者ヲ埋メタル所。）　チャジャラテ（ピナバブカヰノ附近）　ボモマク（北部番社ノ總稱ス）　チヨアブルガ（北大武山）　サジルムジム（キナジャン社ノ後ノ山ノ名）　シニジザオ（同）　イラロゴロガ（同）　レノアラ（キナジャン社内ノ地名）　イツボガ（キナジャン溪ノ中ニ在リ）　チャノウマク（舊社ノ地）　チヨラカラカ（内文社内ノ地名）　カジャビガブ（同）　バイジス（同）　アジブジュブン（頭人家ノ庭前ニ在ル石垣）　ケナジャン（部落）　アバロアン　シナㇴイババオ　シネカヤマ（以上内文社ニ在ル地名）等

ナリ

(三)稗ニ關スル祭祀 ハ當社ニ於テ左ノ一アルノミ

收穫後祭 「マスジ・マイ」ト云ヒ社祭ニシテ二日ニ亘ル。第一日夕刻男祝頭人家ニ至リ庭前ノ「ジーガリ」(立石)ニ對シ饌ヲ供シ明日當ニ「マスジ・マイ」ノ祭祀ヲ行フヘキ旨ヲ告ケ、其翌日午前帳ヲ圍リ男祝頭人家ノ神室ニ於テ稗十本ヲ祖土ニ奉セ豚骨、豚脂及饌敷(實葉)ヲ陳シ祝シテ日ノ沈ムマテ、(一東室)「ヤバカッ」(靈棚)ノ神ニ告ク。定例ノ時ハ來リ正ニ「マスジ・マイ」ヲ行フ、願クハ全家安全ニシテ健康ナラシメ悪靈ヲシテ家内ニ入ラシムルナカレ云々」ト。而シテ其饌ヲ立石ノ背部ニ投棄ス

(四)芋ニ關スル祭祀 ハ總稱シテ「パリシ・ト・バサ」ト稱ス、蕃ノ家祭ナリ之ニ屬スルモノ左ノ如シ

(い)畑地祓除祭 「ジマジャコル」(掃ムノ義)ト稱ス。土地ノ不吉ナルモノヲ掃去ルノ意ナリト云フ。此祭ハ芋畑トスヘキ地ノ草ヲ燒拂ヒタル後畑主ハ饌骨及饌敷(相思樹ノ皮片ヲ用ヰル)ヲ持シ畑ニ至リ先ツ畑ノ土少許ヲ掘取リ附近ノ森林中ニ投シ土地ガ冷ユル樣ニ、猿、猪、鳥類、蟲類ノ來荒サヾル樣ニ祈リツヽ供フル所ノ饌ヲ其畑ニ投スルナリ

(ろ)種芋取出及植附祭 取出祭ハ「スモコジブ・ト・チノザル」(芋小屋ノ戸ヲ開クノ義)ト傳ス。本族一般ニ食料ノ芋ハ之ヲ家ニ取入ルルモ種芋トスヘキモノハ之ヲ畑中ノ小屋ニ收藏シ來年之ヲ下種スル時ニ取出ス。其間小家ノ戸ハ堅ク閉シテ開カサルモノトス。此戸ヲ開ク時ノ祭ハ家祭ニ屬シ家祝ハ先ツ芋小屋ニ至リ其戸ヲ開キ饌脂及饌敷(相思樹片ヲ用ヰル)ヲ芋ノ中ニ投シ此ヨリ當ニ之ヲ取出シテ植付クヘキ旨ヲ告ケ後之ヲ取出シテ籠中ニ入レソレヨリ畑ニ持行キ再ヒ饌脂饌敷ヲ畑ニ投シツヽ畑一面ニ芋ノ能ク出來ル樣ニ祝シ種芋數箇ヲ畑ニ下ス。終リテ一同下種ニ從フ。但シ其畑ノ一角ヲ殘シ置ク。然ルトキ

ハ巫來リ『放屁又ハ噎ヲスル者アルモ禁忌スルコトナカルヘシ』ト呪シツツ芋一個ヲ其所ニ植エ更ニ豐作ノ祈禱ヲ行ヒ饌ヲ投シテ此式ヲ終ル

(は)植附終了祭 「クマツブン・ト・タルム」(植付終了ノ義)ト云フ。種芋ヲ畑ニ下シタル後數日ヲ經テ一家ノ女戚其畑ニ赴キ鳥獸、蟲類ノ害セサル樣ニ祈リツツ饌ヲ投シテ歸ル

(に)發芽祭 「パリシ・ア・パツボク」ト云フ。芋ガ將ニ芽ヲ發セントスルトキ家祝畑ニ赴キ速ニ發芽スヘク且ツ根ノ腐ラヌ樣ニ祈ル

(ほ)收穫祭 パリシ・ヤ・イバサ」ト云フ。早朝家祝畑ニ赴キ先ツ芋三個ヲ堀取リ之ヲ燻竈ノ簀ノ上ニ載セ之ニ饌脂ヲ投シ『先ニ畑ニ下シタル物今之ヲ收穫スヘシ』ト言ヒ後一同芋ノ取入レヲ行フ

(へ)燻竈點火式 「イパボジャジク」ト云フ。始メテ芋竈ヲ開ク日ニ行フ。「ジャジク」ハ木ノ名ナリ。本族此木ノ根ヲ打タタキテ火繩ヲ作ル。故ニ「イパボジャジク」トハ始メテ火ヲ芋竈ニ點スルノ義ナルヘシ。此日竈ヲ開ク家ニハ親族來集シ手傳ヲ爲ス。其家粟餅ヲ作リテ來集者ニ分ツ。夕刻家祝竈ノ前ニ至リ饌ヲ具シ好ク乾芋ノ出來ル樣祈禱ヲ行フ

(と)種芋收藏祭 「パリシ・ヤ・チマザル」(種芋小屋ニ收藏スル祭)ト云フ。此ハ既ニ取入レタル芋ノ中ヨリ翌年ノ種子ト爲スヘキ者ヲ選出シ巫之ニ祈禱ヲ行ヒ家祝持シテ畑ニ至リ小屋ノ中ニ藏シテ其戸ヲ閉ス

第二十五　同番内獅頭社

(一)總説 當社ハ一社ニテ一祭團ヲ爲スト雖農作物ニ關スル祭祀ハ悉ク家祭ニ屬シ唯其日及禁忌ヲ同クス。而シテ粟ノ收穫後ノ祭ハ當社及ブンジジャヌ、ブリイジノ二社同日ニ行フ　家祭ハ受持ノ巫アリテ各家ヲ巡リ其家ノ家祝ト共同シテ之ヲ行フ。家祝ハ一家内ノ重ナル婦女之ニ當ル。バサラ

ジャスト稱ス　當社ニハ現時稗ニ關スル祭ナシ。左ニ小林氏ガ調査シタル粟及芋ニ關スル祭祀ヲ揭ク

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　「ポバリシアイ」ト稱ス。當日各家祝ハ畑小屋ノ前ニ至リ東方ニ向ヒボボサム（粟播種ヲ主ル神）ヲ呼ヒ饌ヲ供シ播種シタル粟ノ能ク發芽シ枯ルルコトナク能ク成長シテ豐熟スル樣ニ祈ル。了テ家族一同播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　「パリシ・ア・マスチャト」ト稱ス。當日家祝畑小屋ノ附近ニ祭畑（大サ約一坪位）ヲ作リ「ボボサム」ノ靈ヲ呼テ饌ヲ供シ粟種少許ヲ播キ『此ノ如ク播種セリ願クハ早ク芽生ヘ豐熟ナラシメヨ』ト祈ル

(は)發芽又ハ出穗ノ祈禱　粟ノ發芽セントスルトキハ「ボボ」ノ祈禱、穗ノ出テタルトキハ「パパカシ」ノ祈禱ヲ行フ。何レモ家祝粟畑ニ赴キ畑ノ中央ニテ粟神ヲ呼ヒ饌ヲ供ヘテ「粟ノ枯死スルコトナク速ニ成熟シテ多大ナル收穫アル樣ニ」ト祈リ更ニ饌ヲ粟ノ根元ニ置キ更ニ祝シテ『此ノ饌ヲシテ粟ヲ見張ラシム。願クハ鳥ノ喰荒スコトナキ樣ニ』ト祈ル

(に)收穫祭　「パリシ・ヤ・イバコ」ト稱ス。當日各家祝ハ祭畑ニ至リ粟神ヲ呼ヒ饌ヲ供シ收穫ノ多大ナランコトノ祈リ次ニ祭畑ノ粟ヲ少許摘採リ「此ノ如ク熟セリ。イサ收穫セン」ト稱ヘ先ツ畑ノ粟ノ穗一把（約二十本位）ヲ採リ畑小屋ニ納メ後家族一同摘穗ニ從フ

(ほ)收穫後祭　ハ左ノ二段ニ分ツ

(1)粟ノ入社及收藏ノ式　摘穗ヲ了レハ各家祝畑小屋ニ至リ饌ヲ供シ粟神ノ呼ヒ粟ノ摘穗ヲ了リタルニ付キ今ヨリ之ヲ社內ニ運入ルヘシ』ト告ク。之ヲ「パリシ・トソ・バッカナム」（此意ハ奮ナス）ト云フ。既ニ新

粟ヲ社内ニ運入レタルトキハ滿月ノ日ヲ期シ巫ハ受持テル各家ヲ巡リ其家祀ト共ニ奥室（大黒柱ノ下）ニテ饌ヲ供ヘポボサム及アイヤバカス（家内ヲ守ル神）ノ兩神ヲ呼ヒ『我等ハ如此收穫ヲ得之ヲ粟入櫃ニ納メントス。願クハ此粟ニ害ノナキ樣ニセラレタシ』ト祈リ後新粟ヲ倉又ハ容器ニ納ム。之ヲパリシーソ・パチアブアブアヌ」ト云フ

(2)マサルト　新粟ヲ倉ニ納メタル翌月ノ滿月ノ日ニ行フ。其次第左ノ如シ　第一日「マシサリム」ト稱シ早朝ヨリ巫ハ各家ヲ廻リ大黒柱ノ下ニ於テ饌ヲ供ヘ耕地ニ猿ノ來ルコトナク又害ヲ爲ス者ナキ樣ニ」ト祈ル　第二日ハ「プナラカ」（臼ニ入レルノ義）ノ式ヲ行フ。巫各戸ヲ訪ヒ粟五把（一把ハ拇指大）ヲ大黒柱ノ下ニ並ヘ饌ヲ供ヘ此新粟ヲポボサム、ポジーリヤヌ、パプツブジャヌ（此ノ三位共ニ穀神）及靈棚ニ捧クヘキ旨ヲ告ケ其一穗ヲ入口ノ屋上ニ、二穗ヲ奥室ノ穀倉ニ、更ニ一穗ヲ大黒柱ニ掛ケ又一穗ヲ物置場ノ芋乾籠ニ置キ殘ル一穗ヲ「カルン」（竹筒。饌ヲ容ルヽニ用ウ）ニ納ム　第三日「トマブラク・トソ・ブサム」（粟種ヲ受取ルノ義）ノ式ヲ行フ。巫ハ各戸ヲ訪ヒ其家祀ト共ニ大黒柱ノ下ニテ饌ヲ投シ「正ニ粟種ヲ受取レリ來年モ收穫多キ樣ニ」ト祈ル　第四日「イサナアジャク」ノ式ヲ行フ。巫各戸ノ奥室ニテ饌ヲ供シ『新粟ヲ用キルモ差支ナシ。平地ニ移出スルモ鹽豚ト混スルモ禁忌セス』ト唱フ。此祈禱ヲ了レハ始メテ新粟ヲ用ユルコトヲ得。此日粟餅ニテ人偶ヲ作ルコト内文社ニ同シ　第五日、プジナバダヤヌ（神ト別ルヽノ義）ノ式ヲ行フ。巫各戸ヲ訪フ。各戸豫メ餅ヲ造ル。巫大黒柱ノ下ニテ此餅數箇ト竹筒ニ入レタル酒トヲ供ヘ饌ヲ投シ穀神、家神、地神及獵場ヲ守ル靈ヲ呼ヒ「此餅ヲ供ス、故ニ我等ト我等ノ粟ヲ保護セヨ」ト祈ル　第六日ハ「マゾソアン」ノ式ヲ行フ。出獵スル社民ノ家ニテハ巫來リ大黒柱ノ下ニテ餅ヲ供ヘ獵神ヲ呼ヒ「此餅ノ與フルニ因リ我等ニ獲物ヲ與ヘヨ」ト祈ル。了テ全社ノ番丁出獵ス

(三)芋ニ關スル祭祀　當社ニ於テハ芋ニ關シテ左ノ祈禱ヲ行フ。外獅頭、チョクマリス、ブリイジ、阿乳芒等諸社ノ祭祀モ當社ニ同シト云フ

(い)開墾地祓除式　芋畑ト爲スヘク開墾シタル土地ニハ「ジマジヽクル」（拂去ルノ義）ノ祓ヲ行ヒ、各家祝燒拂ヒタル畑ノ中央ニ至リ東方ニ向テ芋神「ポチ・ジ・ヤ」ヲ呼ヒ芋ヲ供シ土地ノ冷エル樣ニ害蟲ノ來ラサル樣ニ、芋ノ見事ニ成長スル樣ニト祈ル。而シテ畑ノ土ヲ少シ掴取リ饌ト共ニ西ニ向ヒ投ク

(ろ)種芋取出式　「スモコジブ・トワ・チャジャヤス」（戸ヲ開キテ芋種ヲ採ルノ義）ト云フ。各家祝種芋小屋ノ前ニ至リ之ニ向テ饌ヲ供シ時至リタルニ付戸ヲ開キテ種芋ヲ取出シ之ヲ植附ケントス。願クハ多大ノ收穫アラシメヨト祈リ後小屋ヲ開キテ種芋ヲ取出シ家祝先ツ數箇ヲ植附ケタル後家族一同其植附ヲ爲ス

(は)芋植終了祭　「クマツブン・トソ・タルム」（植付完了ノ義）ノ祈禱ト云フ。種芋ヲ植了リタル後數日ニシテ家祝芋畑ニ至リ東方ニ向ヒ芋神ヲ呼モ饌ヲ供シ芋ヲ植了リタルニ付キ速ニ芽生ヘ鳥獸ノ害ナクトナク箕ノ如ク大キク成長セシメヨト祈ル

(に)害蟲豫防ノ祈禱　「パチ・アポア」（名稱ト事實ト一致セス疑ヲ存ス）ト云フ。芋ノ成長シタルトキ各家巫ヲ招キ大黒柱ノ下ニテ饌ヲ供シ鳥獸及蟲類ノ來リ害スルコトナキ樣ニ祈ル。此祈禱ノ日ヨリ約二箇月ニシテ其ノ收穫祭ヲ行フ

(ほ)收穫祭　「イパポジャジェ」ト云フ。芋ヲ收穫スル初ニ行フ。各戸巫ヲ招キ家祝ト共ニ畑小屋ニ至リ其中ニテ饌ヲ供シ芋神ノ靈ヲ呼ヒ『芋ハ見事ニ成長シタリ今將ニ收穫セントス而シテ一部ハ種芋ニ、一部ハ乾芋ニ爲サント欲ス』ト言ヒ了テ家族其取入ヲ行フ

(へ)種芋貯藏祭　「チャザル・ト・チャジャヤス」（種芋ヲ小屋ニ納ムルノ義）ト云フ。收穫セル芋ノ中ヨリ翌年ノ種ト爲スヘキ

モノヲ擇ヒ之ヲ種芋小屋ニ納ム。其時家祝其小屋ノ前ニ於テ芋神ヲ呼ヒ饌ヲ供シ「今將ニ此小屋ニ種芋ヲ納メントス。此「カルノブ」(草名龍舌蘭ニ似タリ。何故ニ之ヲ用ユルカ不審)ヲモ共ニ入置クヘシ。願クハ芋ノ腐敗スルコトナク他日之ヲ地ニ下シタルトキハ旭日ノ如ク見事ニ發芽セシメヨ」ト祈ル。後右ノ「カルノブ」ノ葉數葉ヲ小屋ノ床ニ敷キ其上ニ芋種ヲ置ク

第二十六　ぱりじゃお番サブデク群社

(一)總說　本群社ニ於テ農作物ニ關スル祭祀ハ二團體ニ別レテ行フコト五年祭ニ於ケルガ如シ、每祭團ニ男女ノ正祝(番語「パラカジャイ」)及ヒ副祝(番語「ポカスイ」)各一人アリ。共同祭祀ハ副女祝ノミ之ニ當リ又ハ男タル正祝及副祝之ニ當ル　家祭ハ凡テ受持ノ巫之ヲ主リ別ニ家祝ナルモノナシ　稗ニ關スル祭祀ハ其調査ヲ漏シス。當社ニ於テ安原氏ガ調査シタル粟及芋ニ關スル祭祀ノ方法ハ左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　家祭ニ屬シ各頭人家ニ於テ副女祝其主祭ト爲リ畑ニ至リ先ツ饌ヲ具シ粟神ヲ呼ヒ祈禱ヲ行ヒ約三尺五寸平方ノ地ニ播種シ翌日再ソコニ至リ饌ヲ具シテ祈禱ヲ行ヒ後水ヲ灌ク、此日各戶巫ヲ招キ其畑ニ至リ同樣ノ式ヲ行フ。畢テ全社播種ニ從フ

(ろ)播種後祭　播種ヲ了シタルトキハ各家別々ニ「ジマジクル」(土地ノ冷エル樣、害蟲ノ發生セサル樣ニ祈ル)ノ式ヲ行フ。初メ畑ニ播種スルヤ少シク其一隅ヲ殘置ク。此祭ヲ了ヘタル時其殘リタル所ニ播種ス

(は)收穫祭　共同祭ニ屬ス　第一日夕刻副女祝舊社址ニ至リ饌ヲ具シ粟神ヲ呼ヒ明日ヨリ收穫ヲ始ムヘキ由ヲ告ケテ歸ル　翌早朝副女祝畑ニ至リ粟數本ヲ拔取リテ一把ト爲シ又畑ノ中央ナル粟ヲ排シ其上ニ件ノ粟把ヲ置キ根ヲ東方ニ向ハシム。終テ全社粟取ヲ始メ正午ニ至リテ止メ午後

再取ル。此日午前ニ摘ミタル穗ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ後之ヲ午後摘ミタル穗ニ合シテ其數ヲ算シ莖ヲ切去リ之ヲ畑小屋ニ藏ス

(に)收穫後祭　祭祀五日ニ亘ル　祭祀ニ先チ各戸粟酒ヲ作ル　第一日正副ノ女祝其實內ニ於テ粟神ノ靈ヲ喚ヒ當ニ「マサルト」ヲ行フヘキ旨ヲ告ク。之ヲ「パリシア・ツムリガ」（ツムリガハ語出ノ義）ト云フ　第二日女祝先ツ家內ニ於テ新粟ニ野菜及乾芋ヲ混シテ煮テ之ヲ食ス。之ヲ「ルミジアン」（雜炊ノ義）ト云フ　各戸之ニ續テ同一事ヲ行フ　第三日各戸新酒ヲ飮ム。之ヲ「クバ・バ・ト・ビナロル」（ビナロルハ蔬ノ實ヲ母トシテ作リタル酒ノ醇）ト云フ　第四日ハ正副ノ男祝兩人パラロボ（獵神ノ祭場）ニ至リ粟莖ニ火ヲ點シテ獵獸ノ靈ヲ祭リ以テ好獵ヲ祈リ又渓ニ降リ饌ヲ投シテ豐漁ヲ祈ル。之ヲ「マブソア」（漁神ノ祭）ト云フ。ソレヨリ男子ハ同山ニ入リ狩獵ヲ行フ。之ヲ「エポコネチ」ト云フ　第五日各戸巫ヲ招キ祈禱ヲ行ヒ後新粟ノ家ノ倉庫ニ取入ル之ヲ「パリシ・ア・パサクサマノ」ト云フ

(三)芋ニ關スル祭祀　當社ニ於テハ之ニ關シ左ノ一アルノミ

收穫後祭　芋ヲ收穫シシタル後日ヲ期シ男女ノ兩祝新芋ヲ持シテ舊社址ニ至リ之ヲ小リク切リ燻キテ「アラジ」（乾芋）ヲ作リ之ヲ串ニ刺シ東ニ向ヒサジュムジ及ヒサコマンノ靈ニ供ス。祝シテ日ク「既ニ芋ヲ收了シタルニ付將ニ「ツマバ」（芋ヲ燻テ乾芋トスルコト）ヲ始メントス。今此供物ヲパラロボ（郊外ニ在ル獵神ノ靈場）ニ供シ明日ヨリ宿ヲ重ネ出獵スヘシ。願クハ好獵アラシメヨ云々」ト。斯テ其翌日出獵シ二宿シテ歸來ス。男女ノ祝、副祝ニハ獵獲物ノ股一片ツツヲ與フ

第二十七　はりじやお番高士佛社

(一)總說　當社ハ一社ヲ以テ一祭團ヲ爲シ正祝副祝共ニ男女各一名アリテ共同祭事ヲ主ル　共同

祭祀ハ舊社址内頭人家ノ舊屋ニ於テ行フ　祭祀中播種後ノ「パチカボカボアイ」及收穫後祭ノミ之ノ共同ニスルモ他ハ悉ク各家別々ニ行フ。但シ其日ハ之ヲ同一ニシテ頭人及番祝豫メ之ノ定メヲ各家ニ通知ス　小林氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(二)粟ニ關スル祭祀

(い)播種祭　家祭ニ屬シ「マスジョマイ」(稗ノ收穫後祭)ヨリ二日ノ後ニ之ヲ行フ。此日早朝各戸ノ家祝ハ畑ニ赴キ畑小屋ノ背後ニ在ル祭畑(約五六尺平方)ニ對シテ供饌シ『將ニ粟種ヲ播センドス。我等ノ祖先ヨ。如何ニ寒冷ナリトモ粟種ノ消ユルコトナク如何ニ烈暑ノ時ニモ強キコト芭蕉又ハ檳榔ノ如ク而シテ茅原ノ如クニ繁茂セシメヨ』ト祈リ祭畑ニ少許ノ粟種ヲ播キ「ラクヤス」(大ナル竹籠)ニテ之ヲ被ノ(此ノ種ヨリ粟發芽スレハ此年粟ハ豊作ナル可シト云フ。祭畑ハ後ニ至テ手入スルコトナク又此ナ收穫スルコトナシ)。此日午後ヨリ夕方マデ全社ノ男子ハ狩獵ニ赴キ其翌日ヨリ一齊ニ播種ニ從ソ　播種中耕地ニ粟飯ヲ持行クコト、落花生ヲ煎ルコト、樹木ヲ伐ルコト、獸類ヲ火ニ入ルルコト等ヲ禁忌ス

(ろ)播種後祭　全社粟ノ播種ヲ了レハ合同シテ「パチカボアボアイ」ノ祭祀ヲ行ソ　早朝ヨリ頭人ハ正副ノ番祝及衆巫ヲ率キテ舊社址ニ赴ク。先ツ男タル副祝ハ竹筒(直徑約一寸、長五六寸ニシテ祭祀用ノモノ)ヲ持チテ單獨ジヤカス(舊社ノ水源ニシテ社址ノ下方ニ在ル小溪ナリ)ニ赴キ水源ニ對シ供饌シテ曰ク『此所ニ在ス祖先ノ靈ヨ。將ニ此水ヲ汲取ラントス。願クハ此水ヲ畑ニ灌クトキハ粟ハ直ニ發芽シ速ニ成長スル樣ニ守ラセ給ヘ』ト。次ニ少シク地ヲ堀リ之ニ溪水ヲ湛ヘ更ニ之ヲ竹筒ニ滿シ附近ノ姑婆葉(番語「カゴアイ」)數枚ヲ採リ舊社址ニ持歸ル。女タル副祝ハソレマデニ粟飯少許ヲ炊キ置ク。此ニ於テ男女ノ正副祝合同シテ祈禱ノ始メ南方ニ向テ蹲踞スレハ衆巫ハ之ヲ圍ム。女副祝乃チ粟飯、水ノ入リタル竹筒及豚脂豚肉ノ供スレハ女

正祀ハ祈テ曰ク『我等ノ祖先ノ靈ヨ。此饌ヲ以テ汝等ニ與フ。願クハ我等ノ傍ニ來リテ我等ニ祟ルコトナキ様ニ、而シテ我等ガ播種セル粟ガ腐木ノ上ニモ或ハ石ノ上ニテモ見事ニ發芽シ、彼ノ山上又ハ此ノ山腹ニ一面ニ芽生ハ恰モ芭蕉ノ如ク又檳榔ノ如クニ強健ニシテ繁茂シ枯葉ノ生セサル様ニセヨ』ト。次ニ女副祀ハ男副祀ガジャカスヨリ持來リタル姑婆葉ヲ並ヘ之ニ祖靈ニ供ヘタル粟飯ノ少シツツ載セテ衆巫ニ分配シ又男副祀ハ其竹筒ノ水ヲ以テ衆巫ノ竹筒ニ分配ス。了テ諸祀及頭人ハ歸社シ衆巫ハ分配セラレタル水及粟飯ヲ持シテ社内各戸ノ畑ニ赴キ祈禱ヲ爲ス。即チ先ツ畑ノ一端ニ於テ東方ニ向ヒ粟飯ヲ供シ豚脂豚骨ヲ添ヘ竹筒ヨリ少シツツ水ヲコボシテ『此饌ヲ汝ニ與フ。願クハ祟ルコトナク云々』ト稱シ更ニ『此ノ如ク畑ニ水ヲカケタル故常ニ畑ノ濕リテ在ル樣ニ』ト祈ル　此日午後ヨリ男子ハ合同シテ狩獵ニ赴ク

(は)除草祭　「パリシ・ア・スモサライサ」(「スモサライサ」ハ間引ノ義)ト云ヒ播種後約一箇月ニシテ之ヲ行フ。先ツ各家ニ於テ畑ノ除草ヲ爲シ且ツ發芽セル粟ヲ間引ク。其日夕刻巫來リ畑ノ一端ニテ東方ニ向テ供饌シポカヌン(社民ニ粟種ヲ與ヘタル神)ノ靈ヲ呼ヒ『我等既ニ除草シ粟ノ手入ヲ爲シタルニ付地常ニ濕リテ粟ニ亦キ枯葉ノ生スルコトナク、速ニ成長大キクナリテカパイワナヌニ於ケル祖先ノ粟ノ如クニ繁茂セシメヨ』ト祈ル

(に)收穫祭　收穫ヲ始ムルトキ(當社ハ夜收穫ヲ始ム。其理由ヲ知ラサレトモ之ヲ犯セハ病ヲ得ルト)各戸任意ニ巫ヲ招キ此ノ祭祀ヲ行フ　其式家族ノ者全部其家ノ奥室ニ集リ南方ニ向テ列坐スレハ巫ハ各人ニ對シテ饌脂ノ投シ『靜肅ニシテ收穫ヲ始メヨ。速ニ收穫シ「バオジ」(葛ノ一種)ニテ之ヲ縛シ立木ノ下ニ積上ケヨ。遲クナレハ惡靈來リテ之ヲ採ルヘシ』ト言ヒ又『畑ニ居ル鳥獸及蟲類ヨ。我等ハ將ニ收穫ニ赴カントス。故ニ直ニ其所

ヲ去レ』ト言フ。然後其家ノ男子一名乃至數名炬火ヲ持チテ畑ニ赴キ其一把（一把ハ一握ノ大サ）ヲ摘取リ祖靈ヲ呼ヒ『此粟ハアマリニ不出來ナリ。故ニ今少シ見事ナ物ニ爲セ』ト稱フ。其夜ハ畑小屋ニ宿シ翌朝ヨリ家族畑ニ赴キ收穫ニ從フ　收穫中ハ大聲疾呼スルコトヲ禁忌ス

(ほ)收穫後祭　全社收穫ヲ了レハ合同シテ「マサルト」ヲ行フ。期間五日其次第左ノ如シ

第一日「ヤケジン・ト・キナジャン」（社ニ元氣ヲ付ケル義）ト云フ。此日早朝ヨリ兩頭人、番祝及衆巫ハ其ノ舊社址ニ赴ク。先ツ男副祝ハ祭室内ノ靈棚ニ供饌スレハ男主祝南方ニ向ヒ「カダオナクマテノ靈ヲ呼ヒ」、今日ヨリ「マサルト」ヲ行フヘキニ付其來テ社民ニ元氣ヲ附センコト」ヲ祈リ「オーローロロロート」呼フコト三回ス（是神靈ヲ呼フナリト云フ）。次ニ副祝饌ヲ取テ靈棚（「タビ」）ニ納メ「ツツ」此ヲ汝ニ與フ」ト稱フレハ女主祝ハ祈テ曰ク「惡靈ヲ去ラシメヨ、而シテ我等ニ幸ヲ與ヘヨ」ト。了テ歸社ス

第二日「ルミジ・ソス」（雜炊ヲ作ル義）ノ式ヲ行フ。此日ハ男女ノ主祝及副祝ノミ舊社址ニ赴キ男副祝先ツ祭屋ニ供饌スレハ男主祝祈テ『我等ノ祖先竝ニカダオナクマテノ靈ヨ、我等ハ汝等ノ定メタル慣習ニ依テ祭祀ヲ行フ。願クハ本年モ亦豐作ナラシメヨ』ト祈ル。次ニ女副祝供饌スレハ女主祝ハ「願クハ汝等神靈ノ力ニ依リテ惡靈ヲ去ラシメヨ。而シテ我等ヲシテ常ニ元氣ヽシテ幸福ナラシメヨ」ト稱ヘ了テ歸社ス

第三日「イサナアジャク」ノ式ヲ行フ。早朝兩頭人ヲ始メ男女ノ主祝及副祝竝ニ銃器ヲ所有セル社民ノミ舊社址ニ赴ク。女主祝東方ニ向テ供饌シ「コレヲ禁地ニ在ル惡靈ニ與フ。我等ノ祖靈ヨ。願クハ我等ニ惡靈ノ祟ルコトナキ樣ニ惡靈ヲ追拂ヒ我等ヲシテ常ニ元氣ニシテ多幸ナラシメヨ」ト祈ル　了テ「バリシ・トソ・コソン」（銃ニ對スル祈禱）ヲ行フ。一同銃器ヲ祭屋内ノ土間ニ陳列スレハ女主祝之ニ對シ北方

ニ向ヒテ供饌シ「獵神ヨ、本年モ亦常ニ多獲ニシテ我等ヲシテ多幸ナラシメヨ而シテ狩獵ノ時負傷スルコトナキ様ニ保護セラレヨ」ト祈リ次ニ其饌ヲ投シツツ銃器ヲ撫ヒ「銃器ニ死靈ノ祟アラハ速ニ去レ。將來我等ノ銃器ハ他社ノモノニ劣ルコトナク常ニ多穫ナラシメヨ」ト稱フ。ソレヨリ更ニ各銃器ノ臺尻ニ少許ノ饌脂ヲ塗附ケツツ「祖先ノ靈及獵場ノ神ヨ。常ニ男子ヲシテ幸アラシメヨ」ト祈ル。了テ女主祀ハ室外ニ出テ其ノ饌ノ一片ヲ東方ニ向テ投シ更ニ室内ニ歸リテ一片ヲ壁間ニ置キ再ヒ室外ニ出テ巫神及神靈ヲ呼ヒ各之ニ一片ヲ投シ祈精ヲ了ル　午後ヨリ壯丁等ハ合同狩獵ヲ行ヒ夕方ニ歸社ス　此日ハ兩黨各其部下ノ或一家ニテ（此ノ家二戸アリ毎年交代ス）粟ヲ持寄リ粟餅ヲ以テ人偶ヲ作ルリマチャク家ノ部下ハソレニ頭布ヲ卷キ種々ノ頭飾ヲ附シテ女偶ト爲シマジカス家ノ部下ハソレニ胸飾ヲ施シ頭ニ鷹ノ羽根ヲ付ケテ男偶ト爲ス。而シテ之ヲ作リタル兩宗ノ女ハ此夜ヨリ毎夜右ノ人偶ヲ負ヒテ頭人家、補佐役家、勢力者又ハ老番ノ家ヲ訪フ。社民ハ種々ノ裝飾品ヲ貸シテ之ヲ飾ラシム

第四日ハ「ルマスジ・ト・リジ」カジ」プヌ」（獵場ヲ整理スルノ義）ノ式ヲ行フ。番祀四名及狩獵ニ赴ク一ノ番丁ハ早朝舊社址ニ赴ク男副祀先ツ供饌スレハ男主祀東方ニ向テ「オー・ルマスジアガ・ト・カジ、カジ、ブス」ト大聲三度繰返シ更ニ「オーロロロロー」ト叫フ。次ニ女主祀「粟ノ收穫終了シ年更レリ我等ノ祖靈ヨ我等ハ汝ノ定メタル習慣ニ依リ狩獵ヲ行ハントス。願クハ我等ヲシテ幸運ナラシメヨ」ト祈リ午後ヨリ狩獵ヲ行フ

第五日「マブソアヌ」ト稱シ早朝ヨリ全社ノ壯丁ハ合同シテ東方ニ向テ出獵シ夕ニ歸社ス

(三)稗ニ關スル祭祀　當社ニ於テハ之ニ關シテ左ノ一アルノミ

收穫後祭。 毎年三月頃粟ノ播種前ニ之ヲ行フ。祭祀四日。了リテ出獵スルコト六日間。其次第左ノ如シ

第一日「ヤケジン・トワ・ジュマイ」(稗ニ供饌スルノ義)ト稱ス。此日早朝ヨリ兩頭人、番祝及衆巫等舊社址ニ赴ク。男副祝祭屋ニ入リ靈棚ニ供饌スレハ男主祝南方ニ向ヒ大聲ニテ祖靈ヲ呼ヒ『來レ祖靈ヨ、來リテ稗ニ力ヲ附ケヨ』ト信ヒ次ニ「オーロロロロー」ト叫フコト三回ス。次ニ女副祝祭屋内ニテ南方ニ向テ奠饌スレハ女主祝ハ祖先及穀神ノ靈ヲ呼ヒ『將ニ播種スヘキニ付我社ノ稗種及粟種ニ力ヲ與ヘヨ。願クハ昔時汝等ノ作リタルガ如キ見事ナルモノヲ作ラシメヨ』ト祈リ了テ一同歸來ス(余ガ嘗テ調査シタル所ニ依レハ此日稗一本ナ持シ行キ祈禱ノ後祭屋ノ屋根ニ挿置クト云フ)

第二日「イルガルガヌ」(懸命或ハ努力スルノ義)又ハ「ヤケジン・ト・ツマス」(靈ニ供饌スルノ義)ト稱ス。兩頭人番祝及衆巫前日同樣舊社址ニ赴ク。祭屋内ニ於テ女主祝自ラ南方ニ向テ奠饌シ『今日懸命ニ祈禱ヲ行ヒテ祖先ノ加護ヲ祈求セントス。祖靈願クハ惡靈ヲ拂ヒ我等ノ社ノ耕地及我等ノ社民ヲシテ幸アラシメヨ』又溺死、慘死其他不經ニ死亡シタル者ノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ『汝等ニ與フルニ此饌ヲ以テス。故ニ遠ク去テ遠慮セヨ。汝等妄ニ我等ニ近寄ルコトナカレ』ト唱フ

第三日「スマノアジャク」ノ祈禱ヲ行フ。此日頭人番祝及衆巫ハ銃器ヲ所有スル番丁ト共ニ舊社址ニ赴ク。先ツ祭屋内ニテ南方ニ向テ各自ノ銃器ヲ陳ス(頭人家ノ銃器ハ右端トス)。女主祝此等ノ銃器ノ前ニシ南方ニ向テ蹲踞スレハ衆之ニ從フ。女主祝乃供饌シ惡靈ヲ呼ヒ『今日ハ「スマノアジャク」ノ日ナリ。汝ニ此饌ヲ與フルニ因リ直ニ去レ。我等ノ祖先ガ上天ヨリ我等ニ讓ラレタル穀類ニ祟ルコトナカレ。又汝等ハ我等ヨリ先キニ獵場ニ赴クコトナカレ』ト云ヒ。祖先ノ靈ニ對シテハ『願クハ惡靈ヲ去ラシメ而シテ

我等ニ獵ノ幸ヲ與ヘヨ」ト祈ル。了テ衆丁各自ノ銃ヲ取リ男主祀ハ長サ五寸程ノ枯木ニ火ヲ點シ之ヲ右手ニ持チ自己ノ銃ヲ左手ニシテ祭屋ヨリ出ツレハ衆之ニ續ク。男主祀乃右手ノ炬ヲ高クシ南方ニ向テ「オーロロロロー」ト叫フコト三回。了テ頭人以下一衆狩獵ヲ行ヒ夕刻ニ歸社ス

第四日ハ「マスジ・トソ・カジャケジープ」（獵場ヲ整フル義ト云フ）ト稱シ前日ト同様ノ祈禱ヲ繰返シ了テ狩獵ヲ行ヒ夕刻ニ歸社ス

第五日ヨリ六日間毎日早朝ヨリ狩獵ヲ行ヒ夕刻歸社シ六日目ノ夜ハ全社其獲物ノ肉ヲ以テ酒宴ヲ開ク

(四)芋ニ關スル祭祀　當社ニ於テハ之ニ關シ唯植付祭アルノミ。當社ニハ乾芋ヲ作ラス

植付祭　「バリシ・トソ・チャジャヤヌ」（芋種ニ對スル祈禱）ト云フ。芋ヲ下種スル場合ニ各戸巫ヲ招キ、巫ハ畑小屋ノ前ニテ芋種ニ對シテ獸脂ヲ投シ「此芋種ハ之ヲ植付レハ速ニ發芽シ枯ルヽコトナク又腐敗ニ[illegible]トナクシテ見事ニ成長シ他人ノ羨ム様ニ榮ハコト」ト祈リ了テ之ヲ植初ム

第二目　其他ノ農作物ニ關スル祭祀

本族ガ主タル農作物即粟稗及芋ニ付キ古來其祭祀ノ行ヒ來リタルハ既ニ前目ニ記述シタル所ノ如シ。此外ニ諸社ノ内ニハ様仔、檳榔、柑橘等ノ果樹、番薯、落花生等ノ農作物ニ付テモ其祈禱及禁忌ヲ有スルモノアリ。茲ニ此等ニ付キ其概要ヲ述記ス

第一　果樹ニ關スル祭祀

(一)總說　本族ハ檳榔、様仔、柑橘其他ノ果樹ニ對シ其成長、結實、除蟲、防盜等ノ祈禱ノ為ス事アリ。其檳榔ノ為ニスルヲ「パリシ・トア・サビキ」、様仔ノ為ニスルヲ「パリシ・トソ・カマヤ」、柑橘ノ為メニスルヲ「パリ

シ・トソ・バヂチ「ク」ト云フ。上記ノ祭祀ハ悉ク家祭ニ屬シ其家祝（男又女）之ヲ主リ又ハ巫ヲ呼テ行ハシム

（二）祭祀ノ方法　此祭祀ハ番社ニ依テハ全ク之ヲ行ハサル所アリ。又之ヲ行フニシテモ甲種ノ祭ノミニシテ乙種丙種ノ祭ヲ爲ササルモノアリ。其法式モ亦區々タリ。左ニ若干番社ニ行ハルル其一斑ヲ記ス

（い）菓樹ノ成長ヲ祈ルモノ　北ばいわん番リキリキ社ニ於テ新ニ檳榔ノ種子ヲ播スルトキ又ハ其苗ヲ移植スルトキハ饌（脂骨）ヲ供シ其盛ニ成長センコトヲ祈ル　ぶつる番カザギザッ及下パイワッ社ニ於テハ毎年稗又ハ饌ヲ收穫シタル後各家ノ女祝或ハ巫ハ前庭ニ出テ石垣ノ所ニテ東ニ向ヒタカラウスノ靈ヲ呼ヒ饌（脂、骨及「ポートー」ノ葉）ヲ投シツツ其樹ヲ保護シ日蔭ヲ爲ス程ニ其葉ノ繁茂センコトヲ祈ル之ヲ「スマヌ・ラウラウン」（ラウラウンハ日蔭ノ義）ト云フ

（ろ）菓樹ノ結實ヲ祈ルモノ　ぶつる番トクブジ社ニ於テハ家祝茅ニテ菓樹ノ根元ニ綿布ノ小片ヲ結着ケ其菓ノ能ク成熟シ美味ト爲ル樣ニ祈ル　同番カザギラヌ社ニ於テハ男タル家祝日暮ニ檳榔園ニ至リ各樹ニ粟飯ヲ塗附シ且饌ヲ投シ樹ノ繁茂シ結實シ而シテ落チサル樣ニ祈ル　同番マカザヤザヤ社ニ於テハ家祝粟飯ヲ其幹ニ塗附シ且「ポロチ」（邦語犬蝨）ヲ捉來リ之ヲ以テ其根ヲ敲キ此「ポロチ」ノ如ク多子ナランコトヲ祈ル　北ばいわん番チャジャカブス社ニ於テハ饌（骨三片及脂）ヲ其根ニ結附ケ「プル」（犬蝨）ノ如ク多ク實レト祝ス　ぱりじやお番高士佛社ニ於テハ檳榔ノ樹ニ蟲鳥ノ害附キ結實セサルトキハ巫ヲ招ク。巫ハ其樹下ニ饌ヲ供シ『今祖先ヨリ傳ハレル此樹ヲ祓フ。此樹ノ如ク實ラサルモノハ子孫ニ讓ルノ要ナシ。社神ノ靈願クハ蟲鳥又ハ栗鼠ノ害ヲ除キ毎年木ノ曲ル程結實セシメヨ』ト祈リ藤條ニテ饌骨三片ヲ其根元ニ縛ス

(は)果樹ノ蟲害及盗害ヲ防クモノ　こぼし番諸社ニ於テハ車蔦葉ヲ以テ果樹ノ幹ヲ纏ヒ之ニ饌脂ヲ入レタル竹筒ト饌骨ヲ吊シ「其樹ニ害蟲ノ附着セサル様、盗人ノ觸レヌ様」ニ祈ル　同番内文社ニ於テハ「クマロアヌ（ばから番ノ巫）ハ檳榔子一箇ヲ二ツニ割リタルモノ及石灰ヲ荖葉ニ包ミ（番人及土人ノ檳榔子ヲ喫スル者此様ニシテ之チ口ニ入レ噛テ其汁ヲ吐ク）之ト二粒ノ珠子（南京玉）トヲ果樹ノ根ニ置キ其畑ノ周圍ニ繩張（番語「コレツシ」）ヲ施シ以テ盗害ヲ防クノ禁厭トス。之ヲ「バリシ・ト・クミジン」ト云フ。若シ人其繩張内ニ立入ルトキハ腹痛ヲ起シ又ハ腹膨レテ歩ムニ艱ムト云フ　同番内獅頭社ニ於テハ檳榔子カ結實シタルトキハ其家ノ男覡其園内ニ最多ク實リタル樹ヲ選ヒ其根元ニ饌ヲ供シ其樹ノ地上約六尺位ノ所ニ珠仔一條ヲ捲着シ他ノ樹ニ珠仔數粒ヲ投付ケ此果ヲ盗ミタル者ハ腹痛ヲ起スヘシト呪ス

第二　稻、番藷、落花生等ニ關スル祭祀

(一)稻ニ關スルモノ　るかい、ぶつる、ばいわ諸番ニ於テ稻ハ古來一般ニ其耕作ヲ禁忌トナリ。従テ今日ニ至ル迄之ニ關スル祭祀ナシ　上さりせぬ及らばるノ南番ニ於テハ此禁忌ナク陸稻ヲ作リ之ヲ以テ主食物トシタリ。然レトモ未タ之ガ祭祀ヲ行ノニ至ラス。唯上さりせぬ番ノ諸社ニ於テ之ヲ播種スル間ト草取スル間トハ各數日間他社ト交通ヲ禁忌スルノミ近代はもじお番（「サブデアク」社ヲ主タル部）ハ土人ニ倣ヒテ既ニ水田ヲ開キ其他ノ部族モ政府ノ勸誘ニ由リ漸ク水田ノ耕作ニ從ハントシツツアレトモ未タ其祭祀ヲ創ムルニ至ラス

(二)落花生及番藷ニ關スル祭祀　落花生及番藷ハ本族固有ノ農作物ニ非ス。從テ之カ祭祀ヲ行ノコトナシ。唯或番社ニ於テハ其下種又ハ收穫ノ時ニ之ヲ芋ニ準シテ他人ト語ヲ交ユルコト、他人ノ食物ヲ食スルコト及他人ニ物品又ハ火ヲ與フルコトヲ禁忌スルコトアリ。ぶつる番ガザザノ社ノ

如シ 近時五年祭ノ時毬ヲ突クニ特ニ此落花生ヲ多穫スルノ幸ヲ祈ルコトアリごはし、ばりじお兩番ノ如シ

第四項 首狩、狩獵及漁撈ニ關スル祭祀

第一目 首狩ニ關スル祭祀

凡ソ戰鬪ニ關スル祭祀ハ大體ニ於テ出陣祭、凱旋祭、（敵ノ首級歡迎）首級收藏祭及首棚例祭ノ四トス此等何レモ一黨又ハ一社團ノ共同ニ行フ祭祀ニ屬シ男女ノ番祝ニ依テ之ヲ行フ

第一 出陣祭

出陣ニ關スル祭祀ハ總稱シテ「パリシ・タ・マキナサパ」ト稱ス 此等ノ祭祀ニ付テハ後門第二章中戰鬪ノ部ニ於テ出陣及凱旋ノ方式ト題シテ說述スヘク此所ニハ其概略ヲ記ス

（一）元氣ヲ附スル祈禱 凡ソ一衆ガ出陣セントスル時ニハ先ツ其黨ノ祭屋（頭人家ノ什屋又ハ舊屋）又ハ首棚ノ前ニ集リ黨祝（男又ハ女。社ニ依テ異リ）神靈（祖神、社神又ハ古代勇士ノ靈）ヲ祭リ「其一行ニ元氣ヲ附シ能ク敵ノ首級ヲ得テ凱旋セシメンコト」ヲ祈ル。但シらばる、ぶつる反北ばいわぬ番ノ諸社中ニハ全ク此祭ヲ行ハサルモノモ少カラス

祭祀ノ方式ハ社ニ依テ多少異ル所アリ。左ニばりじお番サブデク群社老番ヨリ聞得タル所ヲ揭ク。同社ニ於テハ出草者一同其黨ノ首棚ノ前ニ集ル。此時男祝首棚ニ對シ饌ヲ投シ祝シテ曰ク「イザ行カンパザヤザヤ（古代ノ勇士）イザ行カンパジ（同上）。今我等ハ汝ト共ニ出草ニ赴カン。願クハ我等ヲ保護セヨ。又チャカラウス（天神）ヨ。汝ハ天ヨリ降テ我等ヲ保護セヨ、首棚ニ在ル諸靈ヨ、汝等ハ伴侶ヲ戀フナラン、我等今行カハ汝等ノ伴侶ヲ取來ルヘシ、而シテ此等ヲ社神ノ靈ニ供シテ「スマッカジャ」（首級ヲ收藏スル式）ヲ行ハ

ン。其時ニハ汝等ニモ酒肉ヲ食ハシテ喜ハシメン」ト。次ニ頭人及番丁等ニモ饌ヲ投シテ祝シテ曰ク「我汝ニ元氣ヲ附ス。汝等皆悉ク元氣ヲ得タリ。敵地ニ至ランニ敵我等ニ對シテ發銃セントスルモ其丸決シテ發セサルヘシ」ト　斯テ頭人ヲ先頭ニ補佐役、男祝、代管ソレ等ニ續テ番丁ト序ノ爲シテ敵地ニ向テ進ム

(附記)此祭祀ニ用ツル祝詞ハ一樣ナラス。本文ニハ唯其一例ヲ示シタルノミ高士佛社老番ハ下ノ如ク傳ヘタリ「今日汝等男子ニ元氣ヲ附ス。汝等ガ敵ト戰フ時ニハ汝等ノ身ハ石ノ如ク敵ノ矢ハソレニ中リテハネカヘルヘク決シテ汝等ヲ傷ツクコトナカルヘシ。汝等ノ父祖ノ靈ハ汝等ノ身ニ宿セリ。祖神タルサウマイ、サジムジノ靈ハ汝等子孫ノ路筋ヲ保護シ給ヒカダトナクマ子ハ能ク汝等被造者(人民ナ云フ)ヲ照シ給ハン。故ニ汝等ハ決シテ恐ルルコトナカレ。神ハ凡テニ幸福アラシメ給ハン。敵ト會戰スル時ニハ敵ニ幸ナク味方ニ幸多カラン。イザ行ケ男子等元氣旺盛ナレ』

(二)敵魂ヲ招ク祈禱　凡ソ出草シテ敵前近クニ至レハ其中ノ主帥若ハ重立チタル番丁一人敵ノ方ニ向ヒ饌(多クハ豚脂)ヲ兩手ニ持シ之ヲ以テ敵ヲ招クノ狀ヲ爲シ「今汝ニ此ノ饌ノ與ノ故ニ速ニ來リ食ヘヨ』ト云ヒ之ヲ投ス。之ヲ「カケブ・ト・カジャ」又ハ「ツンブジ、トカジャ」ト云フ敵靈ヲ招ヘ呼ノノ義ナリ此ノ祈禱ヲ行フトキハ能ク敵ノ首級ヲ獲得スヘシト云フ。然後一行ハ直ニ敵社ニ向テ進發シ或ハ要撃スヘキ地點ニ就キ其來ルヲ待ツ

(三)凱旋ノ途中ニ於ケル祭祀　凡ソ敵ノ首級ヲ得タルトキハ之ヲ持シテ安全ノ地マテ引返シ此所ニ其首級ニ饌ヲ供シ招魂(汝ノ父母及兄弟等ナモ伴ヒ來レト曰フ)ノ式ヲ行ヒソレヨリ部落近クニ來リタルトキハ茅ニ

火ヲ點シ其上ヲ跨キ或ハ其周圍ヲ周リテ社內ニ入ル。是敵地ヨリ出草者ニ附テ來レル惡靈ノ社內ニ入ルヲ防ガンガ爲ナリトソ

第二　凱旋祭並首級收藏祭

(一)總說　敵ノ首級ヲ持シテ歸社シタルトキハ先ツ其首級ニ對シ酒食ヲ供シ敵靈ヲ歡迎スルノ式ヲ行ヒ後之ヲ一定ノ場所ニ放置シ或ハ地中ニ埋メ或ハ之ヲ燒テ其皮肉ヲ去リ日ヲ期シテ之ヲ首棚ニ收藏ス。此時一衆飲宴歌踊以テ歡ヲ盡ス。首棚ニ收藏スル祭祀ヲ「スマヌカジヌ」(敵ヲ片附クルノ義)ト云フ　本族ハ敵ノ首級ニ對シ決シテ侮辱ヲ加フル等ノコトヲ爲サス。之ヲ持歸ルヤ恰モ珍客ノ訪問ヲ受ケタルガ如ク之ガ爲ニ酒ヲ釀シ豚ヲ屠リ十分ニ款待スルノ禮ヲ盡ス。是然カセサレハ將來ニ他ノ首級ヲ馘取スルコトヲ得スト信スルニ因ルナリ　首棚ノ構造ハ一樣ニ非ス。之ニ付テハ後章第一款中頭顱棚ノ部ニ於テ詳說スヘシ

首級收藏祭ハ首級ヲ得タル毎ニ之ヲ行フヲ普通トスレト之ニハ多大ノ費用ヲ要スルモノナルヲ以テ番社ニ依テハ(こばじ番內文社ノ如シ)首級ノ數箇集ルヲ待テ合シテ之ヲ行フモノモアリ

本祭ノ方式ハ番社ニ依リ多少異ル所アリ。左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ揭ク

(二)上きりせぬ番マか社　ニ於テハ敵ノ首級ヲ獲タルトキハ第一着ニ敵ニ射中シ又ハ刺シタル者(マか社語「パテシセオ」)タル者豚ヲ屠リ他ノ番丁ハ餅ヲ搗キ頭人ダリキ家ノ外庭ニ於テ歌踊ヲ行ソ。此時其ノ第一着者首頭ヲ取ル。ソレヨリ其首級ヲ持シテ公廨ニ至リ之ヲ置キ翌日床下ヲ堀テ之ヲ埋メ一箇月ノ後之ヲ堀出シテ公廨ノ屋上ニ在ル木ノ先端ニ突刺シ置キ若干月ノ後取卸シテ棄去ル　トナ社モ亦之ニ同シ。唯其堀出シタル首級ヲ東方社外ノ大樹ノ枝ニ刺シ或ハ頭人家ノ窓下ニ置クヲ異

リトスルノミ

(三)るかい番プダイ社ニ於テ敵ノ首級ヲ獲テ歸來シタルトキハ其口ニ僅肉ヲ食ハシメ之ヲ首棚(當社ノ首棚ハ「ハリアリアル」)ノ中ニ藏ス。ソレヨリ全社酒ヲ釀シ三日ノ後番丁集合シテ歌踊ヲ行ヒ了テ飲宴ス此時ノ歌ハ先ツ「アイ・ヘイ・ヘイ・コヘー」ト調子ヲ緩々低ク謠ヒ初メ一同之ニ和シテ踊ル。其詞ハ左ノ如シ(タラマカウ駐在所西浦巡査調)

コワラーダ　ラウサイ　タキブラバース　ラウサイ(イザ祭ラン兄弟ヨイザ踊ラン兄弟ヨ)(此ハ音頭取ノ者ニ歌フ)

マダナニ　コリラーイ　ヤーナクラース(今少シ待テクレ。今ニ死者ニ對シテ能ク話スヘシ)(此ハ馘首者ノ歌ヒシモノ)

マダカリブレーブ　マララーラ(汝等茲ニ來リ我等ノ友ト爲レリ將來永ク相親マン)(此ハ首級ニ對シテ言フ詞ナリ)

(四)ぶつる番タラバヲジ群社　當群社ニハ三黨アレトモ凱旋祭ヲ共同ニス　敵番ノ首級ヲ取リ歸リタルトキハ之ヲ社内ニ入レス郊外ノ樹枝ニ掛ケテ之ニ「カルブ」(餅)ヲ食ハセソレヨリ毎餐飯二三粒ヲ口ニ含マシメ二三日ノ後出ニ持行キ石棚(兩狀)ヲ作リテ其中ニ藏ス。然後全社ノ番丁頭人タバトルム家(當社頭人中最古キ家柄)ニ至リ其前庭ニ於テ歌踊ヲ行フ。此時第一若者先起テ「何所ニ於テ某ガ馘シ又某ガ馘首シタリ」ト唱ヘ衆之ニ和シテ踊ル　若シ漢族ノ首級ヲ取リタルトキハ持シ歸リ社内ニ入リ首棚ニ納レ「カルブ」ヲ食ハシメソレヨリ毎餐飯二三粒ヲ食ハセ二三日ノ後畑ニ持行キ石棚ヲ作リ其中ニ入レテ之ヲ焼キ其皮肉ヲ去リ後持シテ頭人家ニ持來リ其前庭ニ置キ一同之ヲ圍テ歌踊シ(此時第一若者音頭ヲ取ル)後各人之ニ酒ヲ灌キソレヨリ之ヲ社口ノ石垣ノ穴(番語「タルム」)ニ藏ス

(五)同番下パイワヌ社ニ於テハ各黨別々ニ首棚ヲ有シ此祭祀モ亦別々ニ行フ。此日黨ノ番丁一同首棚ノ前ニ集リ先ツ豚ヲ屠リ其首級ニ供シソレヨリ首級ヲ首棚ノ中ニ收メ後粟藁ヲ焼キテ招魂ノ

行ヒ終テ一同飲宴ス。翌日「マゾソアィ」ヲ行フ

(六)同番カサザラン社ニ於テハ(小林氏調査)全社ノ諸黨共同シテ此祭ヲ行フ 先ツ敵ノ首級ヲ持歸リタルトキハ其兩耳朶ニ「カルブ」ヲ附ケテチャリロ(當社郊外ニ在ル森地)ニ埋ム。翌日モ再出草シ獲ル所アレハ又「カルブ」ヲ附ケテ同地ニ埋ム。獲ル所ナケレハ其日ヨリ其家及親族ノ家ニテハ粟ヲ搗キ酒ヲ醸シ餅ヲ作ル。二三日シテ酒成レハ祭祀ヲ行フ。左ニ其次第ヲ掲ク

第一日馘首者ハチャリロニ埋メタル首級ヲ掘出シ之ヲララテヤヌ(當社ノ東方ニ在ル水源地)ニ持行キ腐肉ヲ洗落シ之ヲ頭人ノ一ナルクダルン家(古代當社ノ祝タリシ家柄)ニ持行ク。此時其ガ漢族ノ首級ナルトキハ頭人家ヨリ酒一甕ヲ與ヘ馘首者ハ番刀一本ヲ納レテ謝ト爲ス。此日全社ノ男女盛裝シテ集來リ馘首者ハ黨祝ト共ニ其ノ首級ヲ前庭ノ中央ニ置キ其周圍ニ酒甕、粟餅、粟飯等ヲ陳シ男子一同之ヲ圍ミ祝首級ニ對シテ供饌ス(若シ首級ガ番族ノモノナルトキハ頭人ノミ立會フ)番祝及首級ニ對シ祝シテ曰ク『汝一人ニテ寂シカラン、汝ノ兩親、兒女及親族ヲモ伴來レ』ト。ソレヨリ第一着者立チ錐ヲ以テ首級ノ上部縫合線ノ起點ノ左右ニ二箇ノ小孔ヲ穿ツ。(是實ハ多數番丁ノ出草シタル場合ニ誰ガ果シテ其首級ニ對シ第一着ノ攻撃ヲ與ヘタルヤニ付爭ノ生シタル場合ニ之ヲ決スル爲ニ行フ一ノ法ナリ。眞ニ能ク第一着ニ攻撃ヲ與ヘタル者ナラハ能ク此孔ヲ穿チ得ヘキモ然ラサル者ナラハ錐滑リテ頭骨ヲ穿チ得スト云フ)。又上顎ノ左右ニモ各一箇ノ小孔ヲ穿ツ。畢テ一同首級ヲ圍テ飲宴歌踊ス。夜ニ至レハ黨祝月桃製ノ小籠ニ其首級ヲ納レクダルン家入口ノ石壁ニ長キ樹枝ヲ挿シ之ニ件ノ籠ヲ吊下ケ一同解散ス

第二日ハ「トマロム」(植ユルノ義。蓋シ首級ヲ埋ムルノ意ナルヘシ)ト稱ス。全社民未明ヨリクダルン家ニ集ル。黨祝件ノ籠ヲ卸シ首級ヲ取出シ庭ノ中央ニ置キ酒甕、餅及飯ヲ陳シ首級ヲ祭リ祝スルコト前日ノ如シ。畢テ飲宴歌踊ス 午後ニ至リ黨祝馘首者ト共ニ其首級ヲ持シエテナラ(當社内ニ在ル林地)ニ埋ム若シ漢人ノ首級ナラハ

ハ之ヲ公廨又ハ馘首者ノ家ノ石壁ノ孔ニ藏ス
第三日ハ「スモジール」(平和ヲ破ル義)ト稱ス。全社ノ壯丁狩獵又ハ出草ニ赴ク。出草ニ赴キ獲ル所アラハ再此祭祀ヲ反覆ス。此日女子ノ他社ニ赴クコトヲ禁ス
第四日ハ「スマノ・カキアヤマ」ト稱シ黨祝クダルン家ニ赴キ石柵ノ靈位ニ對シ供ヲ捧ケ「將來出草スル時ニハ「シシル」(占鳥)ガ能ク其ノ行ノ吉凶ヲ知ラセクルル樣ニ」ト祈ル
第五日ハ「マブソア」ト稱シ狩獵ヲ行フ　以上祭祀五日其間耕作セス紡織セス婚議ヲ行ハス[illegible]ノ掃除ヲ爲サス

(七)北はいわ番チジカブス社　ニ於テ此祭ハ「スマノ・ジジア」ト云フ「ジジア」ハ當社ニ於テ小サキ石造ノ小屋ナリ。當社ニハ首棚ヲ設ケス。敵ノ首級ハ馘首者ノ家ノ軒下ニ此(小屋)ヲ作リテ之ニ藏ス故ニ此祭ヲ「スマノ・ジジア」ト稱ス　持歸リタル首級ハ馘首者ノ前庭ニ置キ全社ノ壯丁之ヲ圍ミテ跳踊フ行ヒ夜半ニ至リテ解散ス。翌日其家ニ於テハ酒ヲ釀シ件ノ首級ヲ前庭ノ一隅ニ埋ム　酒成ルトキハ豚二頭ヲ屠リ頭人及親族知友ヲ招ク。此日首級ヲ堀出シ顔面ノ部ヲ切去リ(是顔面[illegible]ト云フ)其餘ノ部分ノ腐肉ヲ洗去リ前庭ノ軒下ニ石板ヲ以テ方一尺程[illegible]ニ開ヒテ之ニ其首級ヲ納メ馘首者自饌ヲ投シ祝シテ曰ク「我等ハ豚ヲ屠リタリ汝ノ家ヲ作テ汝ヲ入レタリ而シテ汝ニ饌ヲ與ヘテ食ハシメタリ。サレト汝一人ニテハ寂シカルヘシ汝ノ父母兄弟ヲモ作來レ」ト言フ。畢テ一同飲宴歌踊歡ヲ盡ス。何故カ此日ノ豚頭人ノ之ヲ食スルコトヲ禁忌ス

(八)同番ボかりド社　ニ於テ持歸リタル首級ハ先ツ之ヲ「テジ」ト稱スル石積(組ノ義、現社在所ノ下方ニ在リ。高約三尺巾四尺長六尺程ノ石積ナリ)ニ置ク。然ルトキハ全社ノ壯丁集來リ之ヲ圍ミテ數回「イヤオー」ヲ叫ヒソレヨリ座ハ「ビヤ

シ」（鎌ノ皮）ヲ投シ粟藁ノ火ヲ點シテ招魂ヲ行フ。曰ク「汝ハ茲ニ肉ヲ食シ酒ヲ飲ム可シ。汝等酒食ヲ好ムナラン。汝ハ我命スル如クニ汝ノ父母兄弟ヲモ呼來レ」ト。畢テ馘首者其首級ヲ持シ自家ノ背小屋ニ吊下ケ上ヨリ笠ヲ被セ置ク　翌日巫來リ首級ニ「ビアク」ヲ供シ再ヒ前日ト同樣ノ祈禱ヲ行フ　其翌日首級ヲ一定ノ所（五年祭ノ時「マブソアヌ」ノ祭ヲ行フ所ナリ）ニ埋ム。此日各戸酒ヲ釀ス　酒成リタルトキハ「スマカジャ」ノ式ヲ擧ク。其次第左ノ如シ

第一日ハ「ルマケット」（首級ヲ洗フノ義）ト稱ス。馘首者首級ヲ堀出シ水源地ニ持行キ之ヲ洗ヒソレヲ持歸リテ自家ノ前庭ニ置ク。全社壯丁來集シ飲宴ス　第二日ハ「トマルマ・パサ・タビ」（棚ニ藏スルノ義）ト稱ス。馘首者ハ首級ト小豚一頭、酒一甕ヲ持シ社祝ト共ニ首棚ノ前ニ赴ク。祝其首級ヲ取テ棚ニ納レソレヨリ豚ヲ屠リテ胴切トシ頭部ヲ首棚ノ上方ニ投シ下部ヲ下方ニ投ケ招魂ノ辭ヲ爲シ畢テ一同飲宴歌踊ス　第三日ハ「イサナアジャ」ト稱ス。巫馘首者ノ家ニ赴キ入口ニテ「ビアク」ヲ投シテ招魂ノ辭ヲ爲シ畢テ一同飲宴ス　第四日ハ「スムウザイ」（休憩ノ義）ト稱ス。何事ヲモ爲サス。全社飲宴ス　第五日「マブソアヌ」（出獵祭）ヲ行ヒ一同狩獵ニ赴ク

九、同蕃リキリキ社ニ於テハ首級ヲ持歸リタルトキハ先ツ頭人家ノ舊屋（祭屋）ニ持行キ「パソボカ」（出會セシムルノ義）ノ祈禱ヲ行フ。其法馘首者首級ヲ屋ノ前庭中央ニ置キ薪ニ火ヲ點シ之ヲ持シテ其傍ニ立ツ。巫首級ニ對シ饌ヲ供シテ祝シテ「此後モ再我等ヲシテ敵ニ出會セシメヨ。而シテ首級ヲ獲セシメヨ」ト曰ヘハ馘首者跳テ其首級上ヲ超ヘ復ヒ跳テ越戻ル。畢テ首級ヲ前庭ノ榕樹ノ枝ニ突キ刺ス（或ハ枝ヲ切リ之ヲ地ニ立テ其上ニ首級ヲ突揷スコトモアリ）。此日社民男女老幼皆集來リテ之ヲ見ル。一同家ニ歸リ直ニ釀酒ニ着手ス　翌日早朝馘首者ハ再頭人家ノ舊屋ニ赴キ首級ヲ取リ之ヲ社外ニ持行キテ捨テ去ルカ又ハ自家ニ

持歸リテ其前壁ノ穴ニ藏ス　數日ノ後酒成ルヲ待テ「スマノアラ」ノ式ヲ行フ（小林氏調査）第一日「クマシサリム」ト稱ス。此日頭人及社民酒肉若干ヲ携ヘテ祭屋ノ前ニ集合シ、正午來リ庭ノ中央ニ立チ祭屋ニ向ヒ豚骨數片、黍數葉ヲ供シ『茲ニ汝被殺者ニ食ハシム』ト唱ヒ畢テ一同飲宴歡語ス　第二日ハ「スマノアジャ」ト稱ス。前日ト同樣ノ祈禱ヲ爲シ後酒宴ヲ行フ　第三日ハ「ブツテ」ト稱シ一同狩獵ニ赴ク

(附記)現時當社ハ敵ノ首級ヲ首棚ニ藏セサルモ此ハ舊慣ニ非ス古來ノ慣例ハヤハリ他ノ蕃社ノ如ク之ヲ其首棚ニ藏メタルナリ。サレハコソ當社ニ於テモ此祭ヲ「スマヽ・カジ」ト稱スルナレ

(十)同番スボン群社　ニ於テハ首級ヲ持歸リタルトキハ先ツ之ヲ部外ノ林中ニ置ク　ソレヨリ日ヲ定メテ收藏祭ヲ行フ。其期間四日ニ亘ル　第一日ハ首棚ノ中ニ新ナル穴(圖)ヲ掘鑿ス　第二日ハ其首級ヲ取テ之ニ納レ畢テ「スマナジャク」ノ祈禱ヲ行フ　第三日ハ馘首者ノ家ニ戻テ豚ヲ屠リ粟莖ヲ燃シテ招魂ヲ行ヒ前庭ノ石垣ニ函狀ノ穴ヲ設ケ茲ニ死者ノ靈ヲ安ス。之ヲ「スマ・ジャカメ」ト云フ。「ジャジカメ」ハ其靈穴ヲ云フナリ　第四日ハ全社ノ銃器ヲ集メ之ニ對シテ「スマヽ・トヨツソ」ノ祈禱ヲ行ヒ其銃ノ利ナランコトヲ祈ル

(十一)こぼじ番諸社　本番ニハチユールン、ロバニヤツ、パサラコブ、ルツグサカブルンノ五黨アリ古代ハ別々ニ首級收藏祭ヲ行ヒタレト現時ハチユールン、ロバニヤウ兩家ニノミ行ヒ他ノ三黨ハ此兩家ノ一ニ共同シテ之ヲ行フ

本番ニ於テ此祭祀ハ其式頗ル嚴重ナリ。而シテ大正二年余ガロバニヤウ黨頭人ノ弟ブジャジユヤヌニ就テ調査シタル所ハ其翌年ニ安原氏ガチユールン黨ノ老番ニ就テ調査シタル所ト相異ルコト少カ

ラスヾ今頻ヲ厭ハス兩ナガラ之ヲ記述セリ。彼此相對照セハ庶幾クハ其正鵠ヲ得ンカ

(い)凱旋祭　ハ各黨別々ニ行フ

(1)**内文社**　今ロバニヤウ黨ノ凱旋式ニ付テ說述ス。チュールン黨モ大體之ニ同シ

本番ニ於テ出草者ガ敵ノ首級ヲ獲テ凱旋シタルトキハ先ツ之ヲ首架ノ後ニ持行キ之ニ對シ粟甕ノ火ヲ以テ招魂ヲ行ヒ後其頭髮ヲ取リ去リ又少許ヲ粟藁ト共ニ棚中ノ一穴ニ納ル。ソレヨリ其首級ヲ携ヘロバニヤウ（自黨頭人）家女祝ノ家及他ノ兩頭人（チールン及パサラコブ）ノ家ニ至リテ一々之ヲ示シテ後屋根ノ上ニ置ク（是蓋シ古代ニ於テ屋根ヨリ轉落セシメタル形式ナルヘシ）ソレヨリ郊外一定ノ禁林（リスリスアマト稱ス）ニ持行キ樹枝ノ先端ヲ切リテ其尖ニ串ス。之ヲ「ツマルハ・ト・コロ」（頭ヲ埋ムル義。蓋シ古代ハ之ヲ地ニ埋メテ皮肉ノ腐去ルヲ待チタルナルヘシ）ト云フ。ソレヨリ歸來リ自黨頭人家ノ前庭ニ於テ踊ル。頭人及女祝亦之ニ列ス。次ニ女祝ノ家及チ、パ兩頭人其他社内ノ家ヲ踊巡リソレヨリ自家ニ歸リ彼ノ首級ヨリ取リタル毛髮ニ豚脂ヲ供ス。出草者ガ内文社外ノ者ナルトキハソレヨリ自社ニ歸リ其代管ノ家ニ入リ件ノ毛髮ニ酒ヲ供シ後全社ヲ踊廻ハル　此日豚ヲ屠リソレヨリ狩獵ニ赴ク。而シテ其首級ハ他日頭人家ヨリ收藏祭ヲ行フヘキ通知アリタル時ニ之ヲ同家ニ持參スルモノトス

然レトモ若シ頭人ノ命ニ依ラス又頭人ノ許諾ヲ受ケスシテ私ニ出草シタル場合ニハ敵ノ首級ヲ獲ルモ直ニ之ヲ頭人方ニ持來スコトヲ得ス。竊ニ自社附近ノ草原ニ放置シ他日收藏祭ノ行ハルル前日ニ往テ頭人ニ贖財シテ其ノ宥免ヲ受ケサルヘカラス。是私自ノ出草ハ屢累ヲ頭人及社民ニ及ホシ頭人ハ之ガ爲ニ官ヨリ責罰セラレ社民ハ之ガ爲ニ被害民番ヨリ復讎セラルルニ因ルナリ。故ニ本番ニ於テ黨民私自ノ出草ハ決シテ其首級ヲ頭人ニ示スコトナク頭人モ亦之ヲ知テ知ラサル爲

ネシ事後ノ成行如何ヲ見ル

(2)內獅頭社　馘首者ハ歸宅シテ其首級ヲ酒壺ニ沈メ自ラ其酒ヲ飲ミ又他ノ勇士ニモ飲マシム此酒ヲ「バ、バートリ・リヌブルバヌ・タ・コロ」(首ナ入レタル酒ノ義)ト云フ次ニ其首級ヲ持チジヤジスアン(社外西方ノ山腹ニ在ル禁林)ニ赴キ樹枝ヲ數尺ノ長サニ切リ之ニ首級ヲ突刺シテ地上ニ立ツ而シテ之ニ供饌シテ「此豚脂ヲ汝ニ食ハシム此ハ汝ノ食物ナリ」ト日ヒツツ豚脂ヲ首級ノ頭髮ニ結付ケテ歸ル　他日ロバニヤウ家ニ於テ首級收藏祭ヲ行フトキ出草シタル一行ハ伴ノ首級ヲ持シテ內文社ニ赴キ其祭ニ加ハル(小林氏調査)

(ろ)首級收藏祭

(1)ロバニヤウ黨ノ祭式　余ノ親シク調査シタル所下ノ如シ　祭祀前ノ日夕刻多數ノ馘首者ハ各其曝白セラレタル首級ヲ持シテ頭人家ニ來リ之ヲ其前庭ニ陳ス若シ其首級ガ土人ナルトキハ其鬚髮ヲモ添フヘク又分捕シタル物アルトキハ同時ニ之ヲ頭人ニ示スヘシ尚馘得者ハ此時頭人ニ對シ禮トシテ一ノ首級ニ付キ酒二瓢ヲ呈スヘキモノトス

此日私自ニ出草シタル者ハ若干瓢ノ酒ヲ携ヘ頭人家ニ至リ其所爲ヲ自白シテ追認ヲ求ム頭人之ヲ受ケス其無斷ニ出草セルコトヲ責ム該人去テ男親ノ許ニ至リ酒三瓢ヲ呈シテ追認ヲ求ム親亦之ヲ受ケスシテ叱責ス該人答ヘテ「其後幸ニ事ナカリキ故ニ許サレヨ」ト哀求シ酒一瓢ヲ增ス親尚肯セス該人更ニ一瓢ヲ增ス親乃該人ヲ伴ヒ酒一瓢ヲ持シテ頭人家ニ至リ其追認ヲ求メ頭人之ヲ諾スレハ人ヲ親ノ家ニ遣リ前ニ與ヘタル四瓢ノ酒ヲ取寄セ之ヲ頭人家ノ大甕ノ中ニ移ス ソレヨリ該人ハ更ニ酒二瓢ヲ携ヘテ其家ニ至リ之ヲ呈ス頭人之ヲ受ケス「知ラス汝ノ頭人家ノ意思如何

ヲ』ト曰フ。該人乃我頭人既ニ諾シタリト告クレハ子家ノ頭人モ「然ラハ我モ亦異議ナシ」トテ之ヲ受ク。斯シテ此ノ私ニ出草シタル者モ漸ク勇者トシテ明日ノ祭儀ニ參列スルコトヲ得ルナリ

祭祀第一日多數出草團員中三名ヲ選ヒ各酒一瓢ヲ携ヘテ子黨頭人家ニ至リ其内ノ一人先ツ鷹ノ羽ヲ其家ノ屋根ニ挿シソレヨリ三人家ニ入リ瓢酒ヲ頭人ニ呈ス。頭人之ヲ受クレハ一人其家ノ「カバン」（木製ノ箱）ノ蓋ヲ取ル。是「アプジュ」（其中頭ニ蒙ル布片）ヲ取去ルノ義ナリ。子黨頭人其三人ノ頭布ヲ取去リ「ジャカラオ」（草花ヲ以テ編ミタル頭箍）ニ土人ノ辮髮ヲ附シタル者ヲ被ラシム（此「ジャカラオ」ハ三人ガ持參セル所ノモノナリ）三人其家ヲ出ツルヤ一衆「オー」ト喊キ相合シテ歌踊ヲ行ヒ三周シテ止ム。ソレヨリ其三人ハ又各酒一瓢ヲ携ヘテ順次ニ男祝タコベリ家及自黨頭人家ニ至リ同一ノ事ヲ行フ　次ニ馘首者ハ頭人家ノ屋根ニ登リ「オー」ト喊スルコト三回。降來リテ踊リ三周シテ止ム。ソレヨリ家ニ入リ陳列セル辮髮ニ酒ヲ灌キ（番語「ズマカイ・トゾ・ケヌチ」）ソレヨリ屋外ニ出テ豚ヲ刺シ其血ヲ以テ首級ニ供シ（番語「シニチャバヌ」）後之ヲ首棚ニ藏ス。而テ豚ハ解體シテ一半ハ頭人ニ、一半ハ男祝ニ與フ（番語「シニパカジイ」）。頭人其中ノ背部及前脚ヲ取リテ馘首團ニ與ヘ祝ハ其半ヲ取リテ來會者ニ與フ　次ニ馘首者ノ一團粟藁ニ火ヲ點シ頭人家ノ奧室ヲ三周シ毎回饌ヲ以テ「アイヤパカッ」（髏棚）ニ供ス。ソレヨリ出テ家ノ周圍ヲ三周シ毎回粟藁一本ヅツヲ外庭ニ置ク。稱シテ「ツンブジ」ト云フ。煙ヲ以テ靈ヲ招ク義ナリ　次ニ馘首者ノ一團各酒一瓢ヲ以テ男祝ニ與フレハ男祝「ジャイジャイ」（鷹ノ羽。之ヲ頭ニ挿シテ勇子ノ表彰トス）ヲ以テ戰功者ノ頭ニ挿ス。若シ既ニ「ジャイジャイ」ヲ有スルモノナル・トキハ「ビスビス」（土人ノ辮髮）ヲ其刀ニ附ス。（「パジャイジャイ」及「パビスビス」ノ取得資格ニ付テハ第二門第三章中戰鬪ノ部ニ於テ說述スヘシ）　次ニ馘首團一同ニテ歌踊ヲ行フ。此時ノ歌踊ハ「マジャジュヤナヌ」ト稱シ馘首者ガ「我ハ何處ニテ首ヲ得キ」又ハ『我強ク幾許ノ首ヲ得タリ』ト自ラ其戰功ヲ讚シ誇ルナリ。衆之ニ和シテ歌ヒ且踊ル。踊ルコト三周ノ後頭人

及祝來リ私ノ出草者ニ對シ形式的ノ折檻ヲ行フ。卽チ其出草者ノ頭髮ヲ捽シ叱シテ曰ク「汝等敢テスモジャル（平和ヲ破ルコト）ヲ爲ス。以後之ヲ戒メヨ」トテ頭ニ一拳ヲ與フ。皆曰ク「敢テ再ヒセス。將來能ク頭人及祝ノ命ニ遵フヘシ」トテ事解ク。是頭人ノ命ニ從ハス私ニ出草ヲ爲シタルニ因リ責ムルナリ。コレヨリ頭人モ祝モ其中ニ混シテ盛ニ踊ル。尙頭人ヨリハ多量ノ酒ヲ出シテ興ヲ助ク

第二日「パリシ・ト・キナジャン」（社神祭）ヲ行フ。內文社ハ各戸未明ニ火ヲ改ム、家ニ於テハ小豚ヲ屠リテ黨頭人ニ分ツ。各之ヲ筴ニ入レテ庭前ノ樹枝ニ吊シ以テ祖靈ニ供ス　第三日頭人家ニ於テ豚ヲ屠リ「イサナジャク」ノ祈禱ヲ行フ。肉ハ之ヲ衆丁ニ分ツ

（乙）予黨ノ祭式　安原氏ノ調査シタル所下ノ如シ　前一日夕刻ニ各勇士ハ各曾テ馘得セル首級ヲ携ヘテ自黨頭人ノ家ニ聚ル。此時首一級ニ付キ豚一頭及酒一瓢ヲ持參スルコトヲ要ス。其酒ハ之ヲ頭人ニ呈ス。首級ハ之ヲ頭人家ノ前庭ニ陳シ翌日未明ニ黨ノ女祝之ニ對シ「ツメブン」（[illegible]）ノ式ヲ行フ。出草者中ニテ三人ノ勇士卽「ナコムテ」（敵ヲ射殺シタル者）又ハ「ナジマジプ」（頭ヲ突キタル者）ハ「ナジセロ」（首ヲ[illegible]タル者）及「ナブリスビス」（頭髮ヲ攫ミタル者卽携ヘ歸リタル者）ハ明日ノ祭祀ニ參列シ親シク首級ヲ首棚ニ納メ而シテ勇士タル表章ヲ授與セラル

第一日早朝「ナジモロ」（敵首ヲ斬落シタル者）豚ノ喉ヲ刺シソレヨリ迸出スル血ヲ首級ニ灌キツツ「ヤバン・ト・カジャ」（敵ヲ滯留セシムル義）ノ歌ヲ謠ノ曰ク「ヤオー　スチラカジャ　イニパナリユーアガタ　トナール　ル・ト・ロバニヤウ　イニヤバス　ピニツブジャガタ　オレハサ「サカル　オレパサパヾヤナ」（此語巧ニ敵ヲ討取リタリ我未ダ家及ロ家ニ對シテ閒違ヒアラス既ニ敵ノ首級ヲ滯留セシメ其靈ヲ煙招セリ。今當ニ首ヲ首棚ニ集藏シ靈ヲシテ「バヾヤナ」ニ安スヘシ）トテ首級ヲ取テ首棚ノ穴ニ置ス。ソレヨリ豚ヲ解キ首棚ノ前ニ大笠ヲ置キ之ニ其頭部、前脚及後脚ト外ニ數多ノ饌ヲ陳シ以テ諸靈ニ供ス。其餘

肉ハ之ヲ頭人以下諸人ニ分配ス。「ナジモロ」ハ豚ノ股一本ヲ取リテ之ヲ右手ニシ左ニ粟藁ニ火ヲ點シタルヲ持シ東ニ向ヒテ「ツンブジ」（煙ヲ以テ靈ヲ招ク）ヲ行フ　右終テ「バリシ・ト・キナジャン」（社神祭）ヲ行ヒソレヨリ一同酒ヲ持シ頭人ノ宅ニ聚リ宴ヲ開ク

其翌日早朝出草關係者ハチャリパン家（モト頭人家ナレトモ婚姻ニ因リチ家ニ併合セラル。其住屋チ家ニ隣接ス）ノ舊址ニ集リ巫之ニ對シ「ライサナジャク」（社民平安祭）ヲ行フ。祝詞ニ日ク「タカ゚ウシニカケブ。チャヌスヌナケナジャンモレスマヌアジャク。トマラボナボン　サマラスジアカ゚サマジツク　サパポロクム。ノバイク（譯。汝社神ニ告ク。今蕃民ノ爲ニ「マナジャク」ノ祈禱ヲ行ノ既ニ社內ヲ整理シタリ。既ニ元氣ヨク道ヲ行キ得ル樣ニ爲シタリ）ト（「マラボナボン」苗ノ義ニシテ此所ニテハ部下タル民ナ云フ）「スマナジャク」ノ祈禱ヲ行フ。既ニ社內ヲ整理シタリ。終テ各員粟藁ニ火ヲ點シ之ヲ携ヘテチ家ノ住家ノ周圍ヲ左ヨリ右ニリテジャジア家ノ舊宅ニ入リ茲ニ粟藁ヲ置キテチャリパン家ニ入リ引續キ同一ノ事ヲ反覆スルコト三回ニシテ止ム。此式ハ各自「エーヤオー」「エーヤオー」ト懸聲シツツ左ニ先ヲ爭ヒテ走リ後ヨリ突倒サルルアリ前ノ人ニ躓クアリ亦一種ノ奇觀タリト云フ終テ女祝此等ノ壯丁ニ對シ元氣ヲ附スルノ祈禱ヲ行ヒ了テ「ナコムチ」ハ酒一瓢ヲ携ヘ男祝ノ許ニ至リ日ク「既ニ贖財セリ。續クハズマイジャイ（鷹ノ羽ナ頭ニ挿スコト）ヲ得ン」ト祝之ヲ諾シ拳ヲ振ヒ形式的ニ其者ノ背ヲ打ツコト三回。然ル後粟藁ヲ以テ彼ノ頭ニ挿ス　ソレヨリ引續キ一同ニテ盛宴ヲ開キ歌踊ヲ行フ。此時ナコムチ立テ「スモボ・ト・ケヌチ」（馘首シタル數ヲ算スル義）ノ歌ヲ唱ヘテ解散ス。其歌左ノ如シ

オーエ　タポロク　ウシニジャロアヌ　ロコイシボロカ゚ヌ（十箇ノ敵ノ首級ナ頭人家ノ棟木ヨリ轉カシタル義）蓋シ古代敵ノ首級ヲ取リタルトキハ之ヲ頭人家ノ屋根ニ上ケテ轉落セシムル慣習アリタリ。十箇ハ其多キヲ誇ルナリ

オーエ　マサルア・シボロガイ　ジャイパサジリジリン（頭人喜テ酒壺ヲ持來リテ我ニ飲マセタリノ意）「ジリン」ハ酒壺ナリ。

蓋シ出草ヨリ歸來セハ頭人酒壺ヲ出スノ習慣アルガ故ナリ

オーエ　テチューールン。テロバニヤウ　ロコワヌ・ト・デナロワヌ（チ家及ロ家ノ屋根ニ敵首ヲ轉セリ）

第三　首棚例年祭

毎年「マサルト」（粟收穫後祭）ノ後ニ首棚ヲ祭ル之ヲ「パリシ・ヌ・サカル」又ハ「キパカイシャーサキ」ト云フ既ニ粟ニ關スル祭祀ノ内ニ述ヘタル所ナルモ茲ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ニヨリ右ノ内ニ漏レタル所ヲ補フ

(一)トきりせぬ番マガ社　當社ニハ別ニ首棚ナキ故敵ノ首級ハ之ヲ公廨ニ置キタリ而シテ每年一回公廨ノ屋根ヲ葺換フルトキ各社ノ青年ニテ醵出シ豚一頭ヲ求メ當日之ヲ刺シ（青年團長ノ任トス）各人其右手ノ食指ヲ血ニ浸シ之ヲ以テ公廨ノ柱ニ塗付ケ後携ヘ來リタル餅及肉ヲ食フ此際別ニ出草ニ關スル祝詞ヲ稱ヘスト雖モ此祭祀ハ古代ハ首級ニ對シテ行ヒタルモノナルヘシト思フ

(二)ぶつる番タラバサジ社　每年マサルトノ後番視豚ヲ屠テ首棚ヲ祭ル之ヲキメカーシャーイヤトト云フ

(三)北はいわ番チ・シカブス社　當社ニハ首棚ヲ設ケス敵ノ首級ハ部外一定ノ場所ニ石板ヲ以テ圍ヒ（番語「ジ、ジャア」ト稱ス石造ノ小サキ靈屋ナリ）之ニ藏ス每年ノ「マサルト」ノ後又ハ五年祭ノ時ニ馘首者ハ特ニ酒ヲ釀シ之ヲ持シテ其場所ニ至リ右ノ石屋ニ其酒ト豚脂ヲ供ス

第二目　狩獵ニ關スル祭祀

狩獵ニ關スル祭祀ニハ狩獵前ニ同獵ノ神又ハ獵獸ノ靈ヲ祭ルモノ（獵前祭）ト獵獲シタル後其獲物ノ

祭ルモノ（狩獵後祭）ト、毎年定期又ハ臨時ニ獵獸ノ靈棚ヲ祭ルモノトアリ。尚獵獲物ノ祭ルモノニハ鷹、豹ノ如キ本族ニ於テ靈鳥若ハ靈獸トセルモノヲ祭ルト、猪鹿羗羊等ノ如キ本族ノ所謂「サツムル」（通常ノ獵獸）ヲ祭ルトノ別アリ

第一　狩獵前及後ニ行フ祭祀

凡テ狩獵前ニハ祖靈又ハ獵神ノ靈ヲ祭リ或ハ野獸ノ魂ヲ招キテ其多獲ナランコトヲ祈ルヲ多シトス。又鹿羗猪羊等ヲ獲テ歸リタルトキハ之ヲ祭リテ將來ノ好獵ヲ祈ルヲ常トス　此等祭祀ノ名稱場所及方法ハ各社區々タリ。左ニ重ナル番社ニ就キテ調査シタル所ヲ掲ク（一ヲ除キ小林氏調査）但シ此中ニ「マブソア」ト稱スル祭祀即五年祭ノ前祭又ハ後祭、粟又ハ稗ノ收穫後祭、社神祭等ノ末日ニ行フモノハ既ニ各該祭祀ノ條下ニ於テ述ヘタルヲ以テ茲ニ之ヲ省ク

(一)るかい番ダデル社　共同狩獵ノ場合ニハ毎回其出發ニ際シ其團體中ニテ一人ノ老人ヲ選ヒテ主祭トシ社外ノ休憩所ニ於テ石三個ヲ立テ之ニ黍ヲ供シテ獵獸ノ靈ヲ祭リ好獵ヲ祈ル。ソレヨリ社外ニ小屋掛ヲ爲シテ一泊シ翌朝鳥古ヲ行ヒ古吉ナレハ出發シ凶ナレハ再泊シテ翌朝再ヒ鳥古ヲ行フ。狩獵ハ十日モカカルコトアリ　別ニ狩獵後ノ祭ナシ

(二)ブダイ社　狩獵ニ關スル祭祀ナシ。唯出獵中家族ノ者等其ノ禁忌ヲ守ルヘキノミ

(三)ぶつる番トクブジ社　ニ於テ共同狩獵ノ時ハ一同郊外ノ休憩所ニ集リ此所ニテ其重立タル老番小刀ニテ豚皮ヲ切リ之ヲ以テ天ニ投シツツ「ナクマテ」ヲ呼ヒ之ニ對シ獵ノ多獲ヲ祈リ然後出發ス　狩獵後ノ祭祀ナシ。唯猪鹿羊等所謂「サツムル」ヲ射獲シタル者ハ其頭部ヲ取リ之ヲ食スル時ニ祝シテ「我等ハ多ク獲テ歸來レリ。願クハ將來モ尚此ノ如ク好運ナラシメヨ」ト曰フノミ

(四)同番カザザラヌ及マカザヤザヤノ兩社ニ於テハ別ニ出獵前ノ祭ナシ　出獵シテ猪鹿ヲ獲タルトキニ「ブナリド」(此意審ニナラス)ト云フ祭祀ヲ行フ獲物ヲ奥室ニ持込ミ之ヲ竈ノ方ニ頭ノ向フ樣ニ置キ家族中ノ男子(獵シタル者ニ限ラス)之ニ對シ饌ヲ投シテ「汝ノ子父母夫婦ヲモ皆伴ヒ來レ」ト言ヒツツ室外ニ出テ饌ノ一部ヲ入口ノ屋根ニ置キ再室內ニ入リ前ト同シコトヲ繰返ス。斯クスルコト五回ニシテ止ム了テ獸ノ頭部ヲ切離シ之ヲ細切シ煮テ家族ノ男子ノミニテ食フ。此祈禱中婦女ハ室外ニ逃ク。新婦ノ夫亦同シ

(五)北はいわ番チジャカフス社ニ於テ

(い)前祭　數名ニテ狩獵ヲ行フ場合ニハ巫ヲ伴ヒテタオマヌ(舊社址ニシテ現社ノ西方ニ在リ)ニ赴キ「ハリシ・タ・アーマジョブ」(狩獵祭)ヲ行フ。此所ニテ巫ハ其祭饌ヲ取リテ出獵者ノ背負袋ノ內ニ入レ祝シテ曰ク「パト・コリ(此ノ如ク用意シタリ)バテラバ。パヲサイ・ト・ツカジャプ(刀ニ帶ヒタリ)。サアジ・ナガ(取ラス)。ステヌラナガ(飼ヒタル)。ト・マラヤ(鷹ニ司ル神)ラヤ、タヴマラセガ(鹿ニ司ル神)、タウマリウミ(猪ニ司ル神)」ト畢テ一同出獵ス　或ハ此ノ如キ祭ヲ行ハス獵小屋又ハ途中ノ休憩所ニ於テ一人ノ長者天ニ對シ「カルム」ヲ投シ「タカラツス」ノ靈ヲ呼ヒ其好獵ヲ祈ルニ過キサルモノモアリ

(ろ)後祭　獵獲者ハ歸途一塊ノ肉ヲ以テ途中ノ石ヲ拭ヒ招魂ノ法ヲ行ヒ獵獸ノ靈ヲ呼ヒ曰ク「汝ノ父母モ兄弟モ伴ヒ來レ』ト　ソレヨリ獵獲者ハ社ニ歸リ巫ヲ招キテ再ヒパリシ・タ・サツムル(獵獸祭ノ義)ヲ行フ。即チ其獲タル獸ノ頭ヲ家ノ入口ニ置キ巫ハ之ニ肝及肺ノ一部ト共ニヒアクヲ供シ粟藁ノ火ヲ持シ之ヲ振リツツ曰ク「汝一人ニテ寂シカルヘシ、此火ヲ見テ汝ノ兄弟モ父母モ後ヨリ來ルヘシ云々』ト稱フ

(六)北はいわ番ボタリヴ社ニ於テハ出獵前別ニ祭ヲ行ハス　出獵後スマス・サツムル(獵獸ニ片付ル意)

ノ祭ヲ行フ、卽チ獵獲者自ラ獸ノ頭ヲ切リ離シ之ヲ轝ニ乘セ奧室ニ置キ(該人所有ノ方ナリ切リタルトキハ自ラ之ヲ行ヒ然ラサルトキハ巫ヲ招ク)茅莖ニ火ヲ點シテ獸ノ毛ヲ少シ燒キ「ビヤク」ヲ投シテ招魂ノ語ヲ爲ス

(七)同番リキリキ社ニ於テ共同出獵ノ場合ニハ「パリシ・タ・スマノカジ、カジ、プン」(獸獲物ニ片附クル祭)ヲ行フ、此日早朝男祝先ツ單獨ニテ郊外ノ禁地(場所ハ必シモ一定セス)ニ赴キ粟餅少許ヲ供シ『來レ獵獸ヲ司ル諸靈、來テ此餅ヲ食ヘ、而シテ今日我等ニ多クノ獵獲アラシメヨ』ト祈リテ歸社シ又巫ハ舊頭人家ノ奧室ニ於テ餅ヲ供シ饌ヲ投シ『來レ祖靈ヨ。來テ粟餅ヲ食スヘシ。他ノ諸靈ニハ既ニ男祝カ與ヘテ食セシメタリ。願クハ今日我等ニ好獵アラシメヨ』ト稱ヘ了テ一同出獵ス　狩獵後ノ祭ナシ唯歸社ノ途次出獵前ニ祈禱ヲ爲シタル禁地ニ立寄リ獲物ノ肉少許ヲ投棄スルニ過キス

(八)同番チェーババオコワバル兩社ニ於テ

(い)前祭　多數ノ社民合同シテ出獵スル時ニ限リ之ヲ行フ、卽チ一行獵場ニ着ケハ頭人先ツ其附近ニ在ル靈棚(獸靈ヲ祭ル小石柵)ニ饌ヲ投シ「我等ハ狩獵ノ爲メニ仕度シタリ。願クハ猪鹿ニ能ク出合ハシメヨ」ト祈リ後更ニ饌ヲ以テ棚ノ上ニ載セ又其內ニ納ム

(ろ)後祭　ハリシ・トツ・ハスクズ(一、スクスハ休憩セシムル義ナリ)ト稱シ其黨ノ頭人自之ヲ行フ、卽チ獲物ヲ持シテ頭人家ニ至リ其前房ニ置ケハ頭人之ニ對シテ蹲リ饌ヲ投シテ曰ク汝ニ此美饌ヲ食ハシム。常ニ汝ノ兄弟ヲシテ山ニ、崖ニ或ハ獵場ニ來ラシメヨ」ト。了リテ其獵物ヲ解體シ分配ス

(九)同番スボン社ニ於テ前祭ハコワバル社ニ同シ。後祭ハ「スマノ・サツムル」ト稱シ獵獲者ノ家ニ於テ行フ。卽チ獲物ヲ奧室ニ置キ之ニ對シテ相思樹ノ皮數片ニ一々豚脂ヲ付シタルヲ供ヘテ之ヲ祭リ尙其一片ツツヲ以テ常ニ銃器ヲ置ク所、室ノ奧方及前庭ニ投ス。何等唱フル所ナシ(若シ狩獵者其式ヲ辨セサルトキ

キハ巫ヲ招キテ之ヲ行フ）

(十)こぼじ番內文社　ニ於テ前祭ハ略コツバル、スボン兩社ノ法ニ同シ　後祭ニ付安原氏ノ調査シタル所左ノ如シ　狩獵ノ一行ガ歸來セルトキハ巫ハ之ヲ社ノ入口ニ迎ヘ一束ノ粟莖ニ火ヲ點シタルヲ取テ地ニ置ケハ一同之ヲ跨キテ社ニ入ル。是獵地ヨリ惡靈ノ人ニ附從シ來ルヲ防キ入レシメサルノ意ナリ。次ニ巫ハ供饌(思思樹ノ皮片。脂、骨ノ小片)ヲ供シ左右ノ兩手ニ粟莖ノ火ヲ持シ交互ニ之ヲ周シツツ唱ヘテ『粟種ノ神ヨ。芋種ノ神ヨ。願クハ狩獵ヲ以テ穰ト爲スコトナリレ』ト言ヒ後其儀ヲ地ニ投棄ス。是狩獵ヲ爲シタルガ爲メニ粟又芋ニ不作ヲ來サザル樣穀神ニ祈ルナリ終テ女祝ハ木目獸ヲ射又ハ刺シタル者ノ家ニ至リ「ブナリド」ノ祈禱ヲ行フ。射殺者自ラ儀ヲ具シ巫ハ粟莖數本ニ火ヲ點シ之ヲ取テ「ツンブジ」(煙ヲ以テ靈ヲ喚フ)ヲ行ヒ先ツ『鳥獸ヲ造出シタル神、獵場ヲ司ル神、其他諸獸ノ諸靈ヨ』ト數句ヲ述ヘ獸ノ顎ヲ煮、肉ヲ剝キ骨ノミトシテ之ヲ家ノ外房ノ屋根裏ニ掛ケ其肉ノ小量ヲ細片トシ之ヲ地ニ打ツケツツ更ニ語ヲ續ケテ『雨ノ降ルガ如クザアザアト音タテテ多數ニ來レ。斷崖ヲ崩シテク如クガラガラト音タテテ速ニ來レ。家ノ奧マテ。而シテ家族ノ諸靈モ頭人家ノ諸靈モ亦』ト唱フ。一行中ニ獸ヲ刺射シタル者數人アルトキハ各其ノ家ニ於テ同一ノ祈禱ヲ行フ

(十一)ぱりじゃお番高士佛社　ニ於テハ別ニ出發前ニ祭ヲ行ハス　尤鹿鳴等ヲ獲テ歸リタル時ハ巫ヲ招キ「ツマガオ・トソ・イナラプ」(獲物ヲ報知スルノ義)ノ祭ヲ行フ。其法獵獲者先ヅ其獸ノ解體ヲ爲シ次ニ巫ハ獸ノ兩耳ノ間ノ皮ヲ少シ切リ之ヲ持チテ同室ニ入リ炊事場ノ前ニ於テ小刀ヲ以テ少シツツ之ヲ切リツツ『獵神ヨ。汝ヨリ與ヘラレタル獸ハ獵祖(香語「[illegible]」)トシテ之ヲ汝ニ返却ス。願クハ將來モ毎ニ此ノ如ク獲物アラシメヨ』ト稱フ

第二　鷹豹又ハ熊ヲ獲タル時ニ行フ祭祀

(一)鷹ニ對スル祭祀　鷹(番語「カリス」)ハ本族ニ於テ靈鳥ト爲シ之ヲ社內ニテ捕獲スルコトヲ禁忌ス。然レトモ郊外ニテ捕獲シタルトキハ之ヲ人ノ首級ヲ得タルニ準シ小サキ石棚ノ內ニ收藏ス。之ヲ「パリシ・タ・カリス」(鷹祭)又ハ「スマス・カジャ・タ・カリス」(鷹ノ「スマカジャ」)ト云フ　此祭祀ハぶつる番ノ一部北ばいわ、こぼじ兩番ノ多數ノ社ニ行ハル

祭祀ノ式ハ社ニ依リテ多少異リタル所アリ。左ニ若干ノ番社ニ行ハルルモノヲ示ス((い)ヲ除ク外小林氏調査)

(い)ぶつる番カザ(ヌ)ザヌ及マカザヤザヤノ兩社　ニ於テ鷹ヲ射落シタルトキハ直ニ其兩翼ヲ切取リ殘骸ヲ地ニ埋メ上ニ石ヲ置キ「ボート」ノ葉ノ「ビアク」(毯敷)ヲ施シツツ「スマヌラヂカマ」(靈穴ヲ作ル義)ト唱フ。「ラデカマ」ハ住家ノ入口側邊ノ石積ノ中ニ在ル首級棚ナリ。蓋シ件ノ石ヲ以テ之ニ準シタルナリ(安原氏調査)

(ろ)北はいわ番チャジカフス社　ニ於テ鷹ヲ獲タルトキハ豚ノ屠リ巫ヲ招キ「バリシ・トソ・スマスジャジャア」(「ジャジャア」ハ石板ヲ以テ圍ヒ作リタル小棚)ノ祭ヲ行フ。卽鷹ノ屍ニ對シテ饌ヲ供シ之ヲ小サキ石棚ノ中ニ藏ス。其式ハ首ヲ獲タル時ニ同シ

(は)同番リキリキ社　ニ於テハ鷹ヲ獲タル者ハ先ツ酒ヲ釀シ酒出來レハ豚一頭ヲ屠リ頭人、社民及巫ヲ招キ祭祀ヲ行フ。此日早朝ヨリ頭人及社民ハ頭人カザヤザ家ノ舊居ニ集合シ射獲者鷹ヲ前庭中央ニ置キ巫ハ之ニ對シテ酒ヲ少シ彈キ肉ヲ供シ饌ヲ投シ「今汝ニ酒ト肉トヲ食ハセタリ。汝一人ニテ寂シカラン、汝ノ兄弟ヲモ伴ヒ來レ」ト稱フ。了テ社民ハ飲宴歌踊夜ニ至テ散ス

(に)同番スボン及コワバル兩社　ニ於テハ鷹ヲ得タル者ハ其羽ヲ拔キテ之ヲ持歸リ自家ノ前室又ハ奧室ニ置キ巫ヲ招キテ祭祀ヲ行フ。巫之ニ對シテ饌脂ヲ供シ「今汝鷹ヲ祭リタリ。汝ノ兄弟モ呼來

レ」ト稱フ
(附記)スボン社ニ於ケル鷹ノ羽ノ分配法左ノ如シ、頭人ニ最モ長キモノノ五本同行者ニ而キモ
ノ五本(多數ナレハ一本宛)巫ニモ短キモノ五本ヲ與フ
(ほ)こほじ番内獅頭社ニ於テハ鷹ヲ獲タルトキハ其附近ノ崖又ハ谷間ニ於テ芋葉ヲ以テ徑約七
八寸ノ鳥ノ巢ヲ造リ之ヲ「ロボアス」(墓穴ノ意)ト稱ス。其中ニ三片ノ「ビヤツ」(思樹ノ皮用ユ)ヲ入レ祝シテ日ク「此
ハ汝ノ家ナリ。而シテ三片ノ「ビヤク」ハ汝ノ食物ナリ。此等ノ汝ニ與フルニ因リ常ニ我等ヲシテ斑點
美シキ鷹ヲ獲ル様ニセヨ。我ハ汝ノ羽根ヲ取リタレトモ其代リニ汝ニ「ビヤク」ヲ與ヘタリ汝ハ常ニ
此家ニ住ミ此食物ヲ食ヒテ居ヨ。吾他日猪鹿羌山羊ヲ取ランドスル時ハ汝來リ妨クルコト勿レ。
然ラハ常ニ此等ノ肉ヲ持來テ汝ニ與フヘシ」ト稱フ。而シテ茅葉少許ヲ其前ニ置キ之ヲ三回ニ祝シ
テ曰ク「パラアツジ」(大ナルコト跨越)ヲ爲シタル故歸社シテモ粟芋ヲ食シテモ禁忌ニアラス。而シテ我等ハ
常ニ健全ナル様ニ」ト祈ル。當社ニ於テ此祭祀ヲ行ハサル内ハ歸社スルコトヲ得ス又粟芋ヲ食スル
コトヲ得サルモノトス
(附記)當社ニ於テハ鷹ヲ獲タルトキハ頭人ニ尾ノ最モ長キ羽一本ト兩翼ノ最モ長キ羽各一本
ツツヲ與ヘ餘ハ自分ノ所得トス
(二)豹ニ對スル祭祀　豹(番語「リクジオ」)ハぱいわん番及るかい番ニ於テハ之ヲ靈獸トシテ捕獲スルコトヲ禁
忌ス。就中るかい番ノ諸社及ぱりじゃお番中ノちゃぶてく群社ニ於テハ此ノ禁忌頗嚴ニシテ決シテ之
ヲ犯スコトナシ。他ノ番社ニ於テハ時々之ヲ捕ルコトアルモ直ニ祭祀ヲ行ヒ其豹ノ靈ノ祟ヲ祓ヒ、
此祭ヲ行ハサル間ハ畑ニ行クコトモ番社ニ歸ルコトモ得サルモノトセリ　ぶつぶ。らぼる。にさり

せぬ諸番ニハ別ニ豹ニ關スル禁忌ナシ、從テ此ニ關スル祭祀モ亦之ナシ

左ニ之ニ關シ若干ノ番社ニ行ハルルモノヲ示ス（本項中（ほ）ヲ除ク外小林氏調査）

（い）ぶつる番トクブジ社　ニ於テハ茅莖ノ枯レタルヲ二本取リ其先ヲ少シク割リ之ニ鐵片ノ小ナルヲ挾ミ前庭ノ兩側ニ立テ（是蓋シ獵ニ贖財スル意ナルヘシ）中央ニ豹ノ屍ヲ置キ射者一人ニテ皮ヲ剝ク。後茅ヲ大黑柱ノ上部ニ縛シ永久ニ殘置ク。祈禱トシテ別ニ言葉ナシ

（ろ）北はいわ番チジャカブス及ボカリアノ兩社　ニ於テハ獵者酒一甕ヲ醸シ豚一頭ヲ屠リ頭人及親族知友ヲ招キ夕刻ヨリ之ガ祭祀ヲ行フ。祈禱ヲ行フ者ハ何人ヲ問ハス男子ナレハ可ナリトス。先ツ前庭軒下ニ石板石ヲ以テ一尺二三寸位ノ小屋ヲ作ル（之ヲ「ジャジャブ」ト稱ス即靈屋ナリ）其内ニ酒少許ヲ灌キ豚肉數片ヲ供シ饌ヲ投シテ「今汝ノ家ヲ造リ汝ニ酒肉ヲ食ハセタリ。汝一人ニテハ寂シカラン故ニ汝ノ兄弟ヲモ伴ヒ來レ」ト稱ヘ了テ酒宴ヲ開ク

（は）同番リキリキ社　ニ於テ獵者ハ其豹ノ頭顱ヲ持チ巫ト共ニ頭人家ノ舊屋ニ赴キ前庭ノ中央ニ之ヲ置ク。巫ハ之ニ對シ饌ヲ投シ「今汝ニ豚脂ヲ食セタリ、汝一人ニテ寂シカラン。故汝ノ父母兄弟ヲモ伴ヒ來レ」ト稱ヘ了テ其頭骨ヲ持歸リ獵者ノ寢臺ノ上ニ飾ル

（に）こぼじ番內獅頭社　ニ於テハ此祭ヲ「スマノアジャ」又ハ「パリシヤ・イパラブツジ」ト稱ス。豹ヲ獲タルトキ直ニ其場所ニ於テ之ヲ行フ。獵者自ラ豹ノ體毛（何處ノ毛ニテモヨシ）ヲ三本ヲ拔キ之ニ豚脂ヲ附シ附近ノ立木ノ高六尺位ノ上ニ置キ「此處ニ豹ヲ置キタリ。常ニ班紋麗シキ豹ノ來ランコトヲ望ム。然ラハ常ニ豚脂ヲ與フヘシ」ト稱ス。次ニ其前ニテ茅葉ヲ燃キ豚脂少許ヲ其中ニ投シツツ「今、パラアツジヲ行ハントス。此祈禱了ラハ粟芋ヲ食シテモ禁忌ニ非ス。歸社シテモ差支ナシ」ト唱ヘ其火ヲ三周シ祈

歸ヲ了ル

(ほ)こぼじ番內文社ニ於テ豹ヲ獵獲シタル者ハ懸崖ノ上ニ立チ粟莖ニ火ヲ點シ之ヲ右手ニ持シミリミリガノ靈ヲ呼ヒ之ニ豚脂豚骨ヲ投與シテ歸社ス。此祭祀ハヅツカダノサベシ（芋ヲ收穫シタル時ヨリ播種スル迄ト、粟ノ花ヲ開キテヨリソレヲ收穫スル迄ノ間）ニハ行フコトヲ得ス。而モ此祭ヲ行ハサレハ粟畑ニ行クコトヲ得サルガ故ニ此期間ニハ決シテ豹ヲ取ラスト云フ　ソレヨリ歸社スルトキハ社ノ入口ニ於テ粟莖ヲ燒キ之ヲ跨キテ入ル。是豹ノ靈ガ社ニ入來リテ祟ヲ爲サンコトヲ恐ルルカ故ナリ（安原吉氏）

(ヘ)ぱりじ、お番高士佛社ニ於テ豹ヲ社內ニ持入ルコトヲ忌ム（若シ之ヲ犯サハ病ニ犯サルヘシ）故ニ獵者ハ之ヲ番社ノ附近マテ持來シ置キ社ノ入口ニ於テ巫ノ祓除ヲ受ク。巫ハ獵者ニ對シ價ヲ投シツツ之ヲ祓ヒテ曰ク『此者ハ誤テ汝豹ヲ射タリ。サレト汝ハ怒ルコトナク直ニ去レ。此者ガ社ノ內ニ入リ家ニ歸リテモ祟ルコト勿レ』ト。此祓ヲ「パリシ・ト・リクジャウ」ト云フ。ソレヨリ茅莖數本ニ點火シテ之ヲ社口ニ置キ獵者此上ヲ跨キテ社ニ入ル。而シテ豹ハ其皮ヲ剝キ平地ニ持行キテ之ヲ賣リ屍ハ地ニ埋ム。

(三)熊ニ對スル祭祀　一別ニナシ　ぱいわ三番ハ一般ニ熊ヲ捕獲スルコトヲ禁忌ス然レトモ偶然之ニ出會シタルトキハ其難ヲ避クルガ爲メニ已ムコトヲ得ス之ヲ射殺スルコトアリ（[illegible]此禁[illegible]其價ヲ利センカ爲メニ捕獲スル者モ生ス）此場合ニハ其場ニ於テ膽及頭ノ月輪ヲ取ル。熊膽ハ之ヲ交換所ニ持行キテ賣リ月輪ハ帽ニ作ル。但シ北ぱいわ番ナジ゛カブス社ニ於テハ熊ノ獵獲者ハ數日ノ內ニ巫ヲ招キ已ノ身及ヒ銃器ニ對シスマイロン（不吉ナ禳ノ）ノ祈禱ヲ受ク此時豚一頭ヲ屠ルト云フ　さりせぬ諸番ニハ熊ヲ捕ルノ禁忌ナシ、從テ之ヲ見付クルヤ射殺シテ持歸リ其膽及皮ヲ賣リテ其價ヲ利ス、ぱつる番トクブル社ニ於テハ射者ガ其頭部ヲ食スルトキニハ靈驗ハクハ此後モ斯ノ如ク與ヘヨ」ト祝福ス

ト云フ

第三　獵獸ノ靈棚祭

（一）總說　ぱいわぬ三番ノ各社團又各黨ニハ大概郊外ニ於テ石板ヲ圍ヒ方七八寸乃至一尺二三寸ノ小サキ屋ヲ作リ此所ニ獵獸（番語「サツムル」卽鹿猪羌羊ノ四ナリ）ノ靈ヲ祀ル。此靈屋ハ永遠的ナルヲ多シトスルモ中ニハ祭祀ノ都度之ヲ作ルモアリ。此等ハ單ニ「タビ」（棚ノ義）又ハ「タビタビ」（小棚ノ義）ト云ヒ又他ノ石棚ニ別チ特ニ「パラロボ」ト云フ　さりせぬ諸番社ノ多クハ此ノ如キ靈屋ヲ作ラス。單ニ社外ノ休憩所ニ於テ天ノ司獵神ニ對シテ（ぶつる番トクブジ社ノ如シ）若クハ同所ニ於テ獵場ノ方ニ向ヒ獵獸ノ靈ヲ招キ（同番チャジャカブス社ノ如シ）又ハ單ニ祭屋ニ於テ祖靈ニ對シ（同番カザザラヌ社ノ如シ）其好獵ヲ祈ル。此等ハ單ニ好獵ノ祈願ト看スヘク獵獸ノ靈屋祭ト稱スルハ當ラスト雖モ暫ク此中ニ包含セシメテ說述ス（本條中（四）（五）（十二）及（十三）ヲ除キ他ハ小林氏ノ調査）

此ノ祭祀ニハ當饌タル「カルムサラジ」（脂骨）「ビーク」（木皮又ハ葉片）ヲ供スルノ外酒ヲ釀シ又豚ヲ屠テ犧牲ト爲ス。此ノ犧牲ハ婦女小兒及未出獵セサル者、出獵シタルモ未タ一隻ヲモ獲サル者之ヲ食ヘルコトヲ得ス。若シ之ヲ食セハ他日其獵團ニハ獵物ナカルヘシ。故ニ此ノ日ノ肉ハ家ニ持歸ルコトヲ禁シ必其祭場ニ於テ食ヒ盡スヘキモノトセリ

（二）さりせぬ番マガトナ兩社　ニ於テ獵獸ノ靈ヲ祭ルコトヲ「アマウマラ」ト云ヒ屢狩獵ニ獲物ナキ場合ニ之ヲ行フ。但シ當社ニハ別ニ其固ノ靈屋ナキカ故ニ各社日ヲ同クシ各戶別々ニ行フ、其式頗ル簡單ナリ。家族中重ナル男子主祭ト爲リ大黑柱ニ吊セル祭籠ノ中ニ煙草（本番ニ於テ此ヲ以テ獸ヲ祭ルノ例トスルナリ）ヲ入レ本日ノ好獵ヲ祈リ一同出獵シ其日ニ歸來ス。又當兩社ニハ別ニ毎年一回テシ（此ノ如キハ他ノ番社ニハ之ナシ）「ボアブ」ト稱スル狩獵ノ式アリ。各社ノ男子白餅ヲ搗キ之ヲ携ヘテ糧食トシマガ社ハ四組トナ社ハ六

組ニ分レ方面ヲ異ニシテ出獵シ歸來シテ酒ヲ飲ム。此間暴風雨アリトモ社ニ歸ルコトヲ得ス

(三)ぶつる番トクブジ社ニ於テハ「スマノアルアルプシ」(獵ノ獲物ヲ作ル義)ト稱シ狩獵ニ獲物ナキトキハ臨時ニ之ヲ行フ　其法左ノ如シ

第一日ハ「ツムツムル」ト稱シ早朝社內ノ各小黨別々ニ自部落ノ休憩所ニ集合シ豚一頭ヲ殺シ右ノ後脚ノ一本ヲ殘シ其餘ヲ各家ニ配分ス而シテ勢力者ヨリ一同ニ「本日ヨリ祭祀ヲ行フニ因リ各人沈默ヲ守レ」ト言渡シ了テ一同其分配セラレタル肉ヲ持歸リ家族中ニテ食ス午後ヨリ黨民再ヒ前ノ休憩所ニ集リ曾テ狩獵ニ赴キタル者ノミニテ殘シ置キタル肉ヲ食ス其時勢力者ハ豚皮ヲ小刀ニテ切リツツ之ヲ天ニ向テ投上ケ『汝「ナマナ」我等ニ猪鹿ヲ與ヘヨ然レハ我等永ク汝等神靈ヲ祭祀スヘシ』ト稱フ　第二日ハ「ーブソソン」ト稱シ出獵ス翌日歸來ス　上記三日間ハ此社ハ勿論同社ト黨モ他黨ノ者ト言ヲ交フルコトヲ得ス

(四)ぶつる番下パイワン及マカザヤザヤノ兩社　下パイワン社ニ於テハ何年ニ一回全社共同ニ各黨ノ男祝相率ヒ山ニ赴キ其中ノトサビヽ家(頭人カホロ家ノ祝)主祭ト爲リ又マカザヤザヤ社ニ於テハ何年一回男祝及老番ト共ニ部外休憩所ニ赴キ祝主祭ト爲ル。兩社共ニ豚ヲ屠リテ其所ニ在ル「ハクロホ」ヲ祭ル。即主祭者ハ豚ノ双脚(始メハ前脚次ニハ後脚)ヲ持シ横ニ前ノ方ヨリ引抱ク樣ニシ「是レ猪鹿ヲ等其所ニ置レ其汝等ニ此食ヲ與ヘン」ト稱フ。畢テ一同直ニ出獵ス(安原氏書)

(五)高番カザンザヌ社ニ於テ獵場ニ對スル祈禱ハ每五年ニ一回兩期ノ終リタルトキ卽九月頃ニ之ヲ行フ。稱シテ「パリシ・タ・アロパヌ」(獵場ヲ祭ル義)ト云フ。頭人ハ祝及老番ト協議シ祭日ノ定メ之ヲ一般社民ニ通知ス　祭日ニハ社民悉ク頭人ノ家ニ集ル。此日ハ社民一同業ヲ休ミ社外ニ出ツルコトヲ禁ス

男祝ハ其助手ト共ニ社民一同ヲ率ヰテバリバリタヌト稱スル地ニ至リ祝先ヅ其中央ノ地點ニ於テ東ニ向テ蹲レハ一衆之ヲ圍テ蹲リ或ハ佇立ス。此時豚一頭(是一同ガ豫メ醵金シテ買置キタルモノ)ヲ屠リ之ヲ解體シ粟餅ト共ニ(後肢、前肢粟餅 粟餅豚頭粟餅 前肢、後肢粟餅)圖ノ如ク俎上ニ陳シ然ル後饌(「アルバニ」「ツコラジ」及ヒ榕樹ノ葉ナ用ユ)ヲ投シ祝シテ日ク「來レリツムル」。此處ノ獵場マテ、道草ヲ取ラス」、「バラロボ」ニマイ」ト、畢テ石ヲ立テ竈二三箇ヲ作リ鐵鍋ヲ架シ之ニテ豚ヲ煮テ食ス　此日ノ豚ハ鹽ヲ以テ煮ルコトヲ得ト雖モ而モ鹽ト云フコトヲ得ス。若シ過テ鹽ト云フ者アルトキハ直ニ鹽ニ非ス灰ナリト言ヒ改メ「ププッ」ト二三回唾ヲ吐クト云フ(蓋シ古代祖先ノ時代ニ鹽ノ無カリシナ以テ之ナ忌ムナルヘシ)　翌日ハ全社ノ壯丁出テテ「マブソアヌ」(祭祀後ノ狩獵)ヲ行フ。獲物アレハ其獵獲者ハ直ニ之ニ對シ饌ヲ供シ招魂ノ語ヲ爲ス。此日ノ獵肉ハ特ニ男祝ニ前肢一本、女祝ニハ肩ノ肉一塊ヲ與フ　若シ其日ニ一ノ獲物ナキトキハ翌日再ヒ出獵ス。其日モ亦獲物ナキトキハ翌々日出獵シ獲物アルニ至テ止ム(以上安原氏調査)

(六)同番カザザラヌ社　ニ於テハ此祭ヲ「パリシ・トソ・アロアロソ」(獵獸ナ祭ル義)ト云フ狩獵ニ獲物ノ少ナリタル時之ヲ行フ。頭人中ノヨルババデスマジリン兩家協議シテ其日ヲ定メ社民ニ通知ス　祭日早朝社祝ハヨルババデス家ニ赴キ社民モ同家ニ集合ス。社祝乃大黑柱ノ下ニテ饌ヲ投シ祈テ日ク「來レ猪ヨ。汝ノ兩親兄弟ヲ伴ヒ來レ。ロポロン・ラリゴアン(獵神)ヨ。汝ノ猪、鹿、山羊、羌及狸ヲ與ヘヨ」ト。畢テ祝ハ社民ヲ伴ヒマジリン家ニ赴キ同一ノ祭ヲ行フ　翌日ハ未明ヨリ全社合同シテ狩獵ヲ行フ。其日ノ内ニ歸社スレトモ獲物アレハ翌日又赴キ獲物アレハ翌々日モ又赴キ斯クシテ獵物ナキニ至リテ止ム。其間社民ハ平地ニ降ルコトヲ禁忌ス

(七)北ばいわん番チャジャカブス社　ニ於テ此祭ハ「パリシ・タ・ララヤバヌ」(獵場ヲ祭ル義)ト稱シ每年二回、粟ノ播種後

祭ノ「パサラヌ・ウダリ」及同收穫後祭（「マサルト」）ノ、「マブソツヌ」ノ日ニ行フ　此祭祀ハ番丁中特ニ主祭者（番語「パライカヌ」）タル者ヲ定メテ之ヲ行フ　祭日主祭者單獨ニテ武裝シ炬火ヲ持シ社外ノ休憩場ニ赴キ獵場ノ方ニ向テ饌ヲ投シ『今將ニ狩獵ヲ行フヘシ。猪鹿羌山羊等皆集來レ』ト唱フ。了テ全社出獵ス

(八)同番ボかリヅ社　ニ於テ此祭ハ「パリシ・タ・ツンツムル」（草原ナ祭ル義）ト云フ。毎五年ニ一回即五年祭ノ後祭ノ後數日ヲ經テ社内ノ諸黨合同シテ之ヲ行フ　祭日各頭人及番丁等ハ女祝ト共ニ社ノ上方ノ森林ニ赴キ豚（諸頭人共同捐出）ヲ殺シ其肉數片ヲ取テ饌ト爲ス。女祝ハ樹葉及其豚肉ヲ供シ『今我等ハ獵場ヲ祭ル。願クハ我等頭人及番丁ヲシテ毎回猪鹿山羊羌ヲ獲得シ能フ樣ニ爲セ。然ラハ汝等ヲ祭ル肉モ亦多量ニアルヘシ』ト稱フ。其殘ノ豚肉ハ之ヲ各頭人ニ分チ各頭人ハ其黨民ト共ニ其場ニ於テ食盡ス

(九)同番スボン社　ニ於テハ此祭ヲ「スマノ・カジョリジョプ」（獵獸ナ作ルノ義）ト稱ス。毎年粟ノ收穫後（舊曆十一月）全社共同シテ之ヲ行フ。此日當社舊頭人「パジロク」家ノ親族タル「パリムツ」「ロスクチ」ノ兩家ハ毎年交代ニ豚一頭ヲ出シテ祭ヲ助ク。祭日ハ頭人家ニ於テ之ヲ定メテ右ノ兩家竝ニ社民ニ告ケ　祭日諸頭人及社民一同獵場ニ赴ク。獵場ニ於テ男祝ハ六七寸平方ノ石造ノ小屋ヲ作リ其前ニテ豚ヲ屠リテ數滴ノ血ヲ取テ之ヲ其屋中ニ納メ然ル後饌ヲ投シテ本年ノ好獵ヲ祈ル。殘リタル豚肉ハ其場ニ煮テ食盡シ了テ一同狩獵ス

(十)同番チーババオコワバル兩社　ニ於テ此祭ハ「パリシ・トソ・パラロホ」（[illegible]祭ル義）ト云フ。毎年一回「マサルト」ノ後數日ヲ經テ一社共同シテ之ヲ行フ。倘ホ不獵ノ續キタル場合ニモ臨時ニ之ヲ行フ　祭日頭人家ヨリ豚一頭ヲ出シテ祭儀ト爲ス。一同獵場ニ赴キ其所ニ於テ番祝先ツ石ヲ圍イテ小サキ

靈屋ヲ作ル。番丁豚ヲ屠リ祝ハ件ノ小屋ニ對シ其肉ノ小片ト餅若干等ヲ供ヘ且饌ヲ撤シテ本年ノ好獵ヲ祈リ肉、骨、餅及饌片ヲ取テ右ノ靈屋ノ上及内ニ置ク。了テ殘リタル豚肉ヲ煮テ食盡ス翌日一同出獵ス

（十一）こぼじ番内獅頭外數社ニ於テ此祭ヲ「パリシ・トソ・パラロボ」ト稱ス。毎年一回新暦二月頃當社及外獅頭ブリジ、チョコマレス、アジョボジョボン、ボンブランノ諸社合同シテ之ヲ行フ　司祭者ハ外獅頭社頭人家代々男祝ト爲リ巫一名女祝ト爲ル。パラロボ（獵神ノ祭場）ハ當社ヲ距ル約十町山上ノ森林ニ在リ。茲ニ内外獅頭社各一ノ「タビ」（石板ニテ約一尺方形ニ作レリ）ヲ有ス。犧牲トシテ内外獅頭及ブリイジ三社ノ世襲補佐役ヨリ毎年輪流ニ豚一頭ヲ出シ其他ノ三社ヨリハ各粟酒二三瓢、肉ヲ入レサル月桃餅二三箇及肉ノ前脚一二本ヲ出ス

祭日早朝頭人及曾テ狩獵ニ從ヒタル男子ハ獵裝シ豫メ此祭ノ爲メニ釀シタル酒ヲ携ヘテ「パラロボ」ニ集合ス。其時男祝起テ先ツ内獅頭社ノ「タビ」ニ、次ニ外獅頭社ノタビニ對シテ供饌ス。ソレヨリ女祝兩社ノ「タビ」ニ向ヒ祝シテ曰ク獵獸ノ靈ヨ。我等ハ常ニ芭蕉、甘蔗、麻等ノ禁忌ヲ犯シタルコトナシ。又犬ノ死シル所若ハ銃身ノ破烈シタル所ハ必其不淨ヲ祓ヘリ。願クハ我等ヲ保護シテ我等ニ災害アラシムルコト勿レ」ト。次ニ男祝豚ヲ刺シ番丁之ヲ屠リ其儘兩「タビノ中間ニ置ク。女祝再ヒ祝シテ曰ク「獵場ヲ守ル神ヨ。今豚ヲ屠リテ汝ニ供ヘタリ。願ハクハ常ニ吾等ニ多クノ猪鹿ヲ與ヘヨ。然ラハ吾等ハ常ニ汝ニ之ヲ供スルコトヲ得ヘシ。而シテ汝ノ獵場ニ於テ我等ガ發銃スレハ必ス猪鹿等ニ命中スル樣保護セヨ」ト。了テ番丁等ハ豚ヲ屠リテ之ヲ分配ス。（分配法下ノ如シ。右ノ前足ハ男祝即外獅頭社人之ヲ取リ左ノ前足ハ三切シテ腿部及膝部ハ外獅頭社ノ世襲補佐役二名ニ、脚部ハ同社頭人之ヲ取ル。左ノ後足ハ三切シ腿及膝ハ内獅頭社世襲補佐役二名ニ、脚部ハブリヂ社ノ世襲補佐役ニ取ル右ノ後足ハ三切シ腿ハ内獅頭社ノ頭人ニ、膝及脚ハ同社ノ世

與補佐役二名ニ取リ臂部ノ肉各一提ツツヲ外獅頭社ノ補佐役二名ニ取ル殘レル胴ハ集マル番丁全部ニ等分シ尚頭部ハ之ヲ煮テ内外獅頭兩頭人及女祝ノ三名ニテ食盡ス）ソレヨリ各自鍋ヲ圍ミ肉ヲ煮飲宴半ニ至レハ番丁等茅ノ葉ヲ取リ之ヲ巻キテ長サ一尺位ノ獸ノ胴體數箇ヲ作リ茅莖ニテ足又ハ角ヲ附ン以テ猪鹿羌山羊等ニ擬ス。之ヲ五六尺ノ竹ニ貫キ庭ノ一方ニ立並ヘテ「ブゴン」（標識）トシ男祝粟莖三把ニ火ヲ點シ之ヲ右手ニ持シ又ビヤク三片ヲ左ニ持シ之ヲ上下ニ動カシツツ「プズン」ニ對シ叫テ曰ク「來レ猪ヨ。來レ鹿ヨ。來レ山羊ヨ。羌ヨ」競ヒテ速ニ來レト。了テビヤクノ三片ヲ羌ノ「プズン」ノ下ニ置キ粟莖ヲ遠ク投棄ツ。次ニ外獅頭頭人（卽男祝）ハ弓ヲ取リ内獅頭頭人ハ槍ヲ取リ「プズン」ニ對シ二三間ノ距離ニ並立チ件ノ羌ヲ狙フ。外獅頭頭人先ツ射、内獅頭頭人次ニ發銃ス。兩者トモ命中セサレハ爾後狩獵ニ獲物ナカルヘシト爲ス。ソレヨリ一方カ附近ノ立木ニ向テ一矢射レハ他ノ一方ハ銃ヲ以テ其附近ニ三發ス。何レモ猪鹿等ノ「プズン」ハ射ルコトナシ。了テ番丁ハ此等ノ「プズン」ノ首ヲ切リ之ニ羌ノ下ニ置キタルビヤクノ一片ヲ合セテ内獅頭社ノ「タビ」ニ納ム右ニテ祭祀了リ一同飲宴歌踊ス。此時番丁等ハ弓ヲ射又ハ發銃シテ勢ヲ助クト云フ　翌日ヨリ各社別々ニ狩獵ヲ行フ

〔十二〕同番内文社　ニ於テ此祭ノ名稱ハ内獅頭社ニ同シ當社ニ於テハロ、チノ兩黨ハ各別ニパラロホヲ有シ毎年一回粟ノ收穫ヲ了シタル後兩黨別々ニ之ヲ行フ

祭祀前一日各黨男女ノ兩祝ハ其頭人家ノ舊屋ノ前ニ至リ立石ニ對シ明日當ニパラロホ　祭ノ行フヘキ旨ヲ豫告ス　祭日男女ノ兩祝多數ノ番丁ト共ニパラロホノ所在ニ至リ女祝先ツ豚ニ對シテ「パルリルリ」ノ祈禱ヲ行ヒ男祝小刀ヲ以テ喉ヲ刺シ祝シテ曰ク「來リ見ヨ汝祖先ノ靈今豚ヲ屠リテ汝ニ供ス。明日我等ハ出獵ス。冀クハ獲物多カラシメヨ」ト。然ル後豚ヲ屠リ其前脚一本ヲ取リ肉ヲ

削リテ骨ト爲シ之ヲ右手ニ持シ粟藁ニ火ヲ點シタルモノヲ左手ニ持シ右ヨリ左ニ左ヨリ右ニ交互ニ振廻シツツ曰ク『ツンブジ」(饗)ヲ以テ「ケマン」(山ノ幸)ト「マツナン」(野ノ幸)ヲ招來ス。美シキ色々ノ毛ヲ招來ス』トテ後之ヲ靈屋ノ中ニ納ム。了テ一同其肉ヲ肴トシ宴ヲ開キテ解散ス　其翌日一同出獵ス。之ヲ「マブソア」ト云フ(安原氏調査)

(十三)ぱりじ・お番サブデク群社　ニ於テモ此祭ノ名稱ハ内獅頭社ニ同シ。毎五年ニ一回即チ五年祭ノ枯竹ヲ取ル一箇月前ニ之ヲ行フ。全群社兩團ニ別ルルコト五年祭ノ如シ。祭ハ一日ニテ終ル　此日女祝正副兩人「ハラロボ」ニ至リ豚ヲ屠リ其骨肉トヲ以テ獵神及獵獸ノ靈ヲ祭リ。後之ヲ靈屋ノ中ニ置クコト圖ノ如シ。了テ男祝正副兩人「マブソア」ノ祭ヲ行ヒソレヨリ全社壯丁一同出獵ス(安原氏調査)

(十四)同番高士佛社　ニ於テハ毎年一回四月頃全社共同シテ之ヲ行フ。獵獸ノ靈棚ハ當社ノ東方二里、港仔溪ノ上流溪岸ニ在リ　其日早朝兩頭人ヲ始メ男主祝一名其他番丁等獵裝シテ此處ニ集合ス男祝先ツ靈棚ニ對シテ蹲レハ衆之ニ從フ。男祝乃チ豚脂豚骨ヲ靈棚ニ供シ此饌ヲ獵神ノ靈ニ供ス願クハ惡靈ノ祟ルコトナク常ニ獵獲多大ナラシメヨ』ト祈ル。了テ附近ノ獵場ニ於テ數日間狩獵ヲ行ヒテ歸社ス(小林氏調査)

第三目　漁撈ニ關スル祭祀

本族中ニハ毎年定期ニ又ハ漁撈不良ノ場合臨時ニ一社又ハ一黨民共同シテ祭ヲ行ヒ漁撈ノ多獲ヲ祈ルコトアリ。之ヲ「パリシ・タ・パナ」(溪ヲ祭ル義)又ハ「パリシ・トツ・チ・カウ」(魚ヲ祭ル義)ト云フ。茲ニ之ヲ漁撈祭ト稱ス　左ニ若干ノ當社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク(他ハ(二)(七)ヲ除キ小林氏調査)

(一)ぶつる番トクブシ社ニ於テハ毒流ノ時ニ魚靈ヲ祭ル。其法溪底ニ於テ社ノ勢力者小石三箇ヲ並ヘ之ヲ魚神ニ擬シ豕皮ヲ切リツツ其上ニ乘セ「斯ノ如ク汝ニ供饌ス。願クハ我等ニ多クノ獲物ヲ與ヘヨ」ト祈ル

(二)同番カザギラ社ニ於テハ毎年一回當社ノ頭人バブルガス家溪底ニ降リ其岸ニ蹲リ東ニ向ヒ饌(「アルゾ」及「ワコラジ」ヲ用ユ。「ビヤク」ニハ桑ノ葉ヲ用ユ、倚)ヲ披シ「魚ヲシテソロソロ此所マテ來留ラシメヨ。此ノ我溪ニ、此ノ我土地ニ」ト唱ヘテ歸來ス。此日ヨリ三日間何人ト雖モ此溪流ニ漁撈ヲ爲スコトヲ得ス。又頭人ハ他人ト物ヲ交換シ或ハ人ニ物ヲ與フルコトヲ得ス。三日目ノ日暮ニ頭人自溪ニ赴キ二三尾ノ魚ヲ獲テ歸リ煮テ之ヲ食ス。翌日ヨリ上記ノ禁ヲ解ク(安原氏書)

(三)同番カザサラ社ニ於テハ、パリシ・タ・チアツト稱シ魚獲ノ獲物少クナリタルトキ各黨臨時ニ之ヲ行フ。頭人宗ニテハ前日ニ粟ヲ搗キテ粉ト爲シ翌朝一番鷄ノ鳴キタル頃粟ノ粉少許、小豚一頭、酒壺若干、鍋一、鎌一及饌ヲ持シ黨親ト二名ニテ溪ニ赴キ河岸ニ豚ヲ縛リ餘ト共ニ置キ黨親ニ番ヲ役シ粟ヲ兩手ニ持チ之ヲ振廻シツツ「來レ魚ヨ。此粟ノ粉ト同樣ニ多數來レ」ト唱ヘ粟粉ヲ水中ニ投ス。而シテ頭人ハ其豚ヲ殺シ頭ヲ切離シ更ニ之ヲ兩斷シテ下顎ヲ水中ニ入レ流レヌ樣ニ石ニテ壓ス。是河ノ靈ニ與フル爲ナリ。而シテ火ヲ起シ殘リタル豚ノ胴體ヲ細切シ之ヲ鍋ニ入レ煮テ兩者ニテ食盡ス。頭ト臓トハ其場ニ殘シテ歸社ス

(四)北はいわ番チジカブス社ニハ此祭ニ左ノ二種アリ

(い)魚祭　當社ニハ毒流ノ時ハリシ・タ・ナアウノ祭ヲ行フ。其日溪流ノ地主タル頭人溪底ニ降リ自溪岸ノ一ノ岩ニ饌ヲ置キ魚靈ヲ呼ヒ「落雷シテ魚ガ死スルガ如クニ澤山流レ來ル樣ニ」ト祈ル

(ろ)川祓　溪ニ溺死者アリタル時臨時ニ其不吉ヲ禳ヒ兼テ魚類ノ繁殖センコトヲ祈ル。之ヲスモバジヤ」ト云フ。頭人リバニヤツ家ヨリ祭犧タル小豚一頭ヲ出ス。此祈禱ハ番丁リグツ・ブジヤウニ之ヲ行フ（此家ハ古來溪ニ關スル祈禱ヲ受持ツ）頭人ハリグツト共ニ豚ヲ持シボコジオサマ（溪ノ名）ニ赴キ、リグツハ豚ヲ屠リ肉ノ數片ト「ビヤク」ヲ溪ニ投シ「今祈禱シテ溪ノ不吉ヲ禳フ。魚ガ多ク殖エテ、オバニ（豆ノ一種）ノ樣ニ澤山ニ、此處ヨリパコラジ（下流ニ在ル平地ノ土名）マテ達スル樣ニ」ト祈ル。而シテ屠リタル豚ハ持歸リテ兩家ニテ分食ス

(五)同番リキリキ社　ニ於テハ毎年雨期前（五六月頃）溪ヲ所有スル頭人豚一頭及鍋ヲ持シ巫ト共ニ溪ニ赴キ魚靈ヲ祭ル。頭人自ラ豚ヲ屠リ內臟ヲ取リテ其儘鍋ニ入レテ湯煮シ之ヲ數片ニ切リ離ス。巫乃チ溪ニ向テ桑ノ葉ヲ投シ「此豚ヲ汝魚ニ與フ。之ヲ食シテ多數ニ殖ヘヨ、成長セヨ」ト祈ル。了テ其豚肉ヲ溪ニ投ス

(六)同番スボン社　ニ於テハ毎年一回溪ノ地主タル頭人バジ・ロク家ハ巫ヲ招キ草山溪ニ降リ豚ヲ屠リ河神ヲ祭リ不吉ヲ禳ヒ兼テ漁獲ノ多カランコトヲ祈ル

(七)はりじやお番サブデク群社　ニ於テハ毎年一回頭人バヤバイ家ノ男覡溪ニ降リ河神ヲ祭リ漁撈ノ多カランコトヲ祈ル

(八)同番高士佛社　ニ於テハ五年祭後祭ノ後約二十日ヲ經タル頃「パリシ・トツ・ハナ」（川祭）ヲ行フ。此日未明ヨリ兩頭人男女ノ兩覡其他社民ノ男女擧テマリガヌ（四重溪ノ下流、當社ヨリ約一里半）ニ赴キ先ツ男覡ハ溪ニ三片ノ石ヲ立テテ靈屋ヲ作ル。番丁數名ハ一尾ノ魚（大小ニ關セス）ヲ獲リ火ヲ起シテ之ヲ燒ク、其時男タル覡（ボカメン）ハ靈屋ニ「カルム」「ビヤク」ヲ奠シ竝ニ其魚ヲ供ス。女覡祈テ曰ク「溪ヲ守ル神ヨ。我等ハボモマタヨリ傳ハリタル習慣ニ依リ祭祀ヲ行フ。願クハ祖先ヨリ讓ラレ又我等ヨリ子孫ニ讓ルヘキ此溪ニ

於テ常ニ多クノ魚ガ下流ヨリ登來リ木ノ葉ノ如ク盛ニ且増殖スル様ニ守リ給ヘ」ト祈ル

第五項　天災ニ關スル祭祀

第一　總説

既ニ述ヘタル如ク本族ハ一切ノ禍福ヲ以テ靈ノ所爲ニ歸シ天災地變ノ如キモ其原因ハ番社内ノ禁忌ヲ犯シタル者アリテ靈ノ怒ニ觸レタルニ在リトセリ。從テ其災害ハ唯其靈ノ怒ヲ解キ又ハ其力ヲ頼ムコトニ依テ免レ得ヘシト爲ス。是本族ニ於テモ亦天災ニ對スル禳祓ノ生シタル所以ナリトス。天災ニ對スル祈禱ノ重ナルモノハ旱魃、淫雨、暴風、落雷、地震又ハ山崩等ニ對スルモノトス但シ番社ニ依リテハ此中ノ一二ヲ行ハサルモノアリ又之ヲ行フトシテモ諸社必シモ同一ニ非ス。本項ニハ重ナル番社ニ就テ調査シタル所ノミヲ掲ク

（附記）本族間ニ日蝕及月蝕ニ關スル祈禱殆之ナシ唯ぶのゐ番トクブル社ニ於テ日蝕ノ際若者家小刀ニテ犢脂ヲ切リ其小片ヲ天ニ向テ投上ケ「斯ク暗クナリテハ夜ト同シク物モ見エス收穫モ取レス速ニ明クナレ」ト云フコトアルニ過キス

天災ニ對スル祈禱ハ多クハ一社團共同ノ祭祀タリト雖稀ニ一家ノミニテ行フモノモアリ共同祭ノ場合ニハ男又ハ女ノ番祝之ヲ主リ家祭ノ場合ニハ家族中祭事ニ通シタル者又ハ其家ノ受持テル巫之ヲ主ル。天災ニ對スル祓ハ之ヲ「バサルト」ト云フ

第二　乞雨

乞雨ニ二アリ(一)ハ毎年粟ノ播種後ニ行フモノニシテ此ハ既ニ粟ニ關スル祭祀ノ部ニ於テ述ヘタル所ナリ(二)ハ久シク降雨ナキ場合ニ臨時ニ行ノモノニシテバリシ・タ・カツダフウ（旱魃祭）又ハ「バリシ

タ・モレ・オジャル」（乞雨祭）ト云フ本條ハ此（二）ニ付テ說述スヘシ

（一）ぶつる番下パイワン社ニ於テハ男祝一人早朝饌ヲ具シ先ツ水源地ニ至リ木鉢ニテ水ヲ汲ミ來リ祭屋（番語「パラカヤス」）ニ入リ之ヲ其中央ニ置キ己ハ東方ニ向ヒ鉢ノ前ニ蹲リ數回饌ヲ上方ニ投ケ且ツ鉢ヲ取リ其水ヲ指ニテ彈キツツ之ニテ雨ヲ降ラセ。汝ノ渓ノ堤ヲ切レタカラウス」ト稱ヘ畢テ歸着ス。斯クテ若シ數日ヲ經ルモ尙雨降ラサルトキハ今回ハ祝ヲ先導トシ頭人ヲ始メ番丁一同揃ヒ出シ高山ニ登リ遙ニ海面ノ見ユル所ニ於テ祝首頭ヲ取リ、キド・オジャル（來レ雨）ト云ヘハ一同大聲之ニ和シテ歸ル。其翌日モ翌々日モ同一ノ事ヲ反覆シ降雨アルニ至リ止ム（安原氏調査）

（二）同番マカザヤザヤ社ニ於テハ男祝祭屋（大頭人家ノ舊屋）ノ前ニ至リ饌ヲ投シテ大聲ニテ「雨速ニ降レ」ト叫フ。若シ雨降ラサルトキハ翌日同樣ノコトヲ反覆ス（以下（六）マテ小林氏調査）

（三）同番トクブジ社ニ於テハ健脚ノ番丁數人ニテ鈴ノ附ケタル槍及刀ヲ持シタイブブ山腹ノテリボアント稱スル水溜（猪ノ水浴スル所五尺ニ三尺位ノモノ）ニ赴キ高ク叫聲ヲ上ケツツ水溜ヲ突キ後ヲ見ズシテ走リ歸ル。歸途若シ降雨アレハ社ノ耕作地マテハ其雨來ソスト爲シ再ヒ赴キ同事ヲ反覆ス。サレトモ歸社迄ニ降雨ナケレハ雨ハ怒リテ大ニ押寄セ來ルヘシトシテ喜フト云フ

（四）同番カジャジャラヌ社ニ於テハ女祝自家又ハバリガラウ家（祭屋）ノ前庭ニ於テ供（荖葉及豚骨豚皮）ヲ具シ且ツ社民各家ヨリ徴取シタル豚脂ノ小片ヲ供ヘタカラウス及サリムト雨神ヲ呼ヒ降雨アラシメヨト祈ル。此日社民ハ社外ニ出ツルコトヲ禁ス

（五）同番スボン社ニ於テハ頭人カジャジャバヌ家ニ於テ巫ヲ招キ此ノ祈禱ヲ行フ。巫其内室ニ於テタカラウスノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ『何故降雨ナキヤ。今「パサルト」（祓）ヲ行フ。故ニ多量ノ雨ヲ降シ以テ

粟芋等ヲ成長セシメヨ」ト祈ル

(六)こぼじ番マリバ社　ニ於テ此祭ハ「パリシ・ア・ジャジクル」ト云ヒ粟ノ播シタル後ニ行フモノニ同シ。此ノ祭ヲ行フ女覡ハ特ニ「カチブ・ブリガオ」ト稱セラルル巫ナリ　其法女覡水ノ瓢杯ニ盛リ儀ノ持シ東ニ向ヒ雨手ニテ招降スル樣ヲ爲シツツ雨ヲ呼ブ。曰ク「茲ニ雨ヲ招クノ料（水指ス）ヲ供ス。以テ雨ノ在ル所マテ覓ヲ架ス。地ヲ冷ニスル樣、太陽ガ烈シク照サヌ樣粟ヲ損セヌ樣ニ雨ノ降セ」ト祈リ後儀皮ヲ投シ儀骨ヲ竹筒ニ入レテ大黑柱ノ鹿角ニ掛ク

(七)はりじ(お番加芝來社)　ニ於テ早朝頭人以下各戸ニ一人ツツ被衣被笠ヲ被テ出ニ集リ男女ノ雨覡東方ニ向ヒ祈テ曰ク「天永ク雨ヲ降サス。穀類將ニ枯レントス願ハクハ速ニ雨ヲ降シテ我等ノ救ニ」ト。ソレヨリ「オー・オッ」ト叫ヒ西北方ニ向テ覧ツゲハ一同モ之ニ做ヒテ覧ツク少時ノ後男女ノ雨覡ハ起テ再ヒ「エーオッ」ト叫ヒテ此式ヲ畢ル

第三　乞晴

(一)總説　淫雨久シク霽レサルトキハ天神ニ對シ乞晴ノ祈禱ヲ行ノ。之ヲ「パリシ・タ・タヒニ・ル」（晴ノ祈禱）ト云フ。但シ現時之ヲ行フ番社ハ甚タ少シ　左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ掲ク

(二)ぶつる番下パイワン社　ニ於テハ各黨ノ番祝此ノ祈禱ヲ行フ前日ニ其助手（[illegible]）ヲシテ豫メ各戸ヨリ少シツツ豚ノ脂肉ヲ集メシメ翌早朝之ヲ持シテ社外ノ祭屋ニ至リ其内ニ入リ中央ニ蹲リ東ニ向ヒ數個ノ「ビヤク」（儀數）（木ノ葉）ヲ置キ小刀ヲ以テ少シツツ儀脂ヲ切リ之ヲ「ビヤク」ノ上ニ置キ次ニ儀骨（股及腰ノ所ノ二片チ用ユ）ヲ削リテ其小屑ヲ載セ又鐵片ヲ削リテ同樣ニ之ヲ「ビヤク」ノ上ニ置キ靈ヲ呼ヒテ「[illegible]止メヨタカラウス。汝ノ溪流ヲ堰止メ天候ヲシテ好クナラシメヨ」ト稱シソレヨリ其儀ヲ持シテ戸

日ニ行キ東ニ向ヒ同一ノ祈禱ヲ行フ。終テ祝ハ何レノ地ニテモヨシ地面ノ崩レタル所ニ至リスマス・チャヮル（鐵片ヲ靈ニ捧クルノ式）ノ祈禱ヲ行フ。此ハ竹又ハ木ノ先端ヲ二ツニ割リ之ニ小サキ鐵片ヲ挾ミ其挾ミタル上部ノ所ヲ細キ木ノ根ニテ縛シ以テ鐵片ノ脫落セサル樣ニ爲ス。之ヲ「イッチープ」ト云フ。此「イッチープ」ヲ斜ニ地ノ割レタル所ニ挿込ミ「ビヤク」及饌脂ヲ投ク。カケッツ雨ヲ止メヨトタカラウス。今「イッチープ」ヲ爲セリ。地ハ將ニ崩レントス。願クハ汝ノ此社ヲ大切ニセヨ」ト稱ヘテ歸ル。歸途雷鳴ヲ聞クトキハ祈禱其驗アリトテ之ヲ喜フ。但シ雨霽レサレハトテ此祈禱ノ再ヒスルコトナシ（安原氏調査）

（三）同番**マカザヤザヤ**社ニ於テハ男祝祭屋（頭人家ノ舊屋）ニ至リ其天窓ニ向ヒ速ニ雨ヲ止メシメヨト傳ヘ黃銅ノ矢ヲ射ル。此矢ハ當社頭人家ニ古代ヨリ傳ハル所ノ家寶ナリト云フ。此日男祝ハ家ニ在リテ外出セス（以下（七）マテ小林氏調査）

（四）同**トクブジ**社ニ於テハ思付キタル者何人ニテモヨシ。早朝天ニ向テ弓ヲ射ル。別ニ祈禱スルコトナク單ニ黃銅鍋ノ如ク光レト稱スルノミ

（五）同番**カザザラ**社ニ於テハ女祝自宅又ハパッタラウ（祭屋）ノ前庭ニ饌ヲ供シ上天ニ在ルサリムドノ靈何卒雨ヲ止メ給ヘヨト祈ル

（六）北ばいわ番**リキリキ**社ニ於テハ當社内ニ於テ最モ古キ頭人家ニ女祝及各社ノ頭人悉ク集リテ之ヲ行フ。此時奧室ニ於テ巫ハ饌ヲ投シタカラウスノ靈ヲ呼ヒ何故ニ何時マテモ降雨アルヤ。速ニ止メシメヨ』ト祈ル

（七）北ばいわ番**スボン**社ニ於テハ之ニ關スル共同ノ祈禱ナシ。唯各家ノ奧室ニ於テ何人ニテモヨシ饌ヲ投シテ『風吹クナ。雨降ルナ。最早コレニテヨシ』ト稱スルノミ

(八)こぼじ番內獅頭社ニ於テハ頭人女祝ヲ招キ行ハシム。女祝頭人家ノ奥室大黒柱ノ下ニテ饌ヲ供シ『天ニ在スピナバブカサヌノ靈ヨ。何故ニ斯ク毎日降雨アラシムルヤ。若シ社民ニ禁忌ヲ犯シタル者アル故トナラハ之ヲ謝スヘシ。願クハ汝ノ怒ヲ解キ速ニ晴天ニ爲ラシメヨ』ト祈リ後瓢ヲ以テ神ガ果シテ此願意ヲ納レタルヤ否ヤヲトシ若シ尚納レストナラハ再ヒ同一ノ祈禱ヲ行フ

第四　鎭風ノ祈禱

烈風又ハ暴風雨ノ場合ニ天ニ對シ風雨ノ鎭靜スル樣ニ祈ル。之ヲ「パリシ・タ・バリ」(風祭)又ハ「パリシ・タ・カシバヌ」(暴風雨祭)ト云フ　左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ揭ク

(一)ぶつる番下パイワヌ社ニ於テハ男祝先ツ助手ヲシテ社內ノ各戶ヨリ豚脂少許ツツヲ集メシメ翌早朝之ヲ持シ道路ノ上ニ出テ大聲ニテ『止メヨタカラツス。汝ノ「ラド」(社家ノ)ヲ無クシ我等ノ「キララウヌ」(蓋ノ義。住家ヲ指スナリ)ヲ無クスヘシ』ト叫ヒツツ社外ノ祭屋ニ至リ其內ニ入リ饌ヲ其シ屋ノ入口ニ出テ東ニ向ヒテ再ヒ『止メヨタカラウス云々』ノ語ヲ反覆シ饌ヲ上方ニ抛棄シテ歸ル(安原氏調査)

(二)同番マカザヤザヤ社ニ於テハ男祝リバクラツ(古代ヨリノ小頭人家)ニ至リ同家ニ藏スル所ノ鷄卵程ノ美シキ石ヲ取出シ前庭ニ於テ天ニ向テ抛上ケ祝シテ曰ク『風ヲ止メヨ。然ラサレハ我家ヲ無クシ我倉ヲ無クシ我檳榔ヲ無クス』ト。石落來レハ又取テ抛上ケ三回ニシテ家ニ入ル。風止マサレハ再出テ同一ノ事ヲ反覆シ風鎭レハ祈禱ヲ止メテ其石ヲ再ヒ家內ニ收藏ス

(三)同番トクプジ社ニ於テハ暴風雨・地震・落雷ハ是粟ヲ播種スル際ニ何者カ檳榔樹若ハ甘蔗ヲ植エ又ハ粟ノ穗ヲ切リタルニ因リタカラウスノ怒ニ觸レタルナリトシ此等ノ災害アリタル時ハ頭人又ハ勢力者ハ何人カ此ノ禁ヲ犯シタルヤ』ト叫ヒツツ社內ヲ巡リ若シ檳榔樹又ハ甘蔗ヲ發見ス

レハ之ノ拔捨ツ　暴風ノ際ハ豚脂ヲ小刀ニテ切リツツタカラウスニ供シ『斯ク風ノミ吹ケハ我等ハ毛髮モ生セス齒モ生セサル樣ニ爲ルニ因リ速ニ好天ニセラレタシ』ト祈リ又地震若ハ激雷ノ際ハ「チナリヅド（細ク切レ易キ葛）ノ如ク弱クセヨ。「ピノオワイ」（篠）ノ如ク強クナキ樣ニ」ト祈ル（以下（八）ニ至ルマテ小林氏調査）

（四）同番カジ、ジャラ、社　ニ於テハ女祝自宅又ハパツクラウ家（祭屋）ノ前庭ニ於テ饌ヲ投シ『上天ヨ、願クハ風雨ヲ止メ』ト祈ル

（五）北はいわ、番ホカリド社　ニ於テハ何人ニテモヨシ暴風ノ時ハ前庭ニ出テ豚骨ヲ投シ「止メ止メ」ト云フノミ

（六）同番リキリキ社　ニ於テハ全社ノ男子各其頭人家ノ前庭ニ集合シ頭人首頭ヲ取リ天ニ向ヒ一齊ニ「キー」ト叫フ。斯クスレハ風一時ニ止ムヘシト云フ。別ニ祈禱ノ方式ナシ

（七）こほじ番内獅頭社　ニ於テハ各戸任意ニ之ヲ行フ家族ノ者誰ニテモヨシ前庭ニ出テ風上ニ向テ饌ノ供シ何故ニ斯ク風吹クヤ。何故ニ遠方ヲ通ラサルカ」ト稱フ

（八）はりじゃお番高士佛社　ニ於テハ各戸任意ニ行フ。一人ノ婦女旦室ノ中央ニ蹲踞シ南方ニ向テ供饌シ「社ヲ守ル神ヨ、汝ニ此肉租（番語「バテス」）ヲ與フルカ故ニ直ニ風ヲ止メヨ」ト稱フ

第五　落雷ニ關スル祈禱

（甲）鎭雷又ハ避雷ノ祈禱　此ノ祈禱ヲ行フ番社ハ甚少シ。又之ヲ行フト雖モ其式ハ頗ル簡單ナリ

（一）ぶつる番カジャジャラヌ社　ニ於テ雷鳴ニ對シテ祈禱ナシ。唯其烈シキ時ハ何人ニテモ可シ前庭ニ出テ天空ヲ仰キ「祖靈ヨ。河ニ行ケ。山ニ行ケ。ヅット上ノ方ニ行ケ。小供ガ恐ルル故ニ」ト叫ブノミ。又當社民ハ途中ニテ雷鳴ニ逢フトキハ「ホー」ト大聲ニテ叫フ。是遠方ニ行ケトノ意ナリトソ

(二)同番**カヒヤがヌ社**　ニ於テ雷鳴烈シキトキハ男覡ラリヤバ家(頭人家、古代ノ頭タル家)ニ赴キ儀ヲ供ニ上天、是定メシ兒女等ガ禁忌ヲ犯シタル爲ニ汝ノ怒ヲ招キタルナラン。サレド彼等ハ無智ナレハ巳ムヲ得ス。願クハ之ヲ恕セラレヨ。今祈禱ヲ爲シテ汝ニ謝ス」ト稱フ。尙雷鳴止マサルトキハ禁忌ヲ犯シタル者ヲ査出シ小豚一頭ヲ罰シ之ヲ屠リ其肉ヲ以テ上天ノ靈ニ供ス。但シ其肉ハ祭後覡ノ所得ニ歸ス

(三)北はいわ番**ホかリド社**　ニ於テハ雷鳴烈キ時ハ何人ニテモヨシ前庭ニ於テ「此方ニ來ル勿レ何モ惡事ヲ爲シタルコトナキ故」ト曰フノミ。別ニ之ニ關スル祈禱ナシ

(四)同番**チジカフス社**　ニ於テハ暴風雨雷ヲ以テ天神ノ怒ニ歸シ豚ヲ屠リ以テ祭ヲ行ヒ其禁忌ヲ犯シタル罪ヲ謝ス。其法畧カビヤガヌ社ニ於テ行フモノニ同シ

(乙)落雷後ノ祓　此ノ祓ヲ行フ番社モ甚少シ

(一)ぶつる番下**パイワン社**　ニ於テ落雷アリタルトキハ其不吉ヲ攘ハンガ爲メニ祭祀ヲ行ヒ之ヲ「リシ・ヌ・スモガガラ・ヌ・エナラ」(一社ノ恐怖ヲ祓フノ義)ト云フ若シ落雷ノ場所ガ人家ナルトキハ巫ヲ請ヒ其家人ニ對シテ之ヲ行ヒ又單ニ部落内ノ或土地若ハ樹木ナルトキハ男覡ヲシテ之ヲ行ハシム男覡直ニ郊外ノ祭屋ニ赴キ其内室ニ入リテ儀ヲ具シ戶口ニ來リ東方ニ向ヒ儀ヲ投シツヽ「汝ノ社ノ恐怖ヲ攘ヘタカラウス汝ガ銃ヲ落シタル所ノ」ト唱ヘテ歸ル此日同部落ノ民ハ晝愼シテ外出セス

(二)同番**カザザラ社**　ニ於テハ自分ニ近ク落雷シタルトキ女覡ニ請ヒパヲグァウ家(祭屋)ニ赴キ其祈禱ヲ受ク即チ身ニ附シタル惡靈ヲ祓フナリ　又雷死シタル者アルトキハ社覡パツグフツ家ニ赴キ儀ヲ投シテ「河ニ行ケ山ニ行ケ云々」ト稱ヘテ社内ノ惡靈ヲ祓フ

（三）こほじ番內獅頭社　ニ於テ社內ニ落雷アリタル時ハ各戶任意ニ其祓ヲ行フ。家族ノ中何人ニテモヨシ前庭ニ出テ饌ヲ供シ「何故落雷シタルヤ。此次ヨリハ他ノ地ニ落ツル樣ニセラレタシ」ト曰フ

第六　地震及地崩ニ關スル祈禱

（甲）鎭地震ノ祈禱　單ニ地震ヲ鎭ムル爲ニ祈禱ヲ行フ者ハ甚少シ。左ニ小林氏ノ調査シタルヲ掲ク

（一）ぶつる番カジャジャラヌ社　ニ於テ地震烈シキ時ハ何人ニテモヨシ「オー」ト叫フ。此ハ家ノ破壞セサル爲ノ意ナリト

（二）こほじ番內獅頭社　ニ於テ地震烈シキ時ハ頭人巫ヲ招キ祈禱ヲ行フ。巫ハ頭人家ノ奧室大黑柱ノ下ニテ祖靈ノ喚ヒ饌ヲ供シ「天ニ在スピナバブカサヌノ靈ヨ。何故ニ斯ク地ノ動クニヤ。若シ社民ニシテ禁忌ヲ犯シタル者アラハ之ヲ謝スヘシ。故ニ速ニ怒ヲ解キ給ヘ」ト祈ル。此時瓢卜ヲ以テ其意ノ祖神ニ通シタルヤ否ヤヲ驗ス

（乙）山崩ニ對スル祓　地震ノ爲ニ山崩ヲ生シ又之ヲ生セントスル虞アル場合ニ之カ禳祓ノ爲スル者ハ甚多シ。左ニ二三ノ番社ニ行ハルルモノヲ示ス

（一）こほじ番內獅頭社　ニ於テ降雨久シク又暴風雨雷ノ爲ニ山崩ノ虞アルトキハ、トマブン、トソ、ピナバブカサヌ（ピナバブカサヌニ賠償スル義）ノ祈禱ヲ行フ　當社ニハ稀ニ全身白毛ノ豚ヲ生スルコトアリ。其時ハ是ピナバブカサヌノ意志ニ依リ生レタルモノニシテ必暴風雷雨起ルヘシトシ社民等甚タ之ノ恐怖ス。卽チピナバブカサヌガ其豚ヲ欲スル爲メニ暴風雨又ハ雷雨ヲ起スト爲スナリ。故ニ頭人ハ其豚ヲ引來ラシメ家族又ハ其系統ノ者ニ命シ其ニ裝飾ヲ施サシム。卽軀ニハ黑木綿ニテ作リタル上衣及袴ヲ著セ頭ニハ赤紙及赤染ノ馬尾ニテ作リタル頭環ヲ被セ胴ニハ巾二寸位ノ黑木綿ノ帶ニ南京

玉ヲ附シタルヲ卷キ首ニハ「ザガ」(頭飾)ヲ懸ケ前脚ニハ南京玉ヲ綴リタル環後脚ニハ猪皮ニテ作リタル環ヲ箝メシム。然後頭人及其系統ノ男子三名乃至五名ニテ盛裝シテ刀ヲ帶ヒ銃槍又ハ弓矢ヲ持シ此豚ヲ追ヒツツ山ヲ降リ溪口ニ赴キ頭人先ツ海ニ向テ饌ヲ供ニ天ニ任セニナバブカサ。汝ニ此盛裝シタル豚ヲ與フルニ因リ直ニ暴風ヲ止メ給ヘト祈ハ其豚ヲ水中ニ突入レテ海ニ流ス。豚海ニ流ルレハ山崩ナキモ流ニ逆テ上ルトキハ大ナル山崩アルヘシト爲シ強テ之ヲ海ノ方ニ追フ、而シテ其遠ク流行クヲ見屆ケテ後ニ歸社ス 此祈禱ハ當社ニ限リ他社ニ其例ヲ見ス

(附記) 此祭祀ハ古代パダイ、ヲ去リタル祖神ブジ、ジヤ、ノ話(傳說ノ部參照)ト關係スル所アルガ如ク思ハル

(二)ぱりじゃお番サブデク群社 牡丹路社ノ老巫チョオ・トイボ語テ曰ク今ヨリ四五十年以前ノ事(記者二十七歳ノ時)ナリ。何レノ番社ニ於テモ人ハ生レス、犬サヘ豚サヘモ生レス、農作ハ豐ナラス、諸人困リ果テテ居リシ時俄然地大ニ震ヒ諸所ニ山崩ヲ生シタリ。此時余ハ是全ク五年祭ノ儀式ノ等閑ニ附セシ爲ニサジムジノ靈ガ怒テ此災ヲ起シタルナリト氣付キケレハ當社ニ於テハ白色ノ豚ヲ求メ之ニ「ラニ」(管玉)赤衣、鳥羽及赤毛ヲ着飾テ溪ニ流シ以テ祖神ニ供シ其罪ヲ謝セシカハ地ハ漸ク靜ニ爲リタリ云々

(三)ぱりじ、お番高士佛社 ニ於テハ社內又ハ耕作地ニ山崩アリタルトキハ女覡先ツ自家ニ於テ瓢ニ依テ何處ノ禁地ノ靈ノ祟ナルカヲトシテ之ヲ頭人ニ告ク。兩頭人協議シ「トマブン・トソ・ツマス」(靈ニ賠償スルノ義)ノ祈禱ヲ行フ。兩頭人家ヨリハ協同シテ犧牲トスヘキ豚一頭ヲ出ス。此日早朝兩頭人ノ始メ男女ノ主祀、諸巫及社民等ハ該禁地ニ赴キ二三ノ番丁ハ豚ヲ擔ヒ禁地ニ至リ其林ノ前ニシテ之ヲ

地ニ置ク。女祝此豚ニ對シテ蹲踞シ諸人其後ニ從フ。女祝乃饌ヲ供ヘテ曰ク、我等今此禁地ニ在ス靈ヲ呼テ問ハントス。何故ニ斯ク降雨アルヤ。何故斯ク山崩アルヤ。何故斯ク部落ノ害スルヤ。今此豚ノ供ヘテ汝ニ謝ス。願クハ速ニ怒ヲ解キ以テ我社ヲ保護セラレンコトヲ。次テ男祝刀ヲ振テ豚ノ刺殺シ男副祝及番丁ハ之ヲ其森林中ニ投込ミ了テ一同歸社ス。此日社民業ヲ休ミ外出スルコトナシ

第六項　土地及番社ノ平安ニ關スル祭祀

第一　總説

社内平安ニ關スル祭祀ニハ土地ニ對スルモノ、部落ニ對スルモノ、水源地ニ對スルモノ及疫病ニ對スルモノノ五種アリ。茲ニ此等ヲ順次ニ地神祭、社神祭、水源祭及疫厲祭ト稱ス　上記ノ祭祀ハ大體ニ於テ一黨又ハ一社之ヲ共同ニスレトモ少數ノ番社ニ於テハ各戸別々ニ之ヲ行フモノアリ　其同祭ノ場合ニハ男又ハ女タル番祝之ヲ主リ家祭ノ場合ニハ家族中祭事ニ通シタル者又ハ其家ノ受持テル巫之ヲ主ル　此等ノ祭祀ハ毎年定期ニ行ハント雖モ少數ノ番社ニ於テハ尚ホ不祥ノ事ガ發生シタルトキニモ臨時ニ之ヲ行フコトアリ

第二　地神祭

(一)總説　土地ノ靈ヲ祭ルコトヲ、パリシ・ト・カジ・ナガノ(土地ナ祭ルノ義)又ハ、ル・マスジ・ト・カジ・ナガノ(土地ヲ整理スルノ義)ト云フ。蓋シ此祭ヲ行ヒ以テ其地ニ發生シタル不吉不淨ヲ禳去ルナリ。茲ニ之ノ地神祭ト稱ス　地神祭ハ概シテ毎年一回定期ニ之ヲ行フト雖モ少數ノ番社ニ於テハ此外ニ尚變死者アリタル場合ニ臨時ニ之ヲ行フ　左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク(本條(三)(四)(五)ハ小林氏他ハ安原氏ノ調査ニ係ル)

(二)ぶつる番下パイワヌ社ニ於テハ數黨アレトモ此祭ハ毎年「マサルト」ノ後全社合同シテ之ヲ行フ其

時頭人中タルジャルム家之ガ主祭タリ。蓋シ往古當社ノ地ハ大半同家祖先ライライノ領有タリシ縁故ニ因リ土地ニ關スル祭祀ハ同家ノ主トル所ト爲リタルナリ。此祭祀ハ「スヒヤア」([illegible])ト稱シ主祭者粟莖ヲ燻シ地神ヲ呼ヒ之ニ鐵片(次ノカザギラス社ノ部ヲ見ヨ)及饌ヲ供シ全社ノ土地ノ不淨ヲ禳ノ

(二)同番カザギラス社ニ於テハ數黨アレト此祭ハ毎年マサルトノ後一社共同シテ之ヲ行ノ。早朝頭人唯獨畑ニ赴キ東方ニ向ヒ饌ヲ供シ後鐵片ヲ篠ノ先端ニ挿シタルモノ(番語[illegible])ヲ地ニ立テ祝シテ曰ク『パカイシャジャウ(土地ヲ守護ス)。アイチ(此鐵)。バトラヤ、カト(及篠)。オソイ、シ、チ、チ、ソル(挿ク)。ヌノソリジュナカ(汝地神ニ)』ト畢テ歸來ス。此日全社業ヲ休ミ一同社外ニ出ヅルコトヲ得ス

(三)北はいわ香チジカブス社ニ於テハ毎年粟ノ播種祭前ニ各黨別々ニ之ヲ行ノ各黨頭人家ニ於テハ豫メ酒一甕ヲ醸シ當日小豚一頭ヲ屠リ女祝ト共ニ其豚ノ頭及酒一瓢ヲ持チテ畑ニ赴キジ、ジ、ア」(石造ノ小祭屋)ヲ造リ女祝其中ニ豚ノ頭ヲ納メ酒ヲ供シ饌ヲ投シ祝シテ「今汝土地ノ靈ヲ祭ル願クハ土地ノ崩ルルコトナキ樣ニ護レ云々」ト曰ヒテ歸ル

(四)同番リキリキ社ニ於テハ毎年一回芋ヲ植ユル前ニ各黨別々ニ之ヲ行フ。此日巫ハ當人家ニ赴キ其奥室ニ於テ榕樹及桑ノ葉數枚、粟餅若干、豚骨數片ヲ供シ巫歌ヲ唱ヘ地神ヲ祭ル

(五)同番スボン社ニ於テハ毎年一回芋ヲ植附ケタル後ニ各戸別々ニ之ヲ行フ。但シ一社其日ヲ同ジクス。當日巫ハ各戸ヲ廻リ其畑小屋ノ内ニテ酒(小竹筒ニ入レタル)桑ノ葉、相思樹ノ皮數枚及豚脂ヲ供ヘ「今汝土地ノ靈ノ爲メニ祭祀ヲ行フ、願クハ狩獵ノ幸ト粟ノ豊作トヲ與ヘヨ」ト祈リ屋外ニ出テ住屋附近ニ小サキ石小屋ヲ造リ茲ニ饌ヲ納メ少許酒ヲ灌キテ地神ヲ祭ル

(六)こぼじ番内文社ニ於テハ毎年「マサルト」ノ末日「マブソアヌ」ノ時ニ行ノ(農業ニ關スル祭祀、内文社ノ部ヲ見ヨ)又農作不良

ナルカ社ノ地域內ニ變死者アリタルトキカ等ニ臨時之ヲ行フ。此祭ハ甲、乙兩黨各別ニ行ヒ或ハ合同シテ行ノ。今臨時ニ行フモノニ付テ記ス。當日老年者又ハ死畜ノ肉ヲ食シタル者三名ヲ選ミテ「チマダロツ」(意義審ナラス)ト爲シ最瘠薄ナル地(番語「ボ」)ヲ選ミ其所ニ至リ豚ノ頭·股及腰ノ三所ノ骨ヲ取リ刀ニテ細碎シ之ニ其他ノ土ヲ混ジ「ビヤク」(相思樹ノ皮片ヲ用ユ)ノ土ニ載セ甲ハ「ジャ、サナクヤ」(不吉ナ凶ヲ去ルノ義)ト稱ヘ乙ハ「ジマコ」サヌ。トイチョジャラン(異レル路)。トイチョシイバオ(草ヲ分ケルコト)(意義審ナラス)ト稱ヘ內ハ「スマオヤ。ポパウン。イサヌ。カクテーア」(變死者ノ靈ヲ殘ラス悉去ルノ義)ト稱ヘツツ此ノ儀ヲ崖下ニ投棄ス、之ヲ「パリシ·ト·ジャシ·ツ」(悪毒ヲ断去ルノ祈禱)ト云フ斯クテ右ノ三人歸來スレハ一衆之ヲ郊外ニ迎ヘ女祝豚ニ對シテ、パルグルハノ祈禱ヲ行ヒ後之ヲ居リテ諸多ノ地神ニ供ス。其式「マサルトノ末日「マブソア」ノ時ニ行フ地神祭ノ如シ又前脚ノ骨ヲ取リツンブジ(煙ヲ以テ招魂スルノ義)ノ式ヲ行ヒ猪·鹿·粟·芋等ノ靈ヲ招徠ス。此日一衆ハ皆酒ヲ携ヘ來リ豚ノ骨ト腹ヲ煮テ汁トシ飲宴ヲ開キ肉ハ各戶ニ持歸ル

(七)同番內獅頭社 ニ於テハ每年畑ヲ開墾シ茅ヲ集メテ燒キタル後(陽暦四月)ノ漸々小サク將ニ消エントスル時晝間ニ之ヲ行フ以テ變死·產死·犬猫等ノ暴死等凡ノ不淨、穢ノ其式大體內文社ト於テ行フモノニ同シ

(八)はりじ、お番牡丹路社 ニ於テハ新ニ土地ヲ開墾セントスル時ニ各戶任意ニ巫ヲ招キテ之ヲ行フ。但シジジン黨ハ每年一回土地ヲ開墾スル前ニ副女祝ノシテ行ハシム 其法先ツ瓢ニ依リテ其地ヲ耕作スルノ可否ヲ質シ又其地ニ曾テ變死シタル者ナカリシヤ否ヤノ質シ若之アリトスレハ其惡靈ヲ驅逐スルコトヲ得ヘキヤ否ヤヲ問ヒ若シ不可ナリトセハ其地ニ細長キ石ヲ埋メ之ニ對シテ穀菜ノ豐收ヲ祈ル。之ヲ「パリシ·ト·ビナイシャザオ」ト云フ。其年果シテ豐收ナルトキハ粟餅及豚肉

ヲ以テ巫ニ謝フ、然ルトキハ巫再ヒ其所ニ赴キ右ノ埋石ニ對シテ祭祀ヲ行ノ

(九)同番四林格及加芝來ノ兩社ニ於テハ毎三年一回舊暦二月上旬ニ於テ一社合同シテ地神祭ヲ行フ　當日午前社民ハ頭人ノ家ニ集リ一同山ニ登ル。其時女祝幅約二尺半長八寸程ノ長方形ニ土地ヲ開キ草ヲ刈リ之ヲ均シ茲ニ檳榔樹ノ葉ヲ三列ニ並ヘ餅、豚ノ脂肉及骨片ヲ載セ少シク酒ヲ灌キテ地神ヲ祭リ域內ノ土地安全ヲ祈ル。右了テ一同歸來シ頭人ノ家ニ於テ飲食歡ヲ盡ス

第三　社神祭

(一)總說　部落ノ靈ヲ祭ルヲトフパリシ・ト・キナジャン(部落ヲ祭ルノ義)ハマス・ジ・ト・キナジャン(部落ヲ警衞スルノ義)又ハパホロヲム・ト・キナジャン(部落ニ元氣ヲ附スルノ義)ト云フ。茲ニ社神祭ト稱ス

此祭祀ハ毎年一回定期ニ之ヲ行ヒ又ハ番社內ニ凶災生シタルトキハ臨時ニ之ヲ行フ、何レモ一社又ハ數社之ヲ共同ニス　左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ノモノヲ揭ク(本條中(六)(七)(八)ハ小林氏、(五)(九)ハ安原氏ノ調査ニ係ル)

(二)るかい番ダデル社ニ於テハ社內ニ馘首セラレタル者其他變死者アリタル時別ニ祭祀ト稱スヘキモノナシ。唯各戶ヨリ一人ツツ社外一定ノ場所ニ至リ各別ニ饌ヲ天ニ向ヒ捧ケ社內ノ平安ナランコトヲ祈ルノミ。五日間全社謹愼シテ外出セス

(三)同アダイ社ニ於テハ社民中ニ變死者アリタル時ト雖モ之カ爲メニ別ニ祭ヲ行フコトナシ唯其家族ハ月ノ改ルマテ、社民ハ其日一日間謹愼シテ戶外ニ出テス。又六日間ハ他社ト交通ヲ禁ス

(四)ぶつる番下パイワン社ニ於テハ毎年一回「マサルト」ノ後全社共同シテ之ヲ行フ。男祝其家ニ於テ鐵ノ小片三個ヲ置キ「キナジャン」(社神)ノ靈ヲ呼ヒ之ニ酒肉ヲ供シ以テ社中ノ安全ヲ祈ル。之ヲ「ツマヤ

ル」ト云フ　パイルス社ノ祭祀亦之ニ同シ

（五）同番カザ（ギ）ジャヌ社ニ於テハ毎年芋ヲ收穫シタル後ニバブルガ、マバリューノ兩黨別々ニ之ヲ行フ。今其マバリュー家ニ行フモノヲ示ス。當日午後二三時頃女祝ヲ、先頭トシ頭人以下全黨民ハ「トライ」（社内ニ在ル地名）ニ至リ女祝東面シテ蹲リ一衆之ヲ圍テ立ツ。其時ポリラン家ノ男子數名豚一頭ヲ屠リ女祝之ヲ祖上ニ陳ヘ饌ヲ供シツツ社神ヲ喚ヒ「汝ノ社ヲ大切ニセヨ」ト祝シ然ル後豚ノ四肢ハ之ヲ頭人、黨老、女祝及番丁等ニ分與シ殘餘ハ其場ニテ之ヲ煮テ食ス

（六）北はいわ、番チジ、カブス社ニ於テハ部落内又ハ部落ノ附近ノ地ガ崩壞シタルトキハ各黨共同シテ臨時ニ之ヲ行フ。此祭ハ大頭人ロバニヤウ家之ヲ司リ同家ニテ酒ヲ釀シ小豚一頭ヲ屠ル。此日女祝ハ諸頭人等ト共ニ豚ノ頭部ト酒二甕ヲ持シテ社ノ上方ニ赴キ（場所ハ必シモ一定セス）小サキ石ノ祭屋ヲ作リ豚ノ頭ヲ其中ニ入レ酒ヲ供シ饌ヲ投シツツ社神ノ靈ヲ呼ヒ「今後再ヒ社内ニ災害ナカラシメヨ」ト祈ル

（七）同番リキリキ社ニ於テハ暴風雨等ニテ社内ニ山崩アリタルトキハ其土地ヲ所有スル頭人家ニテ之ヲ行フ。此日黨民ハ皆其頭人家ニ集合シ女祝其奥室ニ於テ桑ノ葉數枚、豚骨數片ヲ以テ大黒柱ニ供シ社神ヲ喚ヒ「將來社内ニ再ヒ山崩ナク而シテ土地ガ一層堅固ニナル樣ニ」ト祈ル

（八）同番ヌボン社ニ於テハ毎年一回「マサルト」ノ後數日ニシテ之ヲ行フ。但シ各社日ヲ同クスルモ各黨其祭ヲ別ニス。此日頭人家ニ於テハ豚一頭ヲ屠リ奥室ノ中央ニ置キ女祝之ヲ以テ社神ヲ祭リ「祖先ヨリ傳ハリタル此社ヲシテ益々元氣ナラシムル樣ニ」ト祈リ饌ヲ持シテジャジャン（本社ノ西方ニ在ル禁地）ニ行キ之ヲ捨ツ

（九）こぼじ番内文外數社　こぼじ番ニ於テ此祭祀ハ多ク一社ニテ其一團ヲ爲ス、ヒ内文。阿乳。中文ヘ|ナジン及ソンジ|ジノ五社ノミハ合シテ一團ヲ爲シ内文社ニ於テ之ヲ行フ。此祭ハ前後四日ニ亘ル、左ニ内文社ニ於ケル次第ヲ記ス

第一日夕刻チ、ロ兩黨ノ男女ノ祝ロ家ノ前庭ニ來リ其庭前ノ立石（番語かり一ミ）ニ對シ饌ヲ具ヘ明日當ニ社神祭ヲ行フヘキ旨ヲ告ク

第二日早朝兩黨ノ男祝饌ヲ具シ持シテ、ポカロア（死者ノ遺物ヲ投棄スル所）ニ至リ諸靈ノ呼ヒ告ケテ曰ク「汝レ諸靈ヨ。汝等此社ニ留ニハ恐シカラスヤ」トテ之ヲ社内ノ土ノ混シ、ビヤ|ク|ト共ニ投棄シテ歸ル。再ヒロ家ノ前庭ニ來リ女祝小豚ニ對シ祈禱ヲ行ヒ男祝其頭ヲ刺シ之ヲ屠リテロ、ア兩家ニ分ツ兩家ハ更ニ其片股ヲ取テ、パ家ニ與フ。三家ハ各之ヲ庭前ノ大樹ニ吊シ祖靈ニ供スルコト五年祭ノ場合ニ同シ此夜各社火ヲ滅ス

第三日未明（午前三時頃二）各頭人家ニ於テカタジーフ（絹ノ一種）ヲ告ク、ハジービロ（山蕉實）ヲ以テ木豬ヲ作リ之ヲ以テ豬犬ヲ作ル。早朝黨民等來リ之ヲ取ル、俑シテパ、バリ・ト・サ、フイ（火ヲ改ム）ト云ノ、ソレヨリ女祝ハロ、ニ、ナ三頭人家ニ至リ該黨民ニ對シテイサナジ、ク（銃器）ニ對シテ「バツブラブ」ノ祈禱ヲ行ノ

第四日兩黨組合シテ「マヤナ可ブ（出草）ヲ行フ。但シ現時ハ出草ヲ行ハス、藁又茅ヲ以テ人形ヲ作リ之ヲ社日ノ外庭ニ立テ以テ敵ニ擬シ男祝弓矢（矢ハ細竹ニテ作リ鍋ノ破片ヲ鏃トス）ヲ持シ壯丁ヲ率ヒテ之ニ至リ右ノ人偶ヲ射ル壯丁等躍進直ニ其首ヲ取上ケ大聲ヲ發シテ持歸レハ女祝之ヲ迎ヘ脂片ヲ以テ其口ニ嚼ハシメ之ヲ首架ニ納ム。祭畢ル

（十）はりじっお番サブデク群社　ニ於テハ毎年一回粟ヲ播シタル後及毎五年一回パ、ロ、ポ祭ノ前ニ

之ヲ行フ其式下ノ如シ　此日男女ノ兩祝ハ舊社地ニ至リ豚ヲ屠リ東面シテ坐シ粟飯豚肉及酒ヲ陳シ豚ノ前脚ヲ以テ社神及豚・人・粟芋等ノ靈ヲ招キ之ニ饌ヲ供シ社内ノ安全ヲ祈リ後其供物ヲ投棄シテ歸ル

(十一)はりじお番高士佛社ニ於テハ社内ニ變死、產死其他不吉ナル事アリタルトキハ全社合同シテ臨時ニ之ヲ行フ其法下ノ如シ　其日全社ノ番丁武裝シテ一同舊社址ニ赴ク。女祝ハ祭屋ノ前ニテ南方ニ向ヒ饗饌シテ曰ク茲ニ番社及道路ノ不吉ヲ祓フ。社神ノ靈願クハ惡靈ヲ逐出シテ番社並ニ我等ヲシテ安全ニ且幸アラシメヨ」ト了テ直ニ「スマノロコムシ」(元氣ヲ付ケル義)ノ祈禱ヲ行フ。ソレヨリ社民ノ銃器ヲ頭人家ノ舊址内ニ陳列ス。頭人マジャカス家ノ所藏ノ大銃(曰「マコアリ」)モ此祈禱ノ時ニ限リ之ヲ持出ス。女祝之ニ對シ饌ヲ供シ祝シテ曰ク「銃器並ニ之ヲ所有スル者ニ元氣ヲ付ケヘ。祖神竝神竝ニ祖先ノ靈。願クハ此等ノ者ヲシテ常ニ元氣ニシテ操銃ニ巧ニ、且狩獵又ハ戰鬪ニ際シテ勇敢ニシテ名譽ヲ得セシメ我等兩頭人家ハ常ニ他社ノ者ヨリ賞讚セラシメヨ」ト。了テ番丁等各其己ノ銃ヲ取上ゲレハ男祝モ亦其大銃ヲ取リ一同裝塡スレハ男祝先ツ南方ニ向テ空砲ヲ放ツヤ、ト三發。番丁等ハ各附近ノ樹木ニ向テ一發ス之レニテ祈禱ヲ了リ歸社ス　翌朝未明ヨリ一同狩獵ニ赴ク

第四　水源祭

(一)總說　本族ノ領域ハ一般ニ冬期雨少ク水涸レ屢々飲用水ニ不自由ヲ感ズルガ故ニ若干ノ番社ニ於テハ一社ノ湧水地中最大ナルモノニ就キ水ノ涸レサル樣ニ祈禱ヲ行フ。之ヲ「パリシタ・ザジ」(水ヲ祭ル義)又ハ「パリシ・タ・チャチャス」(井ヲ祭ル義)ト云フ。茲ニ水源祭ト稱ス。但シこぼじ番、スボン群社及ばりじお番ニハ此祭ナシ　水源祭ハ番社ニ依リ毎年定期ニ行ヒ或ハ臨時水源ノ涸渇シタル時ニ行フ。左ニ

二三ノ番社ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ノモノヲ記ス

(二)ぶつる番カザギラヌ社ニ於テハ毎年十一月頃一社內ノ女祝數人(即各番ニ一人)早朝饌ヲ持シテ湧水地ニ至リ饌ヲ供シ水源ヲ涸ラシメス樣水ニ不足セス樣ニ祈リテ歸ル

(三)北はいわん番チ、ジ、カブス社ニ於テハ降雨少ク水源將ニ涸レントスル時ハ之ヲ行ヒ男祝單獨ニテ水源地ニ赴キ溪ニ向テ饌ヲ投シ水ノ常ニ涸ルルコトナク滿チ滿チテ溢レテアランコトヲ祈ル

(三)同番リキリキ社ニ於テハ水ヲ引クニハ筧ヲ以テス故ニ毎年一回修スルトノ後數日ヲ經テ筧ニ對シテ此ノ祭祀ヲ行フ其式下ノ如シ　先ツ筧ノ引口ニ於テ一時水ノ止メ置キ而シテ社內ニテ最モ古キ頭人家ハ其男祝ヲ伴ヒテ其引口タル溪ニ赴ク其時祝ハ豚ノ脛骨二本ヲ溪畔ニ置キ之ヲ以テ溪神ヲ祭リ將來此水ノ永ク盡キサル樣ニ祈リ後止メタル水ヲ筧ニ引入ル又一方社ノ落口ニハ女祝一人桑葉數枚ト豚骨ヲ供ヘ粟莖ニ火ヲ點シテ水ノ來ルヲ待シ頭人及男祝ノ歸來ヲ待ツ而シテ水來リ頭人等亦歸來スレハ頭人ハ其饌ヲ取テ之ヲ落口ニ投入シ前ト同一ノ祈願ヲ爲ス

第五　疫癘祭

傳染病ニ關スル祭祀ニ二種アリ、一ハ附近ノ番社ニ赤痢、窒扶斯、痘瘡其他ノ傳染病(番語[illegible])ノ流行セル時其疾病ノ自社內ニ入ラサル樣ニ祈ルモノ、他ハ自社內ニ傳染病ヲ發生シタルトキ其疫病ヲ社外ニ逐出スモノナリ。此等ヲ總稱シテパリシン・タ・アヤト云フ、茲ニ前者ヲ防疫祭後者ヲ逐疫祭、合併シテ疫癘祭ト爲ス　此祭祀ハ一社若クハ數社共同シテ之ヲ行ヒ其祭祀ノ男祝之ヲ主ル其儀禮ノ式ハ各番社多少ノ差アリ。左ニ若干ノ番社ニ就テ調査シタル所ヲ掲ク

(甲)防疫祭　本族ハ疫病ヲ以テ厲鬼ノ爲ス所トシ疫病カ附近ノ番社ニ發生シタルトキハ其番社ト

交通ヲ禁絶スルノミナラス。尚其疫癘ノ社内ニ入來ラサル樣之ヲ防止スルノ祈禱ヲ行フ。之ノ「パリシ・タ・キボコツン」ト云フ「コツン」ハ垣又ハ仕切ノ義ナリ。之ヲ社ノ入口ニ施シ以テ疫癘ノ此所ヨリ内ニ入ルコトヲ防クナリ（(二)(三)安原氏(四)乃至(七)小林氏ノ調査）

(二)るかい番ダデル社　るかい番ニ於テハ此祭祀ヲ「ソサリリ」ト云ノ、ダデル社ハタラマカウ社ト合同シテ行ヒ番丁中ニ祭事ニ通スル者誰カ一人ヲ選テ其主祭ト爲ス。當日主祭者ハ社口ニ至リ茅ノ先端ニ鐵片ヲ挾ミタルモノ二本ヲ立テ厲鬼ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ投棄シ曰ク「我等ハ元氣ナリ。今之ヲ汝等ニ與フルガ故ニ汝等ハ之ヨリ内ニ入ルヘカラス」ト稱フ

(二)ぶつる番下パイワ社　ニ於テハ其式大體こぼじ番内文社（下ニ揭ク）ニ同シ。唯「コツン」ノ欵式ノ異ニスルノミ。卽當社ノ社口ニ施ス「コツン」ハ茅ノ莖ヲ地上ニ置キ之ニ「カルブ」「ヅォラジ」及「ビアク」ヲ投スルニ過キサルナリ

(三)同番カサ(ギザ)社　ニ於テハ當日男覡ハ黨老（「カフイ」）ト共ニ武裝シテ番社ノ諸人口（先ツ病氣發生セル地ニ向ヘル入口ヨリ始メ順次其ノ入口ニ及ホス）ニ赴キ「コツン」ヲ施シ曰ク「我等ハ「ラヤル」（流行病）ニ對シテ「コツン」ノ施ス。厲鬼等此「サバジ」（入口ノ外ニ在ル廣場ニ）迄來ルモ之ヨリ内ニ入ルコト勿レ」ト稱ヘテ歸ル。當社ノ「コツン」ハ「イスソブ」（木又ハ竹ノ先端ニ鐵片ヲ挾ミタルモノ）及「ビヤク」ノ葉二本ヲ作リ之ヲ社ノ入口ニ於テ外方ニ向ケ斜ニ地上ニ插スナリ　同番マカザザ社ノ「コツン」ノ法亦之ニ同シ

(四)北ぱいわン番チヤジヤカブス社　ニ於テ此祭ヲ「パリシ・タ・イヤツグイチス」（「イヤツグ」ハ防ク義ナリ）ト云ノ。隣社ニ傳染病起リタルトキ臨時ニ之ヲ行フ。男覡ハ三頭人ト共ニ傳染病アル番社ノ方面ノ休憩所ニ赴キ道路ノ兩側ニ各一本ノ茅莖ヲ立テ「ビヤク」ヲ投シ「今祈禱ヲ行ヒ病ノ來ルヲ防キタリ。疫癘之ヨリ社内

ニ入ルコト勿レ』ト祈リテ歸ル

(五)同番**ポガリヅ社**　ニ於テハ流行病社内ニ起リタルトキハ各戸其入口ニ於テ茅華ノ戸ノ兩側ニ立ツ。別ニ祈禱ナシ

(六)同番**リキリキ社**　ニ於テハ此祭ヲ「バリシ・タ・バボリーム」（元氣ヲ付スル義）ト云ヒ、女祝社ノ各入口ニ饌ヲ投シ『社神ヨ、社ニ元氣ヲ付ケ而シテ病氣ノ來ラサル樣ニ社民ヲ保護セヨ』ト祈ルノミ、別ニ社口ニテ「コッツン」ヲ施スコトナシ

(七)同番**スボン社**　ニ於テハ當日女祝頭人家ノ奧室ニ於テ饌ノ供シ社神及祖靈ヲ呼ヒ將ニ社ニテ「コッツン」ヲ施シ以テ病氣ノ此社ニ來ルヲ防ガントス。願クハ社民ノ元氣ナル樣ニト唱ヘ其饌ヲ持行キ社外ノ各道路ニ二本ノ竹ヲ立テ之ニ一本ノ竹ヲ架シ其中央ニ饌ヲ吊ル

(八)**こぼじ番内文社**　ニ於テハ男祝社ノ入口ニ「コッツン」ヲ施シ「惡靈此社ニ來ラサル樣假令來ルトモ此所ヨリ引返ス樣ニ」ト祈ル。「コッツン」ハ木二本ヲ立テソレニ横木ヲ架シ之ニ脂及骨ヲ容レタル籠ノ吊ス。此祈禱ヲ「イポコッツン・パサチクル」ト云フ

(乙)**送疫祭**　本族ハ疫病ガ社内ニ發生シタルトキハ之ノ以テ厲鬼ガ社内ニ入リテ人ニ憑着シタル故ト爲シ之ヲ社外ニ送出スルノ祈禱ヲ行フ。之ヲ「ブナイバイ・タ・ラヤル」ト云フ。其式左ノ如シ（小林巡査）

(一)**るかい番ブダイ社**　ニ於テハ各戸其家長タル者主祭ト爲リ家内ニ於テ豚皮及鐵片ヲ持シテ家族ノ身ヲ攘ヒ今ヨリ疫癘ヲ送出スヘキ旨ノ告ケ之ノ持シテ社外ノ休憩所ニ集リ其内ノ數人其供物ヲ集メテ川又ハ山ニ至リ棄テ歸ル

(二)**ぶつる番カザ（ギザ）社**　ニ於テハ各黨ノ男祝其黨老ト共ニ社ノ入口ニ「シニノサオ」（竈ヲ造ルニ用ユル品）ヲ

作リ「疫ヲ屠出ス」(プナイ・イ・タ・ラヤル)ト唱ヘテ歸ル。シニプサオハ防疫祭ニ施ス「コツン」ト其式ヲ同クシ、斯クテ其社ニ病ノ全ク終熄スルマテ毎日同樣ノ祈禱ヲ行フ　天然痘ノ病者ヲ看護シタル者ハ自カラ社ノ西方ノ入口(以テ土人部落ニ對ス)ニ行キ「シニプサオ」ヲ作リ呼テ曰ク『掃フ。イザ海ノ方ニ行ケ、其溪コソ汝ノ行クヘキ路ナレ。振向クコト勿レ、而シテ番藷ノ纖維コソ從前ノ如ク汝ノ食物ナレ』ト稱フト云フ

(三)同番カササラヌ社ニ於テハ傳染病ガ隣社又ハ自社ニ發生シタルトキハ社內ノ四部落別々ニ(但シ同日)逐疫ノ祭ヲ行フ。祭祀三日間社民ハ社外ニ出テス。其式下ノ如シ

第一日ハ「プナイパイ」(行キ去レノ義)ノ式ヲ行フ。各部落ハ一名ノ巫ヲ選テ其祭ヲ主ル。巫ハ自室大黑柱ノ下ニ饌ヲ供ヘテ祖神ヲ祭リ社ノ入口ノ道路ヲ社外ノ方ニ歩ミツツ桑ノ葉ノ摘切リ「サラバン」「トコトコ」「タカラウス」ノ諸神ヲ呼ヒ「我等ヲ保護シ疫癘ヲ拂ヘ」ト祈ル

第二日ハ「ヤホオツン」(道ヲ塞ス義)ノ式ヲ行フ。早朝巫ハ自室ニテ饌ヲ供シ祖神ノ祭リ茅莖二本ト桑ノ葉ヲ持チテ社ノ入口ニ赴キ茅莖ノ上部ニ桑ノ葉ヲ挟ミ道路ノ兩側ニ立テ「タカラウス」「トコトコ」「サラバン」ノ諸神ヲ呼ヒ「我等ヲ保護セヨ」ト祈禱ス

第三日ハ「パホいすス」(元氣ナ行ス義)ノ式ヲ行フ。各戶ノ家親庭前ニテ饌ヲ投シ「タカラウス」「トコトコ」「サラバン」ノ諸神ヲ呼ヒ「社民ヲ保護シ元氣ナラシメヨ」ト祈ル

(四)北はいわん番チヤカブス社ニ於テハ社內ノ室各自ニ之ヲ行ヒ、乃社ノ入口ニ赴キ、饌ヲ投シ疫神ノ靈ヲ呼ヒ「今祭祀ヲ行ヒタル故ニ最早此庭ニ居ル勿レ」ト唱ヘ、了テ歸宅シ自室ニテ青キ火ヲ點シ之ヲ以テ室內ヲ祓ヒ然後前庭ニ出テ之ヲ捨ツ

天然痘ガ社內ニ發生シタルトキハ病者ト看護人各一名ヲ殘シ他ハ耕作地ニ避ク。而シテ病者全快

シタルトキハ自ラ徒笠ト杖ヲ持シ社ノ入口ニ出テ「汝ニ此品ヲ與フガ故ニ早々歸去レ」若シ此處ニ滯留スルナラハ食物モ飲物モナク飢ユヘシ」ト唱ヘ笠ト杖トヲ棄テテ歸ル

(五)同吾リキリキ社　ニ於テハ巫ハ病者ノ家ヲ訪ヒ之ニ對シテ桑ノ葉ヲ投シ次ニ兩手ニハアト氣ニ吹キカケ病者ノ頭ヨリ兩手兩足マテヲ撫テ下シ病氣ヲ取リ去リタルカ如クニシ兩手ニテ包ミ之ニ唾ヲ吐キカケ室外ニ拾ツル如クス。別ニ送疫ノ祭ナシ

(六)はりじ・お吾高士佛社　ニ於テハ男祝ハ其前日ニ各戸ヲ訪ヒ豚骨一片ツツヲ集メ此日早朝ヨリ兩頭人補佐役及男女ノ祝ハ舊社地ニ赴ク先ツ副祝(ホシ)ハ舊頭人家址ノ土間ニ各戸ヨリ集メタル豚骨ヲ置キ女祝之ヲ前ニシ南ニ向テ蹲踞スレハ衆之ニ從フ女祝饌ヲ供シテ曰ク「社ノ各戸ヨリ集メタル病氣(豚骨ヲ云フ)ヲ取纏メテ遠ク逐去ラシメントス汝ハ最早此社内ニ在住スヘカラス」ト唱フ次ニ副祝ハ其豚骨ヲ持チ衆之ニ從ヒテ車城港マテ降リ男祝之ヲ取テ海中ニ投シ「再ヒ歸來ルハ好マサル故」ト唱ヘ歸途副祝ハ長サ約三尺ノ杖ヲ採リ其先キニ豚ノ顎骨二個ヲ吊下ケタル物ヲ造リ之ヲ社口ノ通路ノ一方ニ立テ「ソン」ト名ク

第七項　人ニ關スル祭祀

第一　胎兒ニ對スル祈禱

胎兒ニ對スル祈禱ハ先ツ之ヲ懷胎中ニ於テスルモノ(安胎)及臨産ノ場合ニ於テスルモノ(安産)ニ分ツヘシ

(一)安胎ノ祈禱　本族中此祈禱ヲ行フモノハ甚タ少シ。左ニ二三番社ニ行ハルヽモノヲ掲ク

(い)ぶつる吾下バイワ社　ニ於テハ(一(い)及(ろ)ハ安原氏、(は)ハ小林氏ノ調査)

(1)**懷姙五ケ月**ニ至レハ巫ヲ招キ胎兒ノ健全ニシテ流産セサル樣ニ祈禱ヲ行フ。之ヲ「パリシ・タ・マブゲライ」（懷姙ノ祈禱）ト云フ。巫ハ脂・骨及鐵ノ小片ヲ樹葉ニ載セタルモノ數箇ヲ持シ先ツ家ノ入口ノ外ニ立チ祖先・祖父母・父母其他今現ニ此屋內ニ埋葬セラレ在ル死者ノ名ヲ呼ヒ人毎ニ一箇ヲ投シ數句ノ呪ヲ誦ス。次ニ祖神ニシテ出産ヲ司ルサラバン、サモアカイ及サリモジノ靈ヲ呼ヒ屋根ノ上ニ各靈ニ對シ一箇ツツ拋上ケ數句ノ呪ヲ誦ス。次ニ入口ヲ背ニシ外ニ向ヒテ立チ社神ヲ呼ヒ饌ヲ投シ數句ノ呪ヲ誦ス。次ニ姙婦ノ前ニ至リ饌ヲ婦ニ投スルコト三回以テ婦ノ身ノ不吉ヲ禳ヒ胎兒ノ健康ニシテ無難ニ出産センコトヲ祈ル。此時婦ハ低キ腰掛ニ掛ケ東ニ面ス

(2)**臨月**ニ至レハ再ヒ巫ヲ招キ安産ノ祈禱ヲ行フ。此祈禱ヲ特ニ「パリシ・タ・チャベリツ」（後ノ祈禱ノ義）ト云フ

(ろ)同番マカザヤザヤ社ニ於テハ懷姙後五月ニ巫ヲ招キ胎兒ノ流産セス段々成長スル樣ニ祈ル。之ヲ「パリシ・ト・パプララク」（生兒ノ祈禱）ト云フ　當社ニハ臨月ノ祈禱ナシ

(は)こぼじ番內獅頭社ニ於テハ臨月ニ至リ巫ヲ招キ「パリシア・スモチロク」（懷姙ノ不淨ヲ禳ノ祈禱）ヲ行フ。巫ハ其室大黒柱ノ下ニ於テ姙婦ト相並ヒ東方ニ向テ坐シカダオナクマチノ靈ヲ呼ヒ饌ヲ供シ茲ニ此者ノ腹中ニ在ル不吉ヲ禳フ。願クハ惡靈ノ祟ルコトナク而シテ他人ヨリ賞讃セラルル程立派ナル兒ヲ出産セシメヨ」ト禱ル

(ニ)安産ノ祈禱　本族難産ヲ以テ惡靈ノ祟リニ歸シ其産ニ臨ミ容易ニ生レサルトキハ巫ヲ招キ之ガ祈禱ヲ行フヲ例トス。左ニ若干ノ番社ニ行ハルルモノヲ揭ク（(は)ヲ除キ小林氏ノ調査）

(い)北はいわぬ番スボン、コワバル兩群社ニ於テハ臨月ニ至リテ安産ノ祈禱ヲ行フ。之ヲ「パリシ・タ・パボブジャク」（子ヲ産マセル祈禱）ト云フ。家族中何人ニテモヨシ其法ヲ知ル者姙婦ニ向ヒ豚脂ヲ投シ「今汝姙婦

ニ對シ祈禱ス。速ニ出産シ腹痛ヲ起スコトナキ様ニ」ト唱ヘ儀脂ノ一片ヲ婦ノ頭上ニ、一片ヲ入口ノ屋根ノ上ニ、更ニ一片ヲ奥室ノ靈棚ニ納ム

(ろ)こほじ番內獅頭社 ニ於テハ臨産ニ際シ兒ガ容易ニ出テサルトキハ巫ヲ招キテ「パリシア・ミジ」(惡靈ヲ取リ除ク義)ノ祈禱ヲ行フ。巫ハ姙婦ニ對シテ生シ儀ヲ供シ「ソツ・カヤオ・ナクマ手ノ兩神ヨ來リテ此家內ノ惡靈ヲ取除キ而シテ速ニ安産セシメヨ」ト祈リ次ニ兩手ニ豚脂ヲ少許附ケハーツト息ヲ吹キカケ婦ノ背ヨリ腰マテ摩下スコト三回ス。斯クテ痛尙烈シクシテ出産セサルトキハ祖宅大黑柱ノ下ニテラコヤヌ(大ナル竹製ノ籠)ニ鹽漬ノ豚ノ前脚一本ヲ納レ之ヲ供シテ「今之ヲ以テカヤオ・ナクマ手ノ靈ヲ祭ル。願クハ汝ノ慈心ニ賴リ速ニ健全ナル兒ヲシテ生マシメヨ」ト祈ル

(は)はりじ お番サアデク群社 ノ老巫チ、コ・トイボ語ニ曰ク臨産ニ巫ヲ招キタルトキハ先ヅ腰ヲ屈リ其顎・頭・手ノ上方、下方、及脊ノ骨ノ五片ヲ取リカダオ及ナクマチノ靈ヲ呼ヒ「胎兒ヲ押出サシメ、鰻ノ滑リ動クガ如ク水ノ溢レテコボルルガ如クニ」ト祝シ了テ儀ノ屋根ノ上ニ置ク之ヲ「[illegible]パポツジク(子ヲ產マシムル祈禱)ト云フ

(に)同番高士佛社 ニ於テハ臨月ニ至リ巫ヲ呼テ「パリシ・テ・パナルト」(不淨ヲ祓フ義)ヲ行フ先姙婦ノ臥室ノ土間ニ外ニ向テ腰掛ケシメ巫ハ之ニ對シテ儀脂ヲ投シ「臨月ニ籠リタルニ何故ニ出産セサルヤ胎兒ガ永ク腹中ニ在レハ苦シムガ故ニ速ニ出産セヨ。永ク出産セサルトキハ汝ノ夫ハ樹木ヲ植エ又ハ柵ヲ作ルコト能ハス祖先ノ靈ヨ願クハ來リテ此者ヲ助ケ速ニ出産セシメヨ」ト祈リ了テ儀脂ヲ以テ婦ノ身ヲ祓フ

第二　産兒ニ對スル祈禱

產兒ニ對スル祈禱ニハ出生後若干日ノ間ニ行フモノト約一箇年ノ後卽チ生兒ノ齒ガ一二本生エタル時ニ行フモノトノ二アリ。前者ヲ多ク「スマナジャク」又ハ「スマヌイナヲア」、後者ヲ「スマヌブルブルニ」ト云フ。「スマナジャク」ハ子ト爲スノ義蓋シ此ノ祈禱ヲ受ケテ人ノ子ト爲ルノ義ナルヘシ。「スマヌ・キナヲア」ハ彼造者ト爲スノ義蓋シ我等人類ハ造主(番語「ナアマチ」)ノ造出ス者ナルガ故ニ生兒ヲ「キナヲア」ト稱スルナリ。「スマヌブルブルン」ハ老者ト爲スノ義蓋シ其兒ノ長生ヲ祝福スルモノナルヘシ

(二)出生後數日內　ニ於テ「スマナジャク」(「スマヌイナヲア」)ノ祭ヲ行ヒ祖神及産神ニ對シ生兒ノ平安ヲ祈ル。之ト同日又ハ其翌日ニ「パキーヲサオ」(外庭ニ出テシムル義)ノ祭ヲ行ヒ以テ外出スルモ邪氣ノ冐ス所トナラサル樣ニ祈ル　左ニ重ナル番社ニ行ハルルモノヲ揭ク(內(い)(ろ)(に)(ち)(ぬ)(る)(よ)ハ小林氏(へ)(り)(な)ハ安原氏ノ調査ニ係ル)

(い)るかい番ダデル社　ニ於テハ生後五日ニスマナラクヲ行フ。先ツ粟餅ヲ煮之ニ豚脂ヲ混シテ兒ニ食ハシメ後其兒ノ全身ニ脂ヲ塗附シソレヨリ母ハ「ウツン」(油盡)ヲ取リ手ヲ抱テ社外ニ至リ「バボア」(畑ニ行クノ義)ト稱シ其油盡ヲ地ニ棄テテ歸來ス

(ろ)同番呵ホガヌ社　ニ於テハ兒ノ出生シタルトキ其父直ニスマナラクヲ行ヒ爾後隔日ニ之ヲ行ヒ約六回ニシテ止ム其法瓢ノ細片(盞ノ供物ヲ盛ル容器ニ擬スルモノナルヘシ)四五箇ヲ並ヘ少シク之ニ酒ヲ吹掛ケ「トソオマス」(造物主)ノ靈ヲ呼テ之ヲ前庭ニ投棄ス。而シテ其內一箇ハ高ク捧ケテ天日ニ供スト云フ

(は)らばる番パイワヌ社　ニ於テハ

(イ)「スマナラク」ノ祈禱　出生ノ翌日之ヲ行フ。卽早朝父(父故アレハ其兄弟)搖籃(番語「ニウク」)ヲ作リ之ニ其生兒ヲ入レ別ニ榕樹ノ葉ニ豚皮及粟餅ノ少片ヲ載セ更ニ之ヲ小竹筒ニ入レタルモノ六箇ヲ作リ之ヲ籃ノ頭ノ所、兒ノ兩肩、兩足尖及頭ト六箇所ニ置キ以テナウマチノ靈ニ供シ其來テ歌ヒ且ツ此兒ヲ保護

スハキコト」ヲ祈ル　其翌日ハ「マブツアメ」ト稱シ父刀ヲ持シ社口ノ廣場ニ至リ暫ク休ミテ歸來ス

其翌日ハ「パタヾツブツ」ト稱シ母ハ子ヲ抱キ（搖籃ニ入レタル儘前方ニ抱ヘテ）父ト共ニ社ノ南方「イフリン」ト云フ所ノ小橋ヲ渡ル。此時父先ツ橋際ノ左側ニ約一尺程ノ萩ノ莖ヲ立テ其下ニ石塊五個ヲ置キ又小サキ鐵片ヲ挾ミタル茅約一寸許ナルヲ立ツ。而シテ橋ノ右側ニハ萩ヲ立テ之ト接シテ同長ノ茅ヲ立テ其先端ニ鐵片ヲ挾ム。ソコヲ母ハ子ヲ抱キタル儘ニテ父ト共ニ渡リ而シテ父ハ苗一本ヲ取テ曰ク「ハリシヲ終リタリ、橋ニ至リタリ、苗ヲ取リタリ」ト稱シ後ニ同歸來ス　生後五日間ハ外出セス。十日間ハ家ヨリ器具ヲ外ニ持出スコトヲ禁ス

(ロ)**スモリホツノ祈禱**　生後一箇月ノ後之ヲ行フ。此時檳榔ノ小竹筒ニ入レ搖籃ニ插ミテ「マオラクニ同シ。後兒ニ著物ヲ著セ男ナラハ「タルプン」（頭巾）ヲ被セ女ナラハ耳ニ孔ヲ穿チ「バンマイ」（南京玉ノ耳環）ヲ垂レシメ又紐輪ヲ結ス。首ノ竹筒ハ「スマスブルブロ」ノ時ニテ其儘ニ閉シ置キ

(に)**ぷつる香トクフジ社**　ニ於テハ生後二日目ニ早朝果ヲ搗キ餅ヲ作ル。ソレヨリ[illegible]ヲ行ヒ産神ニ對シテ兒ノ健康ニ成長センコトヲ祈ル。三日目ニハ再ヒ早朝産婦屋外ニ出テ低キ叢掛ニ宜ス。四日目早朝産婦ノミ社口ノ門マテ往キテ歸ル此間沈默ヲ守ル

(ほ)**ぷつる香下パイワン社**　ニ於テハ産日或ハ其翌日巫ヲ招シ日ニ對シテ「マナシア」ノ祈禱ヲ行ヒ其翌夜月ニ對シテ「パクツブ」（月ニ對スル美抗）ノ祈禱ヲ行ヒ月改マリタル後豚ヲ屠リテ「パサササイ」（靖出ノシムル」ノ祈禱ヲ行フ　安原氏ガ當社ニテ調査セル所ニ依レハ兒出生スルヤ(一)先ツ嬰兒ニ對シ健全ニ肥立ツ樣ニ(二)次ニ産婦ニ對シテ健全ニ篤ル樣ニ(三)婦ノ乳ニ對シテ能ク出ツル樣ニ(四)最後ニ後産ガ全部無事ニ出ツル樣ニ祈ルト云ヘリ

(へ)同番**マカザヤザヤ、パイルス**ノ兩社ニ於テハ生後四五日ニ「スマナジーク」ノ祈禱ヲ行ヒ産婦自ラシニパカルバ」(喜バセル爲ノ品)ト稱シ饌ヲ具シテ産神サラバヌノ靈ニ供シ翌日其生兒ヲ抱キテ山ニ入リテ薪一本ヲ取テ歸ル

(と)同番**カザヾザヌ**社ニ於テハ生後三四月ヲ經新月ノ日ヲ選ヒテ下ノ祈禱ヲ行フ。米樹葉饌脂及饌骨ヲ具シ籐(約二寸)柱(長約二寸ノ樹枝)及鐵ノ小片ヲ麻ニテ束ネタルモノヲ作リテ「ポナシアー」ト爲シ之ニ對シ饌ヲ供シツツ數句ノ呪ヲ誦ス。此日樹葉(饌數ト爲スナリ)ヲ置クニハ必ス裏向キニ爲ラサルコトヲ要ス。若シ其一片ト雖モ裏向キニナリタル時ハ此日ノ祈禱ヲ中止シ翌日改メテ之ヲ行フコトヲ要ス。然ラサレハ必ス非常ノ不幸ニ遭遇スヘシト信セラル。又此日ハ祈禱ノ終ルマテ屋内ヨリ東方ニ向テノ外ハ何物ヲモ持出スコトヲ得ス。又東ノ方ニ向フト雖モ溪ヲ越ヘテ之ヲ運出スコトヲ得ス。之ヲ犯ストキハ嬰兒ハ病ヲ得或ハ夭死スヘシト云フ。故ニ物品ヲ持出ス必要アルトキハ其前日ニ之ノ庭前マテ出シ置クモノトス。又此ノ「ポナシアー」ハ邦人ノ臍ノ緒ニ於ケルガ如ク大切ニ保存スヘク若シ紛失スルコトアラハ豚一頭ヲ屠リ再ヒ之ヲ作リ靈ニ供シ前ト同樣ノ祈禱ヲ爲ス。之ヲバリシタスマ、ポナシアート云フ

(ち)同番**カザザラ**社ニ於テハ生後二日目ニ巫ヲ招キ「スマノイナテアー」ノ祈禱ヲ行フ、巫ハ兒ヲ前房ノ土間ニ置キ自ラモ其傍ニ坐シ兒ニ對シテ桑ノ葉ヲ摘切リ豚骨豚脂ヲ加ヘ之ヲ兒ノ頭上ニ置キタカラウス、サラバヌ及トコトコノ諸神ヲ呼ヒ兒ノ健全ニ成長センコトノ祈リ而シテ巫ハ一旦屋外ニ出テ又入來リテ同樣ノ祈禱ヲ行フ。斯ク同事ヲ反覆スルコト五回シ了テ家人ハ粟飯ヲ炊キテ食ス。此日ヨリ兒ヲ室外ニ出スコトヲ得　生後一箇月目ニ再ヒ巫ヲ招キ「パサバポアー」(畑ニ出テシムル義)ノ祈禱

ヲ行フ。其法前ニ同シ唯「兒ガ成長シタル故畑ニ赴キテモ可ナル樣ニ保護セヨ」ト祈ルノ異リトス

(り)北ばいわぬ番チャジャカブス社ニ於テハ産後男子ハ五日、女子ハ三日ノ後スマナジャクノ式ヲ行ヒ、巫ハ竹筒ニ「アルブ」「サラク」「イガラツ」ヲ入レ之ニ紐ヲ附ケテ兒ノ頸ニ掛ケ祝シテ「之レニテヨシ屋外ニ出ツルモ畑ニ赴クモ社ノ入口ナル休場ニ赴クモ差支ナシ」ト、後其竹筒ヲ取リテ前庭ノ垣外ニ東ニ出ツ小林氏ノ調査シタル所ハ少シク之ニ異リ曰ク婦兒ヲ抱ヘ寢室ニ腰ヲ掛クレハ巫ハ之ニ對シ饌ヲ投シ「健全ニ成長セヨ今後更ニ子ヲ産メ」ト祈ルト

(ぬ)同番ホかりヅ社ニ於テハ別ニ「スマナジャク」ノ祈禱ナシ唯兒出生セハ産婦又ハ家族ノ婦女温湯ヲ以テ兒ノ顏ヲ洗ヒ「善良ニシテ速ニ成長セヨ」ト唱フルノミ

(る)同番チバパオ、コワバル兩社ニ於テハ生後五日目ニ「パササウ・ト・アジク」(兒ヲ前庭ニ出ス義)ノ祈禱ヲ行ヒ、家族ノ內何人ニテモ之ヲ主ルコトヲ得。奥室ノ寢臺ニ母其子ヲ抱ヘテ坐スレハ家族ノ一人兒ニ對シテ饌ヲ供シ『カダオナクマチ』ノ靈ヨリ眞實ニ兒ヲ受取リタリ、願クハ健全ナラシメヨト唱ヘ兒ヲ前庭ニ出サシメ饌ヲ取リテ入口ノ屋上ニ供シ又之ヲ兒ノ頭ニモ置ク。爾後兒ヲ屋外ニ出スコトヲ得

(を)こぼじ番內文社ニ於テハ臍帶ノ脫落シタル時巫ヲ招ヘ早朝日出ニ對シ豚ノ脊肉一片、檳榔及樹皮ノ小片ヲ供ヘ兒ノ健全ナランコトヲ祈ル。之ヲ「クマオガオ」(之クノ義)ト云フ。後母ハ其兒ヲ抱テ戶外ニ出テ入口ノ軒下ニ於テ東ニ向テ坐スレハ巫モ東方ニ向テ饌ヲ投シ「今ヨリ生兒ヲ日ノ照ス屋外ニ出ス。カダオナクマチノ靈願クハ心シテ兒ヲ守護シ惡靈ノ祟ラサル樣ニ」ト祈ル

(わ)ぱりじやお番サブデク群社ニ於テ老巫チ、コ、トイ、ボノ語ル所下ノ如シ(一)脫臍ノ翌日母自ラ兒

ヲ抱キ戸外ニ出テ饌（「カルブヒ」ナ用ウ）ヲ其頭ニ載セ太陽ヲ呼ヒ祝シテ曰ク「今子ヲ外出セシム。向クハ何ト冒サルルコトナク日出ノ如ク元氣ヨク速ニ大キク爲ラシメヨ」ト祈リ了テ家ニ入ル。之ヲ「バリシヽハ丂サオ」ト云フ（二）生後三箇月ノ後巫ヲ招キ其兒ノ元氣付ク樣ニ且健ニ生長スル樣ニ祈ル。之ヲ「ータブラク」又ハ「スマナジャク」ト云フ

（か）同番加芝來社ニ於テハ臍帶ノ脱落シタルトキ産床ノ脚下ニ其臍帶ヲ置キ饌脂ヲ供シ兒ノ健全ニ成長センコトヲ祈ル。之ヲ「スマナジャク」ト云フ　此日巫來リ母子ニ對シテ「バ丂サオ」ノ祈禱ヲ行ヒ後母ハ其子ヲ抱キテ戸口ニ至リテハ引返シ又戸口ニ至リテハ引返シ斯クスルコト三回ノ後外庭ニ出ツ

（よ）同番高士佛社ニ於テハ生後四五日臍帶ノ脱落シタル時巫ヲ呼テ「パジ丂サオ」（外庭ニ出スノ義）ノ祈禱ヲ行フ。母其子ヲ抱キテ奥室ノ中央ニ於テ外ニ向テ坐ス。巫之ニ對シテ豚脂ヲ搗切リ之ヲ兒ノ頭ニ載セ更ニ其數片ヲ持チテ兒ノ身體ヲ祓ヒツツ唱ヘテ曰ク「將ニ兒ヲシテ室外ニ出サシメントス。カダオナクマチソ兩神ヨ。兒ガ出ニ行キ道ヲ歩ミテモ汝之ヲ監視シテ過ナカラシメヨ」ト。次ニ其母ハ兒ヲ抱キテ前庭ニ出テ巫之ニ對シテ再ヒ豚脂ヲ以テ兒ノ身體ヲ祓ヒ「兒ガ出ノ行キ道ノ歩ミテモ云々」ト繰返ス

（二）出生約一年後ノ祈禱ヲ「スマスブルブル」ト云フ。其諸社ニ行ハルル式左ノ如シ（内（い）（へ）（と）（ち）ハ小林氏調査）

（い）るかい番ダデル群社ニ於テハ生兒齒ノ生シタルトキ此祭ヲ行フ。先ツ小ク細長キ粟餅ヲ作リ母子共ニ食ス。コレヨリ三日間母子外出セス。四日目ニ再ヒ粟餅ヲ搗キ母子共ニ食シテ外出ス。五日目ヨリ家人等出テ耕作ス

(ろ)同番ホケヌ社　兒長シテ歯ノ生ヘタル頃母之ニ對シテ此祭ヲ行フ。瓢ヲ細切シ唾吐掛ケタルヲ靈ニ供ス。其式ハ「スマナラク」ニ同シ

(は)らばる番上パイワヌ社　ニ於テ生後約一個年ヲ經タル後之ヲ行フ。先ツ搖籃ニ附シアル竹筒ヲ取テ之ヲ行李ノ内ニ藏ス。次ニ粟飯ニ豚脂ヲ添ヘテ饌ト爲シ先ツ其一ヲ取テ兒ノ頭ニ持行キ「ハブ」ト息吹掛ケ祝シテ『汝ノ子ヲ保護セヨ。太陽ノ靈』ト云ヒ。次ニ他ノ一ヲ取リ同一ノ事ヲ爲シ祝シテ『此ハ汝ノ弟ナリ、ナツマテ』ト云フ。次第ニ此ノ如ク祝シテ『汝ナツマテ。汝ノ兒弟ヲ作ヒ行ケ』。次ニ『汝ナツマテ。此子ノ身ヲ洗ヒ垢ヲ去レ』。次ニ『汝ナツマテ此子ヲ保護セヨ。若シ過アラハ之ヲ救ヘ』ト言フ

(に)ぶつる番マカザヤザヤ及パイルスノ兩社　ニ於テハ兒ノ乳歯二枚生ヘタル時巫ヲ招キ豚ヲ屠リ産神ヲ祭ル。此日頭人及親族ヲ招キテ饗應ス　此時巫ハパイルス社ニ於テハ「ビヤク」ヲ持シ兒ニ對シ其無難ニ成長センコトヲ祈リ後其「ビヤク」ヲ持シテ外ニ出テ屋根ノ上ニ投シ後父其子ノ衣類ヲ持シテ山ニ入リ薪ヲ取テ歸リ之ニテ火ヲ焚キ飯ヲ炊クト云フ

(ほ)同番カザ(ヤ)ザヌ社　ニ於テハ兒ノ乳歯ガ一二枚生ヘタル頃巫ヲ招キ此祭ヲ行ツ。單ニ產神ノ靈ヲ呼ヒ之ニ饌ヲ供シ兒ノ健康ニ成長センコトヲ祈ルノミ　「スマスボロボロン」ノ後幾日カ經テ「パリシ・ク・パチ・チクル」(能ク往復ノ出來ル様ニ祈ルノ義)ヲ行フ即父又ハ母ノ實家(嫁娶ナルハ母ノ實家ヨリ、招贅ナルハ父ノ實家ヨリ、若シ一家創立ナルハ雙方ノ實家)ハ酒ヲ作リ父母及生兒ヲ招キ宴ヲ開ク。此日其家ノ重ナル者(若シ祈禱ヲ能クスル者アレハ能クスル者之ニ代ル)ハ母ニ對シ今ヨリ將ニ祈禱ヲ行フヘキ旨ヲ告クレハ母ハ子ヲ抱キ祈禱者ノ前ニ跪ク。祈禱者乃チ饌ヲ投シテ「時々此家ニ遊ニ來ル樣、元氣ヨク道ヲ往ヘス災難ニ遇ハサル樣ニ」ト祈ル

(へ)北はいわん番チージ、カプス社　ニ於テハ兒ニ乳歯二三枚出テタル時巫ヲ招ク。兒ハ母ニ抱カレ巫

室ノ寢臺ニ在リ。巫ハ兒ニ對シ「ビヤク」ヲ投シ祝シテ曰ク『今、スマノブルブルンノ行フ、健全ニシテ速ニ成長セヨ』ト

(と)同番ボガリド社ニ於テハ生兒ノ起テ歩ムコトヲ得ル樣ニ爲リタル時之ヲ行フ。家ノ入口ニ負帶ヲ置キ兒ヲ腰掛ケサセ兒ガ女子ナレハ母親之ニ對シ「ビヤク」ヲ投シ『汝速ニ生長シ多クノ子ヲ產メ』ト稱ヘ、兒ガ男子ナレハ父親之ニ對シ『汝速ニ生長シ立派ナ男子ト爲リテ獸類ヲ獵セヨ』ト稱フ。此日ハ母及兒ノミ外出スルヲ禁忌ス

(ち)同番スボン及リキリキ兩社ニ於テハ此式大體內文社ニ同シ。唯男子ノ爲メニスル矢ヲ射ルノ式少シク相異リ。卽スボン社ニ於テハ茅ノ穗先ヲ結ヒ其莖ノ方ヲ東ノ方ニ向ケテ投掛ケ弓ハ其儘箱ニ藏ス。又リキリキ社ニ於テハ巫ヲ招カス母粟莖ニ火ヲ點シ之ヲ以テ兒ノ照シ後其兒ヲ窓ノ上ニ立タシメ小サキ弓矢及茅穗ノ取リテ窓ヨリ出セハ父外ヨリ之ヲ受取リ東ニ向ヒ其茅ヲ投ケ後弓ヲ返シ之ヲ寢臺ノ上方ニ懸ク

(り)こぼじ番內文社ニ於テハ兒ノ乳齒初ノテ生ヘタル頃新月ノ日(即舊曆ノ月末及月初三四日間ナリ其ド新月ト云ノモノ做之)ヲ選ミ巫ヲ招キ早朝日出ヲ待チテ之ヲ行フ。但シ何カ不吉ノ事ヲ見聞シタル時ハ次ノ月ニ延期ス。當日其兒ノ家ニ於テ男子ナラハ小瓢ニ人面ヲ畫キ「ジャジク」(火繩ニスル木)ノ根ヲ附シテ髮ト爲シ弓矢(弓ハ竹ニテ作リ矢ハ茅ニテ作リ其尖ニ鍋ノ破片ヲ附ス)及粟餅ヲ用意ス。女ナラハ弓矢ニ代フルニ織機ノ小型及糸ヲ以テシ且ツ小瓢ニハ麻ヲ附シテ髮ト爲シ南京玉三四箇ヲ以テ頸飾ヲ作ル。巫至リ上記ノ諸品ヲ揃ヘテ平箕ニ盛リ天ヨリ授リタリト稱シ男ナラハ之ヲ內房右側ノ寢臺ニ、女ナラハ左側ノ寢臺ニ置ク。然ル後巫左手ニ「ビヤク」ヲ持シ右手ニ其兒ヲ抱キ出テ其ビヤク」ヲ屋根ニ投シ祝シテ曰ク『汝日ノ神及造化ノ靈ニ

告ク。先祖代々ノ嘉例ニ從ヒ「スマヌボロボロン」ヲ行フ。願クハ最初ノ番社カトソナヌヨリ諸種ノ山及野ノ幸福ヲ持來セ云々。」女ナラハ「能ク多クノ豚ヲ飼得ル様ニ」ト云フ

（附記）小林氏ノ調査シタル所ハ之ト異リ。曰ク巫ハ先ツ兒ヲ大黑柱ノ下ニ坐セシメカダオ、ナクマテノ兩神ヲ呼テ供饌ス。次ニ巫ハ兒ヲ抱上ケ「カダオ・ナクマテヨ汝ヨリ授リタルモノハ斯ノ如クニ成長セリ。願クハ將來モ猶惡靈ノ祟ルコトナク健全ニ成長セシメヨ。父母ニ代テ獵ノ幸、作物ノ幸ヲ得セシメヨ」ト唱ヘツツ前庭ニ出テ入口ノ軒ノ上ニ兒ヲ差上ケ又之ヲ降スコト三回ニシテ了ル

（ぬ）こほじ番高士佛社　ニ於テハ生後約四年ニ至リ、スマンブルブルンノ行フ。前日親族知人ニ通知シ其夜家族ノ男子（長子及末子ヲ除ク）豚一頭ヲ屠リ翌日巫ヲ招ク。巫ハ先ツ奥室ニ於テ兒ノ外方即南方ニ面シテ坐セシメ其前ニ屠リタル豚ヲ横タヘ巫ハ之ニ對シテ坐ス。次ニ巫ハ箸及酒糟ヲ供ヘ豚脂ヲ投シツツ曰ク『カダオ、ナクマテノ兩神ヨ。願クハ此者ヲシテ藤ノ如ク榕樹ノ如ク太ク且ツ石ノ如ク健全ニナラシメヨ。祖先ノ靈ヨ汝ノ子孫ヲシテ常ニ健全ニシテ且ツ祖先ノ如ク舊慣ニ通セシメヨ』ト了テ其豚ヲ煮テ酒宴ヲ開ク

第三　幼少・壯・老者ニ對スル祭祀

上でりせぬ番ヲ除キ本族一般ニスマスブルブルンノ祈禱ヲ行ヒタル後其兒ガ成年ニ達スル迄一回又ハ數回豚ヲ屠リナクマテ（造主）カダオ（太陽）又ハ祖神ノ靈ヲ祭リ以テ其兒ノ健康強壯ナランコトヲ祈ル。豚ヲ屠ルガ故ニ總稱シテバルグルグト云フ。其時期ハ番社ニ依テ異リ例ヘハ兒童ガ七八歳前ノ拔ケ易ハル頃ニ頭髮ヲ切リ（番語「パキリアン」）其時ニ行フモノアリ、又十二歳頃初テ番刀ヲ佩ヒシムル時

(番語「パサアジャブ」)ニ之ヲ行フモノアリ。或ハ十五六歳成年ト爲リタル時(番語「スマ〻・カカジャイ」卽チ男ト爲スノ義又ハ「スマ〻・マカッツァン」卽チ成年者ト爲スノ義)ニ行フモノアリ。數回ニ行フモノハ最初ノヲ特ニ「ツムジュ・ト・サカサカサ」ト稱ス　左ニ重ナル當社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク(內(三)(六)ハ安原氏(一)(四)(五)(七)ハ小林氏ノ調査ニ係ル)

(一)ぶつる番トクブジ社ニ於テハ兒ガ四五歳ニ爲リタル時其父又ハ其家ノ老人兒ニ向ヒ「汝健ニ生長シ老者ニ爲リタリ。汝ノ爲メニ「パルサルグ」ヲ行ハン」トテ豚ヲ屠リ祖靈ヲ祭リ又親族ヲ招キテ喜宴ヲ開ク

(二)同番マカサヤサヤ及パイルスノ兩社ニ於テハ現時唯「パキリデブ」ノ一祭アルノミ。卽兒ノ八九歳ニ爲リタルトキ始メテ其額ノ毛ヲ切ル場合ニ豚ヲ屠リ巫ヲ招キ祖靈ニ對シテ兒ノ健全ニ成長センコトヲ祈ル　當社ニハ成年ト爲ル際ニハ別ニ祭ヲ行フコトナシ。男ナレハ始メテ「チプブト」(下袴)ヲ着ケ女ナレハ刺墨ヲ指ニ施スヲ以テ成年ト爲リタルモノトス　尙近代迄ハ「パピフラカス」(體力ヲ附スル義)ト稱シ豚ヲ屠リ其一片ニ餅數片ヲ添ヘ之ニ「ハア」ト息ヲ吹掛ケ祖靈ヲ呼テ兒ノ體力ガ強ク爲ル樣ニ祈リ後兒ニ其肉及餅ヲ食ハシメタリ

(三)同番カサギラヌ社ニモ亦パキリデブノ一祭アルノミ　前一日一家休業シ早朝豚ヲ屠リ酒宴ヲ開ク。翌早朝幼兒屋內ニ於テ東ニ向テ蹲マル。母饌ヲ具シ(「ピアクト」ニハ「ポー」ノ葉ナ用ウ)幼兒ノ保護神タルサラパン、リモサンノ靈祖先及社神ノ靈ヲ呼テ一々之ニ供ス。尙女子ナレハ「シニパカル・パ・タ・パパヤ」ト稱シ立派ニ成長シテ美シキ娘ト爲ル樣ニ祈リ又男子ナレハ「シニパキリデブ・タ・オアライ」ト稱シ立派ニ成長シ早ク一人前ノ男子ト爲ル樣ニ祈ル。然後母ハ直ニ前髮數本ヲ嚙切リ之ヲ檳榔樹ノ葉ニ載置ク

(四)同番**カザザラヌ社** ニ於テハ、パキリヂウ・ト・ブラク(兒ノ切髮ヲスル義)ノ一祭アルノミ。此ハ男子齒ノ拔換リタル時巫ヲ招キ之ヲ行フ。先ツ豚一頭ヲ屠リ頭ヲ切リ離シ其肉ハ粟及乾芋ヲ搗キタル粉ト混シ「チナボ」餅(飽)ヲ作ル。巫ハ與室大黑柱ノ下ニ俎ヲ置キ其上ニ豚ノ頭ヲ載セ而シテ兒ヲ前房ニ坐ラシメ其傍ニ坐シ兒ニ對シテ桑ノ葉ヲ摘切リ饌骨饌脂ヲ兒ノ頭ニ載セ祈リテ曰ク「タカラウスサブバニトコトコノ諸神ヨ。汝ノ保護ニ依リテ能ク切髮ノ出來得ル樣ニ」ト。了テ巫ハ饌ヲ持チ室外ニ出テ再ヒ室内ニ入リ前ト同シ樣ニ祈禱ス。斯クスルコト四回ニシテ止ム。祈禱了リテ家人ハ卅ニ置キタル豚ノ頭ヲ料理シ全部鍋ニ入レテ煮、其下顎少許ヲ取テ兒ニ食セシメ殘リハ「チナボ」ト共ニ家族及親族ニテ食ス。 翌朝未明ニ父母ハ兒ノ髮ヲ切テ之ヲ棄ツ

(五)**北ぱいわ番チャジャカブス社** ニ於テハ唯パリシ・トソ・蒋アジ、ソ(帶刀ノ義)ノ一祭アルノミ。此ハ男兒ガ十三四歳ニ爲リタル時之ヲ行フ。當社ニ於テハ此式ヲ行ヒテ成年ト爲ルナリ

此祭ノ式ハ三日間ヲ要ス 第一日早朝巫來リ兒ノ寢臺ニ凭テ「ビヤク」ヲ投シ狩獵ヲ行フ故獲物アル樣ニ」ト祈リ數句ノ巫歌ヲ唱フ。其日及翌日ノ夜ハ必ス兒ヲ此寢臺ニ寢ネシム 第二日家人ハ兒ノ爲メニ獵具ヲ調ヘ辨當ヲ作ル 第三日兒ハ未明ニ起床シ弓矢刀ヲ背負ヒ家ノ入口ニ來リ自ラ「ビヤク」ヲ投シ「狩獵ニ赴ク故獲物アル樣ニ」ト祈リソレヨリ件ノ諸具ヲ身ニシ單獨ニテ獵場ニ赴ク別ニ狩獵スルニ非ス獵場ニ着ケハ直ニ引返ス此レニテ式畢ル

(六)**北はいわ番リキリキ、スボン兩社及こぼじ番諸社** ニ於テハ古來左ノ數祭アリタレト家貧ナル者ハ僅ニ最初ノバルグルグ又ハ、スマス・マカツブツブンヲ行フニ止ム

(い)**最初ノバルグルグ** 生後三四年ノ後新月ノ日ヲ選ミテ之ヲ行フ。早朝豚ヲ屠リ之ヲ日神及造主

ノ神ニ供シ以テ兒ノ健全ニ成長センコトヲ祈ル

（ろ）「パキバかバン」　兒ノ能ク遊ヒ得ル樣ニ祈ルヲ云フ。生兒六七歲ニ達シタル時豚ヲ屠リ新月ノ日ヲ選ミ早朝日神ニ對シ之ヲ行フ

（は）「パピララカヌ」　兒ニ體力ノ附ク樣ニ祈ルヲ云フ。兒十二三歲ニ達シタル時新月ノ日ヲ選ミ早朝豚ヲ屠リ日神ニ對シテ之ヲ供シ以テ兒ノ體力ヲ得能ク擔ヒ能ク働クコトヲ得ル樣ニ祈ル

（に）「パマカツブツブン」　成年ト爲リタル式ナリ。此ハ男子十五六歲ニ達シタル時之ヲ行フ。新月ノ日ヲ選ミ早朝豚ヲ屠リ日神ニ對シテ之ヲ供シ祈リテ曰ク『此兒成長シテ成年者ト爲レリ。願クハ祖先代々ノ如ク能ク働キ能ク獵シ得ル樣ニ爲ラシメヨ』ト。此祭ハ、一ニ、スマスオカジャイ（男ト爲スノ義）ト云フ

安原氏ガ內文社ニ於テ調査シタルニ據レハ「パマカツブン」ト、「スマスオカジャイ」トハ區別スヘキモノニシテ前者ハ男子ノ漸ク成年ト爲ルモノニ對シ後者ハ既ニ妻子ノ有スル男子ニ對シテ行フモノナリト。而シテ何レモ豚ヲ屠リ日神ニ對シテ其人ノ將來ノ祝福スルモノナリト雖モ前者ハ「此兒成年者ト爲レリ。願クハ能ク働キ能ク獵シ得ル樣ニ」ト祈リ、後者ハ進テ「此者既ニ肥大ト爲リ力モ強ク爲レリ。農作モ能クシ狩獵モ能クシ子女モ多ク生ミ敵ノ首級モ多ク取リタリ。願クハ永久ニ斯ク幸福ナラシメヨ」ト祈ルト云フ

（ほ）「バシラウラウズ」　「スラウズ」ハ下坂ノ義ナリ男五六十歲、最早耕作モ出獵モ出來サル樣ニ爲リタル時ニ此祭ヲ行フ。新月ノ日ヲ選ミ早朝豚ヲ屠リ日神ニ供シ祝シテ曰ク「既ニ人ヲ超ヘタリ（番語ニ「ツマリバトサウサウ」。其イタク老ヒタルナ云フ）力モ失ヒテ最早子ヲ產ムコト能ハス。獵ヲ爲シ敵ヲ殺シ勞作ニ從フコト皆能ハスナリヌ。然レトモ生命ハ大切ナリ。願クハ神ノ保佑ニ依リテ無病ニシテ長命スルコトヲ得タシ」ト

此祭ハ唯僅ニこぼじ番ニ於テ之アリ。他番ニハ之ヲ行フモノアルヲ聞カス

(七)はりじゃお番高士佛社　ニハ唯一ノ「スマノオカジャイ」アリ。男子十四五歳ニ至リタル時之ヲ行フ。見ハ銃又ハ弓矢ヲ持チ刀ヲ帶ヒ奥室ニ於テ南方ニ向テ立テハ巫ハ之ニ對シテ豚脂ヲ投シツツ今ヨリ此者ハ青年ノ男子タリ。願クハ獵神之ヲ愛シ常ニ獵ノ幸ヲ與ヘ給ハンコトヲト祈ル。了テ見ハ單獨ニテ出獵ス

第四　病者ニ對スル祈禱

既ニ述ヘタルガ如ク本族ハ疾病ヲ以テ惡靈ノ所爲ニ歸シ其惡靈サヘ驅除セハ其病能ク平癒スヘシト爲シ巫ヲシテ之ヲ行ハシム。之ヲ「パリシ・ト・サクチョアヌ」(病人ヲ祈ルノ義)又ハ「パリシ・ト・サクチョクチ」(病氣ヲ祈ルノ義)ト云フ。其方法種々アリト雖モ大體ニ於テ神靈ノ力ニ賴テ惡靈ヲ驅除スルカ又ハ其惡靈ニ財物又ハ食物ヲ與ヘテ退キ去ラシムルモノタリトス。左ニ其重ナルモノヲ揭ク

(一)「パリシ・ア・サクチョ・クチョ」(病氣ニ對スル祈禱)　又ハ「キカウン・トソ・ツマシ」(靈ニ哀求スル義)ト云フ。神靈ニ祈リ病者ノ身ニ附スル惡靈ヲ逐出サシメ或ハ直接其惡靈ニ求メテ病者ノ身ヨリ出去ランコトヲ求ムルノ祈禱ナリ。此祈禱ハ本族ヲ通シ何レノ社ニモ行ハレ其方法モ大體ニ於テ相同シ。左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ揭ク(小林氏調查)

(い)ぶつる番チムル外數社　チムル社ニ於テハ先ツポーツ(桑)ノ葉ヲ板ノ上ニ約四五十枚置キ豚肉ヲ左手ニ持チ之ヲ小刀ニテ四五片ニ小切シ各ポーツノ上ニ乘セテ饌ト爲シ次ニ兩手ニ各其二片ツツヲ持チ病者ノ全身ヲ擦リテ其レヲ下ニ置キ再ヒ二片ツツヲ持シテ同事ヲ反覆シテ饌ノ盡クルニ至テ止ム。然後右ノ饌ヲ集メテ庭前ニ持參シ「コレニテ終レリ、病ハ去レリ」ト曰ヒテ之ヲ棄ツ

マカザヤザヤ群社ニ於テ行フモノモ大體右ニ同シ。

(ろ)同番カザザラ又社ニ於テハ巫ハ病牀ノ傍ニ腰掛ケ病者ニ向ヒ饌（桑ノ葉ニビアダトシ之 豚ノ骨及脂ノ小片ヲ盛ル）ハ一ノ目シ之ヲ以テ病者ノ全身ヲサスリタカラウス、サラバン及サトコトコノ靈ヲ呼ヒ病ノ平癒セミコトヲ祈リ後其饌ニ二回唾吐キ掛ケ出テテ入口ニ至リ再ヒタカラウス、サラバン、トコトコノ靈ヲ呼ヒ平癒ヲ祈リテ之ヲ屋上ニ一片、入口ニ三片置キ再ヒ室内ニ入リ更ニ新ナル饌ヲ用ヰテ病者ヲ擦リ後之ヲ病者ノ頭上ニ載ス。新饌ヲ取換ヘ同事ヲ反覆スルコト二回平癒ヲ祈リ再ヒ其饌ヲ取リテ二回唾ヲ掛ケ室外ニ出テ屋上ニ一片、入口ニ一片ヲ置キタカラウスサラバン、トコトコノ諸神ニ云々ト繰返シ又室内ニ歸リ新ナル饌ヲ以テタカラウス云々ト祈リ其饌ノ二片ヲ病者ノ頭上ニ載セタカラウス云々ト唱ヘ唾ヲ吐キ三ヒ室外ニ出テ前同樣操返ス（小林氏調査）

(は)北はいわ番ホガリヅ社ニ於テハ巫ハ病者ヲ臥セシメ其傍ニ坐シ饌ヲ以テ身體ヲ撫シツツ病者男子ナレハ『病ハ之ニテ去レリ、元氣ニ爲リ鹿猪ヲ獵セヨ』ト曰ヒ女子ナレハ何故ニ惡シキ事セ爲サザルニ病ヲ得タルカ、何故ニ惡靈ノ來リタルカ、今惡靈ヲ逐出シタルニ因リ病ハ止ミタリ此ヨリ汝ハ多ク男女ノ子ヲ生ミ又多ク粟芋等ヲ作レ』ト曰フト云フ

(に)はいわ番チーババオ、コワバル兩社ニ於テハ巫ハ先ツ病者ヲ寢臺ニ坐セシメ之ニ對シテ饌（桑ノ葉ナ摘切リ之ニ豚脂豚皮ノ小片ナ加フ）ヲ投シ『カダオ、ナクマテノ兩神ヨ願クハ此身ニ附キタル惡靈（番語ガシリン）ヲ除ケ』ト祈ル。次テ兩手ニ其饌ヲ持シ之ヲ以テ病者ヲ靜ニ摩下スルコト數回ニシテ之ヲ屋外ニ捨ツ、病重クシテ尚平癒セサルトキハ豚一頭ヲ屠リ其肉一塊ヲ取リ之ヲ以テカダオ、ナクマテノ靈ヲ呼ヒ神ニ惡靈ヲ取除キ給ヘト祈リ次ニ之ヲ以テ病者ヲ摩下スルコト數回ニシテ室外ニ投捨ツ

(ほ)はりじゅお番高士佛社　ニ於テハ「パリシ・トソ・リかリかッ」（「リかリかッ」ハ身體ノ義ナリ）ト云フ。病者ハ其室ニテ南向ニ坐シ巫之ニ對シ先ツ病者ニ向テ豚脂ヲ投シ「此者ヲ横ノ。惡靈ノ祟ノ爲ニ甚シク病ミセリ。今惡靈ニ豚脂ヲ與ヘ之ヲ逐出スヘシ。爾後顏色モ好ク元氣ニ爲リテ他人ニ劣ラサル樣ニ働ケ」ト唱ヘ、次ニ僎ヲ以テ病者ノ身體ヲ摩下シ後之ヲ室外ニ持行キ唾ヲ吐掛ケテ捨ツ　病重クシテ永ク恢復セサルトキハ「パリシヤ・ブナザかル」（「ブナザかル」ハ難シノ義）ノ祈ヲ行フ。其法先ツ巫ハ其室ニ於テ南方ニ向テ供僎シカダオ、ナクマテ、祖先ノ靈竝ニ家内ヲ守ル靈ヲ呼ヒ其保庇ヲ祈リ荀巫神ヲ呼ヒ「我術効驗ナク願クハ汝ヨリ傳ハリタル術ヲ巧ニ行ハシメ給ヘ」ト祈リ了テ巫歌ヲ唱ヘツツ瓢ト行フト因ナレハ「トマブン・トソ・ソマス」（靈ニ賠償スルノ義其法後ニ出ツ）ノ祈禱ヲ行フモ青ナルトキハ直ニ歿スト爲シ僎ヲ以テ病者ヲ摩下シ之ヲ室外ニ捨ツ

(ニ)パリシ・トワ・ジマジャス　「ジマジャス」ハ拂去ルノ義即チ病者ノ身ニ附着セル惡靈ヲ捕ヘテ之ヲ他ニ棄去ルノ義ナリ。此祈禱ハこぼじ、ぼりじ、お爾番ノ一部ニ行ハル。左ニ二三番社ニ行ハルルモノヲ示ス（内（い）ハ小林氏餘ハ安原氏ノ調査）

(い)こぼじ番内獅頭社　ニ於テハ家族中ニテ此法ヲ辨スル者之ヲ行ノ。其法先ツ巫ハ（豚脂片）ヲ病者ノ頭上ニ置キ己ハ僎（豚脂ノ小片）ヲ兩手ニ握リ病者ノ身ヲ摩下シツツ「カダオ、ナクマテヨ願クハ此者ノ體内ヨリ惡靈ヲ取去リ速ニ健全ニ爲フシメヨ」ト祈ルコト三回。後其僎ヲ持シテ庭前ニ至リハアト息ヲ吹掛ケテ之ヲ捨ツ　若シ右ノ祈禱ニテ病癒エサルトキハ巫ヲ招キテ之ヲ行ハシム。巫ハ大黑柱ノ下ニ於テ特替ト蓋ヲ坐シ先ツ僎ヲ投シテ社神及我等ノ祖靈ト汝等ニ此僎ノ與フ願クハ惡靈ノ祟リヲ除キ病者ヲシテ直ニ健全ナラシメヨ」ト祈リ次ニ僎ヲ以テ病者ヲ摩下シ之ノ前庭ニ投シ更ニ人日

ノ軒上ニ饌ヲ供シテ曰ク『カダオ、ナクマアノ兩神ヨ。此ヲ汝等ノ食物トシテ與フ。願クハ我等ヲ保護シ我等ノ不吉ヲ取去レ』ト祈ル

ろ）同番**マリパ**社ニ於テハ巫兩手ヲ掬スルガ如ク前ニ持來リ之ニ「ハア」ト息吹掛ケソレヲ以テ病者ヲ撫テ下スコト三回。ソレヨリ「ピヤク」ヲ持シ外ニ出テテ投棄ス　「クマロア」ヌノ爲ス所ハ南京玉ヲ糸ニ透シタルモノト豚脂トヲ持シ之ヲ以テ身體ヲ撫テ「ハア」ト呼キ掛ケテ之ヲ投棄ス。其時ニ兩手ヲハタクト云フ

は）はりじやお番加芝來社ニ於テハ巫ハ先ツ家ノ前庭ニ於テ榕樹ノ葉ヲ俎上ニ三列ニ並ヘ小刀ヲ以テ豚脂ヲ削リ之ニ豚脂ノ小片ヲ添ヘテ葉上ニ載セ酒ヲ灌キ『靈ニ與フ』ト稱ヘテ之ヲ地上ニ投棄ス。斯クスルコト數回。病者ヲ扶ケテ椅子ニ腰掛ケシメ（若シ重ケレハ臥シタル儘）巫ハ右手ニ榕葉ト小刀トヲ持シ病者ノ顏ヲ幾回トナク扇キツツ平癒ヲ祈リ畢テ饌ヲ外ニ投棄ス。或ハ榕葉二枚ノ間ニカルム及「ソコラジ」ヲ挾ミ小刀ニテ小シツツ削リ落スコトモアリ

に）同番**サブテク**群社ニ於テ老巫チヨオトイホノ行フ所下ノ如シ　病者ノ體中ニ熱アリ硬ヘトキハ是其箇所ニ小石アルナリ故ニ靈ニ祈リ之ヲ撫シツツ恰モ取去リテ棄ツルガ如キ樣ヲ爲セハ其石自然ニ脫去スト云フ　惡靈ノ憑依スル者ニ對シテ亦此法ヲ用ウ

はりじやお番ハ毒蛇ニ咬マレ、木ヨリ落チ其他負傷シタルコトヲモ之ヲ惡靈ノ所爲ニ歸シ其者ノ手當ヲ爲スト同時ニ之ニ對シテ「ジマジャス」ノ祈禱ヲ行フト云フ。又加芝來社ニテハ腫物ノ爲メニ頰ノ腫レ疼ムトキハ右ノ祈禱ヲ行ヒタル後豚ノ食殘シヲ土ト共ニ其患部ニ塗付スル風アリト云フ

（三）「パリシア・イニジサット」「イニジサット」ハ豚ノ片身ヲ云フ。病者ノ身ニ附セル惡靈ヲ此ニ移シテ除去

スルノ新禱ニシテこぼじ、ぱりじゃお兩番ノ諸社ニ行ハル。其內、內文社ニ行ハルルモノ下ノ如シ

先ツ小豚ヲ屠リ頭ヨリ尾ニ至ルマテ脊梁ニ沿ヒテ之ヲ兩分シ左ヲ「イニジーヌ」、右ヲ「セラスジ」ト稱ス。巫其左方ノ耳、顎、手、脇腹皮脚ノ肉少許ヲ取リ相思樹皮ノ小片ニ截セ呪ヲ誦シツツ病者ノ頭部ノ上方ニテ之ヲ廻シテ曰ク之ニテ病ハ癒ヘタリトシ其供物ヲ持シテ社外ニ至リ地ヲ堀リテ之ヲ埋メソレヨリ再ヒ歸來シ豚ノ右股ヲ以テ病者ノ喉ヲコスリテ曰ク之ニテ病ハ癒ニ癒ヘタリト、前後一箇月間病者ハ其埋メタル地ニ行クコトヲ禁ス（安原氏調査）

(四)「**トマブン・トワ・ツマシ**」（靈ニ賠財スル義）　禁忌ノ地ニ入リ其樹木ヲ伐リ魚類ヲ捕リ其他禁忌ヲ犯シタル場合ニ該人ガ疾病ニ罹リタルトキハ先ツ巫ヲ招キ瓢トヲ用ヰテ其病ガ禁忌ノ地ニ住スル惡靈（番語「サリンジ」）ノ所爲ナルヤ否ヤヲ問フ。幸ニ靈ノ所爲ニ非サルトキハ則チ止ムモ若シ靈ノ祟ル所ナルトキハ再ヒ瓢ニ依テ賠財（番語「マツブン」）ニ依リ其怒ヲ解キ得ヘキヤ否ヤヲトス、ト宥免セラレストアラハ則チ止ムモ若シ宥免セラルヘシトアラハ茲ニ「トマブン・トソ・ツマシ」ノ祈禱ヲ行フ左ニ二三ノ番社ニ於ケル調査シタル所ヲ掲ク（內(い)ハ小林氏、他ハ安原氏調査）

(い)**ぶつる番カザザラヌ社**　ニ於テハ病者ノ前ニ鎌一本ヲ置キ之ニ生薑少許ノ濂ニ價ヲ投シ禁地ノ靈ヲ呼テ曰ク『行ケ靈ヨ。今之ヲ以テ汝ニ賠償スルガ故ニ速ニ持行ケ』ト後屋外ニ出テ價ヲ投シ同一ノ事ヲ繰返スコト五回ニシテ了ル鎌ト薑ハ巫之ヲ取ル蓋シ古ハ禁地ニ持行キテ棄テタルモノナルヘシ

(ろ)**こぼじ番內文社**　ニ於テハ病者自身ニ小豚一頭ヲ牽キテ其犯シタル地ニ至リ價（相思樹皮及豚脂ノ小片）ヲ投シ靈ヲ呼テ曰ク『我先日ニ此地ノ禁ヲ犯シタルニ因リ茲ニ賠財スヘシ願クハ罪ノ免セラレタシ』

シテ豚ノ前脚ノ足首ヲ折リ其頭ニ頭飾ヲ施シ鷹ノ羽ヲ挿シ四肢ニ足飾ヲ纏メ布ノ小片ノ類ヲ足ニ殺セテ之ヲ巫ニ渡セハ巫之ニ對シ祝シテ曰ク「此豚ヲ立派ニ裝飾シ立派ニ屠斃セリ今之ヲ汝ナニノラモソ（靈地）ニ與ヘテ其宥恕ヲ祈ル』ト而シテ此豚ハ饌ト共ニ筵ニ入レテ林叢ノ中ニ棄ツ但シソツカダナ・ボ・ベジ」（參照狩獵ニ關スル祭祀第二ノ（ユ）ノ（ホ））ノ間ハ豚ヲ屠ルコトヲ禁忌スルガ故ニ若シ其期間ニ此祈禱ヲ行ハントト欲スルトキハ先ツ禁地ニ至リ饌ヲ投シ自己ノ罪ヲ謝シ他日「マツカケナ・ーバシン」ノ過キタル後豚ヲ屠ルヘシト約シテ歸來シ而シテ其期間ノ過キタル後ニ前記ノ祈禱ヲ行フ

(は)北はいわ番チャジャカブス社　ニ於テモ此祈禱アリ。其方法大體ニ於テ内文社ニ同シ。巫ハ先ツ禁地ノ靈ニ對シ贖財ノ祈禱ヲ爲シソレヨリ病者ニ對シ患部ヲ摩下スルコト二三回シテ曰ク「神靈ヨリ悉ク罪ヲ赦サレタリ。汝ノ病ハ之ニテ癒エタリ」ト。斯クシテ病癒エサルトキハ靈ノ怒尚解ケサルモノトシ豚ヲ屠リ更ニ贖財ノ祈禱ヲ行フ

(に)はりしゃお番サブデク群社　ニ於テ病重ク狂ヒ廻ルトキハ小豚一頭ニ裝飾ヲ施シ（全身ニ赤ク染メタルモノ夏管玉等ヲ飾リ又猪毛製ノ足飾ト南京玉製ノ首飾ヲモ施ス）之ヲ禁林ノ中ニ投棄ス。然ルトキハ其豚ハ見ル見ル死スヘシトイフ

(五)「ブヌリトナシ」（生命ヲ買フ義）　病重ク通常ノ祈禱ニテ其効驗見エサルトキハ豚ヲ屠リ之ヲ造主及祖神ノ靈ニ供シ該人ノ生命ヲ買ハンコトヲ求ムルノ祈禱ヲ行フ。幾回モ生マルルモノ早夭シタルトキハ亦此ノ祈禱ヲ行フ　此祈禱ハ僅ニこぼじ番ノ一部及サブデク群社ノ内ニ之ヲ行フモノアルヲ見ル其法式左ノ如シ（安原氏調査）

(い)こぼじ番内文社　ニ於テハ先ツ病者ニ對シ饌（想思樹皮ノ小片ヲ「ビヤク」トシ之ニ豚脂豚骨ノ小片ヲ加ノ）五箇ヲ投シナグマニノ靈ヲ呼テ「此人ヲ死ナサヌ樣ニ」ト祈リ後豚ヲ屠リ前ノ片足ヲ持シ之ヲ該人ノ頭上ニ振ル。之ヲ「イ

ヤバン」ト云フ

（附記）イヤバンノ祝詞左ノ如シ　モレイヤバンア（我「イヤバン」ニ行ハントス）トリナチツ（豚ノ後足）トシナホロニ（豚ノ前足）ヤナ…

ン　トヽヌナカヌ（豚ノ名）ブナブン（人ノ苗）ウンイヤバン　モウシブツブジ（煙デ招ク）トサイナカヌア（生児）トヽ…

ナハロヲバア（同）サビナコロダ（實）ノカダヲノナヤニ下シ…イバ（保護スル）シ…シザ…

サチスナ　サアビナビラバン（装飾ナ附ス）トツケマン　トソマツナンシナヲロノチ…ドホ…（諸種ノ物ヲ取ル）

ヲ…ビナイリマイ（時ル）トシアタマナ一カチアヌ（同生子）…バトヌムムヌ（子孫恒續ク）ハチ…バリリ（代々）トグ…（祖先）

ツマチジ、シ（子孫）サ、シニチジリ　サシニヌイジ　トナマリド（悪霊）…（之取ヲカレ）…ガ…リダオ

ナクマチ

（三）はりしお香サフテタ群社　ニ於テ老巫チョオトイボノ之ニ付キ行フ所下ノ如シ　早朝病人ノ宗ニ至リ病者ニ對シ儀ヲ授シソレヨリ豚ヲ屠リ其肉小許ヲ取リ之ヲ二箇ノ竹筒ニ插入シ先ヅ其一ヲ□□ノ□サラン（□□）ノ後ニ置キ…遺主タル太陽ニ生命ヲ買ヒ朝日ノ登ルカ如ニ…ト祈リ次ニ他ノ一ヲ持出テ入口ノ屋根ノ上ニ置キ同一ノ祈禱ヲ為ス

（六）サンフジ・ト・バーバク（煙ニテ副魂ヲ呼戻スノ義）　既ニ述ベタル如ク本島ニ於テハ人ノ心魂（…）ニ正副ノ兩魂アリ、正魂ハ身ヲ離ルヽコトナキモ副魂ハ睡眠中諸所ニ出遊シ若シ田畑ニ悪靈ニ抑留セラレテ歸來スルコト能ハサルトキハ其人必ス病ムヘシトシテ…若シ之ヲ蕃ニ於テハ其抑留セシレタル心魂ヲ呼戻スノ祈禱アリ其式左ノ如シ（…ハ安…氏ノ、…ハ小林氏ノ調査）

（い）こほし香内文社　ニ於テ顔色蒼白ニシテ身體瘦償セル者ハ其魂ノ一部ヲ被出シタルニ因ルトシ豚ヲ屠リテ日神ニ供シ其魂ヲ悪靈ヨリ取戻サンコトヲ求メ又粟莖ノ煙ヲ以テ病者ノ魂ヲ招ヘ

ツ、ツ『余ハ汝ヲ愛ス。何故ニ汝ハ出行キタルカ。速ニ歸來レ』ト曰フト云フ

(ろ)はりじ、お番高士佛社　ニ於テハ他行中何物ニカ驚キソレヨリ病氣ト爲リタルトキハ巫ヲ招キテ瓢トヲ行ハシム。巫トシテ其魂ガ惡靈ノ爲ニ伴去ラレタルナリト言ハハ招魂ノ祈禱ヲ行フ。其法巫ハ家ノ前庭ニ於テ東ニ向ヒ俎ヲ置キ饌ヲ陳シ之ヲ左手ニ持シ粟莖五把（一把ハ約七八本太サ親指位）ニ火ヲ點シ之ヲ右手ニ持チ其粟莖ヲ手前ノ方ニ圓ク廻シツツ巫歌ヲ唱フ。歌了レハ俎ヲ置キ粟莖ニテ其上ヲ拂ヒツツ祈テ曰ク『此饌ヲ汝ニ與フルガ故ニ之ヲ持シテ直ニ去レ。而シテ此病者ヲ健全ニ爲ラシメヨ』ト。次ニ粟莖ヲ置キテ俎ヲ取テ室內ニ入リ病者ノ前ニ置キ之ニ對シテ饌ヲ投シツツ『惡靈ハ早遠ク去リタリ汝ノ魂ハ常ニ汝ノ身體ニ在ルヘシ。再ヒ惡靈ノ許ヘ行クナカレ。多ク飯ヲ食ヒ水ヲ飲ミテ顏色美シク元氣ニ爲ルヘシ』ト祝ス

第五　其他生人ニ對スル祈禱

前四條ニ揭クルモノノ外生人ニ對シテ尙左ノ祭祀アリ

(一)「イサナジャク」　卽子ト爲ルノ義ナリ。蓋シ造主、太陽其他神靈ノ子ト爲リ其保佑ヲ得テ身體ノ健全ナランコトヲ祈ルナリ。是ハ五年祭ノ後祭、粟ノ收穫後祭、社神祭、首級收藏祭等ニ附隨シテ行フ。其法既ニ各祭祀ノ部ニ於テ說述セルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

(二)パホロコム　「ロコム」卽「元氣」ヲ附スルノ義ナリ。是ハ概シテ「イサナジャク」ニ附シテ行ヒ又ハ一黨ガ出草スル場合ニ番丁ニ對シテ之ヲ行フ。此モ上記各祭祀中ニ說キタル所ナルヲ以テ茲ニ略ス

(三)「ジミカサヌ」　こほじ番內文社ニ此祈禱アリ。イジカス（野獸ヲ司ル神）ノ靈ニ能ク男子ノ獵獲シ得ル樣ニ祈ル。卽チ巫其男子ヲ立タシメ「ビヤク」及「カルム」ヲ其頭ニ載セ或ハ手ニ握ラセイジカスノ靈ヲ呼ヒ

此者ニ鹿猪等ノ來ル樣ニ祝福ス

(四)パホバコバコ ポバコバコハポブサムトモ云フ。卽粟種ヲ司ル神ナリ此祭ハ女子ニ對シ其農耕ノ上手ニ爲ル樣ニ祈ルモノニシテ內文社ニ行ハル其法式ハ女子ヲ立タシメ其頭ニ「ビヤク」ヲ載セ又ハ其手ニ握ラシメポブサムノ靈ヲ呼ビ此者ニ能ク粟芋ノ來ルヘキ樣ニ祈ル

第六　死者及其遺族ニ對スル祈禱

人死シ新ニ之ヲ埋ムヘキ墓壙ヲ穿タントスル時ハ其地ノ堀鑿シ易ク且ツ將來其墓ノ堅固ナランコトヲ祈ル。之ヲ「パリシア・モレシスマク」ト云フ。將ニ屍ヲ壙內ニ降サントスル時ニハ、死者ニ對シテ現世ニ於テ有セシ諸種ノ幸福ヲ此家內ニ殘置キ持去ラサル樣ニ祈ル之ヲパリシア・イケマント云フ。既ニ葬畢リタル時ハ死者ガ此下ニ靜ニ永眠スヘキ樣ニ祈ル。之ヲパリシア・マサイト云フ次ニ死者ノ靈ヲ送リテ社ノ入口マテ至リ又ハ死者ノ生前ニ用キタル月桃蓆(臥蓐)ヲ社內一定ノ林地ニ棄テ、之ヲ「プサオ・ト・ツマシ」(靈ヲ送ル義)ト云フ。然ル後家族、親實其他屍體ニ觸レタル者ニ對シ其不淨ヲ除ク之ヲ「スンタビク」ト云フ。此等ノ祭祀ニ付テハ第三門第二章中葬法ノ中ニ記述スルノ便トスルモ前ニ出版シタル第四冊ノ中ニ小林氏ノ調査シタル所ノ漏シタルヲ以テ玆ニソレヲ揭ケテ之ノ補フコトトス

(一)ぶつる番カザザラヌ社　ニ於テ頭人死シタル時ハ全社一日休業シ各戶薪一本ツツノ其頭人家ニ納ム之ヲ「スモポロアヌ」ト稱ス　死者ヲ埋葬スルトキハ、バリシ・タ・ツマクノ行フ親族ノ者墓壙ノ上ニ饌ヲ供シ之ヲ壙內ニ拂落シテ後死者ヲ埋ム　埋葬後、スモバリバリ(取去ル義)ノ祈禱ヲ行フ。死者ノ親族ハ死者ノ用キタル蓆ヲ一定ノ禁地(假令ハリガリガス部落ナレハチナフ、アマリメ部落ナレハリガリカリイメ)ニ持行キテ之ヲ捨ツ。其ハ

其間墓壙ノ傍ニ南向キニ坐シ親族ノ禁地ヨリ歸ルヲ待チ饌ヲ投シ「今祈禱シテ不吉ヲ取去レリ。我等ノ兄弟ガ死スルコトナキ樣ニ藷ヲ捨テタリ」ト稱シ祈禱ニ用ヒタル小刀・豚骨・豚皮等ヲ傍ニ持出シ「之ニテ捨了レリ」ト稱フ

(二)北はいわん番チャジャカブス社　ニ於テハ埋葬ノ時何等祈禱ヲ行ハス　埋葬ノ夜巫ハ粟莖ニ火ヲ點シタルヲ持チ入口ノ軒下ニテ饌（桑ノ葉ナ「ピヤク」トス）ヲ投シ諸神ノ名ヲ呼ヒ數句ノ呪ヲ誦シテ遺族ノ安全ヲ祈ル　其翌及翌々日共ニ何等祈禱ナク外出セサルノミ　四日目ハ「スモバジア」（屍穢ノ義ナ）ト稱シ早朝豚一頭ヲ屠リ巫ハ其肉ノ一部ト「ビヤク」ヲ以テ入口ニテ祈禱シ了ノ巫歌ヲ唱フ　難產ニテ死シタル者アルトキハ社外ニ持行キ埋葬ス。死者ニ對シ何等祈禱及葬式ヲ行ハス。只「スモバジア」ノ祈禱ヲ一日行フノミ　自殺者ハ死シタル場所ニ埋メ死者ニ對スル祈禱及葬式ヲ爲サス唯家族ノ者五日間外出セス喪ニ服ス。而シテ五日ノ後外出スルトキ「スモバジア」ノ祈禱ヲ行フ　斬首サレタル者ハ通常ノ死者ト同シク祈禱シ屍ヲ家內ノ墓ニ埋メテ禁忌ト爲サス

(三)同番ボかりヲ社　ニ於テハ埋葬ノ夜巫入口ニ餅酒及「ビヤク」ノ供ヘ死者ノ靈ヲ呼ヒ汝ハ何故ニ死シタルヤ。何等禁忌ヲ犯シタルコトナキニ。サレト今後ハ家內ニ再ヒカカルコトナカルヘシ。最早靈ノ怒モ和キタルナラン」ト唱フ　其翌日ハ「マコチャコナ」ト稱シ死者ノ親族ハ餅酒（小竹筒ニ入レ）及豚肉ヲ持シ巫ト共ニ其家ノ番藷畑ニ赴ク。巫ハ茅ニテ約一尺平方ノ小屋（屋根ノミ造ル）ヲ造リ餅其他ヲ納ム　第三日ハ「サシポ」ト稱シ死者ニ畑ヲ分チ與フルノ式ヲ行フ。親族ノ者ハ前日ノ如ク餅其他ノ饌ヲ持テ巫ト共ニ番藷畑ニ來リ巫畑小屋ノ寢臺ニ對シ之ヲ供シ「ビヤク」ヲ投シ『死セル者ヨ汝ニ餅酒等ヲ與フルニ因リ悲ムコトナカレ。汝ハ靈ニ愛セラレタル故死シタルナリ。汝ノ父母ハ汝ヲ哀メトモ何トモ

方法ナシ』ト唱フ　第四日「イチッウラ」（救ヒ求ムル義）ト稱ス。早朝豚一隻ヲ屠リ巫其肉數片ト酒トヲ入口ニ供シ「ビヤク」ヲ投シ『最早一名死シタル故靈モ定メテ怒ヲ和ケタルヘク此上ハ善キ心ニ爲リテ我等ヲ保護セラルヘシ』ト唱フ　第五日「マブソアヌ」ト稱シ禁忌始テ解ケテ家業ニ從フ　馘首サレタル者縊死シタル者モ右ト同樣ニ祭ル。但シ畑ニ祭屋ヲ作ルトキハ石板石ニテ作ル其屋ハ自殺者產死者ト同シク社外ノ禁地（從來其等ヲ埋葬シタル處）ニ埋ム。自殺者產死者ヲ祭ルコトナシ

(四)同番**スボン**社　ニ於テ葬後巫ハ喪室ニ於テ饌ヲ投シ『汝死者ノ爲メニ祈禱ヲナス汝ハ不幸ニシテ死シタリ。然レトモ是巳ムヲ得ス汝ノ運ノ少キ故ナリ。願クハ我等ヲ病氣ニシ我等ヲ死ナサシムルコトナカレ。速ニ去レ』ト稱ヘ饌ヲ取リテ入口ノ屋上ニ一片、祭畑ニ一片ヲ置ク。此祈禱後約一箇月ニシテ屋內並ニ家具農作物ノ不吉ヲ攘フ祈禱アリ

(五)同番**チェババオ、コワバル**兩社　ニ於テハ埋葬後「ハリシ・ト・マヺイ」ノ祈禱ヲ行フ。巫ハ草ニ對シテ饌ヲ供ヘ『汝ハ不幸ニシテ死シタリ。哀レナリト雖モ自ラ先ツ我等ヨリ先キニ汝ヲ招キタルニアラス仕方ナシ』ト唱ヘ饌ヲ採テ其二片ヲ室ノ奧ニ向ケテ投シ更ニ一片ヲ西方ニ向テ投ス

當社ニ於テ社民中敵ニ馘首セラレタル者アル時ハ一社共同シテ「スセクヤ」（惡キ事ヲ拂フノ義）ノ祭ヲ行フ其式下ノ如シ　第一日「ハマヌパツシラ」（此義審ナラス）ト云フ。此日馘首セラレタル者ノ家ニ社民集合シ早朝巫ハ其室ノ中央ニテ饌ヲ供ヘ死者ノ名ヲ呼ヒ『敵社ニテ饗應サルルコトナカレ汝敵人ノ食ヲ食ヒ後ヨリ社人ヲ伴行クコトナカレ』ト稱ヘ饌ヲ取テ前庭ニ投棄ツ。集合セル社民ハ同日ニ宴セス必ス復讐スヘシト叫フ　第二日「キスサボロ」（槍ヲ投ル義）ト稱シ巫ハ再ヒ死者ノ家ニ赴キ前庭ニテ饌ヲ供ヘ『汝歸着テヨ、今後ハ闘セサルヘシ』ト稱ヘ饌ヲ取テ家ノ後ニ投棄ス　第三日「スマノジ・ジャブ」（祭ヲ畢ル義）ノ祈

禱ヲ行フ。此日死者ノ家及頭人ヨリ各小豚一頭ヲ出ス。頭人家ノ前庭ニ於テ先ツ其中ノ一頭ヲ屠リ巫之ヲ供ヘ饌ヲ投シタカラウスノ靈ヲ呼ヒ『今後社民ヲ敵人ヨリ馘首サルルコトナキ樣ニ保護セヨ』ト祈ル。後番丁等ハ殘リノ一頭ヲ持シ頭人及巫ト山上ニ至リ小サキ石屋ヲ作リ而シテ巫ハ之ニ對シテ其豚ヲ供ヘ饌ヲ投シ「タカラウスヨ。死者ガ敵社ニテ饗應ヲ受クルコトナク今後社民ノ馘首セラルルコトナキ樣ニ保護セヨ」ト祈ル。供ヘタル豚ハ其儘ニ爲シ置キテ歸社ス。先キニ屠リタル豚ハ頭人及死者ノ家族ニテ食盡ス。第四日「ルマスジ・ト・カジュナカヌ」（土地ヲ整理スル義）ト稱ス。此日巫ハ頭人家ニ甚キ與室ニテ豚骨ニ片餅一箇（小）ヲ供ヘ「今後社民ノ馘首サルルコトナキ樣ニ」ト祈ル。了テ頭人ト共ニコソバル社東方ノ山上ニ赴キ石板石ニテタビタビ（小屋）ヲ作リ饌ヲ納メ既ニ地ヲ整ヒタリ。今後社民ノ馘首セラルルコトナキ樣ニ」ト稱ヘ歸ル。第五日「スマノロァハ・トツ・ヤナジヤン」（社ニ元氣ヲ附スル義）ト稱シ巫ハ頭人家ノ入口ニテ饌ヲ投シ「死者ガ敵人ノ饗應ヲ受ケサル樣ニ、社民ノ馘首サルルコトナキ樣ニ」ト稱ヘ饌ヲ前庭ニ投棄ス。此祭祀了レハ死者ノ宗族、親族或ハ知人協議シテ日ヲ期シ集合シテ敵社ニ出草ス。祭祀中社民ハ社外ニ出テス休業ス

六　こほじ番內獅頭社　ニ於テハ「チカゴロツ」（此意不明）ト稱シ專ラ死者ノ埋葬ヲ掌ル世襲ノ番丁アリ。一般社民ハ死者ヲ假令父母タリトモ自ラ手ヲ下シテ之ヲ埋葬スルトキハ病ヲ得テ死スヘシト云ヒ右ノ「チカゴロツ」ニ賴ミテ之ヲ爲サシム（當社ノ外ブリイジニ五名、外獅頭社ニ數名アリト云フ。內文社ハ不明ナリ）。當社ニ於テハ死者ノ親族、知友ハ集リ來リ先ツ死者ニ對シテ告別シソレヨリ頭人家ナラハ五日間、平民家ナラハ三日間、其家ニ宿泊シ業ヲ休ム。何レモ其間ハ社外ニ出ツルコトヲ禁ス。死者ヲ埋葬スルトキハ「チカゴロツ」數名來リテ「バリシ・ヤ・ツムブジ」ヲ行フ。乃チ先ツ墓蓋ニ向テ豚脂ヲ投スルコト三回「我等ノ何々（父又兄等）汝

ハ不幸ニシテ我等ヨリ先ニ祖先ノ在ス所ニ赴ク。今汝ノ赴ク所ニ向テ供饌ス。願クハ後ノ者ヲシテ不幸ナラシムルコトナカレ』ト稱ヘ蓋ヲ去リ死者ヲ埋ム。了テ「チカゴロツ」ハ死者ノ用キタル月桃蓆敷並及鉢ヲ持テホスアマス（當社ヨリ約三町ノ南方山腹森林ヲ爲ス）ニ至リ之ヲ捨ツ。チカゴロツハ再ヒ死者ノ家ニ歸リ來リ巫ヨリ「パリシ・マ・イスパジク」ノ祈禱ヲ受ク。其法「チカゴロツ」ハ奥室大黑柱ノ下ニ東方ニ向テ並坐シ巫東方ニ向テ饌ヲ供シ「カダオ、ナクマアノ兩神ヨ汝ニ供饌シテ此等ノ身體ヲ淨ハントス願クハ不淨ヲ去リ惡靈ノ祟ルコトナキ樣ニ」ト唱ヘ而シテ其饌ヲ取テ「チカゴロツ」ノ身體ヲ拭ヒ「チカゴロツ」ハ之ニ唾ヲ吐クコト數回スレハ巫ハ其饌ヲ前庭ニ投棄ス

（七）はりじお香高士佛社ニ於テハ死者ヲ埋葬スル者ハ近親タル男子ニ限リ但シ家内ノ長子及末子ヲ除ク　葬後「イスパジク」ニ（「スモアジク」トモ云フ、死ノ不淨ヲ祓フ義ナリ）ノ祈禱ヲ行フ。卽埋葬ニ從事シタル者ニハ先ツ墓場ノ上ニテ手ヲ洗ヒ外ニ向テ並坐スレハ巫ハ此等ニ對シテ豚脂ヲ投シ『此等ニ對シテ其[illegible]ヲ[illegible]ニ。死者ノ靈ヨ此等埋葬シタル者等ト分レテ速ニ祖先ノ許ニ行ケ。永ク此所ニ留リテ我等ニ祟ルコト勿レ』ト稱ヘ次ニ其家ノ男子（長及末子ヲ除ク）ハ死者ノ帶ヲ持チ「パヽブアマ」（當社ヨリ北方十町ノ竹藪）ニ捨ツ。翌日水牛一頭ヲ屠リ親族知友相集リテ二日間酒宴ストテ云フ。二日目ニハ[illegible]「（遺族ニ對スル死者寛宥ヲ求ムル義）ノ祈禱ヲ行ハン。卽埋葬ヲ行ヒタル者ヲ前日ノ如ク奥室ニ立タシメ巫之ニ對シテ豚脂ヲ投シ前日ノ如ク唱ヘ最後ニ「コレデ別レル」ト云フ

葬後一年ヲ經テ「バイチャウラ・トワ・サウザヤヌ」（財産ニ對スル死者ノ寛宥ヲ求ムル義）ノ祈禱ヲ行フ。先ツ奥室ニ武具、家具、農具、漁具、食具、炊事用具、衣服、裝飾品其他ノ器具ヲ集メテ之ヲ陳シ巫ハ此等ノ物品ニ對シテ豚骨豚脂ヲ投シ碗ニ入レタル酒ヲ指ニテ彈キツツ『今汝死者ノ爲ニ財物ヲ分與スヘシ。汝死シタル者此外

ニ品物ヲ欲スル勿レ其ヲ汝ノ家族ガ用キルモ決シテ之ヲ恨ミ祟ルコト勿レト稱ヘゾレノリ家族中ノ男子(長子末子ヲ除ク)ハ箕、鉢、破鍋、飯笊、匙各一ヲ持チテキニブブアヌ(當社ノ北西二十町ノ禁地)ニ赴キテ之ヲ捨ツ

第八項　建物家具及家畜ニ關スル祭祀

第一　建物ニ對スル祭祀

建物ニ對スル祭祀ニハ住屋ニ對スルモノト穀倉ニ對スルモノトアリ

(一)住居ニ對スル祭祀　本族一般ニ住屋ヲ新築スル時ハ豚ヲ屠リテ巫ヲ招キ祖靈ヲ祭リ其屋宇ノ永久ニ堅固ニ其内ニ住ム人々ノ繁殖シ且農作物ノ豐ニシテ内ニ滿ツル樣ニト祈ル之ヲ「パリシアスマヌウマク」「パリシア・スマヌタパオ」(共ニ住家建築祭)又ハ「パリシア・スマヌカキヤバガ」(靈棚作成祭)ト云ヒ畢テ宴ヲ開キ建築ヲ手傳ヒタル人々ヲ饗應ス　第二款式ノ住家(スボン溪以南ノ住家)ニ於テハ新築ノミナラズ其茅屋根ヲ葺換ヘタル時ニモ此祭祀ヲ行フ

左ニ二三ノ番社ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ヲ掲ク

(い)ぶつる番マカザヤザヤ社ニ於テハ巫ハ人又ハ獸ノ頭顱ヲ持シ屋室靈棚ノ前ニ於テ饌ヲ供シ「其ニカキヤバガ(靈棚)ヲ作リ汝祖先ノ靈ヲ安ス。猪ノ頭ト人ノ頭ヲ持來セリ。願クハ多ク子ガ生レ而シテ穀類ガ倉及櫃ニ滿ツル樣ニアラシメヨ」ト祈ル

(ろ)同番パイルス社ニ於テハ巫靈棚ニ對シ饌ヲ投シテ祖靈ヲ祭リ又茅莖ノ細ニ摘切リ之ヲ軒先ハノ瓦ノ上ニ置ク

(は)北はいわん番チャジャカブス社ニ於テハ豚ヲ屠リ家族中ノ一人其肉數片ヲ奥室ノ靈棚ニ供シ饌ヲ投シテ「住屋落成シタル故今此祭ヲ行フ。爾後大雨アリトモ漏ルコトナク又板ノ腐ルルコトナカラ

ンヿト祝ス

(に)同番ポかりァ社ニ於テ巫ハ靈棚ト入口ニ饌ヲ供シ「此屋ニハ豚常ニ能ク繁殖シ能ク肥大ナルヘク又粟芋番藷樹豆等モ常ニ屋内ニ滿ツル程收穫アルヘシ」ト祝ス。此夜社内ノ健全ナル高齢者ヲ招キ一泊セシム。是其家屋ガ永久ニ堅固ナランコトヲ祝スルノ意ナリ

(ほ)同番スボン社ニ於テハ巫ハ靈棚ノ前ニ饌ヲ供シ此家常ニ堅固ニシテ且粟芋ナトノ豊作ナランコトヲ祈ル

(へ)同番チューババオ、コワバル兩社ニ於テハ宗族中年長タル男子大黒柱ニ對シ豚肉ヲ供シ此屋ノ堅固ニシテ破壞セサル樣ニト祈ル了テ祝宴ヲ開ク

(と)はりじゅお番高士佛社ニ於テハ巫ハ屋室中央ニ蹲リ南方ニ面シテ祭祖ヲ置ヘ饌ノ供一ヲ曰ク「一家内ヲ守ル神ヨ。惡靈ヲシテ近カツカシムル勿レ。而シテ此家ヲシテ堅固ニシ其内ニ種々ナル幸福ヲ滿タシメヨ」ト祈リソレヨリ饌ヲ投シテ室内ノ四隅ヲ淸ノ

(二)穀倉祭　さらせい以諸番社ニハ概シテ穀倉ヲ有スレトモぱいわ三番ニハ二三ノ番社ヲ除ク外之ヲ有セス。穀倉ヲ建テタルトキニ之ガ祭祀ヲ行フモノ甚少シ。サレトモ其屋根ノ吉揮ニ葺ル時ニ之ヲ行フ。之ヲ「パリシ・ク・コバウ」(穀倉祭)ト云フ。稍ニ粟ノ收穫前ニ穀倉ニ對シテ除鼠ノ祈禱ヲ爲ス所アリ。左ニ一二ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ掲ク(本(い)ハ安原氏(ろ)ハ小林氏ノ調査ニ係ル)

(い)ぶつる番かザタザヌ社ニ於テハ毎年(二度ハ毎年)粟ヲ收穫スル前ニ穀倉ノ屋根ヲ葺換ヘタル時宗祝(主婦若クハ其他ノ婦女之ニ當ル)饌(例ノ「アルア」「ツコノ」「ペヤク」ノ外ニ鐵ノ小片ヲモ用ウ)ヲ具シ先ツ靈棚ヲ祭リ次ニ穀倉ヲ祭ル。其祝詞ニ曰ク「パポかラかラヌ。キソシニサリラかイゾソソキナかかラ」(鼠及火ニ對シテ特ニ注意セヨトノ意ナリト云フ)

又當社ニハ粟ノ收穫前ニ「パリシタコラバウ」(鼠ナ祭ル義)ト稱シ穀倉ニ對シ鼠ノ入ラサル樣ニ巫ヲ招キ笊ニ粟黍稗甘蔗芋等ノ屑ヲ入レ之ヲ粟倉ノ前ニ持行キ其入口ニ向テ饌ヲ投シ『去レ溪ヲ通リテ平地ニ行ケ。後ヲ向クナ。後ヲ向ケハ汝ノ食物ハナシ。何故ニ汝ハ後ヲ向クカ云々』ト云ヒ然ル後其笊ヲ携ヘテ溪底ニ降リ之ヲ水流ニ投棄シテ歸ル

(ろ)同番カザザラヌ社　ニ於テハ毎二年ニ一回穀倉ノ屋根ヲ葺換フ。此時家族ノ一人穀倉ニ對シ饌ヲ投シ「新ニ屋根ヲ葺易ヘタリ。而シテ粟ヲ納メタリ。此粟常ニ能ク整理セラレ將來モ減スルコトナカルヘシ」ト祝スル後宴ヲ開キ手傳者ヲ饗ス。又當社ニ於テハ粟ヲ收穫シ之ヲ穀倉ニ納メタル時「パルマスジ」(整ハシムノ義)ノ祈禱ヲ行フ。家族ノ一人穀倉ニ對シ饌ヲ投シ祈リテ曰ク「粟ヲ算ヘ之ヲ納メ入レタリ。爾後常ニ此ノ如ク整ヒテ減少スルコトナケン」ト

第二　器物ニ對スル祭祀

(一)總說　器物ニ關スル祭祀ニハ「ルマスジ」ト「パスジ」ノ二種アリ

(い)「ルマスジ」　整理スルノ義ナリ。從來所有スル器物ニ對シ其不吉不淨ヲ祓ヒソレヲシテ能ク有用ナラシムル樣ニ行フナリ。其一般ノ家具(農具、炊事用具、武器、裝飾器ヲ含ム)ニ對シテ行フヲ「パリシ・ト・サウザヤ」ト云ヒ携帶品即銃、刀及「ジャバッ」(肩ヨリ脇ニ掛クル袋等)ニ對シテ行ノモノヲ「パリシ・ト・トリブサヌ」ト云ノ其中單ニ銃器ノミニ對シテ行フモノヲ「パリシ・ト・コソン」、刀ノミニ對シテ行フモノヲ「パリシ・ト・ツカジャブ」、「ジャバッ」ノミニ對シテ行フモノヲ「パリシ・ト・ジャバッ」ト稱ス

(ろ)「パスジャブ」　適合セシムルノ義ナリ。新ニ他ヨリ物品ヲ買入レタル時其物件ガ能ク買主ノ身ニ適合スル樣ニ祈ルヲ云フ。即銃器、裝飾品ノ如キ高價ノ品、鍋甕ノ如キ破壞シ易キ品ニ對シテハ概シ

テ之ヲ行フ。尚此祈禱ハ特ニ器物ノミナラス養子ヲ爲シ豚其他ノ家畜ヲ買ヒタル場合ニモ之ヲ行フ。皆其家ニ適合シ養子ナラハ能ク養親ニ親シム樣、豚ナラハ飼主ニ馴ル樣ニ祈リ其趣旨ハ同一ナリトノ

器物ニ關スル祭祀ノ方式ハ各番多少ノ相異アルモ大體ニ付テハ相同シ左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタルモノヲ掲ク（中(い)及(ろ)ハ安原氏他ハ小林氏ノ調査ニ係ル）

(二)こほじ番内文社 ニ於テハ「パリシ・ト・サウザヤヌ」「パリシ・ト・トリブ[サャ]」「パリシ・ト・コツヌ」及「パシジルブ」ノ祈禱アリ。其中パリシトサツザヤヌ」ハ五年祭ノ後祭ヲ畢リタル後各戶巫ヲ招キテ之ヲ行フ其式既ニ五年祭ノ項下ニ述ヘシ所ノ如シ。又パスジルブハ新ニ物品ヲ買入レタル時巫ヲ招キ其品ガ持主ニ適合スル樣ニ祈ル。別ニ式ト稱スヘキ程ノモノナシ。故ニ之ヲ除キ他ノ二者ニ付テ説述ス

(1)「**パリシト・ト・リブ**[ヲヌ]」 毎年一回各家任意ニ巫ヲ招キ之ヲ行フ。其法巫俎上ニ銃刀ジーバノ其他祭品ヲ置キ之ニ饌（想思樹片チ「ピヤクート」シ之ニ「カルーム」チ載ス）ヲ投シテ曰ク『クミジカウン。パサルト・ト・トリブ[サャ]スモチロク。スムブジャン。スモルクルク。スモブジュブジ。スモイロン。スモカジャヤス』（譯今我「トリブ」ヲ行フ穢ノ、惱、婚姻、麻、芭蕉、月經等ノ汚レ去ル）ト巫ハ更ニ饌ヲ取リテ左ヨリ右ニ、右ヨリ左ニ交互ニ廻シツツ祝シテ曰ク『ルマスジヤウン。ボロコム。ヤバントプツブジ、トワケマン。カシジナマ、カシソラブン。サハボサプイパプレラス。サマロマララク。ハタタカオ。デスゴダス』（譯。我整理チ行ヒタリ人ニ元氣ナ附シタリ燒跡（芽出）ヨリ獵場ヨリ山ノ幸ニ招徠ス一タビ點火スルヤ直ニ發射シ恰モ雷ノ如ク各方面ニ反響ス）ト畢テ銃主外庭ニ出テ粟莖ニ點火シ之ヲ左手ニ持シ右ニ豚骨ヲ持シ祝シテ曰ク『ソンブジャカア。トケマン。トマツナン。サビナカウジャウジャ・ト・ビナモリモリ。マジャアイアス。マジャコバジャス』（譯我今婚チ以テ山ノ幸及野ノ幸チ招徠ス。美シキ諸種ノ獲物即各異ノ言語ヲ有スルモノ、各異ノ毛色チ有スルモノ等ヲ得ン）ト。ソレヨリ其粟藁ヲ棄テ豚骨ヲ持シテ家ニ入リ巫

ヨリ饌ノ受ケ之ト共ニ銃ノ傍ニ置ク

(二)「**パリシトコワヌ**」臨時銃器ニ對シテ之ヲ行フ。例ヘハ懷胎セル婦女ガ觸レタルトキ或ハ其傍ニテ喫又ハ放屁ヲ為シタル者アルトキ或ハ屢出獵シテ獲物ナキトキ等ハ其不吉ヲ禳ヒ能ク野獸ヲ獲ラルル様ニ祈ルヲ常トス　其法巫銃器ヲ立掛ケ之ニ饌(「カルプ」「ビヤルク」及)ヲ投シ數句ノ呪ヲ誦シ後ノ「ジ」ナカ」(地)「カジ」「カジョプン」(獵場)「ポカヤカヤム」(野獸ヲ支配スル神)「ポタタラバヌ」(狩獵ノ時ニ來ルナ待受ル野獸ノ地點)ノ靈ノ呼テ其好獵ヲ祈リ出テ饌ヲ屋根ニ投シテナジミザオ(巫ノ教祖ノ女友)ノ靈ニ供ス。ソレヨリ銃主外庭ニ於テ「イー」ミーーいーいーい」オート犬ヲ呼ノ聲ニ擬スルコト約五回ス

(三)**ぶつる番カザ**(ヌ)**ザヌ社**ニ於テ「パリシ・タ・トリブ「サヌ」」ノ式ハ下ノ如シ　此祭ハ「マサルト」ノ末日、日暮ニ於テ各家別々ニ行ノ此時婦女ハ家外ニ出居ルヘキモノトス。先ツ銃、弓、矢、槍、刀、罠等ノ武器ヲ大黒柱ニ掛ケ又ハ立掛ケ一家ノ男子ハ總テ其家ニ蹲リ家長若ハ年長者饌ヲ具シ此等ノ武器ニ對シ一々其利ニシテ出獵ニ功ノ奏スル様ニ祈ル、即槍ニ對シテハ、「パボデレチ」「マリパトガド」(發射シテ山ノ突抜クヘシ)銃ニ對シテハ、「パボデレチ。マリパトガド。ヽマスグチアマチ」(發射シテ眞直ニ山ニ命中スヘシ)ト云フガ如シ

(四)**同番カザサラヌ社**ニ於テ左ノ二祭アリ

(1)「**パリシタ・アタ**」アタハ珠仔ニシテ此中ニハ高價ノ物少カラス。此等ヲ親ヨリ讓ラレタル時又ハ其内ノ一部ガ破損若クハ紛失セシ時其持主珠仔ニ對シ祖靈ヲ呼ヒ榕樹ノ皮、豚骨、豚脂ヲ投シ其珠仔ノ破損シ又ハ紛失スルコトナキ様ニ祈リ後之ヲ饌ト共ニ行李ノ内ニ收藏ス、行李ニ納メタル儘ノ一片ニテモ紛失セハ珠仔モ共ニ紛失スヘシト云フ

(2)「**パリシタ・ブナリト**」此意味審ナラス。銃器ニ對スル祈禱ニシテ狩獵ニ赴キ獲物アリタル時ノミ

之ヲ行フ。銃器ノ所有者之ニ對シ饌ヲ投シ茅莖一本ニ火ヲ點シ之ヲ以テ銃ノ周圍ヲ拂ヒ祓シテ「火ト同シ、雷ト同シ」ト曰フ。蓋シ其威力ヲ贊スルナルヘシ　銃ニ對シ何カノ不淨アリタルトキハ饌ヲ投シテ之ヲ祓フ

(五)北はいわ番チャカプス社　ニ於テハ「パリシ・ト・ソ・サヤサヤ」ノ法下ノ如シ　新シキ物品ヲ買求メ又ハ之ヲ造リタルトキハ之ニ對シ饌ヲ投シ其破壞スルコトナク且ツ永ク堅固ナル様ニ祈ル。但シ此祈禱ハ一個一個ニ付テ行ハス數個集リタル時ニ行ノ

(六)同番ボカリド社　ニ於テ「パリシ・ト・オソン」ノ式下ノ如シ　五年祭ノ後祭ノミソアソノ日ニ之ヲ行フ。早朝ヨリ番丁ハ銃ヲ持チ頭人家ニ集合シ頭人眠一夜ノ居リ各自ノ銃器ヲ祖室ノ土間ニ並ヘ巫之ニ對シ居リタル豚ノ脂骨ヲ供シ「ビヤク」ヲ撲シ猪鹿ヤ山羊ノ皆獲ル様ニト祈リテ一同出獵ス。昔ハ此祈禱ノ時ハ弓ニ對シテモ之ヲ行ヒタリト

(七)同番スボン社　ニ於テ「パリシ・ト・サウザヤ」ノ祈禱下ノ如シ　當社ニ於テハ家内ニ死者アリタルニ時約一箇月ヲ經タル後巫ヲ招キテ之ヲ行フ。先ツ武器農具裝飾品等ヲ祖室ノ土間ニ陳シ巫此等ニ對シテ一々饌ヲ投シ曰ク「何々ニ對シテ祈禱ヲ行フ。永ク堅固ニシテ破損スルコト勿レ」ト祈リ次ニ粟、芋其他農作物ヲ置キタル所ニ對シ饌ヲ投シ曰ク「何々ニ對シ祈禱ノ行フ。願クハ腐敗スルコトナク永遠ニ存スヘシ」ト稱フ

(八)同番コワバル群社　ニ於テハ左ノ祭祀アリ

(1)**「パリシ・ト・サウザヤ」**　五年祭ノ後祭ヲ了リ後數日ヲ經テ各戶同日ニ此祭ヲ行ノ此日巫各戶ヲ巡リ祖室ニ於テ饌ヲ投シ祖先ヨリ傳來セル古キ器具又ハ財產ノ此家ヨリ外ニ出テサル樣ニ祈リ次

ニ武器、農具、炊事具、裝飾品、衣服其他ノ家具ニ對シテ（其場所ニ置キタル儘ニテ）モ一々饌ヲ投ス

(2)「**パリシ・ト・ツブシ**」新ニ買求メタル物品ニ對シ之ヲ行フ。即チ其物品ノ奥室ニ陳シ武器其他ナレハ家内ノ年長タル男子。織物其他ナレハ年長ノ婦女之ニ對シテ饌ヲ投シ常ニ堅固ニシテ破損スルコトナク能ク持主ヲシテ之ニ依テ能ク働キ家ヲ富マシメ且ツ名譽ヲ得シムル樣ニ祈リ其饌ヲ取リ二片ヲ室内ニ一片ヲ屋外ニ捨ツ

(3)「**パリシト・ト・リブアヌ**」不獵ノ續キタル時武器ニ對シ此祈禱ヲ行フ。奥室大黒柱ノ下ニ武器ヲ置キ巫之ニ對シテ饌ヲ供ヘ惡靈ノ祟リニテ狩獵ヲ妨ケラルルコトナク常ニ能ク猪鹿等ニ命中シテ多獲アル樣ニ祈リ翌日出獵ス

第三　家畜ニ對スル祭祀

本族ハ古來家畜トシテ豚及犬ヲ有スレトモ祭祀ハ一般ニ豚ノ爲ニ行ヒ犬ノ爲ニハ行ハス。唯近年ぱりじゃお番中牡丹加芝來高士佛等ノ社ニ於テ犬ノ爲ニモ行フコトアリ。又ぱりじゃお番ノ南部ニ於テハ近代牛ヲ飼フニ至リ之ガ爲ニ祈禱ヲ行フコトモアリ　上記ノ祭祀ハ何レモ家祭ニ屬シ巫ヲ招キテ或ハ巫ヲ招カス其家ノ男又ハ女タル家祝ニ依テ之ヲ行フ

(一)豚ニ關スル祈禱　ハ其生兒ノ時、疾病ノ時、豚疫流行ノ時、平地ニ搬出スル時、屠殺又ハ斃死ノ時等ニ之ヲ行フ。此中屠殺ノ時ニハ何レノ番社ニ於テモ之ヲ行ヘトモ（但シ北はいわぬ番ポかリド社ノ如キニ於テハ全ク豚ニ關スル祈禱ナシ）生兒疾病ノ祈禱ハ之ヲ行フモノト行ハサルモノトアリ。又凶兆アリタル時及斃死シタル時ノ祓除及平地ニ搬出スル時ノ祈禱ハ之ヲ行フモノ甚少シ

(い)生兒ノ祈禱　「パリシ・トワ・ボアジャクアカサン」ト云フ。母豚ガ尙多クノ子ヲ生ムコト又其生ミタル

子ガ速ニ美シク且健ニ成長スルコトヲ祈ルモノニシテ概シテ出生後ニ之ヲ行ヘトモ時トシテ出産前ニ行フコトモアリ　左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ記ス（内(1)ハ安原氏他ハ小林氏ノ調査ニ係ル）

(1)**ぶつる番カザ(ぶ)ザヌ社**　ニ於テ豚ガ兒ヲ生ミタル時ハ數日ノ後家祝豚柵ノ前ニ至リ母豚及其子ニ對シ饌（饌脂饌及葉片骨）ヲ投シツツ『汝司豚ノ神ヲ祭ル。願クハホロポロポアー（豚ノ小屋）ノ内ニ於テ尙多數繁殖セシメヨ』ト祈ル

(2)**同番カザザラン社**　ニ於テ豚ガ子ヲ生ミタルトキハ男又ハ女タル家祝豚柵ノ入口ニテ饌ヲ投シ『尙多ク子ヲ生ミ繁殖セヨ』ト祈ル。殘リタル饌ハ豚ニ食セシム

(3)**北はいわぬ番リキリキ社**　ニ於テハ豚子ヲ生ミタルトキハ數日ノ後巫ヲ招キ豚小屋ノ前ニ於テ饌ヲ投シ祝シテ『豚ノ子ヨ。多量ニ餌ヲ食スヘシ。而シテ牛ノ如ク成長セヨ』ト唱ヘ後芋、蕃薯又ハ山藥諸ヲ與ヘテ食セシム

(4)**こほじ番內獅頭社**　ニ於テハ豚ノ姙ミテ將ニ出産セントスル時女タル家祝豚小屋ノ前ニ饌ヲ供シ『今汝ノ爲メニ祈禱ヲ行フ。好キ兒ヲ生メ。而シテ健全ニ成長セシメヨ』ト唱フ

(5)**はりじお番高士佛社**　ニ於テハ豚ガ子ヲ生ミタル後巫ヲ招キ其母豚及子豚ニ對シテ饌脂ヲ投シツツ『尙多數ニ蟻ノ如クニ繁殖セヨ。而シテ多ク食ヒテ速ニ美シク成長セヨ』ト祝ス

(ろ)疾病ノ祈禱　豚ガ病ニ罹リタル時巫又ハ女タル家祝ハ之カ爲ニ祭祀ヲ行ヒ其速ニ快癒シ繁殖センコトヲ祈ル。之ヲ「パリシ・トソ・サクチョア・カサン」ト云フ。別ニ式ト稱スヘキ程ノモノナシ。唯豚柵內ニ饌ヲ投シテ速ニ快癒セヨ。健全ニ爲レト祝スルノミ

(は)健康ノ祓除　牝豚ガ成長シタルトキハ巫又ハ家祝豚ヲ司ル神（[illegible]）ヲ祭リ「豚ノ身ニ附着セル

不吉ヲ去リ其速ニ成長シ且ツ能ク子ヲ生ム様ニ為ランコト』ヲ祈ル。又牝牡ヲ論セス豚ガ病ミ或ハ家人ガ豚ニ關シタル悪夢ヲ見タルトキハ巫ヲ招キ之ヲ祓フ。此等ヲパリシ・トア・ホカサン、又ハチカサン」ト云フ　内文社ニ於テハ巫豚又ハ其食器ニ對シテ饌ヲ投シテ先ツ其不吉ヲ禳ヒ豚神ヲ呼ヒ豚ノ健全ニ成長シ多ク子ヲ生ム様ニ祈ル。此祈禱ヲ行ハサレハ如何ニ好キ食物ヲ與フルモ其豚ハ肥大セスト云フ

(に)豚疫防止ノ祈禱　豚疫ノ流行スル時ハ各家ニ於テ家祝（男又ハ女ナ問ハス）又ハ巫其飼豚ニ對シ病ニ感染セサル様ニ祈ル。之ヲ「パリシ・トワ・ジャヤル、トソカサン」（番語「ジャヤル」ハ傳染病）ト云フ。チャジ・カブス社ニ於テハ「トマアジノパリシ」ト云フ「トマアジ」ノ義審ナラス　北ばいわん番チャジャカブス及ぱりじ、お番高士佛社ニ於テ小林氏ガ調査シタル所ニ依レハ此祈禱ハ家祝（チャジャカブス社）又ハ巫（高士佛社）豚小屋ニ至リ凡テ（チャジャカブス）又ハ病メル（高士佛社）豚ニ對シ饌ヲ投シ病ニ侵サレス又ハ速ニ病ヲ去リ多ク食シ美シク肥ヘヨト祈ル

(ほ)平地搬出ノ祈禱　此祈禱ハ僅ニスボン群社ニ於テ之ヲ見ル交換ノ為ニ豚ヲ平地ニ搬出スル時ニ行フモノニシテ之ヲ「パリシ・トワ・イコノリリ（豚尾）」ト云フ其豚ヲ縛シ前庭ニ置キ女タル家祝其尾毛ヲ少シク拔キ饌ト共ニ豚ニ供シ祝シテ『身體ハ平地ニ降ルトモ其魂ハ尚當所ニ留リテ子孫ヲ繁殖セヨ』ト曰フ

(へ)斃豚ニ對スル祓除　此祈禱ハ僅ニこぼじ番内文社ニ於テ之ヲ見ル。同社ニ於テ豚ガ斃レタルトキハ家族中ノ最老者ハ其屍ヲ扛キ且豚ノ居リタル場所ノ土ヲ取リ郊外ニ至リ豚ヲ埋メ其土ヲ棄テ之ニ饌脂饌敷ヲ投シ其豚ノ靈ノ歸來セサル様、又後ニ殘リタル豚ガ病マサル様ニ祓ヒ然ル後往

路トハ異ナル路ヲ通シテ歸來ス。之ヲ「パリシ・ト・ポカヤカヤム」ト云フ「ポカヤカヤム」ハ家畜ヲ司ル靈ナリ

(と屠殺ノ時ノ祈禱　本族ハ妄リニ豚ヲ屠ラス。婚姻、祭祀、和解又バチジャマ(出後ニツ)ノ時ニ之ヲ屠リ以テ靈ニ供スル犧牲トスルナリ。而シテ之ヲ屠ルトキニハ巫ヲ招キ其祈禱ヲ行フ。之ヲパリシ・ア・ツムニ・トワ・カ「ヌ」「ズマチャ」又ハ「パルグルグ」ト云フ　此式ハ諸社大體ニ相同シ。左ニこぼじ番ニ於テ聞ケル所ヲ揭ク

(1)こぼじ番內文社　ニ於テハ豚ニ對シ饌ヲ投シ「ポカサン」(祠豚神)ノ靈ヲ呼ヒ何々ノ目的ノ爲ニ此豚ヲ屠ルヘキコトヲ告ク。例ヘハ地神祭ノ場合ニ於ケル祝詞ナレハ「土地ヲ整理スル爲ニ汝ノ鳥(豚ヲ鳥トスルナリ)汝ノ柵ニ繋カレタルモノヲ屠ル』ト云フガ如シ。右畢テ男子刀ヲ取リテ豚ノ喉ヲ刺ス([illegible])

(2)同番內獅頭社　ニ於テ巫ハ先ツ豚ノ小屋ノ中ニ饌ヲ投シ此ヲ汝ニ與ヘテ食ハシム汝ニ肉ノ付キ樣ニ、而シテ其脂肉ノ厚クシテ、タジョアツ(母指ト食指トヲ伸ハシタル長サ)或ハ「チノイタイバクチ」(母指以外ノ四指ヲ並ヘタル濶サ)ニ有ル樣ニ」ト唱フ。而シテ豚ガ之ヲ食シタルトキハ小屋ヨリ引出シ其喉ヲ刺シ後之ヲ解體ス。ソレヨリ巫ハ與室ニ於テ皿ニ其肉ノ細斷シタルモノ數片ヲ載セ別ニ瓢具ニ水ヲ汲ミジャビル(草)ノ葉ヲ之ニ浸シテ肉ノ上ニ振リ掛ケ祝シ「カダオ、ナクマ子ヨ熱ノ拂ヒ湯氣ヲ除キテ吾等ノ之ヲ食スルモ害ノナキ樣ニ爲セ』ト祈ル。次ニ家族ノ一人(何人ニテモ可)ハ祭マル肉ノ少許ヲ採リ與室ノボバラアラアン(獸骨ヲ架ス)ノ前ニテ之ヲ俎上ニ陳シテ細切シ一々其ニ酒ヲ少シヅツ振掛ケ且餅ノ小片ヲ加ヘテ巫ニ與フ巫ハ之ヲ俎上ニ陳設シ祝シテ「ホモマルニ在ル祖靈ホモマクヨリ來リタル諸々ノ祖靈。而シテ我等社神ノ靈及家神ノ靈ヨ。今汝等ニ此等ノ肉ヲ捧ケン。願クハ我等社民

メシテ常ニ健全ニシテ且ツ強勇ナラシメンコトヲ」ト唱フ（小林氏調査）

（附記）「パチジャマ」ノ式　北ばいわ番ノ南部及こぼじ番ノ諸社ニ於テハ毎年二三月頃即時ハ々ル芋ノ盡キントスルトキ各戸其家ニ飼ヘル豚ヲ屠ル。此ノ場合ニハ豫メ酒ヲ作リ置キ當日番丁等ハ「モレラブラブ」ト稱シ各戸ヲ飲廻ル。豚ヲ屠リタル家ニ於テハ頭人及他社ニ在ル親族知友ヲ招キ盛ニ飲宴ス。豚ヲ屠ルハ各家其日ヲ異ニセルヲ以テ今日ハ甲ノ家又明日ハ乙ノ家ト數日打續クヲ常トス。此豚肉ハ之ヲ他人ニ賣ルコトヲ忌ミ食シテ殘リタルハ鹽漬トシテ貯フ

「パチジャマ」ノ時ニモ各家受持ノ巫ヲ招キ「パルクヽルクヽ」ノ式ヲ行フ。此日各家ノ豚一頭ニ付キ前肢ノ左一本ト左脇皮ヲ取リ之ニ茅纒ノ團子六箇（豚ノ腸肉、乾芋ノ粉ヲ混セ水ニ捏ネテ茅ニ包ム約二三寸長）及餅（約六寸位）三箇ヲ添ヘタルヲ巫ニ送テ謝ト爲ス

(3) **ぱりじゃお番高士佛社**　ニ於テハ家族ノ一人（長男及末子ヲ除ク）豚ノ喉ヲ刺ス。而シテ之ヲ食臺（番語「カナヌ」）ニ載セテ前庭ニ置キ巫之ニ對シテ饌脂ヲ投シ祝シテ曰ク「今多クノ豚ノ中ヨリ一ヲ撰ミテ之ヲ屠リタリ。其肥ヘテ肉多ケレハ人ハ喜フナラン」ト。次ニ之ヲ解體シ其肝及肺臟ノ少許ヲ煮テ之ヲ小豆程ノ大サニ細切ス。巫之ヲ持シテ先ツ奥室ノ土間ニ數片ヲ供ヘ次ニ入口ノ屋上ニモ供ヘツヽ祝シテ「今豚ヲ屠リテ其肝及肺ヲ以テ家内ノ神及我等ノ祖先ノ靈竝ニ禁地ニ在ス靈ニ供ス願クハ我等ヲ保護シ且ツ豚ヲ屠リテモ直ニ繁殖セシメヨ」ト祈ル

（二）牛及獵犬ニ關スル祭祀

（い）牛ニ關スル祈禱　近年ぱりじゃお番高士佛、加芝來等ノ諸社ニ於テハ牛ノ兒ヲ生ミ又ハ疫病ニ罹リタル場合ニ豚ニ準シテ祈禱ヲ行フコトアリ之ヲ「パリシ・トア・ゴン」ト云フ

(ろ)犬ニ關スル祈禱　近年ぱりじゃお番高士佛、牡丹ノ諸社ニ於テ犬ノ祖先ヲ祭リ獵犬ヲシテ狩獵巧ナル樣ニ祈禱ヲ行フコトアリ。牡丹社ニ於テ其祝詞ハ之ヲ直譯スレハ彼ノ犬ノ發祥地タル彼ノゴロジャヌ(鯉牛山)ヨリ我等ノ祖先ハ其所ニ往テ捕ヘ此所マテ持來シソレカラ子ノ生ミ子ガ又子ヲ生ミ次第ニ繁殖シ此ニ盛ニ狩獵ヲ行フ樣ニ爲リタリ。今此ニ汝犬ノ祖先ヲ祭ル願クハ汝ノ子孫タル此犬ヲシテ怜悧ニ能ク野獸ヲ捕ヘ得ル樣ニ爲セト

第九項　すかろ部落ノ祭祀

ぱりじゃお番中すかろニ屬スル部落ノ祭祀ハ唯猪朥束社ニ於テ調査シタルノミ。他ノ部落ニ於テハ今日殆ト古來ノ慣習ヲ失ヒ之ヲ記憶スル者ナシ。又猪朥束ニ於テモ唯粟ノ播種收穫ニ關スルモノ及男子ガ成年ニ達シタル時ノ祭祀ヲ調査シ得タルノミ。元來すかろハパリシ嚴ナルニ拘ハラス今日ニテハ殆ト廢シテ僅ニ左ノ二ヲ殘スノミ

第一　粟ニ關スル祭祀

すかろ部落ニ於テ主祭ハ男女各一名アリ。ぱいわんノ如ク之ヲパノカジャイト云フ。現時猪朥束社ニ於テ男祝ハ頭人ガルジグジ家ノ當主ニシテシンヤヨルト云ヒ女ハクルバイ家ノ當主ニシテヨマイト云フ。ガルジグジ家ハ代々男タル長子、クルバイ家ハ代々女タル長子其家ヲ繼承ス

(一)播種祭　「パチャラパリシアヌ」ト稱ス。粟ヲ播種スル前ニハ頭人先ツ夢ヲ試ム。其最モ好キ夢ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ全社民ニ通知シ一同頭人方ニ集ル。翌早朝男女ノ兩祝祭畑ニ至リ靈ニ僅ノ供シ今ヨリ直ニ播種ニ従フヘキ旨ヲ告ケ其保庇ヲ祈リ後少シク播種シテ歸ル。此ヨリ社民一同播種ニ從フ

(二)收穫始祭(アシクミ)　男祝(頭人)先ツ夢ヲ試ミ夢吉ナルトキハ女祝ト共ニ祭畑ニ赴キテ粟ノ穗ヲ少シク刈來ル。從テ全社收穫ニ從フ　收穫ヲ終リタル後男祝親シク山ニ赴キ其新粟一株ヲ隱シテ歸ル。是粟ハ大切ニシテ空費スヘカラサルノ義ナリトソ

(三)收穫後祭　クマジカジュー」ト云フ。粟隱シノ後十日ヲ經テ一同酒餅肉等ノ饌ヲ具シ祭場(「カシャカシャパヌ」又ハ「イパリシアヾ」ト云フ)ニ集リ兩祝先ツ祖靈ヲ呼ヒ饌ヲ供ス。而シテ本年ノ豐作ヲ謝シ『サテ此收穫シタル粟ハ婦女小兒ヲシテ空費セシメサルガ故ニ明年モ亦豐ニ粟ヲ與ヘ給ヘ』ト祈リ次ニ輔佐役家以下社民一同同樣ノ式ヲ行ヒソレヨリ射的(番語「イチャラウ」)ヲ試ミ後歸テ頭人方ニ集リ飲宴歡ヲ盡ス　翌日各家ニ於テ其祖靈ヲ祭ル「クマジブ・ト・バクラ」(祭矢)ト云フ　其翌日全社一同祭場ニ集ル。兩祝社民ノ爲ニ疾病ヲ禳フ。之ヲ「イサ、ルクム」(元氣附ク義)ト云フ。昔時ハ全社此日ニ火ヲ改メタリト云フ。了テ壯丁一同狩獵ニ赴クコト二日。壯丁等獵ヨリ歸來セハ一同祭場ニ集リ「ノサオ」(送靈式)ヲ行フ。先ツ榕樹及柚仔ノ葉ヲ以テ家內ヲ拂ヒテ外ニ出テ榕樹ノ葉ヲ家ノ入口ニ挿ス。是靈ノ家ニ留ルヘカラス又再ヒ入來ラサル爲ニスルナリ。壯丁一同槍弓矢其他ソレソレノ武器ヲ持シ大聲ニテ「オーオー」ト叫ヒツツ(番語「プナナン」)走テ社外ニ至リテ歸ル。是蓋シ靈ヲ送出スノ意ナリ　其翌日兩祝及老番等小豚一隻ヲ持シ禁林(番語「リズカス」)ニ至リ其足ヲ折リ之ヲソコニ置テ歸ル。之ヲ「シタブタブン」(贖罪ノ義)ト云フ。以テ社民等ノ不知不識ノ間ニ犯シタル罪ヲ償フナリ

第二　人ニ關スル祭祀

疾病ニ關スル祈禱ハ巫之ヲ行フ。調査セサルヲ以テ之ヲ省ク　出生後ニ關スル祭祀今之ヲ行フモノナシ　唯男子十六歲ニ爲リタルトキ豚ヲ屠リ巫ヲ招キ之ヲ祝ス。イサスオカジャイ(男ト爲ルノ義)ト云フ

第四款　雜　項

第一項　禁忌

第一　總說

既ニ述ヘタルガ如ク本族ノ間ニハ幾多ノ禁忌アリ。例ヘハ此地ハ神ノ所在スル所ナルガ故ニ立入ルヘカラス。又彼ノ事ハ靈ノ禁スル所ナルガ故ニ戒メサルヘカラスト云フガ如シ、人若シ故意又ハ過失ニテ之ヲ犯ストキハ忽靈ノ譴怒ヲ受ケ災害ニ罹ルコトヲ免レス。本族ノ慣習ハ其大半此禁忌ヨリ成リ禁忌ハ宗教的信情タルト同時ニ社會ノ法制タルモノトス

禁忌ハ番語ニテ之ヲ「パリシ」（るかい番ニ於テ「トアリシ」、上さりせぬ番ニ於テ「パイシーシ」）ト云ノ、即祭祀ト其語ヲ同クス、是既ニ述ヘタルガ如ク「パリシ」ハ本來禁忌ヲ意味シタルモノナルモ祭祀ニハ必ス此ノ禁忌ヲ伴フヲ以テ終ニ此語ヲ以テ祭祀ヲモ表スルニ至リシナルヘシ

本族ノ禁忌ハ其數甚々多クシテ各般ノ事項ニ亘ル。今左ニ條ヲ分チ其梗概ヲ擧クヘシ

第二　動植物及火ニ關スル禁忌

（一）動物ニ關スルモノ

（い）蛇類ヲ殺スコト　本族中ニハ之ヲ禁忌スルモノ甚多シ左ノ如シ

(1)**はいわん番**　ニ於テハ一般ニ之ヲ禁忌シ特ニ「パーロン」ト稱スルモノ（百歩蛇）ヲ畏敬シ之ヲ以テ祖先ノ兄弟ナリトセリ（傳説ノ部參照）

（附記）阿緱廳元警部大場善太郎氏ガ曾テククスクス社駐在所ニ在リタル時此「ブーロン」ナル毒蛇ガ宿舍ニ現レタルヲ以テ之ヲ撲殺シタルニ之ニ因リテ社民ノ物議ノ招キタルコトアリ　又

草埔後駐在所詰藤島警部補ハ之ヲ殺シテ牙ヲ取リタリトテ社民ハ數日間駐在所ヘ近寄ラサリシコトアリ　牡丹路駐在所上原巡査ハ之ヲ殺シタル後數日ニシテ病ニ臥シタリシカハ番人ハ之ヲ以テ蛇ノ祟ナリトセリ　余ガ大正二年調査ノ爲ニ内文社ニ出張シタル頃ハ此迷信餘程減シ居リテ番童等其住家ノ附近ニテ此蛇ヲ見付タリトテ之ヲ捕ヘテ駐在所ニ持來リ殺シテモラヒタルヲ見タリ　ぱりじゃおノ南部ニ於テ「ブーロン」ガ家ニ入レハ『速ニ出テヨわみ又ハ土人ニ見付ケラレナハ殺サルヘシ』トテ之ヲ逐出スト云フ

然レトモ若シ此等ノ毒蛇ニ咬マレタルトキハ之ヲ殺スモ差支ナシ。又之ガ爲ニ死シタル場合ニ其遺族ハ復讐トシテ若干隻ヲ捕殺シテ之ノ禁地ニ埋ム。然ラサレハ其家族ハ再ヒ同難ニカカルヘシト云フ。而シテ捕殺スヘキ數ハこぱじ番ニ於テハ五隻ナリト云ヒ北ぱいわん番チャジャカブス社ニ於テハ三隻ナリト云ヘリ

(2) **きりせぬ諸番**　ニ於テハ多ク蛇ヲ殺スコトヲ禁忌セス。唯ぶつる番タラバリジ社方面ニ於テハ「カマバナス」(太キ蛇ニテ鎌首ヲ立テ「カノカラ」ト鳴クト云フ。蓋シこぶらノ一種ナルヘシ)ガ路ニ出テタルトキハ祖先ノ靈ガ父母兄弟ヲ戀ヒテ來レルモノトシテ之ヲ殺サス若シ之ヲ殺サントセハ却テソレニ咬着カルヘシト云フ。サレト其蛇ガ家ニ入リタル時ハ之ヲ殺スモ妨ナシトス

(ろ)猴ヲ殺スコト　ヲ禁忌スル番社少カラス

(1) **はいわん三番**　ニ於テ猴ハ祖先ノ兄弟ノ化シタル者ナリトノ迷信アリ。就中ぱりじゃお番ニ於テハ全ク之ヲ禁忌スト雖モ他ノ兩番ニ於テハ殺スコトハ忌マサルモ其肉ヲ食スルコトヲ禁セリ

(2) **きりせぬ四番**　ニ於テハ之ニ付テ禁忌ナシ。唯ぶつる番ノ南方ニ於テハ懷妊中ノ婦人及其夫ノ

ミ其肉ヲ食スルコトヲ禁シ若シ之ヲ犯セハ猴ニ似タル子ヲ生ムヘシト云ヘリ

(は)豹ヲ殺スコト　本族中之ヲ禁忌スル者少ナカラス。就中るかい番及ばりじお番ノサブデク群社ニ於テハ豹ヲ以テ古代祖先ヲ導キテ現社ノ地ニ至リタル霊獣ナリトシ各々之ヲ殺スコトヲ禁シ若シ之ヲ犯セハ其者必ス身體震顫シテ死スヘシ(るかい番ニ於テ)或ハ血ヲ吐テ死スヘシ(サブデク群社ニ於テ)ト信セリ。ぶつる番及ばいわん三番(サブデク群社ヲ除ク)ニ於テハ祖先ニ刺墨ヲ教ヘタルノ霊獣ナリトシ亦之ヲ殺スコトヲ禁忌シ若シ誤テ殺シタル時ハ之ガ為ニ祈禱ヲ行ヒ其罪ヲ謝セサルヘカラサルモノトセリ。然レトモ豹ノ皮ハ其價高ク之ヲ土人ニ賣ルトキハ利ヲ得ルコト多キヲ以テ此禁近年ニ至リ漸ク弛ミ之ヲ捕獲スルモノヲ生セリ。サレト尚其靈ノ祟リヲ恐ルルガ故ニばりじお番ニ於テハ之ヲ射殺シタル者ハ自ラ其皮ヲ取ラス未タ出草セサル少年ヲシテ之ヲ取リ平地ニ持行キテ土人ニ賣ラシメ又こぼじ番ニ於テハ之ヲ殺シタルコトヲ敵ノ首級ヲ得タルニ準シテマカジノ祭ヲ行フ。北ばいわぬチャジャカブス社ニ於テハ今ヤ之ヲ禁忌セスト雖モ唯其肉ヲ食スルコトヲ忌ムト云フ　らばる番ニ於テハ豹ヲ殺スコトヲ禁忌セス。然レトモパリラヤス、トバサバサイ等ノ群社ニ於テハ皮ヲ剝クヘカラス必其儘ニ埋ムヘシ若シ之ヲ犯セハ直ニ死スヘシト云ノ又上パイワッ社ニ於テハ皮ヲ取ルハ差支ナシト雖モ骨及肉ハ必小豚ト共ニ埋ムヘシ然ラサレハ祟ヲ受ケテ手足ノ自由ナラサル病ニ罹ルヘシト云フ

(に)鷄ヲ飼養スルコト　るかい番及ばいわん三番ニ於テハ古來之ヲ禁忌セリ。即るかい番ハ曰ク「曾テ祖先ノ時代ニ之ヲ飼ヒテ死人多ク出テタリ」ト。ばりじお番ハ曰ク「古代雞ノ爲ニ不祥ノ事件起リタリ」或ハ曰ク「曾テ本族ノ或番社ガ清軍(又ハ漢人トモ云フ)ニ討伐セラレ山中ニ逃入リタル時其飼養セル雞ガ

鳴ヽタルヲ以テ敵ノ爲ニ自己ノ所在ヲ知ラレ其攻撃ヲ受ケタリ故ニ之ヲ禁忌ス』ト云ヘリ

(三)植物ニ關スルモノ

(い)米　らばる、上さりせぬノ兩番ハ古來陸稻ヲ排作シ又ぱりじゃお番ノ中ニハ既ニ土人ニ倣ヒテ陸稻(サンデク群社ニ於テ)又ハ水稻(加芝來、牡丹兩社以南)ヲ作レリ。此二者ヲ除ケハ本族ハ一般ニ米ヲ忌ミ之ヲ畑ニ播シ又ハ屋内ニ入ルコトヲ禁シ若シ之ヲ犯セハ粟神ノ怒ニ觸レテ凶作ヲ來スヘシト云ヘリ　然レトモ近時此禁忌漸ク解弛シ米ヲ社内ニ入ルモ不可ナシ、唯住屋内ニ入ルヘカラスト云ヒ前庭ニ別ニ炊事場ヲ設ケテ土人ヨリ買入タル米ヲ炊クニ至レリ。サレト粟ノ祭祀ヲ主ル者ハ仍ホ米ハ勿論米ヨリ製シタル土人ノ酒ヲモ之ヲ口ニセサルモノトセリ。故ニ此等ノ者ガ平地ニ降ルトキハ食物ヲ携帶スルヲ常トセリシガ此風モ亦近時漸ク廢頽シ僅ニ粟ノ播種及收穫中ノミ此ノ禁忌ヲ守ルニ過キサル者アリト聞ク

(ろ)畢茅　番人間ニハジャビヤト稱スル茅ハ以テ邪氣ノ禳フヘシトノ信念アリ。從テ(一)出草、狩獵其他旅行ヨリ歸來セル時ハ部落ノ入口ニ於テ此茅ノ穗先ヽヲ結合セテ其上ヲ跨越ヘ又ハ一周シテ後ヲ顧スシテ社内ニ入ル。(或ハ火ヲ焚テ其上ヲ越ヘ又ハ一週ス)是他所ヨリ隨來レル惡靈ヲ阻止シテ之ヨリ内ニ入レサル意ナリ(二)傳染病流行ノ時ニモ亦社ノ入口ニ茅ノ插シ厲鬼ノ社内ニ入ルヲ防ク(番社ニ依テハ他法ヲ用ヰルモアリ)(三)出草シタル時敵ヲ斬リタル血ガ己ノ身ヲ汚シタルトキハ茅ヲ以テ其不淨ヲ祓フ者アリ

(は)生麻　出草・狩獵・粟ノ播種及收穫中ハソレニ從フ者ハ勿論家ニ在ル家族等ハ一切生麻ニ觸ルルコトヲ禁忌ス。從テ麻ヲ績ミ布ヲ織リ衣ヲ縫フ等ハ一切之ヲ戒メテ爲サス。若シ之ヲ犯ストキハ外ニ在ル者行動ノ自由ヲ缺キ負傷スヘシト云フ

(に)芭蕉及柑橘類　此等ハ本族固有ノ植物ニ非ス。從テ之ヲ家內ニ入ルルトキハ家內ニハ祟アルヲ以テ其靈ノ怒ニ觸レ不作ヲ來スヘシト云フ。然レトモ此禁忌漸ク弛ミ唯出草、狩獵及粟ノ播種、收穫中ノミ之ニ觸ルルコト、又粟酒ヲ作ル時ノミ之ヲ家ニ入ルコトヲ得ストセリ

(ほ)其他　番社ニ依リテ或木ヲ伐ルコト又ハ或木ヲ燒クコトヲ禁忌セリ。例ヘハぶつる番カピヤガヌ社ニ於テハ「ガグムヅ」(蔓草ノ名)ハ伐ルヘカラス。之ヲ犯セハ手足利カサル樣ニ爲ルヘシ又チクハン(其幹太シ)ハ伐ルヘカラス。之ヲ伐ラハ腫レ病ニカカルヘシ。「ジャウル」(木名)靈ノ宿スルモノナレハ之ノ伐ルヘカラス。若シ犯セハ病ヲ得ヘシト云フ　又カザザラヌ社ニ於テハ「ルミチン」(針ノ如キ疣アリ鳥サヘモ宿セス)「マナク」(山椒)ヲ燒クヘカラス。若燒ケハ生兒ノ身ニ麻疹ノ如キモノ生スヘシ。「アナホト」ヲ燒クヘカラス若燒ケハ目赤ク爛ルヘシ。「ラリ」又ハ「アルマ」等ノ木及ジスブル(葛ノ一種)ハ燒クヘカラス。若之ヲ燒ケハ鍋コワルヘシト云フ　又一般ニ煙草ハ禁忌ノ地、祭屋ノ內又ハ靈欄ノ前ニテ之ヲ喫スルヲ禁セリ之ヲ犯セハ神靈ノ怒ニ觸ルヘシト云フ

(三)火ニ關スルモノ　煙ハ以テ人及野獸ノ靈ヲ招來スヘシト爲ス。卽チ「ツンプシ」ト云フハ粟又ハ茅ノ莖ヲ燒キ以テ靈ヲ呼寄スル義ナリ(人靈ニ對シテハ多ク粟ヲ焚キ獸靈ニ對シテハ多ク茅ヲ用ユ)　又燃火ハ以テ不淨ヲ淸ムヘシト爲ス。卽チ刀又ハ銃器ガ不淨ニ逢ヒタルトキハ粟莖ヲ燃シ其等ニ附著セル不淨ヲ驅ヒ去ル　燃火ハ以テ惡靈ヲ威シテ之ヲ防クヘシト爲ス故ニ出草ヨリ其他平地ノ土人部落ヨリ歸來セル時ハ山麓若ハ社ノ入口ニ於テ粟莖ヲ燃シ之ヲ跨越ヘ又ハ三周ス。然ルトキハ其身ニ附從シ來レル惡靈ハ火ヲ恐レテソレヨリ內ニ入ラスト云フ　「パバリツ・ト・サプイ」(火ヲ改ムノ義)ハ社內ニ變死者ノ生シタル時ハ社神祭ヲ行ヒタル後各戶火ヲ消シ頭人ノ家ニ於テ新ニ木鑽ヲ鑽テ新火ヲ作ル又番社ニ依リテハ

(下パイリス社ノ如シ)粟苗ノ時ニハ事故ナキモ尚火ヲ改ムルモノアリ　凡テ粟稗ノ播種若ハ收穫中又ハ出獵出草ノ留守中ハ火ヲ大切ニシテ之ヲ絶ヘサス且ツ其間ハ之ヲ人ニ貸與スルヲ忌ミ若シ之ヲ犯セハ其農作狩獵又ハ出草ニ凶ナルヘシト云フ

第三　土地ニ關スル禁忌

(一)總說　番界ニハ屢靈ノ棲息スル處ト稱シテ其內ニ立入リ又ハ其內ニ在ル樹木ヲ伐採スルヲ禁忌スル地アリ。總稱シテ「パリシア」ト云フ。其深林ヲ爲シタル所ハ一般ニ之ヲ「ジナウジ」ト云フ卽チ番界ニ於ケル自然ノ保護林ナリ

(二)禁地ノ名稱　禁地ニシテ特別ノ名稱ヲ有スルモノ甚多シ。今其重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(い)「キニジかヌ又ハ「ヒナバブカサ」　祖先々ル頭人ノ始メテ部落ヲ開キタル地ハぶつる番ニテピナバブカサ　ぱいわ三番ニテ「キニジかヌ」ト云フ

(ろ)「ジルム又ハ「チジャノカダオ」　大木多ク其傍ニ赤キ水ノ常ニ出ツル濕地ヲ云ノ。ジルムノ語ハ重ニぶつる番ニ、チャジャノカダオ(太陽ノ井ト云フ義)ハぱいわ三番ニ用キラル。此所ニハ悪靈ノ部落アリト爲ス

(は)「リツかヌ」　ハ產死者變死者等ノ靈ノ居住スル林地ヲ云ノ。又此所ニ居ル靈其者ノモ云ノ

(に)「ラブツ」　双生兒ヲ埋メタル所ヲ云フ

(ほ)「プスカマ」　死者ノ生前用キタル月桃蓆ヲ棄ツル所

左ニ二三ノ番社ニ就キ調査シタル禁地ヲ擧ク

(1) ぶつる番クワルス社　ニ於テ所謂禁地ナルモノヲ聞クニ

(A) 大武山中　ニ於テハ　バラシジャヌ(北大武山ノ頂上ニシテ此所ニサタカラウス卽天神ノ家アリ)　カザギザノ(南大武山ノ頂上ニ在リ)トブクロイ

（南北大武山ノ鞍部ニ在リ）トス

(E) **舊社趾** 即イナラン・クラルツハ禁地ニ非ズ。サレトモ祖先ノ住シタル跡ナルヲ以テ禁忌嚴ニシテ全ク米・米酒・生麻・煙草及「サマク」（野菜ノ名）ヲ持入ルコトヲ禁ズ。而シテ此地内ニテ特ニ禁地ト云フハラブナブサム（舊時種粟ノ祈禱ヲ爲シタル所）パリシノアムチ（首祭ヲ爲シタル所）及ポアジャアジャアマナアタオノ二所トス

(C) **現社内** ニ於テハタラテキ家ノ舊屋ヲ禁地トス。今ハ人住マズ室暗シ。火ヲ點シテ物ヲ見ルトキハ雷鳴ヲ聞クト云フ。雷烈シキ時パブスン家ノ當主タル祝（タラテキ家ノ裔）此所ニ來テ祈禱ス。ソハ當家ノ祖神ガ大武山ニ上テ雷ト爲リタルニ因ルト云フ

(D) **其他** 當社ノ地域内ニ於テラブッ（双生兒ヲ埋メタル地）リヅカズ（變死者アリタル所）等ヲ禁地トス

(2) **北ぱいわぬ番クナナオ社** ニ於テ イチャシチラルン（内社ニ近ク方）或社民ハ曾テ夢ニ此林内ニ靈ノ部落アルヲ見タリト云フ チャリグヅグヅ（チカタンヘノ方面）是曾テ清國時代ニ銀鑛アリトテ開鑿シタル地ナリ。古代當社ノ頭人デンチャヌ家ノ女ガ大蛇ト婚シテ子ヲ生ミタルトキ此山ヨリ虹サシ來リ蛇及子ヲ伴ヒテ歸レリ。ソレマテハ雨ナク作物枯レ又社民多ク死シテ困リ居リシガ右ノ虹ガ來去リテヨリ雨降リ穀物蘇生セリ。爾來此地ヲ以テ靈地トシ以テ今ニ至ル イカルヅムモチ（當社ノ東ノ方ニ在リ）ノ山頂ハ五年祭ノ時祖靈チャジャカブスヨリ迂回シテ來リ茲ニ休息ス。即神靈ノ路ナル故ニ禁地トス ポカロアヌハ敵ニ馘首サレタル者ノ死體ヲ埋ム所 ソアラブハ産死シタル婦女ヲ埋ムル所 イチョリバク池ハ昔シ番丁二人茲ニ釣ヲ垂レタルニ小兒ノ胸掛布・脊負帶及腰卷等ノ衣類ヲ釣上ケ最後ニ小兒ヲ釣擧ケタルニ其小兒尚活キ居リシカバ兩人恐レテ靈ト爲

シ歸テ豚ヲ屠リ池ニ供セリ。然ルニ其番丁ハ家ニ歸リテ死シタリ社民因テ此池ヲ禁地トセリ。ナジャノカダオハ此所ニテ水ヲ汲ムハ可ナルモ不淨ノ行爲ヲ爲スヘカラス又其周圍ヲ開墾スルハ可ナルモ其附近ニ在ル材木ヲ損スヘカラスト云フ

(3)**こぼじ番マリパ社**　ニ於テハチャウラウラル(深林中ニ大ナル樟樹其幹ノ周約二丈程アリ)チャルバ及チロカガト(深林中ニ在リ大木多ク水常ニ湧出シ赤チ帶ノ水)ヲ以テ禁地トス

(4)**はりじお番牡丹踏社**　ニ於テハジルム(赤水ノ湧出ツル林地)リヅガス(變死者ヲ埋メタル林地)及イナヂスラボヤイナババヤナ(共ニ産死シタル所)等ヲ禁地トス

(三)禁地ニ對スル祈禱　禁地ニ立入リ又ハ其中ニ在ル水ヲ飲ミ若ハ樹木ヲ伐株シ爲ニ其地ニ在ル靈ノ怒ニ觸レ疾病ヲ惹起シタルトキハ巫ヲ招キ祭ヲ行ヒ靈ニ對シテ其罪ヲ謝セサルヘカラス。之ヲ「ツマブン・トソ・ツマシ」(靈ニ賠償スル義)ト云フ此ハ既ニ前款中人ニ關スル祭祀ノ部ニ於テ說ヘタル所ナリ

近時番人ノ禁地ニ對スル畏敬ノ感ハ漸ク廢頽セントシ其禁忌ノアマリ嚴ナラサル林地ハ之ヲ開テ畑ト爲ス者アルニ至ル。ぱりじ、お番ノ南部ニ於テ特ニ此ノ傾キアリ

ぱりじ、お番高士佛社ニ於テ禁地ノ木ヲ伐リ又ハ開墾シタルトキハ左ノ祭祀ヲ行フ(小林氏調査)

(1)**樹木ヲ伐リタルトキ**　禁地ニ於テ建築ニ必要ナル木ヲ伐出ストキハ「パリシ・トソ・パツボガス」(「パツボガス」ハ出會スルノ義ナレト此所ニテハ其意ヲ解セス)祈禱ヲ行ヘハ祟ラルルコトナシ　其法伐リタル木ヲ庭前ニ集メ巫之ニ對シテ豚脂ヲ投シ「此木ハ彼處ノ禁地ヨリ持來リタリ。善惡ヲ知ラス我等ハ誤テ之ヲ伐リ來リタルナリ。禁地ノ靈即汝凶死者ノ死靈ヨ。汝等ハ此木ト共ニ此處ニ來リタルナラン。若シ此木ノ内ニ汝ノ好ム木アラハ速ニ持去レ。然ラサレハ此饌ヲ食ヒテ直ニ去レ」ト稱フ

其一　北ばいわぬホガリド社ノイカダブン



其二　北ばいわぬ番チャジカブス社ノ「シナウル」



(ニ)**禁地ヲ開墾シタルトキ**　ハ其地主タル頭人男女ノ番祝ヲ作ヒ其地ニ至リ之ヲ祓フ之ヲバリシ・トア・バイシジーザオート云フ、男タル正祝先ツ其地ノ中央ニ石板石三箇ヲ立テ小祭屋（番語「バイシジャーザオー」）ヲ作リ次ニ男副祝餅少許ト酒ニ竹筒ヲ供スレハ男主祝豚骨豚脂ノ小片ヲ祝シテ曰ク従來此所ニ在リタル諸多ノ靈ヨ。我等ハ汝等ノ住所ヲ開キテ畑トシタリ。然レトモ是何レモ汝等ノ子孫ノ爲ニナシタルモノナルガ故ニ怒ルコトナカレト稱ス。爾後此祭屋ノ祭ルコトナシト雖モ其附近數尺ノ地ハ之ヲ耕スコトナク又不淨ノ物ヲ近クルコトナシト云フ

第四　首狩、狩獵及農作ニ關スル禁忌

(一)出草及出獵ニ關スル禁忌　此二ツノ禁忌ハ大體ニ於テ相同シ。故ニ之ヲ合說ス

(い)出草者又ハ出獵者自身ニ關スルモノ　前日ヨリ禁忌ヲ始ムルコト留守者ニ同シ此ハ次ノ(ニ)ノ内ニ掲クヘシ　出發ノ前夜ニハ婦女ト合衾スルコトヲ禁ス（但シ之ヲ忌マサルモノアリ、るかい番タデル群社ノ如シ）又出發ノ朝孕婦ト言語ヲ交フルヲ得ス。月經ノ婦女ニ觸レラルルコトヲ忌ム。若シ此等ヲ犯セハ武器利ナラス獲物ヲ逸スルノミナラス不測ノ禍ヲ受クヘシ　途中ニテ嚏スヘカラス。恐クハ敵又ハ獸ヲ逸セン。故ニ若シ一行中嚏シタル者アルトキハ凡テノ銃及刀ヲ祓ハサルヘカラス番社ニ依テハ其嚏ノ爲シタル者ノミ引返シテ再ヒ出直スコトヲ要ス（或ハ携帶スル行櫃ヲ棄テ以テ出直シタル意味ト爲ス者モアリ）前夜ノ夢カ凶ナルトキハ其行ニ加ルヘカラス。途中凶兆ニ逢フトキ即蛇、山猫ガリ（狸ノ一種）又ハ鼠等ニ路切ラレ又ハ鳥啼ノ惡シキニ逢ヒタルトキハ強テ前進スヘカラス。一旦引返シテ出直スコトヲ要ス。若シ此等ノ禁ヲ犯セハ不測ノ禍ニ逢フヘシ　途中出草者又出獵者ニ逢ヒタル人ハ之ニ對シテ決シテ其用向及目的地ヲ問フヘカラス。恐クハ敵及鳥獸ヲ逸スヘシ。故ニ其問ハレタル者ハ一旦引返ササルヘカラ

マ゛ぶつる、るかい及ぱいゝわ諸番ニ於テ粟ノ穂ヲ出シタル時ヨリ「マサルト」（收穫後祭）ノ終ル迄ノ間出草又ハ出獵ヲ爲スコトヲ禁ス

(ろ)留守者ニ關スルモノ　出草及出獵ヲ爲シタル者ノ家族ハ其出草及出獵ノ前日ヨリ禁忌ヲ始ム。

卽　針・生麻・織機ニ觸ルヲ禁ス。こぼじ番ノ一部ニ於テハ月桃草ヲ扱フヲモ禁セリ。若シ之ヲ犯セハ現ニ出草シ出獵シアル本人ノ銃器破裂スルコトアルヘク然ラサルモ其銃丸命中セサルヘシ　又留守中ハ芭蕉・蜜柑・甘蔗（何レモ異族ヨリ移入シタルモノ）及魚類ニ觸レス。勿論之ヲ口ニセス。芋・瓜・豆類等地下ニ埋ムル植物ヲ植ヘス。米又ハ粟ヲ搗カス（スボン、コリバル兩群ニ於テハ米及米酒ヲ食スルコトヲモ禁ス）畑ノ除草ヲ爲サス。屋ノ内外ヲ掃除セス。尙ぼりじ、お番ノ一部（高士佛社ノ如シ）ニ於テハ晝間其家ノ戶ヲ閉スコトヲ禁ス。若シ上記ノ禁忌ヲ犯セハ出草者又ハ出獵者ノ行動自由ヲ缺キ獲物ヲ得サルノミナラス負傷スルコトアルヘシ

以上ノ禁忌ハ本人ノ歸來スルマテ本人ハ勿論留守居ノ者之ヲ守ルコトヲ要ス。　其他留守者ハ火ヲ守リ之ヲ絕ヤスヘカラス他人ニ之ヲ貸スヘカラス。人ト物ヲ交換スヘカラス人ニ物ヲ與フヘカラス但シ人ヨリ物ヲ受クルコトヲ禁セス

(三)農作ニ關スル禁忌　ハ既ニ農作ニ關スル各祭祀ニ付テ散說シタル所ナルモ玆ニ其槪要ノ一括シテ說述スヘシ

粟稗ノ播種、收穫及除草中ハ魚、牛、米、米酒（但シ上ざりせぬ及らばる兩番ハ米及米酒ヲ禁セス）ヲ食スルコトヲ得ス。之ヲ犯セハ粟神ノ怒ニ觸レテ其收穫少シ。近時此禁忌漸ク弛メリ　上さりせぬ、らばる及ぱりじ、お番ヲ除キ他ノ番社ニ於テ巫及粟ノ主祭者ハ如何ナル場合ニ於テモ米、米酒及牛肉ヲ口ニスヘカラス。然ラサレハ新禱其効ヲ奏セス。然レトモ近時ハ此禁漸ク解弛シ唯祭日ノミ魚及米ヲ口ニセス但コワバル、リ

キリキ兩群社ニ於テハ一家ノ主祭タル女尊長ハ今仍固ク此禁ヲ守レリ

粟ノ收穫中他人ノ其畑ニ入ルコトヲ忌ム。若シ之ヲ犯ス者アルトキハ其者ヲシテ是非手傳ハシム。

又粟ノ播種收穫中ハ他人ニ物ヲ與ヘ又ハ他人ト交換若クハ貸借ヲ爲スコトヲ得ス。但シ單ニ他人ヨリ贈與ヲ受クルヲ禁セス。家內ヨリ掃出サス。塵ハ之ヲ一隅ニ置キ祭了テ之ヲ棄去ルヘシ。此等ハ何レモ其福分ヲ他ニ取ラルルコトヲ恐ルル故ナリ　ざりせ奴諸番ハ粟ニ關スル祈禱嚴ニシテ其播種及收穫中ハ他社トノ交通ヲ禁ス。此モ亦農作ノ幸ヲ失ハンコトヲ恐レテナリ

凡テ粟ノ花ヲ開キタル時ヨリ收穫ヲ了ルマテハ豚ヲ屠ルコトヲ禁ス。從テ豚ヲ屠ルノ必要アル祭祀祈禱ハ之ヲ行ンコトヲ得ス。又此間ハ出草又ハ狩獵ヲ爲スコトヲ禁ス。是若シ死傷者アリタル場合ニ粟ノ祭祀ヲ行フコト能ハサルニ因ルナリ　粟ヲ收穫スル前若干日ハ茅其他ノ草ヲ刈ルコトヲ禁ス。若シ之ヲ犯セハ暴風起ルヘシ　粟ノ收穫中唾又ハ水浴ヲ爲スコトヲ禁ス。又收穫シツヽアル間ハ前ニ向テ唾ヲ吐クコト、一ノ穗ヲ越ヘテ他ノ穗ヲ摘ムコトヲ禁ス。若之ヲ犯セハ收穫ノ量ヲ減スヘシ。尙或ル番社(例ヘハこじ番)ニ於テハ刄物ヲ以テ粟ヲ摘取ルコトヲ禁ス。之ヲ犯セハ落雷スヘシト云フ　粟芋黍等ノ祭祀中ニ於テハ一般ニ放屁及嚏ヲ禁ス。是ボボサムノ靈ヲシテ厭惡ク感セシムル(番語サバカル)ガ故ナリ　粟ヲ收穫シタル後ハ先ツ畑小屋ニ收藏シ祭ヲ行ヒタル後ニ之ヲ社內ニ持運フコトヲ得尙新粟ハ一ノ祭ヲ行ヒタル後ニ非サレハ古粟ト混シ又ハ他ノ野菜ト混シテ煮ルコトヲ得サルモノトス

第五　其他人事ニ關スル禁忌

(一)飮食物ニ關スルモノ　本族ハ一般ニ狸・猫・犬・熊・豹(之ヲ食セハ死スヘシ)鼠・栗鼠・仙山甲・烏鴉・蛙及斃死シタ

ハ豚肉ヲ食スルコトヲ忌ム。猴ハぱいわん三番ニ於テ之ヲ食スルコトテ禁ス　又一般ニ獵神祭ノ時ニ屠リタル豚ノ肉ハ婦女、小兒其他未タ首級又ハ野猪ヲ獲得セサル者ニハ食セシムルコトヲ禁ス。又或番社ニ於テハ（るかい番タラマカウ社ノ如シ）豚ノ血ハ婦女ニ食セシメス。大魚ノ頭ハ老者ニ非サレハ食セシメス（速ニ白髮ト爲ルヘシ）

懷姙中婦女及其夫ノ食スルコトヲ得サルモノ甚タ多シ。此ハ出生ノ部ニ說クヲ便トスルガ故ニ其ニ讓ルヘシ。出草若ハ出獵中又ハ農作ニ關スル祭祀中ニハ食スルコトヲ得サルモノ亦少カラス。此ハ既ニ前條中ニ說述シタル所ナリ

（二）婦女ニ關スルモノ　本族ニ於テハ月經及懷姙ヲ以テ不淨（番語「マジャク」）ナリトシ其間ハ男子（小兒ヲ除ク）ノ衣類ヲ洗ヒ又ハ銃・刀・槍等ノ武器ニ觸ルコトヲ禁ス。若シ誤テ武器ニ觸レタルトキハ巫ヲ招キテ其不淨ヲ清ム。月經ノ不淨ヲ清ムルヲ「スムイロン」、懷姙ノ不淨ヲ清ムルヲ「スムチロク」ト云フ。五年祭ノ首ヲ取リ來リタルトキハ必其槍ニ對シテ此祈禱ヲ行フ（五年祭ノ部參照）出草又ハ出獵ヲ爲ス者ハ其朝此等ノ女ト言語ヲ交フルコトヲ得ス。尙或番社ニ在リテ（高士佛ノ如シ）ハ月經中婦女ノ酒ヲ釀スコトヲ禁シ之ヲ犯セハ病ニ罹ルヘシト云フ　尙懷姙中ノ禁忌ニ付テハ出生ノ部ニ說述スヘキヲ以テ茲ニ略ス

一般ニ女子ハ武器ニ觸ルコトヲ忌ミ男ハ裁縫機織ノ器械ニ觸ルコトヲ忌ム。若シ之ヲ犯セハ出草及出獵ニ幸少ナカルヘシ

るかい番ノ婦女ハ平地ニ降ルコトヲ禁忌ス

出草又ハ出獵ノ前夜ニ於テ交接スルコトヲ忌ム番社多シ。曰ク之ヲ犯サハ負傷スヘシト。又鍛冶ヲ爲ス前夜ニモ之ヲ忌ム所アリ。ぶつる番カザザラヌ社ノ如シ。曰ク之ヲ犯サハ鐵沸カス乃利ナラスト

(三)其他　禁忌スヘキ動作ノ重ナルモノハ嚔、放屁及躓トス

(い)嚔　嚔ハ一般ニ不吉トシテ之ヲ忌ム。既ニ述ヘタルカ如ク若シ出草又ハ狩獵ニ赴ク途上ニ於テ躓ク者アルトキハ其者ハ直ニ引返シ佩刀ヲ解キ暫ク休ミタル後再ヒ出直ササルヘカラス。若シ社ヲ出テサル前ニ此不吉ニ逢フトキハ其行ヲ中止ス。尚其近クニ在リタル鎗刀鍬等ハ火ヲ以テ祓除ス。然セサレハ其行ニ獲物ナキノミナラス負傷スルコトアルヘシ　粟ノ播種收穫又ハ茅ヲ刈リ木ヲ伐ル爲メニ出行ク場合亦同シ　若シ又身ニ藥ヲ附ケントシ又ハ物ヲ人ニ與ヘントスル際ニ嚔ヲ爲スモノアラハ之ヲ中止ス

(ろ)放屁　ハばいわぬ諸番ニ於テハ靈ヲ怒ラシムヘシトテ之ヲ忌ム。然レトモさりせぬ諸番ニ於テハ別ニ不吉トセス。唯頭人ノ前ニ於テハ無禮ナリトシテ之ヲ戒ムルノミ。但シるかい番タボル群社ニ於テハ狩獵ノ場合ニ放屁スル者アルトキハ獲物其臭ヲ嫌ヒテ逃去ルヘシトテ之ヲ忌ミ其放屁者及之ヲ耳ニシタル者ハ途中ヨリ引返スト云フ

(は)躓　ばいわぬ三番ニ於テハ途中ニ躓クハ不吉ノ兆ナリトシテ引返ス。サレトさりせぬ諸番ニ於テハ別ニ之ヲ忌マス

第二項　祥兆及占卜

第一　總說

本族ノ間ニハ或種ノ現象ヲ以テ吉凶禍福ノ豫兆トシ之ニ喜憂スル風アリ例ヘハ行路ニ蛇ノ横切ラレタルニ因リ前途ニ凶事アルヘシトテ引返スカ如キ又ハ日ノ天ニ昇ル夢ヲ見タルカ故ニ吉事アルヘシト喜フカ如キ是ナリ。又本族ノ間ニハ他ノ番族ニ於ケルカ如ク鳥聲若ハ夢ニ依リ又ハ本

族固有ノト法（即樹子ナ瓢ニ載セ其住落チ見ル）ニ依テ事ノ吉凶ヲ判スルモノアリ而シテ此等ノ祥兆及吉卜ハ何レモ其源泉ヲ神靈ノ意思ニ發ス。即チ祥兆ハ神靈ヨリ來テ吾人ニ其吉凶ヲ告クルモノ之ニ反シテ吉卜ハ吾人ヨリ進テ神靈ニ吉凶ヲ質スモノタリトス。左ニ此等ノ著シキモノヲ示ス

第二　重ナル兆象

（一）自然現象ニ關スルモノ

（い）日蝕及月蝕　日蝕ハ「カヌナ・リムツ・トア・カダオ」（太陽ガ蟲ニ食ハルル義）月蝕ハ「カヌナ・リムツ・トア・ケジャス」（月ガ蟲ニ食ハルル義）ト云フ　ぶつる、北ぱいわ、兩番ノ多數及こぼじ番諸社ニ於テ日蝕ヲ以テ頭人ノ死スヘキ兆トシ若シ出草狩獵ノ場合ニハ一行中ニ死者アルヘシト爲ス。サレト他ノ番社ニ於テハ之ニ付テ別ニ吉凶ヲ言ハス　又一般ニ日蝕ニ付テハ吉凶ヲ言ハス

（ろ）彗星　ハ「ビチアア・ナ・ズマイザイ」（羽飾ナ附ケタル星）ト云ソ。多クハ其出現ヲ以テ凶兆トス。即チ北ぱいわ、ノ南部及こぼじニ於テハ乾魃ノ兆トシぶつる番下パイソヌ社ニ於テハ尾ノ上ニ向ノモノハ豐作ナルモ下ニ向フモノハ凶作ナリトセリ　又多クノ番社ニ於テハ此彗星ガ月ニ接近シテ現ハルル時ハ頭人死スヘシト爲ス

（は）銀河（番語「キラボ」）　スポン群社及こぼじ番ニ於テ銀河ガ溪流ニ平行シテ現ハルル時（即東西ニ向フ）ハ潤雨ノ兆ナルモ之ト對角ヲ爲シテ現ハルル時ハ旱魃ノ兆ナリトス、ぶつる番カザザラッ社ニ於テ銀河ガ冬期間南北ニ流ルルトキハ豐作ナルモ東北ヨリ西南ニ流ルルトキハ不作ノ兆ナリトシぱりじゃお番ノ南部ニ於テハ南北ニ向ヘハ豐作ナルモ東西ニ偏スルトキハ不作ナリト云ヘリ

（に）月ト星　ぶつる番下パイソヌ社ニ於テ星ガ月ニ接近シテ後方ニ現ハルルトキハ敵ニ襲ハルヘク

前方ニ現ハレタルトキハ敵我ヲ路ニ要擊スヘク何レモ不吉ナリサレトモ左又ハ右ニ現ハレタルトキハ吉兆ナリト云フ。こはじ番ニ於テ星ガ月ノ左右ニ一ツヅツ現ハレタルトキハ不吉ニシテ此時出草スレハ敵ニ殺サルヘシト云フ其他ノ番社ニ於テモ月ト星トノ接近ニ付テハ種々ノ說ヲ爲ス

(ほ)虹　下パイワヌ社ニ於テ朝虹ハ旱魃、夕虹ハ雨ノ兆ナリト云フ他ノ番社ニ於テ虹ニ付テ吉凶ヲ言フモノ少シ

(へ)地震及落雷　地震及落雷ハ番人間ニ祭祀中ノ禁忌ヲ犯シタル者アル場合ニ神靈ガ之ヲ責罰セシガ爲メニ起シタルモノナリト信スル者多シ(參照前款第五項疫病ニ關スル祭祀)

(二)鳥鳴其他動物ノ動作ニ關スルモノ

(い)鳥鳴

(1)鷄　一般ニ鷄ノ宵ニ鳴クヲ不吉トシ其家又ハ近所ノ家ニ死人アルヘシト云フ凡テ夜啼カサル鳥ガ夜間ニ鳴クハ不吉ノ兆ナリトス

(2)梟　部落内ニ來リ鳴ケハ社民中ニ死人アルヘシ(こほじ番あまはへん番サマアリ社等ニ於テ)又梟ガ晝鳴クトキハ一社民中ニ死人アルヘシ(るかい番ダル群社ニ於テ)

(3)鴉　ガ部落内ニ來リ鳴ケハ社内ニ死人アルヘシ(こほじ番高士佛社)首領ノ[illegible]ニ[illegible]ヘ一族ヲ滅亡セシムル者アルヘシ。部落内ニ入來ルトキハ社内ニ不吉ノ事アルヘシ(こほじ番諸社)ト云フ

(4)シシリ等　「シシリ」「クジス」(黒キ鳥ニシテ鵯ヨリ小サク「クシス」ト鳴ク)若ハツガオ(鼠色ナル小鳥)ガ家屋ノ附近ニテ鳴ケハ其家ニ死人ヲ生スヘシ(こほじ番諸社ニ於テ)「クジス」「ガガイ」ガ部落ノ近クニ來リ鳴ケハ敵來襲スルコトアルヘシ(ぱつる番ナヂフス社ニ於テ)シシルガ部落ノ周圍ヲ廻リツツ「ヒヒヒヒ」ト鳴ケハ吉ナルモ「スケ」ナリト鳴ケハ

病人死スヘク又「チョカウ」ガ人ノ通行中ニ「キリキリ」ト鳴ケハ最初ニ其聲ヲ聞キタル者ハ死スヘシ（るかい番ダデル群社ニ於テ）ト云フ

本族ハ出草狩獵其他他行ノ場合ニ上記ノ小鳥ニ依テ其行ノ吉凶ヲ判スル慣習アリ、後條ニ之ヲ說述スヘシ

(ろ)鳥糞　ばいわぬ番ノ多數ノ社ニ於テ鳥糞ガ落來リテ身ニ附ケハ其人ハ負傷シ又ハ死スヘシトテ巫ヲ招キ之ヲ祓フ。就中こぼじ、ぱもじおノ兩番ニ於テハ鳥糞ガ衣類又ハ頭髮ノ上ニ落チタルトキハ其部分ヲ少シク切去ルト云フ

(は)動物ノ路切リ　一種ノ山猫、カリ（狸ノ一種或ハ云フ鼬ノ如シト）豹、亀、蛇、獺、鼠等ガ行路ノ前方ヲ横切ルトキハ前途ニ凶事アルヘシト引返ス。出草出獵ノ場合ニ於テ特ニ然リトス。北ばいわぬ番「チャジャカブ」社ノもも派ハ粟ノ播種ニ出掛クル際カリヲ見ルトキハ其種子發芽セストテ之ヲ棄ツ

(三)夢　本族ハ夢ヲ以テ將來ノ人事ニ關係アリトシ夢見ノ如何ヲ以テ吉凶ヲ占篤ス其判斷ハ番社ニ依テ相異リ左ニ若干ノ番社ニ於テ該地駐在ノ警察官ガ調査シタル所ヲ示ス

(い)上宮りせむ番マガ社　ニ於テ土地ヲ開墾セントト欲スルトキハ其地ヲ開キ、其夜夢ノ試ミ吉ナレハ開墾ニ着手ス。水ヲ見シハ吉ナルモ刀、鎌ノ折レタリ又ハ物ヲ失フヲ見レハ皆不吉ナリ　家ヲ建テント欲スルトキハ少シク其地基ニ豚脂少許ヲ埋メテ其夜夢ヲ試ム。其吉凶ハ開墾ノ場合ニ同シ　病氣ノ好否ハ蓋ニテモ之ヲトセントスル者其寢ルニ際シ蓋ニ今夜其吉凶ヲ示サレンコトヲ乞ヒテ睡ル。家倒レ又ハ刀折レタル夢ハ凶ニシテ其人死スヘク針、刀其他金物又ハ木ヲ見ルハ吉ナレトモ其多量ナルハ却テ不吉ナリ。凡テ金屬類ヲ拾ヒタルハ好夢ナリトス

(ろ)るかい番ダデル群社ニ於テハ夢ニ歯ノ抜ケタリト見レハ親又子死スヘシ　蜂ニ刺レタリト見レハ其者死スヘシ　房事ヲ行フト見ハ其男ノ方死スヘシ　猿猴熊又ハ猪ヲ獲ルト見ハ出草シテ敵ノ首級ヲ得ヘシ　鹿ヲ獲ルト見ハ不吉ニシテ同行者死スヘシ　蛇・蛙・仙山甲ヲ見ハ子生ルヘシ　火災ヲ見ハ不吉ニシテ他ニ殺サルヘシ　蜂蜜若クハ豚脂ヲ食シ又ハ蜂ノ巣ヲ獲ルト見ハ病ニ罹ルヘシ　死者ニ遇フト見ハ死スヘシ　日月昇ルト見ハ大吉ニシテ其人長壽ナルヘシ　雷電ヲ見ハ病ヲ得テ死スヘシ

(は)ぶつる番下パイワ社ニ於テ夢ニ日ノ出ツルヲ見ハ大吉ニシテ日ノ沒スルヲ見ハ大凶ナリ　暗夜又ハ山崩ヲ見ハ何レモ敵來襲ノ兆ナリ　水湧クト見ハ畑ニ收穫多シ　大水出ツト見ハ收穫多ケレトモ祭畑ノ粟ハ取レス　若シ家ヲ立ツル前ニ其建上リタルヲ見ハ大吉ニシテ家内繁榮ナルヘシ　火事ヲ見ハ旱魃ニシテ食糧ニ乏シキ兆　狩獵魚撈ノ夢ヲ見ハ粟ノ收穫多カルヘシ　地ノ開裂スト見ハ大風來ルヘシ　土龍ノ死シタル夢ハ不吉ナリ翌日ノ狩獵出草其他見合ノ者中止スヘシ　夫妻何レカガ蛇ヲ夢ミタルトキハ懷姙スヘシ　男根ヲ見ハ番社ニ澤山ノ子生スヘシ　檳榔子ヲ見ハ出獵ニ利アリ　川ヲ渉リ又ハ薪ヲ負フヲ見ハ收穫豊ナルヘシ　棟木ヲ見ハ己ノ著物ノ燒クルコトアルヘシ若シ棟木ヲ運フト見ハ敵ニ殺サルヽコトアルヘシ　枯木ノ轉倒スト見ハ己ノ配偶者死スヘシ　歯脱落スト見ハ子又ハ配偶者ノ内死スヘシ　若シ黨祝ヶ瓢ノ夢見ハ大吉ニシテ出草ニ利アリ

(に)北ぱいわん番チシカフス社ニ於テ夢ニ檳榔子ヲ與ヘラレタルハ吉ニシテ狩獵ニ赴キ野猪ヲ獲ヘシ　猴ヲ見ハ吉ニシテ鹿ヲ獲ヘシ　蛇ヲ見ハ吉ニシテ其婦懷姙スヘシ若シブーロンノ見ハ頭

人家ノ婦懷姙スヘシ　魚ヲ見ハ粟豐作ナルヘク砂又ハ土ヲ見ハ豆類豐作ナルヘシ　死者ヲ見ハ出獵シテ猪ニ遇ソヘシ　粟ヲ見ハ魚撈ノ利アルヘシ　猿ヲ見ハ感冒ニ罹ルヘシ　豚ノ肉ト見ハ其者死スヘシ　旅行スト見ハ因ニシテ其者死スヘシ

(ほ)同番スボン社ニ於テ夢ニ屋内ニ水湧クト見又清水ニ浴スト見ハ豐作ノ喜ヲ得ヘク病人此夢ヲ見ルトキハ全快スヘシ　之ニ反シテ火事ニ逢ヒ又ハ濁水ニ浴スト見ハ病ニ罹ルヘシ　日出ヲ夢ミルトキハ子ヲ得ヘク之ニ反シテ日沒ヲ夢ルトキハ母ヲ喪フヘシ　齒ノ拔クルヲ見ルトヽハ子ノ喪ノヘシ　妻ノ懷姙中其夫夢ニ婦女ノ盛裝シ襟ニ針ヲ挿ス所ヲ見ハ女子ヲ得ヘク妻ガ同夢ヲ見ルトキハ男子ヲ得ヘシ　若シ蛇ヲ夢ミルトキハ惡子ヲ得ヘク小豚ヲ夢ミルトキハ愚ニシテ大食スル子ヲ得ヘシ　雷鳴地震ノ夢ハ其ニ凶兆ニシテ恐クハ一家死亡ノ禍アルヘシ　交接、號泣屠殺等ノ夢モ亦凶兆ニシテ恐クハ病ニ罹ルカ大ナル災難ニ出會スヘシ　之ニ反シ長キ鋭利ノ刀ノ得ルハ牙長キ齒ヲ得ルノ兆。首ナヽ死體ヲ負ノハ大ナル獲物ヲ得ルノ兆、瓢ヲ負ノハ出草ニ敵首ヲ獲ルノ兆トシテ一般ニ慶福ス

(へ)こぼじ番內文社ニ於テ夢ニ日昇ルト見ルトキハ吉ニシテ一族ニ孕ム者アルヘク之ニ反シテ日沒スト見ハ死亡者アルヘシ　斬ラレタリ殺サレタリト見ルハ凶ナリ翌日外出スヘカラス　豚ヲ屠ル所ヲ夢ミルハ負傷スル恐アリ外出スヘカラス　豚脂又ハ蜂蜜ヲ食スト見ハ感冒スヘシ　死人ニ逢ヒ又ハ火災ニ罹ルト見ルトキハ其家ニ病者又ハ死亡者ヲ生ス　齒折レ又頭布切ルト夢ムトキハ其子死スヘシ　夢ニ妻子又ハ父母ノ泣クヲ見ハ旅行スヘカラス恐クハ不祥ノ事アラン　夢ニ交接スト見ルトキハ病ヲ得ヘシ　濁水ニ浴スト見ルトキハ家ニ病者又ハ死亡者アルヘク

之ニ反シ水ノ清澄ナルヲ見ルトキハ粟ノ收穫多シ　人ヨリ錢又ハ銀等ヲ貰フト見ルトキハ男子ヲ生ミ「カタニ」(瑪瑙ノ小管玉)ヲ貰フト見ルトキハ女ヲ生ムヘシ　單ニ「ブーロン」(毒蛇ノ名)ヲ夢ミ子ノ生ムトキハ其子必ス強シ若シ之ニ咬マレタリト見ルトキハ親子不和ト爲リ之ヲ殺シタリト見ルトキハ其子死去スヘシ　夫又ハ子ノ出獵中ニ家族ガ大ナル芋及番藷等ヲ掘ルト夢ムトキハ必ス大ナル漁獲アルヘシ　豚ノ糞ヲ運ヒ又ハ大便ニ行クト夢ムトキハ凶ニシテ病ヲ得ヘシ

とはりじ、じ番高士佛社ニ於テ夢ニ自ラ泣ケハ負傷シ又ハ病ニ冒サルヘシ　自ラ歌踊スト見レハ親族ニ死亡者アルヘシ　婦女ノ陰部ヲ見レハ狩獵ノ時皆ノ爲メニ負傷スヘシ　野菜及野ノ草ヲ刈ルト見レハ負傷スヘシ　豚ヲ見レハ近親ニ死者アルヘシ　豚脂肪又ハ蜂蜜ヲ食スト見レハ感冒ニ罹ルヘシ　死者ニ逢フト見レハ狩獵ニ赴キ幸アルヘシ　自家火災ニ罹リタルト見レハ家族ノ者死スヘシ　夢ニ臼齒拔ケハ妻死シ、犬齒拔ケハ兄弟姉妹ノ内死シ、前齒拔ケハ自ラ死スヘシ　父母ノ死セルヲ見レハ獵ノ幸アルヘシ但シソレハ唯一回限リニシテ其後ハ更ニ無カラント　夢ニ死シタル親ヲ見ルモ亦獵ニ幸アリ若シ其笑フヲ見ハ大吉ニシテ大ナル幸アラン　「ブーロン」ヲ見ハ柔順ナル兒ヲ生ムヘシ　日月昇ルト見ハ美シキ兒產レン之ニ反シテ日月沒スト見ハ貧シクナルカ又ハ死スヘシ　糞ヲ見ハ豐作ナルヘシ　病ニ冒サレント見ハ傷ヲ得ヘシ　自ラ交接シ、自ノ死ニ又ハ馘首セントセリト見ハ病ニ冒サルヘシ　單ニ婦女ト寢ルト見又ハ敵ヲ馘首スト見ハ寡又ハ傷ヲ得ヘシ　自ラ闘爭スト見ハ暴風來ルヘシ　粟ヲ播種スト見ハ作物ヲ野猪ニ荒サルヘシサレト之ヲ收穫スト見ハ獵ニ大ナル幸アラン　水牛、仙山甲若クハ檳榔樹又ハ發燒スル所ヲ見ハ傷ヲ得ヘク猿ヲ獲ト見ハ病ニ冒サルヘク鼠ヲ見ハ敵ノ首級ヲ得ヘク食事ヲ爲スト見ハ貧シク爲ルヘシ　裸身破裂シ月術

ト契約アリト見ハ、皆マ獲ルヘシト雖モ其後ハ無物ナカラン他ヨリ品物ヲ貰フト見ハ富ムヘシ之ニ反シ人ニ物ヲ與フト見ハ貧ク爲ルヘシ　婦女自ラ衣ヲ縫フト見ハ蛇ニ咬マルヘシ変換者ハ産婦ヲト見ハ猪ニ犯サルヘク月經若ハ出産ヲ見ハ其夫ニ獵ノ幸アリ。又炊事ヲシ、粟ヲ搗クト見ハ食物不足スヘク夫ノ出獵中男根ヲ見ハ其夫大牙ノ猪或ハ大角ノ鹿ヲ獲ヘシ

第三　占卜

本族ニ行ハルル占卜ニハ瓢ニ依ルモノ、鳥ニ依ルモノ及夢ニ依ルモノアリ。尚少數ナカラ催眠的ノ法術ニ依ルモノヲ加フヘシ。此内瓢ニ依ルモノハ専ラ巫ノ行フモノニシテ既ニ第二款第二項中巫術ノ部ニ述ヘタルヲ以テ之ヲ省キ茲ニハ其餘ノモノニ付テ記述スヘシ

(一)鳥占　本族モ亦出草出獵其他遠ク社外ニ出行ク場合ニハ其途中ニ於テ「シシルト云ノ小鳥等ノ鳴ク聲又ハ方向ニ依リ其行ノ吉凶ヲ判スル風習アリ、之ヲキカヤムト云フ。蓋シ本族ハ、シシル等ノ以テ神靈(或ハ「ナツマテ」或ハ「マカツフウス」)ノ使役スル靈鳥トシ其等カ吾人ニ示ス所ハ卽チ神靈ノ吾人ニ敎フル所ナリト信スルナリ。依テ之ヲ以テ吉凶ヲ判シ吉ナレハ行キ凶ナレハ途中ヨリ引返ス而シテ其吉凶ハ番社ニ依リテ多少相異ナル所アリ、左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク

(い)上きりせぬ番マか社　ニ於テ鳥占ハ左ノ三鳥ニ依ル

(ロ)「コンコン」ハ帯緑黒色ノ小鳥ニシテ其聲鳩ニ似タリ。此鳥カ最初路ノ左ニ鳴キ暫クシテ右ニ鳴ケハ吉ナルモ最初ヨリ右方ニ鳴クハ不吉ナリ引返スヘシ

(ハ)「チラカウ」ハ其形鳩ヨリ小サク色淡褐ナリ。此鳥ガ、クルクルト鳴ケハ吉ナルモ「チカウ」「チカウ」ト鳴ケハ不吉ナリ引返スヘシ

(3)**「ブルシシ」**ハぶつる番ノ「シシル」ナリ。此鳥ガ路ヲ横断スレハ不吉ナリ引返ヘシ

(ろ)るかい番ダデル群社ニ於テハ順次ニ[illegible]鳥ヲ付テ古ヲ先ツ[illegible]クル」ト右方ニ鳴キソレヨリ「チリ[illegible]」ト「コカ」ガ「コッカー」ト「ララ イ」[illegible]ト、リリ[illegible]トリリリト左方ニ鳴ク[illegible]吉[illegible]此等ノ反対ノ方ニ鳴クトキハ不吉ナリ。順序ニ鳴カサルモ「チリル」以下ノ鳥ガ左[illegible]鳴ケ一回トリ[illegible]後[illegible]右[illegible]ハ不吉ト為ス

(は)らはる番上ハイワ社ニ於テ[illegible]小鳥[illegible]（ぶつる番ノ「シシル」ナリ）「クカ」及「チリル」ニ依ル。其占法左ノ如シ

(1)**出草ノ場合**ニハ先ツ「ララ イ」ヲ試ミ次ニ[illegible]ヲ試ム若シ始[illegible]聞ク[illegible]後[illegible]ライヲ聞ケハ不吉ナリ其日ノ行ヲ中止スヘシ。又「ララ イ」ガ左ニ鳴ケハ吉ナル[illegible]右[illegible]鳴ケハ不吉ナリ中止スヘシ（ぶつるノ「クノシ、ダラ」ハ此等トハ反対ナリ）次ニ[illegible]左方ニ[illegible]又[illegible]ヲ為セハ吉ナルモ右方ニ為セハ不吉ナリ中止スヘシ。斯クテ此南古猶吉ナ[illegible]出草[illegible]而シテ途中ニテ一二隻ノ「チリル」ヲ左ニ聞ケハ極メテ吉ナリ[illegible]聞ケハ凶又途中[illegible]「クカ」ト柔ニ鳴クハ吉ナルモ驚キ急レタル[illegible]細ク頻ナ[illegible]鳴ケハ不吉ナリ引返ス[illegible]又文鳥[illegible]ホホホ・クカ」ト鳴クモ不吉ナリ。人ヲ[illegible]引返スヘシ

(ロ)**狩猟ノ場合**ニハ「ララ イ」「チリル」[illegible]其法出草ノ場合ト同シ[illegible]其左方ヲ鳴ク[illegible]ハ[illegible]物多[illegible]トシテ喜フ

(ハ)**単独ニテ旅行スル場合**ニハ「ララ イ」ノミヲ試ム左ニ鳴ケハ吉ニシテ右ニ鳴ケハ凶若シ途中ニテ[illegible]

ルガ左方ニ鳴ケハ先方ニテ酒肉ノ福アルトシテ喜フ

(に)ぶつる番下バイワ社 ニ於テハ出草出獵其他他行スル場合ニハ「シシル」ニ依テ吉凶ヲトス。「シシル」ノ鳴聲ニハ下ノ五種アリ(一)「ヘヘヘヘヘ」ト鳴クヲ「マブデレ」ト云フ。右ニ鳴ケハ吉ナルモ左ニ鳴ケハ不吉ナリ若シ右ニ聞キ次ニ左ニ聞ケハ甚タ吉(二)「クレー・クリ・クリー」鳴クヲ「スコリル」ト云ノ左右共ニ不吉ナルモ「マブデレ」ノ後ニ之ヲ聞クトキハ吉ナリ(三)「ルル・ルル・ルル」ト鳴クノハ「リキル」ト云ノ死絶ヲ意味ス。右ニ聞ケハ凶ナルモ左ニ聞ケハ吉ナリ(四)「ツフ・クツ・クフ」ト鳴クヲ「マコリス」ト云フ。右ニ聞ケハ不吉ナルモ左ニ聞クハ吉ナリ(五)「テレー・テレー・テレー」ト鳴クヲ「パテレレ」ト云フ。右ニ聞ケハ不吉ニシテ左ニ聞ケハ吉ナリ。若シ左ニ聞キテ出草スルトキハ必ス敵ヲ馘首スルコトヲ得ヘシ 凡テ「シシル」ガ行路ノ前方ヲ左ヨリ右ニ横切ルハ吉ニシテ此上「マブテレ」又ハ「パテレレ」ヲ聞カハ大吉ナリ、サレト「シシル」カ前方ヲ右ヨリ左ニ路切ルハ大凶ナルガ故ニ引返ス

(ほ)同番カッザラヌ社 ニ於テ「シシル」ガ上方ヨリ下方ニ飛テ道ヲ切ルトキハ凶ニシテ死亡ノ意味スルガ故ニ引返スヘシ 「クキ」ガ「クキクキ」ト絞ルガ如キ聲ヲ發スルトキハ出草シテ必ス敵ノ首ノ得ヘシ 「フレル」ガ「ラレール・アレール」ト啼クヲ聞クトキハ溪ニ落チテ負傷スヘシ

(へ)同番カヒヤガ社 ニ於テ「シシル」ガ行路ノ左方ニ鳴ケハ不吉ナルモ右ニ鳴ケハ吉ナリ。若シ此鳥ガ前路ヲ横切リタルトキハ引返スヘシ 途中「コヤコヤ」(鳩ノ一種)ノ鳴聲ヲ聞クトキハ引返スヘシ「トガウ」ガ「チョガウ・チョガウ・クル・クル」ト鳴クハ可ナルモ單ニ「クル」ト鳴クハ不吉ナリ引返スヘシ

(と)こぼじ番内文社 ニ於テ外出スルニ當リ「シシリ」ガ近クニ來リ鳴ケハ不吉ナルガ故ニ引返スヘシ。當社ニ於テ「シシリ」ノ鳴聲如何ニヨリテ吉凶ヲトスル慣習ナシ

(ち)ぱりじ、お番髙士佛及加芝來ノ兩社　ニ於テ「シシル」ガ行路ノ後方ニ鳴クハ不吉ニ非サルモ前方ヲ横切リ又ハ「シシシシ」ト鳴クハ不吉ナリ引返スヘシ。又行路ノ樹上ニ於テ鴫ガ「ケヤ、ケヤ」ト鳴クハ差支ナキモ「ダカダカ」ト鳴クハ不吉ナリ引返スヘシト云フ

(二)夢卜　既ニ述ヘタルガ如ク本族ハ夢ト將來起ルヘキ人事ノ吉凶トニ何等カノ關係アルモノト信スルガ故ニ或ル事ヲ爲サント欲スルトキ夢ヲ見テ以テ其吉凶ヲトスル慣習アリ之ヲ「スマバイ」(るかい番ニテ「ワドラス」)ト云フ。其之ヲ行フ場合ハ概シテ左ノ如シ。而シテ如何ナル夢カ吉ニシテ如何ナル夢ガ凶ナルカハ既ニ前條ニ說キタル所ノ如シ

(い)開墾　セント欲スルトキハ其地ヲ少シク開キ其地ノ靈ヲ喚ヒ饌ヲ投シ此地ノ開墾スルト果シテ差支ナキヤ否ヤ示サレンコトヲ乞ヒ其夜夢ヲ試ム

(ろ)建築　セント欲スル場合亦右ノ法ニ依ル　るかい番ダデル社ニ於テハ男子一人饌ノ煮、其少許ヲ敷地トスヘキ所ニ持行キ之ヲ投シ靈ヲ祭リ其夜夢ヲ試ム

(は)他行　本族ニ於テモ古代ハ出草又ハ出獵セントスル時其一行中ノ首領タル者出發ノ前夜ニ於テ夢ヲ試ミタルヨシ。然レトモ現時之ヲ行フモノハ甚少ク唯凶夢ヲ見タル者ハ其行ヲ中止シ又獵場ニ到着シタル夜ニ凶夢ヲ見タル者ハ其翌日狩獵ヲ中止スルニ過キス

(に)病氣　ニ對シテ夢トヲ爲スハ僅ニ上さりせぬ番アルノミ。他ノ諸番ニ於テ病ノ好否ハ凡テ巫ノ瓢卜ニ待ツ

(三)降靈的占術　一般ニ巫ハ瓢卜ニ依テ神意ヲ質スノ外降靈ノ術ヲ用ヰ自ラ催眠狀態ニ陷リテ諸種ノ豫言又ハ透視ヲ爲ス。此ハ既ニ巫ノ部ニ於テ述ヘタル所ナリ

（附記）るかい番タマラカウ社民ノ言フ所ニ據レハ同番ノ『ボア』社ニハ『ヘヤテホリ』ト稱スル一種ノ古者アリ。檳榔子ヲ左ニ持チ之ヲ右ノ指先ニテ摘切リ投上クルマネシテ『來レ靈我汝願フコトアリ』ト言ヒ暫ク沈默シ頓テ『神靈來リ我ニ何々ト告ケタリ』トテ能ク病ノ好否、出草狩獵ノ吉凶等ヲ豫言スルヨシ。余未タ其術者ニ接セサルヲ以テ其術如何ヲ知ルコト能ハサルモ恐ク巫術卽催眠術ノ一種ナルヘシ

第三項　醫　療

第一　總說

（一）醫術者　既ニ述ヘタルガ如ク本族ハ一般ノ禍福ヲ以テ鬼神ノ所爲ニ歸シ疾病ノ如キモ之ヲ惡靈ノ祟ル所ナリトシ巫ニ賴リテ祈禱ヲ行ヒ其快癒ヲ求ルヲ常トセリ。從テ醫療ノ道ハ發達スルニ至ラス其方法頗ル幼稚ニシテ多クハ巫ノ祈禱ト同時ニ行ヒ醫療ト云ハンヨリハ寧ロ禁厭ト云フヲ當レリトス

（二）疾病　疾病ハ總稱シテ「サクチ」ト云ヒ之ニ身體局部ノ名稱ヲ附シ以テ該局部ノ病ヲ表ス。例ハハ頭痛ヲ「サクチ・コロ」（「コロ」ハ頭）腹痛ヲ「サクチ・キヤジ」（「キヤジ」ハ腹）ト云フガ如シ　此外特別ノ名稱ヲ有スル疾病モ少カラス例ヘハ　「ジャジクル」（まらりや）　「テリバリバリ」（ちぶす）　「マクサン」（風邪）　「マクビン」（疥癬）　「ヨラブ」（田蟲）「カツン」（痣）「ケマン」（疣）「ブヅンヅカ」（汗疹）　「ポヨタル」（瘤）　「ゴラゴル」（痘）　「ルムイン」（癲癇）　「メンバラク」（水腫）　「ポロ」（腫）　「カルマタン」（耳漏液）　「カムジュツ」（痲疹）　「ゴラサ」（こせ）　「バサリア」（下痢）　「ザラグサイ」（熱病）　「チケライ」（脚ノ腐ル病）　「マアゲル」（りうまち）等ノ如シ

右ノ外巫ノ治療スル疾患ハ諸種ノ負傷、及毒蛇野猪等ノ咬傷トス。本族ニ於テ毒蛇ト稱スルモノ

甚多シ。其重ナルモノハ「ブーロン」(百歩蛇)「カマバナス」(人ノ足ノ太サ位アリ。聲ヲ立テテ「カノカフ」ト鳴キ雄ガ雌ヲ呼ブトキハ笛ノ聲ヲ發ス。即チこぶらナリ)「スボン」(飯匙蛇)「アシ」(龜殼花)「ビニウ」(雨傘蛇)「マカラズク」(百歩蛇ノ極メテ大ナルモノ。人ノ腕位ノ太サアリ)「カリチキチ」(竹絲蛇)等ナリ

(三)醫藥　藥ハ番語ニテ「ツムル」又ハ「イユ」ト云フ「ツムル」ハ本族固有ノ語ニシテ草ヲ意味ス。蓋シ本族ノ藥ハ悉ク是草根木皮タルニ過キサルニ因ルナルヘシ。又「イユ」ハ土語藥ニシテ此ノ語ハ土人ト交通シタル以來通用セラル

第二　療法

本族間ニ用キラルル醫藥ノ種類ハ甚タ多ク且ツ番社ニ依テ多少相異ルガ故ニ之ヲ概說スルヿ能ハス。故ニ若干ノ番社ニ行ハルルモノヲ掲ク尚ヿヲ得ス。サレハトテ一々之ヲ擧クルハ煩ニ堪ヘサルガ故ニ若干ノ番社ニ行ハルルモノヲ掲ク

(一)こほじ番高士佛、加芝萊ノ兩社　ニ於テ駐在警察官ノ調査シタル所左ノ如シ

(い)頭痛　ニ對シテハ先ツ「キバーラク」(土語猪咬山)ノ葉ヲ十枚重ネテ縱ニ二ツニ折リ熱灰ノ中ニ埋メ十分ニ温リタル後取出シ灰ヲ拂ヒテ其儘之ヲ額ニ當テ頭布ヲ以テ結ヒ置ク。斯クテ痛尚止マサルトキハ成ルヘク大ナル薑ヲ熱灰ニテ温メ横ニ薄ク切リテ之ヲ額ニ當テ頭布ニテ卷ク。之レニテモ痛尚止マサルトキハ黃銅製ノ腕環又ハ一文錢ヲ温湯ニ浸シテ温メ之ニテ額及顳顬ノ邊ヲ摩擦ス

(ろ)眼病　ニ對シテ左ノ數法アリ　(一)單ニ眼ノ疼キトキハ「ジャイシム」及「ルジヤソー」ト稱スル二種ノ草花又ハ榕樹ノ枯葉十數枚ヲ取リ約三十分間煎シ之ヲ夜露ニサラシ後其花ヲ右ノ煎汁ニ浸シ之ヲ以テ眼ヲ洗フ　(二)木ノ枝等ニテ眼ヲ負傷シタルトキハ榕樹ノ氣根ノ尖端白色ヲ呈スル所ヲ切取リ之ヲ煎シテ汁ト爲シ夜露ニ晒シ之ニ柔キ羽毛ヲ浸シテ之ヲ以テ眼ヲ洗フ　(三)眼瞼ノ糜爛シタ

ルモノニハ鹽ヲ約三倍量ノ水ニ浸シ之ヲ布ニテ濾過シ羽毛ヲ浸シテ患部ヲ洗フ　(四)眼ニ塵埃ノ入リタルトキハ人ノ乳汁ヲ點スルコト我國ニ於ケルガ如シ

(は)耳疾　ニ對シテハ左ノ法ヲ行フ　(一)耳ヨリ膿ノ分泌スルモノハ先ツ布片ヲ捻リ之ヲ耳孔内ニ差入レテ清ク其膿ヲ拭去リ龜ノ蹄先キノ骨（龜ヲ獵獲シタル時ハ其蹄ノ先端ヨリ約四寸ノ所ニテ切斷シ之ヲ屋根裏ニ挿置クト云フ）ヲ碎キテ其髓ヲ取リ之ヲ粉碎シ布ニ附ケテ耳腔内ニ撒布ス。又「イヤキャラ」ト稱スル草ノ葉數十枚ヲ磨潰シテ糊ノ如クシ布ニ包ミテ絞リ汁ヲ取リ之ニ羽毛ヲ浸シテ之ヲ以テ其耳腔ヲ洗フコトモアリ　(二)耳腔内ニ腫物ヲ生シタルトキハ「コジマチル」（葛ノ一種ニシテ多汁ナリ）ヲ五寸ノ長サニ切リ其一端ヲ耳腔ニ入レ一端ヨリ強ク吹クトキハ其液耳腔内ニ滴下スヘシ。然ルトキハ其腫物一日ニシテ破レ膿出テテ平癒スヘシト云フ

(に)鼻血　ノ出ツル場合ニハ小サキ竹筒（現時之ニ代ユルニ小瓶ヲ以テス）ノ中ニ火ヲ少許入レ其口ヲ眉間ニ當ツルトキハピタリト吸着キ暫時ニシテ止血スト云フ

(ほ)齒痛　ニ對シテハ次ノ法ヲ行フ　(一)「ラツマベ」ト稱スル草ノ葉五枚、又ハ「カサジャ」（草ノ名土語過路蜈蚣）ノ根及バウジャイ（葛ノ一種）ノ皮ヲ煎スルコト約一時間ノ後之ヲ冷マシテ其汁ニテ含嗽ス　(二)齲齒ノ爲メニ頰及顎下ノ腫レタルトキ（此病ヲ「マカアベク」ト稱ス）ハ豚ノ餌槽ヨリコボレタル食物ヲ取リ土ト共ニ水ニ溶解シ其液ヲ腫レタル部分ニ塗布ス

(へ)胸痛　ニ對シテハ山羊ノ心臟ノ血ノ凝血シタルモノ（山羊ヲ獲タル時ハ其心臟ノ血ヲ取リ木葉ニ包ミ日光ニ乾シ固メテ貯藏ス。番語ニテ「ナムタダジャムク」ト云フ）ヲ碗ニ入レテ細ニ磨リ碎キ沸湯ヲ灌キテ蓋ヲ爲シ少シク冷ユルヲ待チテ服用ス

(と)腹痛　ニ對シテハ下痢ノ有無ヲ問ハス「ジャバチ」ト稱スル灌木ヲ拔取リ能ク水ニテ洗ヒ臼ニテ搗

キテ糊狀ト爲シ之ヲ布片ニ包ミテ絞リ其汁一碗ニ蜂蜜少許ヲ加ヘテ毎日一回ツヽ服用ス　若シ冷物ヲ食シテ之ニアテラレタル時ハ蕃椒ノ根ヲ細ニ刻ミ水ニテ煎シ之ニ酒少許ヲ加ヘテ飲用ス

加芝來社ニ於テハ下痢ノ場合ニ薔薇ノ葉ヲ敲キ其汁ヲ服用スルコトモアリ

(ち)りうまちす　ニハ其疼キ所ヘ薑ヲ擦附ケ又ハ「カルイクージ」ト稱スル草ノ葉ヲ灸リテ塗擦ス。若シ全身ニ疼痛ヲ感スル場合ニハ小壷ノ底ニ少許ノ火ヲ入レ其壷ノ口ヲ臍ニ當テ火消ヘタルトキハ再ヒ火ヲ入レテ同一ノ事ヲ爲ス。斯クスルコト十數回、傍ラ黄銅製ノ腕輪又一文錢ヲ酒ニ浸シテ之ヲ以テ全身ヲ摩擦ス。但シ摩擦ハ右側ヨリ左側ニ、上方ヨリ下方ニ及フコトヲ要ス

(り)腫物　(一)腫物ガ大ナルトキハ「バルシャアジャ」(土語扁條ト稱ス)ノ葉約三十枚ニ粟酒ノ粕約一小碗ヲ加ヘ右ノ上ニテ搗キ混セ之ヲ大ナル樹葉ニ包ミ熱灰ノ中ニ埋メ之ヲ取出シテ扁平トシ腫物ノ上ニ貼布シ布片ニテ縛シ置ク。然ルトキハ自然ニ加膿シテ潰ルヘシ。若シ潰レサル時ハ老竹ヲ尖ラシテ之ヲ突キ破リ其傷口ニ「ジャジクウグウ」ト稱スル樹ノ皮ヲ搗キテ糊ノ如クシタルモノヲ貼布シ後膿之ヲ取替ヘ充分膿ヲ吸收セシム　腫物ガ小ナル時ハ粟ノ淅水ニテ一日數回洗滌ス　(二)瘭疽ニテ烈シク痛ヲ感スル時ハ平ナル石ヲ燒キ之ニ人尿ヲ灌キ石面約五六寸ノ高サニ患部ヲ置キテ其蒸氣ニ當テ斯クスル事毎日三回スレハ約三日ニシテ癒ユト云フ　(三)加芝來社ニ於テハ鵞口瘡ノ場合ニハ「ベートー」ト稱スル草ノ葉ヲ敲キ之ヲ絞リテ其汁ヲ取リ之ヲ其局部ニ塗附ス。時トシテ油蟲ノ糞ノ溶カシテ塗ルコトモアリ

(ぬ)咳嗽　ノ烈シキトキハジャクサクサヌト稱スル草ノ根ヲ堀リ能ク水洗シテ煎シタルモノヲ毎日三回小碗ニテ一杯ツヽ服用ス。發熱セサル時ハ之ニ少許ノ酒ヲ加ヘテ服用スルヲ可トス

(る)まらりや　往昔ハ「パアジェンプン」ト稱スル草ノ葉少許ヲ舂キテ之ヲ平ニ布片ノ上ニ置キ之ニ少許ノ黑犬ノ毛(長サ五分位ニ切リタルモノ)ヲ振リカケ之ヲ左ノ手頸ニ當テ日ニ數囘取換ヘタリ。然レトモ奏効十分ナラストテ現在ハ駐在所ヨリ給セラルル規尼涅丸ヲ用ユ

(を)疥癬其他ノ皮膚病　ハ水或ハ鹽水ニテ洗フ。加芝來社ニ於テハ樟ノ葉ヲ煎シ其汁ヲ以テ洗滌ス

(わ)象皮病及癩病　ニ對シテハ何等ノ方法ナシ。但シ象皮病ハ曾テ明治四十年頃外加芝來及四林格社ニ各一名、三十四年頃竹社ニ一名、又明治二十九年頃カチジャイ社ニ一名アリタルノミト云フ

(か)花柳病　痳疾ハ清水ニテ局部ヲ洗滌スルノミ。曾テ加芝來社ニ一名ノ男子之ニ冒サレタル者アリ其妻ハ廣東人ト番人トノ混血兒ニシテ保力庄ヨリ來リタル者ナリト云ヘハ恐クハ其婦ヨリ傳染シタルナルヘシト云フ　横痃ハ扁平ナル石ヲ燒キ之ヲ患部ニ押付テ膿ヲ排出シタル後溫湯ニテ洗滌ス

(よ)赤痢　ニハ山羊ノ骨ヲ約一時間煎シ其汁ヲ食前一囘服用ス。明治四十三年頃此病本番ニ流行シミルコトアリ其時四林格社ニ五十四名アリテ内十七名死亡シ竹社ニ十一名アリテ内三名死亡シタリト云フ

(た)虎烈拉　「ジャバチ」ト稱スル灌木ヲ舂キテ煎シ一日ニ數囘服用ス。明治七年牡丹社討伐後同社附近ニ流行シタルヲ初メトシ其後數囘番界ニ流行シタルコトアリト云フ

(れ)痘及痲疹　本番ニ於テ天然痘ハ最モ恐ルヘキ病ト爲シ湯ヲ飲用スル外療法ナク痘漿ハ布片ニテ拭取ルノミ。尙加芝來社ニ於テハ其カセタル痕ヲ犬蝨(番語「ジッ」)ノ葉ノ煎汁ニテ洗フト云フ。凡テ此病氣ニ對スル祈禱ニハ曾テ此病ニ罹リタル巫ニ非サレハ其求ニ應セス。是其感染ヲ恐ルルガ故ナ

リ麻疹ニハ湯ヲ飲用スル外療法ナク風ニ當ラサル樣閉居スルノミ。二十歳頃迄ニハ必一回冒サルト雖モ五日間程ニシテ平癒スヘシト云フ

（そ）**火傷**　加芝來社ハ芭蕉ノ葉ヲ叩キ其汁ヲ塗附ス

（つ）**蛇毒**　蛇ニ咬レタルトキハ「ロツク」ト稱スル寄生草ノ嫩葉ヲ嚙ミ其汁ノ局部ニ塗附シ然ル後酒ヲ飲ムト云フ

（附記）當社ニ於テ安原氏ノ調査シタル所ハ少シク本文ニ掲クル所ト異リ參考ノ爲ニ記ス

齒痛ニハ檳榔子ノ種ノ煎汁ヲ用ヒテ含嗽ス　耳膿ニハ「ジヽマダ」（草名）ノ葉ノ搾リ其汁ニテ洗フ　眼病ハ「アラダオ」（草名）ノ煎汁ニテ洗フ　腹痛ノ時ハ「ジケジーシ」（蔓草名）ヲ能ク嚙ミテ之ヲ服用ス　痢病ノ時ハ「ヤベロ」（草名「ヤレボン」トモ云フ）ヲ煎シテ服用ス　室扶斯（番語テリイハイ）ノ場合ニハ「マカラ」（草名）ヲ煎シテ其汁ヲ服用ス　吐血シタルトキハ清水ニテ含嗽スル　風邪ノ時ハ生姜ノ煎シテ其汁ヲ服用ス　「マラリヤ」ノ時ハ「ブトク」（草名）ノ葉ヲ取リ男ハ之ヲ頭ニ、女ハ之ヲ手ニ貼リ其快癒スル迄毎日之ヲ取換フ　腫物ハ「カイザル」（木名）ノ葉ヲ炙リテ之ニ附ス若シ加膿スルモノ（番語）ナルトキハ「チヤジブ」（木名）ノ實ヲ敲キテ之ヲ塗附ス　疥癬ニハ「ブーズ」（木名）ノ根ノ煎シ其汁ヲ塗附ス　痘ハ其痂ノ落チタル後「ブース」ノ煎汁ニテ全身ヲ洗フ　汁疹ニハ「コツコツ」（草名）ヲ打敲キテ其液ヲ塗布ス　斬傷ニハ木炭ヲ粉トシ之ニ豚ノ脂ヲ混シタルモノヲ塗リ打傷ニハ「シカコー」（木名）ノ煎汁ニテ洗フ　毒蛇ニ咬マレタルモノハ「バツジ」（蔓草名）ヲ嚙テ其汁ヲ塗付ス

（三）**こほじ番內文社**　ニ於テ駐在警察官ノ調査シタル所下ノ如シ　頭痛ニハ蜜柑ノ皮、葉又ハ瓢ノ葉ヲ額ニ貼布ス　眼病ニハ人ノ乳ヲ點シ又ハ「ロロソ」（草名）ノ煎汁ヲ以テ洗フ　腹痛ノ時ハ鹽水ノ服

シ或ハ葱ノ白根ヲ生ノ儘食シ或ハ菖蒲ノ煎汁ヲ服用ス　下痢ノ場合ニハ蜂蜜ヲ服用シ或ハ鹽富ノ頭ト鹽豚ノ足ヲ煮テ食ス　感冒ノ場合ニハ蜂蜜ト生姜トヲ少量ノ水ニ混シ煎シテ服用ス　まらりやニ罹サレタル時ハ「ジバラク」(木名)ノ葉ヲ温メテ腹部ニ當テ或ハ「バジサリシン」(蔓草ノ名)ノ根ヲ檳榔子ニ添ヘテ嚙ミ其液ヲ呑下ス　腫物ニハ百合ノ根又ハ番諸ノ根ヲ叩キテ貼布ス　瘰癧ハ「バルジジ」(蔓ノ名)ノ煎汁ヲ以テ之ヲ洗ヒ或ハ番諸ノ葉ヲ温メテ患部ニ貼布ス　疥癬ハ魚籐ノ根又ハ「ジャコババ」(蔓草ノ名)ヲ叩キ其汁ヲ煎シテ之ヲ洗フ　疱瘡及痲疹ニハ瓢ヲ煎シテ其汁ヲ以テ洗フ　斬傷ハ煙草ヲ摩リ附ケ又ハ「バルジャジャ」(蔓ノ名)ノ葉ヲ湯煮テ之ヲ貼布ス　打傷ハ生姜ヲ熱灰ノ中ニ温メ之ノ漬シテ局部ニ貼布ス　火傷ハ鹽水若ハ人尿ニテ洗ヒ或ハ姑婆葉ノ煎汁ニテ洗ソ　蛇ニ咬マレタル時ハ「ジャブルブルン」ト云フ草ヲ敲キテ其傷口ニ貼ル。安原氏ノ調査ニ依レハ此際「サンマイ」(草名)ノ嗽葉ヲ嚙ミ其汁ヲ局部ニ塗附ス。又絲瓜ノ葉ヲ摩附ケ或ハ「サルクルヴ」(樹上ニ寄生スル大葉ノ蘭)ニ蔓ノ實ヲ混シ之ヲ煎タル汁ニテ傷口ヲ洗フト云フ

(三)ぶつる番下パイワヌ社ニ於テ安原氏ノ調査シタル所下ノ如シ　ブツヴル(發熱シテ頭痛ム)ハ「ラオガル」又ハ「リバラ」(共ニ木ノ名)ノ葉ヲ煮柔ニシテ二三枚額ニ貼ル　腹痛ハ「ラオガル」ノ根又ハ「ボース」ノ皮ノ粉ニシテ煎シテ其汁ヲ服用ス　腰痛ニハ「ラオガル」ノ葉ヲ煮出シ其汁ニテ腰又ハ肩ヲ温ム　感冒ニハ藥ナシ　下痢「パシアイ」ニハ粟又ハ胡麻ノ實ヲ煎リ之ヲ煮出シテ其汁ヲ服用セシメ尚硬キ食物ヲ避ケシム　「マオバラカヌ」(腹ノ膨脹スル病)ニハ「ボース」ノ葉ヲ煮出シ其汁ヲ飲用ス　りうまちすニハ藥ナシ　「マラオル」(甲狀腺腫)ニハ藥ナシ。此病ハ「チコオル」ト云フ樹ノ葉ガ水ニ落チ在ルヲ氣付カスシテ其水ノ飲用スルヨリ起ルト　「ラオチョル」(小サキ腫)及「チャラモチャム」(大ナル腫)ニ對シテハ「リヴスル」ノ葉、木棉ノ根又ハ魚

簸ノ根ノ肉何レカヲ敲潰シテ其汁ヲ患部ニ附ス　瘡毒ニハ一サガ一（獣臭舍）ノ皮ヲ削リテ之ヲ煮出シ其汁ヲ以テ患部ヲ洗ヒ其跡ヘ一リグスル棉木又ハ魚膽ノ汁ヲ附置ク　マボヲ（梅毒性ノ腫物）ハ概シテ遺傳性ノモノナリ。之ニハ竹ノ根ヲ敲潰シ其汁ヲ塗布ス　打撲傷ニハラオガルノ煮汁ヲ以テ洗フ　刺傷ニハサアスートト稱スル草ヲ咬テ之ヲ貼布ス　眼病ニ對シテハ數法アリ其眼ノ赤クナレル（一マリヽ一）ニハ藥ナシ。流行性ノ眼病（一ヤベラル一）ニハ蔞葉ヲ煮テ柔クシ之ヲ以テ眼ヲ掃フ視力ノカスミタル（一マホ一）又ハ眼球ニ白膜ノ被レル（一アルボトス一）眼脂ノ多量ニ出ヅル（一ヤ[illegible]ル一）ハ其ニ藥ナシ　耳病ニ數種アリ耳ガガサガサト鳴ル（一バルンアン一）耳ノ少シク遠キ（一マチプシス一）又ハ耳ノ甚タ遠キ（一マシン一）ハ其之ニ對スル藥ナシ　耳だれ（ツバンツ）ハ蚯蚓ヲ竹ニ挾ミ其一端ヲ耳ノ中ニ入レ暫クシテ之ヲ引出シ後其蚯蚓ヲ壙土ニ置キ乾燥セシム。病治スルトキハ之ヲ棄ツ　鼻病中風邪ニテ鼻ノ塞カル（一[illegible]一）及其甚タシキ呼吸苦シキ（一マアチス一）ニ對シテハ單ニ風邪ノ手當テヲ爲スノミ。鼻血（一[illegible]一）ハ單ニ草ヲ取テ鼻ニ含テ塞ニ止マル。若シ鼻ノ内外ニ腫ヲ生シタル時ハ既ニ掲ケタル如ク瘡ノ手當ヲ爲ス　口病中齲齒ニハ火藥ヲ充分ニ細末トシテ之ヲ局部ニ塗附ス。又凡テノ齒痛ハタラ（山椒ノ一種タリ）ノ實ヲ煮出シ其汁ニテ含嗽ス

凡ソ胸及腹ニ係ル病氣ニ對シテハ成ルヘク固形ノ食物ヲ止メ粟ノ粥ノミヲ食セシムト云フ

（附記）曾テ當地駐在所員ガ同社民ノ病氣ノ種類及其治療法ニ付キ調査セシ所ヲ掲クレハ

眼病ニハ蔞葉ト稱スル蔓草ノ葉ヲ煎シ之ニテ洗滌ス　腹痛ニハ薑ヲ煎シタル汁又ハ之ヲ食リタルヲ食シ又ハ米酒ヲ飲ミ番椒ヲ服ス　風邪ニハ生姜ヲ煎シ又ハ煮テ食ス　切傷ニハ桑葉ヲ揉ミ其汁ヲ以テ傷口ヲ洗ヒ或ハ其揉ミタル葉ヲ當テ木ノ生皮又ハ布片ニテ繃帶ヲ施シ置ク。或ハ薑ヲ以テ桑ノ葉ニ代フルコトアリ　血止メトシテパチクイスト稱スル木ノ葉ヲ以

テ製シタル火爍ヲ局部ニ當テ其上ヨリ臬木ノ葉等ヲ當テ堅ク卷キ置ク　甲狀線腫及風邪ハ當社ニ古クヨリアリタル病氣ニシテまらりや及疥癬ハ近年平地ヨリ移入シタルモノナリ

(四)ぶつる番(ブヌン)社ニ於テ同社駐在警察官ノ調査シタル所ハ下ノ如シ　頭痛ハ香水茅ヲ頭布ノ下ニ卷ク　腹痛ハ魚類ノ腹ト薑ノ汁トヲ混シテ煮又ハ番薑ヲ煮出シ布ニテ濾過シ其汁ヲ飲ム　まらりや(「ララアラ」)ハ「タキアン」(草)ノ葉ヲ煮テ身體ヲ洗フ　梅毒(「マパラウ」)ハ鷄ノ羽ニテ其吹出物ヲ拂フ　淋疾(オモ)狂疾(「マボカハラク」)耳痛(「マツラ」)疝痛(「イチレン」)ニハ療法ナシ　眼病(「マデアト」)ハ小兒ノ尿ニテ洗ヒ又ハ「ザガウ」(茎葉)ヲ眼ニ當テ頭布ニテ卷ク　歯痛ハ「ウリバンスル」(草)ノ葉ヲ煮テ含ム　下痢(「ハシヤン」)ニハ「パリウル」(黄色ノ草)ヲ搾リ其汁ヲ飲ム　脚氣(「キジリミラン」)ニハ薑ノ汁又ハ木棉ノ葉ヲ附シテ布ニテ卷ク　外傷(「マベヤ」)ニハ「ジグラ」(木ノ名)ノ葉ヲ煮其汁ニテ出血部ヲ洗ヒ其葉ヲ附シテ卷ク　挫傷(「マタテサリーアー」)ニハ其挫キタル手又ハ足ヲ振ルノミ　坐骨傷(「マバゾル」)ニハ「ジグラ」ヲ煮テ其汁ヲ附ス　毒蛇ニ咬マレタルトキハ其傷ノ上方ヲ緊縛シ傷ノ上ニ煙草ノ脂ヲ塗ル　天然痘(「シカビラピラ」)ニハ竹ノ葉ヲ煮テ其汁ヲ以テ身體ヲ拭ヒ蝦ヲ食シテ其加膿ヲ催シ膿ノ出テタル後ハ竹ノ葉ノ汁ニテ拭ク　難産ニテ兒ノ生レサルトキハ他人ヲ呼ヒ榕樹ノ葉ニテ産婦ノ全身ヲ拂フ。四五人ニテ拂ヘハ出産スト云フ

第五節　生活狀態

第一款　住居

第一項　部落

第一目　總說

本族ハ古來山腹ノ傾斜稍緩ナル地ヲ選ミ十數戶乃至數百戶ノ集團セル部落ヲ形成ス之ヲ「キナジャ

ント云フ。然ルニ近代一部ノ番社ニ於テハ二三戸ツツ此所彼所ニ相分レ時ニ唯一戸孤立スルコトアリテ漸ク散點的部落ヲ成スモノアルニ至レリ

本族ノ部落ハ唯一箇孤立シテ存スルコトアリ或ハ數箇相近接シテ存スルコトアリ前ノ場合ニハ其一箇ヲ以テ一社トシ後ノ場合ニハ其數箇ヲ合シテ一社トス　例ヘハぶつる番ノイラ、キャジ、ロアヌ、クワルス諸社、こぼじ番ノ內文、アジャビシ、チャジャカトア諸社ハ前者ニ屬シぶつる番ノ下パイワ社（マシリジ十一戸、テツノク四十八戸、トマラかオ十戸、トタタアヌ五戸、パツラ二十九戸、キリオマ、ジ三十五戸、カラパヤヌ十戸、タロリバク八戸、リバコ二十戸、チョサンダオ二十五戸ノ十部落ヨリ成ル）及カビヤガヌ社（タルボカノ十六戸、ジアジアイ二十二戸、カリかサヌ十六戸、カイナラツ七十六戸、タウダダル三十戸ノ五部落ヨリ成ル）カザザラ社（アマワ三十七戸、リラヤ十六戸、ツブス四十五戸、ニクバクス二十二戸、スルジャ五十戸ノ五部落ヨリ成ル）ハ後者ニ屬ス

（附記）實際ニ於テ數部落ガ近接スル場合ニ果シテ之ヲ一社トスヘキカ將タ數社トスヘキカニ付疑ヲ生スル場合ハ少カラス。又遠ク相離レタル小部落ヲ特ニ一社ト爲スヨリモ他ニ合シテ一社ト爲スノ却テ適當ナリト思ルルモノモアリ。尙社ノ立方ハ番人間ニ於テモ所說一ナラス。然レトモ先ツ本文ニ記シタルガ如ク戸口僅少ナルモ唯一箇孤立スルモノナラハ之ヲ一社トシ之ニ反シテ數箇密接シテ存スルモノナラハ如何ニ戸口多キモ之ヲ合シテ一社ト爲スカ多キニ似タリ

此等ノ番社ノ中ニハ唯一箇孤立シテ社會團體ヲ形成スルモノアリ、又ハ數箇合同シテ一ノ社會團體ヲ形成スルモノアリ本報告ハ假ニ前者ヲ單社トシ後者ヲ群社ト稱ス。群社成立ノ狀態ニ付テハ第二門中番社團ノ部ニ至リテ說述スヘシ

第三目　集團部落

第一　部落ノ形成

(一)總說　前述スル如ク本族ハ古來山腹ノ地ヲ選ミテ集團部落ヲ作ルヲ常トス。其小ナルモノハ僅ニ七八戸ヲ有スルニ過キサルモ大ナルモノニ至リテ數十戸乃至百有餘戸ヲ有ス　本條ノ記事ニ付テハ第四圖乃至第六圖ヲ參照センコトヲ要ス

(二)形狀　本族ノ部落ハ地勢ニ從ヒ或ハ左右ニ長ク或ハ上下ニ長シ　内部ニ於テ各人ノ住屋ハ或ハ相密接シ或ハ少シヅツ相疏隔ス。上(さりせん)番ノ芒仔、墩仔兩社、北(ぱいわん)番ノクナナオ、チャジャカブス、ボカリド三社ノ如キハ各戸軒ヲ並ヘテ密接シ狹キ市街地ノ觀ヲ爲ス(參照第六圖及第四圖ノ七)

(三)外廓及入口　多クノ部落ハ其周圍ニ防禦用ノ外廓ヲ設ケス。サレトぶつるらばる、るかい三番ノ諸社中ニハ往々外廓トシテ刺竹ヲ栽エ密林ヲ作リ又ハ石垣(番語「キラリかヌ」「アパス」「バア」又ハ「カジュプジュプン」等)ヲ築クモノアリ。此場合ニハ社外ニ出ツル道路ノ所ニハ門ヲ設クルヲ常トス(參照第七圖)

(四)休憩所　凡テ部落ノ入口ニハ其内方ニ廣キ庭アリ。之ヲ「サバジ」ト云フ。此所ニハ石ヲ置テ腰掛ト爲ス。共同祭祀ノ或ル祈禱ハ此所ニテ行フ。(參照第七圖ノ二)部落ヲ出テ數十歩スレハ通路ニ沿ヒテ休憩所アリ。休憩所ハ番語ニテ「スクスクザヌ」ト云フ。諸所ニ之アリ卽チ部落ノ内ニ於テモ又部落外ニ於テモ通路ニ沿ヒ適宜ノ所ニ之ヲ設ク。何レモ若干ノ石ヲ置キ腰掛ト爲ス。概シテ休憩所ニハ樹木茂リテ蔭ヲ爲シ行人茲ニ重ヲ卸シ涼ヲ納ルルニ便ス(參照第八圖)

(五)通路(番語ジャラヌ)　部落内ニハ家ト家トノ間ニ通スル路アリ。部落外ニハ他ノ部落ニ通スル路アリ。何レモ其幅狹クシテ僅ニ一人ノ單行スルコトヲ得ルニ過キス。又其上下ニ通スル所ハ直線ニ作テ迂回セシメサルガ故ニ勾配頗急ナルモノアリ。然レトモ近來駐在警察官ノ指導ニ從ヒ至ル所道路ノ

開修行ハレ番道モ漸ク其面目ヲ改メ幅廣マリ勾配ノ急所モ迂折セシメテ緩ト爲ルニ至レリ

第二　部落地ノ選定及移轉

(一)選定　本族ガ部落ト爲スヘキ地ヲ選フニハ古來左ノ諸點ニ着眼ス

(い)其地ガ農耕及狩獵ニ適スルコト　農耕及狩獵ハ本族ノ最主要ナル生業ナリ。本族ノ祖先ガ原地ヲ離レテ各地ニ移住シ其後更ニ其地ヲ離レテ他ノ地ニ移住スルヤ其部落ト爲スヘキ地ヲ選フニハ皆此ノ點ニ着眼セリ。現時ニ於テモ地味瘠薄ト爲リ最早收穫充分ナラサルニ至レハ他ノ好地即農耕狩獵ニ適スル地ヲ求メテソレニ移住スルヲ常トス

(ろ)其地ガ外敵ノ防禦ニ適スルコト　強敵ニ近接シ其襲撃ヲ受ケ易キ地ハ如何ニ農耕ニ便ナリトモ之ヲ棄テテ他ノ安全ノ地ヲ求ムルヲ常トス

(は)其地ガ衛生ニ適スルコト　飲用水ノ充分ナルコト、風當リノ強カラサルコト、日當リノ好キコト及陰濕ノ地ニ非サルコト等モ亦本族ガ部落ヲ選定スル場合ニ着眼スル要點ナリトス、蓋シ近キニ湧泉又ハ小溪等飲料ニ供スヘキ水ヲ存セサルトキハ遠ク溪底ニ降テ水ヲ汲マサルヘカラス、サレハトテ溪流沼澤等ニ濱スル地ハ陰濕ニシテ病ヲ得易シ。又風當強ケレハ毎年暴風ノ爲ニ住屋ヲ損壞セラルル虞アリ。故ニ此等ノ地ハ皆避ケサルヘカラサルモノトセリ　現時番社ノ中ニハ冬期井水涸レ飲用水ノ缺乏ニ苦ム所少カラス、然レトモ是最初ヨリ然リシニハ非ス、最初部落ヲ開キタル時ニハ何レモ水量豐カナリシモノナルモ社番ガ妄ニ其水源ニ存スル森林ヲ伐盡シタル結果トシテ此涸渇ヲ招クニ至リシナリ

(に)其地ガ不祥ノ地ニ非サルコト　本族ノ領域内ニハハフシア(禁忌ノ地)トテ人ノ之ニ入ルコトヲ忌ム

地アリ卽チ祖神ノ墳墓ノ在ル所、横死、産死、病死ヲ爲シタル者ノ屍ヲ埋メタル所、其他古來惡靈ノ棲息セリト傳說セラルル所ハ之ニ屬ス。若シ此地ニ部落ヲ建設スルトキハ住民ノ疾病、夭死ヲ招キ或部落繁榮セストノ迷信アリ

(二)移轉　部落ノ移轉ハ近代甚少シト雖モ古代ニハ頻ニ行ハレタリ　其原因ノ重ナルモノハ(一)部落内ニ不吉ノ事件ガ頻生セルトキ(二)強敵ノ攻擊ヲ受ケ之ヲ防禦スル力ナキトキ(三)其地方ノ地味ガ瘠薄ト爲リ其收穫充分ナラサルニ至リタルトキ等トス。此等ノ場合ニハ其所屬頭人ノ領域内ニ於テ(若シ其頭人ノ領域内ニ適當ノ地ナキトキハ他ノ頭人ノ領域内ニ)好良ノ地ヲ求メテ之ニ移住スルヲ常トス

第三目　散點部落

前述スル如ク本族ノ部落ハ古來集團ナルヲ常トス。然ルニ近代漸ク敵番攻擊ノ虞ナキニ至リ一部ノ番社ニ於テハ單ニ農耕ノ便ヲ追ヒテ此所彼所ニ二三戶ツツ相別レ時ニ唯一戶孤立シテ住屋ヲ設クルモノアリテ散點部落ヲ形成ス。現時ぱりじ、お番サブデク群社(參照第九圖)同番牡丹群社中ノ中、女奶ノ兩社及こぼじ番ノ竹坑、タカリヤウ、忠心崙三社ノ如キ之ニ屬ス　ぶつる番ノカビヤガス、マカザヤザヤ兩社民モ今ヤ農耕ノ便ヲ追ヒ各所ニ殆永久的ノ畑小屋ヲ建テテ平素ハ之ニ居住シ部落ノ住屋ハ常ニ戶ヲ閉シ祭祀其他用事アルトキノ外ハ歸來セス本部落ヲ離レ別ニ各所ニ散點部落ヲ形成セントシツツアリト云フ

第二項　住屋竝其附屬營造物

第一目　通說

第一　敷地

第四圖　番社部落ノ近景及遠景

其一　ばらわん番上パイワス社

（トアプン駐在所ヨリ望ム）

其二　ぶつる番ムル社部落及山脚ノ民庄

其三　ぶつる番マヌル社上方部落

（瓦屋根ハ住居茅葺屋根ハ穀倉）

右上方ニ見ユル長キ茅屋ハ番社部落ノ宿泊所即公廨ナリ

其四　ぶつる番タ社部落ノ近景

（番屋ハ檳榔林ノ間ニ點見ス）

其五　ぶつる番クワルス社部落ノ景

（同社頭人ノ家ノ前ヨリ同家ノ側屋ヲ越シテ部落ノ上方ヲ望ム）

其六　ぶつる番

其七　北ぱいわん番クナナオ社部落

（上）下方ヨリ見上ゲタルクマユル部落

（下）上方ヨリ見下シタル

其八　北ぱいわん番リキリキ大社

（上）現時ノ部落同社駐在所ヨリ望ム

（下）大正三年討伐前ノ部落









其一　平面圖（同社駐在所警察官調查）



其二　同部落ノ全景（東方ノ丘上ヨリ見タル）



其三　同景（部落ノ下方ヨリ見タル）



其四　同景（部落ノ上方駐在所ヨリ横見タル）



其一　外面ヨリ望ミタルモノ



其二　内面ヨリ望ミタルモノ





る番タラパサジ社内ノ休憩所



一、つる番ダラダライ社西郊ノ休憩所

[illegible]作ニ出リトスル同社番丁



[illegible]

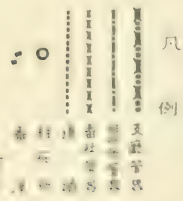


其二 なつる番ラタ社外ノ休憩所

ハ番丁及ヒ[illegible]

第九圖　サブデク群社散點部落ノ圖　（五萬分ノ一）

（牡丹路駐在所調査）



(一)總說　本族ノ住屋ハ一般ニ山腹ニ於テ平坦若ハ緩傾斜ノ地ヲ選ミテ之ヲ建ツ何レモ高キヲ背ニシ低キニ向フ　地基ハ先ツ後方ヲ堀下ケ其土ヲ前方ニ致シテ之ヲ均平ニシ後方ヲ住屋ノ敷地トシ前方ヲ外庭トス。一般ニ敷地ト前庭トハ其高サヲ異ニセス

(二)地基ノ選定　凡ソ地基ヲ選定スルニハ成ルヘク日當好ク風當少ク而シテ不吉ノ地ニ非サル所ヲトス　既ニ其地ヲ定メタルトキハ建築ニ先チテ祈禱ヲ行ヒ不吉不淨ヲ禳ヒ其ノ建上リタルトキハ又祈禱ヲ行ヒ其家ノ堅固ニシテ此ニ居住スル家族ノ繁榮センコトヲ祈ル(祭祀ノ部參照)

第二　住屋ノ款式

本族ノ住屋ハ大體ニ於テ三ノ款式ニ分ル

(一)スボン溪以北ノ住屋　ハ長方形ニシテ間口ハ奥行ヨリ長ク後面及左右兩側ハ石ヲ疊ミ前面ニハ大ナル石板ヲ並立テテ壁ト爲シ屋根ハ二面傾斜ニシテ石板ヲ以テ葺ク

(二)スボン溪以南(ばりじ、お番南部ヲ除ク)ノ住屋　ハ長方形ニシテ奥行ハ間口ヨリ長ク後面及左右兩側ハ石ヲ疊ミテ壁ト爲シ屋根ハ龜甲形ニシテ茅ヲ以テ葺ク

(三)ばりじ、お番南部ノ住屋　牡丹、高士佛、八瑤、加芝來、四林格等ノ諸社ニ居ル　ハ長方形ニシテ奥行ハ間口ヨリ長ク或ハ短ク後面及左右兩側ハ土塊ヲ積ミ前面ニハ板又ハ土塊ヲ以テ壁ヲ作リ屋根ハ二面傾斜ニシテ茅ヲ以テ葺ク　ばりじ、お番中既ニ行政區域ニ編入セラレタル猪膀束、射麻裡、車仔等ノ番社ニ於テハ全ク土人ト家屋ノ款式ヲ同クス

上述ノ如ク本族ノ住屋ハ南北其款式ヲ異ニス今假ニ(一)スボン溪以北ノモノヲ第一款式、(二)同溪以南ノモノヲ第二款式、(三)ばりじ、お番南部ノモノヲ第三款式ト稱ス

第三　附屬營造物

本族ニ於テ住屋ニ附屬スル重ナル建物ハ穀倉、炊事小屋及畜舍トス

(一)穀倉(番語「コバウ」)　ぶつる(下パイワン社ヲ除ク)及らばるノ兩番、るかい番ノタラマカウ、ダデル兩社及北ぱいわ番中ノパイルス、ボガリヅ、プッンロク三社ニ於テハ前庭ノ一隅ニ穀倉ヲ設ク。其構造方形又ハ長方形ニシテ四本乃至八本ノ木柱ノ上ニ立テ二面傾斜ノ茅屋根ヲ葺ク　又上ざりせぬ番ニ於テハ屋内ニ穴藏ヲ設ク　上記以外ノ番社ニ於テハ穀倉ヲ設ケス。穀類ハ奥室ノ穀櫃(番語「サランニ」)ノ内ニ藏ス

(二)炊事小屋　スボン溪以南卽第二款式ノ住屋ニ於テ外庭ノ前面石垣ノ中央ヲ缺キ竈ヲ設ケ其上ニ屋根ヲ葺キテ米ヲ炊ク所トス。蓋シ本族ハらばる、上ざりせぬ兩番ヲ除ケハ米ヲ屋内ニ入ルルコトヲ忌ムガ故ニ之ヲ炊クガ爲ニ屋外ニ於テ別ニ此小屋ヲ設クルナリ。然レトモ現時此竈ハ米ヲ炊クニ止ラス其他ノ穀菜ヲモ煮ルニ用ウ。特ニ夏時室内暑苦シキ時ニ於テ然リトス　ぱりじ、お番ノ南部卽第三款式ノ家ニ於テハ室内ニ於テ米食スルコトノ禁忌ハ既ニ廢棄セラレ從テ別ニ此小屋ヲ設クル者ナシ　又スボン溪以北卽第三款式ノ住屋ニ於テハ平民家ハ米食ヲ忌マス。故ニ亦之ガ爲ニ小屋ヲ設ケス。唯頭人家ノミ之ヲ忌ミ祖先傳來ノ家ヲ祭屋ニ充テ別ニ住屋ヲ作リ此所ニテ米セ炊ケハ他ノ穀菜ヲモ炊ク。ぶつる番マカザヤザヤ社大頭人家ニ於テハ米飯ヲ炊ク爲ニ別ニ小キ茅屋ヲ設ケアリ

(三)畜舍　之ニ雞舍ト豚柵トアリ

(い)雞舍　ぱいわぬ三番ハ古代雞ヲ禁忌シテ之ヲ飼ハサリシモ現時此禁漸ク破レ小舍ヲ作テ之ヲ飼フ者アリ。ざりせぬ四番ニハ右ノ禁忌ナク從テ之ヲ飼フ者多シ

（ろ）豚柵　リキリキ社以北卽第一款式ノ家ニ於テハ豚ハ概シテ之ヲ其家內便所（後ニ出ツ）ニ飼養ス。然レトモ稀ニ之ガ爲ニ小サキ豚舍又ハ豚柵ヲ設ク　同社以南ニ於テハ家內ニ便所ヲ設ケス豚ハ一般ニ柵ヲ作テ其內ニテ飼養セリ

第二目　スボン溪以北ノ住屋（第一款式）

第一　住屋ノ構造

（一）形狀　第一款式ノ住屋ハ其形概シテ長方形ニシテ間口三間乃至五間、奥行ハ三四間ノ間ニ在リ屋根ハ兩面傾斜ヲ爲シ脊梁（番語「カブルカ」）ニ於テ高八尺乃至一丈、前方ノ軒ニ於テ僅ニ四五尺、後方ノ軒ハ往々斷崖上（後方斷崖ハ後壁ヲ爲ス）ノ地面ニ接ス　而シテ雨水ノ後方ヨリ侵入スルヲ防クカ爲ニ其後方崖上ニ小溝ヲ作リ導テ屋ノ兩側ニ至リ流レテ前庭ニ落チシム　本條ノ記事ニ付テハ第十圖ノ一乃至五及第十一圖ノ一二ヲ參照スルコトヲ要ス

（二）建築ノ方法　住屋ヲ建ツルニハ先ツ傾斜地ノ後部ヲ堀下ケ其土ヲ前方ニ盛リ以テ敷地ヲ均平ニス。後面及後面ニ近キ左右兩側面土ヲ堀下ケタル所ハ斷崖ヲ爲ス。後面及左右ノ兩側面ニハ石ヲ疊テ（番語石積ヲ「カボト」ト云フ）壁ト爲ス　左右兩壁ニ沿ヒテ各數本ノ柱（番語「ツタス」）ヲ埋立テ敷地ノ中ニモ數本ノ柱ヲ立ツ。其中ニテ最高キモノヲ「イテ・ツクス」（中央柱）ト云フ。我國ノ大黑柱ニ當ル。此等ノ柱ハ何レモ礎ヲ置カス地ヲ堀テ其下端ヲ埋ム　然後此等ノ柱ニ横梁（同「ノララ」）ヲ架ス。其中ニテ前面軒下ニ横ハルモノヲ「シアラガノ」ト云ヒ中央大黑柱ノ上ニ架スルモノヲ「カブルガ」（卽棟木ナリ）ト云ヒ屋ノ背梁ヲ爲ス　前面ニハ石板ノ大ナルモノヲ並ヘテ壁ト爲シ其一側ニ入口ヲ設ク。前壁ノ上ニハ更ニ厚板（此厚板ヲ特ニ「サソリヤノ」ト稱ス、頭人家ハ之ニ彫刻ヲ施ス）ヲ横ヘ外方ヨリ木杙又ハ石柱ヲ以テ之ヲ支フ　然後此等ノ横梁ニ厚板ヲ張テ屋根地

ヲ作リ其上ニ石板石ノ瓦(番語「カリブ」)ヲ葺キ屋根(同「キナリバヌ」又ハ「アリユー」)ト爲ス。暴風雨ニ際シ瓦ノズラサル樣屋根ノ兩側及分水ニハ重キ石塊ヲ置テ之ヲ壓ス　前壁ニハ二又ハ三ノ窓(同「クジヨン」)屋根ニハ一若ハ二ノ小キ天窓(同「バカウ」)ヲ作リ光ヲ採ル。サレト屋內ハ一般ニ淡暗シ

第二　屋內ノ排置

(一)房及內庭　住屋內(番語「ウマク」)ハ內庭及房ノ二部ニ分ル　本條ノ記事ニ付テハ第十圖ノ三乃至五ヲ參照スルコトヲ要ス

(い)內庭(番語「カシヌタヌ」)　屋內ノ後部ヲ占メ房側ノ路ヲ以テ入口ニ通ス。土間ニシテ一面ニ石板ヲ敷ク內庭ノ正面(後壁ニ沿ヒ)ニ物置棚、入口ナキ方ノ一側ニ炊事場ヲ設ケ其背後ヲ便所トス

(ろ)房(番語「タラ」)　屋內ノ前部ヲ占ム寢臺ノ在ル所ナリ、入口ヨリ內庭ニ通スル路トハ石屏(大ナル石板ヲ立テ)ヲ以テ相仕切ル　房ハ內庭ヨリ一段其地基ヲ高クシ亦一面ニ石板ヲ敷ク。內庭トノ間ニハ仕切ヲ設ケス

(二)入口(番語「パシン」)　住屋ニハ唯一箇ノ入口アリ。前面ノ左右何レカノ一側ニ偏シテ之ヲ設ク　本族ノ家ハ軒下低キヲ以テ入口モ亦低ク其高僅ニ三尺餘、幅二尺餘、俯首セサレハ出入スルコトヲ得ス

(三)寢臺及椅梁　房ノ左右兩側ニ大ナル石板又ハ木板ヲ以テ高五寸乃至一尺ノ高サニ寢臺(番語「アウルカノ」)ヲ構フ。其入口ノ方ニ倚リタルヲ「ソロル」ト云ヒ男ノ寢臺トシ其對面ニ在ルヲ「パソアボ」ト云ヒ女ノ寢臺トス。而シテ此兩寢臺ノ間前方窓下ニハ幅約一尺ノ石板又ハ木板ヲ以テ椅梁(番語「カルシグジ」長キ腰掛ナリ)ヲ据ユ

(四)墳墓(番語「ロバン」)　本族ノ墓ハ內庭ノ內、男用寢臺(即「ソロル」)ニ近ク之ヲ設ク。但シ嬰兒ハ女用寢臺ノ下ニ、

斂ニ馘首セラレタル者ハ入口ヨリ内庭ニ通スル路ニ埋ム。何レモ墓ノ上ニハ一枚ノ石板ヲ蓋ヒ土間ト地面ヲ均平ニス　墓ノ構造ハ第三門中死亡ノ部ニ之ヲ説述スヘシ

（五）炊事場　ハ之ヲ内庭ノ一側（入口ノ在ラサル方ノ）ニ設ク。石塊又ハ廢鐵ヲ立テテ竈（番語「カクサ」）又ハ（「カホカホアマ」）ト爲ス　而シテ其上ニハ木又竹ニテ乾棚（番語「チヤバル」）ヲ作リ以テ乾燥スヘキ食物ヲ置ク所トシ又其傍ニ薪棚ヲ作リ薪少許ヲ置ク

（六）穀倉（番語「サラン」）　るかい（ダデル群社ヲ除ク）北ばいわん（パイルス、ボカリン、プツンロク三社ヲ除ク）こぼじノ三番及ぶつる番ノ下パイソ社ノ一部ニ於テハ穀倉ヲ作ラス粟及稗ハ之ヲ屋内ノ穀櫃ニ貯フ　穀櫃ハ内庭ノ正面即後壁ニ沿ヒ板又ハ石板ヲ以テ高約六尺幅五尺長十餘尺ニ方形ニ圍ヒテ作ル。其穀ヲ出入スルニハ梯子ヲ用ウ

（七）諸種ノ棚架類

（い）獸骨架　住屋前面ノ軒下ニ鐵耙（番語「カカフ」土人所用ノ犂ノ先）ヲ架シ又ハ木鈎（同「カクラヤフ」）ヲ吊シ之ニ猪ノ頭骨、羌ノ角等ヲ懸ク。之ヲ「シニサーラ」ト云フ　又男用寢臺ノ柱若ハ内庭ノ柱ニ鹿ノ角ヲ懸ク

（ろ）物置棚（番語「チョラビラビ」）　棚ハ多ク竹簀ヲ以テ作ル。其中ニテ内庭ノ正面ニ作リタル數段ノ棚ニハ壺、籠行李其他雜種ノ家具ヲ置キ寢臺ノ上方ニ作リタル棚ニハ裝飾品、携帶品、衣箱等ヲ置ク

（は）頭顱棚（番語「ラチカー」）　住屋ノ前面左右何レカ一方ノ石壁ニ方七寸乃至一尺、深七八寸程ノ函狀ノ穴ヲ設ケ之ニ敵ノ首級一箇又ハ數箇ヲ設ク（參照第十六圖ノ一）ぶつる番カピヤカス、クワルス兩社ノ頭人家ニ於テハ之ヲ外庭前面ノ石垣ニ設ク

（に）靈棚（番語「アイヤバガイ」）　内庭正面即後壁ノ石垣ニ方約一尺、深七八寸ノ函狀ノ空穴（番語「タビ」棚ノ義）アリ。家内ヲ

守ル神靈ノ在ス所トシ祭時茲ニ奠饌ス。我國ノ神棚又ハ佛壇ニ擬スヘシ

(八)便所(番語「タロカサカヌ」又ハ「ポアチャカス」)ハ炊事場ノ背後ニ設ケ石板ノ壁ヲ以テ此ト相離隔ス。竈ノ側ニ小路アリ以テ此ニ通ス　便所ハ幅約三尺、奥行ハ家ノ奥行ニ準ス。而シテ其下底ハ前方ニ向ヒテ次第ニ低ク糞尿ノ自然ニ外溝ニ排出セラルル樣ニ爲レリ　便所ノ内ニハ一般ニ豚(番語「カヲン」)ヲ飼ヒ其ヲシテ人糞ヲ食ハシム。是便所ヲ稱シテ「タロカサガヌ」又ハ「ポアサガヌ」ト稱スル所以ナリトス　便所ノ外壁ニハ小サキ入口ヲ設ケ石板ノ戸ヲ附ス。時々此所ヨリ豚ヲ放テ舍外ニ出遊セシム

第三　前庭竝附屬建物

本條ノ記事ニ付テハ、第十圖ト相對照センコトヲ要ス

(一)前庭

(い)總說　凡テ住屋ノ前面ニハ方形又ハ長方形ノ廣庭ヲ設ケ之ニ石板ヲ敷詰ム。之ヲ「カササバ」ト云フ(參照第十圖ノ一乃至四)

(ろ)司令臺　頭人家ハ其前面ニ於テ住屋ト相對シテ高ク石ヲ積テ臺ヲ作ル。之ヲ「カジ、ブジ、ブン」(石垣ノ義)ト云フ。其大サ一ナラスト雖先ツ二三間平方ニシテ高六尺位ナルヲ普通トス。而シテ其上ニハ大ナル榕樹ヲ植エ。其根ニ石柱ヲ立ツ(參照第十圖ノ三、四)。凡ソ頭人ガ其社內ニ在ル部下ヲ集メント欲スルトキハ此臺上ニ上リテ大聲ニ呼立ツルヲ例トス。又社民ガ此所ニ來集シタルトキ頭人又ハ老番ハ此上ニ上リテ用事ヲ演說ス。故ニ邦人中之ヲ司令臺ト稱スル者アリ　二三ノ頭人家ニ於テハ此臺上ニ高約二尺ノ石板ヲ並立テテ前方及左右兩側ヲ圍ミ以テ石屏ト爲シ外敵ノ防禦ニ供スルモノアリ下パイワマ社頭人カポロ家ノ如シ　石柱ハ石垣ヲ築カサル所ニハ單ニ前庭內ニ立ツ(參照第十圖ノ二)

其五　カピヤガッ社民ノ住屋及穀倉

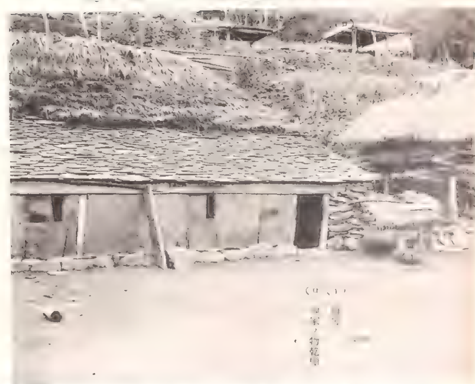


其六　北ぱいわぬ番ボガリド社民ノ倉庫











第十圖ノ乙

第一 蕃式住居及附屬建物ノ圖

其一　ぶつる番マカザヤザヤ社ノ穀倉



其二　ぶつる番マスル社ノ物置小屋



其三　ぶつる番物乾棚



其四　ぶつる番ノ薪置場



其五　ぶつる番[illegible]社ノ豚舎



第十一圖　第一號式住屋構造及屋内排置圖

其三　前ヨリ見タル室内ノ正面



其四　内庭ヨリ見タル入口及房



其一　正面圖



其二　屋内排置圖



(は)祭畑 ハ「パタバク」(畑ノ模型ノ義)又ハ「チャチョボラヌ」(埋ムル所)等(尚他ノ名称アリ)ト云フ。通常之ヲ住屋ノ前面ノ軒下又ハ側方ニ作ル。方三四尺ノ地ヲ劃シ石板石ヲ以テ低ク之ヲ圍ム。此ハ毎年粟ヲ播種スル時ニ祈禱ヲ行ヒ粟祭等ノ種子ヲ播スル所トス(前章中粟ニ關スル祭祀ノ部參照)

(二)穀倉(番語「コバウ」) ハ方形又ハ長方形ニシテ大小一ナラス。即其間口及奥行ハ一間乃至三間ノ間ニ在リ。石柱又ハ木柱四本乃至八本ヲ埋立テ地上約三尺ノ所ニ石造圓形ノ鍔(邦人之ヲ鼠返シト云フ)ヲ箝メ其上ニ板床ヲ張リ竹又ハ板ヲ以テ四方ヲ圍ヒ然後二面傾斜又ハ四面傾斜ノ茅屋根ヲ葺ク。其高サ床ヨリ四尺乃至六尺トス。而シテ床下ハ一般ニ休憩所ニ充ツ(參照第四圖ノ五、六、七及第十圖ノ五、六)

穴藏 上さりせぬ番ハ穴藏ヲ作テ之ニ穀類ヲ藏ス。此ハ地下ニ七八尺ノ方形ノ穴ヲ堀リ周圍ニ石板石ヲ積テ壁ト為シ其上ニ石板ノ大ナルモノヲ置テ蓋ト為ス

(三)物置 ニ左ノ三種アリ

(い)物置小屋(番語「サンパル」) ぶつる番ノ中ニハ前庭ノ一隅ニ物置小屋ヲ建ツルモノアリ。大小一ナラサレトモ先ツ間口二三間奥行一二間ノ長方形ナルヲ普通トス。此ハ數本ノ木柱ヲ埋立テソレニ横木ヲ架シ地上約二尺ノ所ニ簀ヲ以テ床ヲ作リ之ニ二面傾斜又ハ四面傾斜ノ茅屋根ヲ葺ク。其穀倉ト異ル所ハ四壁ヲ設ケサルニ在リトス(參照第十圖ノ八)

(ろ)物乾棚(番語「ロアル」) 前庭ノ一隅ニ於テ農作物ヲ日ニ乾ス為ニ竹又ハ茅ヲ以テ棚ヲ構ヘタルモノアリ(參照第十圖ノ一及九)

(は)薪置場(番語「ポカシニバス」) 本族ハ一般ニ前庭ノ一隅ニ數本ノ材ヲ棒形ニ埋立テ左右ニ丸木ノ枕ヲ置キ此上ニ薪ヲ積ム(參照第十圖ノ十)

(四)畜舍

(い)雞舍　住屋ノ前又ハ穀倉ノ傍ニ之ヲ設ク。大小一ナラスト雖モ先ツ二三尺四方、高一尺乃至一尺半ナルヲ普通トス。此ハ四方ヲ竹又ハ木ニテ圍ミ上方ヲ茅又ハ石板石ニテ蓋ヒ一側ニ七八寸四方ノ入口ヲ作リ石板ノ戸ヲ附ス(參照第十圖ノ一)

(ろ)豚柵　豚ハ概シテ之ヲ便所ニ飼養スト雖モらばる番諸社及ぶつる番ノトクブル社等ハ屋外ニ柵又ハ小屋ヲ作テ之ヲ飼フ　豚柵ハ概シテ雜木ヲ以テ作リ約一二間四方ニ圍イテ其一隅ニ茅屋根ヲ葺ク　又豚小屋ハ石板石ヲ以テ方三尺程ニ圍ヒ一方ノ半ヲ開テ入口トシ上方ニ石板石ノ屋根ヲ蓋フ(參照第十圖ノ十一)

第三目　スボン溪以南ノ住屋(第二款式)

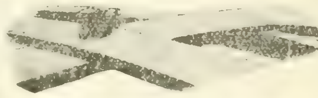
第一　住屋ノ構造

本條及次條ノ記事ニ付テハ第十二圖ノ一乃至四ト相對照センコトヲ要ス

(一)總說　スボン溪以南サブデク群社ニ至ル諸番社ノ住屋ハ其形長方形ニシテ奥行ハ間口ヨリ長シ。其大小一ナラサレトモ先ツ間口二間半乃至四間、奥行四間乃至六間ノ間ニ在リトス　屋根ハ龜甲形ヲ爲シ前後左右ノ四面ニ傾斜ス　其高脊梁ニ於テ八尺乃至一丈、前方ノ軒ニ於テ僅ニ四五尺後方及左右ノ軒ハ殆積上ケタル石壁ノ上ニ接ス。故ニ此地方ノ住屋ニハ屢犬又ハ豚ガ其屋根ニ上レルヲ見ルヘシ(參照第十二圖ノ一及三)

(二)築造法　先ツ後方ノ地ヲ堀下ケ其土ヲ左右兩側ニ置キ後方及左右兩側ニ石ヲ積テ壁ト爲シ以テ土砂ノ崩壞ト雨水ノ浸入ヲ防ク(參照第十三圖ノ一)然後左右兩壁ニ沿ヒテ三四尺ノ間隔ヲ置キテ若干ノ

木柱ヲ立ツ此ノ柱ハ幅廣ク薄厚板ト云フヘキモノニシテ何レモ上方ヲ曲ケアリ。而シテ其曲レル方ヲ內方ニ向ケ左右相對シテ立ツ兩側トモ中程ヨリ稍後方ニ偏シタル所ニ立テタル木柱最高ク之ヨリ前方又ハ後方ニ距ルニ從ヒ次第ニ其高サヲ減ス　ソレヨリ其左右ノ兩曲柱ニ簷﨔狀ヲ爲セル横梁ヲ架ス。其中、中程ノ最高キ柱ニ架セル梁ヲ「カブルガマ」(木棟)ト云フ　屋內ニハ更ニ若干ノ支柱ヲ立テ横梁ヲ受ク。其支柱ノ中ニテ「カブルガマ」ヲ受クルモノヲ「イテ・ツケス」(大黒柱)ト云フ(參照第十三圖ノ二)此等ノ横梁ノ上ニハ板若ハ竹ヲ以テ屋根ノ下地ヲ作ル。但シ前室ハ左右兩石壁ニ接シ厚板ヲ並立テ(前ニ至ルニ從ヒテ次第ニ低シ)以テ柱兼テ壁ト爲ス。此左右ノ板壁ニ數本ノ横梁ヲ架シ上ヨリ板ヲ張テ天井ト爲ス。而シテ其板ト梁トニハ圖ノ如ク楔ヲ打込ミ之ニ栓ヲ通シテ緊着ス(參照第十三圖ノ三及十四)　右ノ如ク屋根地ヲ作リ其上ニ茅ヲ葺ク。然後棟ヨリ軒ニカケテ數本ノおさへノ木ヲ置クコト我國ノ古代ノ家屋ニ於ケル千木ニ似タリ



梁ト板トヲ緊着セシムル楔

建築ニ用ウル柱、梁及板等ハ何レモ欅、楠仔、茄苳等ノ堅材ヲ選ミ特ニ前室ノ壁、仕切及天井ニ用ウル板ハ成ルヘク好良ノモノヲ選フ。今ヤ此等ノ材ハ平地近クノ番社ニテハ伐盡サレタルヲ以テ之ヲ取ルニハ遠ク中央山脈ノ森林ニ赴カサルヘカラス。從テ之カ採集ニハ非常ノ時日ト勞力トヲ要ス或番社ニ於テ一家建築ノ材ヲ集ムル爲ニハ數年ノ久シキヲ費スト云フ

第二　住屋內ノ排置

本條ノ記事ニ付テハ第十四圖ト相對照センコトヲ要ス

(一)室　屋內ヲ區シテ前室(番語「リジユヌ」)及後室(番語「チャコマガ」)ト爲ス。後室ハ前室ヨリ廣ク約二ト一ノ比例ヲ爲ス兩室共ニ土間ニシテ石板石ヲ敷詰ム　兩室ハ板壁ヲ以テ之ヲ仕切リ其ニ左右各幅約三尺

ノ出入口ヲ設ケ戸ヲ附シテ開閉ス　前室ニハ正面仕切板ノ前及左右ノ兩板壁ニ沿ヒ細長キ床ヲ設ケテ腰掛トシ時ニ又寢臺ニモ兼用ス　後室ハ後壁ニ沿ヒテ穀櫃ヲ設ケ其前方及右側又ハ左側ニ物置ヲ作ル。兩側ノ壁ニ沿ヒテ上方ニ棚ヲ架シ其下ニ寢臺、物置及炊事場ヲ設ク（畜舍ナ外庭ニ設クルトキハ之チ寢所トス）又穀倉ノ前及中仕切ニ沿ヒテ寢所ヲ設クルモノアリ

（二）墳墓（番語「ロバン」）　ハ一般ニ之ヲ後室ノ中央ニ設ク。別ニ其室ノ中仕切ノ前ニ設ケテ變死者（縊首サレタル者モ含ム）ヲ埋ムル所トス　墳墓ノ構造ハ全クスボン溪以北ノモノニ同シ

（三）穀櫃（番語「サラン」）　當方面ニハ穀倉ヲ有セス。粟類ハ之ヲ屋内ノ穀櫃ニ藏ス。穀櫃ハ後室ノ正面後壁ニ沿ヒ高サ約六尺幅約五尺、長八尺乃至十二三尺ニ板ヲ以テ圍キテ作ル。而シテ其粟ノ出シ納レハ梯子ヲ掛ケテ之ヲ爲ス

（四）炊事場　後室ノ左右何レカノ壁ニ沿ヒテ之ヲ設ク。竈（番語「カクサヌ」又ハ「カボカボアヌ」）ハ石板石ヲ以テ之ヲ築キ其上ニ乾燥棚（番語「サバマ」）ヲ作ル　近來米ヲ食スルニ至リ屋外ニモ別ニ炊事場ヲ設ク。此ハ次ノ條下ニ說述スヘシ

（五）寢臺（番語「カカルカヌ」）　後室ノ左右兩壁ニ沿ヒタル一部、穀櫃ノ前面及中仕切ノ裏面ニ沿ヒテ寢臺ヲ設ク。而シテ左右兩側ニ設ケタルモノノ一方即竈ノ在ル方ヲ女ノ寢臺ト爲シ之ニ對スル一方ヲ男ノ寢臺ト爲ス　又前室ノ兩側ニハ既ニ述ヘタルガ如ク板ヲ以テ低キ腰掛ヲ設ク。時トシテ之ヲ寢所ニ充ツルコトモアリ

（六）棚類

（い）物置棚　後室左右ノ兩壁ニ沿ヒ上方ニ幅約三尺ノ物置棚（番語「タラビ」）ヲ架シ又其下ノ奧ノ方及穀櫃

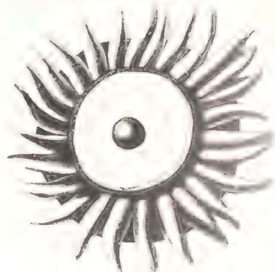
十一圖　頸飾耳飾及胸飾ノ一部

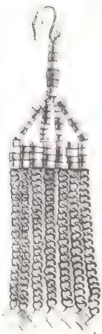


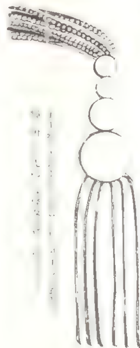


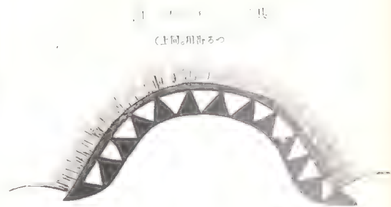








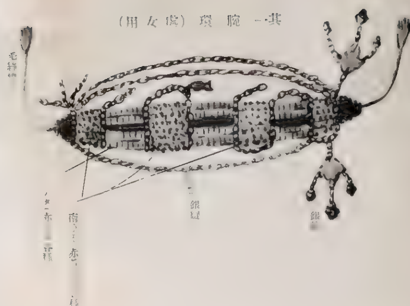


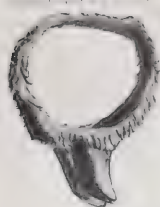




第三十二圖　腕環及脚飾

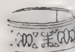
其一　腕環（蕃女用）









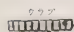


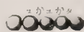


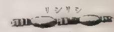
















第三十三圖　男子刺黥ノ款式

[illegible]社ノ[illegible]人兩名



[illegible]番ク[illegible]社番丁





ノ前ニ物置ヲ設ク　寢臺ノ側方ニモ小キ棚ヲ架スルモノアリ

(ろ)獸骨架　後室、男ノ寢臺ノ上方又ハ前室中仕切ノ上方ニ鐵杷ヲ掛ケ或ハ竹ヲ横ヘ之ニ鹿ノ角又ハ猪羌等ノ頭骨ヲ列掛ケ以テ裝飾ト爲ス

(は)頭骨棚　左右何レカ一方ノ石壁ノ外側(庭前ニ向ヒタル)ニ於テ約竪四五寸、幅六七寸、深一尺ノ穴(番語「タヒビ」)アリ形兩獸ヲ爲ス。之ニ敵ノ首級ヲ置ク。此所及其壁ニ沿ヒテ屋内ノ一側ニハ火、煙草、女ノ被服、漁具箒、糞箕等ヲ置クコトヲ禁ス

(に)靈棚　後室正面殺槽ノ横ノ方ニ於テ後面ノ石壁ニ方一尺位、深約七八寸ノ四股ノ穴棚(番語「タヒビ」)ヲ設ケ家ヲ守ル神靈ノ所在トス。家内ニ於ケル祭祀祈禱ノ時ニハ之ニ供饌スルヲ常トス

第三　前庭並附屬營造物

(一)前庭(番語「カサバヲ」)ハ其形方形又ハ長方形ニシテ一面ニ石板ヲ敷詰ム。其大サハ住屋ノ大サニ準ス。前庭ハ其前面及左右兩側面ニ高三四尺幅二三尺ノ石垣(番語「カジュアジュアン」)ヲ築ク　而シテ其兩側ノ石垣ニハ各幅三尺程ヲ缺キテ通路ノ出入口ト爲ス。一般ニ前庭ハ地基ヲ堀下ケラレタルカ故ニ通路ヨリ低シ故ニ出入口ニハ二三段ノ階段ヲ設クルヲ常トス。前庭ノ外圍ニハ雨水ノ内ニ流込マサル樣石板石ヲ並立シ之ヲ防ク(參照第十二圖ノ一及十六)

當地方ニ於テモ前庭ノ一隅ニ祭畑ヲ設ク。其構造スボン溪以北ノモノニ同シ

(二)炊事小屋及薪置場　外庭前方ノ石垣ノ中央ニ於テ幅三四尺ノ缺キ此所ニ竈ヲ作リ四圍ニ五六尺ノ木柱ヲ建テ之ニ粗糙ノ茅屋根ヲ蓋ヒテ屋外ノ炊事場ト爲ス(參照第十二圖ノ二)薪置場(番語「カシーカシーバ」)ハ炊事小屋ノ側邊石垣ノ上ニ設ク(同上參照)

こぼじ番ノ一部ニ於テハ前庭ノ一隅ニ粗糙ノ小屋ヲ作リ之ヲ三ニ區劃シ中央ヲ炊事場、一側ヲ物置(棚チ構フ)他ノ一側ヲ豚舍ト爲スモノアリ(參照第十二圖ノ七)

(三)畜舍　當地方ニハ雞舍ナシ　豚ハ古代ハ之ヲ屋側ノ一隅ニ石圍ヲ爲シテ之ニ飼養シタリシモ現時ハ概シテ屋外ニ柵ヲ作テ此內ニ飼養ス　柵ハ雜木ヲ用ヰ高四五尺其大サ一間乃至二間平方ニシテ其一隅ニ粗糙ノ茅屋根ヲ掛ク(參照第十二圖ノ五)

(四)厠　こぼじ番ハ特ニ厠ヲ屋外ニ設ク。其構造頗簡單ナリ。卽チ住屋附近ノ叢中ニ地ヲ堀リ穴又ハ溝ト爲シ之ニ石板又ハ雜木ヲ架シテ踏臺ト爲シタルニ過キス。時トシテ其上ニ茅屋根ヲ掛ケタルモノアリ

第四目　南部ぱりじゃお番ノ住屋(第三款式)

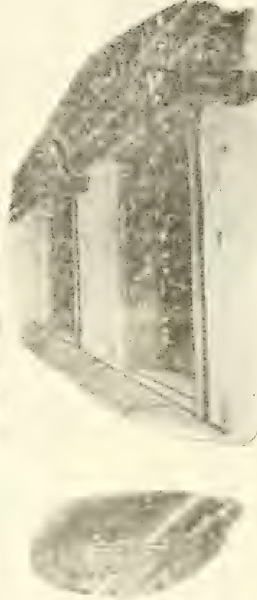
第一　住屋ノ構造

南部ぱりじゃお番諸社ニ於テモ古代ハ皆前目ニ揭ケタル第二款式ノ住屋ヲ建設シタリシモ漢族ト接觸スルニ從ヒ漸ク其風ヲ模シ今ヤ復タ住屋ノ敷地ヲ道路面ヨリ低下スルモノ又ハ前庭ニ石垣ヲ周ラスモノナク而シテ其四壁モ亦石ヲ積マス土塊ヲ積テ之ヲ作ルニ至レリ。今左ニ其構造ノ概略ヲ示ス　本條ノ記事ニ付テハ第十五圖ト相對照センコトヲ要ス

(一)住屋ノ形狀　當地方ノ住屋ハ其形方形又ハ長方形ニシテ後ノ場合ニハ間口ノ奧行ヨリ長キモノト其反對ニ奧行ノ間口ヨリ長キモノアリ。卽牡丹、高士佛兩社ニ於テハ間口五六間奧行三間內外ナルモノ多ク加芝來社ニ於テハ間口三間內外奧行四五間ナルヲ多シトス(參照第十五圖ノ一及二)　龜仔角社ニハ長屋アリ中壁ヲ設ケテ數家ニ區劃セリ(參照第十五圖ノ三)　屋根ハ二面傾斜ノ茅葺ニシテ其高サ脊梁ニ於テ

一丈餘、軒端ニ於テ五六尺トス

(二)築造法　地基ヲ均平ニシ後部ヲ敷地、前部ヲ外庭ニ充ツ　住屋ハ先ツ土塊ヲ積テ四壁ヲ作ル。其兩側壁ハノ如ク中央ヲ高クシ次第ニ前後ニ低下ス　屋內ヲ分割スル仕切ノ壁モ亦土塊ヲ積ム　然後左右兩側ノ壁上ニ數本ノ横梁及竹ヲ架シ尙前後兩壁ノ外(壁ヨリ約一二尺ノ距離ニ於テ)ニ左右側ニ各一本ノ柱ヲ立テ之ニ軒梁ヲ架シ前後ノ兩壁ヨリ數本ノ腕木ヲ出シテ之ヲ支持スルコト圖ノ如シ



軒下ノ腕木

(イ)腕木　(ロ)軒梁

此等ノ横梁ノ上ニ竹ヲ以テ屋根地ヲ作リ茅ヲ以テ之ヲ葺ク。而シテ長キ木又ハ竹ヲ以テ此屋根ヲ押ヘ暴風ニ吹飛ハサレサル樣ニ爲ス　又左右ノ側壁ハ軒下狹ク風雨ニ侵サレ易キカ故ニ其外面ニ沿ヒテ數本ノ柱ヲ立テ横ニ竹ヲ結着ケ之ニ茅ヲ被セ其上ヲ更ニ竹ニテ押ヘタリ

當地方ニ於テ壁ニ用ウル土塊ハ土人ノ所謂土角ニシテ粘土ヲ捏ネ之ヲ幅七八寸、厚四寸、長約一尺ノ型ニ詰メテ作ル。邦人之ヲ不燒煉瓦ト云フ

第二　屋內ノ排置

第三款式ノ住屋ニ於テハ屋內ハ通常前後ノ兩室ニ分割ス。然レトモ近時土人ニ倣ヒ左右中ノ三室ニ區スルモノアリ。何レモ土間ニシテ石板ヲ敷クモノナシ。蓋當地方ニハ石板ヲ産セサルニ因ル

屋內ノ排置ハ前後兩室ニ區スルモノト左右中ノ三室ニ割スルモノト相異ルカ故ニ之ヲ分說ス

稀ニ分割セス唯一室ナルモノアリ第十七圖ノ七ニ示ス所ノ如シ

(甲)前後兩室式　本記事ニ付テハ第十七圖ノ一乃至五ヲ參照スルコトヲ要ス

(一)總說　後室ハ前室ヨリ廣ク約三ト一トノ比例ヲ爲ス。而シテ其間ハ土壁又ハ板壁ヲ以テ之ヲ仕切ル　前面ノ壁ニハ二又ハ三ノ入口ヲ設ケ仕切壁ニモ亦二又ハ三ノ入口ヲ設ク　前室ノ左方ニハ側壁ニ沿ヒテ棚ヲ設ケ炊事器具ヲ置キ其下ニ水甕ヲ備ヘ右側ニハ壁ニ沿ヒテ寢臺ヲ設ク　仕切壁ノ前面ニハ入口ノ上ヨリ天井ニ至ルマテノ間ニ粟積場ヲ設クルモアリ　後室ハ後壁ニ沿ヒテ高約一尺ニ長キ板ヲ以テ臺ヲ作リ籾置場兼家具置棚ト爲ス。左右ノ兩壁ノ奧ノ方ニモ亦之ニ沿ヒテ棚ヲ設ケ其前方ニハ寢臺ヲ作ル　竈ハ通常仕切壁ノ後方ニ沿ヒテ之ヲ設クト雖モ左方ノ壁ニ沿ヒテ之ヲ設クルモノモアリト云フ　又後室ノ前面或ハ左右兩壁ニハ高ク棚ヲ作リテ之ヲ粟積場ト爲スモノアリ

屋内ノ排置ハ大體第十七圖ノ一ニ示シタルモノヲ多シトスルモ中ニハ少シク之ニ異レルモノアリ同圖ノ六ニ示スモノノ如キ其一例ナリ

(二)入口(番語「パジン」)　前面ノ壁ニ二又ハ三箇ノ入口ヲ設ク。高サ約五尺、幅約三尺ニシテ之ニ板戶ヲ附ス、又仕切壁ニモ二又ハ三箇ノ入口ヲ作ル。之ニハ戶ヲ附スルモノト附セサルモノトアリ　土塊壁ニ出入口ヲ作ルトキハ板ヲ以テ棒ヲ作リ之ヲ嵌込テ土塊ノ崩落ヲ防クコト土人ノ爲ス所ニ同シ

(三)寢臺(番語「タクタク」)　ハ多ク板ヲ以テ作リ其大サ幅三四尺、長サ約六尺ナルヲ常トシ前室ノ左右何レカノ一側及後室ノ左右兩側壁ニ之ヲ設ク　椅梁(番語「ガルジグジ」)ハ後室ノ前面及左右ノ側壁ニ沿ヒテ設ク。幅約三尺、高サ約一尺長キ板ヲ以テ作ル。元來是ハ腰掛ニ供スル長椅ナレトモ現時ハ之ニ多ク籾(麻布製ノ袋ニ入レタル)又ハ家具類ヲ置ク

(四)墳墓　墳墓(番語「ロバス」)ハ後室中央ノ土間ニ之ヲ設ク。其構造ハ亦スボン溪以北ノモノニ同シ

(五)炊事場　竈(番語「リクザル」)ハ前室ノ左右何レカノ一側又ハ後室ノ左側壁ニ沿ヒ或ハ仕切壁ノ背面ニ沿ヒテ之ヲ作ル。其構造ハ前述ノ諸番社ノモノニ同シ

(六)穀櫃　當地方ノ穀櫃ニハ「サラン」ト「コブコブ」トアリ。「サラン」ハ長六七尺、高及幅各三四尺、板ヲ以テ作リタル箱ニシテ其製前述諸番ノモノニ同シ。「コブコブ」ハ簀ヲ閉イテ作リ其形稍楕圓ヲ爲シタル筒ニシテ高約五尺、徑約三尺、土人之ヲ「カト」ト云フ　近來加芝來社ニ於テハ架上ニ板ヲ以テ漏斗狀ノ容器ヲ作リ若ケ其下ニ開閉スヘキ口ヲ附シ用ニ臨ミテ之ヲ開キ其中ニ在ル米ヲシテ少シツツ落下セシムト云フ

(七)棚類

(1)**物置**　前室ノ左又ハ右ノ一側ニ數段ノ板棚ヲ設ケ之ニ炊事器具ヲ置ク之ヲ「ラバ」ト云フ　又前後兩室ノ側邊、仕切壁ノ裏面ニ竹棚ヲ設ケ之ニ粟穗ヲ置ク。之ヲ「ーカル」ト云フ

(2)**獸骨架**　羌羊等ノ頭骨ハ仕切壁ニ小キ棒ヲ挿込ミ之ニ懸ケ或ハ前室ノ屋根裏ニ並列シテ竹釘ニテ刺止ム。又ハ庭前ノ樹木ニ籐ヲ渡シテ之ニ掛並フ　猪ノ牙及下顎ハ寢臺ノ上方ノ壁ニ掛ケ又鹿角ハ後室ノ柱ニ籐ヲ渡シテ之ニ掛ク

(乙)左右中三室式　本記事ニ付テハ第十八圖ト相對照センコトヲ要ス。但シ該圖ニハ中室内部ノ圖ヲ缺ク。此ハ前後兩室式ト其内部ノ配置ヲ同クス

(い)總說　左右中三室ニ分劃スル住屋ニ於テハ中室ヲ「コマカ」ト云ヒ左右兩室ヲ各「バツボン」ト云フ。中室ハ他ノ兩室ヨリ少シク廣シ。室ノ仕切ハ土壁ニシテ一部ヲ缺テ兩室相通スル所トス。此通口ハ

高約五尺、幅三尺、木框ヲ箝メテ土塊ノ崩ルルヲ防ク。之ニハ別ニ戸ヲ附セス

(ろ)入口　各室其前面ニ入口ヲ設ク。高約五尺幅三尺、木框ヲ箝メ之ニ板戸ヲ附ス。觀音開ト爲シタルモノモアリ

(は)寢臺　中室ニ於テハ後壁ニ沿ヒ、側室ニ於テハ仕切壁又ハ側壁ニ沿ヒテ之ヲ設ク

(に)炊事場　左右兩室ノ側壁ニ沿ヒテ作ル。時ニ右室ノ仕切壁ニ沿ヒテ作ル

(ほ)穀櫃　左室又ハ右室ノ側壁ニ沿ヒテ作ル。其構造前後兩室式ノモノニ同シ

(へ)棚類

(1)**物置**　中室ノ後壁ニ沿ヒ其上方ニ粟積棚、中室及左右兩室ノ後壁ニ沿ヒ物置棚、炊事場ノ上方ニ竹棚ヲ設ク

(2)**骨架**　寢臺ノ柱ニ獸骨ヲ飾ル

第三　前庭竝附屬營造物

(一)前庭(番語「カサバヌ」)ハ方形又ハ長方形ニシテ其前、左、右ノ三面ニ石板石ヲ低ク並立シテ界ヲ劃ス庭ノ一隅ニ薪置場(同「カシカシユーバヌ」)ヲ設ク。其構造北部番社ノモノニ同シ。但シ薪ノ地面ニ直接スルコトヲ防クガ爲ニ架ヲ設ケタルモノモアリ(參照第十五圖ノ一及四)

(二)畜舍　當地方ニハ雞舍ナシ　豚舍(番語「ウマク・ノ・リリ」)ハ外庭ノ一隅ニ設ク。雜木ヲ以テ柵ヲ周シ其一隅ニ粗糙ノ小屋掛ヲ爲シタルモノニシテ大體こぼじ番ノモノニ同シ(參照第十五圖ノ四)

(三)厠　當地方ニ於テハ便ハ概シテ附近ノ叢中ニ爲ス。其特ニ便所トシテ小屋掛ヲ設クルモノハ甚稀ナリ

第十五圖　第三款式住屋及其附屬建物

其一　ばりじゃお蕃高士佛社ノ住屋及附屬建物



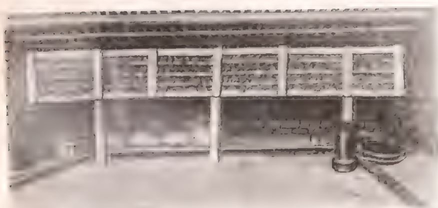
其四　ばりじゃお蕃高士佛社ノ豚棚及薪置



其三　ばりじゃお蕃龜仔社ノ長屋立住屋（第三款式ノ變例）



其二　同正面







其五　後室内部ヨリ見タル出口





其七　四林格社





第十八圖　第三號式乙種住居（右分中三室）ノ内部構造圖

其一　正面圖



其二　平面圖



（イ）入口
（ロ）戸
（ハ）炊事場
（ニ）竈
（ホ）寝臺
（ヘ）物置棚
（ト）窓
（チ）煖爐

其三　右室内部



其四　左室内部



第三項　住屋外ノ營造物

本族ニ於テ住屋及其附屬小屋ヲ除キ其外ニ建物トシテハ畑小屋、種芋小屋、獵小屋、鍛冶小屋、機織小屋、公廨及頭顱架アリ。此中畑小屋、種芋小屋及獵小屋ヲ除ケハ他ハ概シテ一社若ハ一黨ノ共同所有ニ屬ス　又畑小屋、種芋小屋、獵小屋及頭顱架ハ何レノ番社ニモ之アルモ鍛冶小屋ハ之ヲ有スル者甚少ク、機織小屋ハ僅ニるかい番ノ諸社及ぶつる番キスジャロア社ニ、公廨ハ上さりせ三社及ぶつる番カザザラツ、クワルス兩社ニアルノミ

第一　畑小屋

(一)總說　畑小屋ハ番語ニテ「イババボア・タパウ」(畑ノ家)又ハ「ウマク・ノ・コマ」(耕作用ノ住屋)ト云フ　耕地ガ部落ヨリ遠キ所ニ在ルトキハ其所ニ之ヲ構ヘ播種收穫等農　ノ　ニ宿臥スル所トス

(二)構造　畑小屋ハ其形方形又ハ長方形ノ茅屋ニシテ屋根ハ二面傾斜及ハ船甲形ナリ。而シテ其大サハ間口一二間、奥行二三間ナルヲ通常トス　之ヲ建ツルニハ先ツ敷地ヲ均平ニシ四隅ニ各數本ノ木柱ヲ立テ其上ニ木又竹ノ屋根地ヲ作リ之ニ茅ヲ葺キ然後竹又ハ木ヲ縱横ニ組ミテ壁下地ノ作リ之ニ茅ヲ當テ其上ヲ竹ニテ押フ。壁ノ一面ニ高四五尺、幅三四尺ノ入口ヲ設ケ茅又ハ竹ニテ編ミタル戸ヲ附ス(參照第十九圖ノ一)　屋內ノ一隅ニ竈ヲ作リ其傍ニ水缸ヲ置ク

第二　種芋小屋

(一)總說　本族粟及稗ハ穀倉又ハ穀櫃ニ之ヲ貯藏スト雖モ種芋(番語「チャジャヤ」)ハ住屋ノ附近又ハ畑小屋ニ近ク粗糙ノ小屋ヲ設ケテ之ニ貯藏ス。此小屋ヲ「タパウ・ノ・チャジャヤス」ト云フ　每年芋ヲ收穫シタルトキ其一部ヲ取テ翌年ノ種子ト爲シ此小屋ニ藏シ明年下種ノ時ニ至リテ之ヲ取出ス

(二)構造　種芋小屋ハ先ツ二間平方位ナルヲ通常トシ其構造ハ畑小屋ニ等シ(參照第十九圖ノ二)屋内ニハ地上ヨリ約一尺ノ高サニ竹又ハ木ノ床ヲ構ヘ之ニ茅ヲ敷キ其上ニ種芋ヲ置ク。床ノ四邊ニハ芋ノ轉落セサル様圖ノ如ク高一尺程ノ圍塀ヲ作ル小屋ノ入口ハ常ニ密閉シ鼠ノ入ルヲ防ク



種芋小屋內部

第三　獵小屋

(一)總説　本族諸番社ノ中ニハ獵場ニ常設ノ獵小屋ヲ有スル者アリ又ハ出獵毎ニ臨時ニ之ヲ作ル者アリ。此等ヲ「ツマク・ノ・クマルプ」(狩獵用ノ住屋)又ハ「アシュジャヤヌ・ノ・クマルプ」(狩獵用ノ宿泊所)ト云フ　狩獵者ノ一團獵場ニ到着シタルトキハ携帯セル糧食其他ノ用具ヲ此所ニ置キ輕装シテ渉獵ス。若渉獵數日ニ亘ルトキハ此所ニ宿泊ス

(二)構造　獵小屋ハ大サ一二間平方ナルヲ通常トシ大ナルモノハ縦横三四間ニ及フ　雜木又ハ竹ヲ以テ柱ト爲シ茅ヲ以テ四方ヲ圍ヒテ壁ト爲シ其一面ニ幅二三尺ノ入口ヲ設ケ又其上ニ兩面傾斜又ハ龜甲形ノ屋根ヲ葺ク　屋内ニハ稀ニ側壁ニ沿ヒテ寢臺ヲ設クルモノモアレトモ多クハ之ヲ設ケス。寢ヌルトキハ土間ニ茅ヲ敷キテ之ニ臥ス。竈ハ三枚ノ石板石ヲ立テテ之ヲ作ル

第四　鍛冶小屋

(一)總説　本族中若干ノ番社ニハ既ニ鍛冶ヲ解スル者アリ。簡單ナル農具武器ノ修繕ヲ行フガ爲ニ小屋掛ヲ爲ス者アリ。之ヲ「ララガヌ」ト云フ

(二)構造　鍛冶小屋ハ其形方形又ハ長方形ニシテ幅一間半乃至二間、長二間乃至二間半ヲ有ス。左右

第十九圖　畑小屋ノ圖

其一　北ぱいわぬ番スボン社ノ畑小屋



其二　同社芋稗小屋



後ノ三方石ヲ積テ壁ト爲シ（ぶつる番マヌル社ノ如シ）或ハ全ク壁ヲ設ケズ開放シトス（[illegible]社ノ如シ）頂上四圍ニ數本ノ柱ヲ立テ之ニ龜甲形ノ茅屋根ヲ葺ク　屋内ハ土間ニシテ中ニ一箇又ハ二箇ノ爐（番語「プホプヌ」）ヲ設ケ傍ニ釜（同「リコ」）砧（同「パタリライ」）水槽（同「ハルコルー」）ヲ置ク（參照第四十九圖）

第五　機織小屋

（一）總說　るかい番諸社、ぶつる番キヌジロア社ニ於テハ社民ガ共同ニ使用スル機織小屋アリ之ヲ「タブラカ」ト云フ。婦女ノ布ヲ織ラントスル者ハ織機ヲ持シテ此所ニ來リ絲ヲ紡キ經ヲ掛ケ而シテ織ル　他ノ社番ニ於テハ現時自ラ機織セス布疋ハ悉ク交換ヨリ取ル・北ばいわぬ番チャジャカブス社ニハ現時尙機織ヲ解スル婦女アレトモ別ニ之ガ爲ニ小屋ヲ設クルコトナシ

（二）構造　機織小屋ハ粗糙ノ茅屋ニシテ大小一ナラス。左右中ノ三方石ヲ疊ミ或ハ茅又ハ竹ヲ以テ壁ヲ作リ前面ハ開放ス。頂上ニ二面傾斜又ハ龜甲形ノ屋根ヲ葺ク（參照第四十八圖ノ二）

第六　公廨（青年宿泊所）



第二十圖ぶつる番カザーラ社ノ公廨

(一)總說　本族ニ於テ公廨ヲ有スルモノハ僅ニぶつる番ノクソルス、カザザラッ二社(カビヤか社ニハ數年前造アリタルモ今廢去ス)及上さりせッ番諸社ノミ　公廨ハ他ノ種族(さう族、ぷゆま部族)ニ於テハ社民ノ集會場兼テ青年男子ノ宿泊所タリトス　公廨ハぶつる番ニ於テ「サカル」(義ハ棚ノ上)上さりせッ番ニ於テ「チコボ」ト云フ

(二)構造　二樣アリ

(い)上さりせッ番諸社　ニ於テ公廨ハ其構造さう族、さおろお番ノモノニ類似スト云フ(參照本報告第四卷第一章第四節第一款中)

(ろ)ぶつる番クワルス、カザザラッ兩社　ニ於テ公廨ハ其形方形ニシテ間口奥行各二三間之ニ半球狀ノ茅屋根ヲ戴ク　周圍ハ石ヲ積ミ或ハ茅ヲ編テ壁ヲ作リ一方ニ幅三四尺高四五尺ノ入口ヲ設ケ板戸ヲ附ス。入口ノ左右何レカ一方ノ壁ノ外面ニ棚穴アリ敵人ノ首級ヲ置ク　屋內ハ土間ニシテ石板ヲ敷詰メ中央ニ爐ヲ設ケ前、左、右ノ三壁ニ沿ヒテ地面ヨリ約一尺ノ高ニ竹床ヲ構ヘテ寢臺トス(參照第二十圖及第四圖ノ五中)

第七　頭顱棚

(一)總說　本族ニ於テ馘得シタル首級ヲ藏スルモノニ(一)社民各自ノ住居ノ石壁ニ函狀ノ穴ヲ設ケタルモノ(番語「ラチカメレ」)(個人ノ頭顱棚)ト(二)別ニ頭顱棚ヲ構ヘタルモノ(共同頭顱棚)トアリ(三)又少數ノ番社ニ於テハ一定ノ場所ナク或ハ其首級ヲ地中ニ埋メ(現時ノぶつる番カビヤか社ノ如シ)或ハ草原ニ石ヲ据ヘ其上ニ放置ス(らはる番トバサイ社ノ如シ)　此中(一)即個人ノ頭顱棚ハ既ニ屋內ノ排置ノ部ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ之ヲ略シ茲ニハ(二)即共同ノ頭顱棚ニ付テ說述スヘシ

(二)構造　現時本族ノ共同頭顱棚ニハ左ノ三式アリ

(い)**石垣式**　多數ノ番社ニ於テハ此式ヲ用ウ。即チ石ヲ積ミ石板ヲ架シ方形又ハ長方形ノ石垣ヲ作リ其立面數段ニ數多ノ函狀ノ穴ヲ作リ以テ首級ヲ藏スル所ト爲ス。之ヲ「サヮル（棚ノ義）」又ハ「パコロアヌ」（首級ヲ置ク所）ト云フ

左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ揭ク

(1)**ぶつる番マヌル社**　ニ於テハ屋根ヲ蓋フ。即先ツ石ヲ積テ後左右ノ三方ノ壁ヲ作リ其高及長各一間許リ。之ニ木梁ヲ架シ茅屋根ヲ蓋フ。後壁ニ沿ヒ高約四尺ノ所ニ石板ヲ架シ之ニ函狀ノ首穴ヲ設ク。此小屋ニ隣シテ同樣ノ小屋ヲ作リ祭時豚ヲ屠ル所ト爲ス（參照第二十一圖ノ一）

(2)**同番マカザヤザヤ社**　ニ於テハ二種ノ首棚アリ。其一ハ髑髏棚式ノモノニシテ「ポイリス」ト云フ。此ハ次ニ揭クヘシ。他ノ一ハ石積式ニシテ之ヲ「キリウ」ト云フ。此首棚ハ社ノ西端道路ニ面シテ之ヲ設ク。高五尺、幅一間長約五間ニ亘ル棚ノ上ハ幅廣ク且平坦ニシテ大樹陰ヲ爲ス。茲ニ石ノ腰掛ヲ設キ休憩所ト爲セリ（參照第二十一圖ノ二）

(3)**同番ボかリヅ社**　當社ノ頭顱棚ハ社ノ西端休憩所ニ在リ。高サ約一間、長サ約六間位ノ石積ニ函狀ノ穴ヲ作リ之ニ敵番ノ首級約二百餘ヲ藏ス。本族第一ノ大棚ナリ（參照第二十一圖ノ三）平地人ノ首級ヲ納ムル首架ハ當社ヨリ西方ノ山中ニ在リト云ヘトモ現時ハ只其址ヲ存スルノミ

(4)**同番スボン社**　當社ノ頭顱棚ハ社ノ東端ニ在リ。高サ約四尺ノ石積ヲ箱狀ニ築キタルモノニシテ其一方ハ長サ約一間半、一方ハ約二間餘アリ。前面ニ數十ノ穴ヲ有シ之ニ首級ヲ藏ス（參照第二十一圖ノ四）

タンデ社ノ棚ハ代管家前庭ニ在リ高サ約三尺、長サ約一間アリ

(5)**こぼじ番內文社**　當社ニハ大頭人バニヤウ家及チールン家共ニ各一ノ頭顱架ヲ有ス。何レモ

其祭屋ノ前庭ニ在リ。高サ約五尺、長サ約二間ノ石積ニシテ之ニ數多ノ穴ヲ設ケテ首級ヲ藏セリ（參照第二十一圖ノ五六）

(6) **ぶつる番クワルス社**　別ニ首棚トシテ設ケス。庭前司令臺ノ石垣ニ函狀ノ穴ヲ設ケテ之ニ藏ス（參照第十圖ノ四）

(ろ)鐸棚式　一本又ハ二本ノ石柱ヲ立テ之ニ石鐸ヲ架シ其上ニ石ヲ置キ其中間ニ首級ヲ入レ更ニ其上ニ石板ヲ架シ其等ノ顛落セサル樣石塊ヲ以テ之ヲ壓ス。此式ヲ用ウルモノハ甚少ク僅ニぶつる番マカザヤザヤ社及るかい番ダデル社ニ於テ之ヲ見ル　マカザヤザヤ社ニ於テ之ヲ「ポイリス」ト云フ支柱一本ニシテ高約三尺（參照第四十七圖ノ二）アリ。此ハ既ニ逑ヘタルガ如ク重ニ番族ノ首級ヲ藏ス。十數年前迄當社ニ此首棚數箇アリタレトモ今廢撤シ現時駐在所ノ前方叢中ニ唯一箇ヲ存スルノミ　ダデル社ニ於テ之ヲ「タララカヌ」ト云フ支柱二本ヲ用ウ



第二十二圖鐸棚式首棚

(は)石函式　此式ノ首棚ハ甚少ク僅ニぶつる番マヌル社ノ郊外リスリスアヌト稱スル小林地ニ之ヲ見ル。長幅各一尺乃至一尺半ノ石板ニテ四方ヲ圍ヒ函狀ニ爲シ此中ニ首級ヲ藏シ其上ニ石板ヲ蓋フ。之ヲ「タロロバヌ」ト云フ。同社ハ前ニ揭ケタル如ク

第二十一圖　首棚ノ圖

[illegible]



其二 [illegible] サヤザヤ社ノ首棚



其三 [illegible] 社ノ首棚



其四　北ぱいわぬ番スビニ社ノ首棚



其五　こた、番内文社ロパーヤキウ家屋前ノ首棚



其六 [illegible]



既ニ石垣式ノ首棚アレトモ社民ト少シモ親族關係ナキ者ノ首級ノミヲ藏シ其親族關係アル者ハ之ヲ此リスリスアッニ持來リ函狀ノ首棚ニ藏ス。是他日平和關係成立シタル後其親族ガ當社民ノ來訪シタルトキ其頭顱ガ目ニ觸レテ不快ノ感ヲ起スヘキニ因ル

第二款　服裝竝毀飾

本族ニハ既ニ衣、袴其他ノ被服アリ。又頭、胸及手等ニ附スル裝飾アリ。更ニ又身ニ刺墨シ耳朶ヲ穿ツ等直接身ニ施ス毀飾アリ。本節ハ此等ノ服飾ニ付記述スヘシ。本節ノ記事ニ付テハ先ツ第二十三圖乃至第二十五圖ニ揭ケタル番人ノ服裝ヲ見ンコトヲ要ス

第一項　被服

第一　總說

(一)被服ノ種類　本族ノ被服ニハ上衣、胴衣、袈裟、袴、股引、脚絆、手袋アリ。此中上衣及袴ハ男女共ニ之ヲ用ウ。但シ其製ヲ異ニス。又袈裟、胴衣及股引ハ男子ノミ、脚絆及手袋ハ女子ノミ之ヲ用ウ

本族ハこぼじ、ばりじゃ、お雨番ノ外ハ笠ヲ戴カスシテ稀ニ革製ノ帽ヲ用ウ。サレト父母又ハ配偶者ノ喪ニハ概シテ笠ヲ戴クノ慣習アルニ徵スレハ古代ニハ男女一般ニ笠ヲ常用シタリシナルヘシ

又本族ニハ雨天ノ時ニ蓑又ハ合羽ヲ用キル者アリ　本族ハ未タ履物ヲ穿カス。但シぶつる番ノ婦女中ニハ稀ニ足袋ヲ穿ク者ヲ見ル

(二)被服ノ作方

(い)裁縫　本族ノ婦女ハ一般ニ裁縫ノ術ヲ解ス。本族ノ着用スル被服ハ概シテ其婦女ノ仕立テタル

所ニ係ル　然レトモ其材料タル布疋（番語「シトカン」）ハ概シテ交換ニ依テ得タル所トス。蓋シ古代ニ於テハ本族ノ婦女モ皆機織ヲ能クシタリト雖モ平地民庄ト交換ヲ開クニ至リ布疋ノ如キハ別ニ之ヲ織ルノ勞苦ヲ要セスシテ容易ニ取得シ得ルヲ以テ次第ニ自ラ之ヲ織出スコトヲ止ムルニ至リ今日ニテハ僅ニるかい番ノ諸社、ぶつる番ノキャジャロア社ニ於テ仍ホ舊時ノ如ク之ヲ織リ而シテ北ぱいわん番ノチャジャカブス社ニ於テ少シク之ヲ爲ス者ノ殘レルノミ　而シテ此等婦女カ織出シニ用キル材料ハ全ク其地ニ產スル麻ヨリ紡キタル絲ナルコトアリ又ハ之ニ交換ニ依テ得タル綿糸ヲ混スルコトアリ。番婦ノ織リタル布ノ中ニハ模樣ヲ有スルモノナシ。其模樣アルモノハ悉ク交換ニ依テ得タルモノトス。交換ニ依テ得ルモノニハ白、黑、赤、青等各種ノ綿布及毛布（呉絽、繻子、羅紗、天鵞絨等）アリ

（ろ）刺繡　本族ノ婦女ハ一般ニ刺繡ヲ解ス（他ノ生番ハ概シテ刺繡ヲ解セス。たいやる族ノ如キ機織ニハ巧ナルモ刺繡ヲ能クセス。本族ノ刺繡ニ長シテ機織ニ拙キトハ全ク反對ナリ）被服ノ袖、襟又ハ裾ノ緣等ニ赤、青、黃、綠等諸種ノ色絲ヲ用キテ美シク刺繡ヲ施ス。其模樣ハ本族婦女ノ最其意匠ヲ凝ス所ナリ（たいやる族ノ婦女カ縞織、浮織ノ意匠ニ苦心スルト相似タリ）　而シテ人又ハ蛇ノ形ノ刺繡ハ頭人族ノ特權ニ屬スルヲ以テ平民ハ之ヲ其被服ニ施スコトヲ得ス。尙刺繡ノ模樣ニ關シテハ本門第二章中美性ノ部ニ說述セシ所ヲ參照スルコトヲ要ス

第二　上衣、胴衣及袈裟

本族ノ衣ニハ上衣、胴衣及袈裟ノ三種アリ（參照第三十六圖）

（一）上衣　筒袖服ニシテ男女其製ヲ異ニス。左ノ如シ

（い）男衣　南部ニ於テ「イトン」北部ニ於テ「イボク」又ハ「カバ」ト云フ　其丈甚短ク僅ニ腰部ニ至ルニ過キス。襟ハ胸ノ中央ニテ相合シ雌雄ノ乳留又ハ釦留ヲ施ス。袖ハ筒形ヲ爲ス　こぼし、ぱりじゃお兩番

ニ於テハ袖ノ長サ手頸ヲ沒ス。故ニ着用シタル後ハ袖口ヲ折返ス。此兩番ニ於テハ袖ノ兩端ノ裏面ニ繡ヲ施セルヲ以テ袖口ヲ裏返ストキ其繡表面ニ出ヅ

(ろ)女衣　南部ニ於テ「イトン」北部ニ於テ「ロンパウ」ト云フ　其丈男衣ニ比スレハ長ク南部ニ於テハ腰ニ達シ北部ニ於テ更ニ長ク膝ニ達ス。而シテ腹部以下ハ左右兩側ヲ縫合ハサズ裂ケタル儘ニ爲シ置クコト陣羽織ノ如シ。襟ハ左右共ニ幅廣ク其側端ハ腋下ニ達ス。左衽ノ下ニシ右衽ヲ重ネ左ノ腋下ニ於テ雌雄ノ乳留ヲ施シテ相合セシム

(二)胴衣　無袖ノ衣ニシテ之ニハ左ノ二種アリ

(い)布製ノモノ　こぼじ、ばりじ、お兩番ニ於テ「ボイタ」ト稱スルモノハ其丈頗短ク僅ニ臍ノ上部ニ止ル。此ハ其ノミ單用シ又ハ上衣ノ上ニ加襲ス。重ニ男子ニ用キラル(參照第五十二圖ノ一)　此ハ北部ノ番社ニハナシ

(ろ)革製及毛皮製ノモノ　本族ニ於テ「キリプ」又ハ「クルノ」ト稱スルモノハ無袖開襟(紐ヲ附シアルモノモアリ)ノ皮衣ニシテ其狀我國ノ陣羽織ニ似タリ。豹ノ毛皮又ハ鹿、羊ノ鞣革ヲ以テ作リ其丈ハ膝ニ達ス。中ニハ臂ノ下部ニ止ルモノモアリ。此ハ男子ノ專用スル所ナリ(參照第五十二圖ノ三、第四十九圖ノ二竝第四十八圖ノ一、二等)

(三)褻衣　本族ノ北部ニ於テ「イトン」又ハ「タルバヤ」南部ニ於テ「ジナウラメ」ト云フモノハ縱約四五尺幅二三尺ノ方布ニシテ重ニ赤、黑、淺黄等ノ綿布ニテ作リ其上端ニ紐ヲ附ス。但シ盛裝用ノモノハ更紗等ヲ用キ或ハ緣ニ色異絹又ハ釦等ヲ附ス。之ヲ着スルニハ右肩ノ上ニ掛ケテ身ニ纏ヒ紐ヲ左腋ノ下ニ結フ(參照第五十二圖)此レハ男子ノ着用スルモノニシテ其着方ハ第四十八圖乃至第五十圖ニ掲ゲル所ノ如シ。但シばりじ、お番ニハ現時之ヲ用キル者ナシ

第三　袴、股引及脚絆

(一)袴　本族ノ用キル袴ハ腰卷ニシテ男女其製ヲ異ニス(參照第二十七圖)

(い)男用腰卷　「チヨグツ」ト稱ス　ぱりじ、お番(サブテク群社ヲ除ク)ハ他ノ諸番ト其款式ヲ異ニセリ

(1)サブテク群社以北ノ諸番　ニ於テハ其丈短ク之ヲ腰ニ纏ヒテ其裾ハ膝頭ニ止ル。上部ニハ皺劈ヲ施シ左右兩端ニ紐ヲ附シテ之ヲ結束ス。盛裝用ニハ天鵞絨等ヲ用キ且上部紐ノ下ニ刺繡ヲ施ス

(2)ぱりじ、お番(サブテク群社ヲ除ク)ニ於テハ其幅短ク之ヲ腰ノ右側ヨリ纏ヘハ左側ヲ蔽フニ至ラス。故ニ別ニ同一ノ布片ヲ以テ腰ノ前方ニ垂ル。之ヲ「ダヾジヤス」ト云フ。兩端ニ紐ヲ附シテ結束ス。右ノ外ニ尙ホ臀部ニ當ツル布片アリ。「ジヤケツト」ト云フ　此等ハ何レモ其丈短ク僅ニ上股ノ一半ヲ蔽フニ過キス

(ろ)女用腰卷　「バヤバイ」「チヨベリ」又ハ「コーツ」(土語ノ裙ヨリ來ル)ト稱ス。其丈男子ノ「チヨブツ」ニ比シテ頗長ク之ヲ腰ニ纏フトキハ其裾、踝ノ邊ニ至ル。此上部ハ皺劈ヲ施シタルヲ以テ其幅腰ヲ一週スルニ過キサレトモ下部ハ皺劈ナキガ故ニ頗廣ク之ヲ着スルトキハ恰モ歐米婦人ノ「スカート」ノ如ク其裾ノ展開スルヲ見ルヘシ　近時こほじ、ぱりじ、お兩番ニ於テ土人婦女ノ褲(番語「カツ」)ヲ着シ其上ニ右ノ裙ヲ纏フ者少カラス

(二)股引　「カチン」ト云フ、男子ノ專用スル所ナリ。布片又ハ毛皮(又ハ鞣皮)ニテ作ル。此ハ左右各筒狀ニ縫合スコトナク唯之ヲ足ノ前方ニ當テ其腰、膝及踝ノ部分ニ於テ細紐ヲ附シ之ヲ結フニ過キス。而シテ上端ハ一條ノ紐ヲ以テ左右相聯接ス(參照第二十八圖)

(三)脚絆　「チヤボ」ト云フ。長方形ノ布ニシテ之ヲ脛部ニ纏ヒ其長サ膝頭ヨリ踝ニ達ス。其上下兩端ニハ左右ニ紐ヲ附シ後方ニ結フ(參照第二十八圖)此ハ女子外出ノ時ニ着用ス

第四　雜品

本族ノ用キル被服ニハ前ニ揭ケタル外衾布、負布、足袋及帽アリ（參照第二十九圖）

（一）衾布　北部ニ於テ「ギヤラギラ」又ハ「ビナララコブ」南部ニ於テ「シサオバ」ト云フ約五尺平方（幅ハ縦ヨリ短）綿布ヲ裏トシ吳絽、更紗等ヲ表トス。此ハ寢具トシテ用キ又冬時防寒ノ爲ニ上衣ノ上ニ纏フコトモアリ（キモノモアリ）ノ袷布ニシテ

（二）帶　こぼじ、ぱりじ、お兩番ニハ男女共ニ帶ヲ腰卷ノ上ニ施シテ之ヲ結留ムル風アリ。帶ハ之ヲ「バルドルド」ト云フ。男女其製ヲ異ニス左ノ如シ

（い）男帶　黑綿布一巾ノモノ約六尺（卽二廻リ）ニシテ其兩端ニ刺繡ヲ施ス。ぱりじ、お番高士佛社ニハ更ニ兩端ニ珠仔ヲ綴リテ總ト爲シタルモノアリ。之ヲ「ロナイン」ト稱セリ。之ヲ腰卷ノ上ニ纏ヒ前方ニテ結ヒ其末端（卽裝飾アル部分）ヲ臍下ニ垂ル

（ろ）女帶　巾約二寸長約三尺（卽一廻）ノ綿布ニシテ裏ヲ附シ表面ニ裝飾ヲ施ス。（裝飾ニ種々アリ「ぱりじ」お番ノ高士佛社ニハ一圓又ハ半圓ノ銀貨十數箇ヲ縫著ケタルモノアリ）此ハ腰卷ノ上ニ卷キ後方ニテ結束ス

（三）嬰兒ノ負布及負帶　負布ハ「キヤリコバリ」ト云フ。約二三尺平方ノ綿布ニシテ上部ノ兩端ニ紐ヲ附ス。此ハ小兒ヲ負ヒタルトキ其上ニ掛ケ紐ヲ前ニ廻シテ結フ　負帶ハ「シアラク」ト云フ。通常ノ男帶ノ如シ。但刺繡ヲ施サス。此ハ小兒ヲ負ヒタルトキ之ヲ其背及臂ヨリ掛ケテ前ニ廻ハシテ結フ

（四）手袋（番語「チボ」）ハ番布ヲ以テ作ル。婦女農耕ノ際手ニ箝ム。但シ手背及掌ヲ蔽フノミニシテ指ヲ露出ス

（五）足袋（番語「トカブ」）番布ヲ以テ作ル。其形長靴ノ如シ。此ハ近時ぶつる番ノ北部及るかい番ノ「ブダイ」社

等ニ於テ少數ノ婦女ニ用キラル

(六)蓑(番語「アラバス」) 月桃ヲ以テ作ル。即チ麻糸又ハ月桃ノ莖ヲ編テ其地ヲ作リ之ニ月桃ノ葉片又ハ矯風草ヲ刺込ム。其長サ之ヲ背ニ掛ケテ裾ハ腰ニ達ス。此ハ雨天ノ時男子ノ用キルモノニシテ女子ハ之ヲ用キス

(七)合羽(番語「サバル」) 山羊又ハ鹿ノ皮ニテ作リ其頸ニ當ル所ヲクリヌキ狀ニ爲ス。此ハ重ニ雨具トシテ用キラル

(八)笠 「チャコロン」「タウジュン」又ハ「ジナイ」ト云フ。こぼじぱりじゃお兩番ニ於テハ男女共ニ降雨ノ際之ヲ用ウ。竹又ハ籐條ヲ龜甲形ニ編ミテ作リ外面ニ檳榔樹ノ皮ヲ覆フ。而シテ男子ハ蓑ヲ着タル上ニ之ヲ戴クガ故ニ其形小サク徑約一尺ナリト雖モ女子ハ蓑ヲ用キサルガ故ニ其形大ニシテ徑二尺乃至三尺以テ兩肩ヲ蔽フニ足ル

(九)帽(番語「チャルブン」) 鹿又ハ羌ノ鞣革ニテ作リ後方ニ庇ヲ附ス。盛裝ノモノハ前面ニ豹牙又ハ螺錢ヲ飾リ頂上ニ鳥羽ヲ立ツ其形兜ニ似タリ

第二項　裝飾品

第一　總説

(一)裝飾品ノ種類　本族ノ有スル附身ノ裝飾品ハ種々アレトモ大體ニ於テ左ノ五種ニ別ツヘシ

(い)頭ニ施スモノ　頭卷。頭箍及簪

(ろ)頸及胸ニ施スモノ　頸飾及胸飾

(は)耳ニ施スモノ　耳鈎及耳垂トス。何レモ女子ノ專用スル所ナリ。但ぱりじゃお番ニ於テハ男女共



其一　武裝セル頭人及番丁
（其一ト同人）



リザベザッ社營ハ頭人及番丁
向テ左頭人



其[illegible]番丁



（ろ）頸及胸ニ施スモノ　頸飾及胸飾

（は）耳ニ施スモノ　耳鉤及耳環トス何レモ女子ノ專用スル所ナリ但シ[illegible]お番ニ於テハ男女共

第二十三圖

其四













第二十四圖



















其二 牡丹社頭人夫妻ノ盛裝





其[illegible] 高士佛社頭人夫妻ノ盛裝



其四 高士佛社頭人夫妻ノ常裝 (其ノ一)



其五 牡丹社番丁トサブデク群社番丁

(後列ハサブデク社前二列辮髮ナルハ牡丹社付)





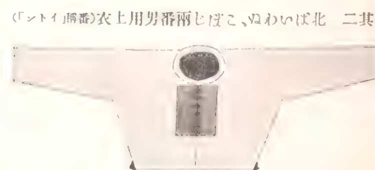


第二十六圖 上衣、胴衣及袈裟ノ圖

其一 ぶつる番男用上衣(番稱「イヤクー」)

盛裝ハ圖ノ淡黑色ノ所ニ刺繡ヲ施ス、他皆同シ



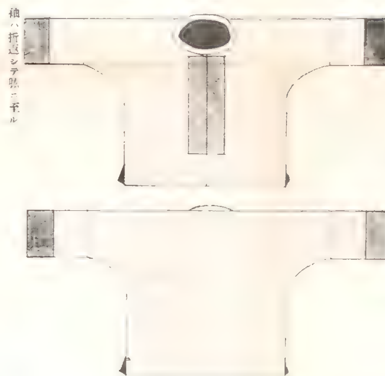


其二 北ぱいわぬ、こぼじ兩番男用上衣(番稱「イトン」)



其三 ぱりじゃお番男用上衣(番稱「イトン」)

袖ハ折返シテ縫ニ千ル





其四 [illegible]番用上衣(番稱「ロン・ウ[illegible]」)



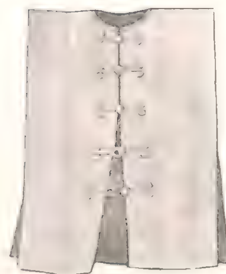
其五 北ぱいわぬ南部及てぼじ番女用上衣(番稱「イトン」)





其六 綿布製胴衣(番稱「ピ[illegible]」)

(北ぱいわぬ[illegible]部ニ於[illegible])



其七 革製胴衣(番稱「クルブー」)表



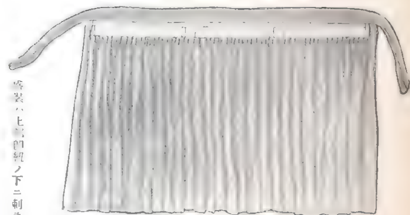
裏





第二十七圖 袴ノ圖

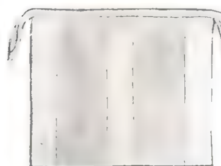
其一 ぶつる番ノ男袴(番稱「ヴアッ」)

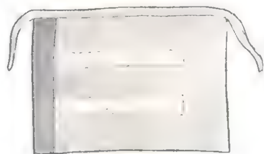


其二 こぼじ番ノ男袴



其三 ぱりじお番ノ男袴







其四 ぶつる番ノ女裙(番稱「コーン」)



其五 てぼじ、ぱりじっお兩番ノ女裙(番稱「チコペリ」)



第二十八圖　股引及脚絆

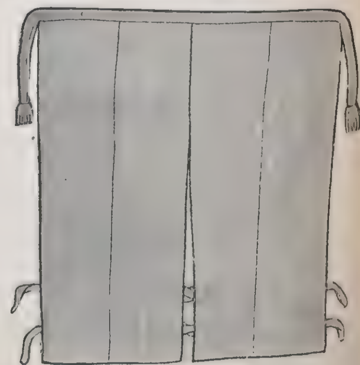
股引ノ一

（地吳絽赤黃緑ノ三片、紐鹿革）

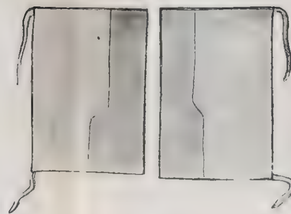


股引ノ二

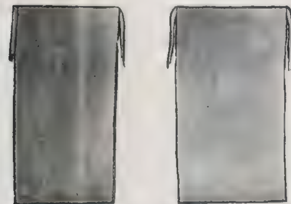
（地黒布）



脚　絆（こぼじ番ニ於テ）



脚　絆（ぶつろ番ニ於テ）



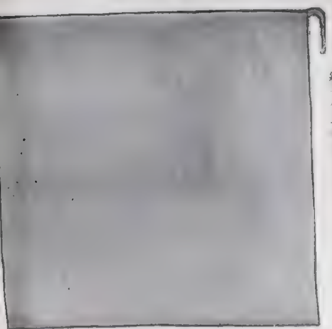
盛裝用ハ圖ノ黒色部ニ刺繡ヲ施ス

第二十九圖　雜品

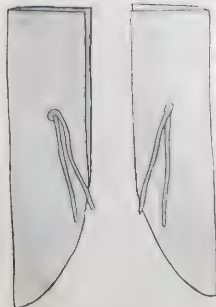
帽



負　布



足　袋



毯　布



ニ耳板ヲ用ウ

(に)手ニ施スモノ　手頸環及指環

(ほ)脚ニ施スモノ　脚飾(男子専用)

右ノ中ニハ専ラ男若ハ女ノミノ用ウルモノト双方共ニ用ウルモノトアリ。其共用スルモノノ中ニハ男女其欵式ヲ同クスルモノト異ニスルモノトアリ。又何人ニテモ之ヲ着用シ得ヘキモノト一定ノ資格アルニ非サレハ之ヲ用キルコトヲ得サルモノトアリ。又全族ニ通シテ用キラルルモノト或部族ニ限リテ用キラルルモノトアリ

本項ノ記事ニ付テハ常ニ第二十三圖乃至第二十四圖ト相對照センコトヲ要ス

(二)裝飾品ノ材料

(い)本族間ニ産スルモノ及交換ニ依テ得タルモノ　前記ノ裝飾品ハ其中一二ノモノヲ除ケハ概シテ本族ノ親シク製作スル所ニ係ル。而シテ其材料ニハ本族間ニ産出シタルモノト交換ニ依テ得タルモノトアリ。例ヘハ帽子ノ頂ニ挿ス鷹ノ羽、頭箍、脚飾等ニ施ス豹又ハ猪ノ牙、其他諸種ノ裝飾ニ用キル草木ノ花、實等ハ本族ノ獲得セルモノナレトモ銀貨、(番語「バジチーク」)銀鏈、(番語「ヤヌリユヌ」)銀瓔珞(番語「[illegible]トク」)黄銅線、小鈴、(同「カムリン」)南京玉、銅製又ハ陶製ノ釦及諸色ノ毛糸ハ交換ニ依テ得タル所トス。尚本族カ祖先ヨリ傳來セルモノトシテ珍重スル珠玉類ニハ螺製、瑪瑙製又ハ練玉製ノ小粒又ハ管玉アリ

(ろ)珠仔及釦ノ種類　現時本族ガ裝飾ノ材料トシテ用キル珠仔及釦類ハ左ノ如シ

(1)「カタ」　ハ螺製ノ小珠ニシテたいやる族ノ「カハ」ニ同シ(此ハ多ク數十個連綴シテ一條ト爲ス。本報告ニハ之ヲ珠條ト稱セリ)

(2)「カリバ」　螺製ノ圓板又ハ長方板ナリ。其中ニテ一圓銀貨大ノモノハ古代本族ニ於テ貨幣トシ

テ用キタルモノナリ

(3)「**ホラ**」ハ瑪瑙、玻璃又ハ練玉製ノ管玉ニシテ其價格頗高シ。第三十一圖ニ安原氏ガ下パイソァ社ニ於テ親シク調査シタル所ノモノヲ示ス。尚之ニ付テハ第二章中美性ノ部ニ掲ケタル頸飾ノ圖（小林氏調査）ヲ參照スルコトヲ要ス

(4)「**ルフツ**」ハ玻瑠製ノ珠仔卽南京玉ヲ云フ

(5)「**ブクイ**」ハ貝製又ハ金屬製ノ鈕ヲ云フ

(6)「**カウバイ**」ハ陶製ノ鈕

(7)「**キヌタウピン**」ハ銅又ハ黃銅製ノ半球狀ノ鈕ヲ云フ

第二　頭ニ施スモノ

此ニ頭卷、頭箍及簪アリ。帽モ亦一ノ裝飾品ナレトモ既ニ被服ノ部ニ掲ケタルヲ以テ茲ニ略ス

(一)頭箍　頭髮ノ散亂ヲ防ク爲ニ頭ニ箝ムル箍ナリ。番語ニ之ヲ「コズチ」又ハ「ジャカラウ」ト云フ　其製數種アリ　(一)珠條數箇ヲ束ネ其兩端ニ紐ヲ附シタルモノ　(二)番茄子（番語「ジャサラス」其實經約三四分）其他ノ樹子又ハ瑪瑙玉等ヲ連綴シタルモノ　(三)雜草ヲ以テ環ヲ作リ之ニ美花芳草（百合ノ花、雁來紅及藜ノ葉等）ヲ附シタルモノ　(四)木皮又ハ布地ニ羅紗ノ表ヲ附シ之ニ鈕、銀片、南京玉諸種ノ珠仔等ヲ縫附ケタルモノ　(五)冠形ニシテ各樣ノ銀片ヲ其周圍ニ瑤珞狀ニ附ス　(六)豹熊又ハ猪ノ毛皮ニテ作リタルモノ等ノ如シ　右ノ中(六)ハ頭人又ハ勇士ニ非サレハ用キルコトヲ得ス(一)(二)(三)ハ青年男女ノミノ用キル所ニシテ既婚者ノ用キサルモノ。既婚者ハ概シテ次ニ掲クル頭卷又ハ帽ヲ用ウ

頭人盛裝ノ場合ニハ頭箍又ハ帽ノ前部中央ニ「パクヽマツ」ト稱シ圓銀大ノ「カリパ」ヲ中ニシ其周圍ニ

豹ノ牙ヲ星光狀ニ插シタルモノ(參照第三十一圖ノ一)ヲ附ス。又北部ニ於テハ其上邊ニ「チーケ」ト稱シ赤及白ノ異絹ニテ圓山形ニ作リ其上ニ赤又ハ白ニ染メタル毛髮ヲ植ヱタルモノ(參照第三十一圖ノ一)ヲ加フ

(二)頭卷　頭髮ノ散亂ヲ防ク爲ニ頭ニ卷クモノニシテ總稱シテ「スキン」又ハ「ヰロク」ト云フ。男女其製ヲ異ニス

(い)男頭卷　ハ「タウポー」(土語ノ頭布ナリ)ト稱ス。黑綿布一幅ノモノ約五六尺ヲ用ウ。之ヲ頭髮ノ上ニ卷クコト土人ノ爲ス所ニ同シ

(ろ)女頭卷　ハ「タラル」ト稱ス。赤、紺、淺黃等ノ綿布約六七尺ヲ用ウ。之ヲ頭髮ト共ニ卷ク。頭人族ハ其兩端ニ刺繡ヲ施シ又珠條類ヲ綴着ケ銀鏈、毛糸紐ヲ附シテ之ヲ飾ル　盛裝ニハ銀鏈、珠條鏈又ハ毛糸ノ總ヲ以テ作リ頭髮ノ根元約二三寸ノ所ニ附着シテ之ヲ頭ニ卷ク。其長約五尺トス。女用ノ頭卷ハ屢頭箍ト併用セラル

(三)簪　銀又ハ黃銅ニテ作リ銀貨、珠條、毛糸等ノ飾ヲ附ス。北部ニ於テハ女子ノミ之ヲ用ウ。「ハラハラツ」(長二寸程)又ハ「アッン」(長五六寸)ト云フ。南部ニ於テハ男女子共ニ之ヲ用ウ「チーヽリー」ト云フ何レモ盛裝ノ場合ニ此等數本ヲ頭箍ノ上ニ插ス(參照第三十一圖ノ二)

又「ジーイジーイ」ト稱スル羽飾アリ(こぼじ番ニテハ「バツクツク」トモ云フ)此レハ鷹又ハ山雞ノ類ニシテ一本又ハ二本ノ頭髮又ハ帽ノ上ニ插ス。其中鷹ノ羽ハ勇士ノ表章ニシテ出草シタル者ニ非サレハ之ヲ施スコトヲ得ス(參照第二十三圖乃至第二十五圖中男子ノ盛裝)

第三　耳ニ施スモノ

本族一般ニ耳朶ニ孔ヲ穿チ之ニ裝飾ヲ施ス風アリ。各部族大體ニ於テ其款式ヲ同クスレトモ(本族固有

ノモノ）ぱりじゃお番（サブデク群社ヲ除ク）ノミハ之ヲ異ニス

（一）本族固有ノモノ　サブデク社以北ノ諸社ニ於テ男女共ニ（但シ北ぱいわぬ番ノ南部及こぼじ番、サブデク群社ニ於テハ女子ノミ）耳鈎（番語「イカウ」）ヲ用ウ。銀製又ハ黄銅製ニシテ土人婦女ノ用ウル所ニ同シ。但シ未婚ノ女ハ之ニ「バツバツ」ト稱スル瑤珞狀ノ飾ヲ附ス。此ハ珠條又ハ毛糸ニテ作ル。（參照第二十一圖ノ三）本族ニ於テ女子ノ處女タルト否トハ其耳飾ヲ見テ之ヲ識別スルコトヲ得

穿耳　耳飾ヲ施ス孔ハ兒童生後數十日又ハ一二年ノ後ニ始テ之ヲ穿ツ。針ヲ以テ耳朶ヲ貫キ之ニ絲ヲ透シ置キ後屢之ヲ取換ヘ最後ニ耳飾ヲ施ス

（二）ぱりじゃお番（サブデク群社ヲ除ク）ニ於テ男女共ニ耳板（番語「ビキン」）ヲ用ウ。但シ兩者其形ヲ異ニス（參照第二十五圖ノ二乃至五）

（い）男用耳板　木製（番語「ジャバルク」土語（山猪咬）ノ木ヲ用ウ）ノ徑八分、厚四分程ノ圓板ニシテ之ニ鉛板ヲ接合セリ。此鉛板ニハ種々ノ彫刻ヲ施シ赤青等ノ漆ヲ塗リ中央ニ玻璃ノ破片ヲ箝込ム

（ろ）女用耳板　夜光貝ヲ磨テ徑六分厚三分程ノ圓板ト爲シタルモノナリ

穿耳　本番ノ耳飾ハ他ノ部族ニ比シテ大ナルガ故ニ其之ヲ施ス孔モ亦大ナリ。從テ之ヲ穿ツノ施術ハ數回ニ亘ル。最初ハ針ヲ以テ穿チ之ニ絲ヲ透シ置キ月餘之ヲ去テ粟ノ葉尖又ハ竹葉ノ未開カサルモノ一本ヲ透シ更ニ月餘ヲ經テ二本ヲ透シ爾後次第ニ之ヲ增加シ數十本ヲ透シ得ルニ至ル

（附記）ぱりじゃお番高士佛社ニハ穿耳ニ關シテ下ノ如キ傳說アリ　昔時或ル番丁考フラク我等ノ眼ハ光レトモ耳ハ少シモ光ラス。若シ耳ガ光ラハ定メテ美シカラント終ニ工夫シテ耳朶ニ孔ヲ穿チ之ニ「カコン」（昆蟲ノ名。我國ノ玉蟲ノ如シト云フ）ノ羽ヲ張リシニ非常ニ美シカリケレハ社民等之ニ傚ヒ終ニ今日ノ耳板ヲ生スルニ至レリト　又曰ク今ヨリ七八代前當社頭人チャイコン・マジャカ

スハ其兒ノ耳朶ヲ穿チ約五寸ノ鉛線ヲ輪ニシテ之ニ箝メタルニ美シク社民之ヲ賞讃シタリ。此レヨリ社民等ノ模倣スル所ト爲リ終ニ本番一般ニ行ハルルニ至レリ云々

第四　頸及胸ニ施スモノ

(一)頸飾　ハ數條ノ南京玉ヲ並聯シテ作リ之ニ鈕又ハ管玉ヲ加ヘ其兩端ニ紐ヲ附ス。之ヲ「ザカク」又ハ「バブツクル」ト云フ。此ハ頸ニ纏ヒ紐ヲ頸後ニ結フ。又之ニ銀鏈又ハ珠條ヲ附シ胸前ニ垂ルルモノモアリ

(二)胸飾　銀鏈ニテ作リ之ニ大小ノ銀貨、銀瑤珞ヲ附ス。之ヲ「バラバク」「ギマネン」又ハ「ギャリア」(土語銀鏈ノ)ト稱シぱりじゃお番ニ於テ「カジャイ」ト云フ　此ハ右肩ヨリ左腋下ニ懸垂ス。但シこぼこ、ぱりじゃお兩番ニ於テハ女ハ之ヲ頸ニ掛ケテ胸前ニ垂ル。胸飾ニハ「ジャバツ」(檳榔子入)又ハ「カジュブン」(銃丸入)ヲ連接シタルモノアリ

第五　手足ニ施スモノ

手足ニ施スモノニハ腕環、指環及脚飾アリ(參照第三十二圖)

(一)腕環　ニ二種アリ　(一)ハ「カジャツ」ト云フ。銀製又ハ黄銅製ノ環ニシテ之ヲ手頸ニ施スコト土人ノ用キル所ノモノニ同シ　概シテ未婚青年ノ女子ハ數條ノ珠條ヲ聯ネタルモノヲ用ウ　又ぶつる番マヌル社ニハ羌ノ足ノ皮ニテ作リタルモノアリ。此レハ小兒用ナリト云フ　(二)ハ「ゾニト」ト云フ數條ノ銀線又ハ黄銅線ヲ扭チテ作ル

(二)指環　「チャラ」ト云フ。銀又ハ黄銅ニテ作ル。土人ノ用キルモノニ同シ

(三)脚飾　「チャカツ」ト稱シ男子ノミ之ヲ用ウ。猪ノ毛皮(其皺ノ所ナ取ル)ヲ以テ幅二三分ノ環狀ニ作リ之ヲ踝ノ上ニ箝メ紐ヲ以テ結着ス

第六　携帶品ニ施スモノ

番刀及槍ハ武器ナリト雖之ニ諸種ノ裝飾ヲ施シ其威容ヲ作ル點ニ於テハ寧ロ男子ノ裝飾品タリトス。卽鞘及柄ニ彫刻ヲ施シ紅毛又ハ土人ノ辮髮ヲ附スルガ如シ　煙管及胸掛袋ノ如キ亦裝飾ヲ施ス者多シ此等裝飾ノ中ニハ男女ノ資格(例ヘハ家柄。武勇)ヲ表スルモノ少カラス　番刀及煙管ノ裝飾ニ付テハ既ニ本章第二節中美性ノ部ニ於テ其一班ヲ圖示シタル所ノ如シ

第三項　毀飾及美容

第一　總說

本族ニ行ハルル美容ノ法ハ前二欵ニ述ヘタルモノノ外刺黥及穿耳ノ如ク直接身ニ施ス毀飾アリ又髮ヲ整ヘ鬚ヲ剃ル等ノ整容アリ。而シテ本族ニハ絕ヘテ齒ヲ缺クノ慣習ナク唯齒ヲ涅スルノ風アリ　右ノ中穿耳ハ既ニ前欵第三ニ於テ說述シタルヲ以テ茲ニ略シ其餘ニ付說述ス

第二　刺黥

(一)總說　本族ニ於テ刺黥ハ單ニ體貌ノ美觀ヲ添フルガ爲ニ之ヲ施ス。蓋シ刺黥ハ古代ニ於テハ頭人系統ヲ表章スル爲ニ施シタルモノタリシト雖モ後代頭人家ガ特ニ其家ニ對シテ功勞アリタル者ニ之ヲ許スニ至リ又更ニ何人ニ拘ハラス頭人家ニ對シテ免許料(番語「シニトコシ」直譯スレハ贖財)サヘ納レハ之ヲ爲スコトヲ得シムルニ至リ刺黥ハ最早門閥ヲ表章スルモノニ非スシテ單ニ體貌ノ美ヲ飾ルニ過キサルモノト爲レリ

刺黥ハ番語ニテ「ブチク」(之ヲ施スナ「ブンチク」)ト云フ。刺繡、彫刻ト其語ヲ同クス。卽たいやる族ノ「バッタシ」ト同義ニシテ模樣ヲ劃スルノ義ナリ。邦人ノ文字反繪畫モ亦番人之ヲ目シテ「ブチク」ト云フ

其四　スボン社頭人家住屋ノ前面



其五　同社ノ[illegible]



其六　ぶもじお番社丹路社ノ住屋



其七　[illegible]



第十二圖　第二款式ノ住屋及附屬建物

其一　北ぱいわぬ番スボン社ノ住屋
（側方ヨリ見タルモノ）

其二　同　背面ヨリ見タルモノ



其三　同前面右ハ炊事場



第十三圖　第二欵式住屋建築圖



其一　地基ヲ堀下ゲ周圍ニ石積ヲ作ル



其二　柱ヲ立テ横梁ヲ架ス



其三　後室ノ屋根下地ヲ作ル



其四　前室ノ屋根下地板ヲ張ル

第十三圖　第二次式住屋建築圖



其一　地基ヲ堀下ク周圍ニ石積ヲ作ル



其三　後室ノ屋根下地ヲ作ル

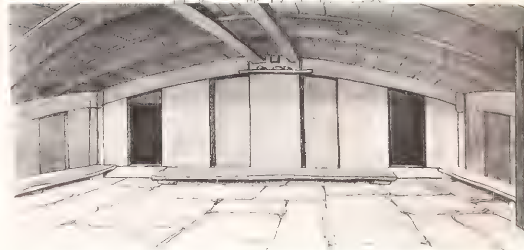


其二　柱ヲ立テ横梁ヲ架ス

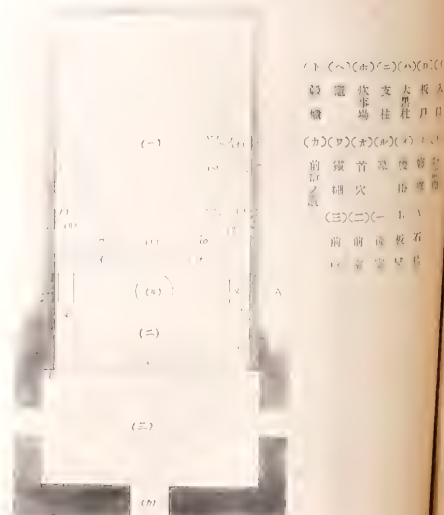


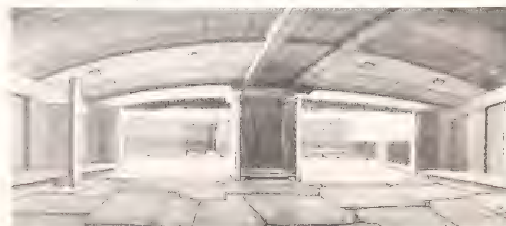
其四　前室ノ屋根下地設ヲ[illegible]


其一　正面圖


其三　前室內部ノ正面


其五　後室內部ノ正面


其二　屋內排置圖


其四　前室內部ヨリ戸口ヲ通シテ前庭ヲ望ム


其六　後室內部ノ右側面

刺黥ハ現時ぱりじゃお番ニハ全ク行ハレス。こぼじ番ニハ之ヲ行フ者頗減少シ上さりせぬ番ニ於テハ婦女ノミ之ヲ施シテ男子ハ施サス。其他ノ部族ニ於テモ漸次減少セントスル傾向アリ

(二)刺黥ノ款式　男女之ヲ異ニス

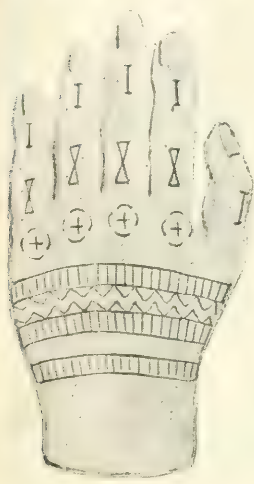
(い)男子　ハ腕、胸及背ニ施ス。但シ上さりせぬ番ニ於テハ胸ノミニ施ス。又ぶつる番ノ一部ニ於テハ脚ノ上髀部ニモ之ヲ施スモノアリ（參照第十三圖）

男子ニ施ス刺墨ノ模樣ニハ　ハ「カラビカブ」（折線狀）　ハ「バロアジス」（齒狀）　ハ「カルタイタイ」（網狀）　)(　)(等ハ「パルウカヌ」（波形弧線）ニシテ多ク背ニ施ス　ハ「スマカチ」又ハ「マロラカチ」（直線）ニシテ多ク胸ニ施ス

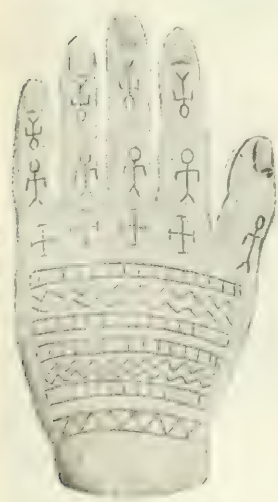
(ろ)女子　ハ手甲及指甲ニ施ス。其指甲ニ施スモノハ平民ハ第一、第二關節ノ間ニ止リ頭人族ハ更ニ第三關節マテニ及フ（參照第十四圖）

手背ニ施ス模樣ニハ　「カルタイタイ」（網狀）　「カバリヤヌ」又ハ「バロアジス」（齒狀）　「カラビカブ」（波形）ノ三樣アリ　又指背ニ施スモノニハ　及　ハ共ニ「バルザゥザゥ」　及　ハ共ニ「チモモーシ」此ノ二ハ頭人族ニ限ル　「バルタラ」此ハ平民ニ限ル

第三十四圖　婦女ノ刺墨



其一　スボン社ノ頭人族



其二　マカザヤザヤ社ノ頭人族

(三)刺黥ヲ爲シ得ヘキ資格及年齢

(い)資格　既ニ述ヘタルガ如ク古代ニ於テハ刺黥ハ頭人族ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サリキ。然レトモ今日ニ於テハ何人モ頭人家ニ對シテ贖財ヲ與ヘテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク別ニ一定ノ資格アルヲ要セサルナリ。然レトモ男子ニ在リテハ妄ニ之ヲ爲ストキハ却テ族衆ノ嗤笑ヲ招クヘキガ故ニ勢力者ニ非サレハ敢テ之ヲ爲サヽルナリ。又女子ハ何人ガ爲スモ差支ナシト雖モ唯指甲ハ平民家ハ第一、第二ノ關節間ニ止リ第二第三關節ノ間迄ハ頭人族ニ限ラル

刺黥ニ對スル贖財ハ番社ニ依テ異リト雖モ男女ニ拘ハラス普通酒一甕及鐵器又ハ豚一頭トス。但シ女子ノ刺黥ニ對シテ之ヲ免スルモノアリ(マヌル群社及るかい番諸社ノ如シ)

第三十五圖　刺墨ヲ行フ圖

ぶつる番マヌル社ニ於テ術者刺針ヲ局部ニ當テ刀背ヲ以テ之ヲ打ツ



（ろ）年齢　男女共ニ成年ニ達シタル後之ヲ行フコトヲ得。然レトモ此ハ必シモ爲サヽルヘカラサルモノニ非サルヲ以テ二十五六歳ニ至テ行フモノモアレハ三四十歳ニ至テ行フモノモアリ

（四）施術者

（い）術者ノ資格　本族ニ於テ刺黥ノ術者ト爲ルニハ男女別ニ其資格ヲ要セス單ニ頭人家ノ許諾ヲ受クルヲ以テ足ル。但シ或番社ニ於テハ之ヲ頭人族ニ限ル（北ぱいわぬ番コリバル群社ニ於テ術者ハチェーババオ社頭人家ノ婦女ニ限レリ）又或番社ニ於テハ術者ト爲ルニハ頭人家ニ酒及鐵器ヲ納レテ其許諾ヲ受クルコトヲ要ス（スボン群社ノ如シ）

（ろ）施術料　術者ニ與フル報酬ハ番社ニ依テ差異アリ。而シテ男子ニ施スモノハ女子ニ施スモノヨリハ概シテ多額ナリ。是其手術ノ困難ニシテ時日ヲ要スルコト多キニ因ル　下ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタルモノヲ掲ク　上さりせぬ番マガヽトナ兩社ニ於テ男女共ニ小豚一頭及粟二小把ヲ要ス

但頭人家ノ女ニ施スモノハ之ニ酒一甕ヲ加フ。是平民ノ女ニ施スモノヨリ其刺スル所多キニ因ル

ぶつる番カピヤガヌ社ニ於テハ男子ハ銃二、鐵耙一、鐵大鍋二、女子ハ中鍋一、酒一甕ヲ要ス　同マスル群社ニ於テハ男子ハ銃一、中鍋一、女子ハ番布半端ヲ要ス　こぼじ番内文社ニ於テハ男子ハ銃一、鐵耙一トシ別ニ豚一頭ヲ屠リ其半ヲ分ツ。女子ハ斧一刀一、酒一甕及銀一圓ヲ要ス　同番内獅頭社ニ於テハ男女ヲ別タス黑布一反、大鐵鍋一、大粟餅十及粟酒五壺鹽豚三片ヲ要ス　北ぱいわぬ番チ・ジャカブス社ニ於テ男子ハ豚一頭ヲ屠リ別ニ大鍋及大鐵耙各一、女子ハ小鉢一枚ヲ要ス

（五）刺墨ノ方法　刺黥ハ多ク冬期ニ於テ之ヲ行フ。是暑キ時ニ行フトキハ其局所腫爛シ刺班ノ美ヲ缺ク虞アルニ因ル

刺墨ニハ一般ニ刺針及槌ヲ用フ　針ハ多ク柑橘類ノ刺ヲ束ネテ之ヲ作リ槌トシテハ小刀ノ背又

ハ鐵ノ小片ヲ用ウ

刺ヲ施スニハ　先ツ其局部ニ消炭ヲ以テ下書ヲ劃ス。スボン群社ニ於テ細竹ヲ割リ╲╱狀ニ曲ケ其末端ニ鍋墨ヲ塗リテ筆ノ如クニ用ウト云フ　次ニ左手ニ刺針ヲ持シ其尖端ヲ局所ニ當テ右手ニ槌ヲ持シ輕ク針ノ柄ヲ打ツトキハ針端皮膚ヲ刺シ血出ツヘシ。然ルトキ其血ヲ拭ヒ直ニソレヘ鍋墨ヲ磨込ムコト數回ス。一部ノ施術了ル毎ニ粟莖ノ灰ヲ塗附シ後冷水ニテ洗滌ス（參照第三十五圖）女子ノ刺墨ハ一日又ハ二日ニテ足ルト雖モ其疼痛ハ週餘ニ及フ　男子ハ胸、背、腕數回ニ分テ之ヲ行フ。其腕又ハ背ノミニテモ疼痛甚シク一日ニ爲スコトヲ得ス若干ノ時日休マサルヘカラサルガ故ニ全部之ヲ爲スニハ半月乃至一月ヲ要スト云フ

第三　毛髮ノ整美

一）頭髮

い）整方　男女共ニ最初ハ頭髮ヲ自然ニ任セ置キ五六歳ニ至テ始テ之ヲ整フ。其整ヘ方ハ男女ニ依テ異ルコト左ノ如シ　本記事ニ付テハ第二十三圖乃至第二十五圖ヲ參照スルコトヲ要ス

(1)男子　本族固有ノ法ハ垂髮式ニシテ近代纏髮式ヲ爲ス者多シ。而シテぱりじゃお番ノ南部ニハ今尚支那人ニ傚ヒテ辮髮ヲ爲ス者アリ

(a)垂髮式　五六歳ニ至レハ前方ハ眉ノ上、側邊ハ耳ノ上ニテ剪揃ヘ後髮ノミヲ長ク背後ニ垂ル（第三十六圖參照）而シテ其散亂ヲ防ク爲ニ頭縋ヲ施ス　近時後髮ニ布條ヲ束ネテ之ヲ頭ニ卷纏スル者多シ

(b)辮髮式　領臺前清國政府ハこばじ、ばりじゃお兩番ノ男子ヲシテ其髮ヲ辮セシメタリシガ領臺ノ後こばじ番及サブデク群社ハ之ヲ廢シタルモ牡丹、加芝來兩社以南ばりじゃお番ハ尚此ノ辮髮ヲ蓄

ヘリ。即該番ニ在リテハ兒童一箇月ノ後頭髮ヲ剃落シ四五歲ニ至レハ中央ニ徑四寸許ヲ殘シ其周圍ヲ剃ル。後髮ノ長七八寸ニ至レハ其末端ニ赤糸ノ總ヲ縫付セ土人ノ如ク之ヲ辮ト爲ス(第二十五圖ノ五參照)爾後時々小刀ニテ其周圍ヲ剃ル

(2)女子 ハ前方ニ於テ其髮ヲ兩分シ之ヲ後方ニ廻シ麻糸ヲ以テ之ヲ束ネ其末ヲ背後ニ垂ル(垂髮式) 近代其末端ヲ三分シ色絲、布條又ハ銀鎖ヲ加ヘ編ミテ辮ト爲シ之ヲ頭ニ纏フ(纏髮式)

(ろ)洗方 頭髮ハ時々之ヲ解キテ水ニテ洗フ。近時土人ニ倣ヒ茶粿(石鹼ノ用ヲ爲スモノ)ヲ使用スルモノアリ。又ぱりじゃお番ニ於テハ「コリザイザイ」ト稱スル葛ノ莖ヤ根ノ粉末ヲ用ウト云フ 洗ヒタル後櫛(交換ニ依テ得)ニテ梳ツリ後之ヲ整フ 凡テ未婚ノ男女ハ毛髮ノ手入ニ怠リナク之ニ豚脂ヲ塗附シテ其色ツヤツヤシト雖モ既婚

第三十六圖　青壯年者ノ垂髮

(北ぱいわん番チャシャカブス社番)



者ハ手入ヲ怠ルガ爲ニ不潔ナルヲ免レス。本族ノ男女ニシテ髮ヨリ惡臭ヲ發シ蝨ヲ生スルモノハ少カラス

(二)眉及額毛　女子ニ在リテハ眉ノ兩端ノ上部ノ毛ヲ拔キ之ヲ細クシ三日月形ニ作ル額ノはへぎはモ亦之ヲ拔テ三日月形ニ爲ス　女子ガ此等ノ生毛ヲ拔クニハ指ニ灰ヲ附シ爪ニテ拔去リ或ハ土人婦女ノ爲スガ如ク其局所ニ灰ヲコスリ附ケ細キ絲ニ縒ヲ掛ケタルモノヲ毛ニ引掛ケテ拔ク

男子ハ此等ノ手入ヲ爲サス

(三)鬚髯　ハ一般ニ之ヲ除去ル。此ハ指ニテ又ハ鑷子(交換ニテ得タルモノ)ニテ一本ツツ引拔ク。近時小刀ヲ用キテ剃去ルモアリ

(四)腋毛及陰毛　さりせぬ諸番及北部ノ北ばいわぬ番ニ於テハ腋毛及陰毛ヲ除去ル者多シ。何故ニ之ヲ除クカトノ問ニ對シテハ陰毛密生スルトキハ蝨ヲ生シ易キ故ナリト云ヒ或ハ敵ニ殺サレタルトキ陰毛ヲ見ラルルガ恥カシキ故ナリト云ヒ或ハ交接スルニ快味少キ故ナリト云ヘリ　之ニ反シテリキリキ以南即北ばいわぬ番ノ南部及こほじぱりじやおノ兩番ニ於テハ一般ニ之ヲ除去スルコトヲ嫌ヒ陰毛ヲ除ケハ懷胎スルコト少シト曰ヘリ

第四　涅齒

本族ノ青年男女ノ間ニハ一般ニ其齒ヲ染ムル風習アリ。檳榔子ヲ有スル番社ニ於テハ常ニ之ヲ嚙ムガ故ニ其齒自然ニ黑ク別ニ之ヲ染ムルヲ要セサルモ尙他ノ植物ヲ用キテ之ヲ染メ其色ノ鮮カナランコトヲ欲スル者アリ

齒ヲ染ムルニ用キルモノハ「タモロン」(葛藤ノ一種)ノ細莖、「ケツン」(木ノ名)ノ嫩芽、「ダケル」(草ノ名)ノ實ニシテ此等ハ

閑ニ任セテ齒ニ磨附ケツツ又ハ之ヲ以テ齒ヲ突キテ汁ヲ出シツツ次第ニ其齒ノ染マルヲ待ツ。ばりじやお番ニ於テ「タモロン」ノ外「カジヤバヌ」（黃楊）ヲ用ウ。此ハ鐵ヲ燒キ其上ニ其樹片ヲ載セソレヨリ流出ツル油ヲ取テ齒ニ塗ルナリ

第三款　飲食

第一項　總說

第一　主食。副食。調味及嗜好ノ物料

本族ノ飲食物ハ大體ニ於テ主食物、副食物、調味物及食時外ノ嗜好物（點心）ニ別ツヘシ

(一)主食物　本族モ亦吾人ノ如ク食事ハ毎日朝、午、夕ノ三回ニ於テス。（稀ニ午、夕ノ二回ニ爲スモノモアリ。らばる番上パイリン社ノ如シ）其主食物ハ芋及番諸ヲ最トシ粟、稗又ハ米之ニ次ク。但シ米ハ上さりせぬ、らばるノ兩番及ばりじやお番ノ一部ニ食用トセラルルモ他ノ諸番ニハ古來之ヲ禁忌シ近代漸ク少シク之ヲ食スル者アルニ至レルニ過キス

（附記）本族ニ於テ上さりせぬ、るかいノ兩番及ばりじやお番中ノすかろ部落ヲ除ケハ米ヲ耕作スルコトヲ禁忌シ若之ヲ犯セハ粟神ノ怒ニ觸レ粟ノ凶作ヲ來スヘシトセリ。然レトモ此禁忌ハ近代漸ク破レばりじやお番ニ於テハ既ニ水田ヲ開テ之ヲ耕作スル者アリ。他ノ諸番ニ於テモ之ヲ作ルハ不可ナレトモ單ニ食スルハ差支ナク又住屋内ニ於テ之ヲ炊クハ不可ナルモ屋外又ハ別ニ設ケタル炊事小屋ニ於テ炊クハ差支ナシトスル者アルニ至レリ。而シテ近年ハ又官ノ勸奨ニ依リ土人ヲ雇入レ溪底ニ水田ヲ開キ之ヲ耕作スル者アルニ至レリ

上記各主食物ノ割合ハ番社ニ依テ同シカラス。其一二ノ例ヲ擧クレハ　らばる番諸社ニ於テハ番藷ヲ最トシ乾芋、樹豆、粟又ハ米之ニ次ク　北ばいわ番ノスボン群社及こぼじ番内獅頭社ニ於テハ芋最多ク番藷之ニ次ク。其割合芋五、番藷四、其他一ナリ。粟ハ酒又ハ餅トシ飯トスルコト少シト云フ　ぱりじゃお番牡丹社ニ於テハ芋ヲ主食トシ之ニ少シノ粟ヲ混ス　同番八瑤社ニ於テハ朝ハ芋、午ハ米又ハ粟ノ飯、夕ハ番藷ヲ食シ高士佛社ハ多ク朝及午ハ芋、夕ハ米飯ヲ食スト云フガ如シ

(二)副食物　ニハ豆、瓜其他蔬菜ノ類及鳥獸魚介ノ肉アリ　右ノ中豆、瓜及蔬菜ハ本族ノ農作スル所ニシテ其品土人ノ作ル所ニ同シ。尚此外ニ本族ガ山野ニテ採取スル菌類及筍等アリ　獸類ニハ家畜トシテ牛、豚、獵獸トシテハ鹿、猪、羌及羊アリ。此中牛ハ現時ぱりじゃお番ノ一部ニ於テ飼養セラルルノミ　魚介ハ本族ガ溪流ニテ漁撈スル所ニシテ鯉、鮒、蟹、蝦、蜆等ノ諸種アリ。ぱりじゃお番ノ若干ノ番社ハ海ニ濱スルヲ以テ其社民等ハ鯛、鰡、飛魚及海龜等ヲモ捕食ス　鳥ハ多ク禁忌シテ食セス。近代ぶつる、北ばいわ、南番ニ於テハ漸ク雞ヲ飼養シ其肉及卵ヲ食スル者アリ。又るかい番ニ於テ雉、鳩等山野ニ自生スル鳥ヲ捕食スル者アリ

(三)調味物　本族ニ取テ飮食ノ調味ニ必要ナルモノハ鹽ナリト雖モ此ハ本族間ニ産出セサルヲ以テ悉ク交換ニ依テ取得ス　鹽ニ次テ必要ナルモノハ薑、番薑、蜂蜜等ナリ。此等ハ何レモ番地ニ産出ス

砂糖ハ本族ノ嗜好スル調味品ナレトモ其價廉ナラサルヲ以テ之ヲ用ツル者少シ

(四)食時外ノ嗜好物　ハ煙草及檳榔子ヲ最トシ時々ノ果實之ニ次ク。何レモ本族間ニ産出スルモノナリ。唯檳榔子ハ之ヲ産セサル所多キヲ以テカヽル番社ニ在リテ土人ヨリ交換ニ依テ之ヲ得

第二　飲用水及發火器

(一)飲用水　本族ハ未タ鑿井ノ法ヲ解セス。日常ノ飲料水ハ之ヲ附近ノ水溜ヨリ汲取ル水溜ハ湧泉又ハ岩石等自然ニ水ノ滴ル所ニ石ヲ疊ミテ作リタルモノニシテ「チャチス」ト稱ス　若シ附近ニ適當ノ水溜ナキトキ或ハ水溜アルモ冬日乾燥季ニ際シ水涸ルルトキハ遠ク溪底ニ降テ之ヲ汲ム。時ニ降雨ヲ待チ雨水ヲ受ケテ之ヲ貯フル者アリ　近時筧ヲ架シテ遠ク上方ノ溪流又ハ水溜ヨリ水ヲ引ク者アリ

雨水ヲ取ル法二アリ。一ハ樹幹ニ鬼茅數本ヲ結ヒ其末端ヲ水缸又ハ竹筒ノ中ニ置ヘ以テ雨水ヲ之ニ導クモノ、二ハ大鍋ヲ軒下ニ置キ屋根ヨリ流下スル雨水ヲ承クルモノ是ナリ

筧(番語「ラジン」)ハ竹ヲ二ニ割リ節ヲ拔キ之ヲ幾本モ聯接ス。其長キモノ數丁ニ達ス。此ハ多ク頭人家ニテ又ハ部落民共同ニ之ヲ作ル。近時警察官駐在所ニハ此筧ノ設置アリ附近番民ハ概シテ其恩ニ頼ル筧ノ末端ニハ其下ニ石板石ヲ敷キ水ノ落下スルニ任セ或ハ水槽又ハ大鍋ヲ置キテ之ヲ受ク。水槽(番語「バロコル」)ハ木ヲ刳キテ作ル。其形長方ナリ

本族ガ溪流、水溜又ハ筧ニ就キ水ヲ汲ミ之ヲ運フニハ瓢又ハ竹筒ヲ用ウ近時交換ニ依テ得タル石油罐及「バケツ」ヲ用ウル者アリ(參照第三十七圖)　飲料水ハ屋内ニ入レ之ヲ竈側ニ在ル水缸ノ内ニ貯フ

(二)發火器　本族ハ古代火ヲ作ルニ木燧ヲ用ヰ漢人ト接觸シタル以來鐵燧ノ用ヰ([illegible]番加芝來、高士佛等ノ番社ニ於テハ順治十八年始テ車城ニ來住シタル漢人ヨリ之ヲ得タリト云フ)近代ニ至リ一般ニ燐寸ヲ用ウ

木燧ハ現時「パリシ・タ・キナジ゛ン」(番社ノ不吉ヲ祓ノ祭祀)ノ時ニノミ之ヲ用ウ其法下ノ如シ　豫メ「カタジーフ」(土語面頭果)ト稱スル木ノ能ク枯レタルモノヲ以テ雌雄ノ燧具ヲ作ル。其大小一ナラサレトモ雌長約八九寸

巾一寸、厚六七分其一端ニ小孔ヲ穿ツ。雄ハ其長約八九寸、圓徑五分ノ棒ニシテ其末端ヲ尖ラシテ錐ノ如クス。火ヲ發スルニハ雌片ヲ片足ニテ踏ミ之ヲ押サヘツツ雄片ヲ其ノ孔ニ挿込ミ錐ノ如ク之ヲ揉ムトキハ次第ニ熱シ來リ穴ノ周圍ニ木屑ヲ生シ煙ヲ放チツツ數十分ノ後終ニ發火スルニ至ル。然ルトキハ之ヲ火繩ニ移シ火繩ヨリ茅ニ、茅ヨリ薪ニ移ス　火繩ハ赤榕ノ內皮ヲ取リ之ヲ乾カシ後敲キテ纖維ト爲シ綯ヒテ繩狀ニ作リタルモノナリ

鋼燧(番語「ヽチキス」)ハ雌雄二片ヨリ成ル。雌ハ長約三寸、巾六分ニシテ其中央ニ凹所アリ雄ハ長二寸巾ハ雌ニ同シ。火ヲ發スルニハ雌ノ凹所ニ火媒ヲ附シ雄ヲ以テ之ヲ打ツ。然ルトキハ火發シテ火媒ニ移ルナリ　火媒ニハ「カライライ」(かぢノ木)ノ內皮ヲ日ニ乾シ之ヲ敲キテ綿ノ如クシ消墨又ハ鍋墨ヲ混シタルモノヲ用ツ

第三　飲食ニ關スル場所及用具

(一)飲食ニ關スル場所

(い)炊事場　ハ每家之ヲ其住屋內ノ一隅ニ設ク。炊事場ニハ竈、薪置場及食品、食器ノ置場アリ。竈ハ石塊又ハ古キ鐵器類ヲ五德形ニ立テ鍋ヲ掛クル所ト爲ス。北ばいわ番ノ南部及こぼじ番ニ於テハ別ニ前庭ノ石垣ノ一部ヲ闕キ竈ヲ作リ之ニ屋根ヲ附シ以テ米ヲ炊ク所ト爲シタルモノアリ(此ハ新ニ住居ノ部ニ於テ述ヘタル所ノ如シ)

(ろ)食事場　食事ハ奥室ニ於テス。一家團欒鍋又ハ飯笊ヲ圍テ之ヲ爲ス(參照日常雜項第二ノ一)

(二)飲食用具　本族ニ於ケル飲食物ノ調理及貯藏ノ方法ハ頗ル簡單ナリ。從テ又之ニ要スル器具レ頗ル簡單ニシテ其品數モ多カラス　飲食用具ノ中鐵銅器及陶器ハ悉ク交換ニ依テ取得シ他ハ本

族自製作スル所ニ係ル。其重ナルモノ左ノ如シ　本記事ニ付テハ第三十九圖ニ掲クル所ヲ參照ス
ルコトヲ要ス

(い)鍋　悉ク平鍋ニシテ其底淺ク土人ノ用ヰル所ニ同シ。之ニ鐵製ト黃銅製トアリ　鐵製ハ「ハリ[illegible]」ト稱ス。其小ナルモノ徑約一尺。中形ノモノ約一尺五寸ニシテ「キ、パロガ」ト稱シ大形ノモノハ徑約二尺五寸ニシテ「ササブラヌ」ト云フ　黃銅製ハ徑一尺乃至一尺五寸凡テ之ヲ「ブラバ」ト云フ　鍋蓋ニハ姑婆葉又ハ大ナル木鉢(番語「スクブン」)ヲ用ウ　鍋敷ハ「タカジ」又ハ「バタカル」ト稱シ割竹又ハ籐條ヲ編ミテ作ル

粟飯ノ煮立チタルトキハ焦ケツカサル樣ニ「チプン」(めしかき棒)ヲ用ヰテ之ヲ攪和ス。チプンハ木製約二尺乃至二尺五寸ノ〔図〕形ノ棒ナリ　又既ニ其煮エタルモノヲ飯笊又ハ飯鉢ニ移スニハ「キジン」(飯匙)ヲ用ウ。キジンハ木製〔図〕形ノ匙ナリ

(ろ)庖刀　獸類ヲ解體シ之ヲ切ルニハ番刀ヲ用ウ。肉類、魚類及蔬菜ヲ細切スルニハ小刀ヲ用ウ　此等刀類ヲ磨クニハ粘板石ニテ作リタル砥(番語「タカ」)ヲ用ウ

(は)俎　番語ニテ「テジ」ト云フ。長一尺乃至一尺五寸、巾八寸乃至一尺、厚六七寸ノ間ニ在リ。此ハ食料ヲ切ルトキまな板ト爲リ又食器及食物ヲ載スル臺ト爲ル。ぶつる番ノ南方及北ぱいわ番ノ北方ニ於テハ少シク其中央ヲ凹メアリ

(に)臼及橋　臼(番語「バラリ」)ハ圓木ヲ刳キテ作ル。口徑約八寸乃至一尺二寸、高一尺五寸乃至二尺五寸、胴ノ中央部稍ク鼓ニ似タリ。又杵(同「カスル」)ハ長一尺五寸乃至二尺ノ圓キ棒ナリ。此等ハ以テ粟、稗、米等ヲ搗テ其殼及糠ヲ去リ又ハ粟、落花生等ヲ搗テ粉ト爲シ又ハ蒸粟、蒸米ヲ搗テ餅ト爲スニ用ウ　[illegible](番語「ト[illegible]」)

ガヒ」)ニハ底アリ穀類ヲ貯藏スルニ用ヰ。蒸桶ニハ底ナシ米、粟ヲ蒸スニ用ウ。其ニ木ヲ刳抜テ之ヲ作ル。蒸桶ヲ鍋ニ掛クルトキハ底ニ竹簀ヲ置テ蒸籠トス

(ほ)鉢、皿、杯類　本族ノ自製品ニハ木鉢(番語「リガジャ」)木杯、竹筒(同「バチヨコン」)及瓢杯(同「ジヰイ」)アリ。此中木杯ニハ單杯ト聯杯ノ二種アリ。單杯ハ(「カホアエル」又ハ「カタタイル」)ト稱ス。聯杯ハ「ラガル」ト云ヒ二個ノ杯ノ聯接スルモノニシテ合飲ヲ爲ス場合ニ用フ

交換ニ依テ得タルモノニハ陶製又ハ磁製ノ井鉢(番語「ワコン」)飯鉢(同「ジメラガジ」)菜鉢(同「バガ」及「ルピルピン」)皿(同「ペアル」)深鉢(同「カボアプ」)茶碗(同「キシ」)等アリ何レモ土人ノ用ウル所ニ同シ

(へ)壺甕類　ハ概シテ交換ニ依テ得タルモノニシテ其品土人ノ用ウル所ニ同シ。其中重ナルモノヲ擧クレハ下ノ如シ　水缸ハ水ヲ貯フルニ用ウル甕ニシテ土語其儘ニ「ツイクン」ト云フ。其中最大ナルハ特ニ「サラウ」最小ナルハ「バランバン」ト云フ　口ノ大ナル壺ハ之ヲ「ジルン」ト云フ。其中ニテ青磁製ノモノハ特ニ「イロロソ」ト云ヒ。小壺ハ「ジルジルン」ト云フ　口ノ小ナルモノヲ「ガチ」ト云フ。其中ニテ最大ナルヲ「リコボ」又ハ「リプク」、稍大ナルヲ「パパマオ」、最小ナルヲ「アバガサメ」ト云フ。此外「ジルン」ニハ「トドロン」「タンカ」等ノ名ヲ有スルモノアリ　此等ノ「ジルン」及「ガチ」ハ何レモ酒ヲ釀シ又ハ食物ヲ貯フルニ用ウ

「ジルン」ニハ祖先ヨリ傳來セルモノ多シ。其中ニテ蛇形、人形等ヲ畫ケルモノハ頭人家ノ什器トシテ珍重スル所ナリ(參照第十圖ノ三、四及第三十九圖ノ四)

(と)籐籠類　何レモ本族自製スル所ニ係ル。其重ナルモノ左ノ如シ

(ち)箕類　箕(番語「チヤカズ」)ニ大小種々アレト圓徑二尺乃至二尺五寸ナルヲ通常トス。竹ヲ編ミテ作ル。粟稗

等ヲ簸ルニ用ウ。箕ノ底稍深ク酒ヲ醸ス時粟飯ヲソレニ展ケテ冷ヤスニ用ウルモノヲ「レヤル」ト云フ

(2)箕類　大小種々アリ。小ナルモノハ徑六七寸、大ナルモノハ二尺モアリ、其底ニ礎アルモノヲ「カジャバル」、之ナキモノヲ「レブル」ト云フ。其ニ飯ヲ盛ルニ用ウ　「レブル」ノ目粗ク漉酒用ニ供スルモノヲ「サラ」ト云フ

(3)籠　ニ諸種アリ。其方形又ハ長方形ノ目粗キモノヲ「ララクヤ」ト云フ。大小一ナラス、芋、番薯等ヲ容ルルニ用ウ。婦女之ヲ頭上ニ戴キテ農作物ヲ運搬ス　圓形ニシテ目ノ密ナル大籃ヲ「ビロア」又ハ「チゾン」ト云フ。粟、芋、豆類ヲ貯フニ用ウ形形又ハ形ニシテ目ノ密ナルモノヲ「カルボン」(こぼじ番)又ハ「カルダル」(ぶつる番ニ於テ)ト云フ。其小ナルモノハ種子入用トシ紐ヲ附シ腰ニ携帯ス　此外籠ニハ「プキジカヌ」(匙入)及「リナカ」(魚入)「カジャゴ」(月桃製辨當入)等アリ

(4)篩　「ビタイ」又ハ「ブタイ」(共ニ土語ノ米篩ヨリ来ル)ト云フ。竹ニテ製シ粉ヲフルフニ用フ

(5)簀圍　こぼじ番ニ於テ「コブコブ」、ぶつる番ニ於テ「バチャドル」ト云フ竹簀ヲ圓ク圍ミ其中ニ乾芋ヲ貯フルモノ。余ガ内文社ニテ見タルモノハ形ニシテ高六尺徑約二尺五寸アリタリ。安原氏カぶつる番カザギザツ社ニ見タルモノハ高二尺五寸徑二尺餘アリタリト云フ

(6)布袋　此ハ土人製ノ麻袋ニシテぱりじゃお番ニ於テハ之ヲ米ヲ貯ノルニ用ツ

第二項　飲食物ノ貯藏、調理及飲食法

第一　穀類

本族ニ於テ穀類ノ重ナルモノハ粟(番語「バコ」)稗(番語「ジママイ」)米(番語「バイ」)及豆類トス。此中米ハ上さりせぬ、らは

ろ兩番及ぱりじゃお番ノ一部ヲ除キ之ヲ食スルヲ禁忌ス（今日ハ唯住屋内ニ於テ食スルヲ忌ムノミ）ルハ既ニ述ヘタル所ノ如シ

(一)粟

(い)貯藏法　粟ハ收穫ノ際一握ツツ穗ヲ束ネ（把ニ大小アリ後ニ述フ）日ニ乾シタル後其儘之ヲ穀倉又ハ穀櫃（番語「サラン」。奥室ノ後壁ニ沿ヒテ作ル、穀倉ヲ設ケサル番社ニ於テハ此レニ貯フ）ノ内ニ收藏ス。而シテ入用ノ都度之ヲ取出シ臼ニカケ粗殼及糠ヲ去ル

（附記）一部ノ番社（例ヘハぶつる番カザヾザァ社ノ如シ）ニ於テ粟ヲ穀倉又ハ穀櫃ヨリ取出スニハ一度ニ十數日ノ分ヲ取置キ之ヲ食シタルトキハ又十數日ノ分ヲ取出ス。而シテ其都度家祝（主婦又ハ祭事ヲ解スル婦女）ニ饌ヲ具シ先奥室ノ靈位（ウマアヌ又ハヤバかヌ）ニ對シ次ニ穀倉又ハ穀櫃ニ對シ「充分食テ尚剩餘アル様ニ」ト祈ル。其取出シタル粟ヲ鍋ニカクルトキ亦同様ノ祈禱ヲ行フ　是ハ特ニ粟ニ對シテノミナラス始テ一ノ容器ニ在ル稗、樹豆、落花生ニ手ヲ著ケントスルトキモ同様ナリトス

(ろ)調理法　粟ニハうるトもちノ二種アリ。うるハ酒及飯ニ作リもちハ餅ヲ作ルニ用ウ

(1)飯　「キンサ」又ハ「キナジク」（「チナジク」トモ）ト云フ。粟ヲ炊クニハ臼ニカケテ殼ヲ去リ箕ニテ簸、再ヒ臼ニカケテ之ヲ水ニテ洗ヒ糠ヲ去リ後水ヲ鍋ニ入レ（或ハ臼ニテ搗キタルヲ簸テ糠ヲ去リ洗ハスシテ其儘鍋ニ投スルモアリ）煮沸シソレヘ右ノ粟ヲ投シ時々大杓子（番語「チプン」）ヲ以テ之ヲ攪拌シ其焦ケツクヲ防キ熟スルヲ待テ竈ヨリ降シ飯笊（「カジャパル」及「レブル」）又ハ飯鉢（「リかジャ」）ニ移シテ食ス。粟飯ハ柔ニシテ恰モ粥ノ稍固キモノノ如シ　又時々粟ニ稗、樹豆、大角豆又ハ雜菜（番地ニハ「サマク」、「カモト」、「サムチ」、「ラタラ」等稱スル野菜アリ皆粟ニ混シテ煮ルコトヲ得）ヲ混シ雜炊（番語「ピナララス・ア・チナジク」ぱりじゃお番ニ於テ）ヲ作ルコトアリ

(2) **餅**「カバイ」ト云フ。此ノ製法ニ左ノ二アリ

(a) **固有ノ製法**　我國ノ團子ニ同シ。此ハ最初粟ヲ臼ニカケ其殻及糠ヲ去リ後水ニテ洗ヒソレヨリ約半日水ニ浸シ之ヲ引上ケテ笊ニ移シ水ヲ切リ再臼ニカケテ粉ト爲ス。其粉ニ水ヲ加ヘ捏テ其儘ニ或ハ落花生、肉類、魚介類ヲ交ヘテ各樣ノ形ニ作リ之ヲ蒸シ或ハ燒ク

粟餅ニ數種ノ名稱アリ、小林氏ノぶつる番カジャジャウ社ニテ調査シタル所下ノ如シ　中ニ豚、雞又ハ鹽魚ノ肉ヲ入レテ雞卵大ノ團子ト爲シタルヲリニブル、肉類ヲ入レ長約一尺直徑二寸程ノ圓壔狀ニ爲シタルヲキップル。長三尺直徑四五寸位ノ圓壔狀ノモノヲララク(此ハ粟ノ收穫後祭ノ時ニ作ル)。樹豆、大角豆又ハ落花生ヲ入レ長一尺幅二三寸ニ爲シ茅ノ葉ニテ包ミタルヲサラウ。長五六寸幅一二寸位ニシテ中ニ豆類、肉類ヲ入レ月桃ノ葉ニテ包ミタルヲチナボト云フ

(b) **すかろノ製法**　ぱりじゃお番ニハ右ノ外ニ尚一ノ製法アリ我國ノ餅ニ同シ。之ヲジノコバト云フ此ハ粟ヲ搗キ之ヲ洗ヒ數時間水ニ浸シ後之ヲ笊ニ移シテ水ヲ切リ蒸桶ニ入レ鍋上ニ置キ之ヲ蒸シ後之ヲ取出シテ臼ニ入レテ搗ク。搗了レハ月桃蓆ノ上ニ取リ絲ヲ以テ適宜ニ切リ小片ト爲ス其手ニ粘着スルヲ防ク爲ニ取粉トシテ落花生ノ粉及手水ヲ用ウルコト吾人ニ同シ

右ノ團子及餅ハ其儘ニシテ食シ或ハ落花生ノ粉(稀ニ砂糖)ヲ附ケテ食ス。數日ヲ經テ其固クナリタルトキニハ煮又ハ燒キテ食ス　ぶつる番ノ内ニハ粟粉ヲ捏テ橢圓形ニ固メ之ヲ沸騰セル湯ニ投シ鹽及落花生ノ粉又ハ砂糖ヲ加ヘテ食スルコトアリ我國ノ汁粉ノ如シ。之ヲビニラオジト云フ。古代餅ヲ燒クニハ石ヲ用キタルガ如シ(即石ヲ燒キ之ニ餅ヲ載スルコト。是ハ今日粟收穫後祭ノ儀式ノ内ニ存セリ)。餅ハ祭祀、婚姻其他祝日ニハ必之ヲ作ル。出獵、出草ノ時亦之ヲ作テ行糧ト爲ス

(3)酒　「ババ」ト云フ。粟ニテ釀ス。但シぱりじゃお番ニ於テハ米ニテモ釀ス

(a)釀造　半鍋ニ水ヲ入レテ煮沸シ之ニ粟ノ搗キ能ク洗ハレタルモノヲ投シ其煮熟セサル內ニ鍋ヲ取テ其水ヲ捨テ竈ノ火ヲ去リテ再其鍋ヲ掛ケ蓋ヲ爲シテ之ヲウマシ稍冷却シタルトキ之ヲ半籠(番語「チヤカズ」)ニ移シ擴ケテ冷シ之ニ酵母(土人製ノ白麴、粟約二升ニ對シ白麴ノ三分一)ヲ振掛ケ徐々ニ攪交セタル後握テ團子トシ酒甕ニ容レ木又ハ姑婆(野生ノ芋ノ一種番語「カイゴワイ」)ノ葉ヲ以テ口ヲ蓋ヒ緣ヲ籐條ニテ縛シ置ク。斯クスルトキハ四五日ニシテ醱酵シテ酒ト爲ル　蒸桶又ハ蒸籠アルトキハ之ニ粟ヲ容レ然ル後之ヲ鍋ノ上ニ置キテ蒸ス

右ニ記スル所ハ土人ト接觸シソレヨリ白麴ト稱スル酵母ヲ得タル後ニ起リシ釀造法ナリ。其以前ニ於テハ藜(番語「ジュリス」)ノ實ヲ乾燥シ之ヲ搗テ粉末ト爲シソレヲ酵母トシテ粟飯ノ上ニ掛ケ醱酵セシメタリ。現時ニ於テモ五年祭及粟ノ收穫後祭等ニハ古例ヲ重シ此藜ヲ以テ製シタル酒ヲ用ウ。之ヲ「ビノコル」ト云フ

(b)用法　酒ハ甕ヨリ小竹筒ニテ酌ミ之ヲ木杯(單杯及聯杯)ニ斟キ糟ノ儘ニテ喫ス。或ハ之ヲ「サラ」ニテ漉シテ用ウ　粟酒ハ其色極テ淡キ帶赭色ヲ呈シ味少シク酸ヲ帶ヒ且一種ノ臭氣ヲ存ス　ぶつる番ニ於テ酒古ク酸味甚シキニ至レハ之ニ少シク豚脂ヲ混シテ煮沸セシムト云フ　こぼと番ニ於テハ酒ニ蜂蜜ヲ混シテ用ウルコトアリ

(二)米

(い)貯藏　上さりせぬ、らばる兩番ニ於テ米ノ貯藏法ハ粟ニ同シ。ぱりじゃお番ニ於テハ土人ニ倣ヒ穗莖ヲ去リ籾トシテ桶又ハ布袋ニ入レテ貯フ

(ろ)調理　米ニモもみトうるトアリ。うるハ飯又ハ酒トシもちハ重ニ餅ト爲スぱりじゃお番ニ於テハもち米ニテ酒ヲ釀スコトアリ

(1)飯　先臼(ぱりじゃお番ニハ土人ニ倣ヒ土塊ヲ用ヰルモノアリ)ニ掛ケテ籾殼ヲ去リ再搗テ糠ヲ去リ後鍋ニ掛ケ蓋(芋ノ葉又ハ古鍋)ヲ爲シテ煮ル　之ニモ粟、芋、番諸、樹豆ヲ混シタル雜炊アリ

(2)餅　其製法粟ニ同シ

(3)酒　其製法粟ニ同シ(ぱりじゃお番ニ於テ)

(三)稗　古代ニ於テ稗ハ粟ニ次テ主要ナル食物ナリシモ現時ハぶつる、北ばいわん番ノ一部ニ於テ少ク之ヲ耕作スルモノアルノミ。此ハ酒ニ釀シ又ハ粟ト混シ飯ニ煮テ食ス

(四)黍　古來之ヲ耕作スルモノ少ク現時ぶつる番ノ北部ニ少ク之ヲ耕作スル者アルヲ見ル。此ハ粟ニ混シ飯ニ煮テ食ス

(五)豆類　ニハ小豆(番語)大角豆(同「アリザン」)樹豆(同「ボク」)及落花生(同「パチトウ」)アリ　(い)小豆及大角豆ハ其果尚嫩キ時莢ト共ニ煮、既ニ熟シタル時ハ莢ヲ去リ實ノミヲ煮ル　(ろ)樹豆ハ小豆ヨリモ小ク其色淡黃ナリ。此ハ乾燥セシメ瓢又ハ甕ニ貯ヘ置キ煮テ之ヲ食ス　(は)落花生ハ外皮ノ儘煎リ若ハ蒸シ又ハ其實ヲ出シ他ノ野菜ニ混シテ煮ル。又其實ヲ煎リ搗テ粉ト爲シ之ヲ餅ニ附ケテ食シ或ハ其取粉ニ用ウ

第二　芋、番藷其他蔬菜類

(一)芋　ハ其儘煮、後其皮ヲ剝キテ食シ或ハ芋乾(番語「アハシ」)トシテ食ス　穉芋ハ畑地ニ粗糙ノ小屋掛ノ爲シテ之ニ貯ヘ芋乾ハ家ニ持歸リ竇圃又ハ桶ノ内ニ容レテ貯藏ス

芋乾ヲ作ルニハ畑地ニ燻竈(番語「ルコ」)ヲ作リ生芋ヲ之ニ掛ケ其水分ヲ取ル。小林氏カスボン社ニ於テ

調査シタル所左ノ如シ　傾斜地ニ於テ地ヲ堀ルコト約七尺其壁面高約二尺穹狀ノ竈口ヲ開キ其口ヨリ奥ヘ約二尺ノ所ニ於テ上方ニ漏斗形ノ穴ヲ穿チ其穴ノ上面ニ小竹ヲ排ヘテ底トセル蒸籠ヲ据着ク。蒸籠ハ其邊三尺乃至五尺、高約五寸アリ。此中ニ芋ヲ排ヘ（水分ノ蒸發ヲ容易ナラシムル爲小刀ヲ以テ一々大芋ニ穴ヲ透シ之ヲ逆ニ立テ蒸籠中ニ列ヘ又乾燥ノ遲速ナキ樣親芋ヲ下方ニ子芋ヲ上方ニ置ク）然後竈口ヨリ薪ヲ燒キ徐々ニ燻蒸スルトキハ十數時間ニシテ能ク乾燥ス（參照第七十五圖）

(二)番諸　入用ノ都度畑ヨリ採取ス。此ハ煮、蒸シ又ハ煨キ其皮ヲ剝テ食ス。稀ニ生ニテ食スルコトアリ　ぱりじゃお番ノ中ニハ土人ニ倣ヒ番諸ヲ切テ細片ト爲シ日ニ乾カシテ貯フル者モアリ。之ヲ「リラクル」（土語「番諸簽」）ト云ヒ粟飯ニ混シテ炊ク

(三)瓜類　生ニテ又ハ煮テ食ス。安原氏ノぱりじゃお番ニ於テ調査シタル所左ノ如シ　胡瓜ハ皮ヲ去リ鹽ヲ附シテ食ス。或ハ豚脂ニテイタメ鹽ヲ加ヘテ煮ル　南瓜ハ皮ヲ剝キ種子ヲ去リ煮テ食ス。脂ニテイタメ又ハ落花生ヲ加ヘテ鹽煮トスル者モアリ。或ハ其煮熟スルヲ待テ攪拌シテ餡狀ト爲シ之ヲ食ス　苦瓜ハ灰中ニ埋メ煨キ鹽ヲ附シテ食ス　瓢ハ脂ニテイタメ鹽ヲ加ヘテ煮ル

(四)菜類　本族ノ食用スル菜類ニハ其栽培スル所ノ高菜、大根、葱、蒜、薤、薑、番薑等アリ　其外ニ山野ニ於テ採取スル蕨、薇、筍、木耳、茸類アリ　右ノ中高菜、大根、葱、蒜等ハ煮又ハ脂ニテ煎付ケ又ハ鹽ニ漬ケテ食ス　薤ハ生ノ儘鹽ヲ附シテ食ス　番薑及薑ハ之ヲ打碎キ他ノ食品ニ加ヘテ其味ヲ調ヘ又ハ燒キ又ハ細ク刻ミ鹽水ニ浸シテ食ス　蕨、薇及筍ハ脂ニテイタメ或ハ落花生ヲ入レテ鹽ヲ加ヘ湯煮シテ食ス。スボン社方面ニ於テハ筍ヲ竪ニ割リ日ニ乾シテ貯藏ス　茸類ニハ「コデブデブ」ト稱シ純白ノモノアリ。其傘ノ徑約七八寸厚一寸莖ノ長五六寸。味松茸ニ似ルモ香氣ナシ。鹽ヲ加ヘ湯煮シ

テ食ス　又椎茸及木耳アリ此ハ何レモ脂煎シテ食ス

(五)菓實類　食間ノ點心トシテ芭蕉、蜜柑、柚仔、金柑、鳳梨、檨仔、龍眼肉、荔及桑實等アリ。此等ハ何レモ生ニテ食ス

第三　獸類

(一)總說　本族ニ於テ食用ニ供スル獸類ハ豚、猪、鹿、(之ニ水鹿及花鹿ノ二種アリ)羌、山羊、兎及牛トス。此中豚及牛ハ本族自ラ飼養スル所、他ハ山野ニ於テ獵獲スル所ニ係ル

本族ノ占據スル地域ニハ熊、豹、猴、貍、山猫、獺等ヲ產セサルニ非サルモ本族ハ此等ヲ食スルコトヲ禁忌ス。唯ぶつる番ノ北部及らばる番ニ於テハ猴及山猫ヲ食スルモ妨ナシトセリ

(二)調理法

(い)屠殺　豚ハ先ツ四股ヲ縛シ刀ヲ以テ其喉頭ヲ刺シテ之ヲ殺ス。此前ニ巫ヲ招キテ祈禱(家畜ニ關スル祭祀參照)ヲ行フ　牛ハ頸ヲ麻繩ニテ縛シ其繩ノ兩端ヲ樹木ニ結着シ後棍棒ヲ以テ眉間ヲ打テ之ヲ殺ス。近時多ク銃殺ス

(ろ)解體　豚及猪ハ火ヲ以テ其毛ヲ燒キ皮附ノ儘解體シ牛、鹿、羌及山羊等ハ小刀ヲ用キテ其毛皮ヲ剝キ後之ヲ解體ス。其法先ツ月桃蓆ヲ敷キ其上ニ獸ノ屍體ヲ横ヘ番刀ヲ以テ腹ノ中央ヨリ胸ニ掛ケテ竪ニ切開キ內臟ヲ引出シソレヨリ頭部ヲ切落シ四肢ヲ附根ヨリ切放チ胴ハ脊梁ヨリ左右兩邊ニ切斷ス。而シテ頭ハ口ヲ切開キ下顎ヲ去リ頭骨ヲ竪ニ兩斷シ其中ノ腦ヲ取ル

(は)調理　肉類ハ凡テ之ヲ細切シ少量ノ水ニ鹽ヲ加ヘテ煮ル。內臟ハ能ク水ニテ洗ヒ胃腸ハ之ヲ裏返シニシテ其汚糞ヲ去リ煮又ハ生ニテ食ス

(三)貯藏法　肉類ヲ貯藏スルニ二法アリ（一）鹽ヲ附ケテ(或ハ一夜間鹽ニ漬ケテ)天日ニ曝シ又ハ竈ノ上ニ吊シテ乾カス。何レモ少ク臭氣アレトモ味ハ生肉ヨリモ可ナリト云フ。此ハ水煮シテ食ス（二）酒糟、粟飯又ハ乾芋ノ粉ニ鹽ヲ混シ此中ニ肉ヲ漬ケ置ク。此ハ壺ニ入レ蓋ヲ爲シ置クトキハ二三箇月貯藏スルコトヲ得ヘシ

第四　鳥類

(一)總說　本族ハ鳥類ヲ食スルヲ好マス。雞ハさりせぬ諸番ノ番社ニ於テハ多少飼養セラルルもばいわぬ三番ニテハ古來禁忌トシテ飼養セス。近來此禁漸ク廢レタルモ多クハ飼養スルニ止マリ其肉及卵ヲ食スル者ハ少ク之ヲ土人ニ賣テ價ヲ利ス。又山野ニハ雉、山雞、竹雞、鳩類多シト雖モるかい番ノ外多クハ之ヲ食スルヲ好マス

(二)調理法　既ニ述ヘタルガ如ク雞ハ古來之ヲ食セス。然ルニ近來こぼじ番ニ於テ少シク之ヲ食スル者アルニ至レリ。其調理法ニ付安原氏ガ調査シタル所ハ殆ト土人ノ爲ス所ニ同シ。即チ其喉ヲ切テ血ヲ絞リソレヨリ熱湯ノ中ニ入レテ羽毛ヲ拔キ後腹ヲ切開キ臟腑ヲ引出シ四肢ヲ切斷ス。而シテ肉ハ骨ト共ニ細切シ腸胃ハ裏返ヘシニシテ汚物ヲ洗去リテ之ヲ切リ凝結シタル血モ亦之ヲ切リ何レモ鍋ニ熱湯ヲ作リ少量ノ鹽ヲ加ヘ此中ニ投シテ煮ル

第五　魚介類

(一)總說　本族ニ於テ食用ニ供スル魚介ハ淡水產トシテ鯉、鮒、烏仔魚(イナ)、鯰、鰻、鰍、石伏魚、鼈、蟹、鯝、蝦、田螺、蜆、烏貝(カラス)、檳榔子貝(番語「サイリ」)等ニシテ海水產トシテハ鯛、鰡、飛魚、海龜、夜光貝、牡蠣等トス。何レモ本族ガ自ラ漁撈シテ獲ル所。此中海魚ヲ得ルモノハぱりじゃお番ノ一部ニ止マル。右ノ外本族ハ交換ニ依リテ鹽

第三十七圖　水ノ運搬





其一　ぶつる番カザザラス社番女



其二　ばりじゃお番高士佛社番女

第三十九圖　炊事飲食用具

其一　スボン社ニ於テ



1-5 [illegible]
6 「トアコン」
7 「タンカ」
8 「リコセ」
9 「バリオク」(鍋)
10 「アラバン」(黄銅鍋)
11-14 [illegible]
15 「シルシルン」(小壺)
16 「レアル」(飯[illegible])
17 「ノコン」(丼鉢)
18 「バチコロン」(竹杯)
19 「キシ」(茶碗)
20 「ナタ[illegible]ン」([illegible])
21 [illegible]
22 「[illegible]」(小刀)
23 「チチョン」(猪口)
24 「ベアル」([illegible])
25 「ニン」([illegible])
26 「シキ[illegible]」([illegible])
27 「ラガシ」(酒杯)
28 「ジユ」(瓢杓)
29 「テショ」(俎)

其二　同上　家具類



1 「ツイクン」(水甕)
2 「チ・ル・」(水汲用竹筒)
3 「カスロー」(杵)
4 「ウラカ」(臼)
6.5 「ロコジ」(箱。衣服入)
7 「バケツ」
8 「ポンポン」(石油罐)
9 「タタカ」(砥石)
10 「ロトン」(豚ノ餌入)
11 「ジユイ」(瓢)
12 「サカル」(腰掛)

其三　マカザヤザヤ社ニ於テ



1 「カジャパル」(飯釜)
2 「イロワロワス」(青甕)
3 「リガー」(木鉢)
4 「ジルン」(甕)
5 「ワコン」(鉢)
6 「バリオク」(鍋)
7 「[illegible]」(鉢)
8 「[illegible]」([illegible])
9 「アラバン」(黄銅鍋)
10 「バトコン」(水汲用竹筒)
11 「ヤシ」(茶碗)
12 「キジン」(匙)
13 「サラ」(濾笊)
14 「カルタイル」(酒盃)
15 「ノトル」([illegible])
16 「カデマン」([illegible])

其四　古代ノ酒甕(カピヤガヌ社頭人家ノ什寶)



第四十圖　芋ノ燻製

其一　燻製前ニ於ケル生芋ノ整理

（北ぱいわぬ番スボン社ニ於テ）



其二　芋ヲ燻竈ニ掛ケタル所

（同　上）



魚ヲ得。其中鹽鯖ハ本族ノ美味トシテ喜フ所トス

(二)調理　魚類ハ重ニ水ニ少量ノ鹽及薑ヲ加ヘテ煮又ハ燒キテ之ヲ食ス。何レモ臓腑ヲ棄テス(生番ハ此限ニ非ス)蟹及蝦ハ鹽ヲフリテ炒付ケ又ハ燒キテ食ス。時ニ之ヲ臼ニ掛ケテ搗碎キ乾芋ノ粉ニ混シテ團子ト爲シ汁トシテ食スルコトアリ　貝類ハ其儘鹽煮ス。唯牡蠣ハ其殼ヲ割リ肉ヲ取テ之ヲ鹽煮ス　海龜ハ甲ヲ去リ四肢ヲ去リソレヨリ肉ヲ取テ鹽煮トス。又少シク鹽ヲ附シ日ニ乾シ後之ヲ水煮トスルモアリ

(三)貯藏　魚介類ヲ貯藏スルコトハ少シ。サレト漁獲多ク一時ニ食盡ス能ハサルトキハ其一部ヲ獸肉ノ如ク鹽又ハ粟飯ニ漬置クコトアリ。又竹串ニ刺シ日ニ乾シテ貯フルコトモアリ

第六　煙草及檳榔子

(一)煙草(番語「タマコ」)

(い)總說　煙草ハ本族ノ嗜好品ノ一ニシテ男女十二三歲ノ時ヨリ既ニ之ヲ喫シ殆之ヲ嗜マサル者ナシ　煙草ハ本族自ラ其畑ニ作ル。其採取及貯藏ノ方法ハ農業ノ欵下ニ說述スヘシ

(ろ)用方　煙草ハ常ニ之ヲ「ジャバツ」(檳榔子入袋。肩ヨリ脇ニ掛ケテ佩用ス)ニ入レテ携帶ス。之ヲ喫スルニハ小刀ニテ其葉ヲ刻ミ之ヲ煙管ノ雁首ニ詰メ又ハ葉ヲ刻マス圓ク卷キテ雁首ニ挿込ミ後火ヲ點ス　煙管(番語「コノツイ」)ハ木又ハ竹根ヲ刳キテ雁首ト爲シ之ニ細キ竹管ヲ附ス。此雁首及竹管ニハ諸種ノ彫刻ヲ施セリ

(二)檳榔子(番語「サヒキ」)

(い)總說　檳榔子モ亦本族ノ嗜好品ノ一ニ屬シ其之ヲ產出スル番社ニ於テハ男女七八歲ヨリ既ニ之ヲ喫シ男女ヲ通シテ愛用ス　檳榔子ハ一種ノ清涼劑ナルノミナラス常ニ之ヲ嚙ムトキハ齒染

リテ黑色ヲ呈スルガ故ニ之ヲ嚙ムコトハ本族ニ於ケル一ノ美容術ナリトス　檳榔子ハ多クノ番社ニ於テ之ヲ栽培ス。其地味ノ栽培ニ適セサル所ニ於テハ交換ニ依テ之ヲ取得ス而モ其價高ク之ヲ買フコト能ハサル者ハ番界ニ自生セル或種ノ植物ヲ取テ之ニ代フ（參照毀飾ノ項涅齒ノ條）

(ろ)用方　檳榔子ノ用方ハ土人ノ爲ス所ニ同シ。卽小刀ヲ以テ之ヲ二ニ割リ之ニ少許ノ石灰ヲ塗リ荖藤ノ葉（番語「ザかオ」）ニ包ミ之ヲ口ニ入レテ嚙メハ其味辛棘ニシテ澁シ。嚙ムコト數回スレハ唾液ヲ生シ變シテ紅クナル。然ルトキハ之ヲ吐出ス

第四款　生業

本族ノ生業ハ頗單純ニシテ未タ農工商等ノ分業ヲ爲スニ至ラス。左ニ項ヲ分テ其狀態ノ概要ヲ掲ク

第一項　農耕

第一　總說

本族ノ農耕ハ尙幼稚ニシテ未タ牛馬ヲ使役スルコトヲ知ラス（南番ノ一部ばりじゃお番ノ一部ヲ除ク）肥料ヲ施スコトヲ知ラス、簡單ナル農具ヲ用キ傾斜ノ地ヲ開キ穀菜ヲ栽培スルニ過キス。地ニ肥料ヲ施サヽルヲ以テ連耕三四年ニ亘ルトキハ其地力消耗ス。故ニ之ヲ棄テ更ニ他ノ地ヲ求メテ開墾ス。從テ其勞多キ割合ニハ收穫スル所甚少キヲ免レス

耕作物ノ重ナルモノハ粟、稻、稗、芋及番藷トシ諸種ノ瓜、豆、蔬菜、煙草、麻及果樹類之ニ次ク。右ノ中稻ハ古來上ミりせぬ及らばる兩番ニ陸稻ヲ作リタル外他ノ番社ニハ一切之ヲ作ルコトヲ禁忌シタレ

トモ近代ニ至リばりじ・お番ノ南部ニハ此ノ禁忌破レ水稻ヲ耕作スル者多ク出來リ他ノ諸番社ニ於テモ政府ノ勸獎ニ從ヒ漸ク水田ヲ開ク者アルニ至レリ

第四十一圖 農具類

1 ブカ（番鋤）
2 カウカウ（鎌）
(3) クシル（熊手）
4 クワツイ（唐鍬）
5 ハサツ（竹ノ天秤棒）
6 バルス（斧）
7 タトクン（鍬）
(8) チプン（竹籃）
(9) ピロア（同）
(10) ダヅルラヌ（種粟入）
(11) カラダル（腰下籠）
12) セコノ（小刀）
(13 ブカブカ（小鋤）



本族ノ農具ハ僅ニ「ブカ」（播種用ノ鋤）「ブカブカ」（「ブカ」ノ小ナルモノ）「チークラー」（芋堀用ノ小鋤）「タトクン」（番語鍬）熊手（番語「クシル」）鎌（番語「カウカウ」）及番刀（番語「チャケツ」）アルノミ。近來平地ヨリ移入シタル唐鍬（番語「クワツイ」）斧（同「ボウチヤウ」又ハ「バルス」）アリ　而シテ農作物ヲ運フニハ竹製又ハ月桃製ノ籃アリ（參照第四十一圖）

（附記）本族ハ作物ノ豐凶ヲ以テ神靈ノ所爲ニ歸シ其結果トシテ耕作ニ關シテ諸種ノ祭祀及

禁忌ヲ有セリ。此等ハ既ニ宗敎ノ部ニ述ヘタル所ナルヲ以テ之ヲ略ス

(同 二) 本族ハ人糞ヲ以テ不淨トシ若畑地ニ一塊ノ人糞アランカ其周圍少許ヲ避ケテ耕作セサル者アル程ナリ。從テ未タ之ヲ畑ニ施ス者アルニ至ラス

(同 三) 稻ヲ耕作スルハ本族ノ禁忌スル所領臺ノ後政府ハ各所ニ於テ番人ヲ勸メ其米作ヲ奬勵シタリシモ最初ハ何レモ不結果ニ終リ唯ぱりじゃお番ニ於テ成效シタリ其若干例ヲ揭ク明治三十五年五月政府ハこぼじ番內獅頭社ノ域內ナル刺桐脚溪ニ番人授產所ヲ設置スルヤ番人ヲ役シ溪ノ上流ニ堰ヲ作リ水圳ヲ通シ田地九十餘坪畑一萬坪ヲ開キ翌三十六年ニハ番人十戶ヲ移シ之ニ其地ヲ貸シ耕作及牧牛ヲ奬勵セシガ三十八年ニ至リ全部其地ヲ棄テテ歸去レリ。其理由ヲ質シタルニ「我等輪作ニ慣レタル者ハ連年引續キ同一ノ地ニ耕作スルヲ好マス、又水田ヲ作ルガ如キハ我等ノ爲シ能ハサル所ナリ」ト云ヘリ　又大正二年春潮州支廳ノぼかりド社民ニ諭シ水牛及農具ヲ惠與シ警察官指導ノ下ニ水田ヲ作ラシメタリ。然ルニ成長ノ期ニ至リ旱天打續キ水乏シク爲ニ豫想ノ收穫ヲ得サリシカハ番人等ハ曰ク「米ハ祖先傳來ノモノニ非ス、之ヲ作ルハ不祥ナリ、故ニ此不作ヲ來シタルナリ」トテ其翌年ハ如何ニ諭スモ其ノ耕作ニ從フ者ハナカリキト云フ　右ノ如ク各番社トモ皆不結果ナリシモ近年ニ至リ各地駐在警察官ノ熱心ナル勸奬ニ依リ再ヒ其耕作ニ從ヒ一部ノ番社ニ於テハ漸ク之ヲ喜フノ氣運ヲ生シ來レリト云フ　(一)明治三十四年恒春辨務署ハ高士佛社民ヲ指導シ水牛ヲ役シテ田ヲ耕スノ法ヲ授ケシニ其結果良好ナリケレハ同社民ハソレヨリ引續キ之ニ從事セリ。同四十二年ニ牡丹社駐在警察官ハ其社民ヲ指導シ水田ヲ開カシメタルニ其結果亦良好ナリケレハ以

來盛ニ水田ノ開墾ヲ行フ者ヲ生シ其附近ノ番社ニ於テモ亦之ニ倣ヒソレヨリ習フ此等ノぱりじゃお番ハ他ノ部族ニ比シテ生活次第ニ豐裕ナルニ至レリ

第二　耕地

本族ノ耕作地ハ古來畑ノミナリシガ近代南部ノぱりじ、お番ニ於テ漸ク水田ヲ開ク者アルニ至レリ

(一)畑地　ハ之ヲ「バボア」ト云ヒ其現ニ耕作シツツアル所ヲ「ヨマ」（ウマ）地力盡ヘテ休耕セル所ヲ「ヨサヨサジ」ニ（「ヨ」ハ「オ」、「ジ」ハ「ル」トモ）ト云フ。而シテ其開墾シテ未播植セサル地ヲ「キナバツカヌ」（開墾シタル跡ノ義。「マバツク」（開墾）ノ語ヨリ來ル）初作地及次作地ヲ「コスル」、三作地ヲ「チナヤノ」ト云フ　畑地ノ耕作ハ凡テ輪作ノ法ニ依ル即初年ニハ里芋ヲ植エ次年ニハ粟、稗又ハ陸稻ヲ播シ三年ニハ落花生、番薯等ヲ作ルガ如シ

(い)畑地ノ選擇　本族ノ畑地ハ(一)概シテ傾斜ノ地ヲ選フ。曰ク「土地傾斜セル方腰ヲ屈伸スルコト少キガ故ニ平坦ノ地ヨリハ疲勞少シ」ト其傾斜ノ度ハ十度乃至三四十度ノ間ニ在リ。即吾人ノ緩步行シ得ラレサル所ニ於テモ彼等ハ能ク播植シ收穫ス　(二)石礫ノ少ク土壤ノ肥ヘタル地ヲ選ブ　(三)禁忌ノ地ヲ避クルコトヲ要ス。斷崖、山崩シタル地、凶死シタル地及墳墓アル地等ハ禁忌ノ地トス。(四)占トシテ其地ノ吉ナルヲ要ス。或番社（北ばいわぬ番チャージャカブス社ノ如シ）ニ於テハ日ヲ選ビ（滿月及晴後ノ日ヲ選ブ）二家ノ家長タル者其開墾スヘキ地ニ至リ六尺平方程草ヲ除キ土ヲ堀返シテ歸リ其夜夢ヲ見テ吉凶ヲトス之ヲ「イサジャヌ」ト云フ（宗教ノ部參照）

(ろ)開墾　林地ナラハ先ツ其所ニ生セル樹木ノ枝ヲ伐拂ヒ後根元ヨリ伐倒ス幹大ニシテ伐倒シ難キモノハ其根元ニ斧ヲ加ヘ皮ヲ剝キ其自然ニ枯死スルヲ待ツ又茅原ナラハ其茅ヲ刈拂ヒ而シ

テ此等ノ伐拂ヒ又ハ刈拂ヒタルモノハ全ク其枯ルルヲ待テ一所ニ集メテ之ヲ燒ク然ルトキハ其ヨリ生シタル灰ハ自然ニ其地ノ肥料ト爲ル　凡テ開墾シタル地ガ急傾斜ナルトキハ三尺乃至六尺毎ニ石ヲ積ミ又ハ木ヲ横ヘテ段ヲ作リ以テ耕土ノ流失ヲ防ク（參照第四十二圖ノ三、四）

或番社ニ於テハ未墾地ヲ開墾スルトキニハ巫ヲ招キテ祈禱ヲ行フ之ヲスマバツト云フ。例ヘハばりじゃお番ニ於テハ其地ニ╳狀ニ木ヲ立テ之ニ二三本ノ木ヲ載掛ケ、又北ばいわん番クナナオ社ニ於テハ小豚ヲ屠リ其肉ヲ供シ以テ其地ノ將來平安ニシテ且豐作ナランコトヲ祈ルガ如シ

（三）水田　既ニ述ヘタルガ如ク現時ばりじゃお番（サブデク群社ヲ除ク）ノ諸社ニ於テハ水田ノ利ヲ解シ其耕作ニ從フ者少カラス。又他ノ部族ニ於テモ官ノ勸奬ニ從ヒ漸ク水田ノ耕作ヲ始メントシツツアリ。此等ハ何レモ最初警察官ノ指導ヲ受ケ漢族タル土人ヲ雇ヒテ爲スモノニシテ其地ノ選擇、開墾ノ方法ハ全ク土人ノ爲ス所ニ同シ

第三　耕作ノ方法

（一）總說　既ニ述ヘタルカ如ク本族ノ畑ハ連耕三四年スルトキハ地力盡クルヲ以テ爾後數年間ハ休耕シテ雜木茅草ノ繁茂スルニ任ス。其間之ヲ「コサコサジ」ト云フ。數年ノ後地力回復スルヲ待チ木ヲ伐リ草ヲ拂ヒ再開墾シテ耕作ス。通常ハ三作トシ毎作其物ヲ換フ。地力盡キサレハ尚一作ス。例ヘハ初年ハ芋（少量ノ落花生、藷ヲモ）次年ハ粟（少量ノ稗、藜、樹豆、小豆ヲモ）ヲ作リ土地尚肥ヘ在ルトキハ第三年ニハ粟ヲ再作シ第四年ニ番藷ヲ作ルガ如シ

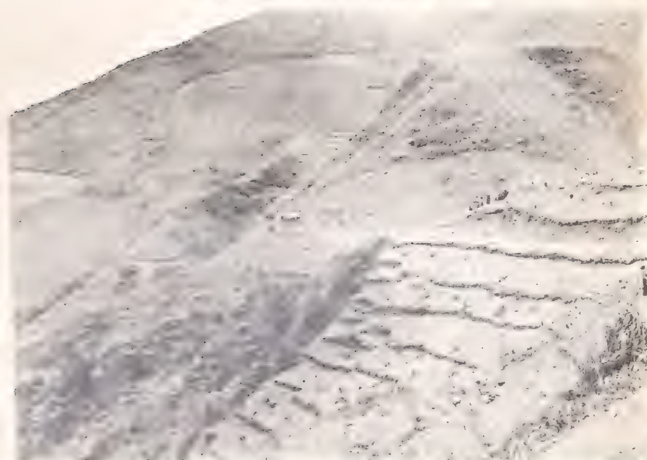
左ニ重ナル作物ニ付其耕作ノ方法ヲ記ス

（二）穀類　水稻ハ其耕作法全ク土人ニ同シ故ニ之ヲ略ス　粟、稗、陸稻等ハ先鍬ヲ以テ畑地ヲ均平シ

第四十二圖 農耕ノ景



其一 休耕地ノ開墾
（ハボン社ニ於テ）



其三 傾斜地ニ於ケル畑ノ狀況



其二 甘蔗ノ收穫
（駐在警察官ノ指導ニ從ヒテ平地ニ作リタル畑）



其四 同上

「ブカ」(小鋤)ヲ以テ淺ク穴ヲ堀リ之ニ種子ヲ入レ其上ニ土ヲ細ニ碎キタルヲ被ス　芽長シテ二三寸ニ至レハ其間ニ生スル雜草ヲ拔ク　穀既ニ成熟スレハ穗先ヨリ三寸許ノ所ヨリ竹刀又ハ小刀ヲ以テ之ヲ摘取リ一握ツツ束ネテ把ト爲シ數日間天日ニ曝シ後之ヲ穀倉又ハ穀櫃ノ内ニ貯フ。播種及收穫ノ時季ハ土地ノ寒暖ニ從ヒテ差異アレトモ先ツ粟ハ二三月頃(楓樹ノ發芽シタルトキ)ニ播種シ六七月頃ニ收穫シ稗ハ粟ト同時ニ播種スルモ收穫ハ之ヨリ一二月後ルルヲ常トス。而シテ陸稻ハ其播種收穫共ニ粟稗ヨリモ一二箇月後ルト云フ

(三)芋類　里芋及山芋ハ概シテ畑地ニ初作ス。五月頃種芋ヲ小屋(種芋ヲ貯フル爲ニ畑中ニ於テ別ニ小屋ヲ設ク、參照住居ノ部)ヨリ取出シ之ヲ畑ニ下シ十月乃至一月其成熟スルヲ待テ之ヲ取ル　芋ニ數種アリ。こほし番ニ於テハぱいわ種トシテ「アバサヌ」(粟ノ原種)「パリジャオジャオ」(恆春種)「チャマサイ」「バロラバラバ」「ラカラカ」「バリバリチョ」ノ六種、上人種トシテ「アバサヌ」「パイライラス」「チャマサイ」ノ三種、ぱかろかろ種(蕃薯東)トシテ「ビヌヴシカノジャジモジョモク」「カンナイ」ノ四種アリト云フ

(四)番藷　ハ概シテ粟ヲ作リタル跡ニ植ユ。此ハ其蔓ヲ幾片ニモ切リ地ニ揷ス。揷苗ノ時定ラニ從テ又成熟ノ時期モ定ラス。熟スルニ從ヒ隨時畑ヨリ之ヲ取ル　番藷ニハ數種アリこほし番ニ於テハアブラシャス」(本來ノ番藷ト云フ義)「カジラ」「ビウラ」「スリヌジ」「ブトケジ」「コジジリ」「バリゲス」(以上ハぱいわ種ニ屬ス)「バカロカい」(はかろ番ヨリ移入セシ種ニ係ル)ノ八種アリト云ヒるかい番ニ於テハ「ラリチ」(肉ノ白キモノ)「ラデン」(肉ノ赤キモノ)ノ二種アリト云フ

(五)煙草　ハ多ク住居ノ附近ニ作ル。稀ニ畑ニ作ルモアリ。肥料ニハ人糞(便所ヨリ流出テ數月ヲ經テ黑ク乾キタルモノ)ヲ用キル。煙草ハ十月頃先苗床ヲ作リ之ニ播種シ二三寸芽ノ發シタル後之ヲ畑ニ移植ス。ソレヨリ二三

圃除草ヲ行ヒ根元ニ土ヲ培ヒ時々害蟲ヲ去ル。蕾ヲ出サントスルトキハ悉ク之ヲ摘切リ下ノ方ヨリ日ノ追ヒ順次ニ其葉ヲ刈ル　刈リタル葉ハ蓆ノ上ニ置キ數日ノ後之ヲ割竹ニ挾ミ木ニ掛ケテ日ニ曝シ又ハ爐上ニ掛ケテ乾燥セシム。其貯藏法ハ既ニ前節ニ於テ述ヘタル所ノ如シ

(六)雜菜　豆類トシテ落花生、樹豆、大角豆、小豆。瓜類トシテ胡瓜、南瓜、冬瓜、絲瓜、苦瓜、瓢。菜類トシテ高菜大根、番薯、葱、蒜、韮、等ハ特ニ畑ヲ作ルモノ少ク多クハ芋、粟等ノ畑ノ附近ニ栽培ス　播種收穫ノ時季ハ土地ノ寒暖ニ從ヒテ同シカラスト雖モ先ツ南部ニ於テ藜ハ一月頃ニ播シ四月下旬ニ收メ落花生ハ五月頃ニ下種シ九月下旬ヨリ十一月迄ニ收メ瓜類ハ五六月ニ播シテ八月乃至十月ニ收ム

(七)菓樹　檳榔子、樣仔、桃、蜜柑等ノ果實ハ住屋ノ附近或ハ耕地ノ中ニ栽フ。別ニ栽培ノ法ナシ害蟲ノ發生シタルトキ之ヲ祓フノ祈禱ヲ行フノミ

第二項　狩獵

第一　總說

狩獵ハ本族ニ於テ重要ナル生業タルト同時ニ男子ノ爲ニハ最上ノ娛樂ナリトス

(一)獵獲物　ハ水鹿、花鹿、猪、羌、山羊ヲ重ナルモノトシ熊、豹、猴、貍、山猫、仙山甲、兎等ノ野獸並ニ鷹、雉、鳩等ノ鳥類トス　右ノ中鹿、猪、羌及羊ハ古來本族ノ食料トスル所ニシテ特ニ之ヲ「サツムル」ト稱ス（我國一般ニ該當スル語ナシ、土人之ヲ山味ト稱ス）サレト豹及猴ハ番社ニ依テハ其捕獲ヲ禁忌セリ。ソハ猴ハぱいわん大部屬ニ於テハ人類ト其祖先ヲ同クストノ迷信ニ因リ（但近來之ヲ猴落ニ掛ケ捕ヘテ土人ニ賣ル者モアリ）又豹ハるかい番諸社及ぱりじゃお番ノサブデク群社ニ於テハ祖先ヲ嚮導シタル靈獸ナリトノ迷信ニ因ル

上記ノ獵獲物ハ重ニ其肉ヲ食シ（熊、豹及鷹ヲ除ク）其角（鹿、羌）牙（猪）皮（鹿、熊、豹、羌及羊）又ハ羽（鷹、山雉）ヲ取テ裝飾品、衣類ノ材

料トシ又ハ交換所ニ持來テ其價ヲ利ス。交換品ノ重ナルモノハ鹿、羊、羌、熊、豹ノ皮、鹿ノ角及鞭、熊ノ膽、熊ノ骨及、仙山甲等トス

(二)狩獵ノ方法　狩獵ニハ銃、弓矢又ハ槍ヲ用キルモノアリ、機關若ハ係蹄ヲ用キルモノアリ。此等ノ用具ニ付テハ後條各方法ニ於テ說述スヘシ

(三)獵場及獵租　狩獵ヲ爲スニハ各黨皆其所屬ノ獵場アリ妄ニ他黨ノ領域ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス。若之ヲ犯ストキハ其獵獲物ヲ取上ケラルルノミナラス罰財ヲ課セラルヘシ。獵場ハ一黨ニテ之ヲ專有スルアリ或ハ數黨ニテ共有スルアリ或ハ黨ニ獵場ナキヲ以テ他黨頭人ノ許諾ヲ得テ其獵場ニ狩獵ヲ行フモノモアリ。複黨番社ニ於ニハ概シテ其獵場ヲ共同ニス　獵獲者ハ必其獲物ノ一部ヲ地主タル頭人ニ納ルルコトヲ要ス。之ヲバデスニ（獵租ト譯ス）ト云フ。其率番社ニ依テ同シカラス土地所有權ノ部ニ至テ詳說スヘシ

(四)獵團　狩獵ニハ單獨ニテ行フモノト有志ノ數人ノミ共同シテ行フモノト又一ノ社會團體即黨、一社又ハ數黨、數社ニテ行フモノトアリ。祭祀後ニ行フ狩獵ハ概シテ其祭祀團體之ノ共同ニテ合同狩獵ヲ爲シタル場合ニハ其獵獲物ノ分配ニ付各社一定ノ慣習アリ

(五)狩獵ニ關スル祭祀及禁忌　ハ甚多シ。然レトモコハ既ニ宗教ノ部ニ述ヘタル所ナルヲ以テ玆ニ之ヲ略ス

第二　狩獵ノ方法

本族ノ狩獵ニハ既ニ述ヘタルガ如ク銃、弓矢又ハ槍ヲ用キルモノ、機關ヲ用キルモノ、網又ハ係蹄ヲ用ウルモノアリ。左ニ其方法ノ概略ヲ示ス

(一)銃、弓矢又ハ槍ヲ用井ルモノ

(い)總說　古代銃器ノ移入セラレサリシ時ハ專弓矢ヲ用キタルモ現時ハ概シテ銃ヲ用ツ。槍ハ古今ヲ通シテ用キラル。此等ノ作方左ノ如シ

1)弓矢　弓（番語「プシタヌ」又ハ「ピリヤ」「テブシヤタヌ」「ダズー」）ハ其長四五尺、竹、桑又ハ梓ニテ作ル。之ニ麻絲ヲ捻リタル絃（古代麻ノ無カリシトキハ榕樹又ハ赤榕ノ内皮ヲ乾カシ其纖維ヲ取リテ絃ヲ作リタリト云ノ）ヲ張ル

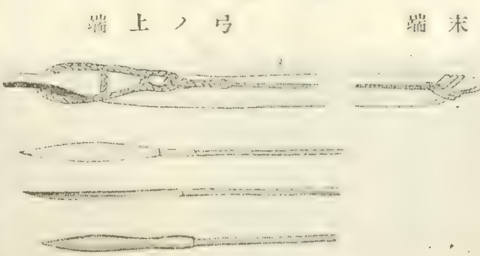
矢（番語「ツクス」）ハ長二尺乃至二尺半。小竹（此竹モ又「ツクス」ト稱ス番地ニハ多ク之アリ）又ハ蘆竹ノ莖ニテ作リ其先端ヲ尖ラス之ニ鐵鏃ヲ附スルモノアリ

(2)銃　本族ノ所有スル銃ハ領臺以前ニ土人ヨリ交換ニ依リテ取得シ又領臺ノ當時淸兵ヲ襲ヒテ略奪シタル所ニ係ル。之ニハ火繩（番語「ポサポヤ」）管打（同「ポタンハオ」）スナイドル（同「ザルプゲス」）、レミントン（同「コロジャス」）、モーゼル單發（同「バジャカジャカヌ」）等各種アリ

（附記）番丁等ノ言フ所ヲ聞クニ獸ノ急所ハ其頭部及腋下ナルガ故ニ狙擊スルトキハ多ク之ヲ其標的トスト。而シテ彼等ハ銃丸ノ浪費ヲ惜ムガ故ニ獸ヲ五六間以内ノ距離ニ來ルニ非サレハ發銃セス從テ其命中ヲ誤ルコトハ少シト云フ

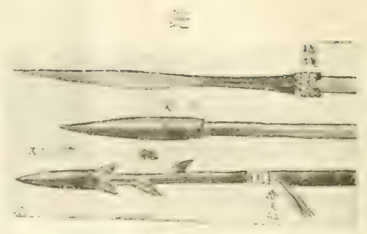
(3)槍　淡竹（番語「カラバス」土語ニテ「猴猻仔」ト稱ス）又ハ木ノ柄ニ鋒ヲ附シタルモノ、柄ノ長六七尺「キリブトバブイ」（猪ノ茅原ノ中ニ臥居ル所ヲ刺スコト）ニ用キルモノニハ「カラビサヌ」又ハ「カラリス」ト稱シ鋩ニ枝ヲ附セリ。尙次ノ獵法ヲ記スル所ニ於テ其槍ノ構造ヲ述フヘシ

(ろ)獵法　團體的ニ爲スモノニハ「カマルプ」（圍狩）及「ジママ」（火狩）アリ。單獨的ニ爲スモノニハ「ルマウンルミ



弓長約四五尺　矢單長四寸乃至四寸四分

クズ」「ジマウジ」（共ニ待討）「カムゼリ」、「コムズジ」「ルマラブ」「クマロム」（共ニ捜討）等アリ



槍ノ鏃及石突　箭ハ矢木竹約四尺
半　芒約一尺三寸五寸　」ヒラ
リス「約一尺四寸五寸　石突五寸

(1) **狩**　「カマルブ」ト稱シ一衆共同シ山野ノ圍ミ犬ヲ放チ其間ニ棲息スル野獸ヲ逐出シ之ヲ射取ス其祭祀後ニ行フモノハ特ニ「マブソァ」ト稱ス

獵犬ニ關シテハ養畜ノ部ニ説述ス

(2) **火狩**　「ジマヽ」（燒クノ義）又ハ「ハテジマ」ト稱ス狩ト同樣一衆共同シ茅山ノ圍ミ火ヲ放チ野獸ヲ逐出シ之ヲ射取ス

(3) **猪ノ待討**　猪ノ畑ヲ荒スヲ防ガンガ爲夕刻ヨリ又ハ未明ニ一人又ハ數人ニテ犬ヲ伴ハス畑ニ赴キ猪ノ來路ニ待受ケテ之ヲ射取ルヲ「ルマウン」又ハ「カムズリ」ト云ノ又朝未明數人ニテ山ニ至リ猪ガ畑ヨリ歸去ル所ノ路ニ待受ケ之ヲ討取ルヲ「ルミクズ」ト云ヒこほじ番ニ於テ「ルミクズ」ハ夕刻ヨリ多人數ニテ畑ニ赴キ密ニ猪ノ來ルヲ待チ猪來レハ遠ク之ヲ包圍シテ逃レシメザル樣ニシ夜明ヲ待チ一方ヨリ犬ヲ放テ之ヲ逐ヒ三方ニテ待受クト云フ

(4) **捜シ討**　一人又ハ數人犬ヲ伴ハス山野ニ入リ野獸ヲ見附出シ徐々ニ靜ニ之ニ近ツキテ射取ルヲ「カムゼリ」ト云フ。此ハ槪シテ晝間ニ行フ。凡テ獸ニ近クニハ風下ヨリス　こほじ番ニ於テ晝間犬ヲ伴ハス山野ニ赴キ身ヲ潛メ呼笛（番語「シヲウシ」）ヲ吹キ鹿ヲ呼寄セ之ヲ討取ルヲ「ジーオジ」ト云フ。呼笛ハ割籐ヲ∩狀ニ曲ケ其中間ニ籐ヲ薄ク削リテ作リタル舌ヲ附ス　スボンコソパル南蕃社ニ於テ日中ニ（パリシオ番ニテハ未明ニ）犬ヲ伴ヒ獸ノ跡ヲ搜リツツ之ヲ逐ヒ出シテ獵スルヲ「ルマラブ」ト云フ　又同社ニ於テ、大雨ノ時山羊ノ岩陰ニ隱レ在ル所ヲ搜出シテ射取ルヲ「クマロム」ト云フ

(5)「**キリブトバブイ**」　暴風雨ノ翌日茅原ヲ巡リ猪ノ臥居ル所ヲ見出シ槍ヲ以テ刺ス法アリ猪ハ暴風雨ノ時ハ茅原ノ内ニ風當リ少キ所ヲ選ヒ茅ヤ枯枝ヲ集メ之ヲ圍ミテ巣ヲ作リ其内ニ臥スルヲ常トス。之ヲ「キリブトバブイ」ト稱ス　此時ニ用ヰル槍ハ鋒ノ先端ニ↑形ノ返シ(番語「ラビサ」カ)ヲ附シ在ルヲ以テ身ニ刺ササルトキハ決シテ拔クルコトナシ。其鋒ノ末端ニハ丈夫ナル長キ紐ヲ附シ其紐ノ一端ヲ柄ノ中央ニ繋キ而シテ鋒ハ柄ノ先端ニ箝ムト雖モ拔ケ易キ様ニ裝置セリ。故ニ一タヒ此槍ヲ投テ獸ヲ刺ストキハ獸ハ驚キテ走リ此時鋒ハ柄ヨリ拔ケ柄ハ紐ニ依リテ　形ト爲リ引スラレ行キ終ニ其柄ガ樹ヤ石ニ引掛ルヲ以テ獸ハ身ノ自由ヲ失シ捕獲セラルルニ至ルナリ

(附記)　狩獵談　こぼじ番内獅頭社ノ勢力者ウリユーパジョバクハ本年六十七八歳ナルガ尚矍鑠タル老番ナリ彼ハ生來狩獵ニ巧ニシテ今日ニ至ルマテ豹一頭猪八頭羗九十七頭ヲ獲タリト云フ。彼毎ニ誇リテ曰ク「獵獲シタル數ノ余ヨリ多キ者ハ他ニモ之アリ。現ニ外獅頭社長バツオ・ルプランノ如キハ猪八十頭羗二百二十餘頭ヲ獵シタリ。然レトモ大ナル獸ニ對シ一發必命中シ一刀能ク仕留ムル者ハ余ノ外ニハ一人モアラサルナリ。余ハ未曾テ一度モ討取ラントシタル獸ヲ取逃セシコトアラス」ト　彼ハ能ク語ル。其狩獵ニ關スル功名談ハ少カラス。其中ニテ彼ガ最得意トスルモノハ待討ニ出テ危險ヲ冒シテ珍シキ大猪ヲ獲シ話ナリ。之ニ依レハ彼等ノ所謂「コムズリ」ノ獵法如何ヲ知ルヘク又彼等ガ如何ニ冒險的ナルカヲ知ルヘキヲ以テ左ニ之ヲ記ス(大正七年小林氏ノ手記)

該老番ハ下ノ如ク語リヌ　今ヨリ約三十餘年前ノ事ナリキ、久シク狩獵セスシテ在リシガ或日獵趣頓ニ興リタルヲ以テ明日ハ一度出懸ケ見ント思ヒ朝來米食ヲ廢シ其他狩獵ニ伴フ禁忌ヲ戒メタリ。然ルニ其夜夢ニ獵ニ出テ大ナル獸ニ出遇ヒタルヲ見タリ。是出獵ニハ實ニ吉兆ナルニ因リ大ニ喜ヒ夜ノ明クルヲ待チ早ク起キ刀ヲ磨シ銃ヲ檢シ銃丸十發許ヲ玉差ニ納メサテ辨當トシテ番藷、乾芋若干ト黃銅鍋ヲ背袋ニ入レテ之ヲ負ヒ番刀ト玉差トヲ腰ニ著ケ銃ヲ肩ツキテ正午頃出發セリ。獵場ハ外獅頭社ニ近キ山腹ニ在ル森林ニシテ當時ハ豹、猪、羗ナト夥シク棲息シタリ。余ハ先ツ其森ノ傍ナル獵小屋ニ著テ休憩シ薪ヲ集メ火ヲ起ス。時刻ハ早ケレトモ夕飯ヲ作リ之ヲ食セリ。ソレヨリ背負袋

ナ小屋ニ殘シ身輕ニナリテ森林ニ入リ待討ニ適當ナル場所ヲ見出サントテ約十町程モ奧ニ行キタルニ猪ノ足跡及其ノ鼻ニテ土ヲ掘起シタル跡多ク、遠ク森ノ奧マデモ續ケリ。能ク之ヲ見ルニ其跡尚新シ此時余ハ風向ヲ驗シ四圍ヲ見廻セシニ風下ニ當リテ大ナル立木アリ。待討ニハ絕好ノ場所ナルニ因リ此所ニ草ヲ刈集メテ座ヲ構ヘ銃ヲ裝彈シテ之ヲ傍ニ置ケリ。日ハ未タ暮レサルヲ以デ余ハ煙管ヲ取出シ火ヲ點シ之ヲ喫シツツ夜ノ至ルヲ待ツ。斯テ日ハ落チ森ハ次第ニ暗ク鳥ノ聲ハ止ミ獸ノ吠エル聲遠ク彼方ニ起リ栗鼠ハ樹上ニ走リテ頻ニ鳴ケリ。少時シテ月出テ森ハ少シク明クナリ。風ハ弱ク森ノ奧ヨリ吹來レリ。此時ノト遠カ前ノ方ニ微カニ獸ノ足音聞エ、余ハ直ニ煙草ノ火ヲ消シ極メテ靜ニ銃ヲ前ニ横ハレル枯木ノ枝ニ託シ銃口ヲ前ニ向ケテ之ヲ待ツ「ゾロヤゾロヤ」(枯葉ヲ蹈折ル音)「ホスホス」(猪ノ鼻息)ノ音ハ次第ニ近ツキ明カニ野猪ノ來リツツアルヲ知ルコトヲ得タリ。余ハ固ク銃床ヲ握リ引金ニ指ヲ觸レツツ月光ニ透シテ音スル方ヲ見ルニ極メテ大ナル猪一頭首ヲ振リツツ食ヲ求メテ僅ニ十五六間前方マデ來レリ。我胸ハ躍リヌ。猪ハ少モ此所ニ人ノ隱レタルヲ氣付カズ「ブスブス」ト鼻息荒ク約七間ノ距離ニ迄來リテ立留リ左方ヲ向キ頻リニ鼻先ニテ土ヲ掘リ餘念ナク食ヲ搜セリ。距離ハ少シ遠ケレトモ我ニハ十分ノ自信アルヲ以テ獸ノ左耳ヲ狙ヒ引金ヲ引ケリ轟然一發銃聲ハ四圍ノ木ノ葉ヲ動カシ而シテ我手ニハ確ニ手應アリタリ。余ハ第二彈ヲ裝シツツ煙ヲ透シテ見レハ「オソカヲスピ」(大ナル幸ヨ)猪ハ四肢ヲ蹴キ土ヲ嚙ハシツヽ起タントシテハ倒レ倒レテハ又起タントシ「アツアツ」ト叫ブ。余ハ銃ヲ捨テ刀ヲ拔キ飛テ之ニ突進シタルニ猪ハ起上リ猛然ト飛來レリ余ハ身ヲ交ハサントシタルニ勢餘テ俯向ニ倒レタリ。倒レナガラモ一刀猪ノ横腹ヲ突上ケタリシニ手應ヘアリ。急キ起上リテ猪ト向フヲ見レハ猪ハ二三間先ニ倒レ在リ。駈行キ之ヲ突カントスレハ獸又起上リテ飛掛ラントス、余ハ其首ヲ目ガケ滿身ノ力ヲ込メテ之ヲ刺シタルニ刀身沒シテ僅ニ鞘ヲ殘ス。乃チ兩手ニテ鞘ヲ握リ獸ノ腹中ヲ掻廻シタルニ獸ハ大聲ヲアゲト叫ヒテ斃レヌ。試ニ之ヲ計リタルニ身長一尋半(八七尺餘)胴ノ周圍一尋餘(六尺)牙ノ長三寸位アリテ稀ニ見ル大キ大猪ナリ。余ハ斯カル大猪ヲ單獨ニテ斃シ且毫モ身ニ負傷セサリシハ是實ニオフウアリ(熊神)ノ守護ナルヘシト思ヒテ感謝セリ。ソレヨリ斃レタル猪ヲ假小屋マテ運ハント後脚ヲ握リ之ヲ引カントセシモ毫モ動カヌ故ニ一旦

歸テ人ヲ呼來ラント衣ヲ脱シテ之ヲ其屍ニ掛ケ(是自分ノ獵シタル標識ナリ)テ歸來リ後ノホノ〳〵明ムコト、[illegible]社ニ着キタリ。余ハ先ツピナイシャジャウ(社ヲ守ル神)アイヤバガヌ(家内ヲ守ル神)及社民ニ告グル爲メ大聲ニヲウラー、ウラ、ウラ、ウラ、ウラワ、ホート叫ヒタリ。ソレヨリ社ニ入リ家族ノ者二名ヲ伴ヒ前所ニ引返シ三名ニテ辛ウシテ其獸ヲ森ヨリ引出シ猪ノ腹部ヲ十字ニ切開キ内臓ヲ取出シ胴ヲ切テ二トセリ。溪ヨリ水ヲ汲來リ内臓ヲ洗ヒ火ヲ起シテ其一部ヲ芋ト共ニ煮テ之ヲ食セリ。ソレヨリ葛藤ニテ其猪ヲ縛シ二人ニテ擔ヒ歸レリ。新嘗ヲ行ヒタルノ後社民ニモ分配シタリ云々

同老番ハ更ニ語リヌ　猪ハ野獸ノ内ニテ最モ勇猛ニシテ狩獵ノ際屢々我等ニ抗敵シ來ルヲ以テ我等ハ爲ニ重傷ヲ被ルコトアリ。今ヨリ五十年前我父ハ耕作地ヲ荒ス猪ヲ斃サントテ夕方ヨリ單獨ニテ番藷畑ニ赴キ其ノ來ルヲ待受ケタリ。夜半大猪來リタルニヨリ頭ヲ目懸ケ發銃シタルニ丸ハ外レテ腹部ニ中レリ。猪ハ倒ルルコトナク遁走セリ。我父ハ早速歸社シ壯丁十數名ト犬七匹トヲ伴ヒテ引返シ犬ヲ先ニ立テ血ヲ辿リツツ之ヲ追カケタリ。山ヲ越ヘ谷ヲ渡リ森ヨリ茅原、茅原ヨリ森ト搜査セシニ翌日ノ夕方ニ至リ一隻ノ犬大ニ吠エタルニ因リ衆ソコヘ走リ行キタルニ負傷シタル大猪七匹ノ犬ト鬪ヒツツアリ。衆遠ク之ヲ包圍シ其中ニテ三人ノミ搶ヲ揮ヒ突進シテ獸ノ胸部及腹部ヲ突刺シタルニ獸怒テ牙ニテ一人ノ臀部ヲ突キ又股ニ咬着キ之ヲ引倒シテ振廻セリ。其番丁悲鳴ヲ揚ケシカハ一衆モ猪ノ腋下ヲ目懸ケ刀或ハ槍ニテ之ヲ突刺シ漸クニシテ之ヲ斃スコトヲ得タリ。然レトモ猪ハ咬付キタル儘ニテ之ヲ放サザルヲ以テ番丁ノ一人刀ヲ取テ猪ノ口ニ挿込ミ之ヲ以テ其口ヲ橇(コッパ)開ケ漸ク之ヲ放サシメタリ。而モ其者ハ重傷ノ爲ニ氣絶セリ。乃チ之ヲ負ヒ歸リテ手當ヲ加ヘタルニ幸ニ蘇生シタルモ大腿部ニハ大ナル咬傷アリ臀部ニハ二箇所ノ突傷アリ而シテ左右ノ膝ハ突折ラレタリ。後二箇月餘ニテ全快シタルモ兩脚ハ曲リテ終ニ歩ムコト能ハサルニ至レリ。而シテ其時ノ猪ハ長一尋餘(約六尺)胴周圍一尋(約五尺餘)アリ牙ノ長サ三寸アリタリ云々

同老番ハ尚豹ヲ獵シタルコトニ付キ語レリ　今ヨリ十餘年前余ハ社民二十餘名ト共ニチージャバス(當社ヨリ南方約十町程離レタル森林)ニ狩獵ヲ行ヒタルコトアリキ。一同獵小屋ニ宿泊シ毎日未明ヨリ狩獵ヲ行ヒタリ、或朝森林ノ奥ニ

テ鳶類ニ鳴クヲ以テ余ハ當ミ犬數頭ヲ伴ヒテ之ニ赴キタルニ大ナル豹一匹ノ鳶ヲ喰ヒツヽアリ犬直ニ之ヲ攻撃セシカハ豹ハ逃レテ大ナル榕樹ノ地上ヨリ約三丈許ノ上ニ登リ犬ハ向テ「ヌーヌ」ト吽ヒタリ余ハ榕樹ノ下枝ニ銃身ヲ託シ仰テ豹ノ腋下ヲ狙ヒ發銃シタルニ命中セリ。豹ハ急所ノ痛手ニ堪ヘス石ノ如ク轉落シ來レリ猛ツヨキ吾犬ハ之ヲ咬殺セリ。其身長ヲ計ルニ長サ約一尋ノ大豹ニシテ斑紋極メテ麗シカリキ。余ハ之ヲ持シテ社ニ歸リ「スマノアジャ」(豹ヲ獵獲シタルトキニ行ノ祭祀ナリ)ヲ行ヒ後其皮ヲ平地ニ持行キ金八圓ニ賣リタリト云ハ

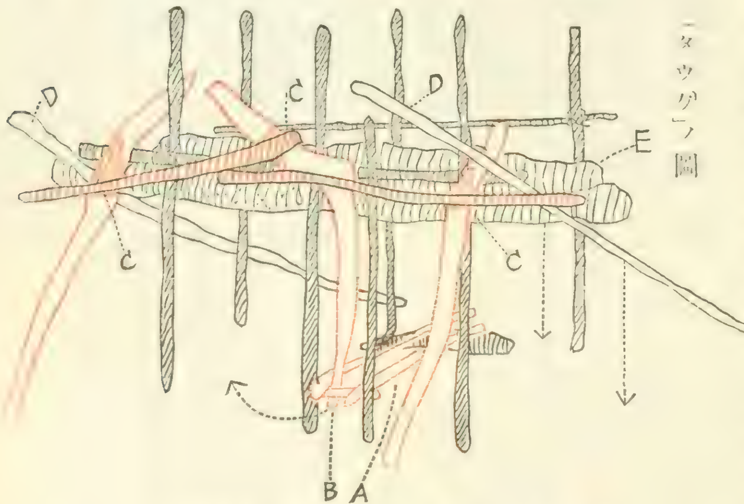
(三)機檻ヲ用ウルモノ 此ニ數種アリ

(1)**路銃** 銃ニ仕掛ヲ施シ之ヲ野獸ノ通路ニ置キ獸來テ之ニ觸ルルヤ銃ハ自然ニ發シテ其獸ヲ射ル之ヲ「パラオン」ト云フ

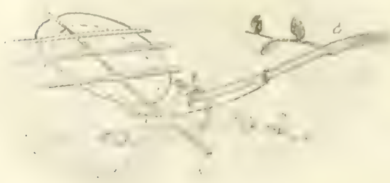
(2)**陷穽** 獸ノ走路ニ穴(番語「バロン」)ヲ穿チ中ニ長三四寸ノ竹釘ヲ立置キ其上ニ木ヲ渡シ雜草ヲ蔽フ。獸來リ草ヲ踏マハ穴ニ落チ其竹釘ニササレテ傷ツク

(3)「**タウグ**」 るかい番ニ用キルヒト。以テ猪羊麂狸等ヲ捕フヘシ下

「タウグ」ノ圖



獸Aヲ踏メハB離シCノ引掛脱シテD落チDノ上ニ載セアル木石一時ニ落チテ獸ヲ壓殺ス



「ワトクル」ノ圖。四圍ヲ木又ハ竹ニテ仕切リ獸ヲシテ後方ヨリシテ入ラシム罠ノ上ニハ草ヲ置ク獸之ヲ踏メハ横木ハ折レBノ所ハヅレCナル枝撥上リ獸ノ脚ハ罠ニカケラル

ニ小林氏ノ調査シタル所ヲ圖示ス

(ト)猴落シ　ぶつる番ニ於テ「ルモポ」こぱじ番ニ於テ「ルソン」ぱりじゃお番ニ於テ「グテヤウ」ト云フ。仕掛アル小屋ヲ作リ之ニ猴ノ陷シテ生擒ス。上記ノ諸番ニ於テハ猴ヲ殺スコトヲ忌ム。而モ其ノ爲ニ農作ノ荒サルルヲ防カサルヘカラサルヲ以テ之ヲ生擒シテ土人ニ賣ル

(チ)竹釘　傾斜ノ地ニ竹釘(番語「トカル」)ヲ植エ其附近ニ待受ケ一方ヨリ獸ヲ追出シ獸ノ釘ヲ踏テ傷ツキ走ルヲ躡ム所ヲ射留メ又ハ刺殺スナリ。ぶつる番クワルス社ニ於テ鹿猪等ヲ取ルニハ長二尺餘ノ竹釘ヲ用ウト云フ

(四)罠又ハ網ヲ用ウルモノ

(1)網　獸ノ走路ニ網(番語「ラハッ」)ヲ張ル。獸來テ之ニ突當リ頭ヲ引掛ケテ自由ヲ失ヒ逃ルルコトヲ得ス

(2)罠　罠ノ重ナルモノハ(一)「リンガイ」ニシテ此ハ麻繩ニテ作ル。之ヲ林中獸ノ通路ニ掛置クトキハ獸ソコヲ通ラントシ首又ハ脚ヲ突込ミ直ニ上方ニ吊上ケラル(二)「スルウチ」ニシテ此ハ葛藤ニテ作ル。之ノ山羊ノ來ルヘキ路ニ掛置クトキハ獸知ラス之ニ頭ヲ突込ミ絞メラルルニ至ル(三)るかい番「サホガメ」社ニ於テ小林氏ノ調査シタル所ニ「トコロ」又ハ「ワトクル」ト稱スル罠ハ圖ニ示ス所ノ如シ。此外同番ニハ鳥罠トシテ「バルバルナカド」「バリココン」「タオタロロ」「スラブ」「オアラルク」ノ種類アルヨシナレト調査ヲ漏シタリ

第三　共同狩獵

(一)總説　狩獵ハ屢一黨、一部黨、一社又ハ數社共同シテ之ヲ行フ。祭祀後ニ行フ狩獵卽「マブソア」ハ其祭祀團體ニ屬スル諸黨共同ニテ之ヲ行フ

共同狩獵ニハ團狩及火狩アリ、此等ノ場合ニハ頭人又ハ黨老之ガ指揮者ト爲リ團體ニ屬スル壯丁之ニ從フヲ常トス

火獵ノ場所ハ各社團ニ於テ一定セリ、此ハ每年行ハス二三年ヲ隔テテ行フ、新曆十二月頃(番語ニテ「ツヤウラマス」ト稱シ木葉ガ落ツル時ナリ)ニ至レハ寞々シテ野猪ハ此ニ集リ來ルガ故ニ晴天續キ茅ノ充分ニ乾燥セル時ヲ見計ヒ之ヲ行フ

(二)狩獵ノ方法　左ニ安原氏ガこ因し番内文社、小林氏ガ北ばいわ番チジ、カブス社ニ於テ調査シタル「カマル」ノ次第ヲ揭ク

(い)出發　狩獵ハ頭人(頭人ナキ番社ニ於テハ其代理者)ニ豫メ其日ヲ定メテ部下ノ番丁ニ通知シ前夜一團ノ指揮者ハ夢ヲ試ム(夢凶ナレハ其日ハ行ハス吉ナルモ唯獲物ノ少キノミ中止スルニ及ハスト云フ者モアリ)日ニ至リ番丁一同食糧(狩獵ニ要スル日數ヲ計リ其間ニ要スル分量)及鍋ヲ携ヘ指揮者ノ家ニ集ル　社ヲ出テ休憩所ニ至リ祈禱(獸ノ靈魂ヲ招ク式)ヲ行フ　獵場ニ至リ獵



第四十三圖　番丁ノ獵裝

(高士佛社ニ於テ)

合（小屋掛）ニ入リ之ニ各自ノ携帶品ヲ置キ身輕ト爲リテ出獵ス

（ろ）部署　ハ指揮者ト重立チタル者協議シテ之ヲ定ム。先ツ犬ヲ役スル者若干人ヲ以テ「ナコムチ」（殺ス者ノ義）トシ之ヲ獵場ノ下方ニ配シ其餘ノ番丁ヲ以テナトマラオ」（待受クル者ノ義）トシ各銃又ハ槍ヲ取リ若干ノ間隔ヲ置テ左右及上方ノ三面ヲ圍マシム。然後「ナコムチ」犬ヲ放チ其後ニ從ヒテ上方ニ向テ前進ス。獸驚テ逃出テントスルトキ「ナトマラオ」之ヲ討取ル「ナコムチ」ノ下方ニ更ニ數人ノ番丁ヲ配シ槍ヲ持シ其後ニ從ヒ喊聲ヲ擧ケテ前進スルコトモアリ。之ヲ「エコジス」（追撃者ノ義）ト云フ火獵ノ場合ニ於テハ犬ヲ放タス火ヲ下方ヨリ點ス。其火ヲ放ツ一團ヲ「ツムヴブ」ト云ヒ他ノ三方ニ在テ待受クル者ヲ「ナトマラオ」ト云フ

部署ノ名稱ハ社ニ依リテ之ヲ異ニス。例ヘハ待受クル者ヲるかい番ニ於テ「ヤブンブン、スボン、コツコル」兩群社ニ於テ「キヰコブ」（臂ノ義、蓋シ獵獲シタルトキ獸ノ臂ヲ得ル部分チ分配セラルルガ故ナルヘシ）内獅頭社ニ於テ「ナクメラジ」（腰掛クル者ノ義）内文社ニ於テ其中ニ左右兩側ニ立ツ者ヲ特ニ「パヾデ」（「ヾデ」ハ横ノ義）上方ニ立ツ者ヲ「タルバツ」（待受者）ト云フカ如シ。倚圍獵ニ於テ犬ヲ指揮スル者ヲ「プイナラプ」又ハ「ナマラプ」（共ニ取得スルノ義）トモ云フ所アリ

（は）歸社　狩獵終ルヤ其獲物ハ獵舍ニ於テ分配シ後一同之ヲ携ヘテ歸途ニ就ク　社ノ附近ニ來レハ指揮者ノ音頭ニツレテ一同大聲ニテ「オー」「オー」又ハ「ウラ」「ウラ」等ト呼フ。其呼聲ハ獲物ノ種類ト頭數トニ依リ差アリ　社民男女此呼聲ヲ聞クヤ出テ社口ノ外ニ迎フ。巫乃チ粟莖ノ火把ヲ點シテ之ヲ路ニ置ク。一同之ヲ跨キテ社内ニ入ル。次ニ巫件ノ火把ヲ以テ「ソンブジ」（獸靈チ招クノ式）ヲ行フ（其方式ハ祭祀ノ部ニ於テ既ニ述ヘタリ故ニ略ス）ソレヨリ一同ハ頭人又ハ指揮者ノ家ニ集リ酒宴ヲ開ク

（附記）狩獵シテ歸リ社ニ近ツキタルトキ「オー」「オー」又ハ「ウラー」「ウラ」ト呼フハ社民ニハ勿論番

社ヲ守ル神靈ニ狩獵ノ結果ヲ知ラサンガ爲ナリト云フ。小林氏ガ若干ノ番社ニ就キ其呼聲ノ調査シタル所左ノ如シ

(1)るかい番諸社　ニ於テ鹿又ハ猪ヲ獲タルトキニ限リ「オー」「オー」ト五回連呼ス

(2)ぶつる番マヌル群社　ニ於テハ猪鹿又ハ山羊ヲ獲タルトキニ限リ之ヲ行フ。卽チ　(一)猪ノ場合ニハ「ホー」「ホー」「ホー」「ホソイ」(呼四)ト(二)鹿ノ場合ニハ「フラ」「フラ」(呼二)ト短ク(三)山羊ノ場合ニハ「フラー」「フラー」(呼二)ト長ク呼フ。何レノ場合ニ於テモ頭人ノ同行シタルトキハ呼了チ一回發銃ス

(3)北ばいわ、番チジャカブヌ社　ニ於テハ猪又ハ鹿ヲ獲タルトキニ行フ其聲ハ獸ノ牝牡ニ依テ異リ。卽チ牝ナルトキハ「オー」「オー」(呼二)ト、牡ナルトキハ「オー」「オー」「オー」(呼三)ト呼フ

(4)こぼじ番內[illegible]頭社　ニ於テ猪、鹿、山羊、羌、豹又ハ鹿ヲ取リタルトキニ行フ。卽チ(一)猪ノ場合ニハ「ウラー、ウラ、ウラ、ウラ、ウラ、ウラワオー」(呼六)ト呼フ。但シ牝ナルトキハ唯一回ナルモ牡ナルトキハ角ノ長二指幅ノモノニ對シテ二回、三指幅ノモノニ對シ三回之ヲ反覆ス　(二)鹿ノ場合ニハ「ウラー、ウラ、ウラ、ウラ、ウラソオー」(呼六)ト呼フコト猪ニ同シ但シ牝ナレハ一回ナルモ牡ナルトキハ其角ノ枝ノ數ダケ反覆ス(卽水鹿ナレハ六回花鹿ナレハ十回)　(三)豹ノ場合ニハ單獨ニテ赴キタルトキハ「ヤオー」ト呼ヒ二人以上ナルトキハ討取リタル者先ツ「チャラカジャー」ト長ク呼ヒ同行者之ニ續テ「ヤオー」「ヤオー」ト呼フ　(四)山羊又ハ羌ノ場合ニハ「ヅラー、ウラ、ウラ、ウラー」ト呼フ　(五)熊ノ場合ニハヤオー」ト呼フ

(5)ぼりじゅお番高士佛社ニ於テハ猪又ハ鹿ヲ得タルトキニノミ之ヲ行フ卽チ　(一)猪ノ場合ニハ「オー、オワー、オワー」ト呼フ　(二)鹿ノ場合ニハ猪ニ同シ。唯牡ナルトキ又ハ牝ニシテ其大サ一

尋以上アルトキニ限リ三回之ヲ反覆ス

(三)獵獲物ノ分配 共同狩獵ニ於ケル獲物ハ先ツ其一部分ヲ取テ頭人ニ與フル獵租トス、但シ祭祀後ノ狩獵ニ於テハ獵租ヲ頭人ニ與ヘスシテ之ヲ祝ニ與ヘ又ハ獵租ヲ頭人ト祝ニ分與ス　然後第一着ニ其獸ヲ射中テ又ハ刺シタル者(之ヲ「コムチ」(殺スノ義)又ハ「マラプ」(取ルノ義)ト云フ)ニ一部分ヲ與ヘ其殘餘ヲ一行ノ番丁ニ均分ス、若シ其獸ガ第一着ニテ仕留メラレスシテ走リ而シテ第二着ニ射中テ又ハ刺シタル者アルトキハ更ニ此第二着ノ者ニモ一部分ヲ取テ與ヘ第二着ニモ仕留メラレス第三着ニ仕留メラレタルトキハ第三着者ニモ亦與ヘ然ル後其殘餘ヲ平分ス　若犬ガ先ツ獸ニ咬着キ傷ヲ負ハセタルトキハ第一着者ニ準シ其分前ヲ其飼主ニ與フ

右第一着及第二着者ニ與フヘキ部分ハ番社ニ依リ差異アリ、二三ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ左ニ掲ク

(い)るかい番キヌラマ、アデル兩社　ニ於テ第一着者頭部(牡鹿ハ鞭ヲモ)ヲ取ル、第二着者アルトキハ頭部ヲ鼻梁ヨリ兩分シテ各其一片ヲ取ル(鹿鞭ハ布疋ニ代ヘテ兩分ス)、第三着者アルトキハ第一着第二着兩者ニ頭ヲ半分シ第三着者ハ右ノ前肢ト胸肉少許ヲ取ル、而シテ鹿ノ角及鞭ハ布疋ニ代ヘテ三人平ニ分ス

(ろ)ぶつる番マヌル群社　ニ於テ第一着者ハ頭部及胴ノ上半部ヲ、第二着者ハ下半部ノ更ニ其半部ヲ取ル若シ第三着者アルトキハ第一着者ハ頭部ヲ、第二着者ハ胸部ヲ骨附ノ儘、第三着者ハ脊梁全部骨附ノ儘ヲ取ル

(は)北ばいわぬ番チャジャカブス社　ニ於テ鹿ハ第一着者ハ鹿鞭及骨附ノ胸肉(下方ノ肋骨三枚ヲ除ク)ヲ、第二着・

者ハ頭部ヲ取リ而シテ其獸ヲ逐出シタル犬ニ下方ノ胸肉（胸骨ノ部分三）ヲ與フ

（に）北ばいわぬ番スボン、コワバル兩群社　ニ於テ（一）猪山羊及羗ノ場合ニハ之ヲ胴ノ中部ニ於テ横斷シ第一着者其上部即頭、胸部（臟器ヲ除ク）ヲ得、第二着者腹部（臟腑ヲ除ク）ヲ得、而シテ肝臟及後脚ノ大腿二片（若小猪、山羊又ハ羗ナルトキハ一片）ヲ以テ獵租トス　（二）鹿ノ場合ニハ第一着者頭（角附）及胸部、第二着者ハ腹部（鹿鞭附）ヲ得、而シテ毛皮、肝臟及後腿二片ヲ獵租ト爲ス　（三）熊ノ場合ニハ第一着者之ヲ平地ニ持行キ賣テ其價ヲ取リ第二着者ニハ銀鏈、銃身各一、並ニ銀貨一二圓、頭人ニハ芋一ヲ與フ。此外別ニ同行者ニ分配セス　（四）豹ノ場合ニハ頭人ニ毛皮及牙ヲ與ヘ偉ハ平地人ニ賣テ其價ヲ取リ其中ヨリ銀鏈、銃身各一ヲ求メ之ニ銀貨若干ヲ添ヘテ第二着者ニ與フ　（五）鷹ノ場合ニハ其長羽五本ヲ第二着者ニ、五本ヲ平ニ（許嫁ナル謝トシテ行ヒタ）三本ヲ頭人ニ、短、羽一本ツツヲ同行者ニ分ヲ而シテ其殘餘ヲ獵獲者ニ取ル

（ほ）こぼじ番内文社　ニ於テ（一）猪ハ胴ノ半ヨリ二片ニ横斷シ第一着者上半部ヲ、第二着者下半部ヲ取ル。若獸ガ第一着ニ仕留得ラレシトキハ第一着者ノ右ニ在リタル者其下半部ヲ取ル而シテ後脚ハ獵租トシ前脚ハ一行ニ分配ス　（二）鹿及山羊ハ第一着者頭部（角附）毛皮及胸部ヲ取リ第二着者臀部及鹿鞭ヲ取ル　（三）豹ハ其毛皮ヲ頭人ニ與ヘ第二着者ニ牙ヲ與ヘ而シテ第一着者其殘ヲ取ル　鷹ハ長羽三本ヲ獵租トシ同行者ニ一二本ツツヲ與ヘ餘ヲ獵獲者ニ取ル

（附記）余ガ同番内獅頭社ニ於テ調査セシ所ハ下ノ如シ　猪ハ第一着者其頭部ヲ、第二着者其臀部（臀ヨリ下部）、第三着者肉附ノ胸骨ヲ取ル。鹿ハ最初ニ射中シタル者即第一着者胸部ヲ取リ第二着者（矢、槍、刀ヲ以テ獸ヲ打留メタル者）臀部ヲ取リ第三着者鞭ヲ取ル

（八）ぱりじゃお番高士佛社　猪、鹿、羊及羌ノ場合ニハ第一若者頭部及胴上半部（付屬脂）ヲ得、第二若者胴下半部ヲ得、頭人ニハ右ノ前肢一ヲ與ヘテ租ト爲シ其餘ヲ一行ニ平分ス　豹ノ場合ニハ毛皮ヲ租トシ餘ハ悉ク獵獲者ニ歸ス

第三項　漁撈

第一　總說

本族ノ領域ハ概シテ山地ニ屬シ海ニ瀕スル所ハ少シ。其域内ニ在ル溪流ハ何レモ淺小ニシテ一二ノモノヲ除ケハ夏時減水シテ徒渉シ得ルモノノミ。從テ漁撈ノ業ハ發達セス、僅ニ溪中ニ生育スル魚介ヲ取テ自家ノ食料ニ供スルニ止マル　然レトモぱりじゃお番中ノ猩仔、クラルノ兩社ハ其地域海ニ瀕スルヲ以テ古來既ニ海ノ漁撈ニ從事スル者アリ。況ヤ又近代ハ其地域ガ行政區劃ニ編入セラレタル結果其耕地ハ制限セラレ且ツ山野ノ狩獵ハ之ヲ爲スコトヲ禁セラレタルヲ以テ勢海漁ニ從事スル者多ク出テ今日ニテハ其獲物ハ自家ノ食用ニ供スルノミナラス之ヲ土人ニ賣テ其價ヲ利スルニ至レリ

漁獲物ノ重ナルモノハ鯉、生番鯉、鮒、鮠、烏仔魚、鯰、鰻、石伏魚、蝦、蟹、鼈等トシ尙海ニ於テハ鯛、海烏魚、飛魚鱶、鮪、鰹、海龜、夜光貝及牡蠣等トス

漁場及漁租　漁場ハ各黨又ハ各社團ニ一定ノ場所アリ。此ハ其黨頭人ノ所有地ナルカ、又ハ特ニ漁撈ノ許諾ヲ得タル他黨頭人ノ所有地域ニ屬ス。此ノ地域外ニ漁撈スルトキハ其漁具及獲物ヲ取上ケラレ又罰財ヲ課セラルヘシ　漁撈者ハ其獲物ノ一部分ヲ地主タル頭人ニ與フルコトヲ要ス。之ヲ「バデス」（獵租ト同語）ト云フ。茲ニ漁租ト稱ス。其率ハ番社ニ依リテ差異アリ。土地所有權ノ條下ニ於テ說

述スヘシ

第二　漁撈ノ方法

本族ニ行ハルル漁撈ノ方法ハ頗ル簡單ニシテ之ニ用ヰル道具モ其種類多カラス而シテ此ハ溪流ニ於テスルモノト海中ニ於テスルモノト少シク相異ルガ故ニ之ヲ分説スヘシ

甲　溪漁

一　漁籐ヲ流スコト　漁籐ハ番語ニテ「カユ」又ハ「ラポル」ト云フ。籐ノ一種ナリ。其根ヲ石ニテ敲キ汁ヲ搾取シ之ヲ溪ニ投スレハ溪中ノ魚類ハ其毒ニ中リ浮上ルヲ以テ番丁等ハ其下流ニ於テ之ヲ待受ケ手ニテ拾ヒ又ハたま網ニテ掬フナリ。番語ニ此漁法ヲ「クマユ」又ハ「ルマポル」ト云フ　此ハ毎年冬期溪水ノ少クナリタル時ニ於テ一黨又ハ一社團共同シテ之ヲ行フ　ばりじやお番ノ南部ニ限ル　右ノ外「サプジク」（土語「コかアボイ」ト稱スル灌木）ノ皮ヲ曝シ之ヲ粉碎シテ水ニ流スコトモアリ其毒ハ亦能ク魚頭ヲ麻スルニ足ルト云フ

(二)簀及簗ヲ掛クルコト　之ニ數種アリ

(い)「**ラルイ**」　ぶつる番カザ(ヾ)ザ社ニ於テハ細竹ヲ編ミテ此簀ヲ作ル。溪流ヲ堰キ其中央ノ一部ヲ明ケ其兩邊ニ大石ヲ据エテ其間ニ之ヲ掛ケ以テ流落ツル魚ヲ取ル

(ろ)「**カレダ**」　こぼじ番諸社ニ於テ之ヲ用ウ。籐條ヲ編ミテ簀ニ作リ其一端ヲ曲ケテ返シト爲ス（長六尺幅二尺五寸乃至三尺返シ約一尺アリ）之ヲ溪流中ニ沈メ流ニ逆ヒテ置クトキハ上流ヨリ降來ル魚ハ簀ニ上リ終ニ返シノ中ニ入ル

(は)「**ブヌルヌ**」　スボン、コツバル兩群社ニ於テ之ヲ用ウ。細竹ヲ以テ簀ヲ作リ之ヲ溪流中ニ於テ斜

ニ川下ニ傾ケテ立テ其左右ニ石ヲ積テ袖ト爲ス。上流ヨリ大勢ニテ魚ヲ逐ヒテ至レハ、魚ハ此ノ簗ノ上ニ上ル

(に)「ボパラス」竹ヲ編テ作ル大小一定セス。幅ハ先ツ八九寸。其一端ニ網ヲ附シ其網ノ中央ニ袋ヲ受ク。之ヲ水瀬ノ落ツル所ニ置ケハ魚其簀ノ上ニ來リ終ニ袋ノ中ニ落ツ

〔三〕筌ヲ沈ムコト　筌ニ數種アリ。何レモ竹ヲ編ミテ作ル

(い)「カジサオ」ぱりじゃお番ニ於テ「カジサオ」ト稱スルモノハ形ノ筌ニシテ我國ノもんどりナリ。中ニ餌ヲ入レ底部ヲ縛シテ溪中ニ漬ケ置キ翌日之ヲ取出シ中ニ入リタル魚類ハ其底ノ縛ヲ解キテ之ヲ出ス

(ろ)「コネ」「コネ」又ハ「クニ」ト稱スルモノハ中ニ返シアル筌ニシテ中ニ入リタル小魚ハ漏斗狀ノ蓋ヲ取テ之ヲ出ス。其小ナルモノヲ「コネコネ」ト稱シ專ラ蝦ヲ捕ルニ用ウ

(は)「ロモク」こぼじ番及スボン、コワバル兩群社ニ於テ「ロモク」ト稱スルモノハ口小サク別ニ返シナキ所ノ筌ニシテ底部ニ蓋アリ中ニ入リタル魚類ハ其底ノ蓋ヲ明ケテ之ヲ取出ス　スボンコワバル兩群ニ於テハ溪岸ニ接シ水淺キ所ニ石ヲ以テ圓形ニ積ミ一二夜ヲ經タル後數多ノ「ロモク」ヲ以テ口ヲ内方ニ石積ノ周圍ヲ圍ミ然後件ノ石積ヲ撤シ水ヲ濁シ其中ニ潜入セル魚類ヲ逐出シ「ロモク」ノ中ニ追込ムト云フ　ぱりじゃお番高士佛社ニ於テ「ソルン」ト稱スルモノハ略こぼじ番ノ「ロモク」ニ似タリ。此中ニ米粉ニテ作リタル團子ヲ燒キタルヲ入レ夜之ヲ溪流ノ溜リタル所ニ浸シ置ケハ翌朝小魚、蟹蝦等其内ニ入リ在リト云フ

〔四〕網類ヲ用ウルモノ　網ニ數種アリ

（い）たま網　番語ニタラウ又ハトコト稱ス。之ヲ以テ魚類ヲ掬取ル。徑二尺乃至二尺五寸ナルヲ通常トス

（ろ）胸掛掬網　番語ニテ、タリゾク又ハ丹ビリスト稱シ網ノ一方兩端ニ紐ヲ附シテ之ヲ胸ニ掛ケ兩手ニテ他方ノ兩端ヲ持シ水中ニ入リ之ヲ用ヰテ小魚及蝦類ヲ掬フ

（は）さで網　「カウト」（番ばりし、お社ニ於テ）、カジュカジョン（スボン群社ニ於テ）又ハ「チモリイズ」（カザ又ザノ社ニ於テ）カムリイズ」（チムル社ニ於テ）ト云フ。其先端ノ扇狀ニ開ケル手網ニシテ其製概シテ土人ノ物ニ同シ

（に）投網　番語ニ「アライ」ト云ヒ土人ノモノト其製ヲ同クス。此レハ交換ニ依テ得又ハ自ラ作ル

（五）魚扠「弓又ハ鈎ヲ用ウルモノ　魚扠ハ「ボロク」（番語槍ト同語）ト云フ。其先端概シテ二、叉狀（[illegible]）ヲ爲ス又弓ハ通常ノ弓ニ同シ、此二者ハ清澄ナル深淵ニ於テ魚類ノ遊泳スル所ヲ窺ヒ之ヲ用ウ（第四十四圖參照）

第四十四圖　漁弓
（スボン社ニ於テ）



釣鈎(番語「パナデプ」)ハ土人製ノモノニシテ其用方亦土人ニ同シ

(六)其他　器具ヲ用キサルモノニ左ノ方法アリ

(い)「クムジ」　流ヲ堰キ水ヲ涸シテ魚ヲ取ル。番語ニテ「ブヌジュン」又ハ「クムジ」ト云フ。卽我國ノかひぼしナリ

(ろ)「パイカメ」　スボン、コワバル等ノ社ニ於テハ一方ノ溪岸ニ近ヨセ石ヲ以テ溪流ノ一部ヲ閉ヒ(廣サ約四五坪)其一部分ヲ明ケテ魚ノ入口トス。夜半ニ至リ魚類ノ其石圍ノ内ニ入ルヲ待チ密ニ之ヲ閉シ明朝其中ニ在ルモノヲ捕フ

(は)「スマシプ」　溪底ノ石ヲ起シ其下ニ潜メル魚蝦ヲ手探ニテ捕フルヲ云フ　暗夜炬火ヲ持シ魚ヲ求メテ捕フルヲ「ルミカル」ト云フ

右ノ外深淵ニ跳入リ魚類ヲ手ニテ捕ヘ又ハ小刀ニテ刺ス者アリ。或ハ水底ニ沈メル又ハ岩礁ニ附着セル貝類ヲ拾フ者アリ

(乙)海漁　ぱりじお番ノ南部ニ於テ安原、小林兩氏ノ調査シタル所左ノ如シ

(一)網類ヲ用井ルモノ

(い)投網　貍仔、クラル兩社ニ於テハ既ニ小舟ヲ有シ海上ノ平靜ナル時之ニ乘リ入江等ニ於テ網ヲ投ス。高士佛社ニ於テハ未タ舟ヲ有セス又網ヲ有スル者少ク稀ニ海岸ノ岩上ニ立チ岩ト岩トノ間ニ之ヲ投スル者アリ

(ろ)ひき網　クラル、貍仔ノ兩社ニ於テハひき網ヲ用キテ飛魚ヲ捕フ。網ノ幅約一間長五間乃至七間ニシテ其下端ニハ重錘ヲ附ス。此漁ハ十數人一團ト爲リ分レテ二隻ノ舟ニ乘シ各網ノ一端

ヲ取リ岸ヨリ稍離レタル適當ノ所ニ於テ之ヲ沈メ其端ニ附シアル紐ヲ持シナガラ岸ニ向ヒ迅速ニ潸出ス、然ルトキハ飛魚ハ驚キ逃レントシテ其網ノ目ニ頭ヲ突込ムナリ。此漁獲多キトキハ一回ニ數十尾ヲ得ヘシト云フ

はたま網　ハ以テ小魚ヲ掬フヘシ。土人ガ魚塭ニ於テ養フ臭魚（鯉ノ如シ）ハ海中ニテ孵化スルモノナリ。其魚仔ガ生長シテ約五六寸ノ大キサニ爲リタル頃ニハ海岸ニ遊泳シ來ルヲ以テたま網ヲ以テ掬取ルナリ、現時狸仔社民中ニ之ヲ爲シ其魚仔ヲ恒春ニ持行キ土人ニ賣ル者多シ

（二）魚扠又ハ鈎ヲ用井ルモノ　魚扠ハ太サ小指位ノ鐵線約一尺半ヲ取リ其先端ヲ少シク曲ケテ鈎ト爲シ之ニ一尋半乃至二尋半ノ木柄ヲ附シテ作ル海中ニ跳込ミ大魚ヲ刺スニ用ウ此ハ十餘年前琉球人ノクラル社ノ海邊ニ來テ之ヲ以テ漁撈セシ者ヨリ習得シタリト云フ　鈎ハ平地ヨリ交換ニ依テ得タルモノヲ用ウ。之ニ二三尋ノ麻絲ヲ附シ鈎ノ上七八寸ノ所ニ鉛片ヲ附シテ沈ト爲シ之ヲ二三尋ノ竹竿ニ附ス。而シテ蟹、蝦等ヲ潰シテ餌ト爲シ海岸ノ巖上ニ立チテ之ヲ垂ル且テ二三尺ノ大魚ヲ釣ルコトアリト云フ

（三）海龜ノ捕獲　クラル、高士佛等其社域ノ海ニ濱スル地ニ於テハ海龜カ産卵期ニ際シ陸ニ上リ其卵ヲ濱地ノ砂中ニ生落シテ歸ラントスル所ヲ捕獲ス。其獵法ヲ聞クニ晴夜ヲ選ミ（月夜ニハ龜ノ上リ來ルコト少シ）番丁等多數一團ト爲リ往テ海濱ニ至リ叢中ニ隱レテ其來ルヲ待ツニ頓テ海龜ハ上リ來リ砂地ノ中ニ産卵シ畢リ而シテ歸ラントスルヤ番丁等一齊ニ跳出テ海龜ノ側面ヨリ之ニ近ツキ其甲ニ双手ヲ掛ケテ之ヲ裏返シニシ後之ヲ居リ棒ヲ以テ肩キ又其卵ハ笊ニ入レテ持歸ル。獲物多キ見込アルトキハ其所ニ一宿シ翌夜再之ヲ試ムト云フ

(四)其他　クラル社ニ於テハ夜光貝、牡蠣等貝類ノ採取ヲモ爲ス

第四項　養畜

(一)總說　本族ニ於ケル畜養ノ重ナルモノハ豚、犬、猫、牛、雞及蜂ノ飼養トス。此中豚、犬及猫ノ飼養ハ本族ヲ通シテ一般ニ行ハレ牧牛ハ唯ぱりじゃお番（サブテク社ナ除ク）ニノミ、養雞及養蜂ハぶつる、北ぱいわん番ノ一部ニ行ハル

畜租　豚ヲ飼養スル者ハ之ヲ屠リタルトキ其肉ノ一部ヲ地主タル頭人ニ與ヘサルヘカラス、之ヲバデス（獵租、漁租ト共語ナ同クス）ト云フ。本慣習ハ之ヲ畜租ト爲ス。畜租ノ率ニ付テハ土地所有權ノ効果ノ部ニ於テ說述スヘシ　畜租ハ豚ノミヨリ取ル。犬、猫、牛、蜂等ヨリハ之ヲ取ラス。而シテ少數ノ番社ニ於テハ雞ヲ飼養スル者ヨリモ之ヲ取ル

(二)養豚　豚ハ本族ニ於ケル主要ノ養畜ニシテ屠テ其肉ヲ食シ或ハ平地ニ降シテ交換品ト爲ス。豚ハリキリキ社以北ニ於テハ概シテ屋內ノ便所ニ飼ヒ其以南ニ於テハ小舍ヲ設ケテ飼養ス　前ニ述ヘタルガ如クリキリキ社以北（部第一款貳節ノ住屋）ニ於テ便所ハ炊事場ノ後方ニ連接シ石板ヲ以テ相仕切ル。此所ニ豚ヲ飼ヒ人糞ヲ食ハシム　豚ヲ飼フ家ニ於テハ毎日一回若ハ二回芋、番藷ノ皮、切屑、菜莖等ヲ煮之ヲ其汁ト共ニ飼槽（蕃語「ロトン」木ヲ刳リテ作ル）ニ移シテ豚ニ與フ

豚ハ古來本族ノ飼養スル家畜ニシテ之ガ爲ニハ諸種ノ祈禱アリ。前章中祭祀ノ部ニ述ヘタル所ノ參照スルコトヲ要ス

(三)牧牛　近代ぱりじゃお番（サブテク群社ナ除ク）ニ於テ漸ク水牛ヲ牧養スルニ至レリ。然レトモ此ハ多ク土人ニ賣テ其價ヲ利センガ爲ニシ屠テ自家ノ食料ニ供スル者ハ少シ。高士佛社ニ於テ現時牧牛ハ農業

ニ次テ主要ナル生業ト爲リ之ヲ飼ハサル家ハ殆之ナク少キモ一二頭多キハ三四十頭ヲ飼ヘリ。牡丹、八瑤、加芝來ノ諸社ニ於テモ亦之ヲ飼養スル者多シ。南部ぱりじゃお番ガ他ノ部族ニ比シテ比較的富裕ナルハ全ク此牧牛ノ利益ニ依レリ

ぱりじゃお番ニ行ハルル牧牛ハ其方法頗簡易ナリ。牧場（番語ボゴカナ・カジュナガマ）ハ自然ノ山野ニシテ其周圍ニ垣ヲ設ケス。却テ其附近ノ畑ニハ周圍ニ柵ヲ設ケテ牛ノ侵入ヲ防ク。牛舍アルニ非ス監視者アルニ非ス食料ヲ與フルニ非ス牛ハ其牧場タル地ニ茂生セル野草ヲ食シ其地ノ流ルル溪水ヲ飲テ自然ニ生育ス。唯牧場ハ社民ノ共同スル所ナルガ故ニ各家其所有ヲ判然タラシムル爲ニ牛ノ耳ニ刀痕ヲ施シ自家ノ目印シトス

（備考）本族ハ從來牧牛ヲ以テ不祥事ト爲シ現時尚其肉ヲ食スルコトヲ禁忌スル

第四十五圖　ぱりじゃお番ノ牧牛

（高士佛社ニ於テ）



者アリ。從テコレ迄政府ヨリ牛ヲ給與シ其牧養ヲ勸奬シタルコトナキニ非サルモばりじゃお番ノ外ニハ行ハルルニ至ラス。大正二年枋山支廳ガ其管下ノ內文社ニ之ヲ惠與シタルトキノ如キ其牛ガ偶々急坂ヨリ溪底ニ墜落シテ死シタルヲ以テ社民ハ之ヲ靈ノ祟ナリトシ爾來又之ヲ飼フ者アラスト云フ

(四)養雞 ハ古來之ヲ不祥トシタリ。然レトモ近代ぶつる番ニ於テハ之ヲ飼ヒ北ばいわん、こぼじノ兩番ノ一部ニ於テ少シク之ヲ飼フニ至レリ。何レモ其肉及卵ヲ食スル者ナク土人ニ賣テ其價ヲ利スルノミ

雞ヲ飼フ番社ニ於テハ之ヲ家ノ近傍ニ放飼ス。多ク雞小屋ヲ設ケ夜ハ之ニ入レ戶ヲ閉シ朝ニ至レハ戶ヲ開キテ戶外ニ出ス。時ニハ柵ヲ以テ地ノ一部ヲ劃シ雞ヲ此內ニ飼フ者モアリ

(附記)養雞ヲ禁忌スル理由ニ付ばりじゃお、こぼじ兩番ノ語ル所ヲ聞クニ古代ハ本族モ雞ヲ飼養シタルガ或時本族ガ紅毛人(或云ノ平地人)ト戰爭シタリシニ雞ノ鳴キタルガ爲ニ自己ノ部落ノ所在地ヲ敵ニ知ラレ爲ニ散々ニ討敗ラレタリ。コレヨリ雞ヲ禁忌シテ飼養セス云々

(附記二)北ばいわ番クナナオ社ニハ古來雞ヲ飼ハス。領臺ノ後現駐在所ノ北方淸國兵營ノ址ニ雞數羽ヲ持來リタル者アリシニ俄ニ疾病社內ニ流行セシカハ爾來斷然之ヲ社內ニ入ルルコトヲ禁シタリ。然ルニ明治四十年頃阿緱廳ノ某課長巡視ノ際ソレトハ知ラス食料ニトテ雞ヲ携ヘテ入社シタリシニ頭人之ヲ忌ミテ途中ニテ殺シ棄テシメタリ。同四十二年同所駐在所巡查補潘長ト云フ者自五羽ノ雛雞ヲ持來リ之ヲ飼養セリ。時恰モばかろ番チャリギル社討伐ノアリタル後ナルヲ以テ社民官ヲ畏レ敢テ之ニ故障ヲ言ハサリキ。然ルニ其後幸ニ惡病發生セス

社内又平安ナリシカハ社民モ終ニ之ヲ尤メサル様ニナレリ、後其雛成長シ卵ヲ生ミシカハ之ヲ孵化シテ次第ニ繁殖セシメ尚其雛ヲ社民ニ分テ飼養セシメ成長ノ後之ヲ買取リ代金ヲ與ヘケレハ社民漸ク其利ヲ曉リ今日ニテハ最早之ヲ禁忌スル者ナク彼家ニモ此家ニモ之ヲ飼養シ成育ヲ待テ之ヲ賣ルニ至レリト云フ

(五)養蜂　本族間ニハ野生ノ蜜蜂ヲ捕ヘ之ヲ養ヒテ蜜ヲ採取スル者アリ其蜜ハ砂糖ノ如ク調味品トシテ用ヰ或ハ土人ニ與ヘテ交換品ト爲ス

蜜蜂ノ飼養法ハ番社ニ依リテ同シカラス左ニ二三ノ番社ニ於テ調査シタルモノヲ掲ク

(い)ぶつる番マヌル群社　ニ於テハ庭ノ一隅ニ石板石ヲ開ヒ二尺平方高一尺五寸ノ蜂小舎ヲ作リ其上ニ石板石ノ屋根ヲ置キ此内ニ横木ヲ架シテ蜂座ト爲ス　ソレヨリ女王蜂ヲ捕ヘ毛髮ヲ以テ小箕ニ結着クレハ一團ヲ爲シタル他ノ蜂ハ皆其附近ニ集ルヲ以テ其儘ニ持歸リ其女王蜂ヲ右ノ横木ニ繫着ス然ルトキハ餘ノ蜂モ其小屋ニ入リ終ニソレニ定住スルニ至ル　他日其横木ヲ取リソレニ蜂ノ附着シテ作リタル巢ヲ搾リ蜜ヲ取テ飯菜ニ集ム

(ろ)北はいわ番コワバル群社　ニ於テハ前庭石垣ノ内部ニ窖ヲ作リ之ニ一箇ノ出口ヲ設ケ灰ヲ以テ其間隙ヲ塗固メテ蜂ノ居室トス又住屋内ノ一側ニ於テ長三尺徑約七八寸ノ丸木ノ内部ヲ刳リ抜キ其兩端ヲ塞キ一ノ出入口ヲ設ケ蜂座トス而シテ毛髮ヲ以テ女蜂ノ腰或ハ脚ノ端ヲ捋ノ末端ヲ剪リ後之ヲ右ノ蜂居ノ内ニ繫留シ置クトキハ他ノ蜂モ之ヲ追テ來リ自然ニ其中ニ定住スルニ至ル　毎年二回(六月及十月)巢ヲ取テ其蜜ヲ搾出シテ壺ニ貯フ

(は)こほじ番諸社　ニ於テ刳キタル桶狀ノ蜂ノ住所(番語「テシー」)ヲ作リテ之ニ居ラシム　先山野ニ至リ

蜂巣ヲ見出シ女王蜂ヲ捕ヘ毛髪ニテ其脚ヲ縛シ之ヲ蜂ノ容器（枯枝ニ葛藤ヲ縛シタルモノ番語「ピツリイ・タ・ダハシ」）ニ繋キ他ノ蜂數尾ヲ捕ヘテ之ニ止ラシメ而シテ之ヲ巣ニ附スルトキハ殘ノ蜂ハ皆之ニ止マルヲ以テ其巣ヲ持シ歸テ蜂居ノ内ニ收メ蓋ヲ爲ス　蜂蜜ヲ採ルトキニハ腰蜂ニ刺サルルヲ以テ背負袋ヲ頭ニ被ムリ後蜂器ノ蓋ヲ取リ中ノ巣ヲ切離シ出シテ仔蟲ヲ取テ之ヲ食シ蜜ハ搾テ鍋ノ内ニ貯フ

（六）養犬　本族ノ飼養スル犬ハ其長サ約二尺五寸、毛ハ短クシテ粗ク全身黑白ノ班點アリ、顔長ク耳ハ直立シ尾ハ長クシテ卷キ上ク　此ハ住家ノ附近ニ放飼シ一定ノ食ヲ與ヘス　從テ其體甚瘠セタリト雖モ性勇悍ニシテ敏捷ナリ。故ニ之ヲ狩獵ニ伴フヤ能ク猪ト鬪テ之ヲ倒シ又鹿ノ走ルヲ追ヒテ之ニ咬着ク。番人ハ曰ク「犬ニ平素充分食ヲ與フレハ狩獵ニ伴ヒテ敏捷ナラス」ト犬ヲ狩獵ニ慣レシムル爲ニハ他ノ能ク之ニ慣レタル犬ト共ニ伴ヒ行ク。然ルトキハ自然ニ其動作ヲ習ヒテ良好ノモノト爲ル。尚狩獵ノ際能ク獸ヲ追出シ或ハ之ニ咬着キ功アリタル犬ニハ其賞トシテ獵肉ノ一部ヲ與ヘ血ヲ飲マシメ之ヲ勵マスト云フ

（七）養猫　本族ノ飼養スル猫ハ内地ノニ比スレハ稍小サク足ハ短ク尾ハ太クシテ長シ。其色ニ種々アリ虎ノ如キ色彩ヲ有スルモノ多ク黑色又ハ茶褐色ノモノモアリ　別段ニ飼養法ト稱スヘキモノナシ。唯毎餐其殘食ヲ與フルニ過キス

第五項　採取

（一）總説　本族ノ山野溪流ニ於テ採取スル天產物ハ木材、籐、竹、月桃草、薯榔、茸類及石材等トス　此等ヲ採ルニハ番刀及斧ヲ用ツ。近時駐在所ヨリ鋸ヲ借ル者アリ　天產物ヲ採取シタルトキハ其地主タル頭人ニ地料ヲ納ルルコトヲ要ス。之ヲ「バデス」又ハ「カジル」（共ニ山工ト稱ス）ト云フ（參照土地所有權ノ部）

(二)採取物

(い)木材　木材ノ重ナルモノハ欅(番語「ケージェ」又ハ「チェアス」)樟(番語「ラクス」)烏心樟(番語「カヤニ〻」又ハ「シカオ」)楠仔(番語「カイ」)山杉(番語「アハ」)苦楝(番語「バカス」)校力(番語「カブグレン」)赤樫(番語「ジャネル」又「ホール」)白樫(番語「カウチ」)猴栯仔(番語「カジャハス」)等トス其中樫及樟ハ器具ヲ作ルノ料トシ(土人ハ樫ニテ牛車、犂柄ヲ作リ樟ニテ臼ヲ作ル)其他ハ建築ノ材料トス　此等ハ本族取テ自家ノ使用ニ供シ尚平地ニ持降リテ交換品ト爲ス

(ろ)籐　籐ハ番人以テ吾人ノ釘及紐ニ代用シ或ハ之ヲ以テ諸種ノ籠ヲ作リ或ハ平地ニ持降テ交換品ト爲ス　籐ニ二種アリ一ハ水籐(番語「カイタアツ」)ト稱シ太ケレト水分多ク質弱シ他ハ通常ノ籐(番語「ーロイ」)ニシテ細ケレトモ質強シ

(は)薯榔　ノ根ハ「ツヌン」(番語「ツグ」)ト稱シ土人之ヲ染料ニ用ウ。番人山ニ入リ之ヲ堀取リ平地ニ持行キテ交換品ト爲ス

(に)竹　建築又ハ器具(水筒及籠類)ノ材料トシ或ハ交換品トス　竹ニ諸種アリ小林氏ノ調査シタル所ニ依レハ「アオ」(細クシテ節間短シ籠類ヲ作ル)「カバヤッ」(太クシテ節間短シ用テ筧及水筒ヲ作ル土人之ヲ刺竹ト稱ス)ツクス(長細ケレト堅クシテ直シ番人之ヲ以テ矢及地ニ立テル釘ヲ作ル)ナボナボ(太クシテ節間長シ用ヰテ大籠ヲ作ル)「マカツソ」(細クシテ節間長シ同上)「ルマルマイ」(太ク又ハ細ク曲レルモノ)等アリ

(ほ)月桃草　山野ニ自生スル草ニシテ番人其纖維ヲ取テ籠、行李及蓆ヲ作リ又ハ交換品ト爲ス

(へ)茸類及筍　取テ食料ニ供シ或ハ交換品ト爲ス

(と)石板石　ハ積テ屋壁ヲ作リ、土間又ハ前庭ニ敷キ或ハ屋根ニ葺ク

第六項　工作

第一　總說

(一)建築 本族ガ居住スル家屋及穀類ヲ貯藏スル倉庫ハ皆本族ノ親シク建築セル所ナリ。本族ニハ別ニ專門ノ大工アルニ非ス。男子ハ皆能ク建築ノ術ヲ解ス。道具ニハ僅ニ一ノ番刀アルノミ(近時ハ人ヨリ鋸。鉋等ナ求メテ之ナ用ヰルモノアリ)。材料ハ本族ノ地域ニ産スル木材及石板石ノミ。未タ釘ナキヲ以テ籐條ヲ之ニ代用セリ。而モ能ク多大ノ努力ト時日ヲ費シテ住屋及倉庫ヲ築造ス。其構造ハ既ニ第一節中住屋ノ部ニ於テ述ヘタル所ナリ

(二)手工 本族ハ一般ニ手工ニ多大ノ趣味ヲ有シ日常ノ器具(鐵器陶器等移入ニ係ルモノナ除ク)ハ概シテ自ラ之ヲ製作ス。勿論其製品ハ未タ幼稚ナルヲ免レスト雖モ時間ヲ惜マス工夫ヲ凝スガ故ニ他ノ番族ノニ比スレハ甚精緻ナルモノヲ作出ス。其重ナルモノハ竹、籐、月桃草及絲ノ細工、刳木細工、彫刻、機織、裁縫刺繡等トス。此内刳木及彫刻ハ男子、機織、裁縫及刺繡ハ女子專ラ之ヲ爲シ其他ハ男女共ニ之ヲ爲ス。手工ハ一定ノ師匠アルニ非ス。唯其父母兄姉其他近親知己等其術ニ堪能ナル者ニ就テ其敎ヲ受クルノミ。男女共ニ十七八歳ニ至レハ手工ノ大體ニ通曉スルヲ常トシ若シ之ヲ能クセサレハ未タ一人前ノ仕事ヲ爲スコト能ハサル者トシテ賤メラル

手工ハ必要ニ迫リタルトキ或ハ雨天ニテ外出スルコト能ハサルトキニ之ヲ爲ス。往々人ト交話シツツ之ヲ爲ス者アリ。製品ハ自家ノ用ニ供シ其中月桃細工、織布及網袋ノ如キハ剩餘アレハ換番所ニ持來テ交換品ト爲ス

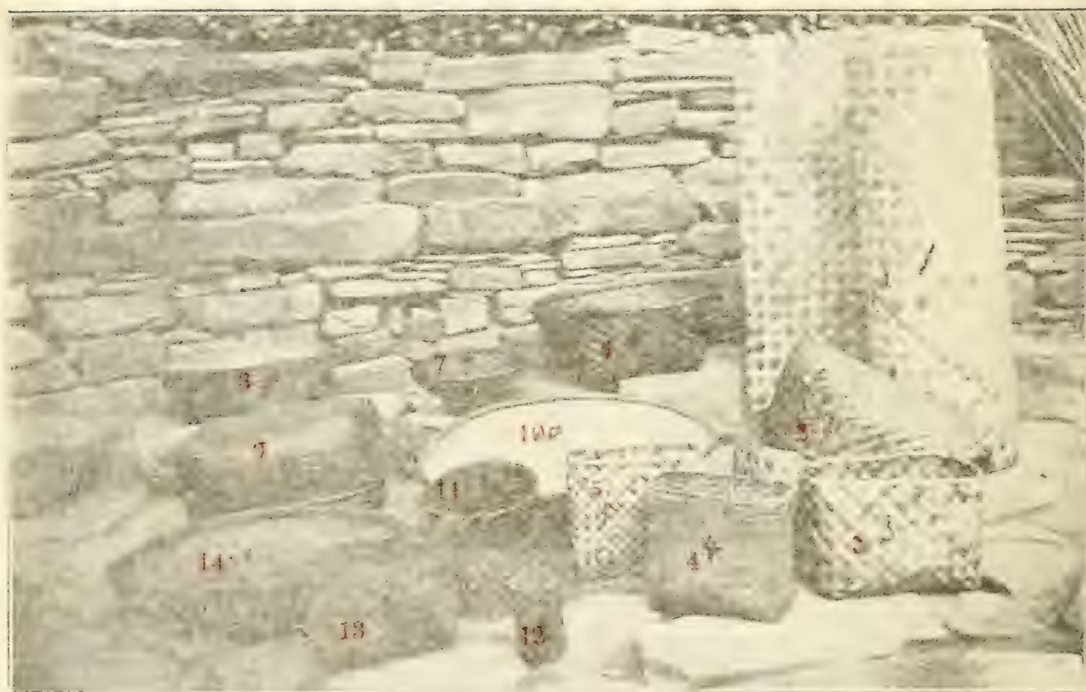
第二 竹、籐、月桃及網ノ細工

(一)竹細工

(い)製品

第四十六圖　竹及月桃細工

(1) スカム（月桃蓆）
(2) チャルプ（月桃行李）
(3) パジカラゴ（月桃物入）
(5)(4) カラゴ（月桃製辨當入）
(6) ワカル（竹製針絲入）
(7) 「カジャパル」（笊）
(8) ララクヤー（竹籃）
(9) チャルプ（竹行李）
(10) チャカル（箕）
(11) ポキジガー（匙入）
(12) バチコン（竹杯）
(13) リナカ（魚籠）
(14) レヤコ（　）



(1) 笊類　「カジャパル」（飯ヲ盛ルニ用ウ）「チャカズ」（箕）「ブナク」（小箕）「カジャモ」（[illegible]ノ手ニ附[illegible]）「ボロン」（匙入。ばりじゃお番ニ於テ）「サキ」（小笊。同番ニ於テ）

(2) 籠類　「ララクヤス」（目粗キ方形ノ籠）「ソコラヌ」（目密、淺底ノ籠、穀菜等ヲ容ル。南部ノばりじゃお番ニ於テ之ヲ「リミヤ」ト云フ）「カユボン」「ネコネ」（共ニ魚籠、口小、胴廣シ、貝類ノ所ニ細チ附ス腰ニ携帯ス）「リバダイ」（帽子入。三番ス）「チナカジャス」（檳榔子入又ハ飯入）「リジャオ」（笠）

(3) 簟　「ライ」（管用簟トモ云フ）「ラロアル」（物ヲ乾ス莖ノ簟）「ブコプ」（芋類ヲ用ツニ用ウ）「リモ」（捕魚用ニ用ヒ簟）

(4) 筒　「チャコン」（汲水用）「カルン」（飲水用、杯ニ代用ス）

(5) 弓矢　「ズクラ」（弓）及「クス」（矢）ノ作方ハ狩獵ノ部ニ於テ既ニ述ヘタリ

(6) **其他** 「バルバル」(嘴琴) 「パコラル」(笛) 「コンツイ」(煙管) 「ボンボン」(火吹竹) 「トゾン」(槍其他器物ノ柄) 「リーポル」(蒸籠ノ底簾) 「ハサク」(天秤棒)

(ろ)製作法 僅ニ番刀及小刀ヲ用キルノミ

(二)籐細工 本族ニ於テ籐製ノ器具ハ甚少シ。籐ハ笊、箕ノ縁ヲ作リ瓢又ハ壺ノ周圍ニ纏ヒ刀、小刀ノ柄ニ卷クニ過キス。但シぱりじゃお番ノ一部ニ於テハ之ヲ編テ蓆又ハ籠ヲ作ル

(三)月桃細工

(い)製品 甚多シ

(1) **蓆** 月桃製ノ蓆ハ之ヲ「スカム」(るかい番ニテ「サバ」)ト云フ

(2) **容器類** 此レニ左ノ數種アリ

(a)「**チャジフ**」「タルブ」 方形ノ箱ニシテ之ニ同形ノ深キ被蓋アリ大小種々アリ我國ノ行李ナリ
其小ナルヲ「チャジチャジブ」ト云フ

(b)「**カリヒ**」 長方形ノ小サキ箱ニシテ之ニ同形ノ被蓋ヲ附ス行糧入又ハ小道具入ト爲ス

(c)「**カパチス**」 長方形ノ其幅長ニ比シテハ甚狹キ小箱ニシテ同形ノ深キ被蓋ヲ附ス。刺繡道具等ヲ容ルルニ用ウ、其長約五寸幅三寸深二寸アリ　近時內地人ニ賣ル爲ニ卷煙草入ヲ製ス。
此モ亦「カパチス」ト云フ

(ろ)製作法 月桃草ハ山野ニ自生スル草ニシテ本族ノ占住スル地域ニハ至ル所トシテ之アラサルナシ。本族ハ之ヲ採リ其皮ヲ剝キ日ニ曝シ其乾キタル後適宜ニ之ヲ割キ編テ蓆又ハ諸種ノ容器ニ作ル　容器ヲ編ムニハ最初ニ木ヲ以テ其型ヲ作リ置キ之ヲ中ニ入レテ編ミ行クナリ。但シ粗雜ナ

ルモノハ別ニ型ヲ作ルコトナシ

（四）網細工

（い）製品　網細工ハ番語ニテ「トモケツ」ト云フ其製品ノ重ナルモノハ「シリキ」（背負袋）「マリジャ」（日傭人ノ入ル袋ナリ之ニ耕作物ヲ容レテ持運ブニ用ウ）「アライ」（網投）「タラウ」（網たま）「カライ」（日租キ稈ドケ用網袋テ其中ニ小農具ヲ容ル）こて網、胸掛、掛網等ナリ

此等ハ自家ニ使用ス。其中「シカオ」ハ交換品トモ為ス

（ろ）製法　材料ハ番地ニ産スル麻ヲ用ウ。網針ハ「イチャム」（土語ノ針ヨリ来ル）ト稱シ木ニテ作リ長約八九寸アリマヌル社ニ於テ用ウル所ノモノ　ノ如シ

第三　木工

（一）刳木細工　本族ハ番刀及小刀ヲ用ヰ木ヲ以テ日常ノ用具ヲ作ル本族ハ竹釘ヲ箝メ之ヲ打付ケル法ヲ知ラス。諸般ノ木器ハ悉ク中ヲ刳キテ作ル之ヲ「クミル」ト云フ

木工ノ重ナルモノハ　臼（番語「バラか」）杵（同「カヌル」）刳桶（同「サチ」）蒸桶（同「サクチ」）木鉢又ハ刳皿（同「ナン」）匙（飯匙ヲ「キジン」粥ヲ撹拌スル大匙ヲ「チバン」）單杯（番語「カロタイジ」）連杯（同「ラか」）俎（同「ナ」）水槽（同「ルか」）豚ノ餌入（同「ツ」）刀、小刀、農具等ノ柄（同「トゾン」）刀鞘（同「ツカシブ」）巫ノ容器（同「カホチ」）木笛（同「ハロコル」長約一尺五寸、孔二個アリ）腰掛（同「ラ」）等ノ如シ

（二）彫刻　本族ハ一般ニ彫刻ヲ好ミ槍、刀ノ柄、腰掛、笛、連杯等ニ之ヲ施ス、頭人家ニ於テハ其屋宇ノ柱梁等ニモ之ヲ施ス時ニ人像ヲ作レルモノアリ

模様ニハ人、人頭、蛇及連杯ノ形アリ。其ノ人ノ形ニハ屢露骨ニ男女ノ陰部ヲ附シタルモノモアリ

屋内ニ木像ヲ安シ又柱梁ニ諸種ノ彫刻ヲ施スハ古来頭人族（頭人及其系統者）ノ特權タリシトモ今日ニテハ平民家ハ唯人形及蛇形ノミヲ禁セラレ其他ノ模様ハ之ヲ為シテ差支ナシト云フ

番人未繪畫ノ法ヲ知ラス、從テ其彫刻モ頗簡單ニシテ之ニ要スル器具ハ僅ニ番刀及小刀アルノミ、彫刻ハ何人モ之ヲ爲スト雖モ其技ニハ著ルシキ巧拙アルヲ以テ屋宇ヤ器具ニ彫刻ヲ施スニハ特ニ其技ノ巧ナルモノニ依頼シ之ニ多少ノ謝酬ヲ爲ス

第四　機織其他ノ女工

(一)機織　既ニ述ヘタルカ如ク古代ニ於ケル本族ノ婦女ハ一般ニ機織ノ術ヲ解シタリシモ土人ト接觸シソレヨリ交換ニ依テ布疋ヲ得ルニ至リ漸ク廢止スル樣ニ爲リ今日尚此術ヲ解スルモノハ僅ニるかい番諸社ぶつる番中キヌジャロアンノ婦女トシ其餘ハぶつる番マヌル社、北ぱいわん番中チャシカブス社ニ於テ少シク之アルノミ

るかい番諸社及ぶつる番ノキヌジャロブン社ニハ共同ノ機小屋アリ部落ノ婦女ハ茲ニ來リ絲ヲ綜リ、紡キ而シテ織ル

織機(番語「チヌナン」)ハ内地人ノ所謂いざり機ニシテ卷軸(長約一尺七寸ノ圓棒)踏板(番語「サイー」)釣綜(同「ソン」)及筬(幅三寸五分、長約一尺六寸ノ木片番語「バイダ」)ヨリ成ル。先ヅ經絲(麻ヲ紡キ之ニ撚ヲ掛ケタルモノ)ノ一端ヲ踏板ニ結着ケ他ノ一端ヲ卷軸ニ卷キ其卷軸ヲ下腹ニ當テ其一端ニ附シタル紐ヲ腰ニ廻シテ他ノ一端ニ結着ス此ハ布ノ經絲ト爲ルモノナリ。而シテ兩足先ニテ踏板ヲ支ヘ脚ヲ伸シテ此經絲ヲ張リ別ニ緯絲ノ中間ニ釣綜アルヲ開キ梭ヲ左右ノ一方ヨリ他ノ一方ニ通シ筬ヲ以テ之ヲ打締ムルナリ。模樣ヲ織出スモノハ緯ニ各色ノ絲ヲ交ヘテ織込ム(參照第八十五圖)

本族ノ織布ハ所謂番布ニシテ之ニ諸種アリ卽「バロックス」(白綿絲ヲ以テ織リタル布、幅五寸長七尺程アリ四幅合セテ夜具ヲ作ル)「キャバロ」(幅一尺餘、長五尺程。麻絲ヲ以テ織リタル布四幅ニテ夜具ヲ作ル「バロックス」ヨリ劣レリ)「リビブア、カウモズ」(幅一尺、長四尺程ノ番布ニシテ晒白シタル麻絲ヲ以テ織ル。以テ夜具ヲ作ル)

ゴヤバエヤ、カウモズ（幅一尺二寸、長一丈二三尺ノ白キ番布、此レハ重ニ交換品トス）ニイナロアマ（幅一尺三寸、長二尺八寸程ノ番布、此ニテ番星袋一對ヲ作ルモノ）等トス

(二)裁縫　ハ本族ニ於テ女子ノ必知ラサルヘカラサル技藝ニ屬シ幼時ヨリ之ヲ傳習ス　針及剪刀ハ交換ニ依テ之ヲ得。而シテ針ハ握リテ之ヲ使用ス　布疋ノ寸法ハ手及指ニテ度ル。此ハ既ニ心性欵智能ノ部ニ述ヘタル所ノ如シ　製スル所ノ被服ハ上衣、褌、袈裟等ニシテ此ハ既ニ本章第二節ニ於テ述ヘタル所ナリ

(三)刺繡　既ニ述ヘタルガ如ク本族ノ婦女ハ一般ニ刺繡ヲ解シ被服、ジャバッ（檳榔子又ハ煙草ヲ入レテ背ヨリ胸ニ掛クルモノ）等ニ之ヲ施ス　之ニ要スル諸種ノ絲及針ハ交換ニ依テ得タル所而シテ其模様ハ婦女ノ最意匠ヲ凝スル所ナリ　刺飾ノ簡單ナルモノハ下地ヲ作ラス直ニ針ヲ運フモ然ラサレハ先ツ紙又ハ布片ヲ以テ所要ノ形ニ切抜キ之ヲ假ニ其布疋ノ上ニ縫付ケ後針ヲ運フ

(四)縫綴　刺繡ニ非スシテ單ニ各色ノ毛絲、釦、珠仔等ヲ美シク布地又ハ皮地ニ縫付ケテ裝飾トセルモノ多シ、此モ亦婦女ノ意匠ヲ凝スル所ニシテ本族ノ美術ニ屬ス（參照心性ノ部）

(五)鍛冶　本族古來鍛冶ノ術ヲ解セス。其使用スル所ノ諸種ノ鐵器ハ悉ク交換ニ依テ得タルモノナリシガ近代土人ヨリ其術ヲ傳ヘ粗糙ノ道具ヲ用キテ番鋤（番語「プカ」）鎗ノ鋒、矢鏃等ヲ製シ或ハ刀、小刀鐵斧等ノ修理ヲ爲ス者アルニ至レリ

鍛冶ハ番語ニテ「マラン」ト云フ。之ニ用キル器具（番語「シフランー」）ハ吹樻（同「リコ」又「ハニマイパニ」）鐵鎚（同「アルニ」）鋏（同「カマヤ」）火床（同「サリブニ」）及鐵砧（同「パチャリ」「グジャヌ」）等トシ其材料ハ破損セル武器、農具又ハ土人ヨリ得タル鐵材トス　鍛冶ノ爲スニハ薪ヲ燒キ此中ニ所要ノ鐵材ヲ投ス。中ニハ豫メ炭ヲ作リ置キ之ヲ火爐（番語「アブアブ」）ノ中ニテ焚クト

ノモアリ

鍛冶ニ關シ二三ノ番社ニ於テ調査セシ所左ノ如シ

こぼじ番內文社　ニ於テハ番社ヲ距ル半町許ノ草原中ニ約二坪ノ草ヲ刈拂ヒタル所アリ其所ニ長約五尺ノ大錨橫ハリ半ハ地中ニ沒セリ（番人ハ其祖先ガ原社ヨリ持來セシモノト爲セドモ恐ラクハ海岸ニ打上ケラレシ難破船ノモノナラン）其側邊ニ土人ノ用ウル鞴ヲ据付ケアリ。番人ノ鍛冶ヲ爲サント欲スル者ハ此所ニ來リ薪ヲ焚キテ鐵材ヲ投シ其紅熾スルヲ待テ鋏ニテハサミ之ヲ錨ノ上ニ載セ（錨ヲ以テ砧トスルナリ）右手ニ鐵鎚ヲ持シテ之ヲ鍛フ（安原氏調査）

ふつる番マスル社　ニ於テハ社內ニ鍛冶小屋（番語「ラカメ」）アリ（參照第八十五圖）同社ニハ鍛冶ヲ爲スモノ五人アリ「ブカ」小刀、槍ノ鋒、矢鏃ヲ鍛フ。然レトモ砧ナキガ故ニ幅廣キモノハ之ヲ打ツコトヲ得ス。而シテ「ブカ」ハ三日、番刀ハ十日ヲ要ス。第八十五圖ニ同社ニ用ヰル器具及爐ヲ示ス（小林氏調査）

第七款　商業

（一）總說　生產物ノ交換ハ古來本族間ニ行ハレ漢族ト接觸スルニ及ヒテ其漢族トノ間ニモ亦行ハレタリ。領臺以後出脚ノ漢人ニシテ官許ヲ得テ專ラ番人トノ交換ニ從事スル者アリ　番產物中交換ニ用キラルル重ナルモノハ木材、薪、茅、籐、落花生、樹豆、蜂蜜、鹿角、鹿鞭、月桃、竹、網等ノ細工、織布等ニシテ番人ガ交換所ヨリ買入ルルモノハ鐵器、陶器、綿布及食鹽等トス

本族ハ古來交換ノ媒介トシテ珠貨、鐵器又ハ織物等ヲ用キタリシガ近代ハ概シテ貨幣ヲ使用ス貨幣ニ付テハ動產ニ關スル物權ノ部ニ說述スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ略ス



木工（臼ヲ作ル所）



網すき

第四十八圖　番婦ノ機織

其一　北ぱいわん番チジッカブス社民屋前庭

（此ハ前庭ニ月桃蓆ヲ敷キタル所、左方ニ[illegible]）

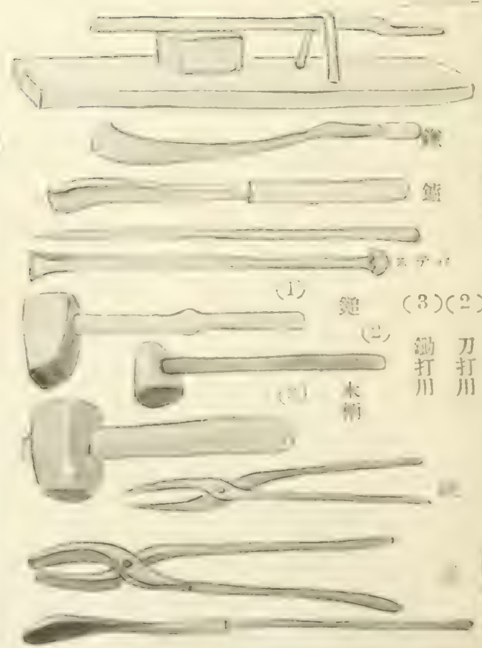


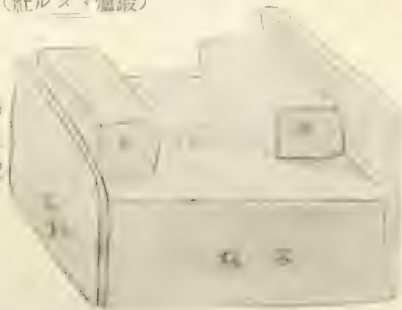
其二　ぶつる番キヌジロアス社機織小屋

第四十九圖　鍛冶小屋並其作業

(マヌル社ニ於テ)







(二)商人　本族間ニハ古來專一ニ商業ニ從事スル者ナカリシカ近代漸ク之アルニ至レリ此者ヲマカイ（中間ニ立テ言語ヲ取次クノ義）、イチャス（土語ノ意ヨリ來ル）イラップ（ラップハ交換品ノ義）又ハイサ・センリー（土語ノ生理即商業ヨリ來ル）ト云フ　此ニ付二三ノ番社ニ於テ調査セシ所ヲ揭ク

(い)ぶつる番**マカサヤサヤ**及**パイルス**兩社　現時商人タル者マ社ニ二名バ社ニ一名アリ交換所ニ依賴セラレテ附近ノ番社ヨリ產物ヲ買集メテ之ヲ交換所ニ持行キ其所ニテ番人ノ需用ノアル物品ニ交換シ其ヲ又附近ノ番社ニ持行キテ賣ル。其利益ヲ聞クニ約元價ノ一割ナリ即織物ナラハ十疋ニ付一疋ヲ利シ十圓ノモノナラハ十一圓ニ賣ルト云ヘリ　而シテ此等ガ賣買ヲ行フ爲ニ他社ノ地ヲ通過スルトキハ其地ノ頭人ニ通行租ヲ納ム。例ヘハパタイ社ニ赴キ酒肉、樹豆、番布、鹽類ヲ買來ルトキハ其通路ニ當ル下パイソ社頭人ニハ其買入タル品ノ一部ヲ與フヘキガ如シ

(ろ)同番**クワルス**及**ブユマ**ノ兩社　ニハモト三四人ノ商人アリ。番刀、釜、鍬、織物等ヲ持シテはかん番バアムリ、ピラウラウズ、チョグドル、トリトリクニ行キ之ヲ其地ニ產スル煙草及麻ト交換シ其品ヲカピヤガ社ニ持行キ番刀及織物ト交換ス。昔時ハ隣社ト交換セシノミナルモ今ハ本地ニ降テ換番所ニ持行クモアリ　昨年（大正七年調）北方ノ諸社特ニマカサヤサヤ地方ハ不作ニテ食料ニ乏シカリシヲ以テ古來大切ニ保存セシマルボラー（玉製管玉）アタ（珠仔）ヲ賣出セシヲ以テ之ノ買取ノ南方カピヤガ、チ・ジャカブス及タナシー方面ニ持行キ粟ニ代ヘ其ヲ又北方ノ番社ニ賣リ大ニ利ヲ得タリト云フ

(3)北はいわ番**チ・ジ・カブス**、**ボかリド**兩社　チ・ジャカブス社ニハ今六人アリ社民ヨリ落花生、灑梨及

樟村ヲ買集メ之ヲ交換所ニ持行ク。以前ハ織物ヲ持シチカタ、ニ賣リニ行キタリシガ同社ニ於テ商人ガ殺サレタル以來同社ニ赴キテ賣買スル者ナシ　ボガリド社ニモ昔ハ此業ニ從フ者アリ常ニクナナオ又ハパイルス、ニ赴キ交換シ居タリシモ今ハ無シ

(4)**はりじ、お番八瑤社**　領臺前ニハ社民ニシテ專ラ此業ニ從ヒ番産物ヲ集メ平地ニ持行キ之ヲ番人ノ所用品ニ代ヘ歸ラ之ヲ番人ニ賣リタル者アリタレト今ハ無シト云フ

第五款　雜　項

第一項　遊戲其他ノ娯樂

第一　總說

本族ニ於テ男女ヲ通シテ其愉快トスル所ハ蓋シ多數相集リテ飲宴シ歌踊スルコトナルヘク尚男子ニ在リテハ此上ニ狩獵及漁撈ヲ加フヘシ　次ニハ晝間ナラバ業務ノ閑暇ニ於テ、又夜間ナラハ夕食後ニ於テ親友相會シテ談笑シ又ハ樂器ヲ弄スル等ノコトナルヘシ。特ニ未婚男女ノ間ニ在リテハ「キスズ」ト稱シ（參照心性ノ部德性中男女間ノ道德）男子ガ女ノ家ヲ訪ヒ交遊スルコトハ彼等ノ最愉快トスル所ナルヘシ　此外ニハ尚青壯年男子ニ在リテ武術的競技、幼年ノ男女ニ在リテハ諸種ノ遊戲ナルヘシ

第二　音樂及歌踊

一、音樂　本族ノ用ウル樂器ニハ竪笛（番語「ポコラル」）横笛（同「パリゲル」）鼻笛（同「ラリゲヌス」）及嘴琴（同「ハルバル」又「ジャジャノワ」アリ）此等ノ使用法ニ付テハ既ニ心性ノ節美性ノ欵下ニ述ヘタル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

二、歌踊　本族ニ於テ歌ヲ「スナイ」（活カセテ「スムナイ」）踊ヲ「ザヤン」（活カセテ「ズミヤン」）ト云フ。歌及踊ハ共ニ本族ノ最愛好

スル所ニシテ童幼ノ時ヨリ既ニ見聞シ模倣シ青年ノ頃ニハ自然ト之ヲ能クスル様ニ爲ルナリ

歌謡ニ付テハ既ニ美性ノ欵下ニ述ヘタル所ナルヲ以テ之ヲ略シ茲ニハ踊ニ付テ説述ス

踊ハ祭祀、凱旋、婚姻、建築落成等多數會合シ飲宴スル時ニ之ヲ行フ青年及壯年ノ男女ハ雜然相混シ（但シ首狩ニ關スル踊ハ男子ノミ）手ヲ繋キテ圓陣又ハ横列ト爲リ其中ノ一人音頭（番語ニテハ……ト云フ）ヲ取リ一衆之ニ和シテ謡ヒツツ調子ニツレテ左方又ハ右方ニ脚ヲ廻ハシツツ或ハ前方又ハ後方ニ歸リツツ進退ス其歌調及踊方ハ一ナラス、又番社ニ依リ同一ノ踊ト雖モ其方法ヲ異ニスル所アリ今一々之ヲ掲クルハ煩ニ堪ヘサルヲ以テ二三ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ擧クルニ止ム

（い）ぶつる番マカザヤザヤ社ニ於テハ左ノ數種アリ

(1)「スミリシル」首狩ノ時ノ踊ナリ、此ハ各人先ツ兩膝頭ヲ屈シ踵ヲ浮カシ右足尖ニテ「イノキイラオ」ト調子ヲ取テ跳リ左足ヲ左方ニ踏出シ其側ニ右足ヲ持來ス同法ヲ反覆シテ左方ニ側進ス、此時音頭歌ヒテ曰ク

ウマエマエマー　タバタバコソエー　ファロヤニバ方ス（譯ハカス（地名）ニ在ルブノルヤニ狩獵、出草ニ同ル祖神ニ請ハク人ハ安野獸ノ首級ナ授ケ給ヘ）

(2)「クマラジヤナ」頭人家ニ何カ儀式ノアリタル時ニ行フ踊ナリ此ハ左ノ歌ノ謡ヒツツ三歩左方ニ歩ミ謡ヒ了ルヤ一歩右ニ退キソレヨリ左足ヲ浮カシ右足ニテ左方ニ跳躍シ而シテ左足ヲ其側ニ附ス、斯クシテ左方ニ回進ス

マタカイヤーウン　イチゴリラバラバル（譯敵ノ首級ヲ由取リテ積ミ上ル様ニシタシ）

(3)「プヌダヤ」ブダイ社ヨリ傳ハリタル踊ナリ此ハ左ノ歌ヲ唱ヘツツ左足ヲ浮カシ右足尖ニテ

左方ニ跳リ左足ヲ左ニ踏出シ次ニ右足ヲ浮カシ左足尖ニテ跳リ右足ヲ右ニ踏返ス但シ其右方ニ退クハ左方ニ進ムヨリハ其距離稍少ク斯テ次第ニ左方ニ進ム

アナタロベサイ　ヌカノジブジパ（譯。我ハ誰ニ話サス獨行シテ敵ノ首級ヲ取來レリ）

(4)「ブナルルア」マヌル社ヨリ傳ハリタル踊ナリ。此ハ首狩ヤ頭人家求婚ノ場合ニ行フ數人手ヲ繋テ一列ト爲リ左ノ歌ヲ唱ヘツツ左右兩足ヲ一歩ソツ交互ニ踏テ左方又ハ右方ニ進ム

キサオワオワン　ラルウテ・ト・キバリゴル（譯。竹釘ヲ植エテ強敵ヲ待ツ果シテ之ヲ討取ルコトヲ得ルヤ否）

(5)「ジマラジュラヤ」ダラダライ社ヨリ傳ハリタル踊ナリ。此ハ首狩ノ時ニ行フ數人手ヲ繋テ一列ト爲リ左ノ音頭ニ合セテ其繋キタル手ヲ上下シツツ兩足尖ニテ右方又ハ左方ニ跳躍スルナリ

キサオワオソン　アロソソパ　イーロブス（譯。追擊シタレトモ敵ハ逃失セタリ）

(6)「ヲミムラヌ」アムル社ヨリ傳ハリタル踊ニシテ此モ首狩ノ時ニ行フ左ノ歌ノ調子ニ合セツツ左足ニテ跳リ一歩左方ニ踏出シ次ニテ右足ニテ跳リ半歩右方ニ返ル。斯クシテ順次左ニ進ム

タソサラムブイ　タシヌツボガヌ（此意味不明）

(7)「ルマクチュクチュラヌ」此ハ頭人家ノ「マルバウクズ」（求婚ノ儀式中ノ一事）又ハ來客歎待ノ場合ニ行フ左ノ歌ヲ謠ヒ一團ハ左右手ヲ繋合セ兩膝ヲ屈シ右足ハ浮カセテ之ヲ後方ニ引キ（其時右ノ膝頭ハ殆地ニ接ス）左ノ足尖ニテ一歩左方ヘ跳ル

アイタレブツル　アウバウン　トキコラ・タニロブン（意味不明）

(8)「ルムキヤバヌ」一衆手ヲ繋合セ左足ヲ左方ニ踏出ス時ニ兩手ヲ前方ヨリ高ク擧ケ、右足ヲ左足

ノ側ニ寄セル時ニ兩手ヲ降シテ膝ニ附ス（此時ノ歌ハ調査ヲ漏シタリ）

(9)「ヒナルサ゛キラ゛」一衆手ヲ繋合セテ一列ト爲リ音頭左ノ歌ヲ唱ノルヤヘーエ「ヘーエト唱ヘツツ二歩右方ニ歩ミ「エッ」ト唱ヘテ兩足尖ニテ一歩左方ニ跳返ル、此ハ頭人家ガ「マルバウクズ」又ハ「キスズ」ヲ爲ス時ニ行フ

タシボタラビ　トタシリヤアリボサ゛（歌意不明）

(10)「シヤオロ」此ハ頭人家ガ「キスズ」ヲ爲ス時ニ行フ踊ナリ。最初シヤーオーロ「シヤオーライトー謠出スヤ一團ハ之ニ和シツツ兩膝頭ヲ屈シ此時片足ヲ浮カシ而シテ片足ノ尖ニテ左又ハ右ノ一方ニ跳躍ス

(11)「ルムジャアサッ」此ハ兩手ヲ前方ニ伸ハシ之ヲ上下ニ搖カシツツ足ヲ左方ニ運ブ、此時ハパレホタラビ・アラスジイチニルアル」等ト歌フ。此ハ婚儀其他宴會ノ時ニ行フ

(12)「トマルプア」是ハ古代ハ首狩祭又ハ頭人家ノ「パウクズ」ノ時ニ行ヒタル踊ナレトモ今行ハレス。此ハ左ノ歌ニ和シテ右足ニテ跳リ左足ヲ左方ニ一歩踏出スコト二回次ニ左足ニテ跳リ右足ヲ右方ニ半歩踏返スコト二回、斯クシテ次第ニ左方ニ進ム

イーオー　パーレーポ　タオタラベ　テテナムシラシラン　イーオーオーイ

(13)「プリテ」頗ル緩調ノ踊ニテ古代ヨリ首狩祭ノ四日目ニ行ノ踊ナリト云フ。圓陣ヲ作リ「オヤ・オー・オー・オー・リーテ」（意義ナシ）ト唱ヘツツ左足ヲ斜ニ左前方ニ踏出シ次ニ右足ヲ左足ノ後方五六寸ノ所ニ移ス。斯クシツツ漸次左ニ一周ス

(14)「プナニヤ」是古代婚儀其他飲宴ノ際ニ行ヒタル踊ナレト今行ハレス。此ハ「プナーニーアー

トアナニーオ」（意味ナシ）ト謠ヒツツ左足ヲ半歩左ニ移シ其後ヘ右足ヲ移シテ足尖ヲ左ノ踵ニ接ス斯クシテ漸次左方ニ一周ス

(15)「**ポーヷリシ**」二歩左方ニ踏出シテ一歩右方ニ退ク。ポーゾーリシ　アイヷーリシ　アイマルライチヌ　アイチヨーリシ」ト謠フ意義審ナラス。此モ古代ノ踊ニシテ頗緩調ナリ

(ろ)北ばいわ(以)番コワバル、スボン兩群社ニ於テハ左ノ三種アリ（故スボン駐在所警察官槇寺佐市氏調査）

(1)「**ズミヤン**」此ハ五年祭及首級祭ノ時ニ行フ。歌詞定ラス。此ハ人々手ヲ繫キテ圓陣ヲ作リ其中心ニ酒（馘首シタルトキハ其首級）ヲ置キ一齊ニ歌ヒツツ交互ニ左右ノ膝ヲ屈シテ前後ニ跳躍ス

(2)「**バジグジグ**」此ハ婚姻其他宴會ノ時ニ行フ。手ヲ繫キテ一列ト爲リ音頭ニ和シ徐々ニ跳リツツ右又ハ左ニ周ル

(3)「**ルマキヤ**」二人ツツ組合ヒテ踊ル。互ニ右手ト右手、左手ト左手ヲ握合ヒ左足ヲ前ニ出シテ右足尖ニテ跳ルコト二回、次ニ右足ヲ後ニ曲ケ左足尖ニテ跳ルコト二回、斯ク前後ニ身ヲ傾ケツツ右ニ向テ回轉ス

(は)ぱりじ、お番加芝來社ニ於テ左ノ二種アリ（四重溪駐在所警察官岡田宇太郎氏調査）

(1)「**ルマケン**」此ハ數代前ニ新シク起リタル踊ニシテ酒宴ノ節男女相混シテ之ヲ行フ。数人一列ニ並列シ各其兩手ヲ胸前ニ交叉シ右手ノ食指ヲ以テ一人隔テテ左方ノ人ノ左手ノ食指ニ掛ケ（五ニ指尖ヲ屈シテ鉤狀ヲ爲ス）左手ノ食指ヲ以テ又一人隔テ右方ノ人ノ右手ノ食指ニ掛ケ而シテ音頭ニツレ歌ヒツツ跳リ而シテ左方ニ進ム

(2)「**プナジユサツ**」此ハ祖先傳來ノ踊ニシテ男子ノミ之ヲ行フ。此ハ一列ニ並列シ手ヲ繫合セ音頭

ニツレテ跳テ前方ニ進ムコト三歩スレハ又後退クコト四回、ソレヨリ跳テ左方ニ二歩進メハ又右方ニ二歩返ル

第五十一圖ノ踊ノ光景ハ安原氏ガ高士佛社ニ於テ撮影シタル所ニ係ル

第三　武技的競技

競技ノ重ナルモノ左ノ如シ

(一)射的　之ニ二種アリ　(一)ハ前方若干ノ距離ニ的ヲ設ケ之ニ對シテ射技ヲ角スルモノ即射的ナリ。此ハ重ニ粟ヲ收穫シタル後農閑ノ時ニ之ヲ行フ　(二)ハ「チモコチコ」ト稱シ徑約一尺ノ圓板ヲ轉ハシ多數ノ壯丁小弓ヲ用キテ之ニ射中ツルナリ。此技ハこぼし番及「スボン」群社ニ於テ多ク行フ

(二)角力

(い)「**マウカブト**」　我國ノ角力ノ如ク兩人立會ヒ對者ヲ倒スナリ。此レハ手ヲ地ニ突クモ膝ヲ突クモ敗トハ爲ラス。仰向ケ又ハ俯向ケニ倒レタルトキニ敗ト爲ルナリ。此ハ酒宴等ニテ少ク醉ノ出テタルトキ又ハ狩獵等ニ於テ休憩セル暇ニ之ヲ行フ

(ろ)「**マカコジュツ**」　此ハすわり角力ナリ兩者地ニ坐シツツ相對シ互ニ手ヲツキテ這寄リ而シテ對者ヲ押倒シ其背ヲ地ニ着ケシメタルヲ勝トス

(は)「**マダダイダイ**」　此ハ組別ケノ角力ナリ。卽數人ツツ源平ニ分レ一ノ合圖ヲ以テ互ニ倒シ合ヲ始ム。一人ニ數人カカルモヨシ。唯一ノ組中ノ者ガ悉ク倒サレタルヲ以テ敗ト爲ス

(に)「**マバホゲト**」　互ニ敵ノ髮ヲ摑ミテ之ヲ振倒スナリ。倒サレテ背ヲ地ニ着ケタルヲ敗ト爲ス

(三)腕角力　「マカカブ・ト・リマ」又ハ「マジャジタジタ」ト稱シ兩人共ニ腰掛ニ掛ケツツ其肘ヲ膝頭ニ載セ

双方手頸ヲ組合セ其力ヲ角ス。其樣我國ノ腕角力ニ同シ

(四)棒押シ　「マチャツクス」ト稱シ兩人對立シ一本ノ竹又ハ木ノ棒ヲ押合フコト我國ノ棒押ノ如シ。而シテ此ニ唯右手ニテ一端ヲ持チツツ爲スモノト棒ヲ右腋ノ下ニ挾ミ兩手ヲ以テ押合フモノト二樣アリ

(五)高跳及幅跳　「ルマジャオ」ト稱シ竹又ハ繩ヲ張リテ之ヲ跳越スナリ

(六)石抛ケ　「ブヌジョク」(抛ノ義)ト稱シ稍重キ石ヲ抛ケテ若干ノ距離ニ至ラシムルナリ。こぼじ番及スボン群社ニ於テハ約二間ノ距離ニ地上ニ横線ヲ劃シ重量約一貫目位ノ石ヲ持シ數回振リテ之ヲ抛ケ件ノ横線上ヲ飛越サシム　單ニ石又ハ木片ヲ抛ケ其遠キニ達シタルヲ勝トスルモノモアリ(こぼじ番ニ於テ)

第四　兒童ノ遊戲

本族ニ於テ兒童ノ遊戲ハ其種類甚多キコト下ニ掲クル所ノ如シ。尙前條ニ掲ケタル競技モ稍長シタル男童ノ間ニ行ハル

(一)大人ノ所作ヲ擬シタル遊戲

(い)「マカコワン」(相射ルノ義)　十歳位ノ男兒四五人乃至十五六人約十間ノ距離ヲ置テ双方ニ分レ竹銃ヲ以テ戰フナリ。其過半丸ニ中リタル方ヲ敗ト爲ス

(ろ)「マサノバボイ」　猪狩ニ擬スル遊戲ニシテ群童中一二人猪ト爲リ三四人犬ト爲リ他ノ兒童要所ニ待受ケ犬ヲシテ猪ヲ追出サシメ之ヲ討取ル眞似ヲ爲スナリ。此ハこぼじ番及スボン群社ニ於テ多ク夏時ニ行フ

(は)「マラリシ」正式ノ婚姻ニ於ケルパチジャラン（掠奪ノ婚姻形式）ヲ擬シタル遊ナリ

(に)「マジャジャロジャロ」出草ヲ擬シタル遊ナリ。童子等互ニ平手ヲ以テ刀トシ他ノ首ヲ斬ラントシ他ハ之ヲ避ケ逃レントスルヲ追フナリ

(ほ)「スママ・コマ」農耕ヲ擬シタル遊ナリ。開墾ヨリ始メ次第ニ植附ヲ爲ス。苗ハ小石ヲ以テ之ニ充ツ

(へ)「ツマパチャバ」男女六七歳頃ニ行フ内地ノ飯事(ママゴト)ナリ

(と)「ララララク」女六七歳頃ニ行フ。木片石塊ヲ人形ニ擬シ之ヲ負フ。子守ヲ擬シタル遊ナリ

(ち)「タマバタバウ」男女七八歳頃ニ行フ木片及茅ヲ以テ小屋ヲ作ルナリ

(り)其他「ツマイサイ」（裁縫）「ピナバタバタ」（洗衣）「マイソイソ」（搗粟）「チャロム」（汲水）「ママスルバス」（埋葬）「ポソラク」（逐兒）等アリ。「ママスルバス」ハ男兒、他ハ女兒ノ遊戲ニ屬ス

(ぬ)「パコワン」（爆竹）青竹ヲ切リ上下ニ節ヲ殘シ中央ニ空ヲ穿チ水ヲ詰メ栓ヲ爲シテ火中ニ投ス水熱シ栓ヲ飛シ水ヲ噴出シ或ハ竹ヲ割テ爆音ヲ放ツ

(二)目隱シ遊ヒ　こぼじ番ニ於テ「イコロン」ト云フ。一人布片ニテ兩眼ヲ遮蔽シ數人其周圍ニ在リテ之ヲ惡罵スレハ其人手探リニ捕ヘントス。其捕ヘラレタル者代テ鬼ト爲ル

(三)隱れん坊「イケジャ」ト云フ。一人鬼ト爲リ他ハ住屋、樹林等思ヒ思ヒノ所ニ隱レ後一人「オート」合圖スレハ鬼出テ此等ヲ捜出ス。其捜出サレタル者ハ代テ鬼ト爲ル

(四)おにごと「マラライヌ」ト云フ一人鬼ト爲リ他ノ一人ヲ追ヒ捕ヘタルヲ鬼ト爲スナリ

(五)鞦韆「コーカイ」ト云フ。籐又ハ葛蔓ノ丈夫ナルモノ二條ヲ喬木ノ枝ニ吊シ之ニ一本横木ヲ縛ンタルモノナリ。婦女此横木ニ腰掛ケ前後ニ上下ス。多ク夏季ニ行フ

(六)玩具　本族ノ玩具ハ重ニ男兒所用ノモノニシテ此ニ左ノ數種アリ。

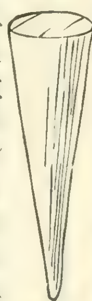
(い)豆鐵砲(番語「コヮコヮン」)

(ろ)彈鐵砲同(「バクサン」又ハ「プチル」)竹ヲ以テ作ル。其形下圖ノ如シ

(は)木銃(同「カシューコヮン」)

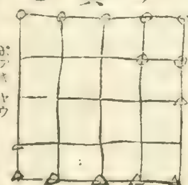
(に)竹刀(同「カォッカジャプ」)**及矢**

(ほ)獨樂(同「バゴジ」)　獨樂ニハ三種アリ　(一)ハ木製ノ圓壔形圓錐狀又ハ紡錘狀ノモノニシテ其末端ニ鐵釘ヲ打チタルモノアリ　之ヲ「バゴジア・カシュー」(木獨樂ノ義)ト云フ。之ヲ轉スニハ木又ハ竹ノ長二尺位ナルモノニ長一尺程ノ紐ヲ附シタルモノヲ用ウ。即其紐ヲ獨樂ニ卷付ケタル後之ヲ打付ケ急ニ紐ヲ引ク其形右圖ノ如シ　(二)「ジャサラス」ト稱スル野生ノ茄ノ實、文錢又ハ小サキ圓板ノ中央ニ竹ノ軸ヲ貫キタルモノ。此ハ指ニテ捻廻ス　(三)ハ文錢二三箇ノ孔ニ細長キ竹管ヲ挿入シ更ニ其中ニ竹軸ヲ透シテ尖端ト爲シルモノ。之ヲ「カクルクラヌ」ト云フ。此ハ其軸ノ兩端ヲ持シ管ニ一尺內外ノ絲ヲ卷付ケ引テ之ヲ廻ス　獨樂ノ勝敗ヲ爭フ場合ニハ其最長時間轉スルモノヲ以テ勝ト爲ス





(七)碁戲　スボン群社及こぼじ番ニハ兒童ノ遊戲ノ中ニ我國ノ挾み將棊ノ如キモノアリ圖ノ如ク地上ニ約一尺平方ノ盤形ヲ劃シ此內ニ縱横各三線ヲ引キ双方形狀ノ相異リタル木片又ハ石塊各七箇ヲ以テ棊子トシ之ヲ盤中ノ線上ニ置キ縱横左右ニ進退セシメ能ク二子ヲ以テ敵ノ一子ヲ挾ミテ之ヲ倒スナリ。番人之ヲ「プナキヤウ」ト云フ土語ノ博戲(ボテキヤウ)ヲ活カシタルナリ



其一　建築落成ノ場合

（スポン社ニ於テ）

其二　頭人家ノ合歡

向テ右ハ内文社宗主頭人[illegible]

[illegible]

其三　婚姻ノ當日女家ニ集レル女ノ朋友及親戚

（ぶつろ番パイルスル社ニ於テ○前列向テ右ヨリ二番目ハ新婦某、タリバイナリ）

其四　[illegible]頭人家ノ[illegible]

第五十一圖　番丁ノ歌踊

其一　（同上高士佛社ニ於テ）



其二　（同上）



第五十二圖　番童ノ角力

（スボン社ニ於テ）



第五十三圖　番童ノ木登リ



（[illegible]井社ニ於テ）

(八)其他「イカルヅス」(鮎鈴返リ)「イバジャカジャカ」(角兵衛獅子)等ノ戯アリ

第二項　年中行事

(一)總說　本族間ニ行ハルル年中行事ハ重ニ農耕ニ關スルモノニシテ粟稗芋米等ノ播種又ハ收穫ニ際シ一衆共同シテ祭祀ヲ行ヒ又屢狩獵ヲ行フ。ぶつる番及ばいわ三番ニ於テハ毎五年ニ一回祖先ヲ祭祀ス。此等ノ時季ハ番社ニ依リ多少相異ルモ大體ニ於テハ左ノ順序ニ依ル

(い)粟稗ノ播種(番語「トモゴト」)　初春木葉ノ少シク發芽セントスルトキニ畑ニ粟稗ヲ播種ス。此前及後ニ祭祀ヲ行フ。其前ニ行フヲ「パリシア・トモゴト」後ニ行フヲ「マストゴト」ト云フ

(ろ)芋ノ植付(番語「トマルム・ト・バサ」)

(は)粟ノ收穫(同「キバコ」)　新曆六七月頃粟ノ成熟シタルトキ之ヲ收穫ス其前後ニ祭祀ヲ行フ其前ニ行フヲ「パリシア・キバコ」後ニ行フヲ「マサルト」ト云フ。「マサルト」ノ後ニハ一般ニ「マブソアト」ト稱シ狩獵ヲ行フ。一般ニ(上さりせぬ番ヲ除ク)「マサルト」ヲ以テ年ノ更始トス

(に)稗ノ收穫(同「キジュマイ」)　新曆七八月頃稗ヲ收穫ス。其前又ハ後ニ祭祀ヲ行フ前ニ行フヲ「パリシア・キジュマイ」後ニ行フヲ「マスジュマイ」ト云フ

(ほ)芋ノ收穫(同「キバサ」)

(へ)畑ノ開墾(同「マバツク」)

米ヲ作ル所ニ於テハ芋ヲ植エタル頃ニ其畑ヲ開キ粟ノ收穫前ニ播種シ新曆十一月頃ニ收穫ス。上さりせぬ番ニ於テハ米ノ爲ニモ祭祀ヲ行フ。此場合ニハ米ノ收穫祭ヲ行ヒタル時ヲ以テ年ノ更始トス

(二)各說 左ニ二三ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ揭ク

(い)上きりせぬ番 ニ於テハ木ノ少シク發芽シタル時ニ粟ヲ播ス。ソレヨリ續テ芋ヲ下種シ續テ小豆ヲ播シ又稻畑ヲ開墾ス 木葉漸ク茂リ雨期ニ入ラントスルヤ番藷ヲ揷シソレヨリ稻ヲ播種ス(新暦六月頃) 七月頃粟ヲ收穫ス 九月稻ノ穗出揃ヒタル頃ニ芋ヲ取ル 十一月頃米ヲ收穫ス。其終了シタル時ヲ以テ本番ノ年始トス 木ノ葉落チ初メタル時粟畑ヲ開墾ス

(ろ)るかい番 木葉落ツル頃粟畑ヲ開墾ス(るかい語「ワビシ」)一二月ノ後其地ニ生ヘタル草ヲ刪リ地ヲ均ス(同「ソシラプ」) 三月頃粟ヲ播種ス(同「ワプワ」) 四月頃芋種ヲ下ス(同「ワルルククタイ」) 七月頃粟ヲ刈ル(同「キヤアチユン」)終テ收穫祭(同「マリバツ」)ヲ行フ 八九月頃稗ヲ刈ル(同「キヤラロマイ」) 十、十一月頃芋ヲ取ル。終了シタル時ヲ以テ本番ノ改年ト爲ス

(は)ぶつる番 新暦一月頃粟畑ヲ開ク(番語「マバツク」) 二月播種ス(同「トモコト」)其前後ニ祭祀ヲ行フ 四月芋ノ下種シ煙草ヲ播ス 五月藜ヲ收穫シ粟畑芋畑ノ草ヲ取ル 六七月頃粟ヲ收穫シ 七八月頃稗ノ收穫ス。粟ノ收穫前ニハ「バリシアキバコ」。後ニ「マサルト」ヲ行フ 十月頃芋ヲ收穫ス 十一月以後芋ヲ燻竈ニ掛ケテ乾芋ヲ作ル

(に)こぼじ番 新暦二三月頃ハ粟畑ヲ開キ之ニ播種ス頗ル多忙ノ時トス 四五月頃粟畑ノ草ヲ拔キ又芋畑ヲ開テ之ニ芋ヲ下種ス。此時番藷モ揷ス 六七月頃農事稍閑小屋ヲ立テ又ハ手工ニ從ノ八九月頃粟ヲ收穫シ 十、十一月頃芋ヲ取リ 十二月ヨリ一月ニ掛ケテ乾芋ヲ作リ又山ニ入リテ薯榔、籐、木材等ノ交換品ヲ取ル

(ほ)ぱりじやお番サプデク群社 ニ於テハ新暦三月頃粟ノ播種(番語「チユムクトバコ」)及芋畑ノ開墾(同「マバツク・ト・コスル」)ノ

行ヒ　四月上旬粟畑ノ除草（同「マサク・ト・ハコ」）及芋畑ノ整理（「クムジツ・ト・コスル」）ヲ行ノ。農閑ヲ以テ屋根葺用ノ茅ヲ刈ル（同「スマブサブ・ジャビヤ」）同下旬ニ屋根ヲ葺キ（同「ズマピチ・ト・タバオ」）芋種ヲ下シ（同「トマルム・ト・バサ」）稻畑ヲ開墾シ（同「マバツク・ト・ミミイ」）煙草畑ヲ開墾ス（同「マバツク・トプチャコマヌ」）　五月頃稻畑ヲ整理シ（同「クムジツ・ト・バズイマ」）ソレヨリ稻ノ下種シ（同「ツマルム・ト・ミミイ」）煙草ノ苗ヲ植付ク（同「パプナブン・ト・チャマヌコ」）　六月頃粟實熟スルヤ其猴番（同「ズマザオ」）ヲ行フ　七月粟ヲ收穫シソレヨリマサルト」ノ祭祀ヲ行ヒ引續キ稗祭（同「マスジュマイ」）獵獸祭（同「パラロポ」）社神祭（同「パリシ・ト・キサジャン」）ヲ行ノ　十月頃芋ヲ採取シ（同「チノバジ・ト・バサ」）　十一月頃陸稻ヲ收穫ス（同「イパダイ」）

第三項　日常雜事

第一　總説

本族ハ早起早寢ノ民ニシテ毎朝未明ニ起キ日出前ニハ既ニ朝餐ヲ喫ス　朝餐ノ後各其業務ニ從ヒ正午ニ午餐ヲ喫ス（社ニ依リテ正午ヨリ少シク早ク喫スルモノアリるがい番ノ如シ。後レテ食スルモノアリカヒヤガ社ノ如シ）再ヒ業務ニ從ヒ日暮レテ晩餐ヲ喫シ後休息シ二三時間ヲ經テ寢ニ就ク　農事多忙ナルトキハ一家舉テ畑ニ赴キ午餐ハ畑小屋ニ於テ之ヲ爲ス　農事閑ナレハ男子ハ狩獵若ハ漁撈ニ出行キ又ハ家ニ在リテ竹、籐、月桃、刳木、網袋等ノ手工ニ從ヒ婦女ハ機織、裁縫、刺繡等ヲ爲ス　而シテ夜間ハ一同家內打寄リテ雜談シ或ハ社內ノ親戚朋友ヲ訪問シ或ハ燈ノ下ニ搗粟、捻絲又ハ手工ヲ爲ス未婚ノ青年男女ハ所謂キミズ、ヲ爲シ又ハ爲サレツツ相談笑シ又ハ嘴琴ヲ弄シテ深更ニ至ル

第二　行住坐臥

（一）飲食

（い）主食　主タル食事ハ毎日朝、午及晩ノ三回ニ爲ス　此時ハ一家團欒中央ニ鍋又ハ飯筐ヲ置キ其

周圍ニ副食物ヲ並テ衆此ヲ圍テ蹲リ又ハ低キ腰掛(番語「ケラジ」又ハ「サゲル」)ニ掛ケツツ食ス　箸ヲ用ヰス食指ト拇指トニテ撮テ食ス。但粟粥及汁ハ匙ニテ掬ヒテ食ス

(ろ)間食　男女共ニ煙草及檳榔子ヲ嗜ミ休息又ハ談話ノ際絶ヘス之ヲ喫ス。他出ノ時ハ之ヲ袋(番語「ジャバツ」)ニ容レ肩ヨリ脇ニ掛ケテ携帯ス。其他點心トシテ芋、番藷又ハ落花生ヲ煨キ又ハ果實ヲ取テ食ス

(は)携糧　旅行ノ時上さりせぬ及らばるノ兩番ハ米飯ヲ、其他ノ諸番ハ粟餅、茅巻餅、乾芋、蒸藷等ヲ携フ。此等ハ概シテ竹製又ハ月桃製ノ行厨入ニ容レテ携帯ス　若出獵等數日ニ亘ルトキハ鍋ヲモ携帯シ至ル所ニ石ヲ以テ爐ヲ作リ飯ヲ煮、湯ヲ作ル

(二)寢臥　晩食後三四時ノ後寢ニ就ク寢臺ノ上ニハ月桃蓆ヲ敷キ寢ルトキニハ寢布(番語「シサウ」)ヲ被ル朝ハ未明ニ起床ス　本族ニ午睡ヲ爲ス者ハ甚少シ

(三)休憩　家ニ在リテ休ムトキハ寢臺、椅梁(番語「ガルツグジ」窓前ノ低キ長キ腰掛)若ハ低キ腰掛(番語「サゲル」又ハ「ケラジ」)ニ腰掛ケ又ハ土間ニ蹲踞ス　外ニ在リテ樹木ノ根又ハ石ニ腰掛ケテ休ム。番界ニハ至ル所ニハ休息所(番語「スクザン」)アリ。此所ニハ數箇ノ石ヲ置テ腰掛ト爲ス

(四)沐浴　本族ハ朝起キテ口ヲ漱キ顏ヲ洗フコトナシ。又殆ト沐浴ヲ爲スコトナシ。唯夏時溪中ニ入リ又ハ水溜ニ於テ水ヲ浴スルコトアルノミ。而モ布片ヲ以テ垢ヲコスル等ノコトナシ。從テ彼等ノ身體ハ不潔ニシテ之ニ近ツケハ一種ノ臭氣アリテ我等ノ鼻ヲ襲フ　近時上さりせぬ番ニ於テハ畑ヨリ歸リタルトキ湯ヲ沸シ之ヲ以テ身ヲ拭フ者アリ。又ぶつる番ニ於テモ婦女黄昏ニ湯ヲ沸シ之ヲ以テ其身ヲ拭フ者アリト云フ

洗髪　本族ノ頭髪ハ其之ヲ洗フコト稀ナルガ故ニ不潔ニシテ虱蟣ヲ生ス。番社ニ入ル邦人ハ虱番

人ヶ相互ニ手ニテ他ノ髮ヲ分ケ蝨ヲ捕リ之ヲ口ニ入レテ嚙ミツツブルヲ見ルヘシ。但シ青壯年者ニ在リテハ時々髮ヲ洗ヒソレニ一種ノ葛ノ汁ヲ用ヰ又洗ヒタル跡ニ豚脂ヲ塗リテ毛ノ光澤ヲ附スルヲ常トス

清鼻　本族ノ鼻液ヲカムヤ指ニテ鼻頭ヲ撮ミ又ハ草木ノ葉ヲ用ヰテフンヽト噴キテ拭去ル。此點ハ下流ノ土人ガ爲ス所ニ同シ

(五)行廁

(い)大便　本族ニハ便所ノ設アリ大便ハ此所ニ於テス。卽リキリキ社以北（第一款式）ノ住家ニ於テハ之ヲ屋內ニ設ケ奧室炊事場ノ壁後ニ在リ。此所ニハ豚ヲ飼ヒアリ糞ヲ食ヒテ成育ス（參照住屋ノ部）同社以南ノ地ニ於テハ屋外ニ柵ヲ構ヘテ便所ヲ作ル　大便シタル後踏板ヲ支フル石ニ臀部ヲコスリ附ク又薄キ木片等ニテ糞ヲ去ル　而シテ此等ノ糞便ハ唯年一回卽煙草ノ苗ヲ作ル前ニ取テ肥料トストノミニシテ溝ヲ作テ自然ニ外ニ流出セシム。邦人ノ番人ヲ訪フ者先ツ室ニ入テ臭氣ト蠅群ニ苦メラルルハ畢竟カカル便所ガ屋內ニ存在スルニ因ル

ぼりしゃお番ニ於テハ便所ヲ設ケズ。屋外ノ林叢ノ間ニ（夜ハ道路ニ於テモ）大便ス。故ニ一歩此等ノ林叢中ニ足ヲ踏入レンカ此所ニモ彼所ニモ人糞アリ其所ヲ家豚ガグイ〳〵ト求食リツツアル樣ハ邦人ヲシテ不快ノ感ヲ抱カシム

途中ニ於テ大便ハ茅ヲ分チ林ヲ穿チ人ニ見ラレサル樣ニ之ヲ爲ス

(ろ)小便　林叢道路等屋外ナラハ所ヲ嫌ハス。而シテ男子ハ起チナガラ女子ハ身ヲ屈シテ爲ス

(六)酒掃　箒ハ稗粟ノ藁ヲ以テ作ル　前庭ハ毎日掃除スレトモ屋內ハアマリ掃除セス。但ぼりしゃ社

番ハ概シテ其屋内ヲ清潔ニス　道路亦掃除スルコト少キガ故ニ不潔ナリ。特ニ豚ヲ放飼スル所ニ於テ然リトス

（七）夜燈　夜ハ炬ヲ焚キ又ハ豚脂ヲ點シテ明ヲ取ル。炬ハ多ク鬼茅ノ莖（稀ニ細竹ヲ用ヰルモノアリ）ヲ束ネテ作リタルモノニシテ土人ノ火把ト稱スルモノナリ。又脂ハ之ヲ皿ニ入レ紙又ハ乾キタル細キ木片ヲ以テ燈心ト爲シ之ニ火ヲ點ス。近時多ク交換ニ依テ得タルかんてらヲ用ウ

路燈　夜路ヲ行ク場合ニハ右ノ火把ニ火ヲ點シテ炬ト爲ス

（八）負擔　本族ハ重キ物ヲ運フニ男ハ擔ヒ又ハ紐ニテ結ヒ其紐ノ端ヲ輪ニ爲シ頭ニ箝メテ支ヘ女ハ戴ク。但シ輕キ物ハ「シカオ」（背負網袋）ニ入レテ之ヲ負フ。但シ上「さりせぬ、るかい、らばる」ノ三番ハ擔フコトヲ能クセス。ぶつる番ハ少シク之ヲ爲ス。然レトモ遠キ古代ニ於テハ一般ニ此ノ擔フコトヲ解シタルナルヘシ。ソハ祭祀ノ儀式ニ於テ男靈ニハ「バーサク」（擔フ）女靈ニハ「トコジ」（負フ）ヲ與フルヲ見テモ之ヲ知リ得ヘシ。然ルニ何時シカ此ノ擔フコトヲ忘レ去リ近年ニ至リ土人ニ接スルニ至リ又漸ク之ヲ習ヒタルナリ。小兒ハ背ニ負フ

（九）攀登　木ニ登ルニハ身體ヲ之ニ寄セス。恰モ猴ノ爲ス如ク單ニ四肢ノ力ヲ以テス。之ヲクマバカバート云フ。但シ直ナル木ナレハ兩足ノ甲ヲ紐ニテ結ヒ木ヲ挾ミ滑ラヌ樣ニシテ登ル。之ヲクマトント云フ（參照第五十三圖）

（十）紐ノ結方　ハ大體ニ於テ通常吾人ノ爲ス所ニ同シ。其重ナルモノ「トマリヤローツ」（眞結ヒ）「ツミピル」（花結）「ブヌゲト」（片花結）トス。此外ニ「スマノスローツ」「パロアタ」等尚多クノ結方アレトモ調査ヲ漏シタルヲ以テ略ス

第三　諸種ノ標識

(一)豫占　山野ニ散在セル無主ノ物ハ事實ニ之ヲ占有セスト雖モ一定ノ標識ヲ用ヰテ之ヲ占取セントスル意思ヲ表示スレハ他人之ヲ取去ルコトヲ得サルモノトス。其標識ノ方法ハ其目的物ガ樹木、流木、石材、蜜蜂、溪魚ナルニ依リ相異ル所アリ。此等ハ財産ノ部動産所有權ノ得喪ニ至テ説述スヘキガ故ニ茲ニ之ヲ略ス

(二)徒渉點　溪底ニ石多ク又水流變シ易キ所ニ於テ其徒渉點ヲ示スニハ其路々ニ石ヲ積累ネ置ク

(三)危險物　罠掛、陷穽、路銃其他危險物ノ所在ヲ表示スルニハ茅ノ葉ヲ卷キ木ノ枝又ハ竹ノ先ニ縛シ之ヲ危險物ノ方ニ向ケ地ニ插置ク。此ハ其危險物ノ周圍ニ在ル路ニ於テ數箇ノ地點ニ之ヲ施ス

(四)交通禁止　部落ニ祭祀アリ他ト交通ヲ絶スルトキハ其社ノ入口ニ茅ヲ插シ置ク。一家カ他ト交通ヲ絶スル場合ニハ之ト同一ノ標識ヲ家ノ入口ニ施ス。上きりせぬ番ニ於テハ家ノ前壁ニ竹又ハ木ヲ横ニ插ス

上キりせぬ番マカ、トナ兩社ニハ社民ノ外出ヲ禁スル場合ニハ公廨ノ灰ヲ草蓆ニ包ミ社ノ入口ノ外ニ置クト云フ

(五)先行者ヨリ後來者ヘノ標識

(1)**路ノ分岐點**　ニ於テ先行者カ後ニ來ルヘキ者ニ對シ其已ノ向テ進ミタル路ヲ示シ置カントスルニハ茅又ハ樹枝ヲ取リ之ヲ其ノ進ミタル路ニ置キ其根元ヲ進ミタル方向ニ向カシム。尙北ばいわ番ノ多クノ社ニ於テハ其上ニ茅又ハ木枝ヲ他ノ路ニ横タヘ以テ之ヲ閉塞スルノ意ヲ表ス

(2)**待合スヘク約シタル所**　ニ於テ一方カ久シク待テト他ノ一方ガ來ラサルトキハ其去ルニ臨ミ

其休ミタル場所ニ木又ハ茅ヲ折置ク。上ざりせぬ番ニ於テ青年ノ女子ハ此ノ場合ニ石ノ上ニ花ヲ載セ小石ヲ以テ之ヲ壓置クト云フ　ぶつる番カビヤガヌ社ニ於テ相愛男女ノ一方ガ兼テ約束セル會合ノ場所ニ來リ相手ヲ待ツニ其相手ガ來ラス待疲レテ歸去ルトキハ檳榔子ノ噛ミタルモノト未噛マサルモノト二粒ヲ其所ニ並置ク(若シ檳榔子ヲ持合ハササリシトキハ草木ノ葉ノ美シキモノト汚ナキモノトヲ以テス)是「汝ハ一方ノ實ノ如ク美シケレト我ハ他ノ一方ノ如ク醜キガ故ニ汝ハ我ヲ厭ヒテ來ラサルナラン」トノ諷意ナリトソ

第四　表情意的動作及隱語等

(一)總説　本族モ亦其喜フヤ笑ヒ、哀ムヤ泣キ、怒ルヤ歯ヲ噛ミ眼ヲ張リ、其甚シキトキハ拳ヲ握リツヽ(男)髪ヲ掻キムシリ(女)其恥ヲ感スルヤ赤面シ、失敗スルヤ頭ヲ掻ク、不滿ノ場合ニ舌ヲ打ツ等其情ノ自然ニ外部ニ表現スルコトハ毫モ邦人ト異ル所ナシ。　此外本族ニモ或ル動作ヲ以テ特ニ或ル情意ヲ表示シ又ハ或ル言語、形容ヲ以テ或ル事物ヲ表示スルコトアリ。左ニ其重ナルモノヲ掲ク

(二)諾否　肯諾スルトキハ「オーエ」ト點頭シ(番語「ルマオイ」又ハ「メグルグラメ」)拒否スルトキハ「イニ」ト頭ヲ左右ニ振ル(同「マゴイゴル」)

(三)授受　物ヲ人ニ與ヘントスルトキ其物ヲ持テ前方ニ差出ス　人ヨリ物ヲ求ムルトキハ手(物小ナレハ右手大ナレハ兩手)ヲ開キ上向ケテ前ニ差出ス(番語「グマガウ」)

(三)招揮　人ヲ招クニ手ヲ高ク前ニ(掌チ下ニス)差出シテ數回四指ヲ内ニ屈シ「キドー」(來レ)ト招キ　人ヲ去ラシムルニ其ノ反對ニ内屈セル四指ヲ外方ニ伸ハシテ「サオ」(去レ)ト云フ。其様邦人ノ爲ス所ニ同シ

(四)小兒ニ對スル威嚇　幼兒ヲ威嚇スルニハ兩手ノ拇指食指ヲ以テ環ヲ作リ之ヲ眼ノ周圍ニ當テ又ハ指ニテ眼ヲ張リ又ハ兩拇指ヲ口ニ入レ兩食指ニテ下瞼ヲ引ク即我國ノべかこうヲ爲スアリ

(五)親愛　ヲ表スルニハ　(一)鼻又ハ唇ヲ以テ相手ノ頰又ハ手頸ニ接ス。其鼻ヲ以テスルヲ「スマグチ」ト云フ。是實ニ本族相見ノ禮ニシテ黨民ガ頭人ニ對シ、夫ガ妻ニ對シ、父母ガ子ニ對シ其他久シク相逢ハサリシ親族及友人間ニ之ヲ行フ。尚此事ニ付テハ禮法一班ノ條下ニ說クヘシ。又唇ヲ以テスルモノヲ「ツミプチプ」(接吻)ト云フ。此ハ專ラ相愛男女ノ間又ハ母ガ子ニ對シテ行フモノナリ　(二)幼童ニ對シテ屢手ヲ以テ其頭ヲ撫スルコトアリ　(三)久シク相逢ハサリシ母子兄弟又ハ姉妹間ニ於テ時ニ相抱擁スル(番語「マカカプト」)コトアリ　(四)相愛男女間ニハ人知レス握手ヲ行フコトアリ　(五)宴會ノ節合飲ヲ以テ親愛ヲ表ス。此ニ付テハ禮法一班ノ部ニ於テ記スヘシ

(六)侮慢　相手ヲ輕侮スルノ言語及擧動甚多シ

(い)言語ヲ以テスルモノ　單ニ「マかかスヌ」(汝ハ愚ナリ)「マルチュク・スヌ」(同上)ト言フアリ。或ハ「スサケ」(汝ハ糞ナリ)「サゴチョ・タ・ソカマ・サケ」(汝ノ父ニ糞ヲ嗅ガセテヤル)「パトコラ・クリッツ」(男根ヲ藏セテヤル)、「パトコラ・サケ」(糞ヲ藏セテヤル)「ヒノラ・サブライ」(男ニ對シテ。「ラ」ノ意味不明)「ピノラ・サブラタヌ」陰核(女ニ對シテ)又ハ「サバク・スサブライ」(汝ノ龜頭ハ臭シ)「サバク・スサブラタヌ」(汝ノ陰核ハ臭シ)等尚多ク之アルガ如ガト雖モ番人笑テ言ハス　此等ノ罵語ハ異性間ニハ用ウヘカラス。若シ男子ガ之ヲ女子ニ對シテ用ウルトキハ該ノ男子ハ恰モ女子ノ如シトテ世人ニ嗤笑セラルヘシ。之ニ反シテ女子ガ男子ニ對シテ用ウルトキハ甚シキ侮辱ト爲リ男子ハ之ガ爲ニ出草セサレハ其辱ヲ雪クヘカラサルモノトセリ

(ろ)擧動ヲ以テスルモノ　凡テ相手ヲ愚視スルヲ「スマノ・バト」(犬ト爲スノ義)ト云フ。其擧動種々アリ　舌ヲ出シ(番語「ミラリラ」又ハ「スムマ」)食指ニテ下瞼ヲ引キ(同「アニカツ」)又ハ下唇ヲ突出シ若ハ左又ハ右ヘ扭チ曲ケ(同「ミヌリ・タ・アガリ」又ハ「ミミジュ」)又ハ食指ヲ鈎ノ如ク曲ケテ動カシ(同「ルミアリジ」)或ハ相手ノ手ヲ取テ己ノ臀部又ハ陰部ニ當

テ(同「パシサポ」又ハ「パクチプ」。此ハ汝ハ分ラヌ奴ダノ義)或ハ褌ヲマクリテ臀部ヲ現ハス(同「スモチャウタデ」)等アリ。少年ガ戰爭的遊戲ヲ行フ場合ハ屢敵方ニ對シ臀ヲ向ケ之ヲ叩テ來レ來レト挑ムコトアリ(同「ミサチャル」)此亦敵ヲ侮リ虛勢ヲ張ルノ擧動ナリトス

(七)暗號的擧動　諸人相集マレル間ニ於テ特ニ其中ノ或一人ニ對シテ他ニ知ラレサル樣ニ或ル暗號ヲ爲スコトアリ。例ヘハ目ヲ以テ(或ハ顆チ以テ)『早ク歸ルヘシ』『ソレヲ言フナ』ト暗號シ或ハ秋波ヲ以テ戀々ノ情ヲ寄スルガ如シ。小林氏ガカピヤガヌ社ニ於テ聞得タル所ニ依レハ煙管ヲ對者ニ與フルトキニ特ニ力ヲ入レ押付ケテ渡シテ立去ルトキハ其跡ヨリ來レトノ意ナリ。又己ガ立去ルトキニ檳榔子ヲ與ヘ又ハ指ニテ對者ノ身ヲ突キ若ハ撮ムモ亦同シトゾ

(八)隱語及隱形容　本族ニ於テモ或事物ニ關シテ之ヲ其儘ニ表言スルヲ露骨トシ他ノ之ニ類似スル言語又ハ形容ヲ表示スルコトアリ。左ニ其重ナルモノヲ揭ク

(い)生殖ニ關スルモノ　本族亦生殖器及之ニ關スル動作ヲ直言スルヲ避ケ他ノ語又ハ形容ヲ以テ之ヲ表示ス例ヘハ男根(番語「コリツ」)ヲ表スルニ「コワン」(銃)カスロー」(杵)「ボロク」(槍)「ブカ」(番鋤)「トコザン」(杖)「トリブサヌ」(携帶品)ヲ以テス。こぼじ番ニ於テハ尙「チュジャ」(饅)「ルニ」(絲瓜)「アムコイ」(瓜)「ソボク」(筍)ヲ以テ表シ少女ニ戲レ汝ハ何所ニ「ソボク」ヲ捜シニ行クヤ等云フコトアリ　女陰(番語「クチ」)ヲ表スルニ「ラチュン」(菜ノ類)「カバイ」(餅)「バリチュチュン」(標的)「チュバ」(子安貝)ト云ヒぱりじゃお番ニ於テハ尙「サリニン」(からす貝)「チュビン」(鮑)ト云フコトアリ　而シテ交接ヲ男ヨリシテ「ブナカジ」(刺ス)「ゲムスゲス」(震フ)「サリム」(始ム)「パイソワヌ」(搗ク)「クモワン」(發銃ス)「サイトコワヌ」(底マテ入ル)ト云ヒ女ヨリシテ「ウマヌ・ト・チュジャ」(饅チ食フ)「ウマヌ・チェク」(蠟燭チ食フ)等言フガ如シ

又男根ハ食指一本ヲ以テ(番語「パトゴ」)女陰ハ拳ヲ握リ拇指ノ先ヲ食指ト中指ノ間ヨリ少シク露ハシ(番語

「アリザンザン」。（大角豆ノ義）以テ之ヲ表ス。而シテ交接ハ右ノ二ヲ合セテ之ヲ表シ又ハ左ノ食指拇指ニテ環ヲ作リ之ニ右ノ食指ヲ挿込ミ又ハ兩掌ヲ合シ指ヲ組ミ之ヲ押付クル狀ヲ爲シ（こぼじ番ニ於テ）又ハ「プイ」ト兩手ニ唾吐キカケ左右ノ手頸若ハ食指ヲ摩擦スルノ狀ヲ爲ス（ばりじゃお番高士佛社ニ於テ）等ノ如シ

(ろ)出草ニ關スルモノ　「キツムル」（草ヲ取ル）「ヤボアス」（瓢ヲ取ル）「イアサウ」（葉ヲ取ル）等ノ語ハ首級ヲ取ル意ニ用ヰラレ「アレツカジャイ」（いざ訪問ニ赴カン）「バイカ・コムズリ」（待打ノ獵ニ赴ク）「バイカ・ルマオン」（隱打ニ赴ク）等ハ出草ニ赴クヲ意味ス。高士佛社方面ニ於テ「スマジャブク」（海岸ニ行ク）ト云フモ亦同シ　馘首ヲ表スルニ右ノ食指ヲ以テ左ノ手頸ヲ打ツモノアリ

(は)其他　酒ヲ水ト云フハたいやる族ニ同シ。男ガ情人ノ許ニ赴キ遊フ（番語「キスズ」）ヲ「カリム・ト・サヤリウ」（花ヲ捜ス）クミム・ト・サビキ（檳榔子ヲ捜ス）又ハ「クミム・ト・カカ」（兄弟姉妹ヲ捜ス）ト云フハ何ソ其語ノ雅カナル　又拇指ヲ以テ、夫又ハ父ヲ表シ小指ヲ以テ妻、母又ハ女人ヲ示スガ如キ特ニ拇指ヲ以テ頭人ヲ表シ而シテ食指以下ヲ以テ補佐役以下ノ勢力者ヲ表スルガ如キ邦人ニ類スル所アリト云フヘシ

第三款　禮法一班

本族間ニ於テモ其交際上自然ニ一種ノ禮法ヲ存セリ。左ニ其重ナルモノヲ掲ク

(一)訪問　人ヲ訪問スルトキ熟懇ノ間ナラハ直ニ其家内ニ入リ得ヘキモ然ラサレハ其門口ニ立チ其呼入ルルヲ待タサルヘカラス。相識ノ間ト雖モ夜既ニ戸ヲ閉チタル後ナルトキハ先ツ外ヨリ家人ノ名ヲ呼ヒ既ニ寢ネタリヤト問ヒ其答ヲ待ツヘシ。急用ノ場合ニ家人ガ起出テサルトキハ大聲ニテ呼ヒ又ハ戸若ハ窓ヲ少シク搖動スルモ可ナリ　家ニ入ルモ熟懇ノ間柄ニ非サレハ直ニ其寢

臺ニ腰掛クルコトヲ得ス「ケラジ」「サグル」(低キ腰掛)ニ掛クルカ又ハ蹲ルヘシ但シ主人ニ坐セヨト云ハレテ窓前ノ椅梁(番語「ガルジグジ」)又ハ寢臺ニ掛クルヲ妨ケス

(附記) 試ニ訪問ノ際ニ交換スル挨拶ヲ記スレハ左ノ如シ 同社ノ者相訪フトキハ無言ニテ直ニ其奥室ニ入ル。家人坐シタル儘ニテ『遊ヒニ來リタルヤ』ト問ヘハ『然リ』ト答フ。家人乃腰掛ヲ出シ又ハ寢臺ヲ指シテソレニ坐セシム。若シ他社ノ家ヲ訪フトキハ先其家ノ入口又ハ窓口ヨリ家人ヲ呼フ。家人入口マテ出迎ヘ『久シフリナリ汝遊來セシヤ』ト問フニ『然リ、久シク相逢ハス、ナツカシク爲リタル故ニ來リタリ』ト答フ。『然ラハ先ツ入ルヘシ』トテ之ヲ導キ家ニ入レ腰掛ヲ出シ女ナレハ寢臺ニ案内シソレヨリ酒食等ヲ饗シ相互ニ家内ノ安否、特ニ子女ノ近況及農作ノ豐凶等ヲ相語ル

凡ソ親族朋友等ヲ訪問スルニ瓢酒、獵肉其他ノみやげ物(番語「シニパカルバ」)ヲ携フルヲ禮トス、若シ他ヨリ貰合セタル物アラハ之ヲ携行クモヨシ

用談畢リテ歸去ルトキニハ主客ノ間ニ相當ノ挨拶ヲ交換ス。例ヘハ客ヨリ『サヨーナラ、皆様ヨロシク』ト云ヘハ主人之ヲ引止メ『何故ニ歸ヲ急ク。宿シテ行カレヨ』ト云ヒ客ハ亦『用事忙シキ故ニ是非歸ラサルヘカラス』トテ終ニ其家ヲ離レ後顧テ主人ヲ見大聲ニテ『願ハクハ我家ニモ遊來セラレタシ』ト云フガ如シ

(二)款待 凡ソ家ニ來客アルトキハ檳榔子又ハ酒ヲ出シテ欵待ス。是ハ吾人ノ茶及煙草ヲ出スト同様ナリ 凡ソ酒食ハ先ツ客ニ勸ム。之ニ付テ別ニ毒見等ノ慣習ナシ。客ハ先ツ其一片ヲ取リ(酒ナラハ指ヲ触レテ弾ク)靈ニ施シ(番俗之ヲ「バカヌトツヾシ」ト云フ)後之ヲ食ス

凡ソ何カ飲食シツツアル所ヘ來客アリタルトキハ必其飲食ヲ分タサルヘカラス。本族ニ於テ食ヒサシ又ハ飲ミサシノ物ヲ與フルモ無禮トセス

本族ニモ他ノ番族ノ如シ親愛ノ意ヲ表スル爲ニ合飲スル禮アリ。其場合ニ聯杯（飲食ノ節下参照）ヲ用ヰ其之ナキトキニハ單杯ヲ用ウ

（附記）試ニ多數會飲スル時ニ於ケル杯酌ノ順序ヲ記センニ（カビヤガヌ社ニ於テ小林氏ノ調査セシ所）勢力者先盃ヲ取テ酒ノ上澄ヲ汲ミ之ヲ飲ム。是杯ヲ洗フノ意ナリト。次ニ頭人ニ酌ミ老番ニ酌ム。然後番丁等相酌ムコトヲ得。他社ノ頭人番丁等來會スル時ニハ最大ナル頭人ニ酌ミ次ニ自家ノ頭人ニ酌メハ頭人之ヲ取テ他ノ頭人ト合飲ス。凡テ合飲ハ勢力少キ頭人ヨリ勢力大ナル頭人ニ持行クヲ禮トス。若勢力匹敵スルトキハ双方坐ヲ起テ相寄ルト云フ

（三）相見及相辭　相識ノ者途中ニテ相會ヒタルトキハ「汝ハ何レニ行クヤ」又ハ「何ヘ行キテ來リシヤ」等ト互ニ相問フヲ禮トス。凡テ知人ニ會シテ何トモ挨拶セス又ハ何トモ言ハスシテ知人ノ前ヲ通過スルハ非禮ナリトス（或ハ日ク別ニ非禮ニ非ス唯相手ヲシテ彼ハ何故ニ默シテ行キタルヤト不審セシムト）數人同行シタル者ガ途中ニテ相別ルルトキハ互ニ『サヨウナラ』又ハ『ソロ〳〵行ケ轉ハヌ様ニ』等ト挨拶ス

部落内ニテ相會ヒタルトキハ先ツ食シタリヤ否ヲ問フコト土人間ニ於ケルガ如シ例ヘハ朝ナラハ「朝飯ヲ食シタリヤ」夕ナレハ「夕飯ヲ食シタリヤ」ト云フガ如シ

接鼻ノ禮　久シク見サリシ親族又ハ朋友ガ相逢フトキハ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ「スマガツ」ノ禮ヲ行フ。此ハ相手ノ手ヲ取リ之ニ己ノ鼻ヲ接スルナリ。相手ガ自分ノ妻又ハ幼兒ナルトキハ其頬ニ接ス。但シ男子ハ妄ニ他人ノ婦女ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス。頭人ト其部下トノ間ニ於テハ部下

ヨリ進テ頭人ノ手ニ之ヲ行フ此禮ハ現時リキリキ社以南ノ番社ニ於テハ廢シテ行ハス。又上さりせぬ番ニ於テハ古來此禮ヲ行ヒタルコトナシト云フ

(四)慶弔 本族モ亦他人ニ對シ其子ノ出生ヲ慶シ其親戚ノ死ヲ弔スルノ禮アリ(出生及死亡ノ欵下參照)其他婚姻、凱旋、疾病負傷等吉凶共ニ同情ヲ以テ慶弔スヘキモノトセリ

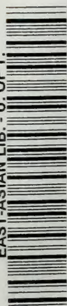
(五)應對 凡ソ人ニ對シテハ禁忌ノ言語擧動ヲ戒ムヘシ。傲慢醜猥相手ヲシテ嫌厭ノ情ヲ起サシムヘキ言語擧動ヲ戒ムヘシ夫妻又ハ相愛男女間ノ外ハ交合懷胎其他生殖ニ關スル言語ヲ避クヘシ

大正十一年三月二十九日印刷
大正十一年三月三十一日發行

臺灣總督府蕃族調査會

臺北市文武街一丁目十八番戸
印刷人　小塚兼吉

臺北市北門街三丁目七番戸
印刷所　小塚印刷工場


EAST-ASIAN LIB. - U. OF T.
3 1761 06497361 3